徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第78集

延 命 遺 跡（Ⅰ）

ーー般国道192号線徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査ー

《本文・挿図篇》

２ ０ １ ０

徳 島 県 教 育 委 員 会
財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
国 土 交 通 省　 四 国 地 方 整 備 局

序　　文

本書は、一般国道192号徳島南環状道路改築事業に伴って、平成８年度から11年度にかけて財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した徳島市国府町延命に所在する延命遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。

当遺跡は、徳島市国府町に位置し、鮎喰川よって形成された三角州性扇状地上に立地しています。周辺には矢野遺跡のほか､宮谷古墳に代表される気延山古墳群､国府推定地の観音寺遺跡・敷地遺跡など、徳島の原始・古代を代表する遺跡が展開しています。

今回の発掘調査では、矢野遺跡が最盛期を迎えていたのと同年代の弥生時代の墳丘墓や、阿波国府が当地周辺に置かれていたときの水田等が確認されました。従来の成果では不十分であった墓域や生産について新たな知見を得ることができました。これらは地域史の中で大きな成果になるものです。

なお、埋蔵文化財発掘調査の実施及び報告書の作成に当たり、多くの地元の皆様と関係機関の方々にご理解・ご協力並びにご教授をいただきましたことに深く感謝いたします。

2009年９月

財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
理事長　　福　家　清　司

例　　言

1．本報告書は、一般国道192号徳島南環状道路改築事業に伴って、平成８年度から11年度にかけて実施された徳島市国府町延命に所在する延命遺跡の発掘調査成果をまとめたものである。

2．発掘調査は、建設省（現在の国土交通省）四国地方整備局より委託を受けた徳島県が財団法人徳島県埋蔵文化財センターに再委託を行って実施した。

3．方位の表示は国土座標軸第Ⅳ座標系の北、高さは東京湾標準潮位（T.P.）を表す。

4．各遺構を示す記号は財団法人徳島県埋蔵文化財センターが定めたものを使用した。
SB：竪穴住居跡　　SD：溝状遺構　　SK：土坑　　SP：柱穴・小穴
SR：自然流路　　ST：埋葬施設（古墳以外）SU：集積以降　　SX：不明以降

5．本書で用いた土層および土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』1996・1997年度版に、陶磁器の釉薬の色調は太田昭雄・川崎秀昭ほか『標準色彩図表Ａ』日本色研事業株式会社1981によった。

6．第２図の地形図は国土交通省国土地理院発行の２万５千分の一地形図「石井」を転載使用した。

7．本書の執筆は、Ⅰ・Ⅱを井内哲也が、Ⅲ・Ⅳを園木裕美が行い、全体の編集は園木が行った。

8．写真図版は、遺構および遺物出土状況については発掘現場の担当者が、遺物写真撮影は服部靖が行った。

9．本書に収録した出土遺物および図面や写真などの記録一切は、徳島県立埋蔵文化財総合センターにおいて保管している。

本　文　目　次

《第１分冊》

Ⅰ　調査と整理の経緯
1　徳島南環状道路の調査に至る経緯……3
2　発掘調査の経過……6
3　発掘調査の方法……6
4　整理作業の経過……10
5　調査日誌抄……10
6　業務の体制……12
（１）発掘調査担当……12
（２）整理担当……13

Ⅱ　遺跡の立地と環境
1　地理的環境……17
2　歴史的環境……18

Ⅲ　調査成果
1　基本層序……25
2　遺構配置……25
（１）第１遺構面……30
（２）第２遺構面 ……162
（３）第３遺構面 ……221
（４）第４遺構面 ……284
（５）第５遺構面 ……311

Ⅳ　まとめ ……463

挿　図　目　次

第 1 図　調査地点位置図 …… 4
第 2 図　一般国道192号南環状道路路線図…… 5
第 3 図　一般国道192号南環状道路の路線範囲と
　　グリッドの対応図 …… 7
第 4 図　延命遺跡の各年次の調査区・グリッド配置図
　　…… 8
第 5 図　延命遺跡の各調査区配置図 …… 9
第 6 図　周辺の遺跡 ……21
第 7 図　調査地点の土層柱状図(1) ……26
第 8 図　調査地点の土層柱状図(2) ……27
第 9 図　調査地点の土層柱状図(3) ……28
第 10 図　調査地点の土層柱状図(4) ……29
第 11 図　SA1001遺構平・断面図……31
第 12 図　SA1002遺構平・断面図……33
第 13 図　SA1002出土遺物図……34
第 14 図　SA1003遺構平・断面図……35
第 15 図　SA1004遺構平・断面図(1)……36
第 16 図　SA1004遺構断面図(2)……37
第 17 図　SA1004　EP 5 ・EP 8 ・EP 9 ・EP15
　　遺物出土状況・出土遺物図 ……38
第 18 図　SA1005遺構平・断面図……40
第 19 図　SA1006遺構平・断面図……41
第 20 図　SA1007遺構平・断面図……42
第 21 図　SA1008遺構平・断面図……43
第 22 図　SA1009遺構平・断面図……45
第 23 図　SA1010遺構平・断面図……45
第 24 図　SD1001遺構平・断面図……46
第 25 図　SD1001遺物出土状況・出土遺物図(1)……47
第 26 図　SD1001出土遺物図(2)……48
第 27 図　SD1001出土遺物図(3)……49
第 28 図　SD1004遺構平・断面図……50
第 29 図　SD1004出土遺物図……50
第 30 図　SD1008・SD1009遺構平面図、SD1008断面図
　　……52
第 31 図　SD1009断面図……53
第 32 図　SD1008、SD1009遺物出土状況図(1) ……53
第 33 図　SD1009遺物出土状況図(2)……54
第 34 図　SD1008出土遺物図……55
第 35 図　SD1009出土遺物図(1)……56
第 36 図　SD1009出土遺物図(2)……57
第 37 図　SD1010遺構平・断面図……58
第 38 図　SD1010遺物出土状況図……59
第 39 図　SD1010出土遺物図(1)……59
第 40 図　SD1011遺構平・断面図……61
第 41 図　SD1011遺物出土状況図……62
第 42 図　SD1011出土遺物図(1)……63
第 43 図　SD1011出土遺物図(2)……64
第 44 図　SD1011出土遺物図(3)……65
第 45 図　SD1058遺構平・断面図、出土遺物図……66
第 46 図　SE1001遺構平・断面図……67
第 47 図　第１－２水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）
　　……69
第 48 図　第１－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）
　　……69
第 49 図　第１－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）
　　……70
第 50 図　第１－２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）
　　……71
第 51 図　第１－２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）
　　……72
第 52 図　第１－２水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）
　　……73
第 53 図　第１－２水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）
　　……74
第 54 図　第１水田面遺物出土地点グリッド対応図 …75
第 55 図　第１水田面出土遺物図 ……76
第 56 図　第１－２水田面遺物出土地点
　　グリッド対応図・出土遺物図 ……76
第 57 図　第１水田面遺構配置図（S＝1/1250）……77
第 58 図　第１水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）…78
第 59 図　第１水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）　……79
第 60 図　第１水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）　……80
第 61 図　第１水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）　……81
第 62 図　第１水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）　……82
第 63 図　第１水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）　……83
第 64 図　第１水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）　……84
第 65 図　第１水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）　……85
第 66 図　第１水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）　……86
第 67 図　第１水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）　……87
第 68 図　第１水田面遺構平面図(10)（S＝1/100）　……88
第 69 図　第１水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）　……89
第 70 図　第１水田面遺構平面図(12)（S＝1/100）　……90

第 71 図　第１水田面遺構平面図⒀（S＝1/100）　……91
第 72 図　第１水田面遺構平面図⒁（S＝1/100）　……92
第 73 図　第１水田面遺構平面図⒂（S＝1/100）　……93
第 74 図　第１水田面遺構平面図⒃（S＝1/100）　……94
第 75 図　第１水田面遺構平面図⒄（S＝1/100）　……95
第 76 図　第１水田面遺構平面図⒅（S＝1/100）　……96
第 77 図　第１水田面遺構平面図⒆（S＝1/100）　……97
第 78 図　第１水田面遺構平面図⒇（S＝1/100）　……98
第 79 図　第１水田面遺構平面図(21)（S＝1/100）　……99
第 80 図　第１水田面遺構平面図(22)（S＝1/100）……100
第 81 図　第１水田面遺構平面図(23)（S＝1/100）……101
第 82 図　第１水田面遺構平面図(24)（S＝1/100）……102
第 83 図　第１水田面遺構平面図(25)（S＝1/100）……103
第 84 図　第１水田面遺構平面図(26)（S＝1/100）……104
第 85 図　第１水田面遺構平面図(27)（S＝1/100）……105
第 86 図　第１水田面遺構平面図(28)（S＝1/100）……106
第 87 図　第１水田面遺構平面図(29)（S＝1/100）……107
第 88 図　第１水田面遺構平面図(30)（S＝1/100）……108
第 89 図　第１水田面遺構平面図(31)（S＝1/100）……109
第 90 図　第１水田面遺構平面図(32)（S＝1/100）……110
第 91 図　第１水田面遺構平面図(33)（S＝1/100）……111
第 92 図　第１水田面遺構平面図(34)（S＝1/100）……112
第 93 図　第１水田面遺構平面図(35)（S＝1/100）……113
第 94 図　第１水田面遺構平面図(36)（S＝1/100）……114
第 95 図　第１水田面遺構平面図(37)（S＝1/100）……115
第 96 図　第１水田面遺構平面図(38)（S＝1/100）……116
第 97 図　第１水田面遺構平面図(39)（S＝1/100）……117
第 98 図　第１水田面遺構平面図(40)（S＝1/100）……118
第 99 図　第１水田面遺構平面図(41)（S＝1/100）……119
第100図　第１水田面遺構平面図(42)（S＝1/100）……120
第101図　第１水田面遺構平面図(43)（S＝1/100）……121
第102図　第１水田面遺構平面図(44)（S＝1/100）……122
第103図　第１水田面遺構平面図(45)（S＝1/100）……123
第104図　第１水田面遺構平面図(46)（S＝1/100）……124
第105図　第１水田面遺構平面図(47)（S＝1/100）……125
第106図　第１水田面遺構平面図(48)（S＝1/100）……126
第107図　第１－２水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）
……127
第108図　第１－２水田面遺構平面図⑴（S＝1/100）
……127
第109図　第１－２水田面遺構平面図⑵（S＝1/100）
……128
第110図　第１－２水田面遺構平面図⑶（S＝1/100）
……129
第111図　第１－２水田面遺構平面図⑷（S＝1/100）
……130
第112図　第１水田面遺物出土地点グリッド対応図⑴
……131
第113図　第１水田面遺物出土地点グリッド対応図⑵
……132
第114図　第１－２水田面遺物出土地点グリッド対応図
……133
第115図　第１、１－２水田面出土遺物図⑴……133
第116図　第１、１－２水田面出土遺物図⑵……134
第117図　SK1001遺構平・断面図　……135
第118図　SK1001遺物出土状況図、出土遺物図　……135
第119図　SK1002遺構平・断面図　……136
第120図　SK1002遺物出土状況・出土遺物図　……136
第121図　SK1003遺構平・断面図　……137
第122図　SK1003遺物出土状況・出土遺物図　……138
第123図　SK1012遺構平・断面図　……139
第124図　SK1012遺物出土状況図　……139
第125図　SK1012EP－１遺構平・断面・
遺物出土状況図……139
第126図　SK1012出土遺物図　……140
第127図　SK1025遺構平・断面図　……141
第128図　SK1025出土遺物図　……141
第129図　SP1014遺構平・断面・遺物出土状況図　…143
第130図　SP1014出土遺物図　……143
第131図　SP1016、1017遺構平・断面・遺物出土状況図
……143
第132図　SP1016出土遺物図　……143
第133図　SP1017出土遺物図　……143
第134図　SP1026遺構平・断面図　……144
第135図　SP1026出土遺物図　……144
第136図　SP1030遺構平・断面図　……144
第137図　SP1030遺物出土状況・出土遺物図　……144
第138図　SP1031遺構平・断面図　……145
第139図　SP1031出土遺物図　……145
第140図　SP1036遺構平・断面図　……145
第141図　SP1036遺物出土状況・出土遺物図　……145
第142図　SP1083遺構平・断面・遺物出土状況図　…147
第143図　SP1083出土遺物図　……147
第144図　SP1110遺構平・断面・遺物出土状況図　…147
第145図　SP1110出土遺物図　……147
第146図　SX1001遺構平・断面図　……148
第147図　SX1001出土遺物図　……148
第148図　SX1002遺構平・断面図　……149

第149図　SX1002遺物出土状況図、出土遺物図 ……150
第150図　SX1003遺構平面図 ……151
第151図　SX1003遺構断面図 ……152
第152図　SX1003遺物出土状況図 ……153
第153図　SX1003出土遺物図(1) ……154
第154図　SX1003出土遺物図(2) ……155
第155図　SX1003出土遺物図(3) ……156
第156図　SX1003出土遺物図(4) ……157
第157図　SX1003出土遺物図(5) ……158
第158図　SX1003出土遺物図(6) ……159
第159図　SX1003出土遺物図(7) ……160
第160図　SX1003出土遺物図(8) ……161
第161図　SX1003出土遺物図(9) ……162
第162図　SD2002遺構平・断面・出土遺物図 ……163
第163図　SD2007遺構平・断面図 ……164
第164図　SD2007遺物出土状況・出土遺物図 ……165
第165図　SD2010遺構平・断面・出土遺物図 ……166
第166図　第２水田面遺構配置・遺物出土地点図(1)…167
第167図　第２水田出土遺物図(1)……167
第168図　第２水田面遺構配置・遺物出土地点図(2)…168
第169図　第２水田面出土遺物図(2)……168
第170図　第２水田面遺構平面割付図(1)（S＝1/2000）
……169
第171図　第２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）……169
第172図　第２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）……170
第173図　第２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）……171
第174図　第２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）……172
第175図　第２水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）……173
第176図　第２水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）……174
第177図　第２面水田面遺構配置図(3)（S＝1/1250）
……175
第178図　第２水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）
……176
第179図　第２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）……177
第180図　第２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）……178
第181図　第２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）……179
第182図　第２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）……180
第183図　第２水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）……181
第184図　第２水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）……182
第185図　第２水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）……183
第186図　第２水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）……184
第187図　第２水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）……185
第188図　第２水田面遺構平面図(10)（S＝1/100）……186
第189図　第２水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）……187
第190図　第２水田面遺構平面図(12)（S＝1/100）……188
第191図　第２水田面遺構平面図(13)（S＝1/100）……189
第192図　第２水田面遺構平面図(14)（S＝1/100）……190
第193図　第２水田面遺構平面図(15)（S＝1/100）……191
第194図　第２水田面遺構平面図(16)（S＝1/100）……192
第195図　第２水田面遺構平面図(17)（S＝1/100）……193
第196図　第２水田面遺構平面図(18)（S＝1/100）……194
第197図　第２水田面遺構平面図(19)（S＝1/100）……195
第198図　第２水田面遺構平面図(20)（S＝1/100）……196
第199図　第２水田面遺構平面図(21)（S＝1/100）……197
第200図　第２水田面遺構平面図(22)（S＝1/100）……198
第201図　第２水田面遺構平面図(23)（S＝1/100）……199
第202図　第２水田面遺構平面図(24)（S＝1/100）……200
第203図　第２水田面遺構平面図(25)（S＝1/100）……201
第204図　第２水田面遺構平面図(26)（S＝1/100）……202
第205図　第２水田面遺構平面図(27)（S＝1/100）……203
第206図　第２水田面遺構平面図(28)（S＝1/100）……204
第207図　第２水田面遺構平面図(29)（S＝1/100）……205
第208図　第２水田面遺構平面図(30)（S＝1/100）……206
第209図　第２水田面遺構平面図(31)（S＝1/100）……207
第210図　第２水田面遺構平面図(32)（S＝1/100）……208
第211図　第２水田面遺構平面図(33)（S＝1/100）……209
第212図　第２水田面遺構平面図(34)（S＝1/100）……210
第213図　第２水田面遺構平面図(35)（S＝1/100）……211
第214図　第２水田面遺構平面図(36)（S＝1/100）……212
第215図　第２水田面遺構平面図(37)（S＝1/100）……213
第216図　第２水田面遺構平面図(38)（S＝1/100）……214
第217図　第２－２水田面遺構平面図割付図
（S＝1/2000）……215
第218図　第２－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）
……215
第219図　第２－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）
……216
第220図　第２－２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）
……217
第221図　第２水田面遺物出土地点グリッド対応図…218
第222図　第２－２水田面遺物出土地点グリッド対応図
……219
第223図　第２水田面 No.13出土状況図……219
第224図　第２、２－２水田面出土遺物図(1)……219
第225図　第２水田面出土遺物図(2)……220
第226図　SD3002遺構平・断面図 ……222
第227図　SD3002遺物出土状況・出土遺物図 ……223

第228図　第３水田面遺構平面・遺物出土地点
グリッド対応図(1)……224
第229図　第３水田面遺構平面割付図
（S＝1/2000）……225
第230図　第３水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）……225
第231図　第３水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）……226
第232図　第３水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）……227
第233図　第３水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）……228
第234図　第３水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）……229
第235図　第３水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）……230
第236図　第３水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）……231
第237図　第３水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）……232
第238図　第３水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）……233
第239図　第３水田面遺構平面図(10)（S＝1/100）……234
第240図　第３水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）……235
第241図　第３水田面遺構平面図(12)（S＝1/100）……236
第242図　第３水田面遺構平面図(13)（S＝1/100）……237
第243図　第３水田面出土遺物図(1)……238
第244図　第３水田面出土遺物図(2)……239
第245図　第３水田面遺構配置図（S＝1/1250）……240
第246図　第３水田面遺構平面図割付図
（S＝1/2000）……241
第247図　第３水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）……242
第248図　第３水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）……243
第249図　第３水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）……244
第250図　第３水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）……245
第251図　第３水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）……246
第252図　第３水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）……247
第253図　第３水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）……248
第254図　第３水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）……249
第255図　第３水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）……250
第256図　第３水田面遺構平面図(10)（S＝1/100）……251
第257図　第３水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）……252
第258図　第３水田面遺構平面図(12)（S＝1/100）……253
第259図　第３水田面遺構平面図(13)（S＝1/100）……254
第260図　第３水田面遺構平面図(14)（S＝1/100）……255
第261図　第３水田面遺構平面図(15)（S＝1/100）……256
第262図　第３水田面遺構平面図(16)（S＝1/100）……257
第263図　第３水田面遺構平面図(17)（S＝1/100）……258
第264図　第３水田面遺構平面図(18)（S＝1/100）……259
第265図　第３水田面遺構平面図(19)（S＝1/100）……260
第266図　第３水田面遺構平面図(20)（S＝1/100）……261
第267図　第３水田面遺構平面図(21)（S＝1/100）……262
第268図　第３水田面遺構平面図(22)（S＝1/100）……263
第269図　第３水田面遺構平面図(23)（S＝1/100）……264
第270図　第３水田面遺構平面図(24)（S＝1/100）……265
第271図　第３水田面遺構平面図(25)（S＝1/100）……266
第272図　第３水田面遺構平面図(26)（S＝1/100）……267
第273図　第３水田面遺構平面図(27)（S＝1/100）……268
第274図　第３水田面遺構平面図(28)（S＝1/100）……269
第275図　第３水田面遺構平面図(29)（S＝1/100）……270
第276図　第３水田面遺構平面図(30)（S＝1/100）……271
第277図　第３水田面遺構平面図(31)（S＝1/100）……272
第278図　第３水田面遺構平面図(32)（S＝1/100）……273
第279図　第３水田面遺構平面図(33)（S＝1/100）……274
第280図　第３－２水田面遺構平面図割付図
（S＝1/2000）……275
第281図　第３－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）
……275
第282図　第３－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）
……276
第283図　第３水田面遺物出土地点グリッド対応図(1)
……277
第284図　第３水田面遺物出土地点グリッド対応図(2)
……278
第285図　第３水田面出土遺物図(3)……279
第286図　第３水田面出土遺物図(4)……280
第287図　第３水田面出土遺物図(5)……281
第288図　第３水田面出土遺物図(6)……282
第289図　第３水田面出土遺物図(7)……283
第290図　第４水田面遺構平面割付図
（S＝1/2000）……285
第291図　第４水田面遺構配置図（S＝1/600）……285
第292図　第４水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）……286
第293図　第４水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）……287
第294図　第４水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）……288
第295図　第４水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）……289
第296図　第４水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）……290
第297図　第４水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）……291
第298図　第４水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）……292
第299図　第４水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）……293
第300図　第４水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）……294
第301図　第４水田面遺構平面図(10)（S＝1/100）……295
第302図　第４水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）……296
第303図　第４水田面遺構平面図(12)（S＝1/100）……297
第304図　第４水田面遺構平面図(13)（S＝1/100）……298
第305図　第４水田面遺構平面図(14)（S＝1/100）……299
第306図　第４水田面遺構平面図(15)（S＝1/100）……300

第307図　SI4001島状高まり平・断面図……301
第308図　SI4001島状高まり周辺出土遺物図……301
第309図　第４水田面遺物出土地点グリッド対応図…302
第310図　第４水田面出土遺物図……302
第311図　第１～４包含層出土遺物(1)……303
第312図　第１～４包含層出土遺物(2)……304
第313図　第１～４包含層出土遺物(3)……305
第314図　第１～４包含層出土遺物(4)……306
第315図　第１～４包含層出土遺物(5)……307
第316図　第１～４包含層出土遺物(6)……308
第317図　第１～４包含層出土遺物(7)……309
第318図　第１～４包含層出土遺物(8)……310
第319図　SB5001遺構平・断面図 ……312
第320図　SB5001遺物出土状況図 ……312
第321図　SB5001出土遺物図(1) ……313
第322図　SB5001出土遺物図(2) ……314
第323図　SB5001出土遺物図(3) ……315
第324図　SB5001出土遺物図(4) ……316
第325図　SB5001出土遺物図(5) ……317
第326図　SB5002遺構平・断面図 ……318
第327図　SB5002出土遺物図 ……319
第328図　SD5001遺構平・断面図 ……321
第329図　SD5003遺構平・断面・遺物出土状況図 …322
第330図　SD5004遺構平・断面図 ……323
第331図　SD5004出土遺物図 ……324
第332図　SD5005遺構平・断面図 ……325
第333図　SD5005内集石検出状況図 ……326
第334図　SD5005出土遺物図 ……326
第335図　SD5006遺構平・断面図 ……328
第336図　SD5006遺物出土状況図 ……329
第337図　SD5006出土遺物図 ……329
第338図　SK5001遺構平・断面図 ……330
第339図　SK5001遺物出土状況図 ……331
第340図　SK5001出土遺物図 ……331
第341図　SK5003、SK5015遺構平・断面図 ……332
第342図　SK5003出土遺物図 ……333
第343図　SK5015遺物出土状況・出土遺物図 ……333
第344図　SK5020遺構平・断面図 ……334
第345図　SK5020出土遺物図 ……334
第346図　SK5027、5028遺構平・断面図 ……335
第347図　SK5027出土遺物図 ……335
第348図　SK5028出土遺物図 ……335
第349図　SK5042遺構平・断面図 ……336
第350図　SK5042遺物出土状況図 ……336
第351図　SK5042出土遺物図 ……336
第352図　SK5045遺構平・断面図 ……338
第353図　SK5046遺構平・断面・遺物出土状況図 …338
第354図　SK5046出土遺物図 ……338
第355図　SK5050遺構平・断面図 ……339
第356図　SK5050EP1遺物出土状況図 ……339
第357図　SK5050出土遺物図 ……339
第358図　SK5053遺構平・断面図 ……340
第359図　SK5053遺物出土状況図 ……341
第360図　SK5053出土遺物図 ……341
第361図　SK5055遺構平・断面図 ……342
第362図　SK5055出土遺物図 ……342
第363図　SK5057遺構平・断面図 ……343
第364図　SK5057遺物出土状況図 ……344
第365図　SK5057出土遺物図 ……344
第366図　SK5067遺構平・断面図 ……345
第367図　SK5067出土遺物図 ……345
第368図　SK5069遺構平・断面図 ……346
第369図　SK5069遺物出土状況図 ……346
第370図　SK5069出土遺物図 ……346
第371図　SK5070遺構平・断面図 ……347
第372図　SK5070遺物出土状況図 ……347
第373図　SK5070出土遺物図 ……347
第374図　SK5073遺構平・断面図 ……348
第375図　SK5073出土遺物図 ……348
第376図　SK5078遺構平・断面図 ……349
第377図　SK5078出土遺物図 ……349
第378図　SK5072遺構平・断面図 ……350
第379図　SK5072遺物出土状況図 ……350
第380図　SK5072出土遺物図 ……350
第381図　SK5080遺構平・断面図 ……350
第382図　SK5080出土遺物図 ……350
第383図　SK5085遺構平・断面図 ……352
第384図　SK5085遺物出土状況図 ……352
第385図　SK5085出土遺物図 ……352
第386図　SK5086遺構平・断面図 ……352
第387図　SK5089遺構平・断面図 ……353
第388図　SK5089遺物出土状況図 ……353
第389図　SK5089出土遺物図 ……353
第390図　SK5091遺構平・断面図 ……353
第391図　SK5091遺物出土状況図 ……353
第392図　SK5091出土遺物図 ……353
第393図　SK5092遺構平・断面図 ……354
第394図　SK5092出土遺物図 ……354

第395図　SK5094遺構平・断面図 ……355
第396図　SK5094遺物出土状況図 ……356
第397図　SK5094出土遺物図 ……356
第398図　SK5099遺構平・断面図 ……356
第399図　SK5099出土遺物図 ……356
第400図　SK5100遺構平・断面図 ……357
第401図　SK5100遺物出土状況図 ……358
第402図　SK5100出土遺物図(1) ……358
第403図　SK5100出土遺物図(2) ……359
第404図　SK5101遺構平・断面図 ……360
第405図　SK5101遺物出土状況図 ……360
第406図　SK5101出土遺物図(1) ……361
第407図　SK5101出土遺物図(2) ……362
第408図　SK5102遺構平・断面図 ……363
第409図　SK5102遺物出土状況図 ……363
第410図　SK5102出土遺物図 ……363
第411図　SK5104遺構平・断面図 ……365
第412図　SK5104遺物出土状況図 ……365
第413図　SK5104出土遺物図 ……365
第414図　SK5105遺構平・断面図 ……366
第415図　SK5105遺物出土状況図 ……366
第416図　SK5105出土遺物図 ……366
第417図　SK5107遺構平・断面図 ……367
第418図　SK5107遺物出土状況図 ……367
第419図　SK5107出土遺物図 ……367
第420図　SK5110遺構平・断面図 ……368
第421図　SK5110遺物出土状況図 ……369
第422図　SK5110出土遺物図 ……370
第423図　SP5092遺構平・断面図 ……372
第424図　SP5092出土遺物図 ……372
第425図　SP5104遺構平・断面図 ……372
第426図　SP5104遺物出土状況図 ……372
第427図　SP5104出土遺物図 ……372
第428図　SP5106遺構平・断面図 ……373
第429図　SP5106遺物出土状況図 ……373
第430図　SP5106出土遺物図 ……373
第431図　SP5107遺構平・断面図 ……373
第432図　SP5107遺物出土状況図 ……373
第433図　SP5107出土遺物図 ……373
第434図　SM5001遺構平面図 ……375
第435図　SM5001遺構断面図 ……376
第436図　SM5001列石平・断面図(1) ……377
第437図　SM5001列石平・断面図(2) ……378
第438図　SM5001遺物出土地点図 ……379
第439図　SM5001ET1、2、3遺構平面図 ……380
第440図　SM5001ET1遺構平・断面図 ……381
第441図　SM5001ET1遺物出土状況図 ……382
第442図　SM5001ET1出土遺物図 ……382
第443図　SM5001ET2遺構平・断面図 ……383
第444図　SM5001ET2出土遺物図 ……383
第445図　SM5001ET3遺構平・断面図 ……384
第446図　SM5001ET3出土遺物図(1) ……384
第447図　SM5001ET3出土遺物図(2) ……385
第448図　SM5001出土遺物図(1) ……386
第449図　SM5001出土遺物図(2) ……387
第450図　SM5001出土遺物図(3) ……388
第451図　SM5001出土遺物図(4) ……389
第452図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(1) ……390
第453図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(2) ……391
第454図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(3) ……392
第455図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(4) ……393
第456図　ST5001遺構平・断面図 ……394
第457図　ST5001遺物出土状況図 ……394
第458図　ST5001出土遺物図 ……394
第459図　ST5002墓壙平・断面図 ……395
第460図　ST5002土器棺検出状況図 ……395
第461図　ST5002出土遺物図 ……395
第462図　ST5003墓壙平・断面図 ……396
第463図　ST5004墓壙平・断面図 ……397
第464図　ST5004出土遺物図 ……397
第465図　ST5005墓壙平・断面図 ……399
第466図　ST5005遺物出土状況図 ……400
第467図　ST5005出土遺物図 ……401
第468図　ST5006墓壙平・断面図 ……402
第469図　ST5006土器棺検出状況図 ……402
第470図　ST5006出土遺物図(1) ……403
第471図　ST5006出土遺物図(2) ……404
第472図　ST5007墓壙平・断面図 ……406
第473図　ST5007土器棺検出状況図 ……406
第474図　ST5007出土遺物図 ……407
第475図　ST5008墓壙平・断面図 ……408
第476図　ST5008土器棺検出状況図 ……408
第477図　ST5008出土遺物図 ……408
第478図　ST5009墓壙平・断面図 ……409
第479図　ST5009土器棺検出状況図 ……409
第480図　ST5009出土遺物図 ……409
第481図　ST5010墓壙平・断面図 ……410
第482図　ST5010土器棺検出状況図 ……410

第483図　ST5010出土遺物図 ……411
第484図　ST5011墓壙平・断面図 ……412
第485図　ST5011土器棺検出状況図 ……412
第486図　ST5011出土遺物図 ……413
第487図　ST5012墓壙平・断面図 ……414
第488図　ST5012土器棺検出状況図 ……414
第489図　ST5012出土遺物図 ……415
第490図　ST5013墓壙平・断面図 ……416
第491図　ST5013土器棺検出状況図 ……416
第492図　ST5013出土遺物図 ……416
第493図　ST5014墓壙平・断面図 ……417
第494図　ST5014土器棺検出状況図 ……417
第495図　ST5014出土遺物図 ……417
第496図　ST5015墓壙平・断面図 ……418
第497図　ST5015石組み検出状況図 ……418
第498図　SU5001集石平・立面図 ……420
第499図　SU5002遺構平・断面図 ……420
第500図　SU5002集石平・立面図 ……421
第501図　SU5002出土遺物図(1) ……422
第502図　SU5002出土遺物図(2) ……423
第503図　SU5003遺構平・断面図 ……424
第504図　SU5003集石平面図 ……425
第505図　SU5003出土遺物図 ……425
第506図　SU5004遺構平・断面図 ……427
第507図　SU5004集石平面図 ……428
第508図　SU5004出土遺物図 ……428
第509図　SU5005遺構平・断面図 ……429
第510図　SU5005集石平面図 ……429
第511図　SU5005出土遺物図 ……429
第512図　SX5001遺構平・断面図 ……430
第513図　SX5001出土遺物図 ……430
第514図　SK5038、SX5002、SX5003遺構平面図……431
第515図　SK5038、SX5002、SX5003遺構断面図……432
第516図　SK5038、SX5002、SX5003遺物出土状況図
……433
第517図　SX5002出土遺物図 ……433
第518図　SX5003出土遺物図 ……433
第519図　SX5004遺構平・断面図 ……434
第520図　SX5004遺物出土状況図 ……435
第521図　SX5004出土遺物図 ……436
第522図　SX5005遺構平・断面図 ……437
第523図　SX5005遺物出土状況図 ……438
第524図　SX5005出土遺物図(1) ……438
第525図　SX5005出土遺物図(2) ……439
第526図　SX5005出土遺物図(3) ……440
第527図　SX5005出土遺物図(4) ……441
第528図　SX5007遺構平・断面図 ……443
第529図　SX5007遺物出土状況図 ……443
第530図　SX5007出土遺物図 ……443
第531図　SX5008遺構平・断面図 ……444
第532図　SX5008出土遺物図 ……444
第533図　第５包含層出土遺物図(1)……445
第534図　第５包含層出土遺物図(2)……446
第535図　第５包含層出土遺物図(3)……447
第536図　第５包含層出土遺物図(4)……448
第537図　第５包含層出土遺物図(5)……449
第538図　第５包含層出土遺物図(6)……450
第539図　第５包含層出土遺物図(7)……451
第540図　第５包含層出土遺物図(8)……452
第541図　第５包含層出土遺物図(9)……453
第542図　第５包含層出土遺物図(10)……454
第543図　第５包含層出土遺物図(11)……455
第544図　機械掘削層出土遺物図(12)……456
第545図　機械掘削層出土遺物図(13)……457
第546図　機械掘削層出土遺物図(14)……458
第547図　機械掘削層出土遺物図(15)……459
第548図　機械掘削層出土遺物図(16)……460
第549図　機械掘削層出土遺物図(17)……461
第550図　鮎喰川デルタ全体と延命遺跡……469

観察表目次

《第２分冊》

第１表　遺構一覧表……３
第２表　土器観察表……12
第３表　石器観察表……70
第４表　金属器観察表……73

写真図版目次

図版１　延命遺跡西側からの遠景……77
延命遺跡南東側からの遠景……77
延命遺跡北側からの遠景……77
図版２　99－２区　第１水田面全景（南より）……78
99－１区　第１水田面全景（南東より）……78
図版３　98－12区　第１水田面全景（南東より）……79
98－６区　第１水田面全景（南東より）……79
図版４　98－７区・98－８区　第１水田面全景（南東より）……80
98－３区　第１水田面全景（南東より）……80
図版５　98－５区　第１水田面全景（北西より）……81
97－１区　第１－２水面田（南より）……81
図版６　97－２区　第１水田面全景（南より）……82
第１遺構面 SA 完堀状況（南東より）……82
図版７　’98、10区第１水田面足跡 (1)……83
’98、10区第１水田面足跡 (2)……83
’98、７区第１－２水田面瓦出土状況……83
SA1004－EP８遺物出土状況（東より）……83
SA1004－EP９遺物出土状況（南より）……83
SA1004－EP15遺物出土状況（東より）……83
SP1016遺物出土状況（北東より）……83
SP1017遺物出土状況（東より）……83
図版８　SP1030遺物出土状況……84
SP1030土層断面（南より）……84
SP1036遺物出土状況（南より）……84
SP1031完堀状況（西より）……84
SP1014完堀状況（南より）……84
SP1112遺物出土状況（東より）……84
SP1083完堀状況（北より）……84
SP1083柱根土層……84
図版９　SD1001全景（南東より）……85
SD1001遺物出土状況……85
SD1001杭（Ｍ１）土層断面……85
SD1001杭（Ｍ２）土層断面……85
SD1011完堀状況（西より）……85
SD1011遺物出土状況（北西より）……85
SD1014完堀状況（東より）……85
SD1014遺物出土状況（東より）……85
図版10　SD1008、SD1009完堀状況（南西より）……86
SD1008遺物出土状況 (1)……86
SD1008遺物出土状況 (2)……86
SD1008遺物出土状況 (3)……86
SD1008遺物出土状況 (4)……86
図版11　SK1001遺物出土状況（西より）……87
SK1003平面・遺物出土状況（南東より）……87
SK1003遺物出土状況 (1)（南東より）……87
SK1003遺物出土状況 (2)（南より）……87
SK1012遺物出土状況 (1)（北東より）……87
SK1012遺物出土状況 (2)（南西より）……87
SK1025遺物出土状況（西より）……87
SX1002完堀・遺物出土状況（北東より）……87
図版12　SX1003完堀状況（西より）……88
SX1003遺物出土状況 (1)……88
SX1003遺物出土状況 (2)……88
SX1003遺物出土状況 (3)……88
SX1003遺物出土状況 (4)……88
図版13　98－７区　第２水田面全景（北西より）……89
99－３区　第２水田面全景（南東より）……89
図版14　99－５区・99－６区・99－10区第２水田面全景（北東より）……90
98－12区　第２水田面全景（北より）……90
図版15　97－２区　第２水田面全景（南より）……91
SD2001全景（南西より）……91
図版16　99－２区　第２水田面全景（南より）……92
98－７区　第３水田面（北側）、98－８区第２水田面（南側）全景（南東より）……92
図版17　98－12区　第３水田面全景（南西より）……93
98－６区　第３水田面全景（南東より）……93

図版18　97－２区　第３水田面全景（南より）(1)……94
97－２区　第３水田面全景（南より）(2)……94
図版19　99－３区　第３水田面全景（南東より）……95
99－１区　第３水田面、SD3002全景
（北東より）……95
図版20　第３水田面完堀状況（南より）……96
第３水田面完堀状況（北より）……96
96－５区　第３水田面全景（北より）……96
図版21　98－６区　第３水田面全景（北より）……97
SD3002全景（北より）……97
SD3002遺物出土状況（南より）……97
SD3002土層断面 (1)……97
SD3002土層断面 (2)……97
図版22　98－６区　第４水田面全景（南東より）……98
99－１区　第４水田面全景（南東より）……98
図版23　SM5001全景（北より）……99
SM5001全景（北より）……99
SM5001全景（東より）……99
図版24　SM5001 (1)（北東より）……100
SM5001 (1)（東より）……100
SM5001 (2)（北東より）……100
SM5001 (2)（東より）……100
SM5001（西より）……100
SM5001（北東より）……100
SM5001 (4)（南西より）……100
SM5001 (4)（南より）……100
図版25　SM5001－ET１遺物出土状況（南より）……101
SM5001－ET１遺物出土状況（東より）……101
SM5001－ET１遺物出土状況（南より）……101
図版26　絵画文（鹿）土器（第453図－７）
検出状況 (1)……102
絵画文（鹿）土器（第453図－７）
検出状況 (2)……102
絵画文（鹿）土器（第453図－７）
検出状況 (3)……102
SM5001遺物出土状況 (1) ……102
SM5001遺物出土状況 (3) ……102
図版27　SM5001遺物出土状況 (3) ……103
SM5001遺物出土状況 (4) ……103
ST5002完堀状況（西より） ……103
ST5002遺物出土状況（南東より） ……103
ST5004完堀状況（南より） ……103
ST5004遺物出土状況 ……103
ST5004土層断面 (1) ……103
ST5004土層断面 (2) ……103
図版28　ST5005遺物出土状況 (1)（東より）……104
ST5005遺物出土状況 (2) ……104
ST5006遺物出土状況（東より） ……104
ST5006完堀状況（西より） ……104
ST5007遺物出土状況（北より） ……104
ST5004完堀状況（南より） ……104
ST5008遺物出土状況（北西より） ……104
ST5011遺物出土状況（南より） ……104
図版29　ST5009遺物出土状況（北東より） ……105
ST5009平面完堀状況（北東より） ……105
ST5012遺物出土状況（北西より） ……105
ST5012完堀状況（西より） ……105
ST5013遺物出土状況（南より） ……105
SU5005遺物出土状況（東より） ……105
SU5002遺物出土状況（北より） ……105
SU5002完堀状況（北より） ……105
図版30　SU5003遺物出土状況（南より） ……106
SU5003、SK5025完堀状況（北より）……106
SU5004土層断面（南東より） ……106
SU5004完堀状況（南より） ……106
SK5003完堀状況（南より） ……106
SK5003EP1内銅鏃出土状況（南より） ……106
SK5016遺物出土状況（南より） ……106
SK5016EP1遺物出土状況（南東より） ……106
図版31　SK5030完堀状況（南より） ……107
SK5030遺物出土状況（南より） ……107
SK5057完堀状況（東より） ……107
SK5080完堀状況（西より） ……107
SK5094遺物出土状況（東より） ……107
SK5094完堀状況（南東より） ……107
SK5091遺物出土状況（西より） ……107
SK5015遺物出土状況（南西より） ……107
図版32　SK5100遺物出土状況（南東より） ……108
SK5101遺物出土状況（北東より） ……108
SK5110遺物出土状況（西より） ……108
SK5102遺物出土状況 ……108
SK5105遺物出土状況（西より） ……108
SK5107遺物出土状況（北東より） ……108
SX5003、SK5038完堀状況（西より）……108
SP5107遺物出土状況（南西より） ……108
図版33　SX5002完堀状況（北東より） ……109
SX5005完堀状況（南より） ……109
SX5005完堀状況（北より） ……109

SX5005遺物出土状況（1）（南東より）……109
SX5005遺物出土状況（2）……109
SX5007遺物出土状況（1）（南西より）……109
SX5007遺物出土状況（2）……109
図版34　SB5001、SK5001完堀状況（東より）……110
SB5001土層断面（西より）……110
SB5001遺物出土状況（北より）……110
図版35　古代　SA1004　EP５……111
古代　SA1004　EP15……111
古代　SK1025……111
古代　SP1014……111
古代　SP1030……111
古代　SK1012……111
図版36　古代　SD1001……112
古代　SD1004……112
古代　SD1005……112
古代　SD1008……112
97－１区　SD1009……112
図版37　中世　第１水田面……113
図版38　古代　SX1003（1）……114
図版39　古代　SX1003（2）……115
図版40　古代　SX1003（3）……116
図版41　古代　SX1003（4）……117
古代　SX1002……117
図版42　古代　SD2002……118
古代　SD2007……118
中世　第２水田面……118
中世　SD3002……118
図版43　古代　第３水田面……119
図版44　古代　S14001　島状高まり……120
古代　第４水田面……120
古代　包含層（1）……120
図版45　古代中世　包含層……121
弥生　SB5001……121
図版46　弥生　SB5002……122
弥生　SK5001……122
弥生　SK5015……122
弥生　SK5050……122
弥生　SK5057……122
弥生　SK5100……122
弥生　SK5101……122
図版47　弥生　SK5102……123
弥生　SK5105……123
弥生　SK5110……123
弥生　SP5104……123
古代　SP5107……123
図版48　弥生　SM5001　ET3……124
弥生　SM5001……124
図版49　弥生　ST5002……125
弥生　ST5004……125
弥生　ST5005……125
弥生　ST5006……125
図版50　弥生　ST5007……126
弥生　ST5008……126
弥生　ST5009……126
弥生　ST5011……126
図版51　弥生　ST5010……127
弥生　ST5012……127
弥生　ST5013……127
図版52　弥生　SU5003……128
弥生　ST5014……128
弥生　SU5002……128
弥生　SU5005……128
弥生　SU5008……128
SX5002……128
弥生　SX5004……128
図版53　弥生　SX5005（1）……129
図版54　弥生　SX5008……130
SX5005（2）……130
弥生　第５包含層……130
図版55　弥生　第５包含層……131
図版56　弥生包含層（3）……132
図版57　機械掘削層……133

付　図　目　次

付図１　第１遺構面遺構配置図①（S＝1/250）
付図２　第１遺構面遺構配置図②（S＝1/500）
付図３　第１遺構面遺構配置図③（S＝1/500）
付図４　第１遺構面遺構配置図④（S＝1/500）
付図５　第２遺構面遺構配置図①（S＝1/500）
付図６　第２遺構面遺構配置図②（S＝1/500）

付図７　第２遺構面遺構配置図③（S＝1/500）
付図８　第２遺構面遺構配置図④（S＝1/500）
付図９　第３遺構面遺構配置図①（S＝1/500）
付図10　第３遺構面遺構配置図②（S＝1/500）
付図11　第３遺構面遺構配置図③（S＝1/500）
付図12　第３遺構面遺構配置図④（S＝1/500）
付図13　第４遺構面遺構配置図①（S＝1/500）
付図14　第４遺構面遺構配置図②（S＝1/500）
付図15　第４遺構面遺構配置図③（S＝1/500）
付図16　第４遺構面遺構配置図④（S＝1/500）
付図17　第５遺構面遺構配置図（S＝1/250）
付図18　SM5001を含む周辺集石状況平面図
付図19　SM5001を含む周辺集石礫の長径比較図

Ⅰ　調査と整理の経緯

１．徳島南環状道路の調査に至る経緯

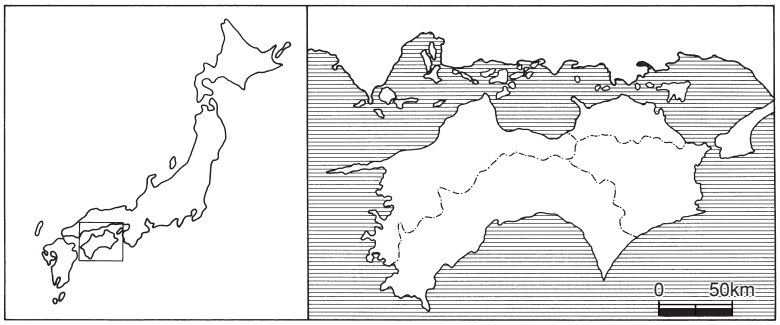
国道192号線は愛媛県西条市を起点とし、徳島市に至る四国を東西に貫く全長92.4㎞の道路である。徳島県内では、三好市・東みよし町・つるぎ町・美馬市・吉野川市・石井町を経由し徳島市へと至る。徳島市を中心とした徳島都市圏において、都市部を取り巻く環状道路が計画され、一般国道192号徳島南環状線は、徳島市都市部の渋滞緩和と都市圏発展のための基盤整備として計画された。計画区間は、徳島市国府町観音寺地区から徳島市八万町大野地区に至る全長9.5㎞の区間であり、1985（昭和60）年度に都市計画決定、1986（昭和61）年度に事業化され、1989（平成元）年度から用地取得に着手した。

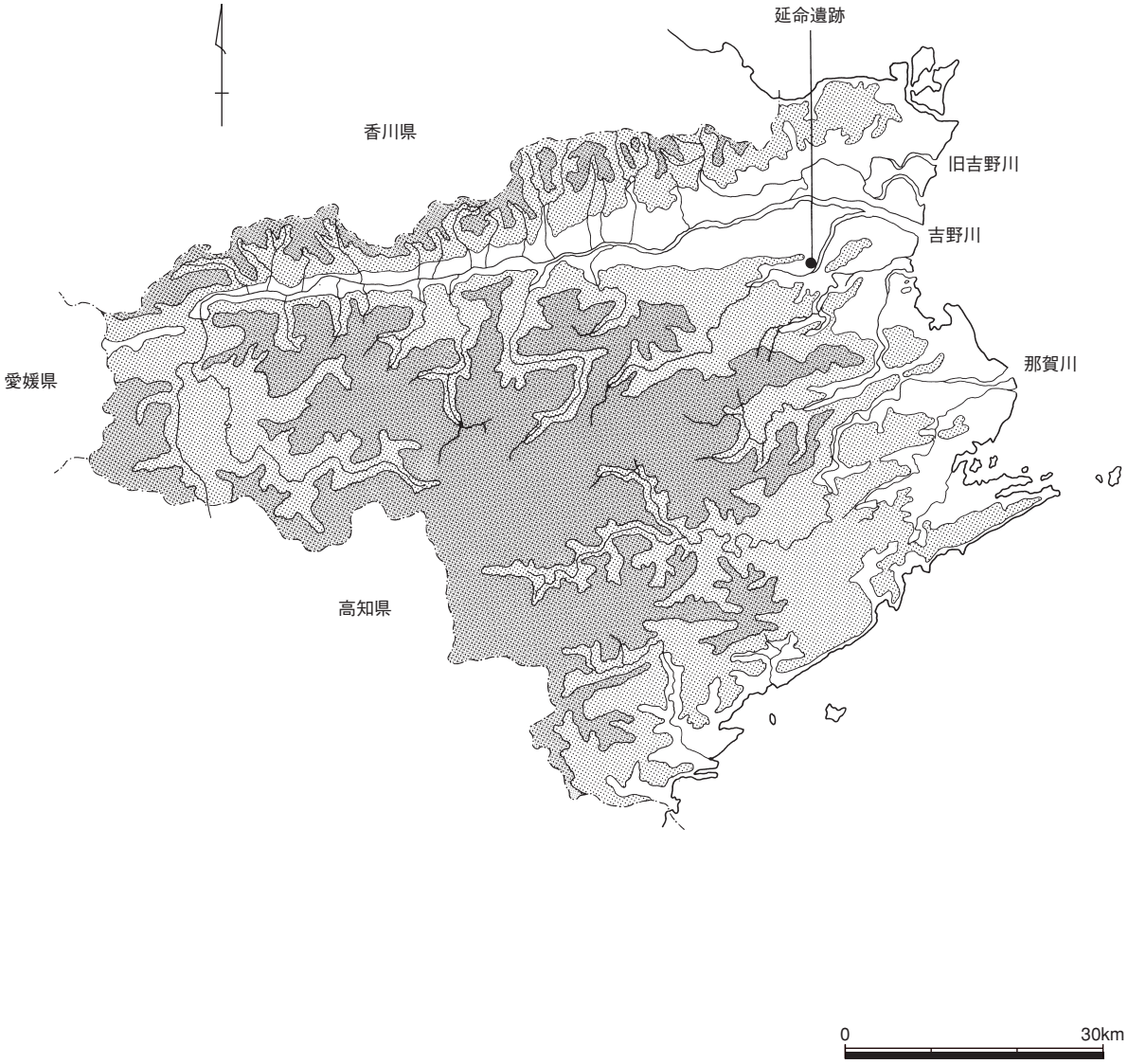
このうち徳島市国府町観音寺地区から矢野地区・延命地区に至る2.2㎞、道路面積108,000㎡に係る埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて、建設省（現在の国土交通省）徳島工事事務所所長より徳島県教育委員会教育長宛、1980（昭和55）年４月10日付建四徳第892号で、徳島市西部地域の文化財分布状況についての照会がなされ､同年４月14日付教文第92号で徳島県教育委員会の回答がなされた｡また、同年11月25日付建四徳第2483号により、徳島南環状道路の計画における文化財についての事前協議を行った。1981（昭和56）年２月９日付教文第25号では、所在遺跡などについての回答がなされている。

こうした経緯をふまえ、1981（昭和56）年３月に徳島県教育委員会文化課（現在の徳島県教育委員会文化財課、以下県教委文化課）は道路計画域に対して分布調査を実施し、矢野遺跡を中心とする遺跡の把握に努めたが、延命地区・観音寺地区については未把握のままであった。1986（昭和61）年度の事業化に伴い、1991（平成３）年１月10日付建四徳第27号で、再度埋蔵文化財の所在の有無およびその取り扱いについて照会がなされ、同年４月９日付教文第134号で阿波国府跡・矢野遺跡の所在が回答されている。

県教委文化課では1990（平成２）年度に建設省徳島工事事務所と当該路線全域に埋蔵文化財が存在することを前提とした事前協議を行った。ただし遺跡の遺存状態、掘削深度、調査遺構面数に関する情報を欠いていた。そこで、1991（平成３）年度県教委文化課により矢野地区約600ｍの間に試掘調査が実施され、大部分の試掘坑で遺構面の存在が確認されたのを受け、県教委文化課は、道路建設事業主体者の建設省と直ちに協議に入った｡協議の中で､矢野遺跡が文化財保護法の対象となる周知の遺跡であり、今回の試掘調査とこれまでの周辺地域の発掘調査などの成果からすれば、徳島県内では極めて重要な遺跡であるという共通認識を得た。そこで道路建設予定地内は全て発掘調査を実施し、遺跡の記録保存の徹底をはかることが確認され、また、今後実施される発掘調査の成果により道路建設の計画変更もあり得ることを、建設省に示唆した。

以上のような協議を経て、道路建設予定地内において、遺構面が複数存在し、遺物が地点により相当量見込まれるため､1992(平成４)年度から､事業は財団法人徳島県埋蔵文化財センター(以下センター)が県教委から受託して行われることとなった。そして県教委文化課とセンターによって発掘調査計画が策定された。この計画で道路建設予定地内を観音寺地区・矢野地区・延命地区に分割し、用地取得の進んでいる矢野地区から発掘調査が開始された。矢野遺跡の調査の進展に伴って、1993（平成５）年度に延命地区、1996（平成８）年度に観音寺地区においても試掘調査が行われ、それぞれの遺構面の所在が確認された。この結果を受け、道路建設予定地の全てを発掘調査の対象地とする措置がとられることとなり､調査年度も複数年度にまたがることが明らかとなった｡延命地区・観音寺地区では1996(平成８)年より発掘調査が開始された。





第１図　調査地点位置図

第２図　一般国道192号南環状道路路線図

２．発掘調査の経過

徳島南環状道路改築事業に伴う発掘調査と整理の経過については、センター発掘調査報告書第32集「矢野遺跡Ⅰ」において詳述しているので、そちらを参照されたい。

1996（平成８）年度は、徳島市国府町延命字天神前周辺において、4,860㎡を調査した。遺構面は、古代から中世にかけての第１遺構面と、弥生中期末から古墳時代にかけての第２遺構面中心に、１～５区に分けて調査した。

1997（平成９）年度は、徳島市国府町延命字壱町地周辺において、4,870㎡を調査した。古代の第１遺構面、弥生後期の第２遺構面と、古代の水田面を３面調査した。１～３区に分け、１区は二分割した。

1998（平成10）年度は、徳島市国府町延命字長田周辺7,200㎡を調査した。１～12区の調査区で、古代の水田面を調査した。

1999（平成11）年度は徳島市国府町延命字野神周辺2,730㎡を調査した。調査区は１～３区で、古代から中世にかけての水田面を調査した。

３．発掘調査の方法

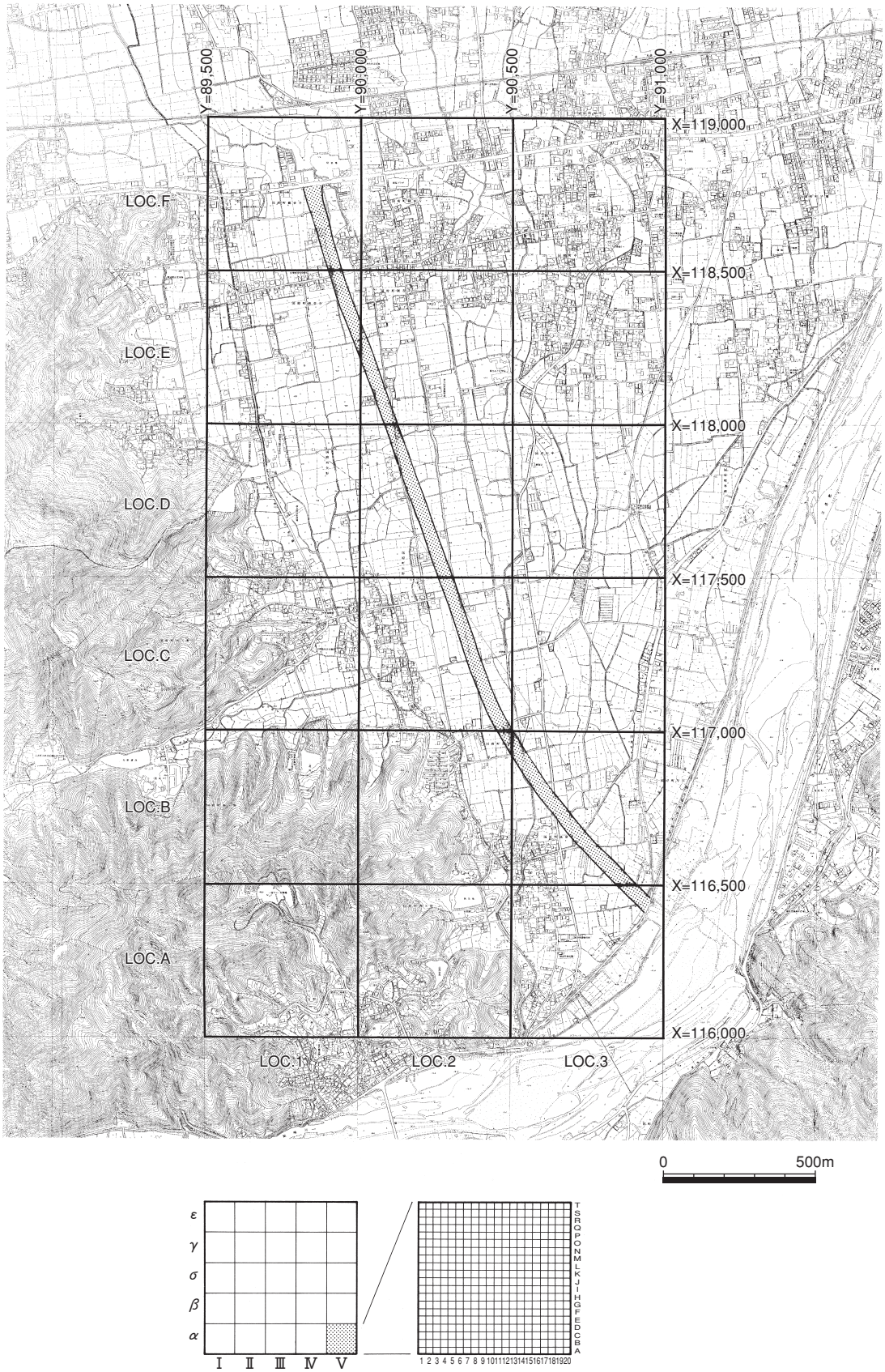
複数年度にわたる調査になることから、調査年度にかかわらず、一定の規則性を持たせた呼称をつけ、何らかの基準に基づいて調査区の位置を把握することが、調査・整理の両面からみて必要と判断された。

そのため1993（平成５）年度に第Ⅳ座標系による国土座標を基準とした大中小のグリッド（方眼）を設定し、調査区全体を覆うことにした。

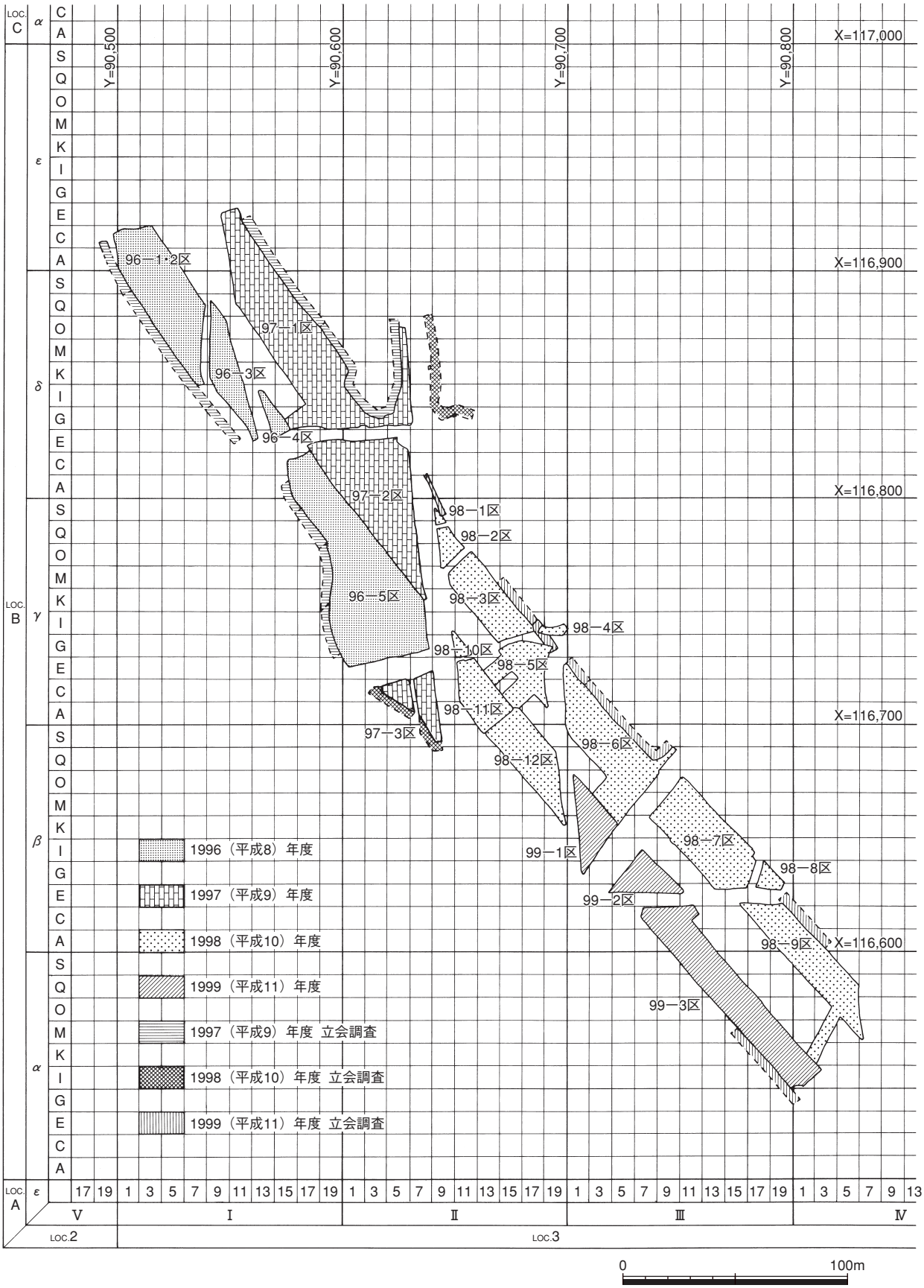
まず南環状道路改築区間全体を包括する様に一辺を500mとするグリッドで区切り、これを大グリッドと呼ぶ。具体的には、国土座標のX＝116,000m、Y＝89,500mの交差点を大グリッド南西隅の原点とした。そしてこの原点から一辺500m四方のグリッドをアルファベット大文字とアラビア数字の組み合わせで表現しLocation-A-１グリッドと呼び、Loc.Ａ１と略記することにした。さらに、このLoc.Ａ１から東隣にある一辺500mのグリッドをLoc.Ａ２、北隣にあるグリッドをLoc.Ｂ１、すなわち、Loc.Ａ１から東へ500mごとにLoc.Ａ２、Loc.Ａ３…とし、Loc.Ａ１から北へ500mごとにLoc.Ｂ１、Loc.Ｃ１…と表記する。

次に、この大グリッドを、一辺が100m四方のグリッドで細かく東西方向５・南北方向５に分割し、この100m四方の方眼一つを中グリッドと呼ぶ。この中グリッドは、ギリシャ文字とローマ数字の組み合わせで表現し、大グリッドを呼んだ場合と同じ方法で、原点から100m四方の中グリッドを、Loc.Ａ１・αⅠと表記し、東へ100mごとにLoc.Ａ１・αⅡ、Loc.Ａ１・αⅢ…とし、北へ100mごとにLoc.Ａ１・βⅠ、Loc.Ａ１・γⅠ…と表記する。

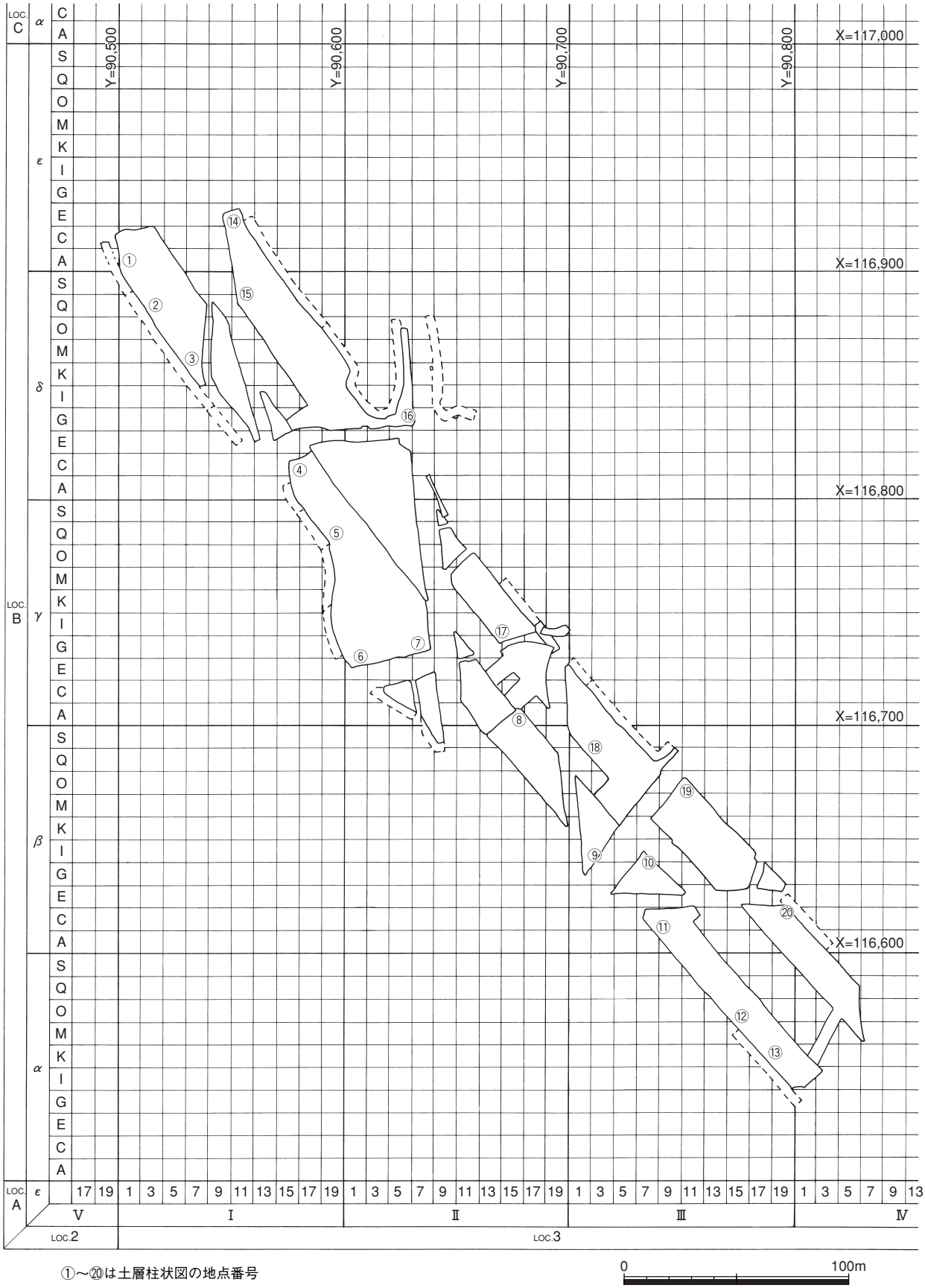
そして、さらにこの中グリッドを、一辺が５m四方のグリッドで細かく東西方向20・南北方向20に分割し、この５m四方の方眼一つを小グリッドと呼ぶ。この小グリッドは、アルファベット小文字とアラビア数字の組み合わせで表現することにし、大・中グリッドを呼んだ場合と同じ方法で、原点から５m四方の小グリッドを、Loc.Ａ１・αⅠ・ａ１と表記し、東へ５mごとにLoc.Ａ１・αⅠ・ａ２、Loc.Ａ１・α１・ａ３…とし、北へ５mごとLoc.Ａ１・αⅠ・ｂ１、Loc.Ａ１・α１・ｃ１と表記する。



第３図　一般国道192号南環状道路の路線範囲とグリッドの対応図



第４図　延命遺跡の各年次の調査区・グリッド配置図



第５図　延命遺跡の各調査区配置図

このように本報告では折に触れ、大中小のグリッドや国土座標を併用しながら調査地点や遺構・遺物の位置情報を表現している。これにより発掘地点の調査年次や調査区に関わることなく、最小単位の小グリッドで調査地点を表すことができ、南環状道路改築区間の延命遺跡・矢野遺跡・観音寺遺跡の発掘調査で検出された遺構の位置について検索が可能となっている。

また、延命遺跡における調査年度ごとの調査区の配置は第４図に掲げるとおりである。

４．整理作業の経過

延命遺跡の整理作業は、平成18年度から平成19年度にかけて、２班体制で実施した。96年度調査～99年度調査及び97年度～99年度に行われて立会調査から出土した遺物や図面を元に、図面整理・遺物洗浄・注記・接合・復元・実測・トレースなどの整理作業を行い、それを元に報告書執筆作業を行った。

５．調査日誌抄

1996（平成８）年度

10月１日　調査準備開始
10月７日　側溝掘削
10月11日　側溝掘削・精査、機械掘削
10月12日　96－5区機械掘削開始
10月17日　96－5区人力掘削開始
10月18日　96－1・2区機械掘削開始
10月28日　96－5区遺構検出
10月30日　96－5区トレンチ掘削
10月31日　96－1・2区人力掘削
11月５日　96－1・2区西側、東側トレンチ設定
11月６日　96－1・2区トレンチ掘削、精査
　　96－5区東西トレンチ掘削、精査
11月７日　96－1・2区包含層掘削開始
11月20日　96－1・2区、96－5区
　　包含層掘削終了
11月21日　96－1・2区遺構検出
11月26日　96－1・2区、96－5区
　　遺構面検出写真撮影
11月29日　96－5区人力掘削
12月12日　96－1・2区完掘写真
12月20日　96－5区遺構検出写真
12月25日　96－1・2区第２遺構面検出、精査
１月23日　96－5区精査終了
１月28日　96－5区空撮
２月14日　96－3区機械掘削開始
２月17日　96－3区埋め戻し、96－4区機械掘削開始
２月18日　96－1・2区南部人力掘削
　　96－4区人力掘削開始、遺構検出、遺構内掘削
２月20日　96－4区埋め戻し
２月24日　96－1・2区南部水田面検出
２月25日　96－1・2区遺構面検出、空撮
２月28日　人力掘削開始
３月３日　遺構検出、遺構掘削
３月28日　調査終了

1997（平成９）年度

５月22日　97－1区機械掘削開始
６月12日　97－1区中央部遺構検出
６月13日　97－1区北側水田面人力掘削
６月18日　97－1区北側水田面精査
６月30日　97－1区南側人力掘削
６月25日　97－1区中央部人力掘削
７月１日　97－1区北側水田面畦畔検出
７月14日　97－1区北部水田面精査
７月18日　水田面人力掘削、遺構掘削

7月29日　97－1区中央部遺構面検出
8月22日　97－1区空撮
8月25日　97－1区北側人力掘削
8月28日　97－1区北側遺構検出
8月29日　97－1区北側遺構面掘削
9月2日　97－1区南側人力掘削
9月5日　97－1区北側、中央部完掘・写真撮影
9月13日　97－1区機械掘削
9月18日　97－2区機械掘削
9月24日　97－1区人力掘削
9月25日　97－1区北側機械掘削開始
9月30日　97－1区南側遺構検出、人力掘削
10月1日　97－1区水田面株跡検出
10月3日　97－1区遺構検出、人力掘削
10月23日　97－1区、97－1区空撮
10月29日　97－1区遺構検出
10月30日　97－1区掘り下げ、人力掘削
10月31日　97－1区人力掘削
11月15日　97－1区北側精査
11月7日　97－1区、97－1区人力掘削
11月27日　97－1区空撮
12月5日　97－2区人力掘削
12月15日　97－3区機械掘削
12月16日　97－2区遺構検出
12月18日　97－2区人力掘削
1月9日　97－2区遺構面精査
1月10日　97－2区空撮
1月13日　97－2区、97－3区人力掘削
1月19日　97－2区遺構面精査
11月22日　97－2区遺構面人力掘削
1月31日　97－2区空撮
2月2日　97－2区人力掘削
2月16日　97－2区遺構面精査、
97－3区機械掘削
2月18日　97－2区第3面空撮、
97－3区遺構掘削
2月19日　97－3区完掘写真
2月26日　97－3区遺構面精査
3月4日　97－3区写真撮影
3月13日　調査終了

1998（平成10）年度

9月28日　98－5区機械掘削
98－4区、98－10区機械掘削
10月5日　98－5区第1包含層掘削
10月6日　98－11区機械掘削
10月8日　98－4区、98－5区人力掘削、
98－4区遺構検出
10月9日　98－4区第1遺構面検出
98－10、98－11区測量、
98－12区機械掘削
10月19日　98－4区完掘・写真撮影
98－5区第1包含層掘削
10月28日　98－4区、98－5区空撮、
98－10区人力掘削
11月2日　98－12区包含層掘削
11月4日　98－5区遺構面検出
98－10区遺構面検出、精査
98－12区人力掘削
11月5日　98－10区、98－11区第1遺構面検出
98－12区人力掘削
11月11日　98－5区埋め戻し
11月12日　98－10区遺構内掘削
11月16日　98－12区遺構内掘削、半裁
11月18日　98－10区、98－11区、98－12区空撮
11月19日　98－1区側溝掘削
11月24日　98－1区、98－10区、
98－11区人力掘削
11月26日　98－6区機械掘削
11月30日　98－10区精査、遺構検出
12月3日　98－2区人力掘削、98－3区機械掘削
98－12区埋め戻し
12月4日　98－1区精査、遺構検出
12月9日　98－2区精査、遺構検出
98－10区精査、遺構検出
12月11日　98－1区、98－2区、98－10区空撮

98－3区、98－6区人力掘削
12月14日　98－1区確認掘削、98－10区人力掘削
12月17日　98－11区人力掘削
12月18日　98－1区人力掘削、
98－11区遺構面検出
12月21日　98－1区遺構面検出
1月6日　98－7区機械掘削
1月12日　98－6区第1水田面精査
1月20日　98－6区、98－10区、98－11区空撮
968－7区人力掘削
1月29日　98－3区、98－7区第1水田面精査
98－6区人力掘削
2月9日　98－3区、98－7区空撮
98－6区第2水田面精査
2月10日　98－7区人力掘削
2月15日　98－3区人力掘削
98－6区、98－7区第2水田面精査
2月17日　98－3区、98－6区、98－7区空撮
2月19日　98－3区、98－7区人力掘削
2月23日　98－6区人力掘削
2月26日　98－3区、98－7区空撮
3月1日　98－6区第3水田面精査
98－7区人力掘削
3月3日　98－6区空撮
3月4日　98－6区、98－7区人力掘削
3月10日　98－6区、98－7区空撮
3月11日　98－6区人力掘削
3月17日　98－7区埋め戻し
3月25日　98－6区埋め戻し、調査終了

1999（平成11）年度
4月2日　調査開始
4月5日　99－3区人力掘削
4月9日　99－1区機械掘削
4月14日　99－3区水田面精査、遺構検出、遺構内掘削、空撮、99－2区機械掘削
4月15日　99－3区人力掘削
4月20日　第3水田面精査・遺構検出
4月21日　99－3区遺構内掘削、空撮
99－1区人力掘削
5月6日　99－2区、99－1区人力掘削
5月10日　99－2区、99－1区第1水田面精査、遺構検出
5月12日　99－2区、99－1区空撮
5月13日　99－1区人力掘削
5月19日　99－2区人力掘削
5月20日　99－1区第2水田面遺構検出、遺構内掘削
5月31日　99－2区第2水田面精査、遺構検出、遺構内掘削
6月8日　99－1区第3水田面精査、遺構検出
6月9日　99－2区人力掘削
6月14日　99－1区人力掘削
7月1日　99－2区、99－1区遺構面精査
7月2日　99－2区、99－1区空撮
7月31日　調査終了

6．業務の体制

（1）発掘調査担当

1996（平成8）年度　所長：筒井　豊祐　事務局長：庄野　徳保　総務課長：長江　仁
調査第2課長：菅原　康夫　第2係長：佐々木清克
研究員：小泉　信司　中川　幸典　坂東　勝美　牧野　浩章
山田　正之

1997（平成9）年度　所長：筒井　豊祐　事務局長：庄野　徳保　総務課長：長江　仁

調査第２課長：菅原　康夫　　第２係長：佐々木清克
研究員：上野　秋利　　大栗　　悟　　小泉　信司　　坂東　勝美

1998（平成10）年度　所長：寒川　光明　　事務局長：細川　靖夫　　総務課長：井後　伸一
調査課長：菅原　康夫　　第２係長：武市　文雄
研究員：相原　　聡　　加藤　公夫　　喜枝　秀行　　喜田美智代
久保　雅仁　　斉藤　　剛　　佐野　耕市　　妹尾　健司
高柳　孝治　　田川　　憲　　藤川　智之　　元木　浩司
吉田　千恵

1999（平成11）年度　所長：寒川　光明　　事務局長：細川　靖夫　　総務課長：井後　伸一
調査課長：菅原　康夫　　第１係長：市村　みね
研究員：佐野　耕一　　藤川　智之　　光山　忠幸　　宮本　　格

（２）整理担当

2006（平成18）年度　所長：村山　一行　　事務局長：河野　幸一　　総務課長：一宮　一郎
第２課長：島巡　賢二　　第１係長：豊田大之介
研究員：井内　哲也　　坂賀　正彦

2007（平成19）年度　所長：伊川　政文　　事務局長：多田　升二　　総務課長：一宮　一郎
第２課長：島巡　賢二　　第１係長：豊田大之介
研究員：井内　哲也　　研究補助員：園木　裕美

Ⅱ　遺跡の立地と環境

１．地理的環境

延命遺跡の位置する徳島平野は、北の讃岐山脈、南の四国山地に挟まれ、東西約80㎞、南北の最大幅約16㎞の細長い楔形をした平野である。この徳島平野を形づくったのが徳島県を東西に貫く吉野川である。吉野川は、愛媛県と高知県の境、瓶ヶ森周辺を水源地帯として四国山地を縫うように流れ、徳島県西部の三好市池田から流れを東へと変え、徳島平野を貫流し、徳島県東部の徳島市で紀伊水道へと流れ込んでいる。その長さは194㎞、流域面積3,750㎢の四国一の大河である。吉野川によって１万年以上にわたって運ばれ、徳島平野に堆積した堆積物の厚さは、ボーリング資料によれば200ｍを越える。

この徳島平野の北、讃岐山脈の南麓を中央構造線が通っている。中央構造線北側の外帯に当たる讃岐山脈の地質は和泉層群からなり、砂岩と泥岩が多い。このような地質の讃岐山脈南斜面には、中小河川によって扇状地が形成されている。特に、徳島平野中部の吉野川北岸には、多くの扇状地が発達しているため、吉野川が平野の南へと押し出されている。一方、徳島平野の東部は、吉野川北岸に扇状地の発達はみられず、南岸に鮎喰川の三角州性扇状地が発達している。この鮎喰川扇状地が北へと大きく押し出したため、吉野川は徳島平野の東部では北へと迂回し、現在の旧吉野川の流れを主流としていた。

延命遺跡はこの鮎喰川扇状地にある。鮎喰川は、吉野川の支流で、名西郡神山町奥屋敷を源流とし、四国山地を縦断して徳島市不動東町で吉野川に合流する延長43.0㎞、流域面積約270㎢の河川である。四国山地は、中央構造線の南側の内帯に位置する。内帯の地質構造は、北から三波川帯、御荷鉾帯、秩父帯、四万十帯からなる。そのうち、鮎喰川は御荷鉾構造線などの破砕帯を通過しており、地滑りや山腹崩壊が多発する地域を流れていることから、岩屑供給が盛んで下流まで礫床河川となっている。下流域では、延命付近と通称「僧都の鼻（馬の鼻）」と呼ばれる地点を扇頂として、三角州性扇状地を形成する。扇端は、石井町利包－桜間－東高輪－不動西町－不動東町－春日－北田宮－南田宮－佐古を結ぶラインからなり、半径６㎞におよぶ。扇頂部の延命付近は標高15ｍ、先端部の井戸付近では５ｍを測り、平均勾配0.9／1000の緩傾斜扇状地である。この扇状地は、鮎喰川が紀伊水道に直接流れ込んでいた縄文海進以降に形成されたもので、徳島市の佐古川・田宮川もかつての鮎喰川の分流と考えられている。このように徳島平野の東部は、吉野川だけでなく、鮎喰川の沖積作用も大きく受けて形成された平野である。

この鮎喰川扇状地の地形を少し詳しくみてみると、沖積Ⅰ・Ⅱ面に分けられる。それぞれの地形面には、旧河道や微高地、氾濫低地などの微地形が発達している。特に鮎喰川左岸一帯は沖積Ⅰ面で、その旧河道は、現在でも地割りや用水路に利用され、凹地の地形などにも表れている。この沖積Ⅰ面の微高地は弥生時代には地形形成を終えて安定化していたので、多数の弥生時代の遺構や遺物が発見されている。また、古代の阿波国府推定地や阿波国分寺・阿波国分尼寺跡なども残されている。一方、沖積Ⅱ面は、田宮川以北を中心に現鮎喰川沿いにも一部みられる。延命遺跡の水田面のうち、現鮎喰川に近い南部では、８世紀、９世紀、13世紀に洪水に遭っている。これは、近世初頭の「蓬庵堤」などの築堤により鮎喰川が現河道で安定するまで、沖積Ⅱ面が氾濫原であったこととも合致する。

参考文献

「徳島の地理」寺戸恒夫編著　徳島地理学会　1995年
「吉野川事典」（財）とくしま地域政策研究所編農文協　1999年

「徳島県鮎喰川流域における扇状地の形成過程について」古田昇『徳島地理学会論文集３』1999年
「地理学からみた観音寺遺跡周辺の地形環境の変化」古田昇　徳島県埋蔵文化財センター報告集第40集『観音寺遺跡Ⅰ（木簡篇）」2002年

２．歴史的環境

延命遺跡の所在する鮎喰川扇状地の左岸とその周辺は、徳島県下有数の遺跡の密集地である。この地域を中心に、年代ごとに各遺跡を整理してみる。なお年代によっては取り上げる遺跡の範囲を広げてふれることにする。

旧石器時代

徳島市全体を通して遺跡はほとんど知られていない。鮎喰川右岸の名東遺跡の弥生時代竪穴住居の埋土内からサヌカイト製の国府型ナイフ形石器が１点出土している（注１）。

縄文時代

縄文時代は後期が中心で、中期までの遺跡は非常に少ない。後期の遺跡で最も注目されるのは矢野遺跡である。竪穴式住居跡や中津式～縁帯文成立期の各種土器が多量に出土している。特に、朱によって塗彩された土器や水銀朱の精製用石器・土製仮面・線刻絵画土器などの特殊な遺物も出土している（注２）。

晩期の遺跡は、矢野遺跡に隣接する観音寺遺跡で少量遺物が出土しているほか、鮎喰川右岸の名東遺跡、庄遺跡、三谷遺跡などにもみられる。

弥生時代

矢野遺跡は県下最大級の弥生時代の遺跡で、中期後葉から後期にかけて、微高地上の南北約600ｍに範囲に、集落が広がっている（観音寺遺跡南半を含む）。後期後半には、その集落の規模がピークとなり、住居密集部の中央に突線鈕式銅鐸が埋納された。他にも蛇紋岩製勾玉の生産工房、朱の付着した土器や石杵も見つかっている。弥生時代中期末から後期初頭にかけての鍛冶遺構が検出されている（注３）。延命遺跡の墓と水田はこの矢野遺跡の集落に近接している。観音寺遺跡の北半では、後期から矢野遺跡とは別の集落の広がりがある。

鮎喰川流域は青銅器が数多く出土している。矢野遺跡の他に、延命遺跡の南西数百メートルにある源田遺跡では、銅鐸３口と中広形銅剣１振が出土している。また、鮎喰川右岸では名東遺跡から銅鐸１口、安都真遺跡からは銅鐸４口、また上流の神山では銅剣４振が出土している（注４）。

古墳時代

鮎喰川扇状地の西に位置する気延山には、総数200基ともいわれる県下最大規模の古墳群がある。

前期の代表的な古墳としては、宮谷古墳と奥谷１号墳があげられる。３世紀後半の宮谷古墳は全長37.5ｍの前方後円墳である。後円部に竪穴式石室があり、三角縁神獣鏡などが出土している。４世紀後半の奥谷１号墳は全長50ｍの県内唯一の前方後方墳で、墳丘上に埴輪列が確認されている（注５）。

中期の古墳は実態が明らかにされていないが、「阿波式石棺」と呼ばれた板石を用いた組合式の石棺がいくつか築かれている。

後期には17基からなるひびき岩古墳群があり、横穴式石室の円墳数基が調査されている。矢野古墳は結晶片岩の巨石を用いた横穴式石室が築かれている（注６）。

また、敷地遺跡からは、中期末と後期後半の竪穴住居数十棟が見つかっている。

古代

阿波国府については、『倭名類聚抄』の記述や「国府」「府中」その他の地名から現在の徳島市国府町に置かれていたとの推定がなされてきたが、その推定については、歴史地理的な観点によるものであった。これまでいくつかの説が提唱されるごとに国府推定地も変動した経緯があり、これらについては「考古学から見た阿波国府研究の現状」（『徳島県埋蔵文化財センター報告書第40集　観音寺遺跡Ⅰ（観音寺遺跡木簡篇）』所収）にて詳述している。国府推定地の第16番札所観音寺から約1.5㎞南に阿波国分寺跡また西へ約700ｍのところに阿波国分尼寺跡が所在する。また、矢野遺跡からは古代の条理に沿った阿波国分寺跡に通じる道路遺構がみつかっている。

また、国府関連の観音寺遺跡と北に隣接する敷地遺跡を合わせると200点以上にもおよぶ木簡と、各種の膨大な木製品が出土している。その中には、国府設置以前の７世紀前半から中頃の木製祭祀具や木簡も出土しており、特に「論語」の習書木簡は全国的にも最古級のものに属する。これらの遺物から、阿波国府の成立前から、この地域に継続的な遺跡があったことを物語っている。７世紀後半では、「五十戸税」など律令制に関わる用語や物産名・地名を記した木簡がみられる。また同じ年代の堆積層からは『古今和歌集』の「難波津の歌」の習書木簡も見つかっている。８世紀中頃のものとしては勘籍木簡も出土しており、国府の存在を裏付けている。木簡以外にも、７世紀中頃から10世紀にかけての斎串・人形などの木製祭祀具や、農耕具・容器・紡織具などの木製品が多数出土している（注７）。

敷地遺跡では、８世紀前半から９世紀前半にかけての国司館跡が検出されている。矢野遺跡からは８世紀後半から９世紀初頭の規格性の高い掘立柱建物のまとまりが検出されており、国府推定地域の南縁に当たることから国衙との関連性がうかがえる。

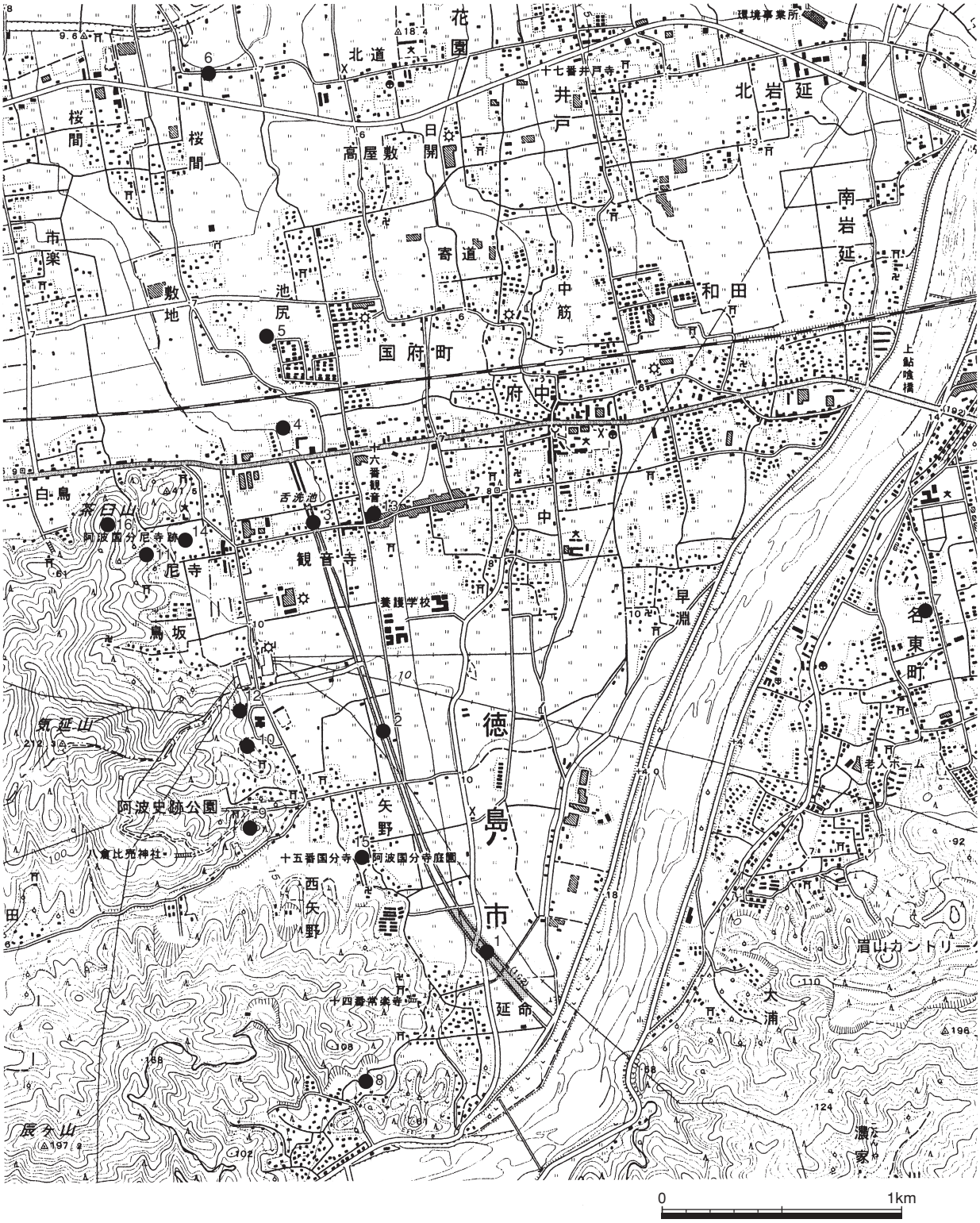
古代の水田跡は、延命遺跡の他、矢野遺跡・観音寺遺跡・敷地遺跡・池尻桜間遺跡などでも検出されている。また、鮎喰川扇状地上には条里地割りが広く残っている。検出された水田遺構との関係が確認されつつある。

中世

この時代の遺構は少なく、観音寺遺跡で15世紀前半とみられる掘立柱建物が７棟以上、土壙墓が40基以上見つかっている。しかし、数十ｍ四方の狭い範囲のみに限られ、遺構の広がりはみられない。
この時期になると水田の整備が進み、検出された水田跡の一区画の面積は徐々に広くなっている。

国府周辺には、鎌倉時代に守護の佐々木氏の鳥坂城がつくられる。佐々木氏は、承久の乱で上皇方についたため鳥坂城も落城したとされている。その後守護になった小笠原氏の一族一宮氏が、南北朝の争乱期に鮎喰川右岸上流に一宮城を築き、居城とした。長宗我部氏の阿波侵攻後は、その家臣が治めていた。豊臣秀吉の四国平定後は、蜂須賀氏が一時ここを居城とした。

（注１）（財）徳島県埋蔵文化財センター　1995 『名東遺跡　建設省名東町宿舎建設に伴う発掘調査』
（注２）（財）徳島県埋蔵文化財センター　2003 『矢野遺跡Ⅱ　一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』
（注３）（財）徳島県埋蔵文化財センターほか　2002 『一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査　矢野遺跡Ⅰ』
（注４）菅原康夫　1988 『日本の古代遺跡37徳島』保育社
（注５）三宅良明　2002 「宮谷古墳・奥谷１号墳の墳丘構造について」『論集徳島の考古学』
（注６）天羽利夫　1973 「徳島県における横穴式石室の一様相」『徳島県博物館紀要４』
（注７）（財）徳島県埋蔵文化財センターほか　2002 『一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査　観音寺遺跡Ⅰ（観音寺遺跡木簡篇）』
（財）徳島県埋蔵文化財センターほか　2006 『一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査　観音寺遺跡Ⅱ（木器篇）』



1	延命遺跡	5	敷地遺跡	9	宮谷古墳	13	阿波国府国衙推定地
2	矢野遺跡	6	池尻桜間遺跡	10	奥谷１号墳	14	阿波国分尼寺跡
3	観音寺遺跡〔南環状道路〕	7	名東遺跡	11	ひびき岩古墳群	15	阿波国分寺跡
4	観音寺遺跡〔西環状線〕	8	源田遺跡	12	矢野古墳	16	鳥坂城

第６図　周辺の遺跡

Ⅲ　調　査　成　果

１．基本層序

延命遺跡の調査対象範囲は北西－南東に設定され、延長500m 弱にも及ぶ。南東には鮎喰川が北流しており、南東から北西へと緩やかに傾斜している。現地表面の標高では、最南端の調査区（99－3区）がＬ＝13m前後であるのに、最北端の調査区（96－1区）ではＬ＝12m前後となる。標高の数字だけを取り上げると非常に緩やかな傾斜であるような印象を受けるが、地表面に表れない微高地や河道、あるいは現地表面にも何らかの形で継承される遺構などにより遺構面のレベルはさまざまに変動しており、またその堆積状況は複雑である。

延命遺跡は大きく二つの様相からなっている。その北側の一部の区域は、大きくみて弥生時代および平安時代を中心とする古代の２時代の集落が遺構面を形成しており、これらの遺構面はともに矢野遺跡から継続するものである。南の大部分は集落の縁辺部にあたり、水田域として開発される区域である。

２．遺構配置

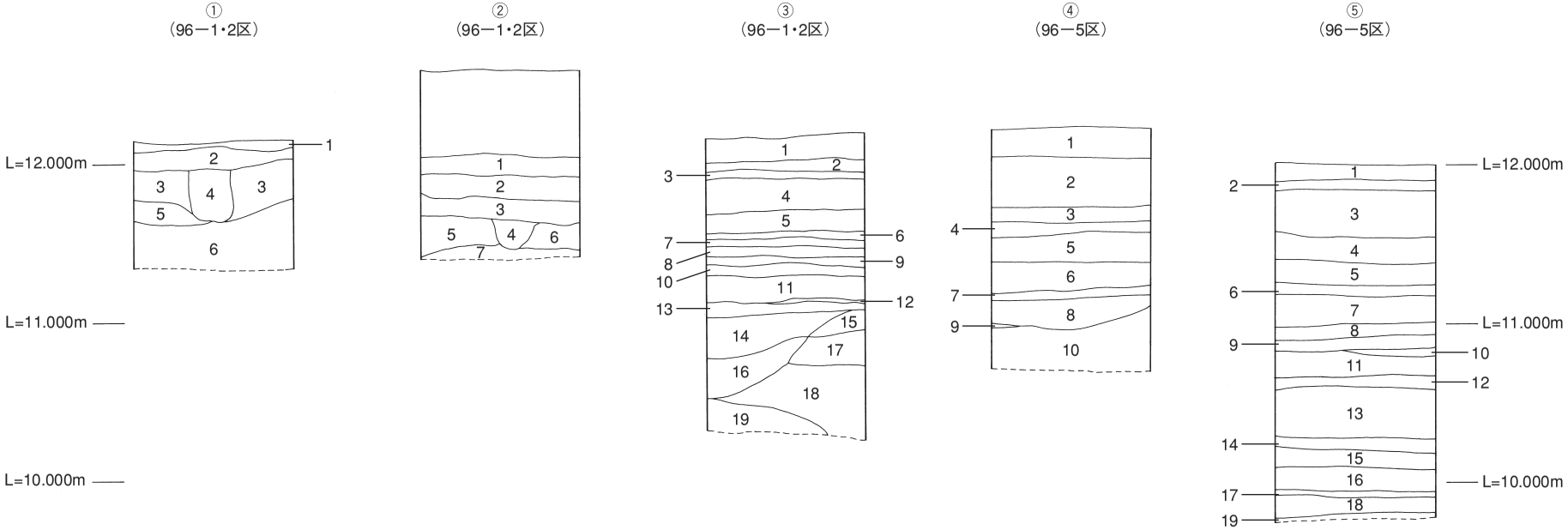
延命遺跡は、鮎喰川の扇状地に立地する。北側には矢野遺跡・観音寺遺跡などがあり、延命遺跡は鮎喰川に最も近い位置にある。延命遺跡における遺構面は、北側に隣接する矢野遺跡の竪穴住居などの遺構が多い弥生時代後期の第２遺構面と対応する形で、第２遺構面においても多くの遺構が検出されている。

弥生時代の遺構は、多くが96－1・2区に集中しており、第２遺構面～第４遺構面が弥生時代の遺構面である。特に遺構が集中するのは第２遺構面であり、矢野遺跡のような竪穴住居は２棟しか検出されていない、集石墓・土器棺墓・土壙墓が目立つことから、北側は矢野遺跡から連続して形成されていた集落が、この調査区内北側まで拡がる。南側は墓域としていたことがわかる。96－1・2区より東側や南側の調査区は、古代～中世の遺構面であるため、弥生時代この調査区は、微高地であっただろう。

96－1・2区の南端は、第４遺構面からは、遺構が確認されているが、第１遺構面のほか、第２遺構面にあったSU2002付近を境に遺構は確認できない。また、SU2002は、後世の撹乱が影響しており、これより南側は弥生時代の遺構面でない可能性が高い。第３遺構面になると、SD3001を境に遺構が水田面へと変化する。出土する遺物は、弥生時代後期のものであるが、調査区の南側より鮎喰川にかけて、古代～中世の水田面がみられるため、ここを境に南側の調査区は、古代～中世の頃に弥生時代の遺構を開墾し水田面を形成した可能性がある。

古代の遺構面は、97－1区の第１遺構面に集中しており、主に掘立柱建物や溝などの遺構が多く見られる。この調査区も弥生時代同様に集落域だったのではないかと考えられる。97－1区の第１遺構面は、SD1004を境に南側は第１遺構面に水田面が形成されている。出土遺物は主として古代のものであるが、それより南側の鮎喰川にかけて位置する調査区が、第１遺構面～第４遺構面まで存在し、そのすべてが古代～中世にかけての水田面である。また、96－1・2区の第１遺構面は、出土した遺物のほとんどが、弥生時代の遺物であるが、隣接する97－1区の第１遺構面が古代あることから古代以降の遺構面であると考えられる。

水田面の遺構配置として、96－3区・96－5区以外の全遺構面に水田面が確認できる。特に、98年度や99年度の調査では、調査区全域がすべて水田面に関係する遺構である。水田に伴う出土遺物が少ないた



①

1	2.5Y4/2	暗灰黄色(耕作土)	
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
3	10YR3/2	黒褐色	砂質土
4	10YR3/3	暗褐色	砂質土
5	10YR3/3	暗褐色	砂質土
6	7.5GY5/1	緑灰色	砂礫土

②

1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
4	10YR3/3	暗褐色	砂質土
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
6	10YR3/3	暗褐色	砂質土
7	7.5GY5/1	緑灰色	砂礫土

③

1	2.5Y4/2	暗灰黄色(耕作土)	
2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
3	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
5	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
6	10YR5/4	にぶい黄橙色	砂質土
7	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
8	10YR4/4	褐色	砂質土
9	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
10	10YR4/4	褐色	砂質土
11	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
12	10YR3/4	暗褐色	砂質土
13	10YR4/4	褐色	砂質土
14	10YR3/4	暗褐色	砂質土
15	10YR4/4	褐色	砂質土
16	10YR4/4	褐色	砂質土
17	10YR3/4	暗褐色	砂質土
18	10YR4/4	褐色	シルト
19	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂

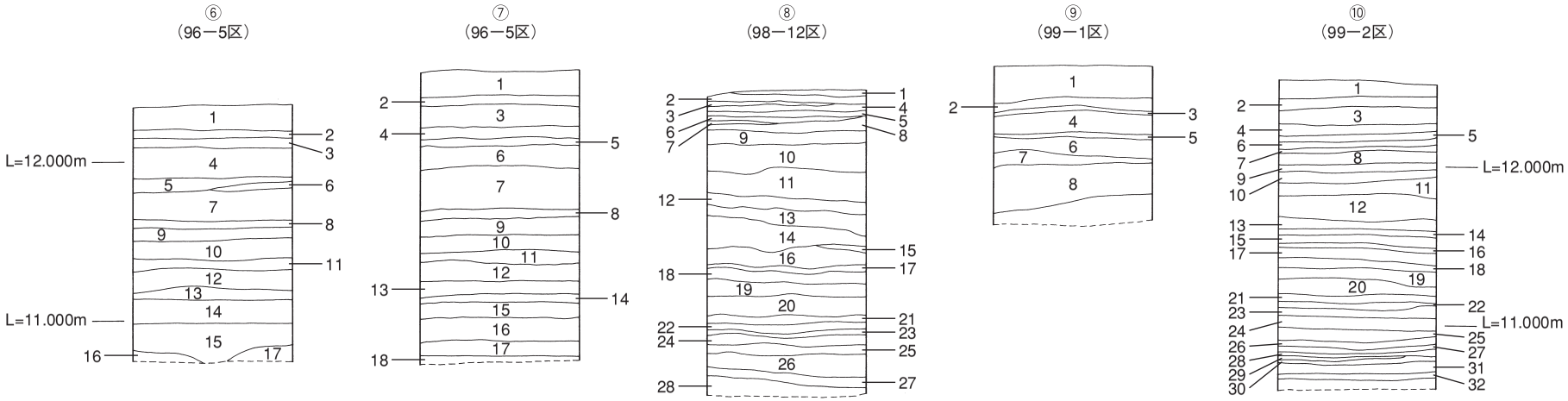
④

1	2.5Y6/2	灰黄色	シルト(耕作土)
2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト(耕作土)
3	10YR6/3	にぶい黄褐色	シルト
4	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト
5	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
7	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
8	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト
9	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
10	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土

⑤

1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト(耕作土)
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
3	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト
4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
5	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
7	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
8	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
9	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト(洪水砂層)
10	10YR4/2	灰黄褐色	シルト(洪水砂層)
11	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
12	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
13	2.5Y6/3	にぶい黄色	粘質土
14	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
15	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
16	10YR4/3	オリーブ褐色	シルト
17	10YR4/4	褐色	砂質土
18	5Y5/1	灰色	砂質土
19	7.5Y5/1	灰色	砂質土

第７図　調査地点の土層柱状図(1)



⑥

1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（耕作土）
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
4	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
5	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
6	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
7	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土
8	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
9	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
10	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
11	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
12	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
13	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
14	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
15	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
16	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
17	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土

1m
0

⑦

1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（耕作土）
2	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
3	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト
4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
5	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
7	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト
8	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
9	10YR6/2	灰黄褐色	シルト
10	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土
11	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
12	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
13	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
14	10YR4/6	褐色	シルト
15	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
16	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト
17	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
18	7.5YR5/6	明褐色	砂質土

⑧

1	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土
4	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
5	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘質土
7	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘質土
8	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
9	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土
10	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂
11	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
12	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
13	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
14	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
15	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
16	2.5Y6/2	灰黄色	粘質土
17	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土
18	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘質土
19	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
20	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土
21	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
22	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
23	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
24	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
25	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
26	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘質土
27	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土
28	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土

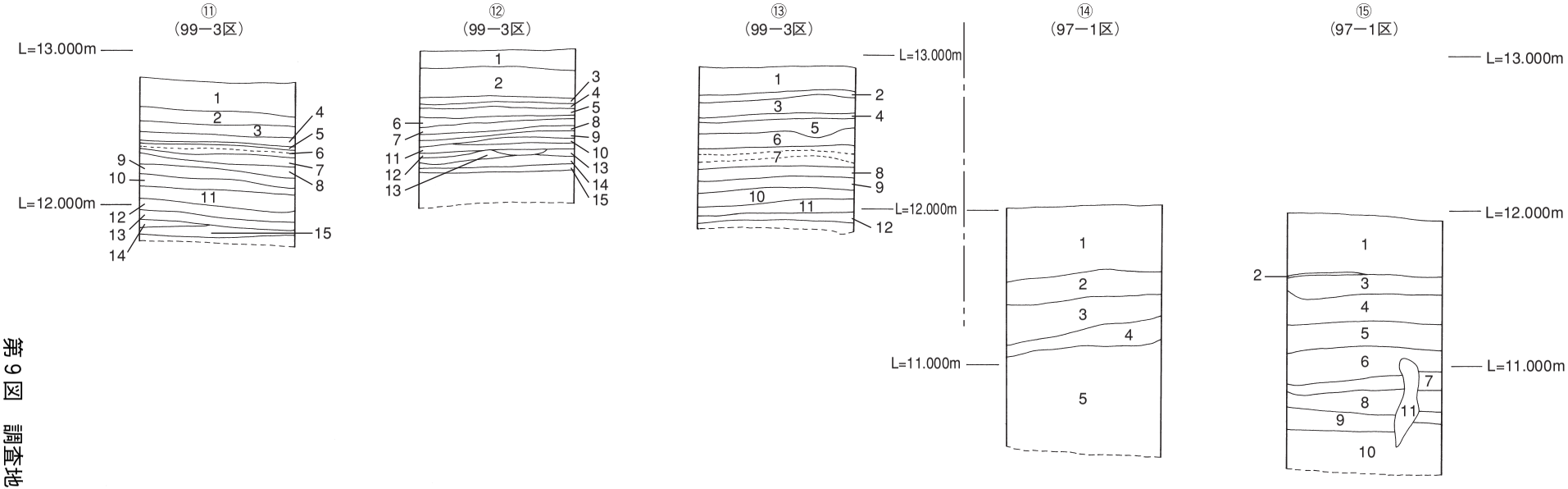
⑨

1	盛土		
2	5Y4/2	灰オリーブ色	シルト（耕作土）
3	10YR5/6	黄褐色	シルト
4	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
5	10YR5/6	黄褐色	シルト
6	2.5Y5/3	黄褐色	砂（シルトまじり）
7	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト（細砂まじり）
8	2.5Y5/4	黄褐色	シルト（粗砂、細砂半々でまじり）

⑩

1	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト（耕作土）
2	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト
3	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
4	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト
5	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
7	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
8	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト
9	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト
10	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト
11	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト（細砂まじり）
12	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
13	10YR5/2	灰黄褐色	シルト（細砂まじり）
14	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
15	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
16	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
17	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
18	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
19	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
20	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
21	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
22	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
23	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト（細砂まじり）
24	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト（細砂まじり）
25	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
26	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
27	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト（細砂まじり）
28	2.5Y5/3	黄褐色	シルト（細砂まじり）
29	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト（細砂まじり）
30	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト（細砂まじり）
31	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂（シルトまじり）
32	10YR5/6	黄褐色	シルト（細砂まじり）

第８図　調査地点の土層柱状図(2)



⑪

1	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土(耕作土)
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
4	耕作土		
5	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
6	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
7	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト
8	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
9	2.5Y5/4	黄褐色	シルト(細砂まじり)
10	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト
11	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
12	2.5Y5/3	黄褐色	シルト(細砂まじり)
13	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
14	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト

⑫

1	盛土		
2	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土(耕作土)
3	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
4	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
5	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
6	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
7	耕作土		
8	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト
9	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
10	2.5Y5/4	黄褐色	シルト(細砂まじり)
11	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
12	2.5Y5/3	黄褐色	シルト(細砂まじり)
13	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
14	2.5Y5/3	黄褐色	シルト(細砂まじり)
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト

⑬

1	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土(耕作土)
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
3	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
4	2.5Y5/3	黄褐色	シルト
5	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
6	2.5Y5/3	黄褐色	シルト(細砂まじり)
7	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
8	2.5Y5/3	黄褐色	シルト(細砂まじり)
9	2.5Y5/4	黄褐色	シルト(細砂まじり)
10	10YR4/4	褐色	シルト
11	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂(シルトまじり)

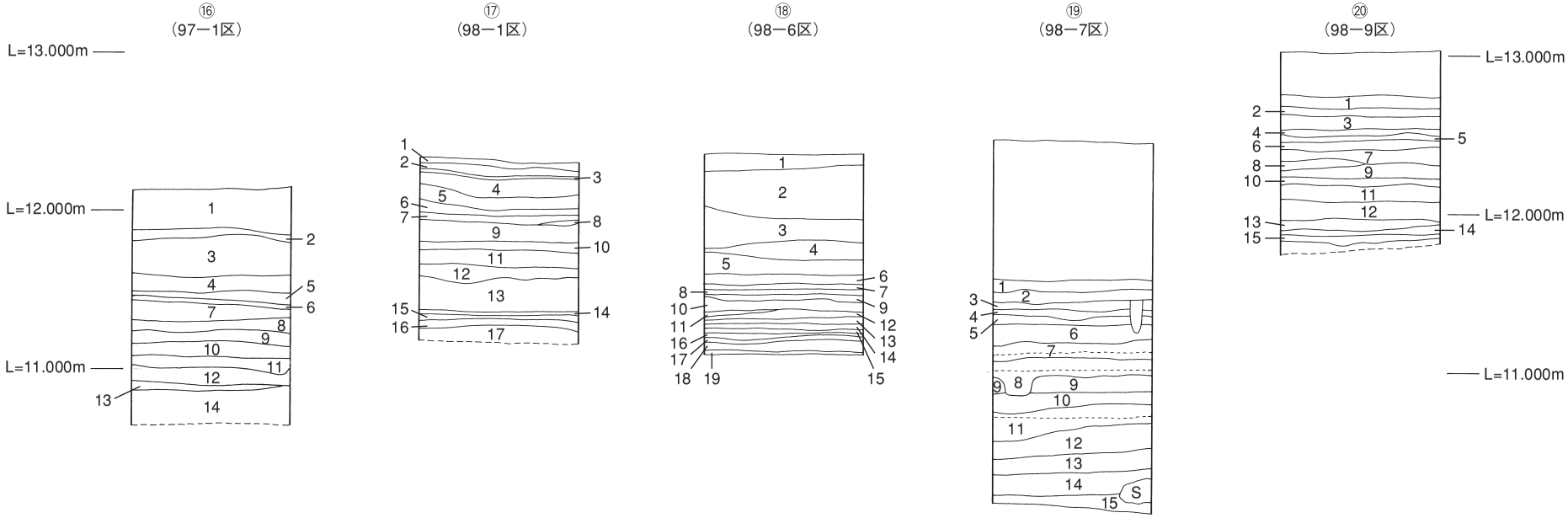
⑭

1	表土(耕作土)		
2	5Y6/1	灰色	砂質土
3	10YR3/4	暗褐色	砂質土
4	10YR3/3	暗褐色	砂質土
5	10YR4/4	褐色	砂礫

⑮

1	表土(耕作土)		
2	10YR4/6	褐色	砂質土
3	10YR4/4	褐色	砂質土
4	5Y6/1	灰色	砂質土
5	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
6	5Y6/1	灰色	砂質土
7	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
8	10YR3/4	暗褐色	砂質土
9	10YR3/4	暗褐色	砂質土
10	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土

第9図　調査地点の土層柱状図(3)



⑯

1	表土(耕作土)		
2	5Y5/2	灰オリーブ色	
3	5Y4/1	灰色	
4	5Y5/3	灰オリーブ色	
5	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
6	2.5Y5/4	黄褐色	
7	2.5Y5/4	黄褐色	
8	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
9	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
10	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土
11	5Y4/1	灰色	砂質土
12	5Y5/1	灰色	砂質土
13	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
14	5Y5/1	灰色	砂質土

⑰

1	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土
3	2.5Y6/2	灰黄色	粘質土
4	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
5	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
6	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
7	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土
8	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
9	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
10	2.5Y6/2	灰黄色	粘質土
11	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
12	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
13	2.5Y6/2	灰黄色	粘質土
14	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
15	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
16	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土
17	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土

⑱

1	盛土		
2	7.5Y5/2	オリーブ灰色	粘質土
3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂
5	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土
7	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘質土
8	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土
9	10YR5/6	黄褐色	粘質土
10	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘質土
11	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘質土
12	2.5Y5/6	黄褐色	粘質土
13	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
14	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘質土
15	2.5Y5/6	黄褐色	粘質土
16	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
17	10YR5/6	黄褐色	粘質土(砂まじり)
18	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土(砂まじり)
19	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘質土

⑲

1	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質土
2	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質土
3	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土
4	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土
5	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土
6	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土
7	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質土
8	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質土
9	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
10	5Y6/1	灰色	砂質土
11	5Y6/1	灰色	砂質土
12	5Y6/1	灰色	砂質土
13	2.5Y5/4	黄褐色	砂
14	2.5Y5/3	黄褐色	砂
15	2.5Y5/6	黄褐色	砂

⑳

1	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
2	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
3	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
4	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
5	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
6	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
7	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
8	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
9	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
10	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
11	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
12	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
13	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
14	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
15	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土

1m
0

第10図　調査地点の土層柱状図(4)

め、全遺構面から時代を特定することは難しい。しかし、近年の隣接地点の発掘調査によって、水田面が中世頃の水田面であることが確認されていることもあり、ある遺構面は中世面ではないかと考えられる。96年度～99年度の調査区にある水田面を遺構面ごとにおっていく、96－3区・96－4区では、水田面も含めて遺構面を確認できなかった。

水田面が検出された調査区は、第１遺構面は、97－1区・97－2区、98－1区～98－10区、99－1区～98－3区から水田面が検出された。第２遺構面は、96－5区、97－1区・2区、98－1区・98－3区・98－6区～98－8区・98－12区、99－1区～3区から水田面が検出している。96－5区は、隣接する97－2区には、水田面が確認できるにもかかわらず、水田面に伴うあぜを確認することが出来なかった。96－5区の南端の一部のみ、株痕や鋤跡といった水田に伴う遺構が確認できるが、97－2区のような明瞭な畔のラインは、確認できない。第３遺構面は、96－1・2区の南側、96－5区、97－2区、98－3区、98－6区、98－7区、98－12区、99－1区～98－3区が水田面の検出されている。96－5区と97－2区は、隣接しているが、97－2区からは、水田面の形成が確認できるのに対して、対応するレベルでは、96－5区からは、97－2区につながる畦畔が確認できない。それより南に位置する98年度、99年度に行われた調査区は、すべて水田が検出されている。第４遺構面は、98－6区・98－12区、99－3区から水田面が検出されている。99－2区からも遺構面が検出されているが、水田面は確認できない。

調査年度によって、同じ遺構面であっても水田面の伴う畔の形状が異なることもある。また、遺構面のみならず水田面の形成も見られない調査区は、鮎喰川の氾濫によるものである可能性が高い。特に、96－3区・96－5区付近は、遺構が検出されない状況にあったと考えてよいのではないだろうか。96－1・2区や97－1区の遺構の集中の付近から水田面に変化する状況においても、弥生や古代の遺構面の後に水田面を形成し可能性が高いであろう。

（１）第１遺構面

掘立柱建物

１号掘立柱建物（SA1001）（第11図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－13グリッド

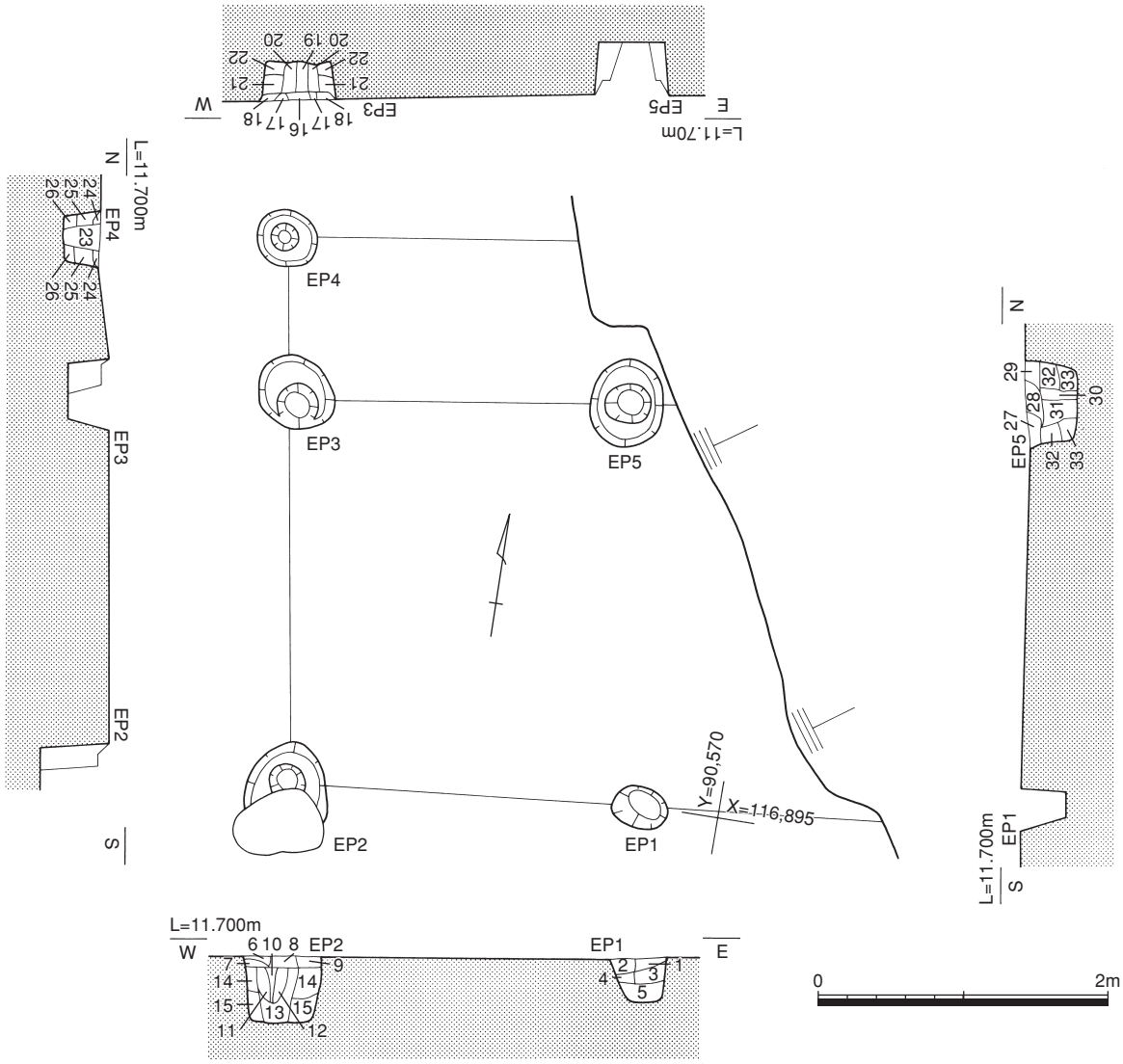
形態・規模　梁間１間、桁間２間以上を測る側柱建物である。北側に庇が伴う。建物主軸は東西方向を指向する。柱間の距離は、梁間2.4m、桁間2.6m、庇部梁間1.15mを測り、さらに調査区外東に続く。

土層　柱穴は円形を呈する。EP２・３・４・５において柱抜き取り跡が検出された。根石は伴わない。EP１は灰オリーブ色砂質土、EP２は灰色砂質土、EP４は褐色砂質土、EP５は灰黄色砂質土が主な覆土となる。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物は出土していない。

時期　古代以降と推定される。



1	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	12	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	23	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
2	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	13	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	24	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
3	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土	14	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	25	10YR4/4	褐色	砂質土
4	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	15	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	26	10YR4/6	褐色	砂質土
5	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	16	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	27	5Y5/4	オリーブ色	砂質土
6	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	17	5Y6/2	灰オリーブ色		28	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
7	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	18	5Y5/3	灰オリーブ色		29	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
8	5Y5/1	灰色	砂質土	19	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	30	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
9	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	20	5Y6/1	灰色	砂質土	31	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
10	5Y6/1	灰色	砂質土	21	10YR4/4	褐色	砂質土	32	10YR3/4	暗褐色	砂質土
11	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	22	10YR4/4	褐色	砂質土	33	10YR4/4	褐色	砂質土

第11図　SA1001遺構平・断面図

２号掘立柱建物（SA1002）（第12図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－11グリッド

形態・規模　残存範囲がＬ字状を呈する掘立柱建物としたが、２棟の建物となる可能性がある。総柱部分は梁間２間（4.0m）、桁行３間（7.4m）を測る。床面積は29.6㎡を測る。建物主軸は、N－9°－Wである。柱間の距離は、梁間3.9m、桁間2.26m測る。側柱部分は総柱建物北側に付随し、梁間１間(4.4m)、桁間３間（6.0m）を測る。床面積は26.4㎡を測る。柱間の距離は、梁間4.4m、桁行間2.0mを測る。

土層　総柱部分の柱穴は方形を呈する。一方、側柱部分の柱穴は円形を呈する。各柱穴において柱抜き取り跡は検出されたが、根石は伴わない。EP１は灰黄色砂質土・オリーブ褐色砂質土、EP２は灰黄色砂質土、EP３は褐色砂質土、EP４は灰オリーブ色砂質土、EP５はオリーブ褐色砂質土、EP６は黄灰色砂質土、EP７は灰色砂質土、EP８は灰黄色砂質土、EP９は暗灰黄色砂質土、EP10はにぶい黄色砂質土、EP11は黄褐色砂質土、EP13は黄灰色砂質土、EP14はにぶい黄色砂質土、EP15は褐色砂質土、EP16は黄褐色砂質土が主体となる。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　１は土師器の甕である。２・３は土師器の杯である。４は黒色土器の椀である。

時期　古代と推定される。

３号掘立柱建物（SA1003）（第14図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－15グリッド

形態・規模　梁間１間（4.2m）、桁行４間（8.1m）を測る側柱建物である。東側に庇が伴う。床面積は34.02㎡を測る。建物主軸は、N－13°－Ｗである。柱間の距離は、梁間4.2m、桁間2.7m、庇部梁間2.6mを測る。

土層　建物部と庇部の柱穴は共に円形を呈する。一部（EP４）に隅丸方形が認められる。各柱穴において柱抜き取り跡は検出されたが、根石は伴わない。EP１は黄褐色砂質土、EP２は暗オリーブ色砂質土、EP３は暗褐色砂質土、EP４は黄灰色砂質土、EP５はにぶい黄褐色砂質土、EP６は灰オリーブ色砂質土、EP７は灰黄色砂質土、EP８はにぶい黄色砂質土、EP９は灰黄色砂質土、EP10は灰オリーブ色砂質土が主体となる。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物は出土していない。

時期　古代以降と推定される。

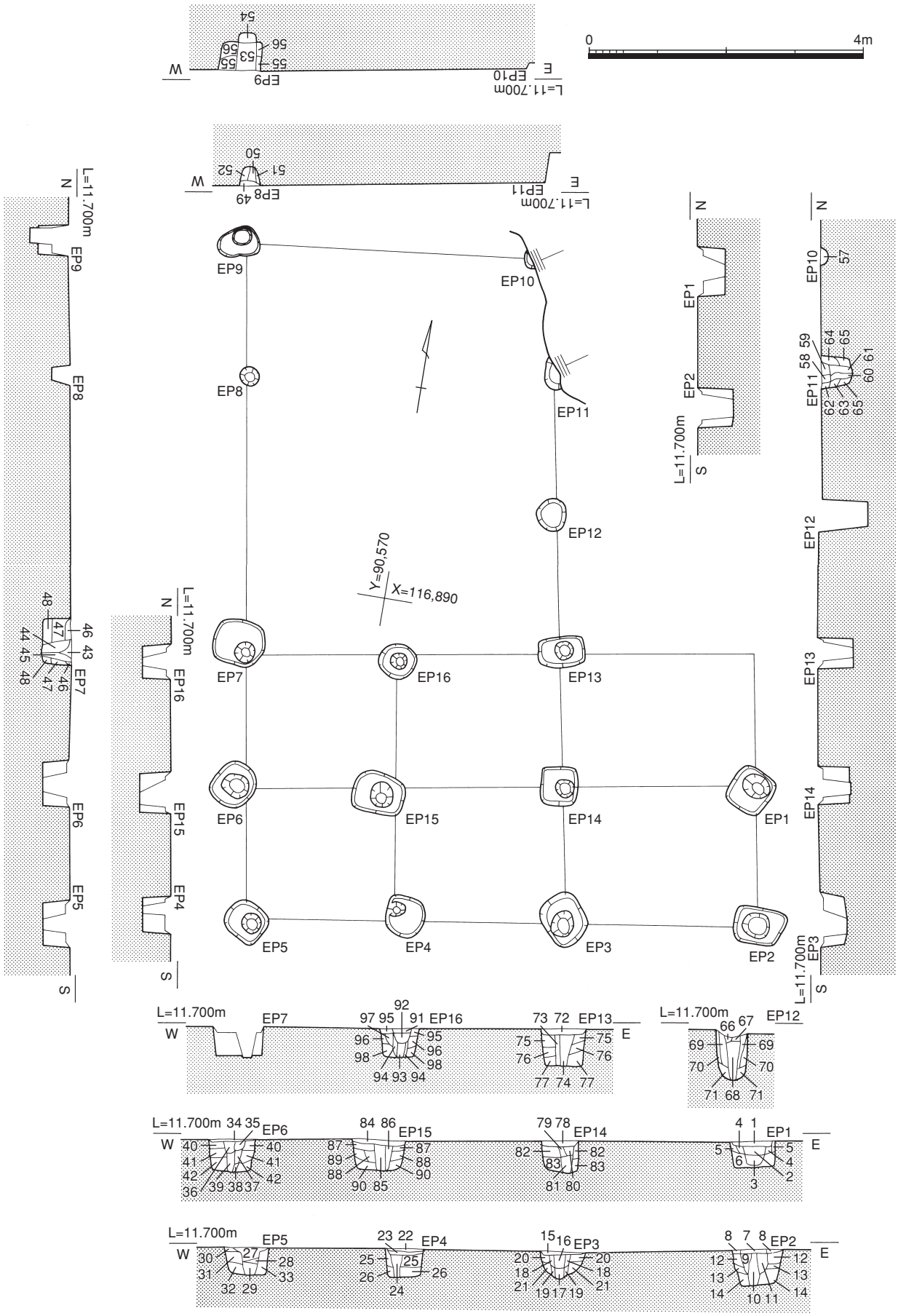
４号掘立柱建物（SA1004）（第15～17図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－15グリッド

形態・規模　梁間４間（9.0m）、桁行４間（9.4m）を測る総柱建物である。床面積は84.6㎡を測る。建物主軸は、N－10°－Ｗである。柱間の距離は、梁間で2.1m、桁間2.3mを測る。

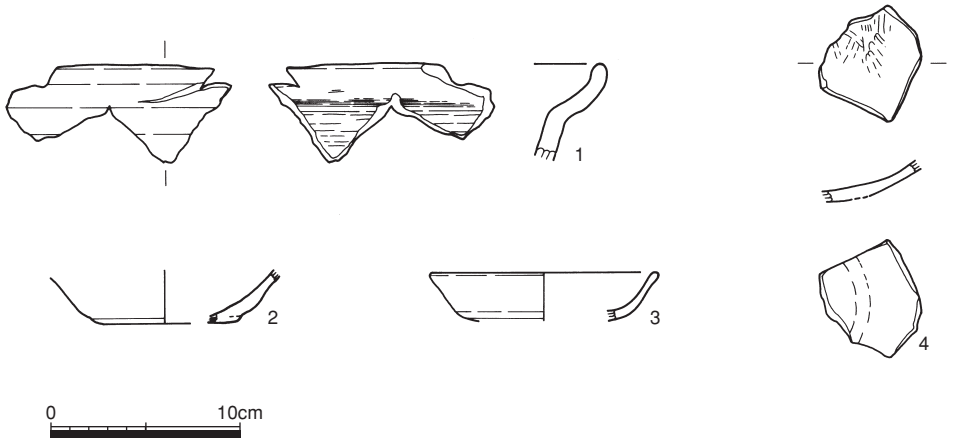
土層　柱穴は円形を呈する。各柱穴において柱抜き取り跡は検出されたが、根石は伴わない。EP１は黄褐色砂質土、EP２は褐色砂質土、EP３は褐色砂質土、EP４はにぶい黄色砂質土、EP５はオリーブ褐色砂質土、EP６はオリーブ褐色砂質土、EP７はにぶい黄色砂質土、EP８は黄灰色砂質土、EP９は灰黄色砂質土、EP10は暗褐色砂質土、EP11は黄褐色砂質土、EP12は褐色砂質土、EP13は灰色砂質土、EP14は灰色砂質土、EP15はにぶい黄色砂質土、EP16は暗灰色砂質土、EP17は黄褐色砂質土、EP18は灰オリーブ色砂質土が主体となる。

遺物出土状況　EP５内より弥生土器壺１と陶器小壺２が出土した。弥生土器壺１は流れ込みである。EP８内より土師質土器羽釜３が出土した。EP９内より土師質土器皿４・５が出土した。共に柱抜き取り跡下層より出土している。EP15より土師質土器皿６と釘Ｔ１が出土した。皿６は柱埋土上面より出土している。

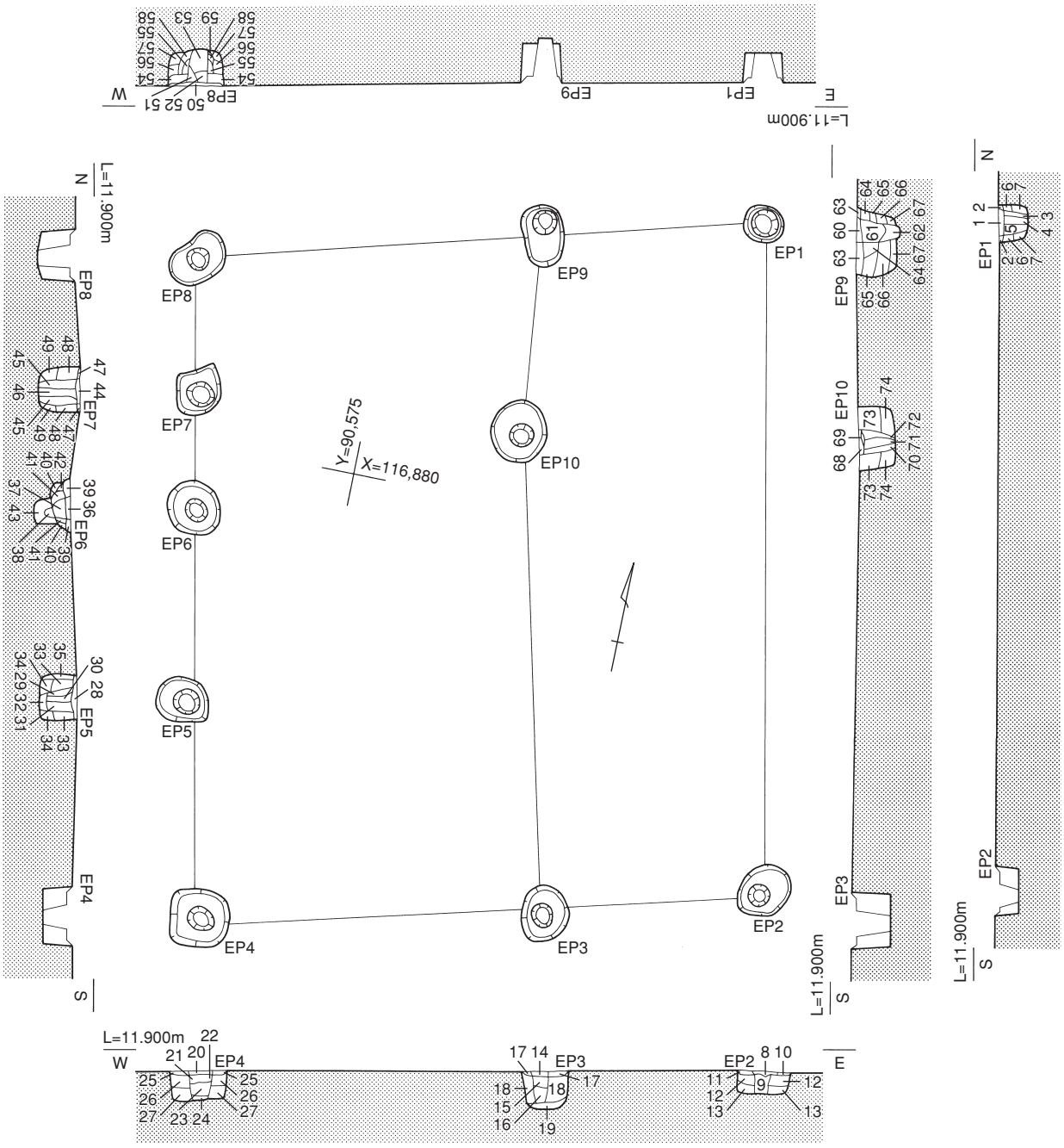


第12図　SA1002遺構平・断面図

1	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	26	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	51	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	76	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	27	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	52	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	77	5Y6/4	オリーブ黄色	砂質土
3	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	28	2.5Y5/4	黄褐色		53	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	78	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
4	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	29	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土	54	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	79	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土
5	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	30	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	55	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	80	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
6	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中砂	31	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	56	2.5Y5/6	黄褐色	砂質土	81	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
7	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	32	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	57	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	82	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
8	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	33	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	58	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	83	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土
9	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	34	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	59	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	84	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
10	2.5Y7/2	灰黄色	砂質土	35	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	60	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	85	10YR4/6	褐色	砂質土
11	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	36	10YR4/4	褐色	砂質土	61	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	86	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
12	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	37	10YR4/6	褐色	砂質土	62	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土	87	10YR5/6	黄褐色	砂質土
13	10YR4/6	褐色	砂質土	38	2.5Y5/6	黄褐色	砂質土	63	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	88	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
14	10YR3/4	暗褐色	砂質土	39	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	64	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	89	10YR3/4	暗褐色	砂質土
15	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	40	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	65	2.5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	90	10YR3/3	暗褐色	砂質土
16	10YR4/4	褐色	砂質土	41	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	66	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	91	5Y6/1	灰色	砂質土
17	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	42	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	67	5Y6/4	オリーブ黄色	砂質土	92	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
18	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	43	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	68	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	93	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
19	10YR6/3	にぶい黄橙色	砂質土	44	5Y6/1	灰色	砂質土	69	10YR4/4	褐色	砂質土	94	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
20	10YR6/2	灰黄褐色	砂質土	45	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	70	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	95	2.5Y5/6	黄褐色	
21	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	46	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土	71	10YR3/4	暗褐色	砂質土	96	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
22	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	47	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	72	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	97	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
23	5Y5/4	オリーブ色	砂質土	48	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	73	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	98	2.5Y5/6	黄褐色	砂質土
24	5Y6/4	オリーブ黄色	砂質土	49	5Y5/1	灰色	砂質土	74	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土				
25	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	50	2.5Y6/3	灰黄色	砂質土	75	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土				



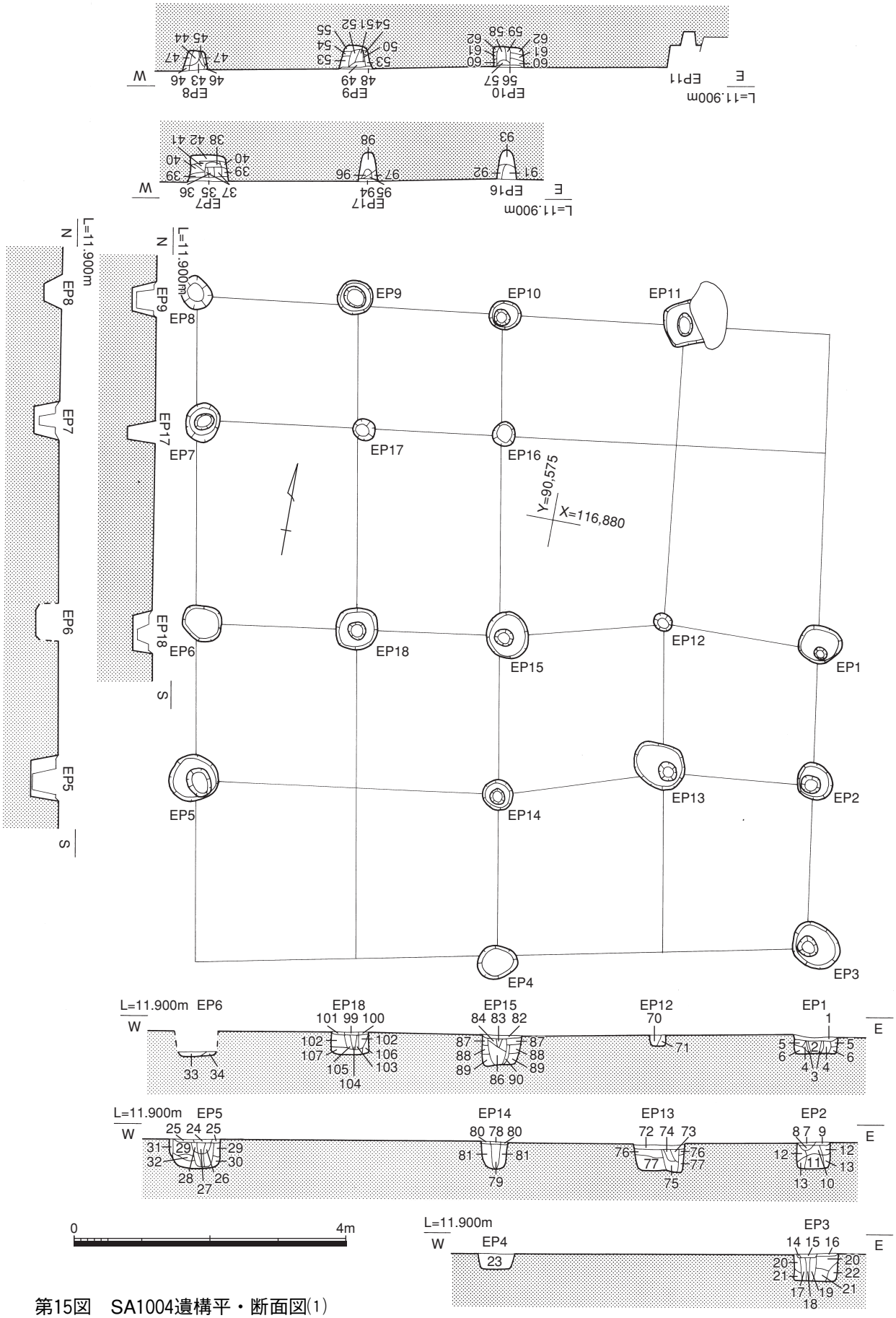
第13図　SA1002出土遺物図



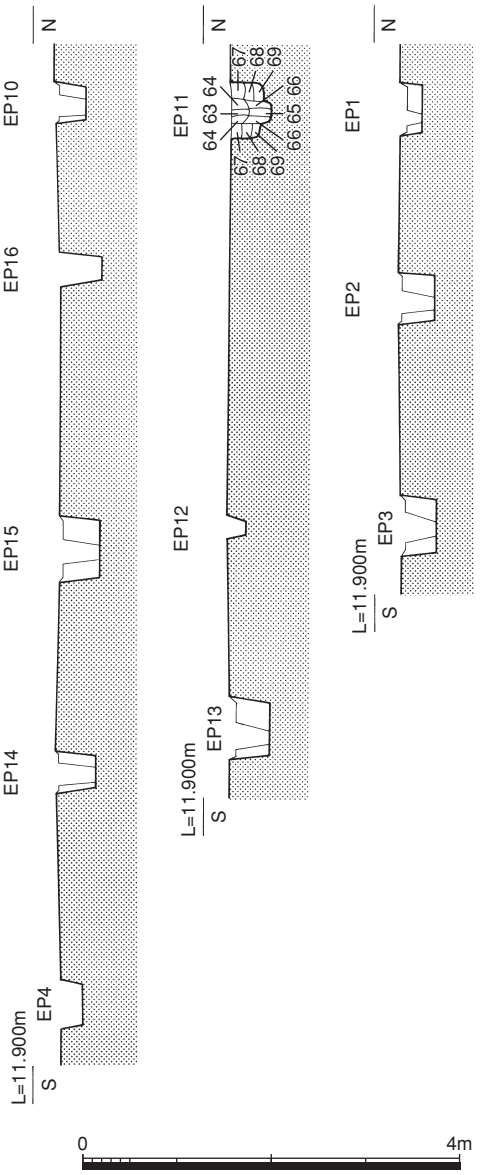
1	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	16	2.5Y6/1	灰黄色	砂質土	31	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	46	2.5Y6/1	灰黄色	砂質土	61	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
2	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	17	2.5Y5/1	灰黄色	砂質土	32	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	47	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	62	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
3	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	18	10YR3/4	暗褐色	砂質土	33	10YR4/4	褐色	砂質土	48	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	63	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	19	10YR4/4	褐色	砂質土	34	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	49	10YR4/4	褐色	砂質土	64	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土
5	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	20	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	35	10YR3/4	暗褐色	砂質土	50	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	65	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
6	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	21	10YR6/1	褐灰色	砂質土	36	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	51	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	66	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
7	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	22	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	37	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	52	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	67	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質土
8	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	23	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	38	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土	53	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	68	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
9	5Y4/3	暗オリーブ色	砂質土	24	10YR3/3	暗褐色	砂質土	39	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	54	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	69	5Y5/2	灰オリーブ色	
10	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	25	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土	40	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	55	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	70	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
11	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土	26	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	41	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	56	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	71	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
12	10YR4/4	褐色	砂質土	27	10YR3/4	暗褐色		42	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土	57	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	72	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
13	10YR4/4	褐色	砂質土	28	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	43	2.5Y5/6	黄褐色	砂質土	58	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	73	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
14	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	29	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	44	2.5Y7/2	灰黄色	砂質土	59	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	74	10YR4/4	褐色	砂質土
15	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	30	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	45	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	60	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土				

0 4m

第14図　SA1003遺構平・断面図



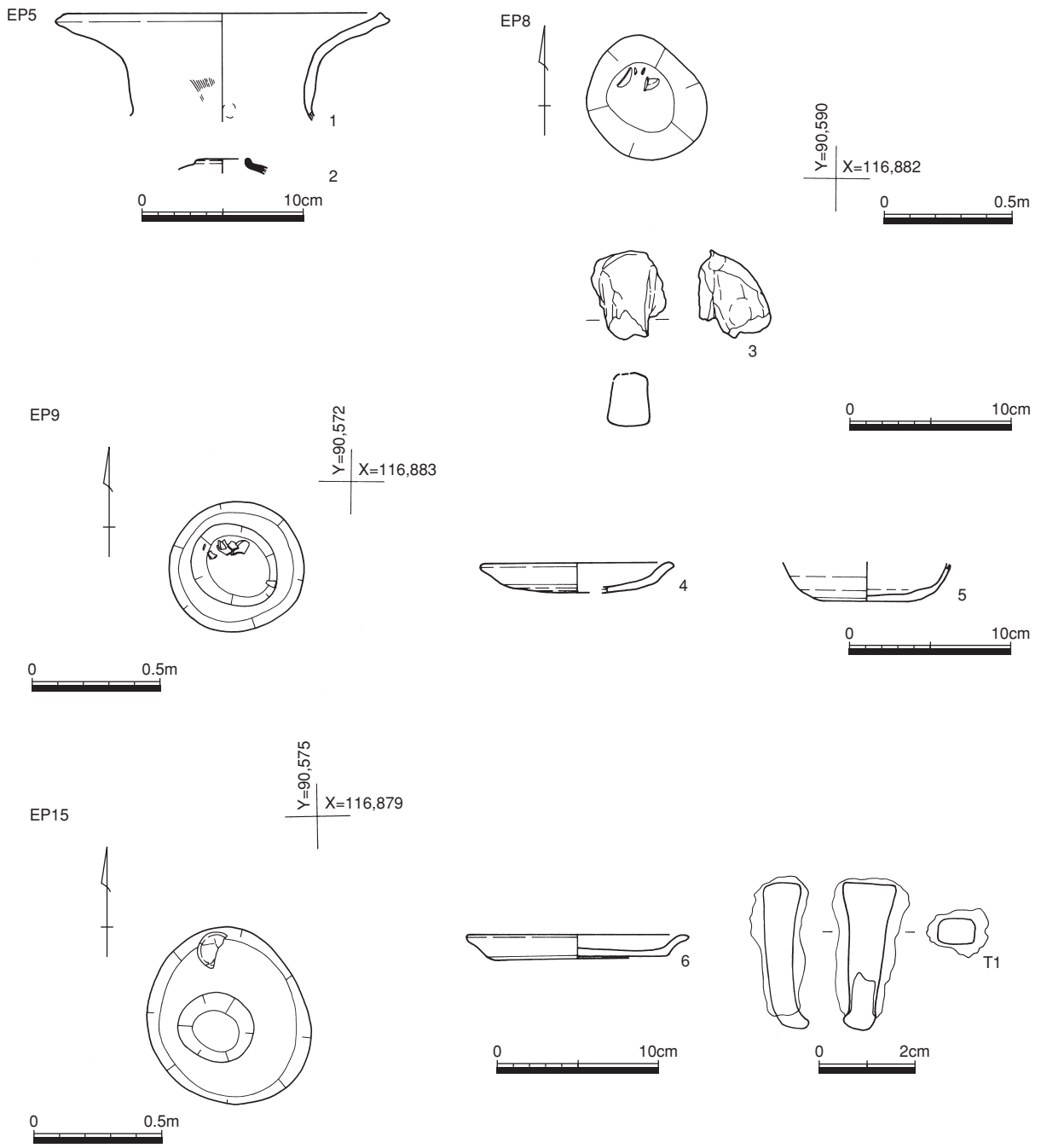
第15図　SA1004遺構平・断面図(1)



1	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
2	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
4	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
5	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土
7	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
8	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
9	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
10	10YR4/4	褐色	砂質土
11	10YR3/4	暗褐色	砂質土
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
13	10YR3/4	暗褐色	砂質土
14	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
15	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
16	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
17	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
18	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
19	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
20	10YR4/4	褐色	砂質土
21	10YR4/3	黄褐色	砂質土
22	10YR4/4	褐色	砂質土
23	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
24	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
25	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
26	5Y5/1	灰色	砂質土
27	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
28	5Y6/1	灰色	砂質土
29	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
30	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
31	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土
32	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
33	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土
34	10YR4/3	にぶい黄褐色	
35	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
36	5Y5/4	オリーブ色	砂質土
37	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
38	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
39	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
40	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂層
41	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
42	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂層
43	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土
44	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
45	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
46	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
47	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
48	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
49	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
50	2.5Y7/2	灰黄色	砂質土
51	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
52	2.5Y7/2	灰黄色	砂質土
53	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
54	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
55	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
56	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土

57	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
58	10YR3/4	暗褐色	砂質土
59	10YR4/4	褐色	砂質土
60	10YR4/4	褐色	砂質土
61	10YR3/4	暗褐色	砂質土
62	10YR4/4	褐色	砂質土
63	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
64	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
65	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
66	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
67	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土
68	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
69	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
70	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
71	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
72	5Y6/1	灰色	砂質土
73	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土
74	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
75	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
76	5Y6/1	灰色	砂質土
77	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
78	2.5Y6/3	黄褐色	砂質土
79	5Y6/1	灰色	砂質土
80	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
81	5Y5/1	灰色	砂質土
82	10YR4/4	褐色	砂質土
83	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
84	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
85	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土
86	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
87	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土
88	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
89	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
90	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土
91	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
92	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土
93	2.5Y5/2	暗灰色	砂質土
94	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
95	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
96	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
97	5Y5/1	灰色	砂質土
98	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
99	5Y4/3	暗オリーブ色	砂質土
100	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
101	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
102	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
103	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
104	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
105	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
106	5Y5/1	灰色	砂質土
107	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土

第16図　SA1004遺構断面図(2)



第17図　SA1004　EP５・EP８・EP９・EP15遺物出土状況・出土遺物図

出土遺物　１は弥生土器の広口壺で、弥生時代後期から終末期にかけてのものである。土師質土器のうち、３は羽釜脚部、４～６は回転ヘラ切り後にナデを施す皿の一群である。４・５は器高が1.5㎝程度の浅い形態である。

時期　中世と推定される。

５号掘立柱建物（SA1005）（第18図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　O－15グリッド

形態・規模　梁間２間（6.0m）、桁行２（推定３）間（8.0m）を測る側柱建物である。東側に庇が伴

う。床面積は48㎡を測る。建物主軸は、N－14°－W である。柱間の距離は、梁間で2.2～3.8m、桁行間3.0mを測る。

土層　柱穴は方形を呈する。各柱穴において柱抜き取り跡は検出されたが、根石は伴わない。EP１は暗褐色砂質土、EP２は灰オリーブ色砂質土、EP３は黄褐色砂質土、EP４は灰黄色砂質土、EP５は黄褐色砂質土、EP６は灰黄色砂質土、EP７は灰オリーブ色砂質土、EP８は黄褐色砂質土が主体となる。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物はない。

時期　古代以降と推定される。

６号掘立柱建物（SA1006）（第19図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　M・N－13・14グリッド

形態・規模　梁間２間以上、桁行３間以上を測る側柱建物である。南西側は調査対象地外へと拡がる。建物主軸は、N－7°－W である。柱間の距離は、梁間で2.5m、桁行間2.2mを測る。

土層　柱穴は不整円形を呈する。上半部が削平されており一部に柱抜き取り跡が確認された。根石は伴っていない。EP１はにぶい黄色砂質土、EP２は褐色砂質土、EP３は褐色砂質土、EP５は褐色砂質土が主体となる。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物はない。

時期　古墳時代以降と推定される。

７号掘立柱建物（SA1007）（第20図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　R－５グリッド

形態・規模　梁間１間（1.42m）、桁行２間（5.1m）を測る側柱建物である。床面積は7.24㎡を測る。建物主軸は、N－6°－W である。柱間の距離は、梁間1.42でm、桁行間2.3mを測る。

土層　柱穴は円形を呈する。柱抜き取り跡や礎石は確認されていない。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土である。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物はない。

時期　古代以降と推定される。

８号掘立柱建物（SA1008）（第21図）

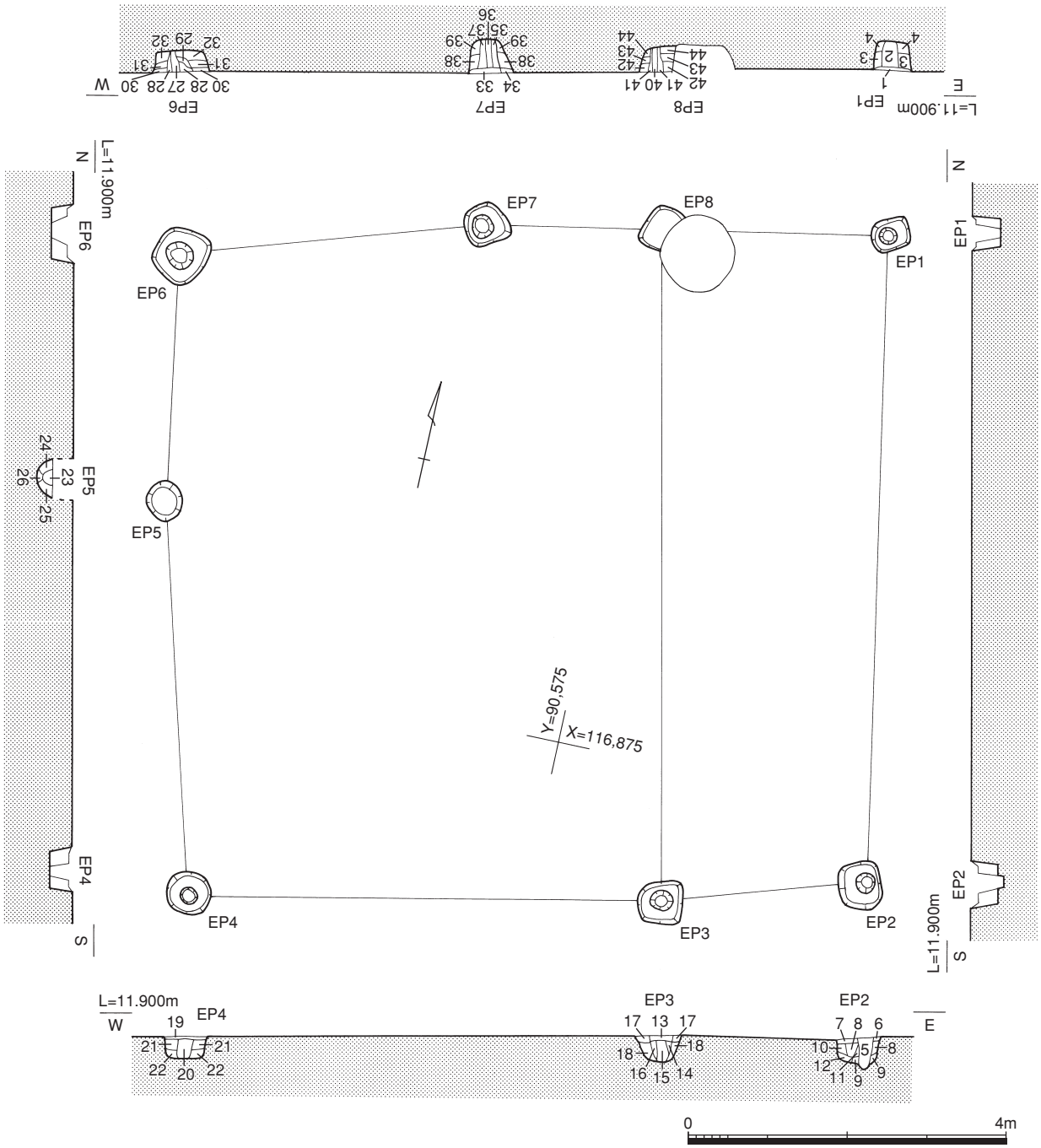
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　R－４グリッド

形態・規模　梁間２間（3.75m）、桁行４間（5.9m）を測る総柱建物である。床面積は22.1㎡を測る。建物主軸は、N－6°－W である。柱間の距離は、梁間で1.17m、桁行間1.45mを測る。

土層　柱穴は円形を呈する。柱抜き取り跡や礎石は確認されていない。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土である。

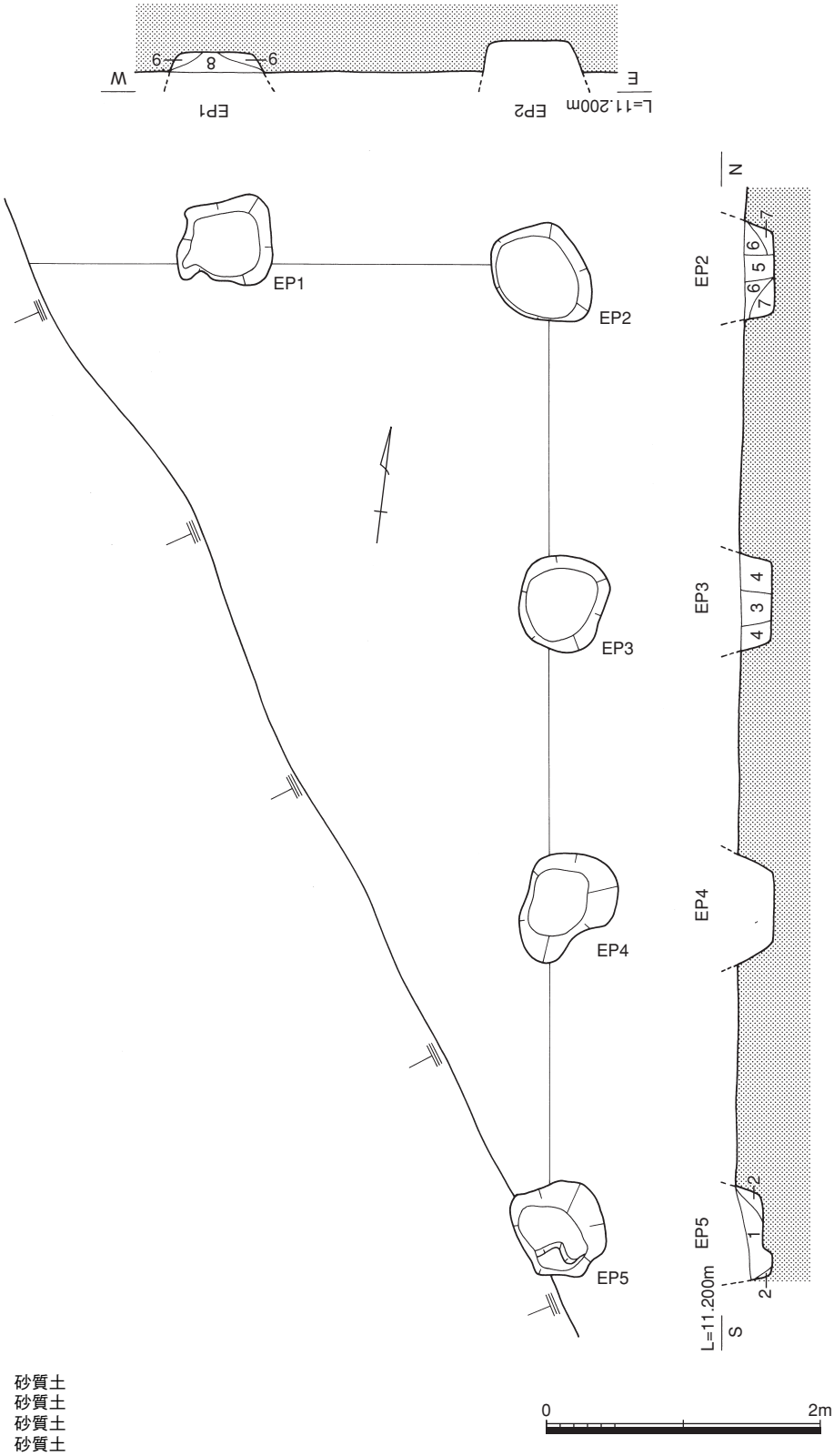
遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物はない。



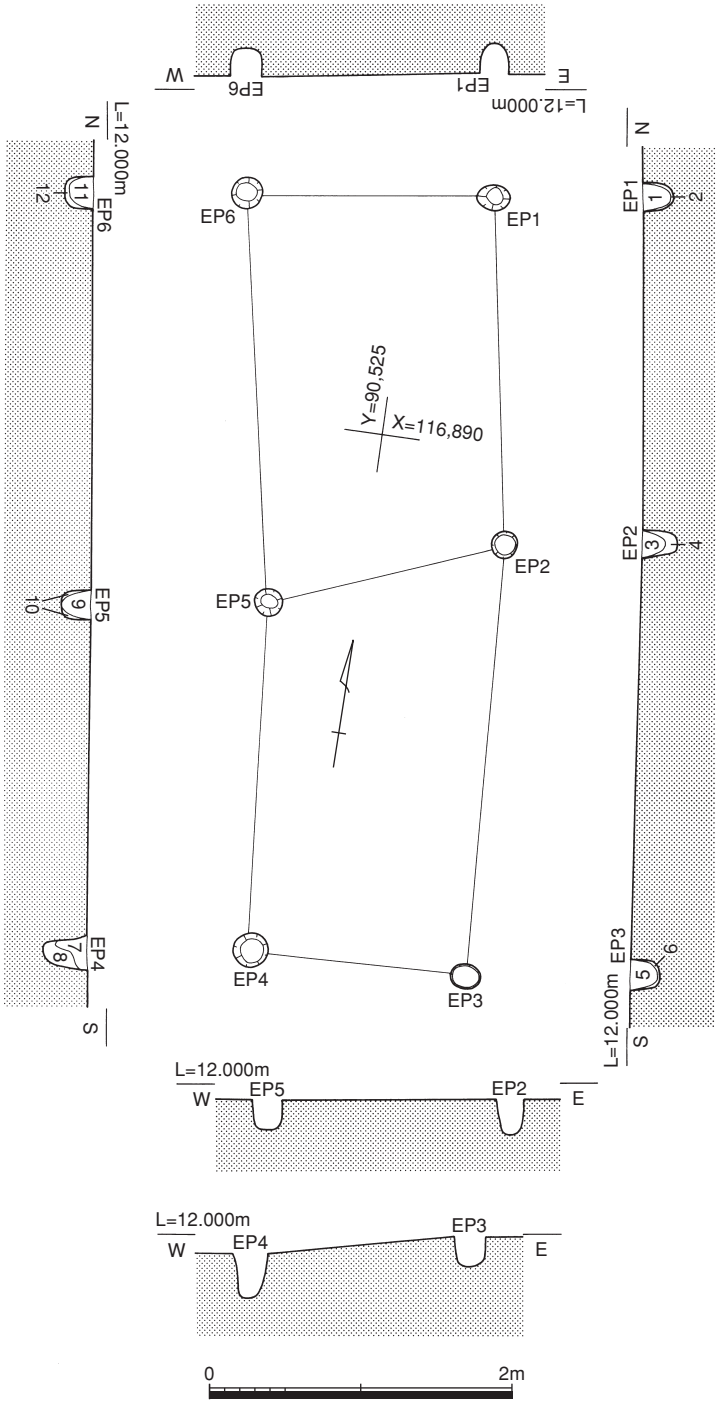
1	2.5Y6/1	黄灰色	砂質土	12	10YR4/4	褐色	砂質土	23	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	34	5Y6/1	灰色	砂質土
2	10YR3/4	暗褐色	砂質土	13	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	24	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	35	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	14	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	25	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	36	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
4	10YR3/4	暗褐色	砂質土	15	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	26	2.5Y4/4	オリーブ褐色		37	5Y6/3	オリーブ黄色	
5	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	16	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	27	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	38	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
6	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	17	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	28	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土	39	10YR4/4	褐色	砂質土
7	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土	18	10YR4/4	褐色	砂質土	29	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	40	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
8	10YR4/4	褐色	砂質土	19	2.5Y7/2	灰黄色	砂質土	30	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土	41	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
9	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	20	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	31	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質土	42	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質土
10	10YR3/3	暗褐色	砂質土	21	10YR4/4	褐色	砂質土	32	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中砂	43	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質土
11	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	22	10YR3/4	暗褐色	砂レキ質	33	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土	44	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土

第18図　SA1005遺構平・断面図



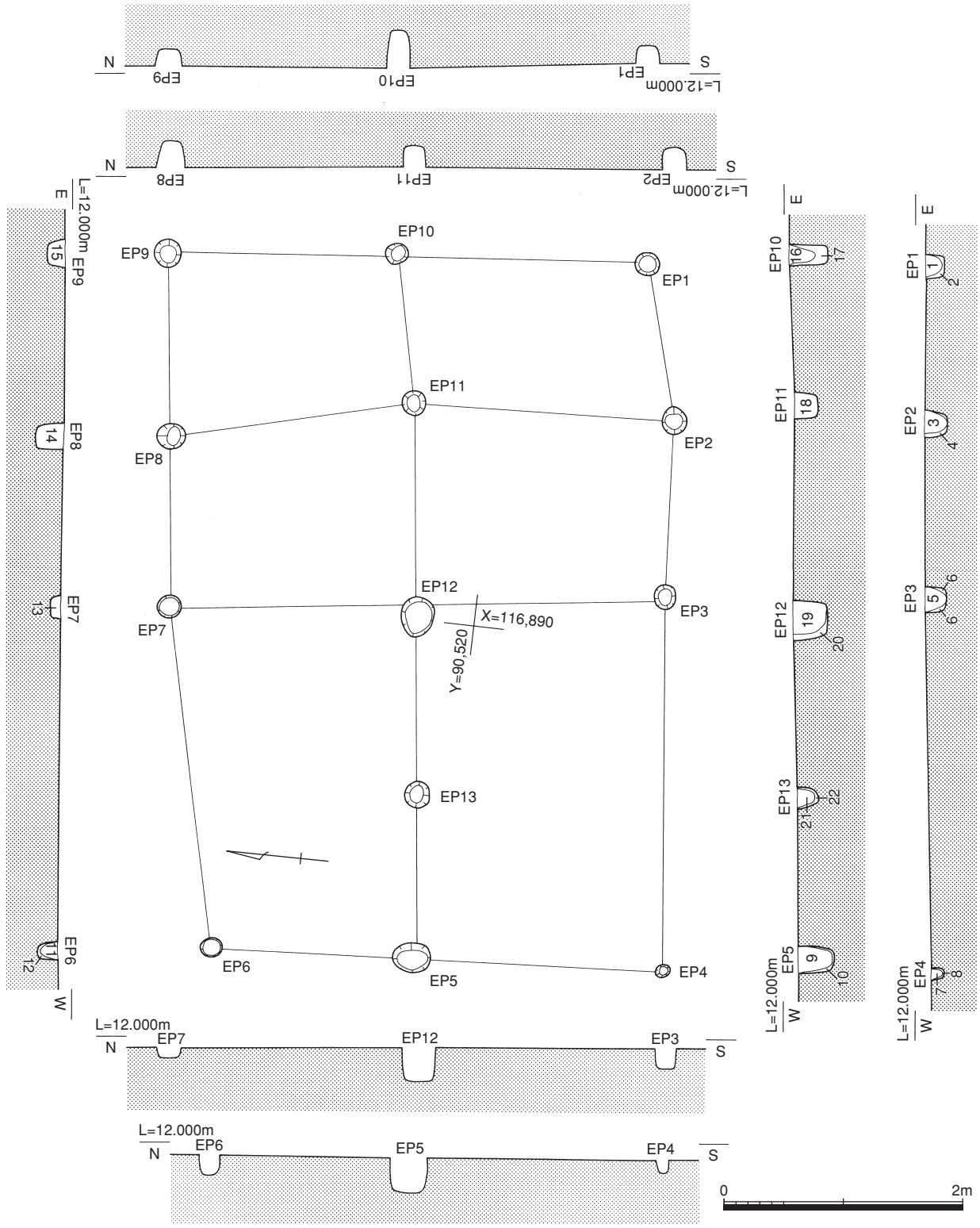
1	10YR4/4	褐色	砂質土
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
3	10YR4/6	褐色	砂質土
4	10YR4/4	褐色	砂質土
5	10YR4/6	褐色	砂質土
6	10YR4/4	褐色	砂質土
7	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土

第19図　SA1006遺構平・断面図



1　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
2　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
3　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
4　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
5　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
6　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
7　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
8　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
9　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
10　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
11　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
12　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土

第20図　SA1007遺構平・断面図



1	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	7	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	13	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	19	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
2	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	8	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	14	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	20	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
3	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	9	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	15	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	21	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
4	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	10	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	16	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	22	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土
5	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	11	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	17	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土				
6	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	12	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土	18	5Y5/3	灰オリーブ色	砂質土				

第21図　SA1008遺構平・断面図

時期　古代以降と推定される。

９号掘立柱建物（SA1009）（第22図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　N－7グリッド

形態・規模　梁間１間（1.7m）以上、桁行２間（2.9m）以上を測る掘立柱建物である。建物主軸は、N－0°－W である。柱間の距離は、梁間で1.7m、桁行間1.7mを測る。

土層　柱穴は円形を呈する。柱抜き取り跡や礎石は確認されていない。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土である。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物はない。

時期　古代以降と推定される。

10号掘立柱建物（SA1010）（第23図）

位置　97－3区。Loc.Ｂ３　δⅡ　C－6グリッド

形態・規模　梁間１間(1.7m)以上、桁行３間(5.8m)を測る側柱建物である。建物主軸は、N－26°－W である。柱間の距離は、梁間で1.7m、桁行間2.1mを測る。

土層　柱穴は隅丸方形や不整円形を呈する。柱抜き取り跡や礎石は確認されていない。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土もしくは灰色砂質土である。

遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　図化可能遺物はない。

時期　古墳時代以降と推定される。

溝状遺構

１号溝状遺構（SD1001）（第24～27図）

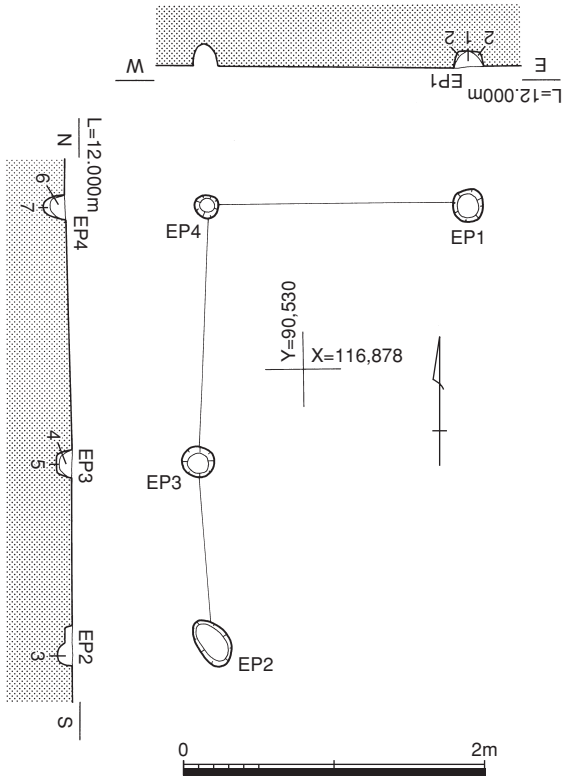
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ・εⅠ　R・S・T・A・B－13・14グリッド

形態・規模　検出長19.00m、幅2.70～1.10m、最大深度0.21mを測る溝である。主軸は南北方向に延びている。遺構の断面形状は、逆台形を呈する。遺構床面の標高は、南端より北端が0.25m低いことから、北方向へ流れているた灌漑水路と推定される。

土層　遺構北側部分での遺構覆土は、灰黄色砂質土や褐色砂質土である。中央部の遺構覆土は灰色砂質土や褐色砂質土である。南側部分の遺構覆土は灰オリーブ色砂質土である。

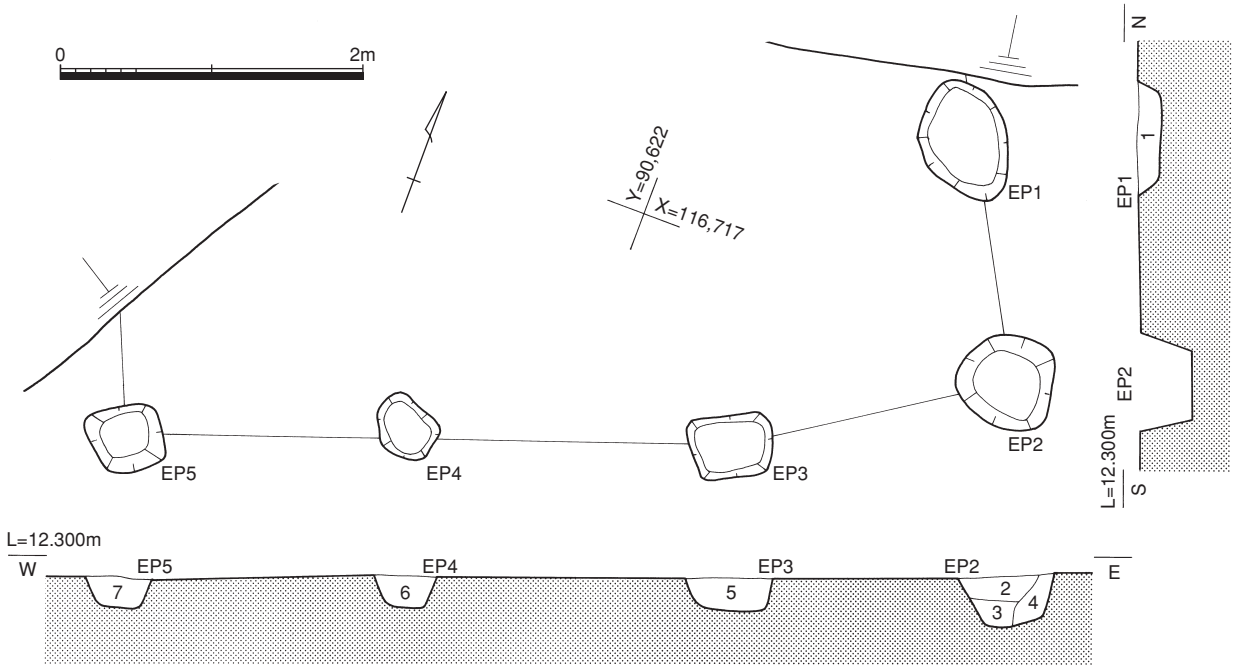
遺物出土状況　検出範囲中央部の溝幅が一番広い地点に比較的集中して出土している。土師器皿３～８、土師器椀15、緑釉陶器椀22、須恵器皿24、須恵器甕26などである。また杭Ｍ１・２も打設された状態で検出された。この杭は遺構主軸方向に平行して打設されていることから、水路矢板を固定するための機能と推定される。なお、遺構北側からは土師器皿10、土師器竈18・20が出土している。遺構南側からは土師器皿９、杯13が出土している。

出土遺物　土師器甕１の外面には煤が付着する。土師器２は甑である。土師器３～12は皿である。皿６の内面にはヘラ記号が施されている。皿７・11・12の内外面には赤色顔料が塗布されている。土師器13～15は椀である。椀15の底部外面にはヘラ記号が施されている。また煤が付着することから灯明皿への



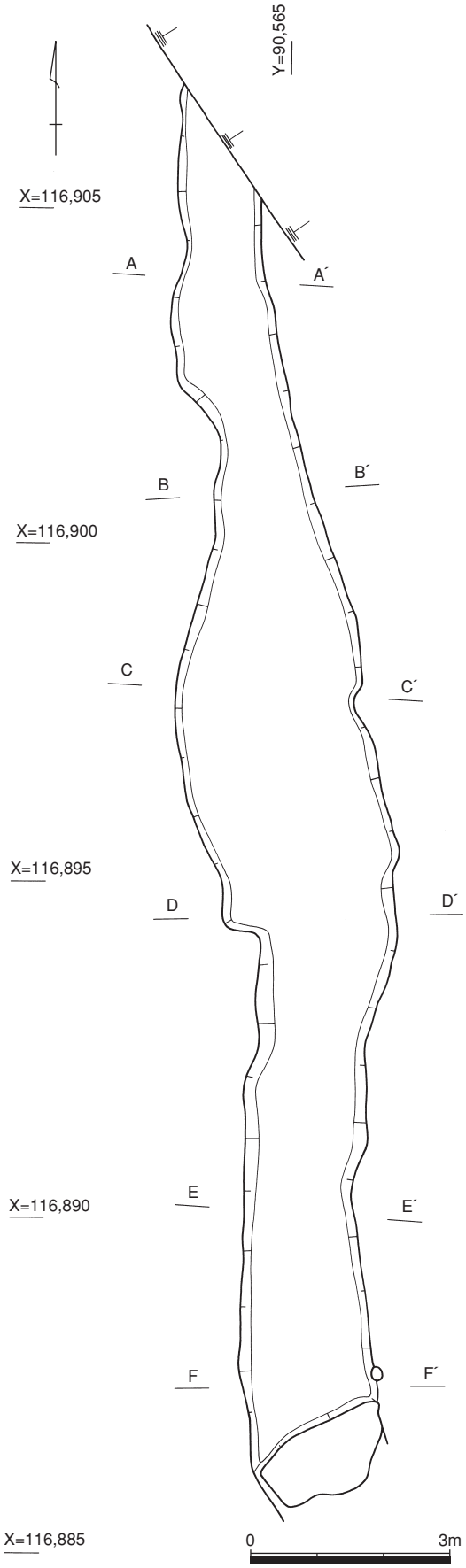
1	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土
3	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
4	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土
6	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質土
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土

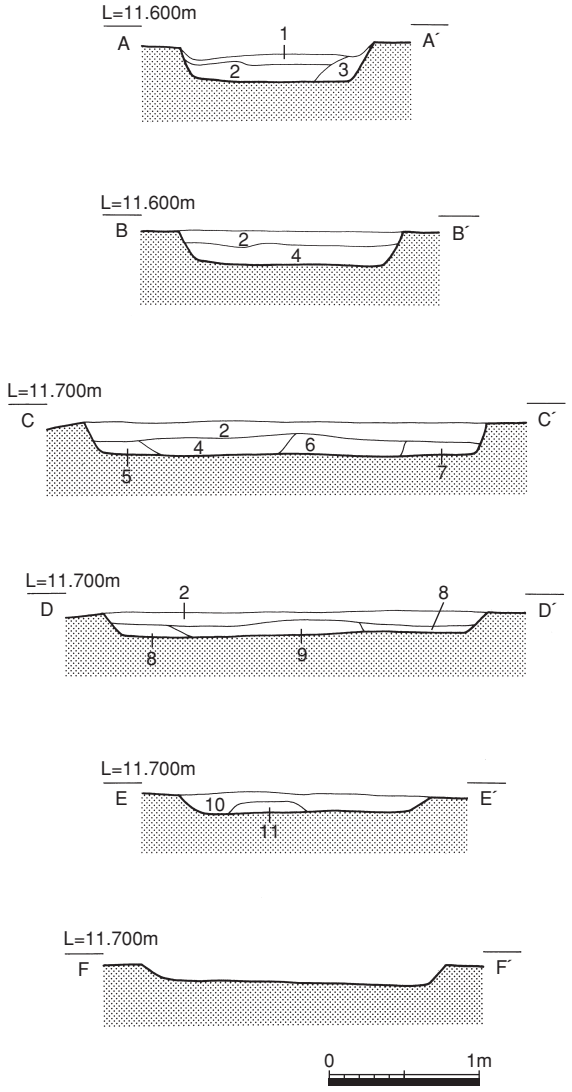
第22図　SA1009遺構平・断面図



1	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
2	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質土
3	5Y6/3	オリーブ黄色	砂質土
4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土
5	7.5Y6/1	灰色	砂質土
6	5Y6/1	灰色	砂質土
7	7.5Y6/1	灰色	砂質土

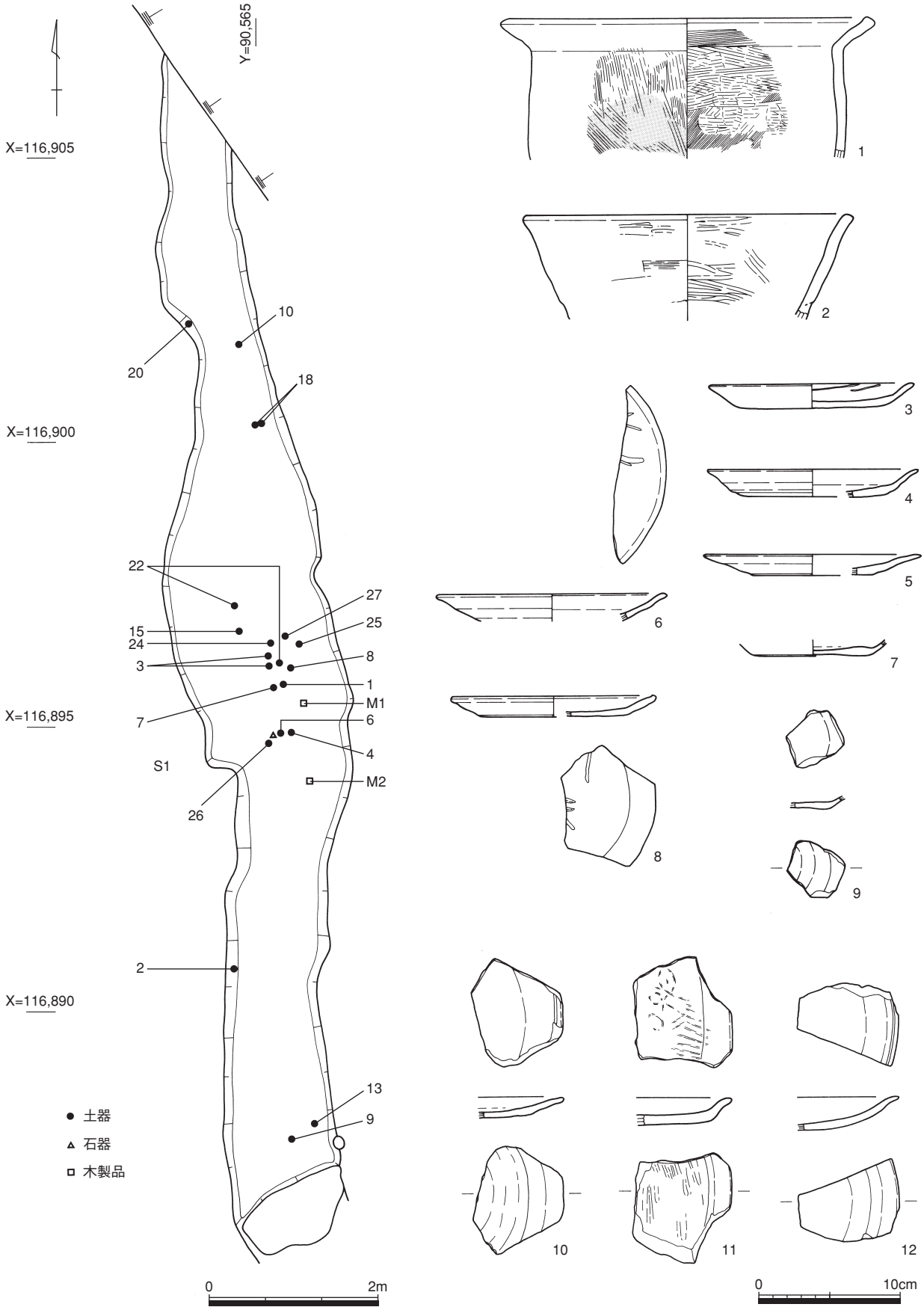
第23図　SA1010遺構平・断面図



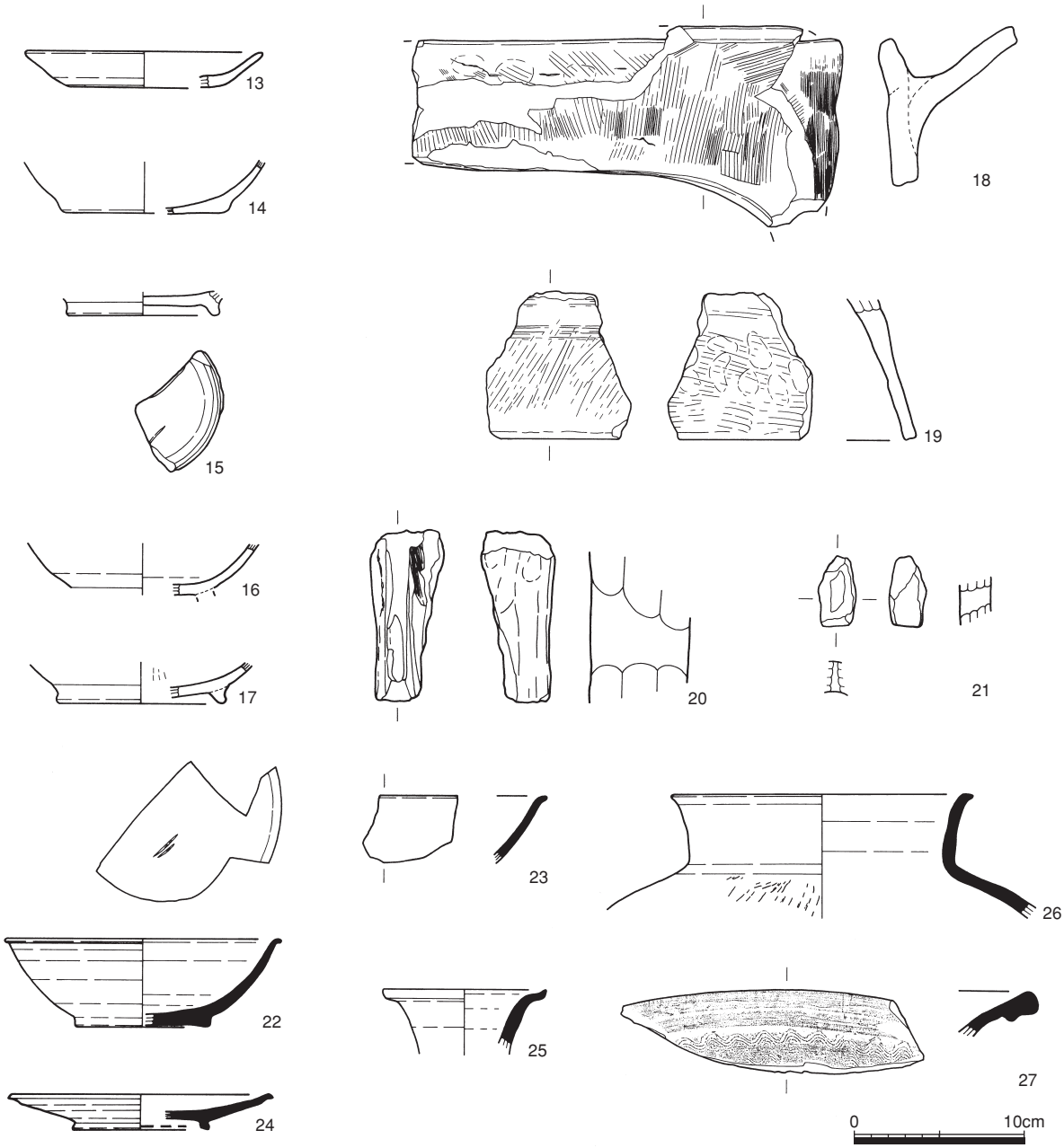


1　10YR4/4　褐色　　砂質土
　(2.5Y6/2　灰黄色　砂質土をブロック状に含む)
2　2.5Y6/2　灰黄色　　砂質土
　(10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む)
3　2.5Y6/2　灰黄色　　砂質土
　(10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む)
4　5Y6/1　　灰色　　砂質土
　(10YR4/6　褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む)
5　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
　(2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む)
6　10YR4/4　褐色　　砂質土
　(2.5Y7/1　灰白色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む)
7　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
8　2.5Y6/1　黄灰色　　砂質土(炭化物を少量含む)
9　5Y6/1　　灰色　　砂質土
　(2.5Y5/4　黄褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物をやや多量に含む)
10　5Y5/3　　灰オリーブ色　砂質土
11　5Y5/4　　オリーブ色　　砂質土

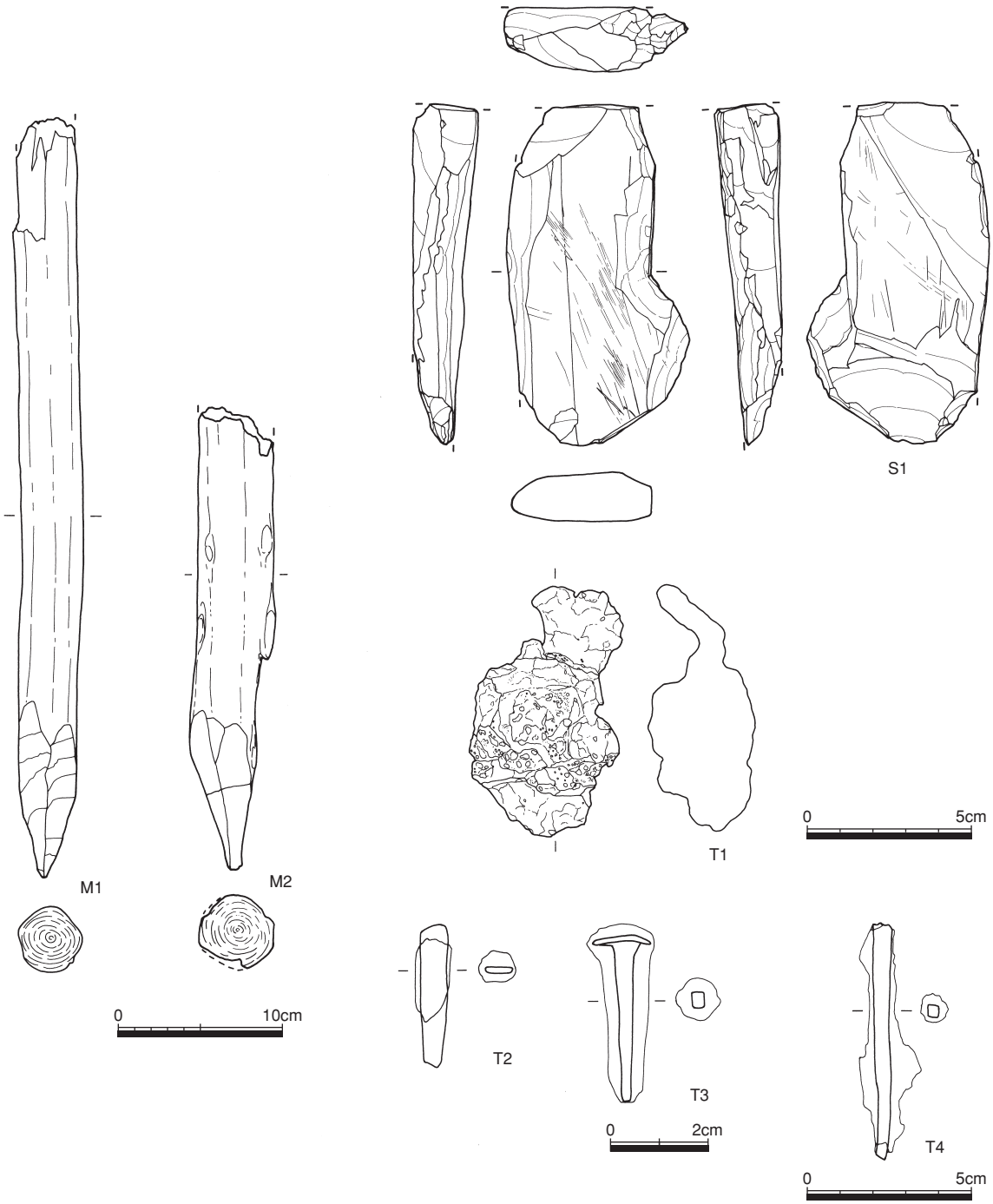
第24図　SD1001遺構平・断面図



第25図　SD1001遺物出土状況・出土遺物図(1)



第26図　SD1001出土遺物図(2)



第27図　SD1001出土遺物図(3)

転用も想定される。土師器16は椀である。内外面に赤色顔料が塗布されている。椀17は黒色土器である。18～20は土師質の竈である。土製品21は鞴羽口である。椀22は緑釉陶器である。須恵器25は長頸壺である。須恵器26は甕である。須恵器27は器台である。Ｓ１は粘板岩製砥石である。Ｔ１は鉄滓である。Ｔ１～３は釘である。

時期　古代

４号溝状遺構（SD1004）（第28・29図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｈ－14グリッド

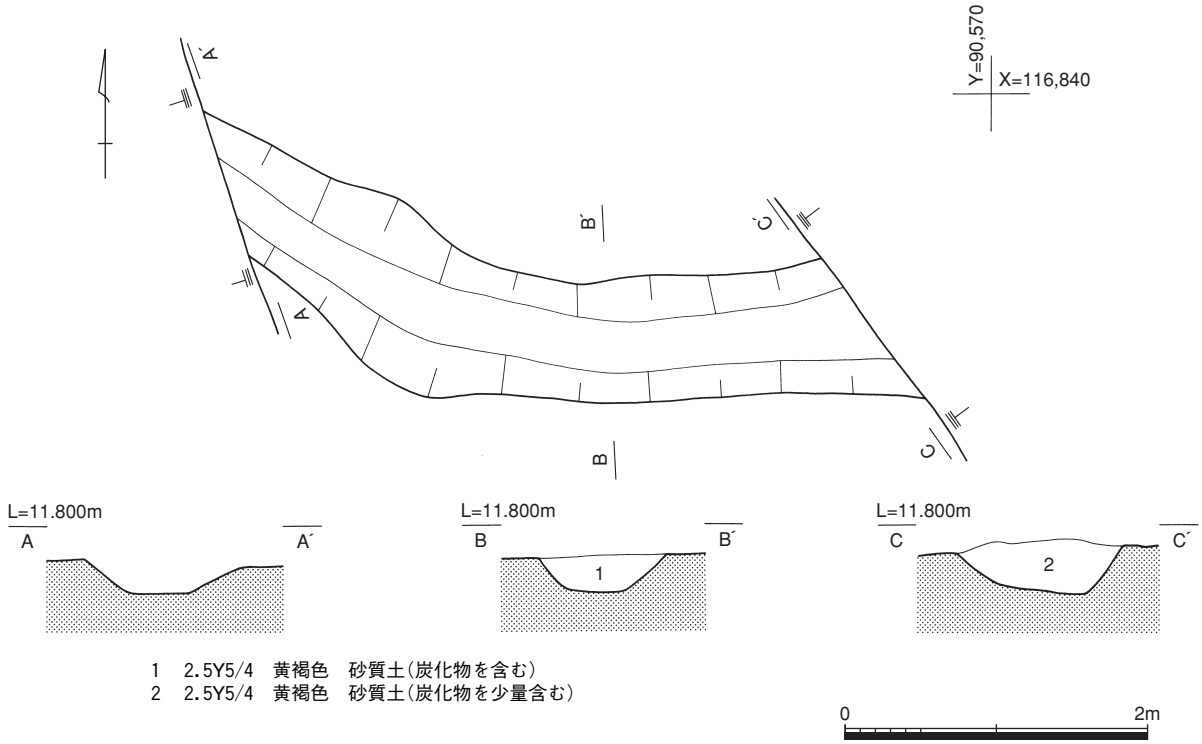
形態・規模　検出長4.30m、検出幅0.82～1.00m、深度20～35cmを測る溝状遺構。主軸は東西方向に掘削されている。遺構断面形状は逆台形を呈する。遺構床面の標高は、西端よりも東端の方が0.1m低いことから溝の機能としては、東方向へ流れているであろう。

土層　遺構覆土は黄褐色砂質土である。

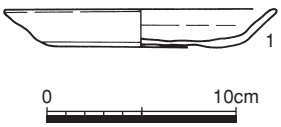
遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。

出土遺物　４は土師器杯である。

時期　古代



第28図　SD1004遺構平・断面図



第29図　SD1004出土遺物図

８号溝状遺構（SD1008）（第30・32・34図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　K・L－16・17・18、M・N・O－18・19グリッド

形態・規模　検出長南北24.0m、幅3.00～0.80m、深度0.53mを測る溝である。遺構の断面形状は、全て逆台形を呈している。南北方向に約16.4m延び、逆Ｌ字状に東西方向へ８m延びており、SD1009と合流している。遺構の床面の標高が、西端よりも北端の方が、約0.2m低いことから、溝の機能として、西から北方向へ流れていたと考えられる。また、溝の西端はSD1008とSD1009の分岐点と考えられ、SD1008は北側へ、SD1009は南東方向へと流れていたと推定される。また溝の西端に位置する調査区の西壁は撹乱のために、溝の断面形状が確認できないが、遺構外へと続いていたであろう。

土層　遺構覆土は褐色砂質土やにぶい黄褐色砂質土が主体となる。

遺物出土状況　SD1008とSD1009の分岐点を中心に遺物が出土している。

出土遺物　１～７は土師器である。１は甕、２～４は杯である。杯２には煤が付着しており灯明皿として転用したと推定される。５～７は皿である。皿６は内外面に赤色顔料が塗布され、底部外面にヘラ記号が施されている。８は黒色土器椀である。９～12は尖底の砲弾型を呈する製塩土器である。13は凹面に布目をもつ瓦である。14は土師質の竈形土器である。

時期　古代

９号溝状遺構（SD1009）（第30～33、35・36図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ・Ⅱ　K－16・19・20、K・L－17・18、J－19・20・１、I－20・１グリッド

形態・規模　検出長27.0m、幅3.00～1.00m、深度0.56mを測る溝状遺構である。主軸は、北西～南東方向に延びている。遺構の断面形状は、全て逆台形を呈している。遺構床面の標高は、北西端よりも南東方向が0.37m低くなるため、溝の機能として、北西方向から南東方向へ流れていると推定される。

土層　遺構覆土は褐色砂質土である。

遺物出土状況　SD1008との分岐点や溝中央部付近から遺物が出土している。

出土遺物　１～12は土師器で、１～３は甕である。何れも外面に煤が、口縁部に焦げが付着する。４は高台付皿、５～10は土師器杯で、８は外面に煤が付着する。11は椀、12は皿である。13・14は黒色土器椀である。椀14の内面にはヘラミガキが施されている。瓦15は瓦当に唐草文様をもつ軒平瓦である。土師質土器16は羽釜の脚部である。17～22は須恵器で、17は横瓶、18は長頸壺、19・20・21は壺で、22は器種が不明である。

時期　古代

10号溝状遺構（SD1010）（第37～39図）

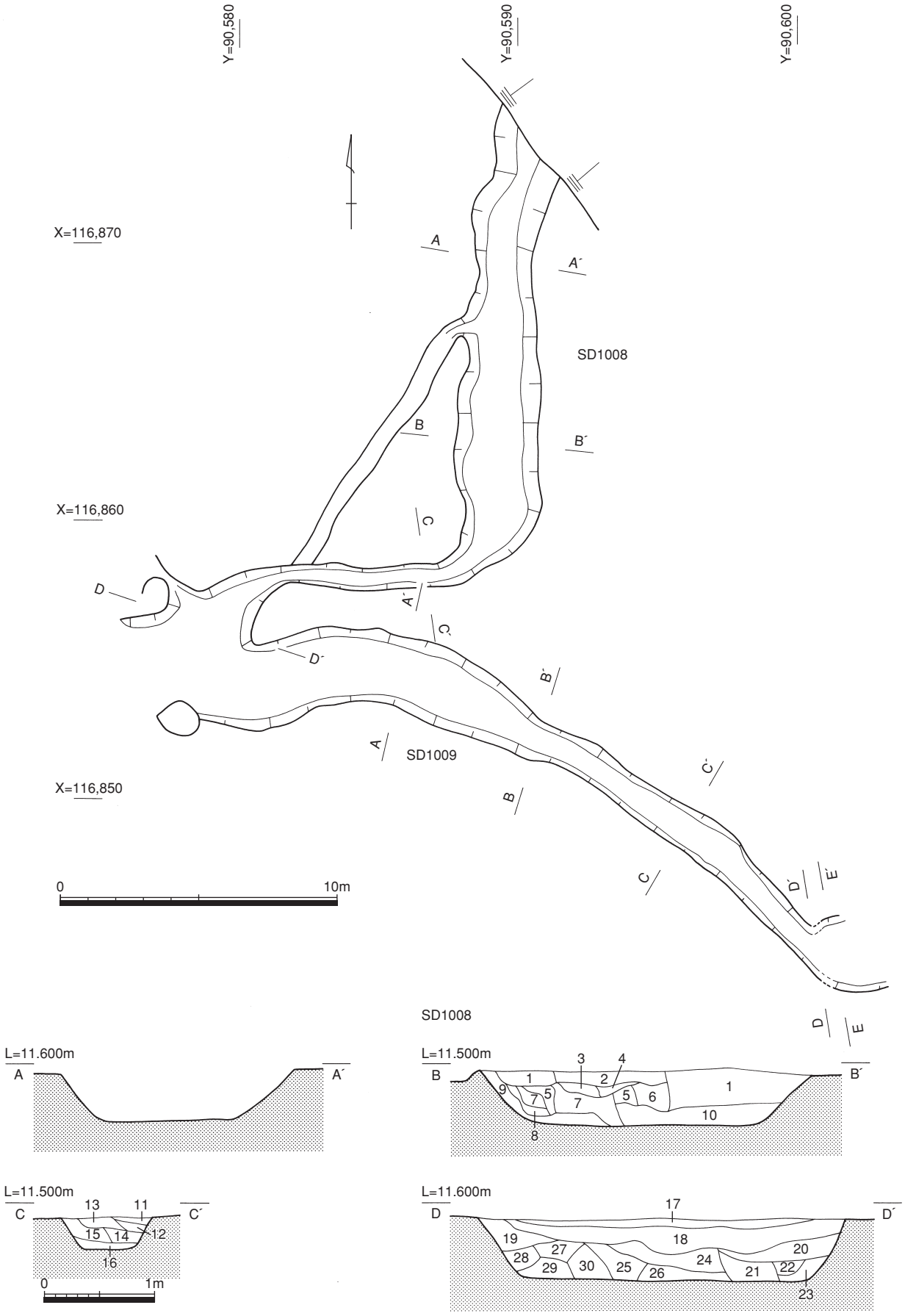
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　J－18グリッド

形態・規模　長径2.67m、短径2.30m、深度0.11mを測る遺構である。南北に長い楕円形を呈する。溝状遺構もしくは浅い落ち込みである。断面は逆台形を呈する。

土層　遺構覆土は灰オリーブ色砂質土である。

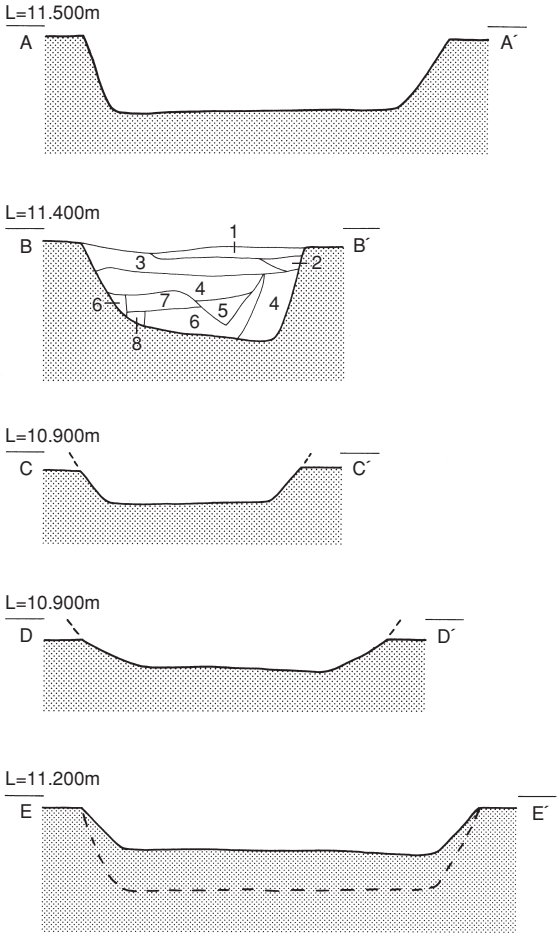
遺物出土状況　北西部に甕２が潰れた状態で検出された。

出土遺物　１～３は土師器で、１は皿、２は甕である。３は土師質の竈形土器である。内面全体に煤が



第30図　SD1008、SD1009遺構平面図、SD1008断面図

SD1009



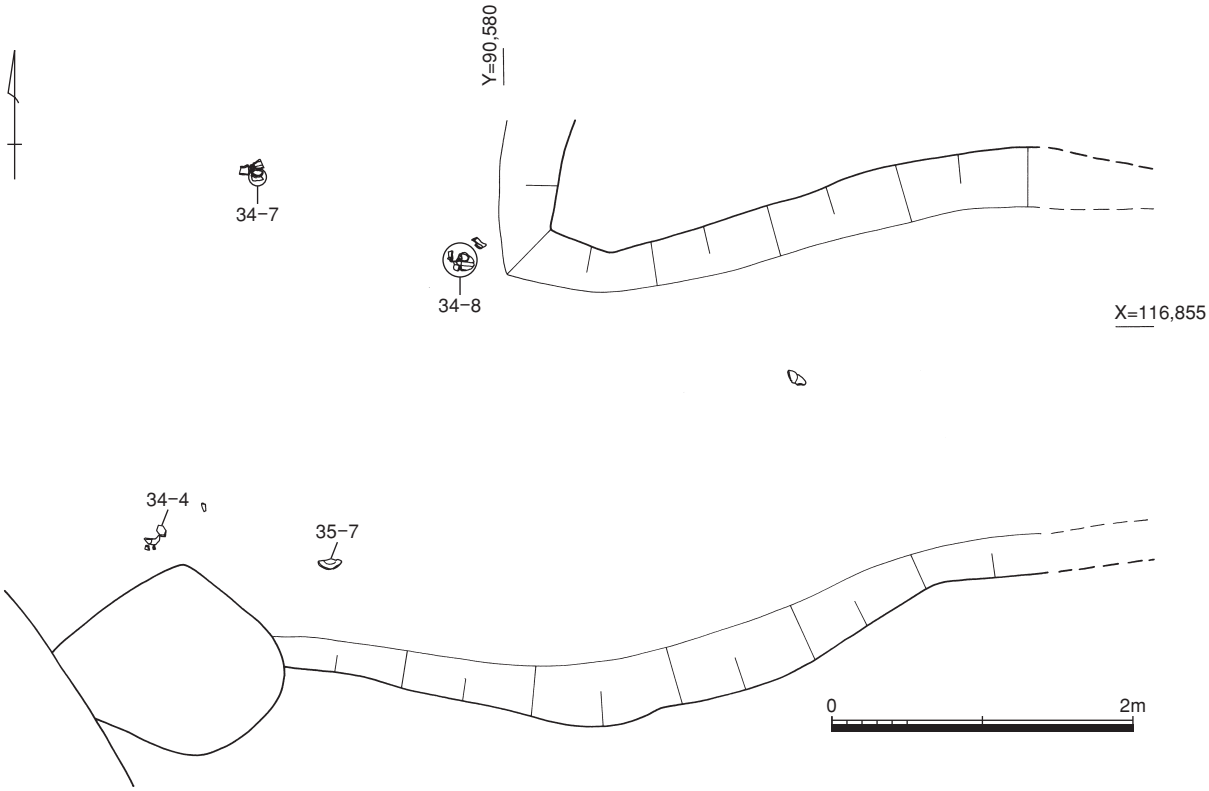
SD1008

1	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
2	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
3	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
4	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
5	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
6	10YR4/6	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
7	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土(10YR4/2	灰黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
9	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
10	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
11	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土(10YR4/4	褐色	砂質土をブロック状に含む)
12	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
13	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
14	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
15	10YR4/6	褐色	砂質土(10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
16	10YR3/4	暗褐色	砂質土		
17	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土(2.5Y6/1	灰黄色	砂質土をブロック状に含む)
18	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土(5Y7/1	灰白色	砂質土をブロック状に含む)
19	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土		
20	10YR3/4	暗褐色	砂質土		
21	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土(10Y6/1	灰色	砂質土をブロック状に含む)
22	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質土		
23	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土		
24	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土(炭化物を少量含む)		
25	10YR4/4	褐色	砂質土(10Y6/1	灰色	砂質土をブロック状に含む)
26	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土		
27	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土(10Y6/1	灰色	砂質土をブロック状に含む)
28	10YR3/4	暗褐色	砂質土(5GY6/1	オリーブ灰色	砂質土をブロック状に含む)
29	10YR4/4	褐色	砂質土(10Y6/1	灰色	砂質土をブロック状に含む)
30	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土(10Y6/1	灰色	砂質土をブロック状に含む)

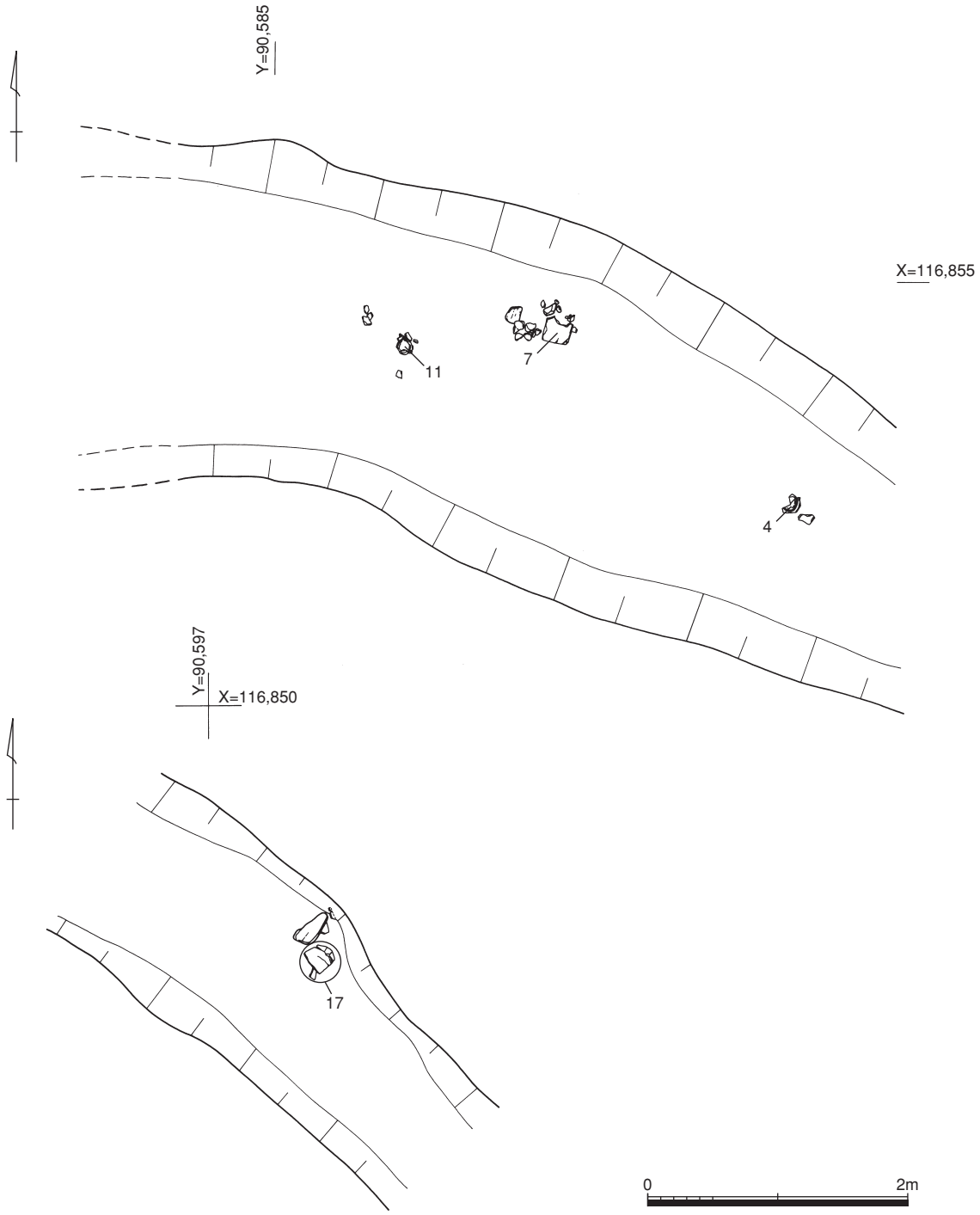
SD1009

1	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR5/2	灰黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
2	10YR4/6	褐色	砂質土(10YR5/2	灰黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
3	10YR4/6	褐色	砂質土(10YR5/2	灰黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
4	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR5/2	灰黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
5	10YR4/6	褐色	砂質土(10YR5/6	黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
6	10YR4/4	褐色	砂質土(10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土をブロック状に含む)
7	10YR4/4	褐色	砂質土		
8	10YR4/4	褐色	砂質土		

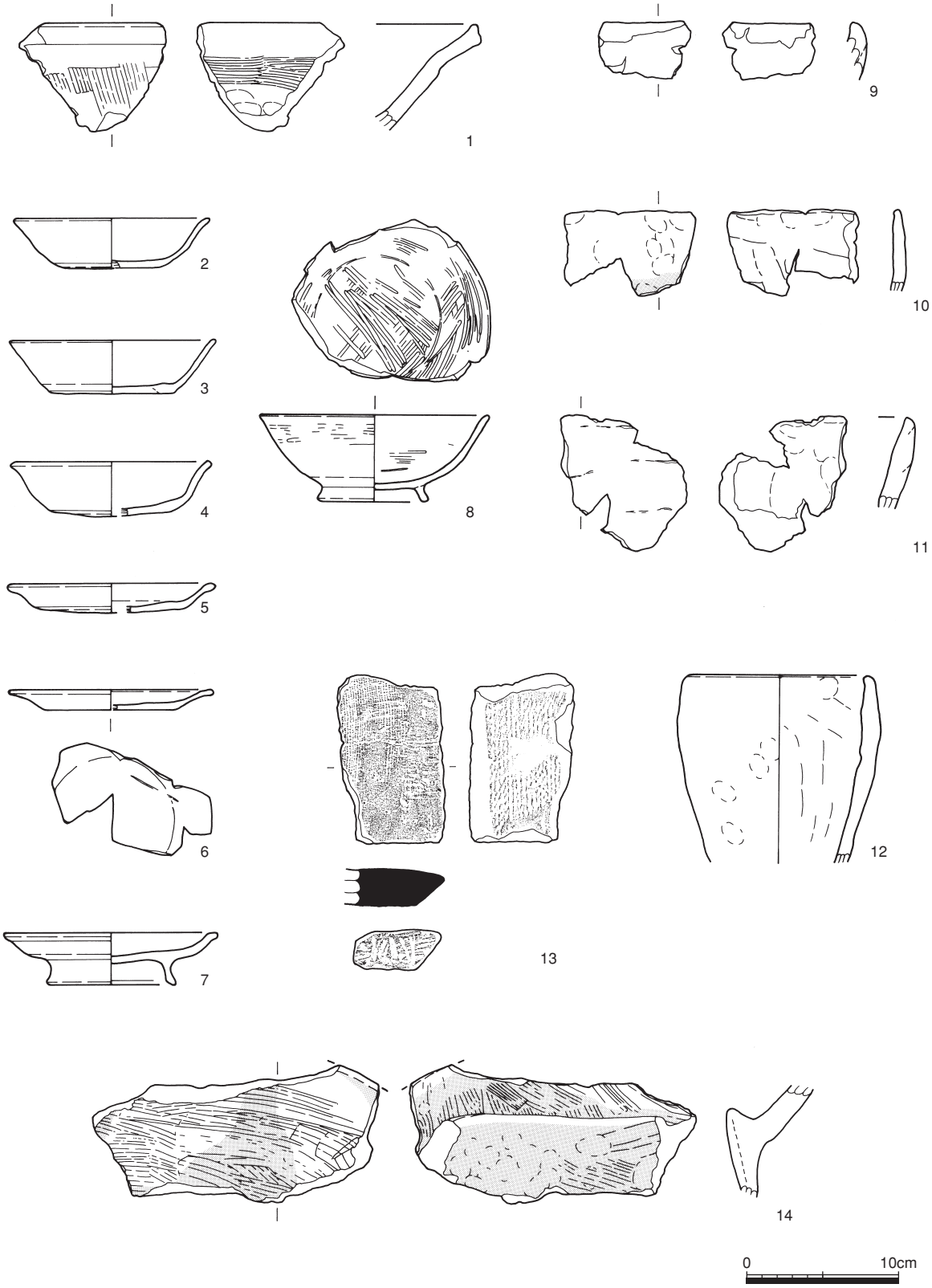
第31図　SD1009断面図



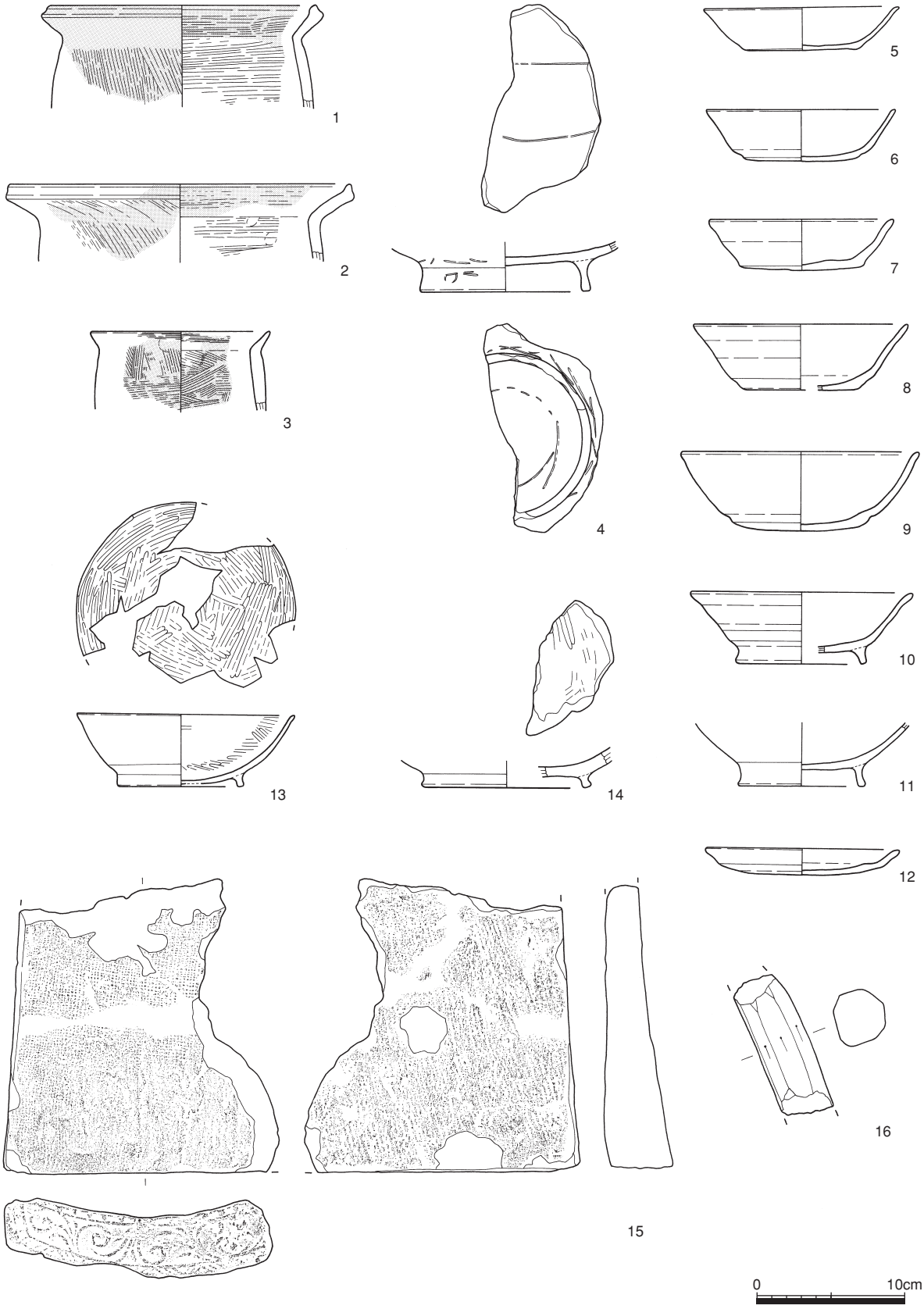
第32図　SD1008、SD1009遺物出土状況図(1)



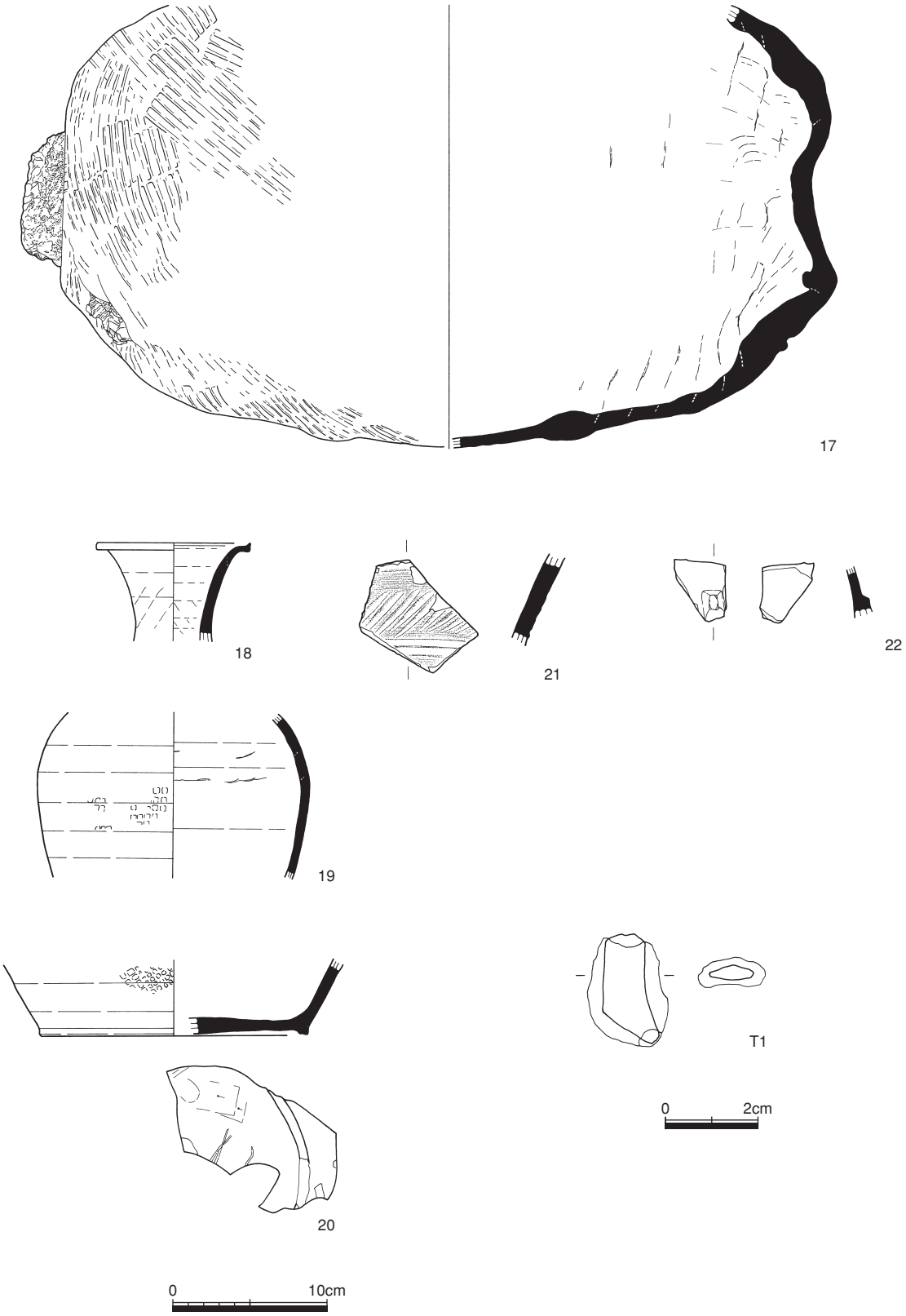
第33図　SD1009遺物出土状況図(2)



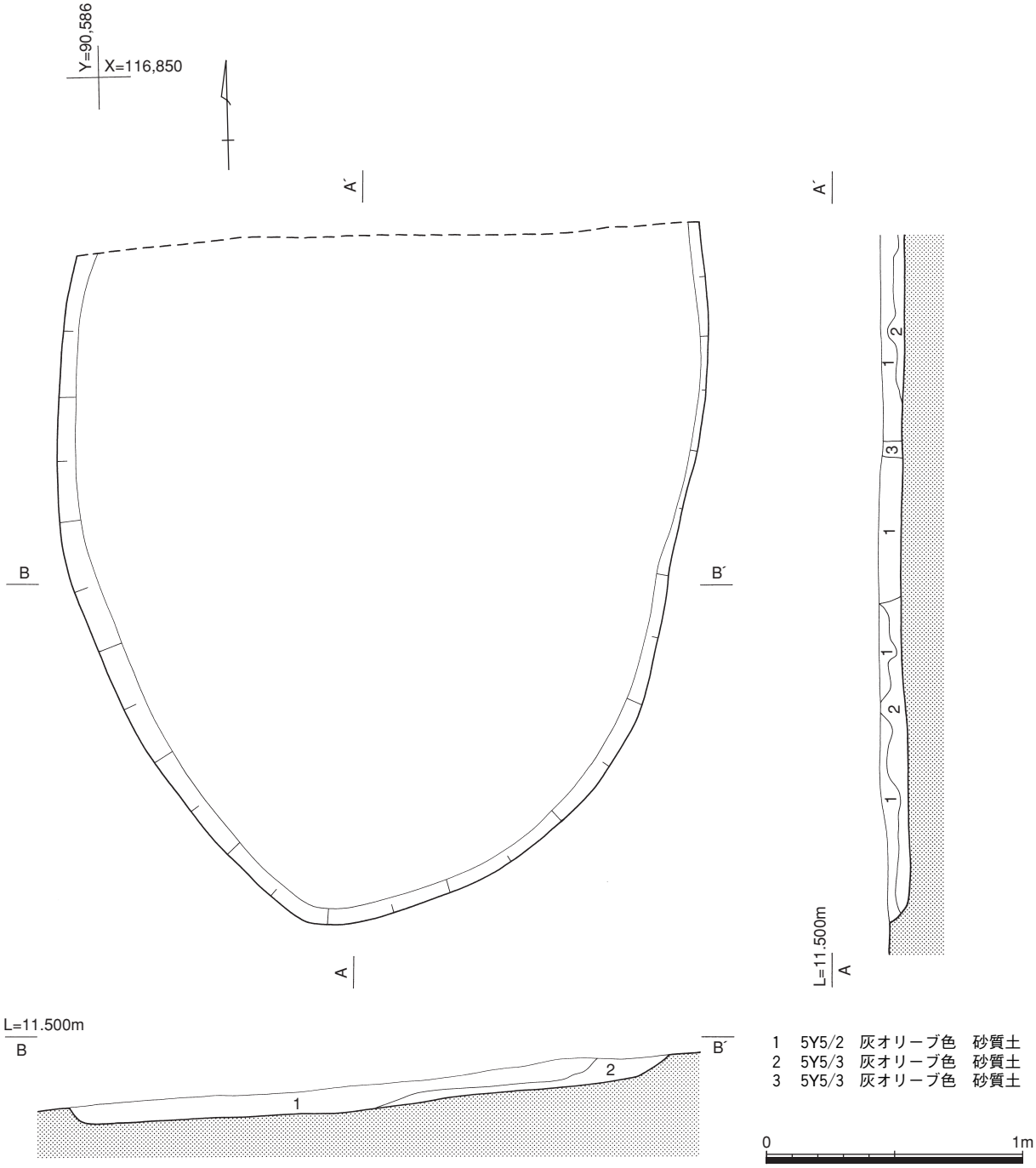
第34図　SD1008出土遺物図



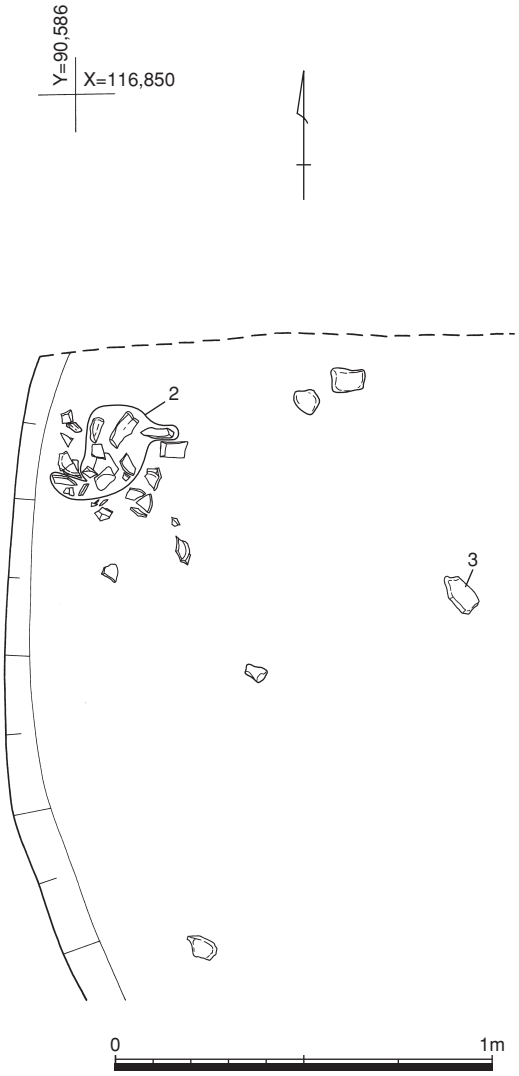
第35図　SD1009出土遺物図(1)



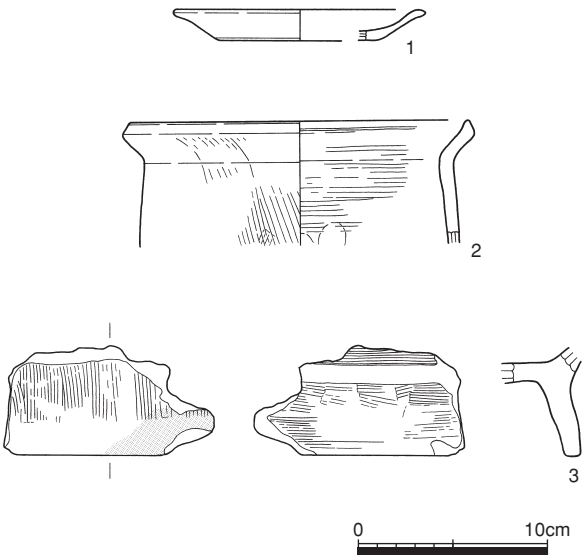
第36図　SD1009出土遺物図(2)



第37図　SD1010遺構平・断面図



第38図　SD1010遺物出土状況図



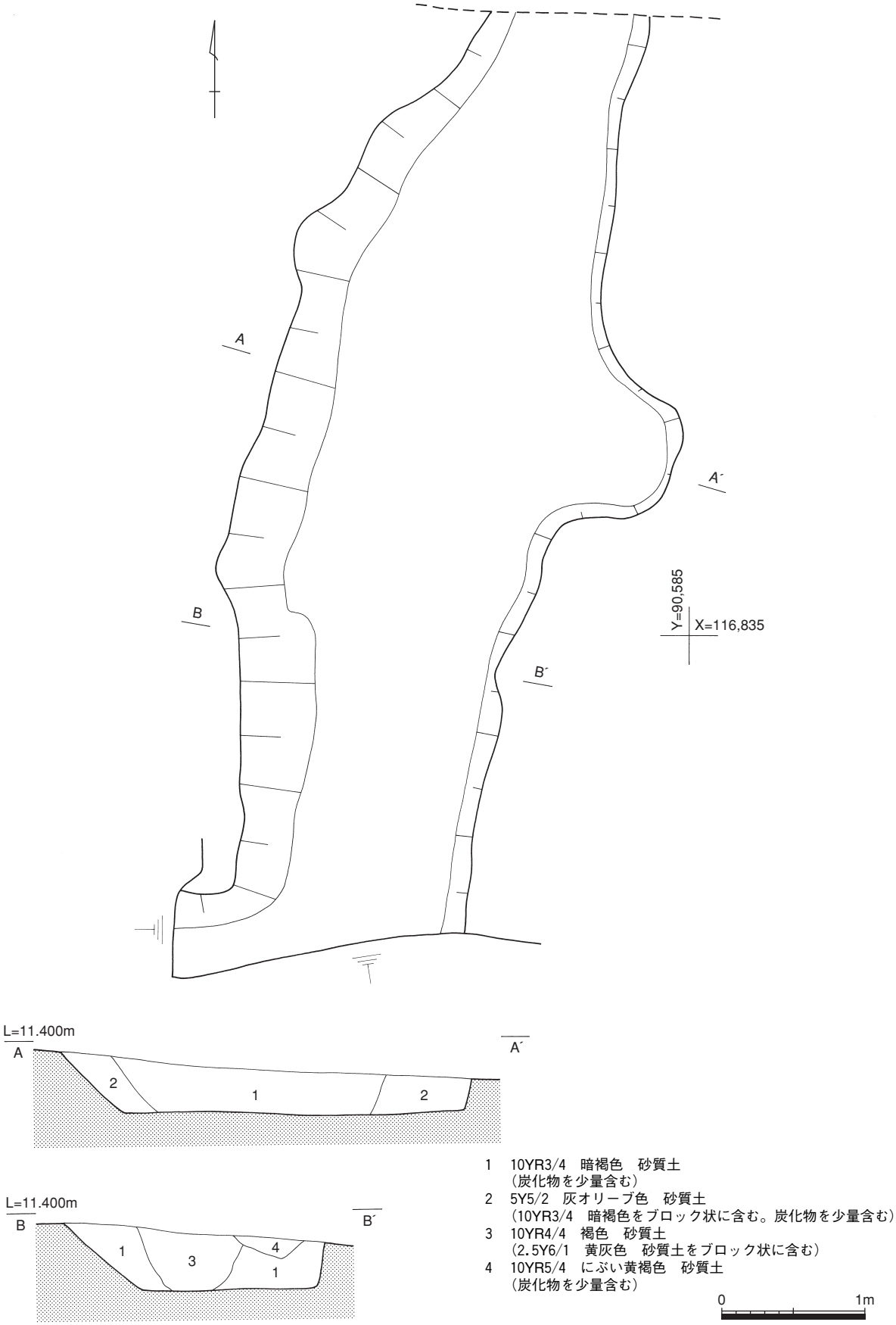
第39図　SD1010出土遺物図(1)

付着する。
時期　古代

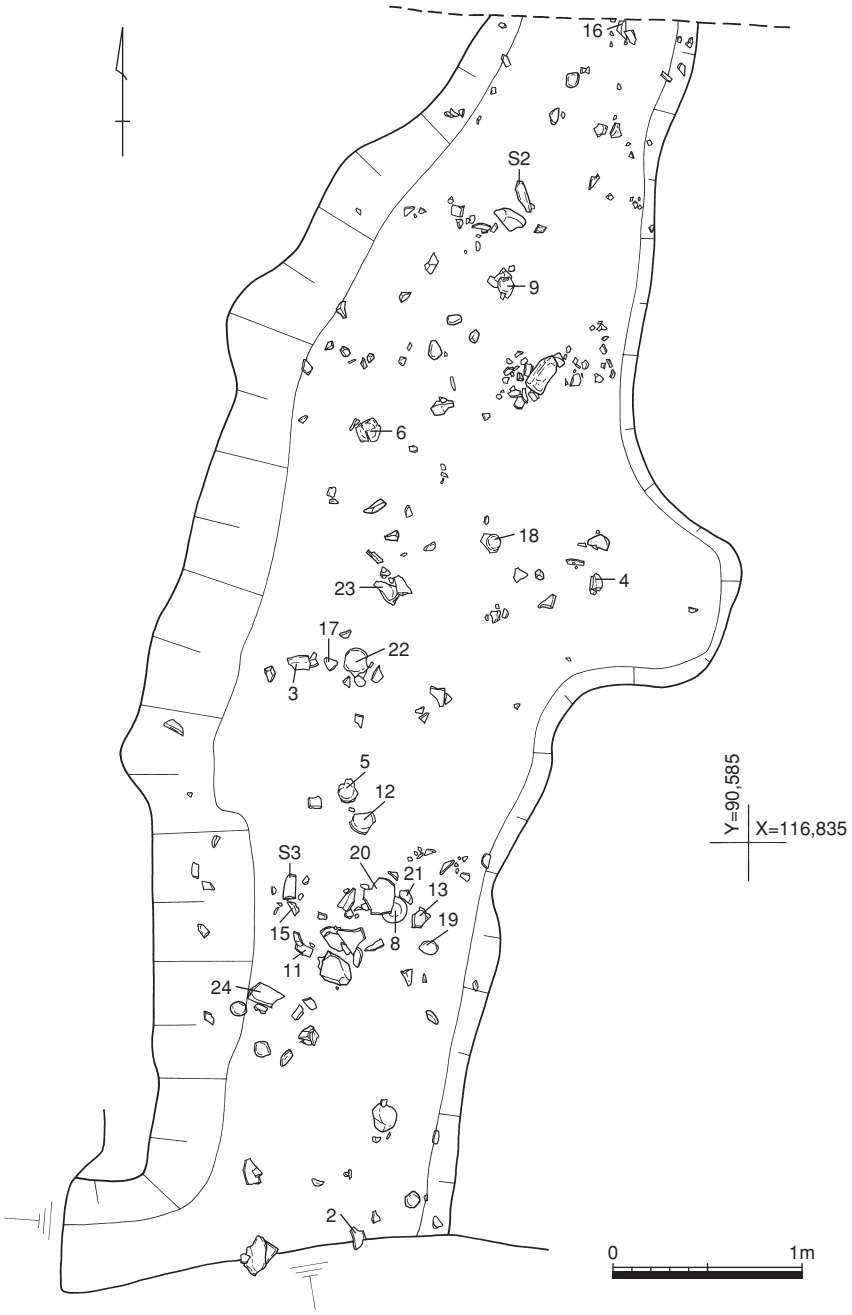
11号溝状遺構（SD1011）（第40～44図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｇ・Ｈ－17グリッド
形態・規模　検出長6.69m、幅2.85～1.10m、深度0.45mを測る溝である。主軸は、南北に延びている。遺構の断面形状は、逆台形を呈している。遺構の床面の高さは、南側より北側の方が、0.02m低くなるため、溝の機能として、南から北へ流れていたと考えられる。
土層　遺構覆土は暗褐色砂質土やにぶい黄褐色砂質土が主体となる。
遺物出土状況　遺物は遺構内より万遍なく検出されている。実測可能遺物以外にも土器小片が自然礫と共に検出された。
出土遺物　土師器１～４は甕である。２は内面に焦げが付着している。３は外面には煤が、内面には焦げが付着している。５は内面に焦げが付着している。５～13は土師器杯である。杯11は底部外面にヘラ記号が施されている。14は土師器高台付杯である。底部外面に「爪痕」が観察される。15～20は土師器皿である。皿18は底部外面を除いて赤色顔料が塗布されている。皿19は底部内面に煤が付着する。皿20は底部内面にヘラ記号が施されている。黒色土器21は杯である。瓦器の可能性もある。黒色土器22は椀である。23は土師質の竈である。瓦24・25は平瓦である。Ｓ１～Ｓ３は石器で、Ｓ１は砂岩製敲石、Ｓ２は砂質片岩の敲石、Ｓ３は結晶片岩敲石である。Ｓ３は表裏面は磨石としても使用している。
時期　古代

58号溝状遺構（SD1058）（第45図）
位置　98－9区。Loc.Ｂ３　αⅣ　Ｍ・Ｎ・Ｏ・Ｐ・Ｑ・Ｒ・Ｓ－4、Ｍ－5グリッド
形態・規模　検出長23.2m、幅0.4～1.0m、深度22～30㎝を測る溝状遺構である。主軸は南北方向を指向し、南から北へと流れる溝である。
土層　遺構覆土は黄褐色砂質土である。
遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。
出土遺物　Ｔ１は板状の不明鉄製品である。素材もしくは鋤（鍬）の一部かも知れない。
時期　古代以降である。

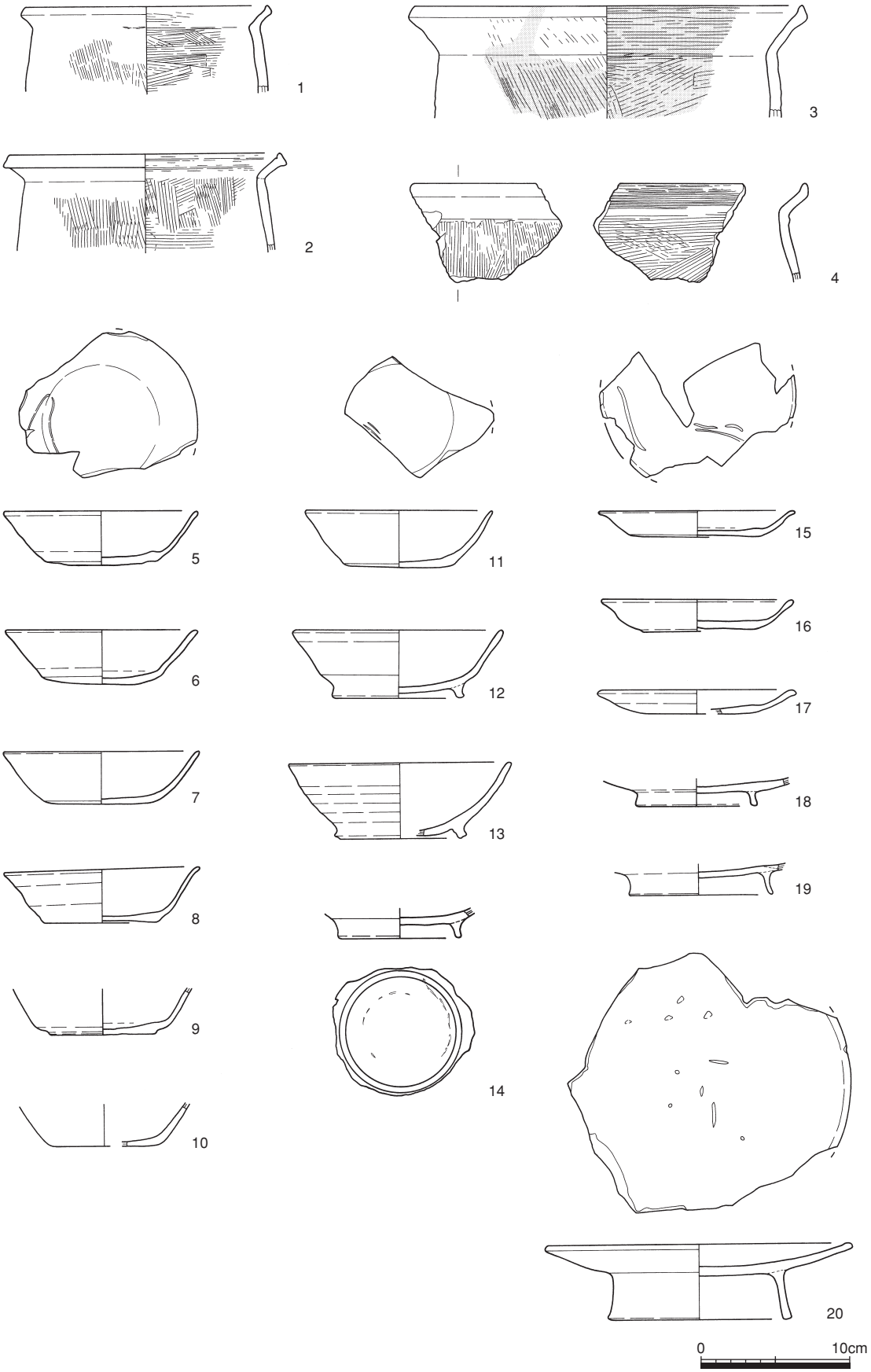
井戸
１号井戸（SE1001）（第46図）
位置　98－6区。Loc.Ｂ３　β３　Ｎ－6グリッド
規模と形状　内長軸径0.8m、内短軸径0.7mを測る石積み井戸である。石積み部分の高さは1.84mを測る。石積みには結晶片岩の川原石を使用している。井戸の堀片は、長軸2.95m、短軸2.9mを測る。
土層　井戸内堆積土は緑灰色粘質土や灰オリーブ色粘質土である。堀片埋土は暗灰黄色粘質土である。
遺物出土状況　出土状況を図化できるものはない。
出土遺物　図化可能遺物はない。
時期　近世以降と推定される。



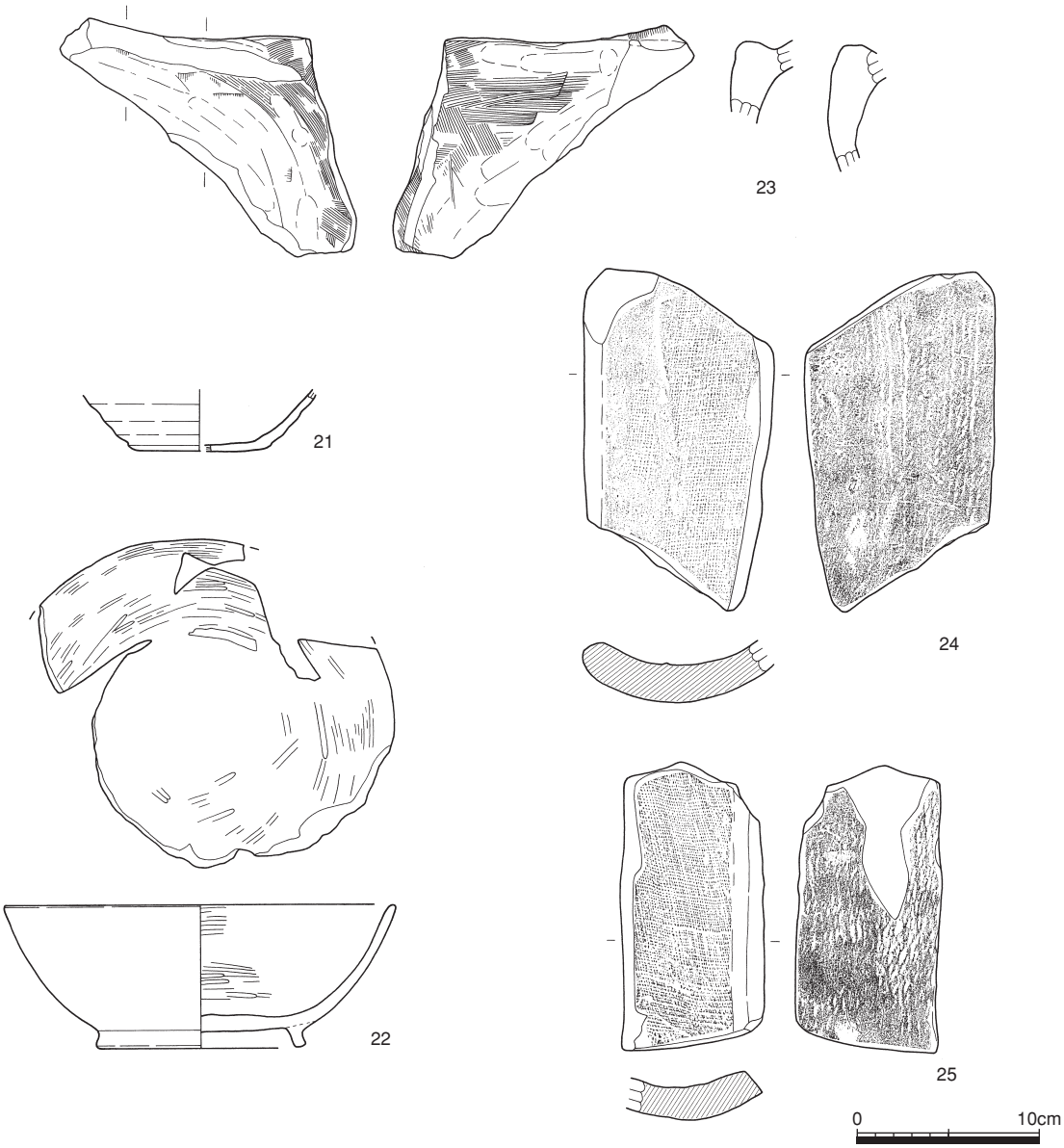
第40図　SD1011遺構平・断面図



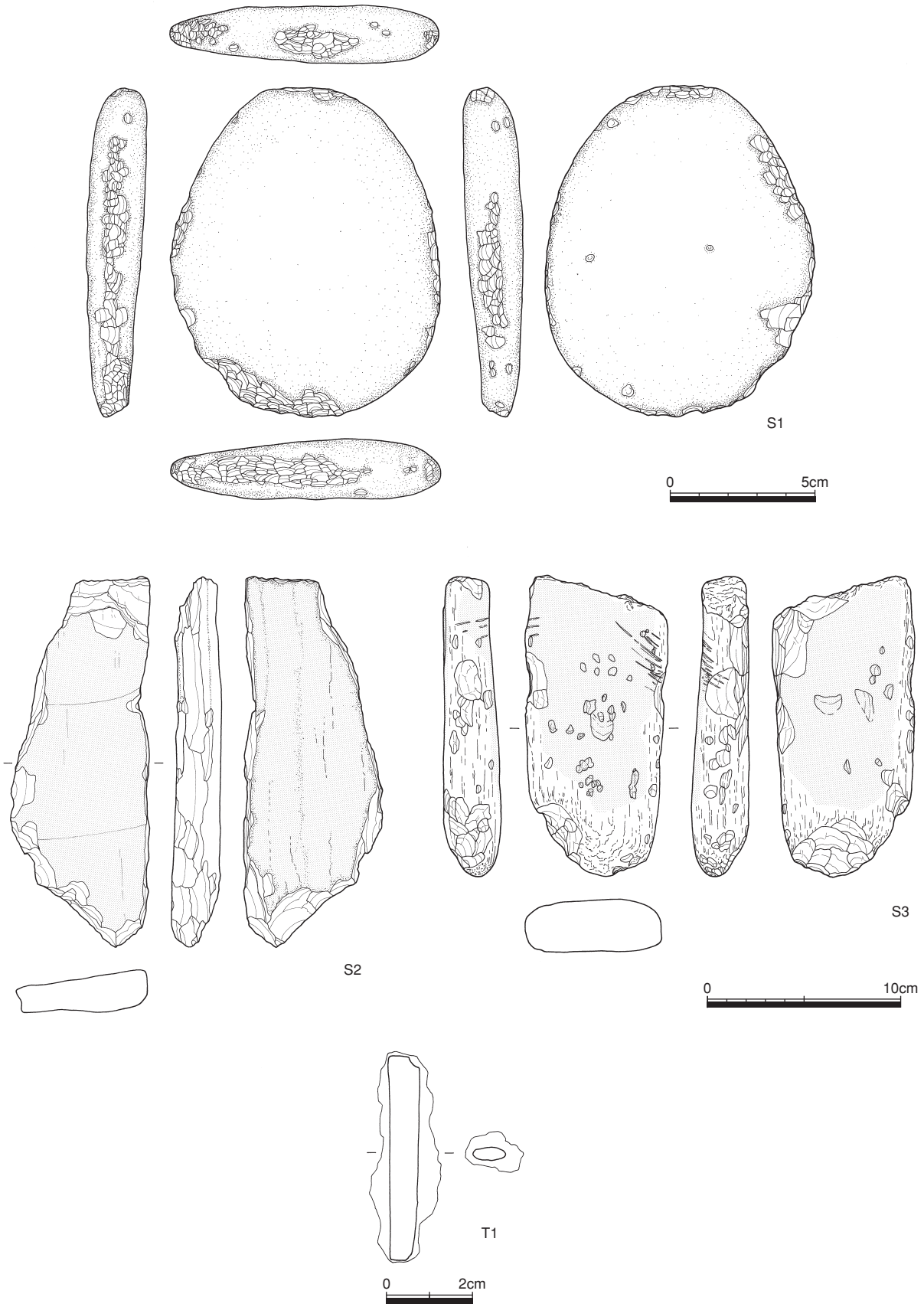
第41図　SD1011遺物出土状況図



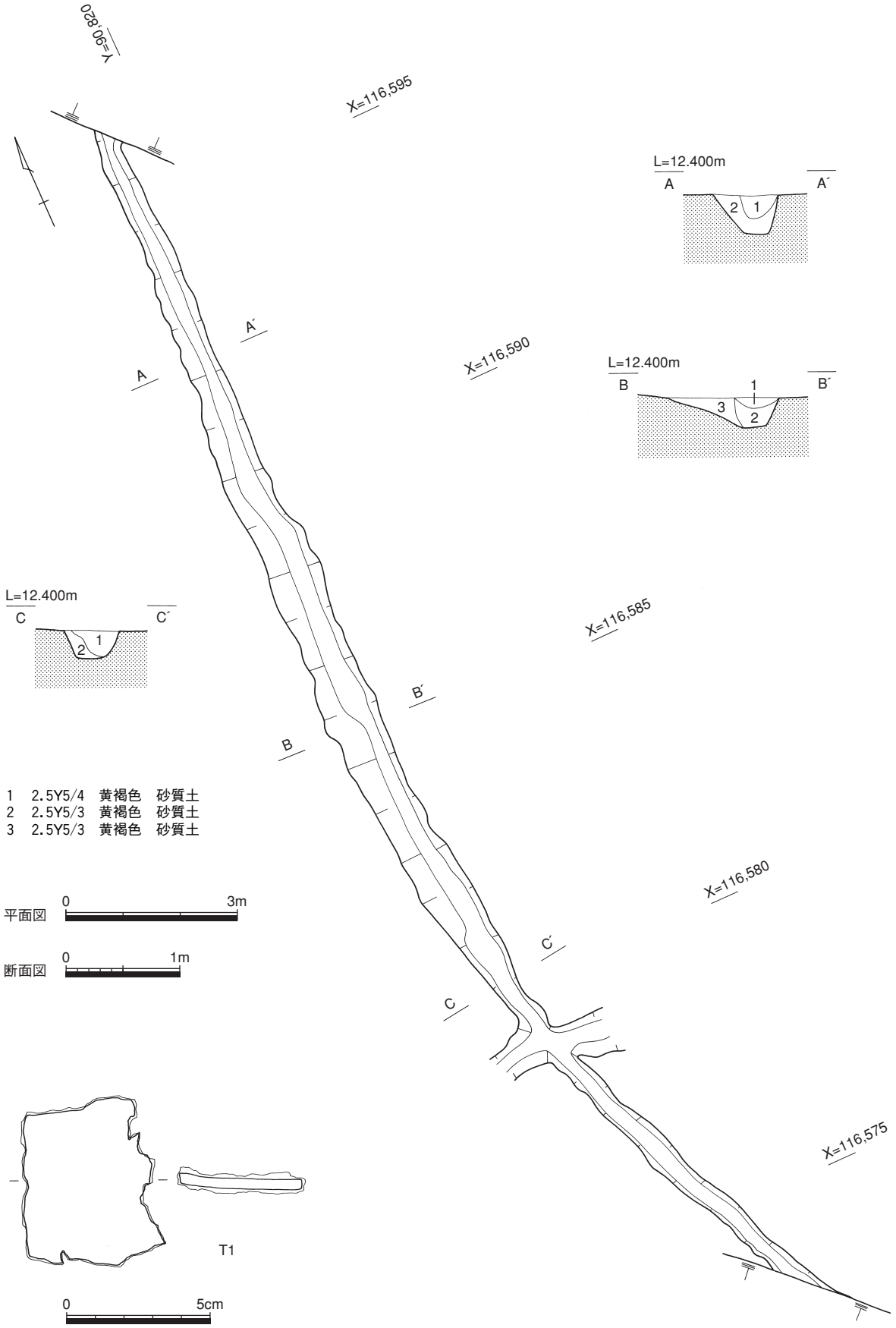
第42図　SD1011出土遺物図(1)



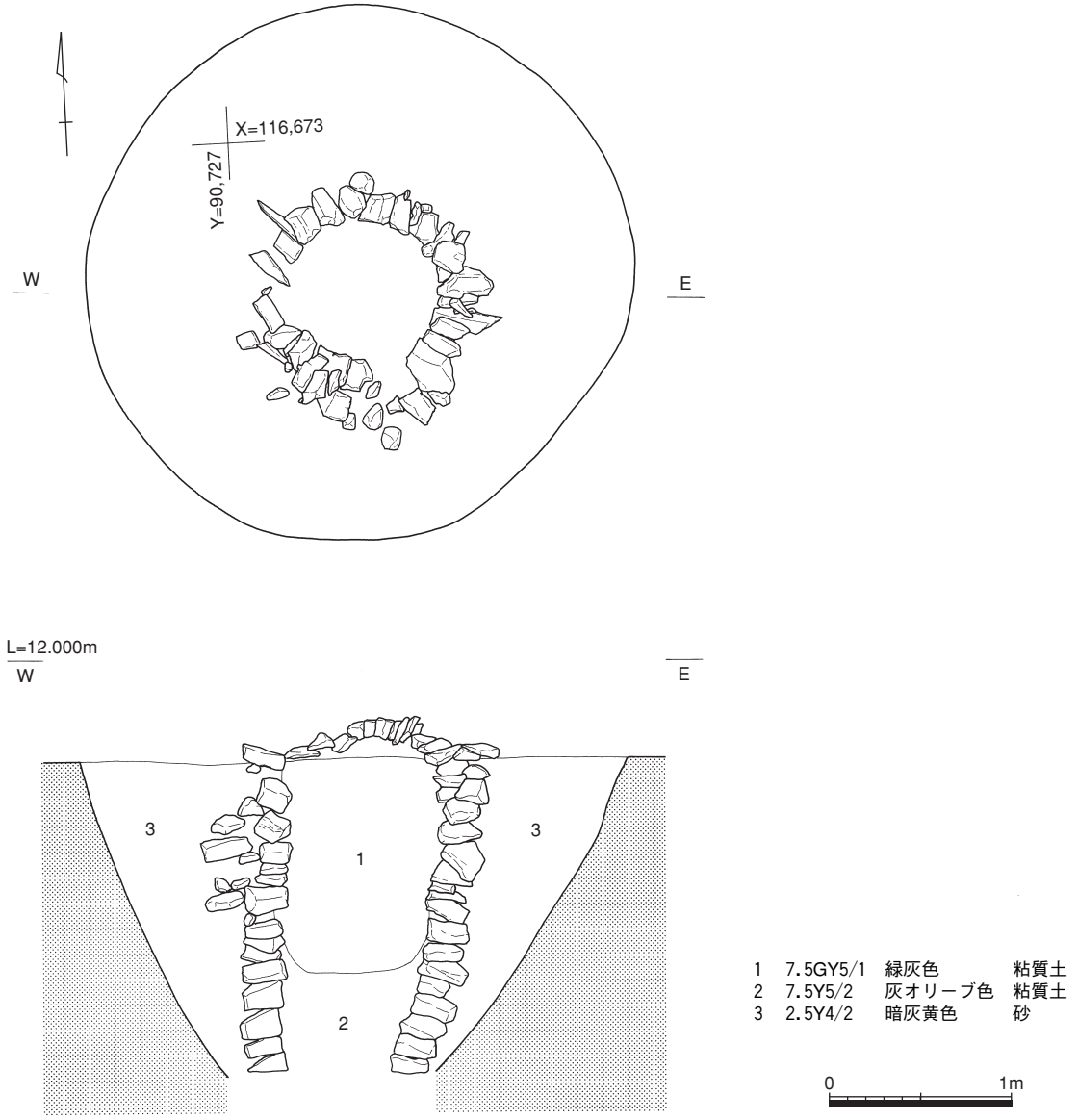
第43図　SD1011出土遺物図(2)



第44図　SD1011出土遺物図(3)



第45図　SD1058遺構平・断面図、出土遺物図



第46図　SE1001遺構平・断面図

水田

第１水田面（SI1001）（第48～116図）

規模と形状　調査対象地南側約2/3（1998・1999年度調査地点）を中心に水田遺構が検出された。鮎喰川の堆積による自然堤防間の低地部分を利用した水田である。集落関連遺構が検出された96－1～96－3、97－1区は自然堤防上に該当する。この自然堤防より南東側（鮎喰川側）に水田遺構が展開している。

自然堤防に一番近い97－1区では、水田畦畔は明瞭ではなく、検出できなかった。97－2区では、最大10×７ｍから最小６×2.5ｍ規模を測る区画が検出された。水口等は不明である。しかし、97－1区南側において溝状遺構が検出されていることや、微高地が存在することから北西側からの給水が想定される。

98－1～98－9区、99－1～99－3区では、比較的大きな区画の水田遺構が検出された。98－6区南端部には島状高まりが検出された。この島状高まりの北西側（98－1～99－5区）の区画は、15×11ｍ規模の

区画となる。区画は南北方向に連続する。鮎喰川本流による自然堤防の形成に従い、後背湿地も南北方向に形成されたことに起因するものである。島状高まりの周辺では、区画は小型化したり不整形な形状を呈する。

島状高まりの南東側（98－7区）では、小規模区画の水田が検出された。最大15×7.5mから最小4.4×3.8m規模の区画が連続する。各区画の南北方向に水口が設けられていることから、南から北に向かって給水されていたと推定される。東西両隣の区画には水口を通じた給水は確認できない。これは南北方向に延びる自然堤防の等高線に沿って水田が造成されたことに起因すると考えられる。

小区画水田の西側や南側（98－9区、99－1～99－3区）には、比較的大きな区画の水田遺構が検出された。島状高まりの北西側水田区画とほぼ同規格である。

出土遺物　第55図は96－4区で出土した遺物である。１は須恵器壺である。陶器２は杯である。３は土師器杯である。内外面に赤色顔料が塗布されている。土師器４は杯である。土製品５・６は土錘である。鉄製品Ｔ１は不明鉄製品である。

第56図は97－1区で出土した遺物である。土製品１は土錘である。

第115・116図は1998・1999年度調査区で出土した遺物である。１～３は須恵器で、１は杯、２は長頸壺、３はハソウである。４～９は土師器、９・10は土師質土器である。４は杯である。内外面に赤色顔料が塗布されている。５は杯、６は高杯、７は高台付皿である。内面及び高台に煤が付着する。８・９は皿である。９は羽釜脚、10は把手付鍋の把手部である。12～14は土錘である。15は白磁碗、16は青磁碗で、鎬蓮弁文が施されている。17は青磁皿である。陶器18は擂鉢、19は平瓦である。鉄器Ｔ１は椀型滓である。鉄器Ｔ２は鉸具である。鉄器Ｔ３・Ｔ４は釘である。Ｓ１～Ｓ２は石器で、Ｓ１は結晶片岩製砥石、２は凝灰岩製砥石である。

時期　古代以降である。

土坑

１号土坑（SK1001）（第117・118図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－15グリッド

規模と形状　長軸1.49m、短軸0.9m、最大深度0.44mを測る不整楕円形を呈する土坑である。南西側中央部にSPが切り合う。遺構北半部より土師器が出土した。

土層　遺構覆土はオリーブ色砂質土、灰オリーブ色砂質土である。

出土遺物　１・２は土師器杯で、内外面に赤色顔料が塗布されている。

時期　古代である。

２号土坑（SK1002）（第119・120図）

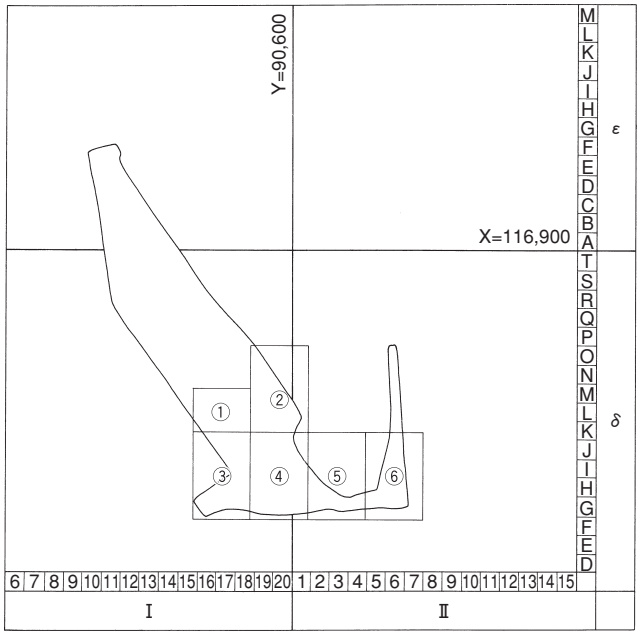
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－14グリッド

規模と形状　長軸1.24m、短軸1.24m、深度0.18mを測る円形を呈する土坑である。覆土中より結晶片岩川原石と共に土師器が出土した。

土層　遺構覆土は灰黄色砂質土、黄灰色砂質土である。

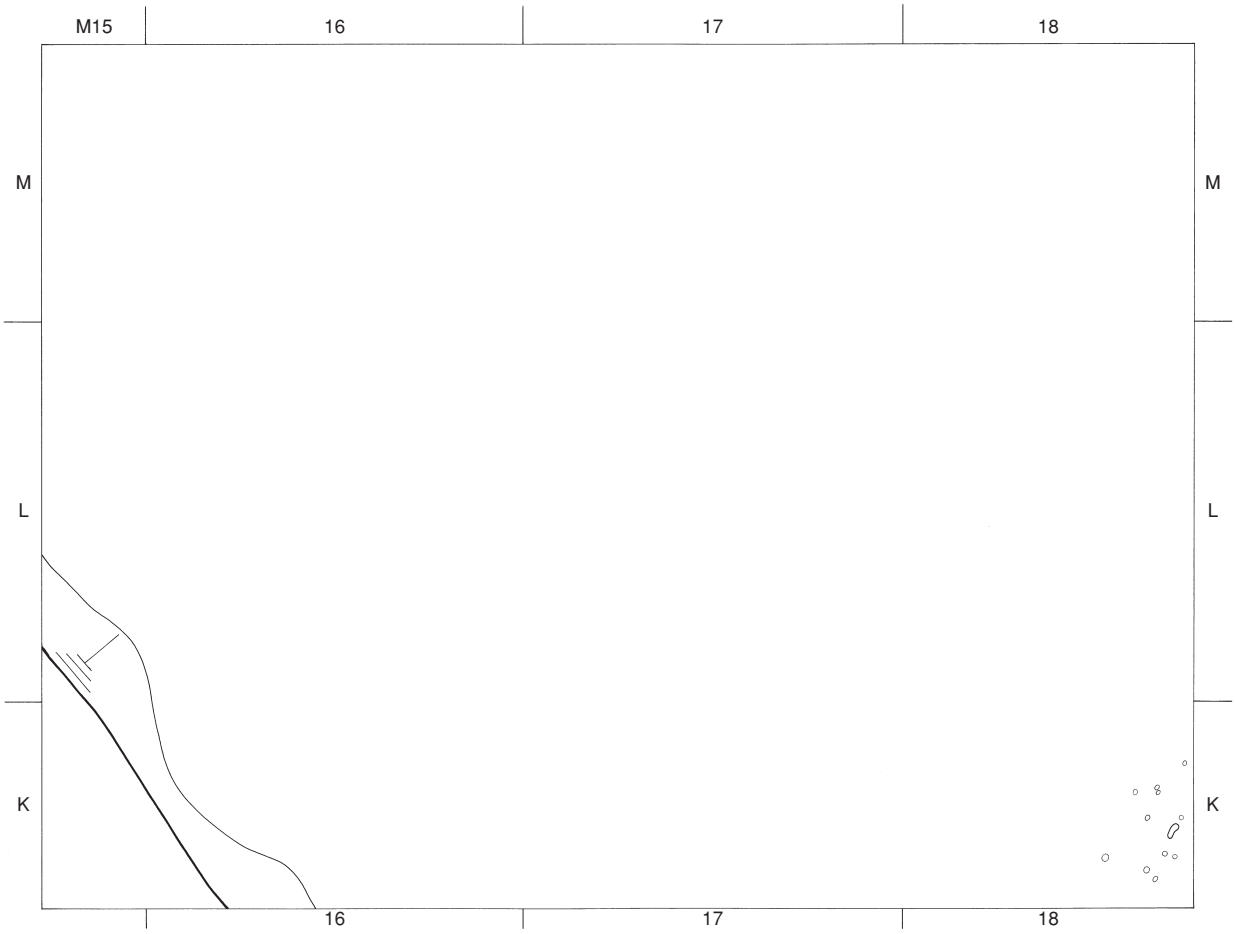
出土遺物　１は土師器皿である。

時期　中世である。

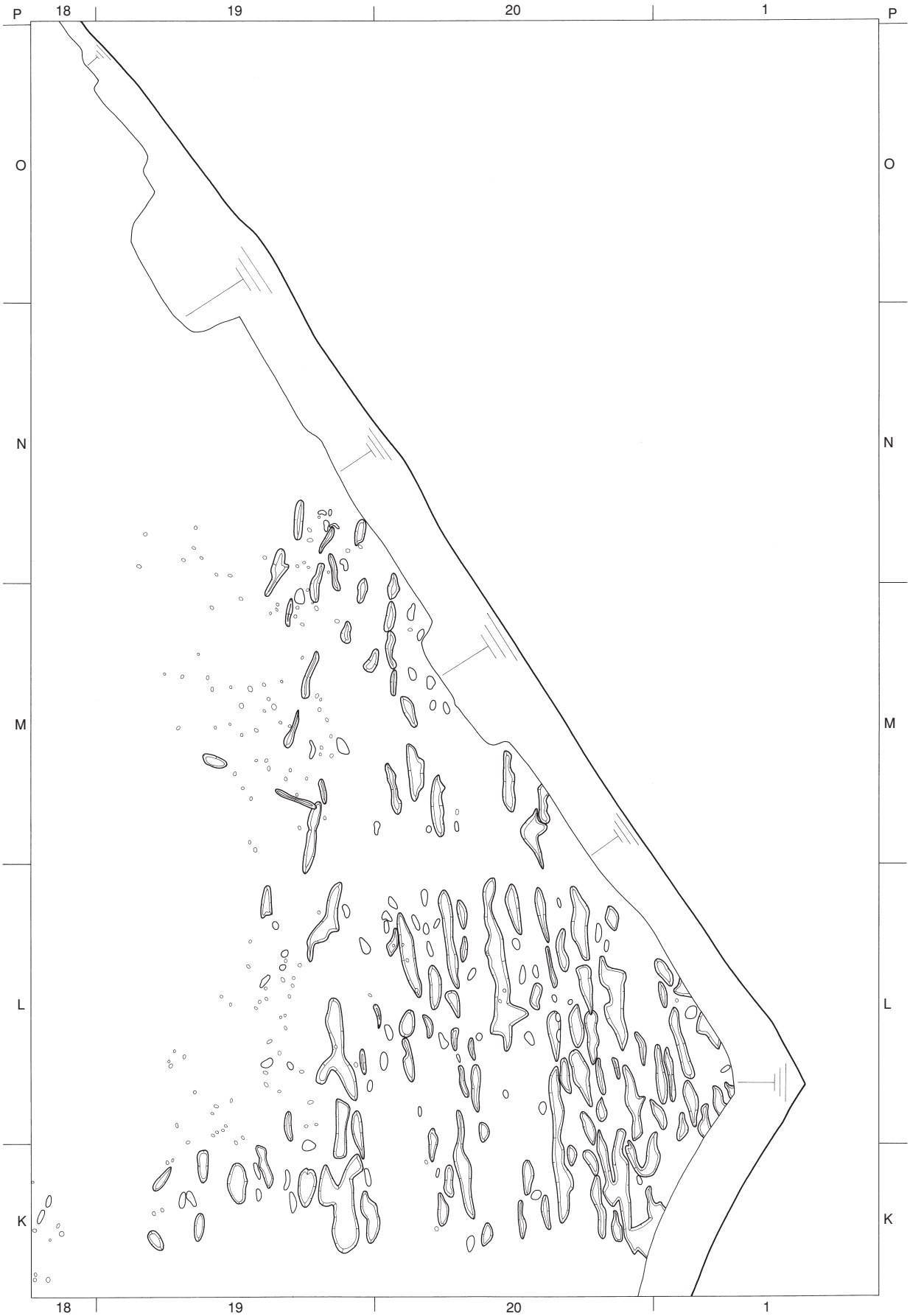


割付図の①～⑥までの番号は、第48図～第53図までに記載されているキャプションの数字と同じである

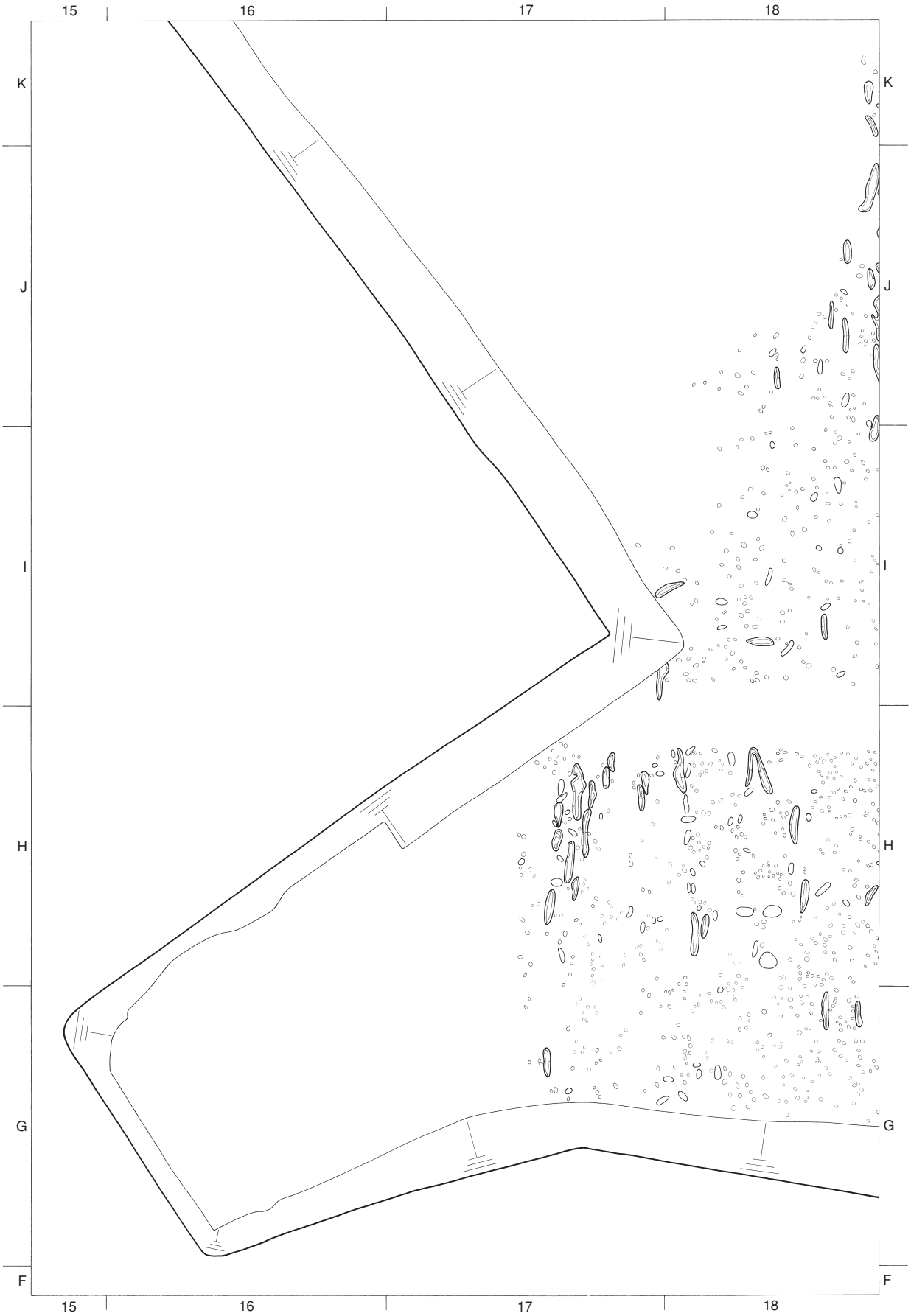
第47図　第１－２水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）



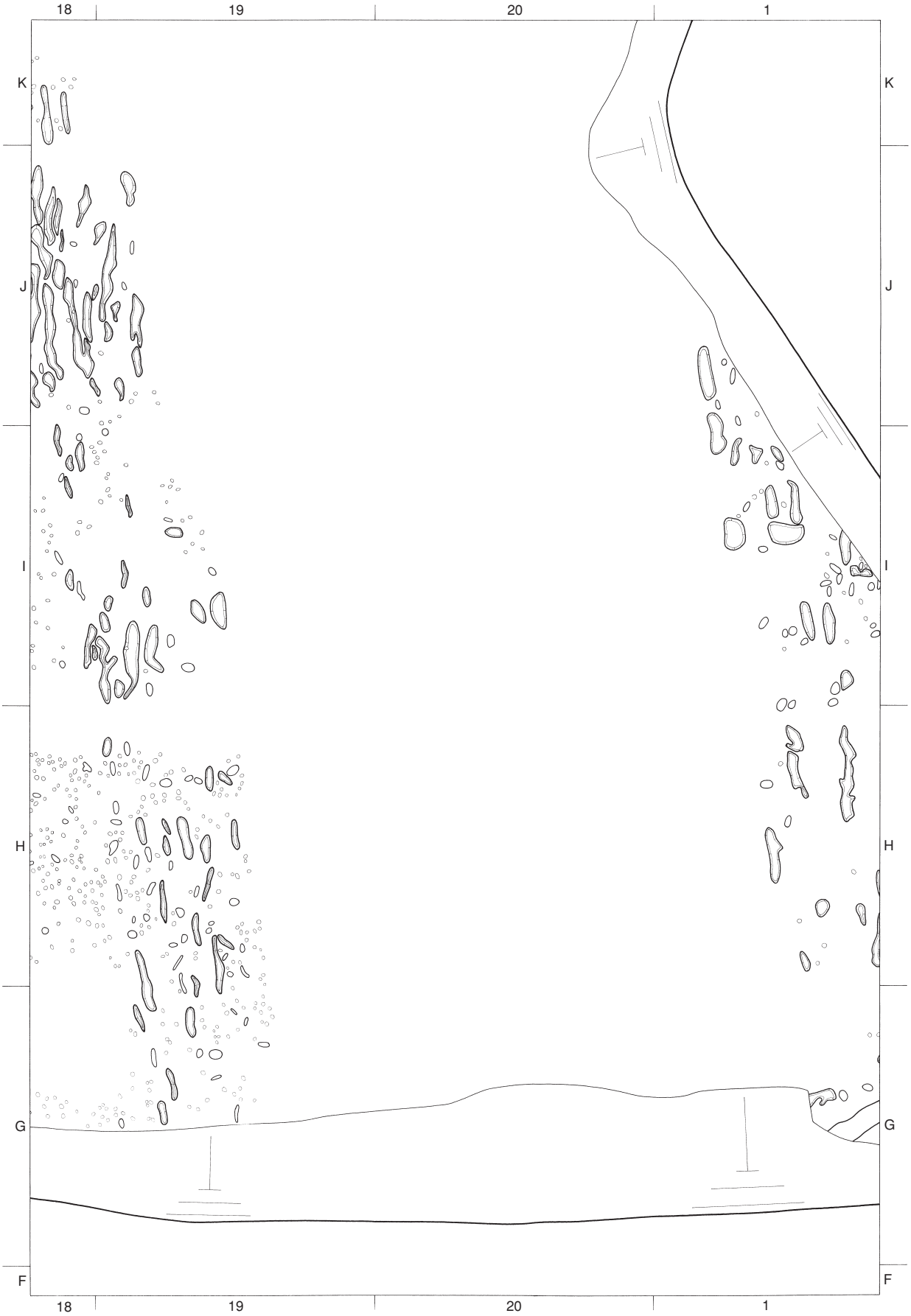
第48図　第１－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



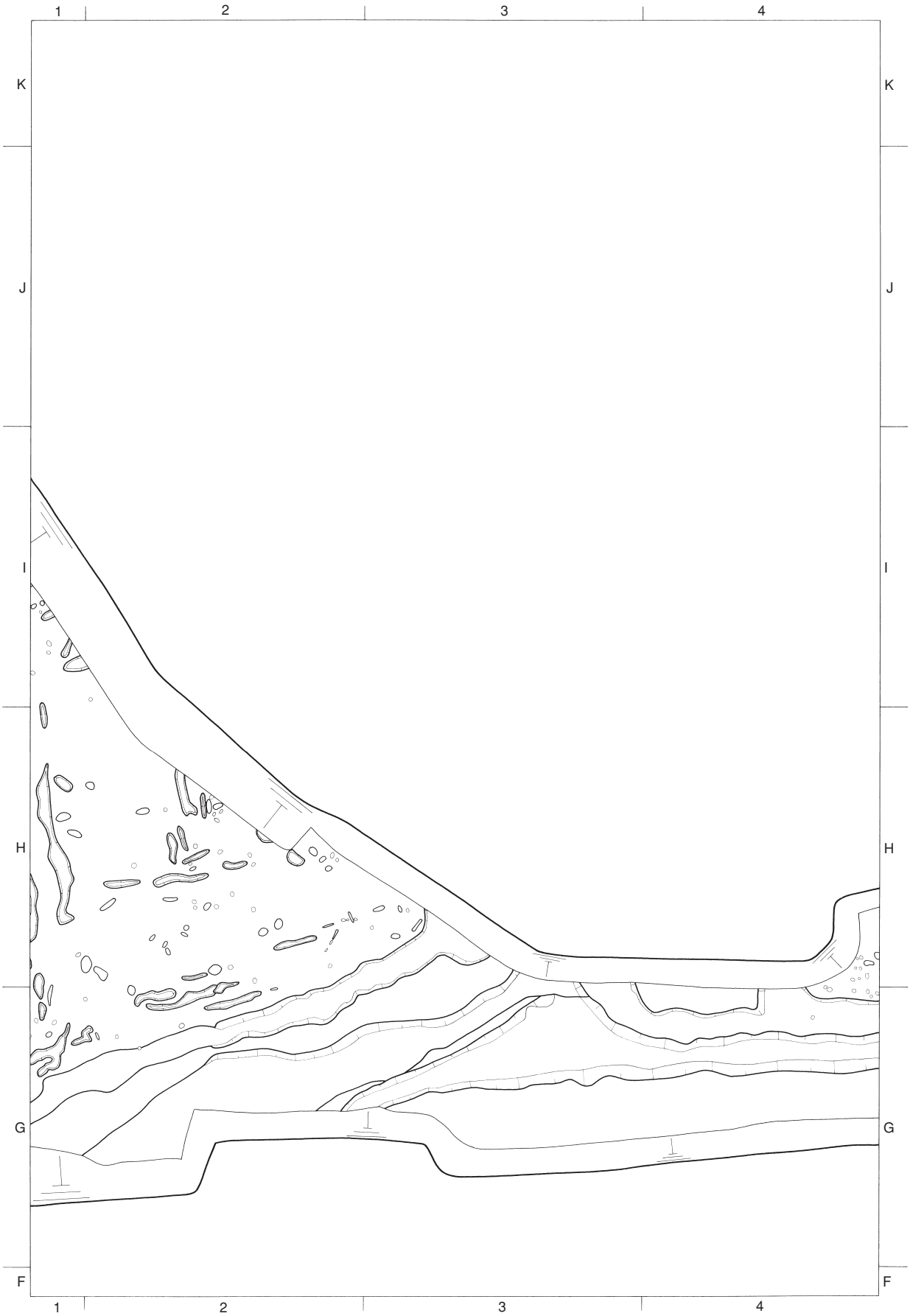
第49図　第１－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



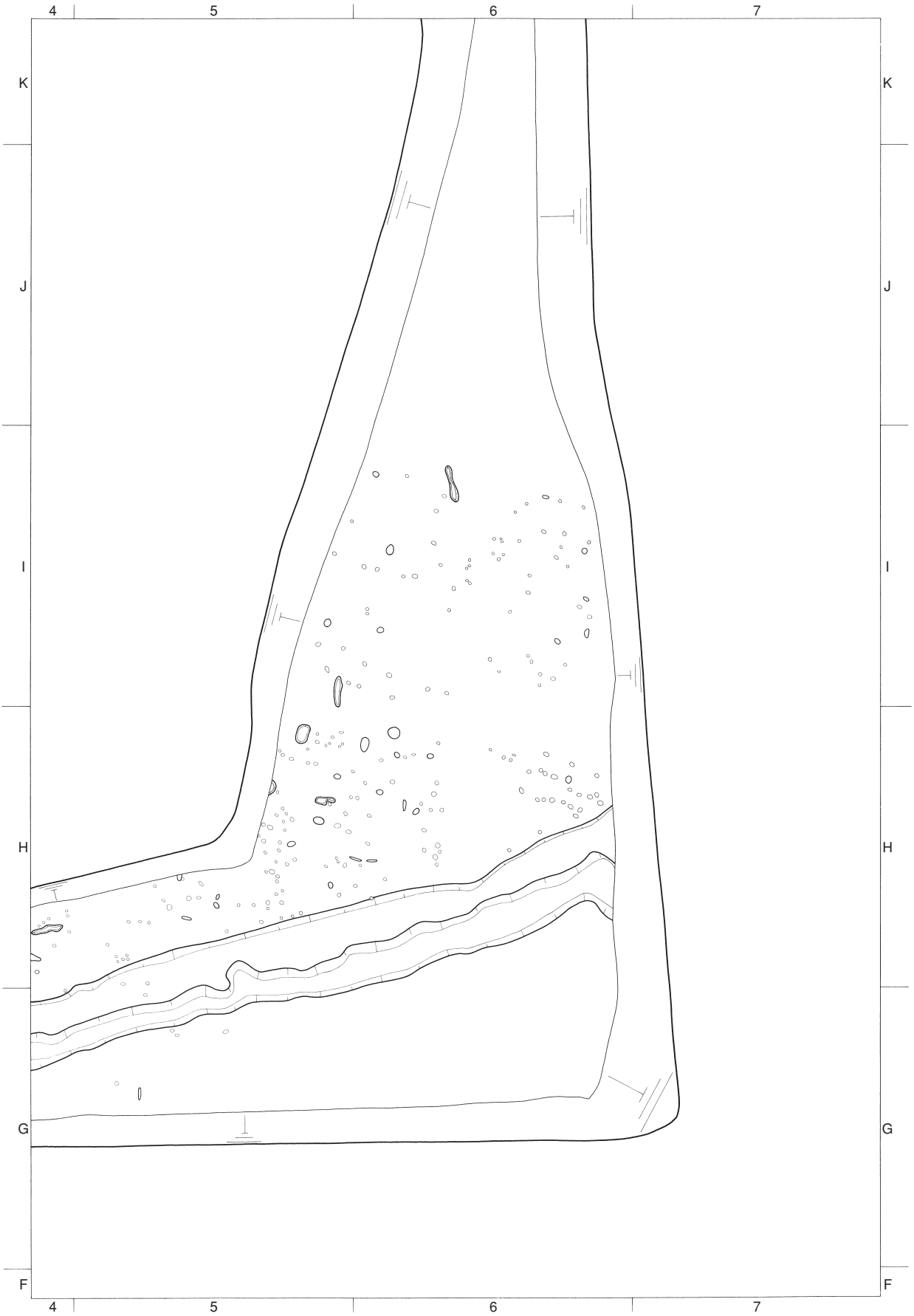
第50図　第１－２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）



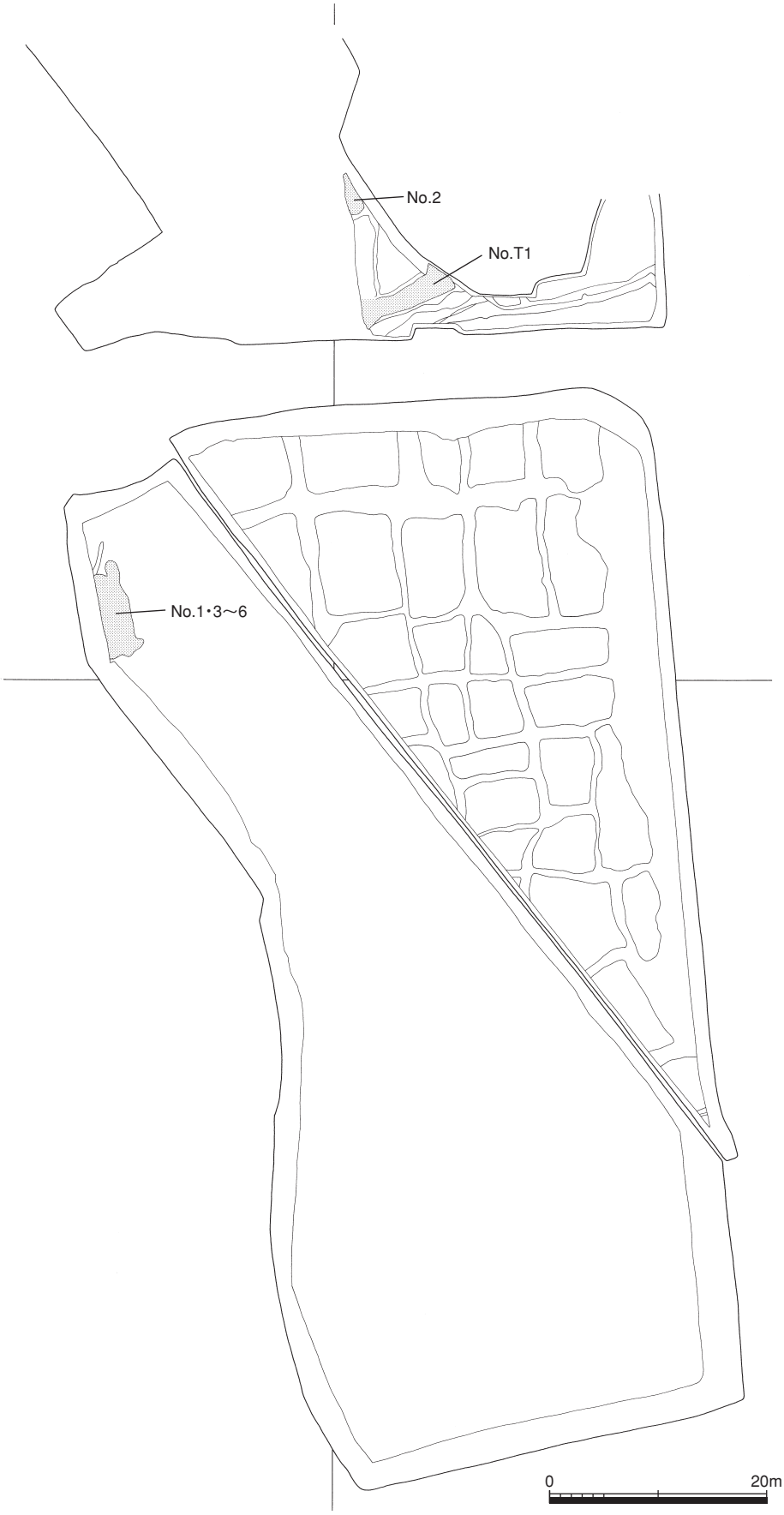
第51図　第１－２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）



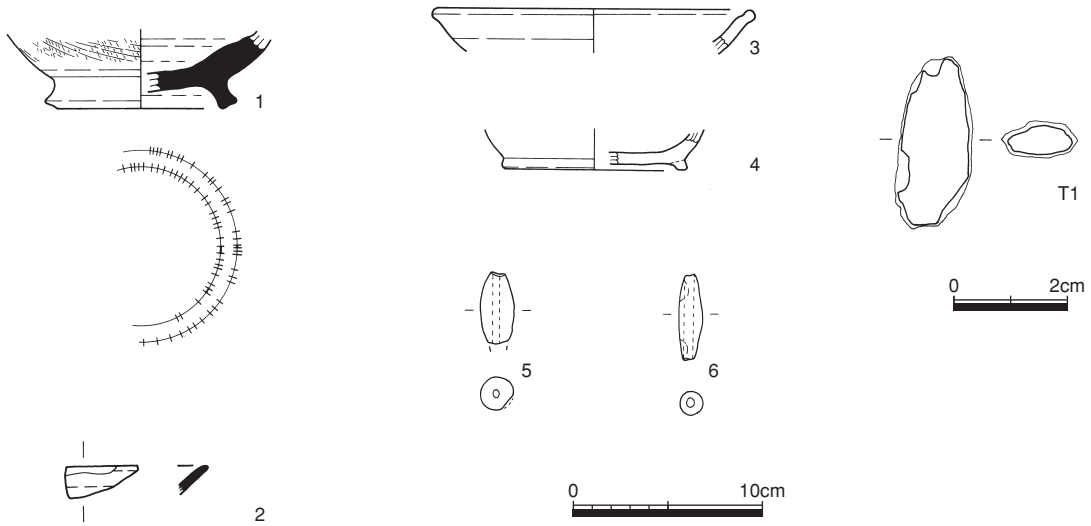
第52図　第１－２水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）



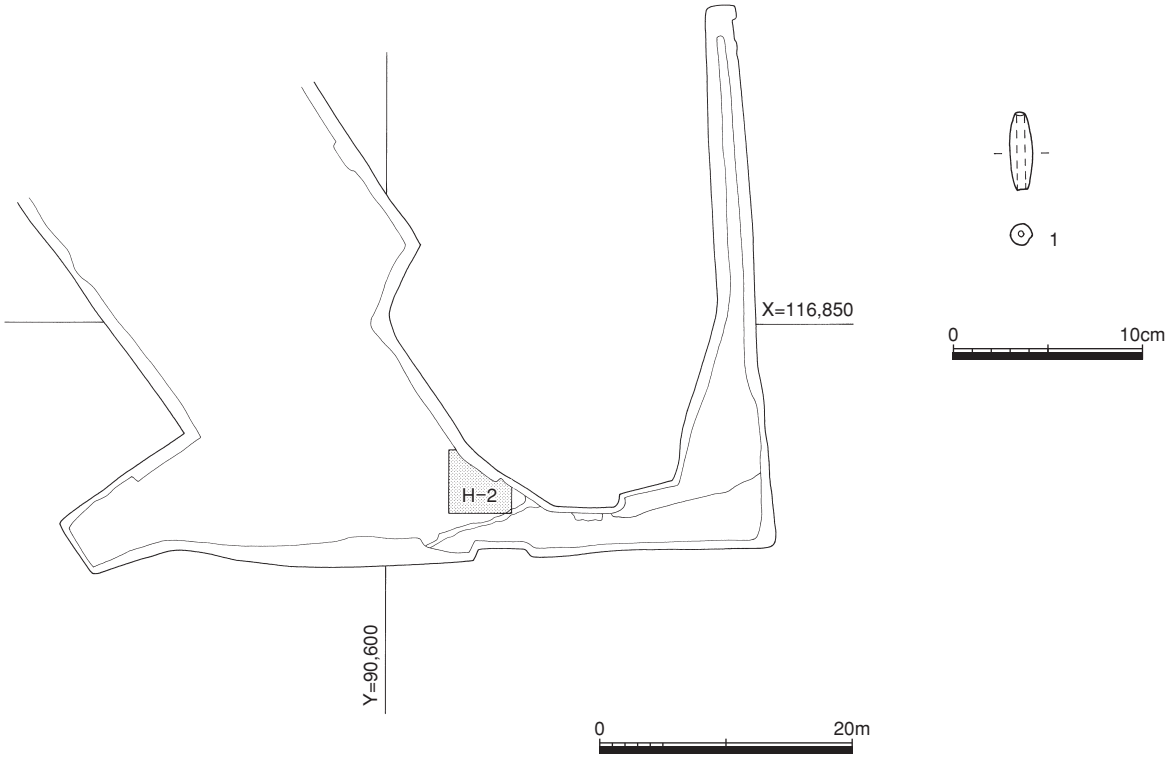
第53図　第１－２水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）



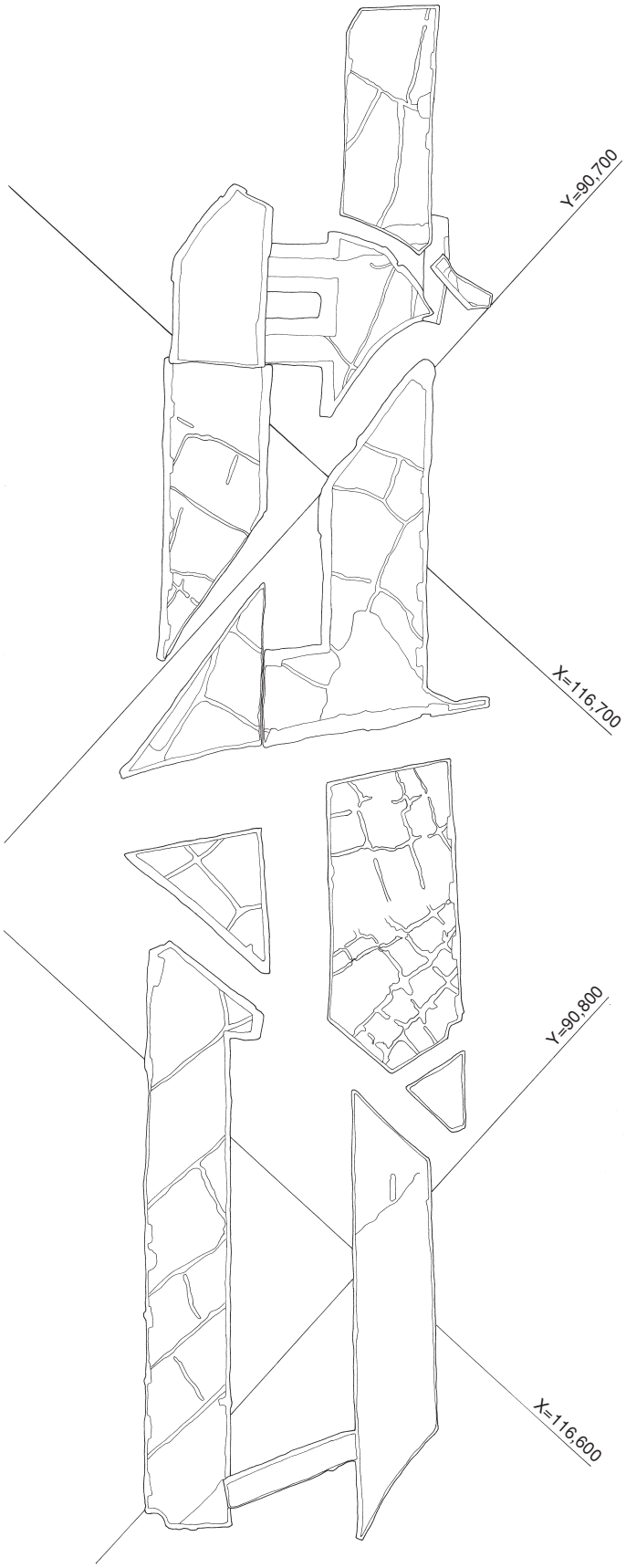
第54図　第１水田面遺物出土地点グリッド対応図



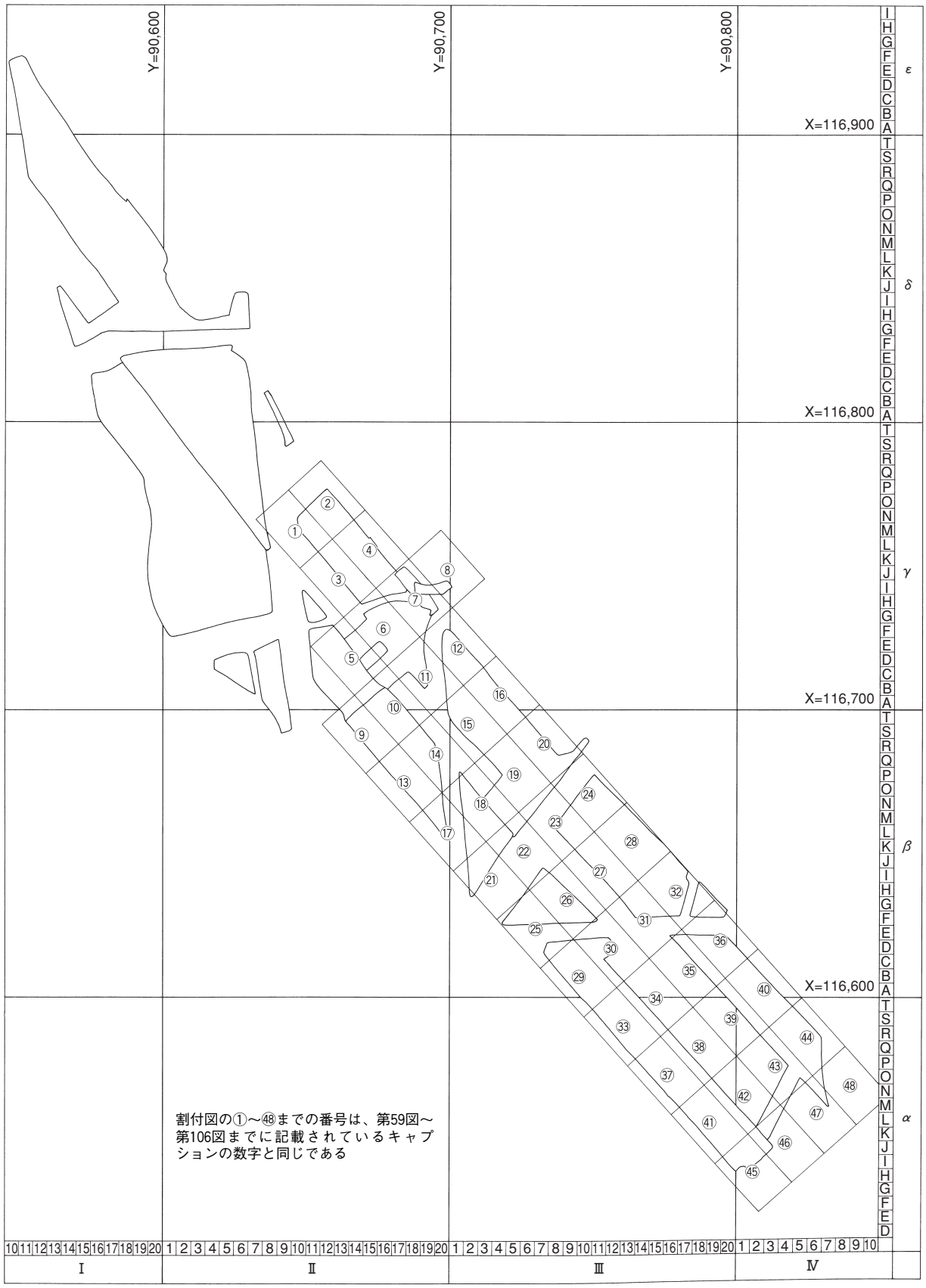
第55図　第１水田面出土遺物図



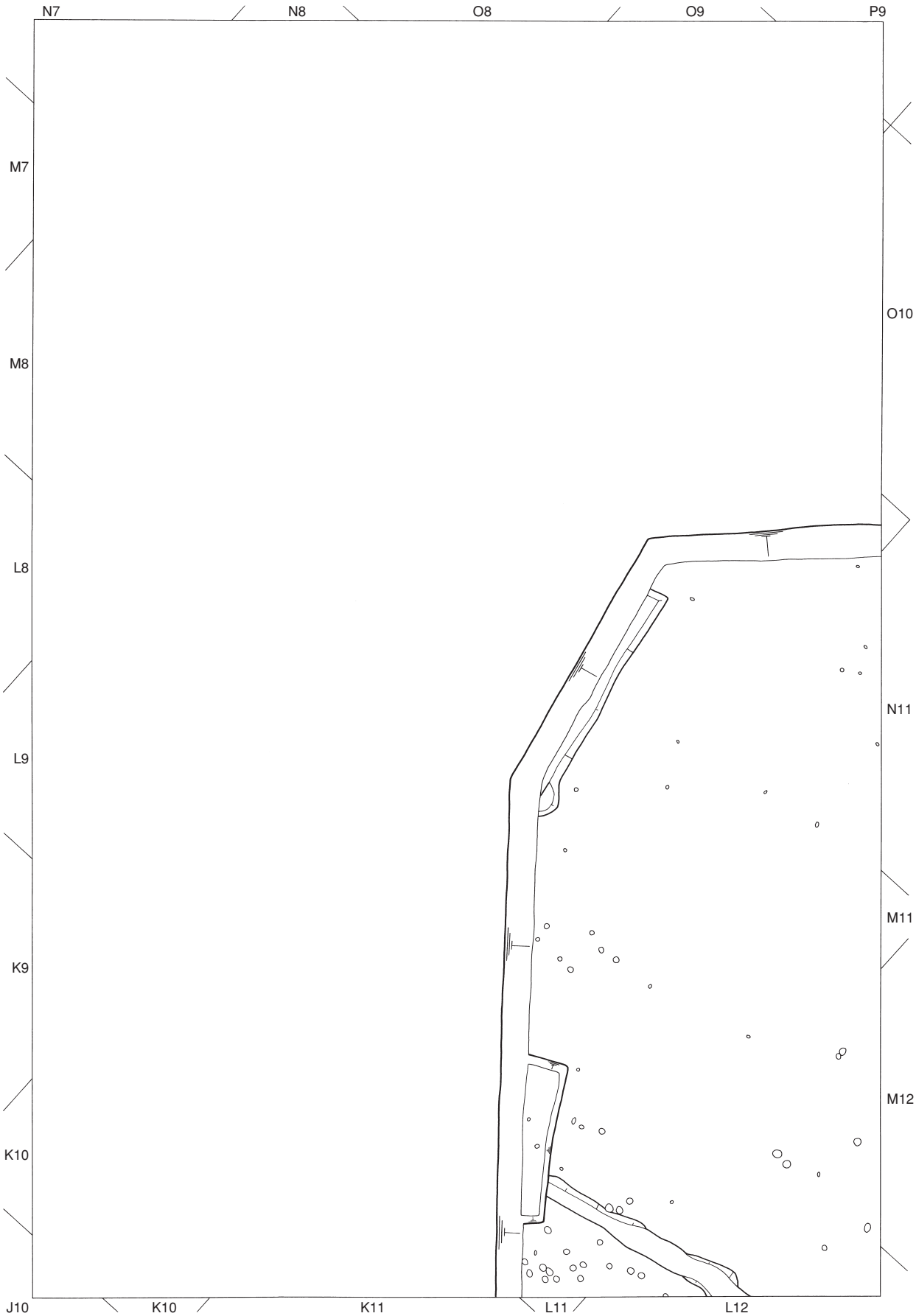
第56図　第１―２水田面遺物出土地点グリッド対応図・出土遺物図



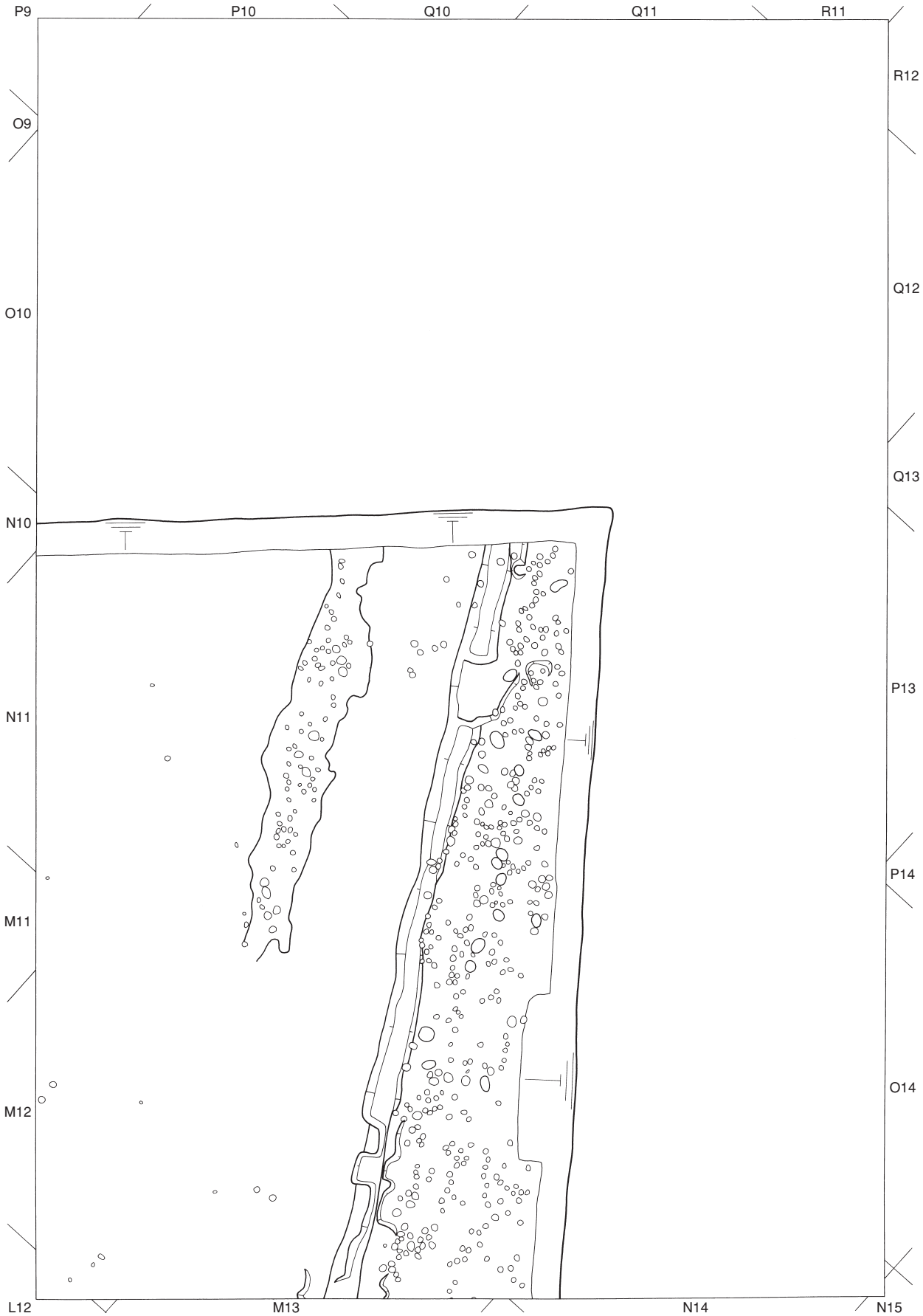
第57図　第１水田面遺構配置図（S＝1/1250）



第58図　第１水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）



第59図　第１水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



第60図　第１水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）

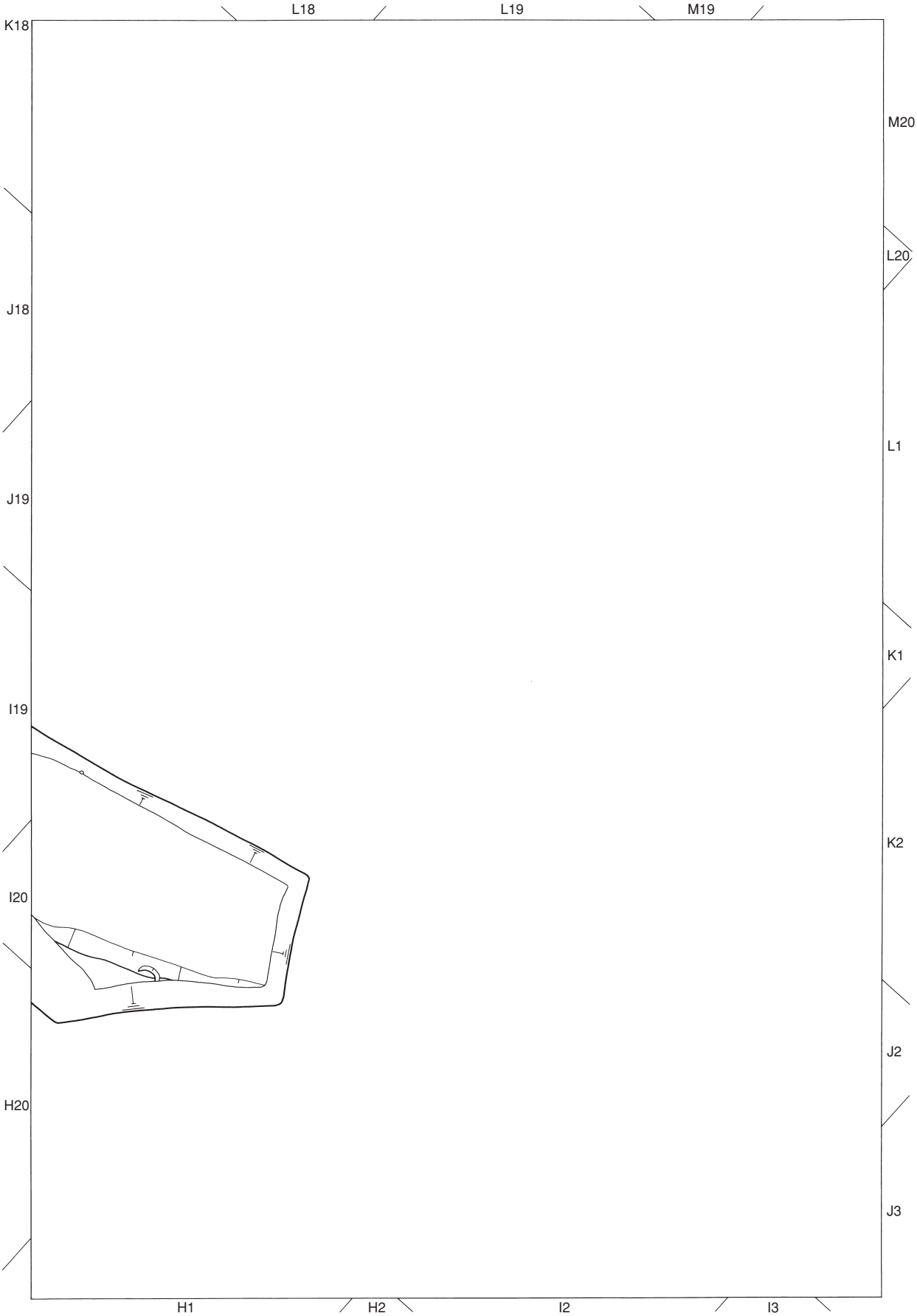
第61図　第１水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）

第62図　第１水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）

第63図　第１水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）

第64図　第１水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）

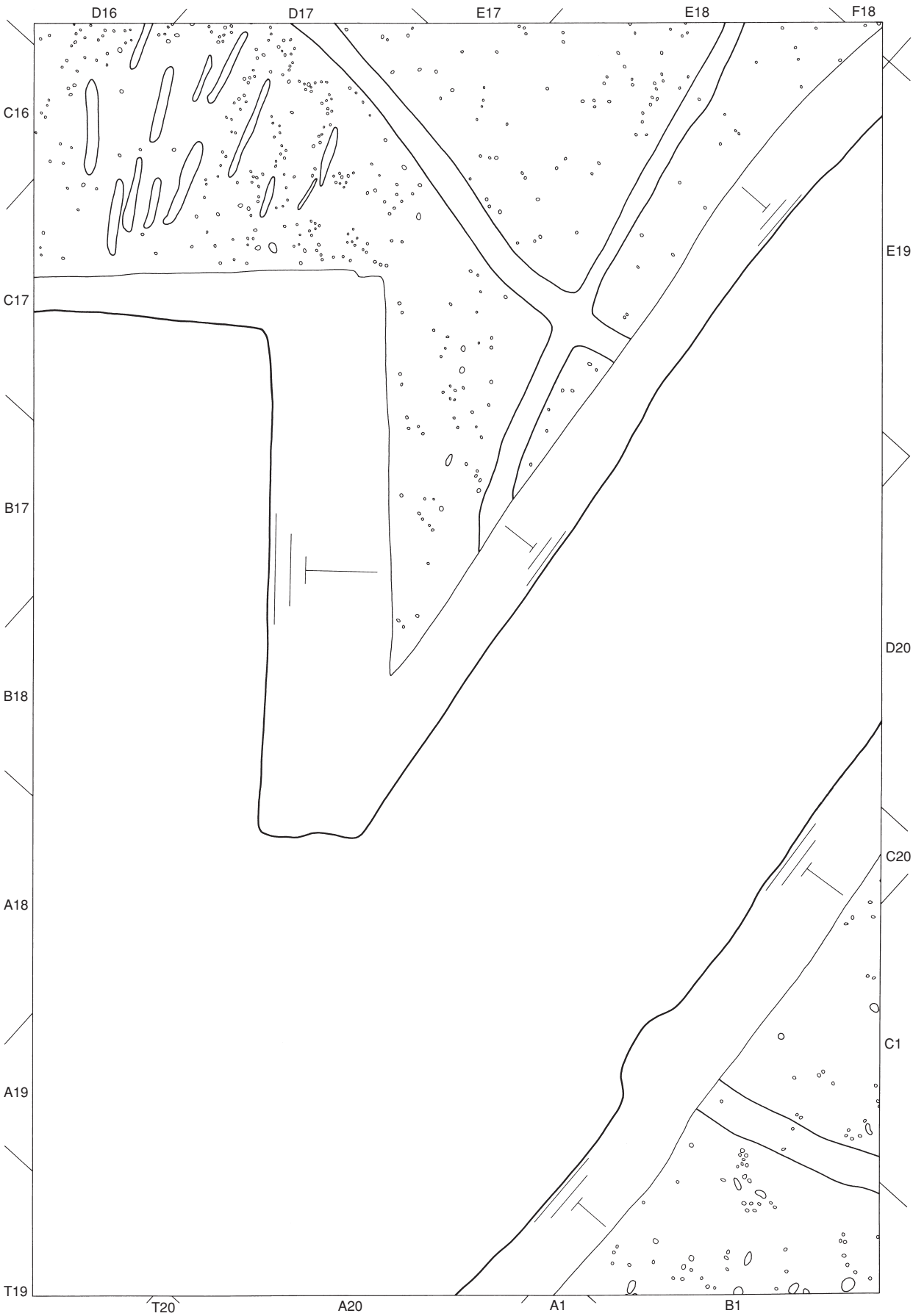
第65図　第１水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）



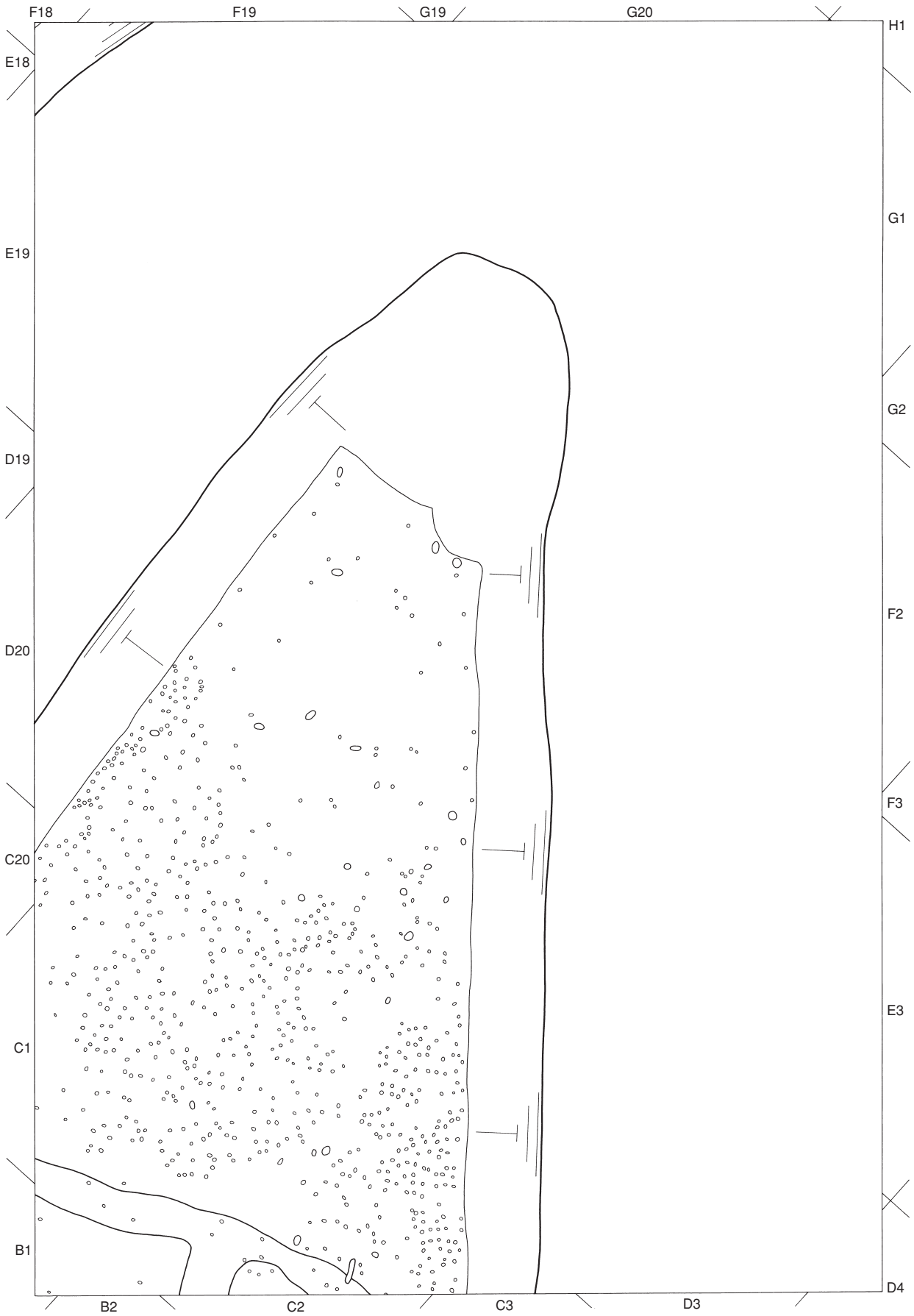
第66図　第１水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）

第67図　第１水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）

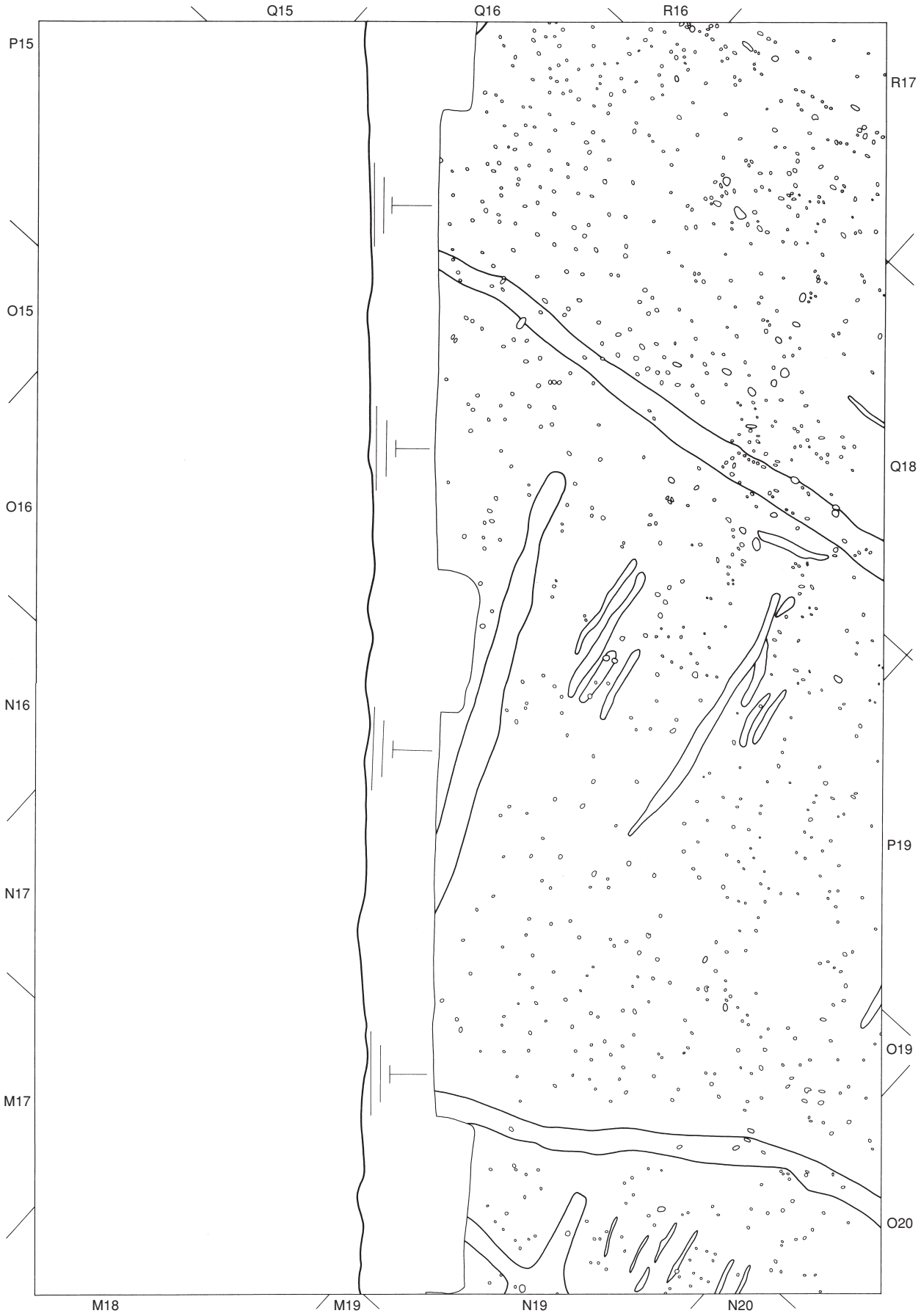
第68図　第１水田面遺構平面図⑽（S＝1/100）



第69図　第１水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）

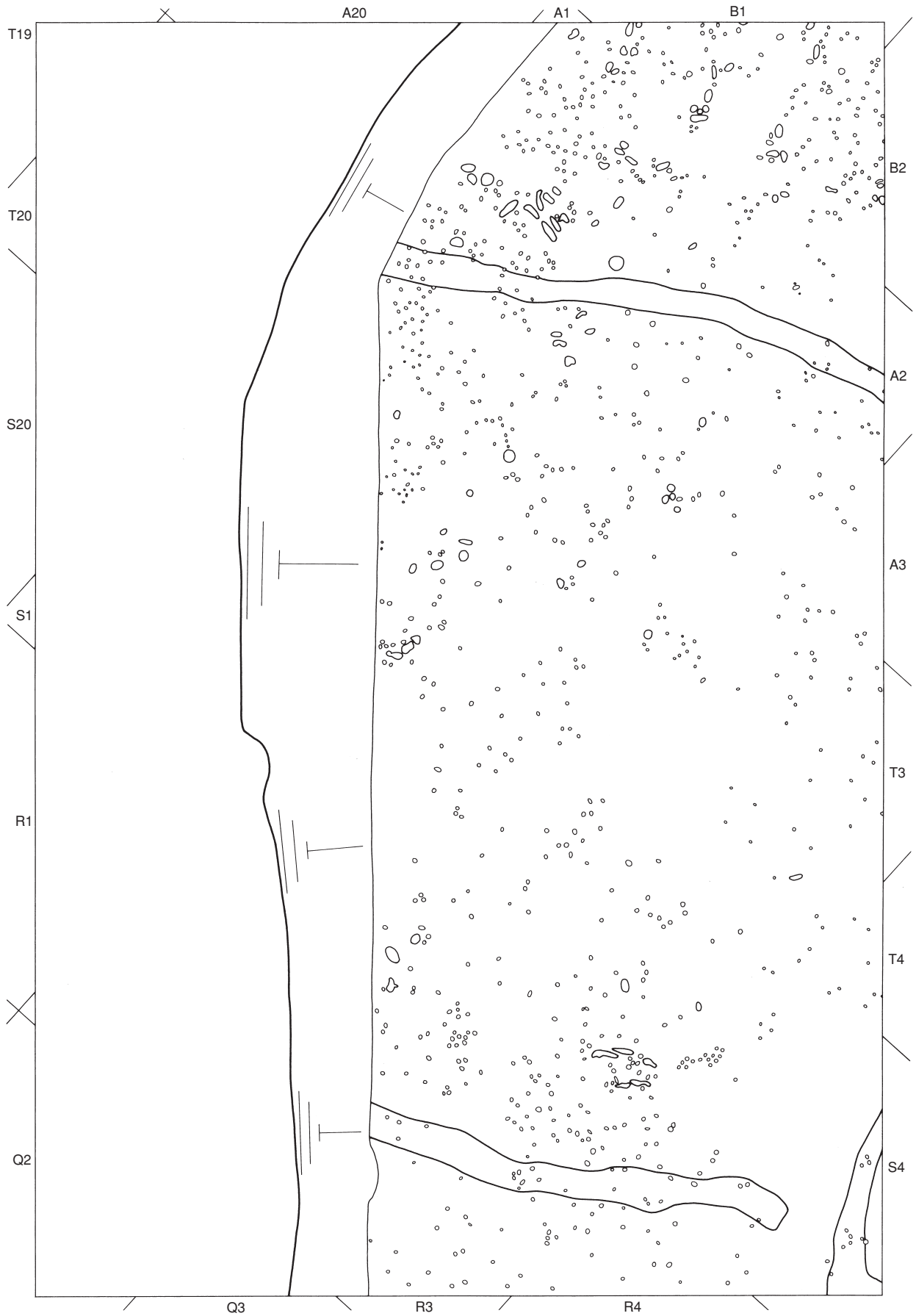


第70図　第１水田面遺構平面図⑫（S＝1/100）



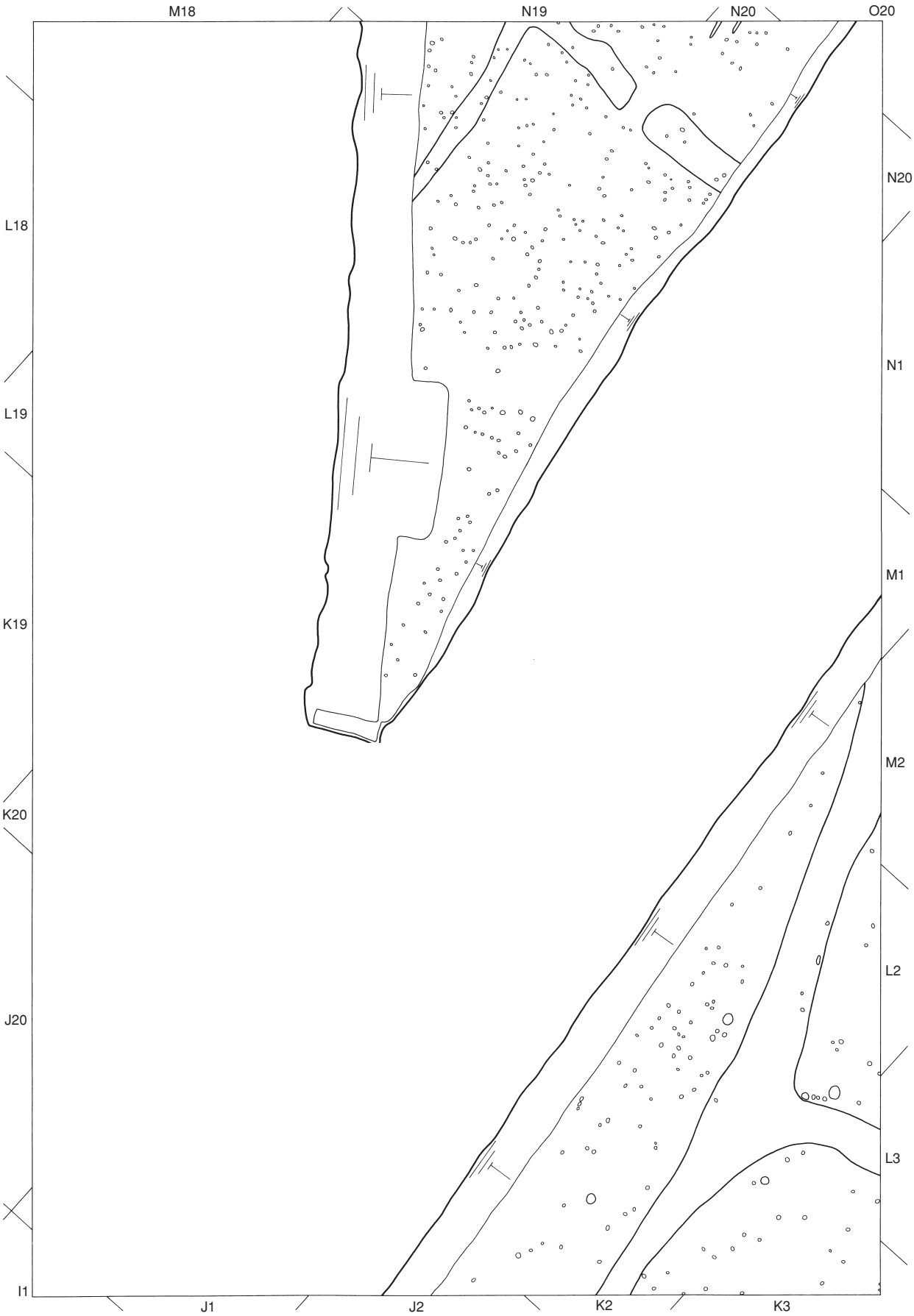
第71図　第１水田面遺構平面図(13)（S＝1/100）

第72図　第１水田面遺構平面図⑭（S＝1/100）



第73図　第１水田面遺構平面図⑮（S＝1/100）

第74図　第１水田面遺構平面図⑯（S＝1/100）

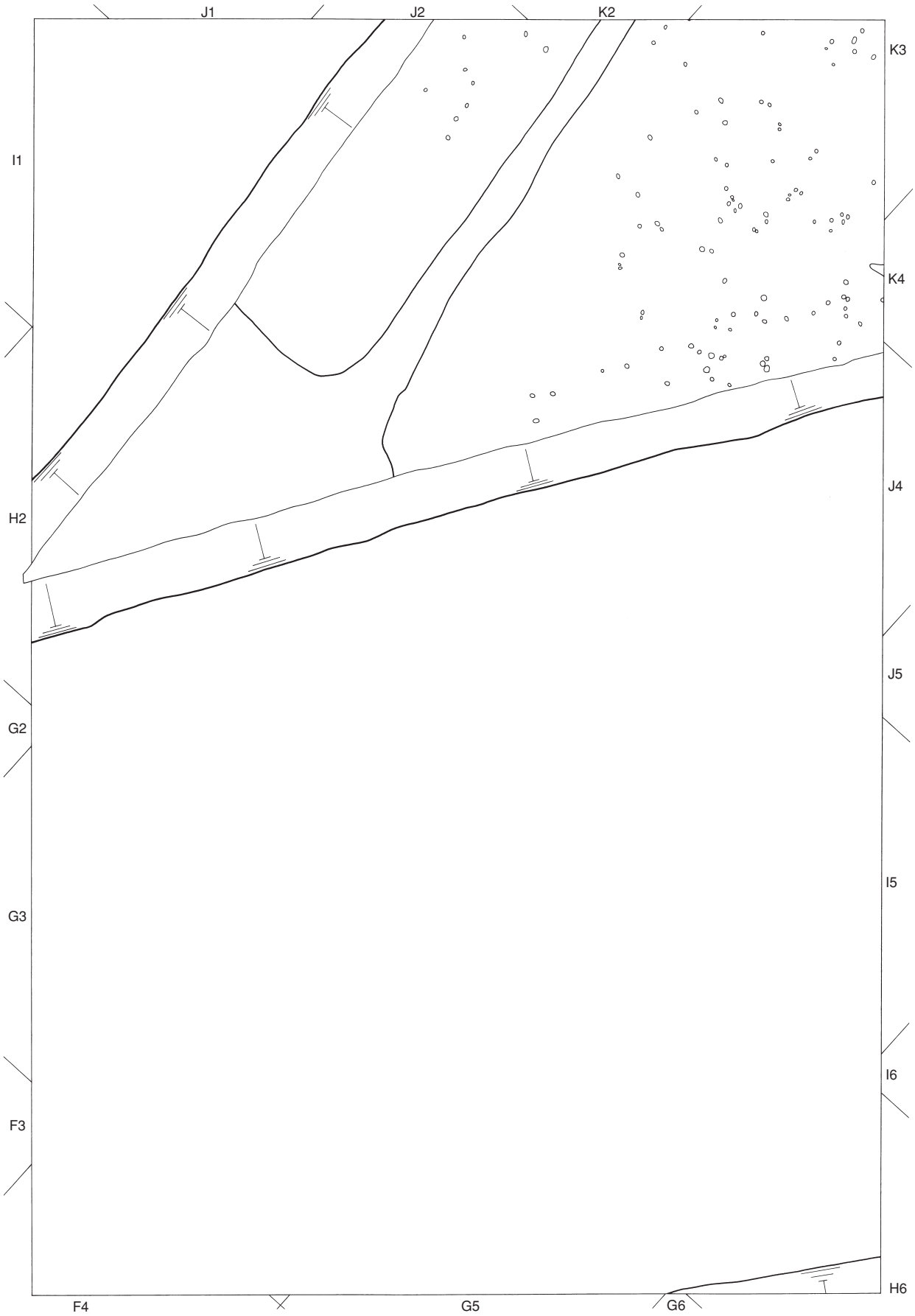


第75図　第１水田面遺構平面図(17)（S＝1/100）

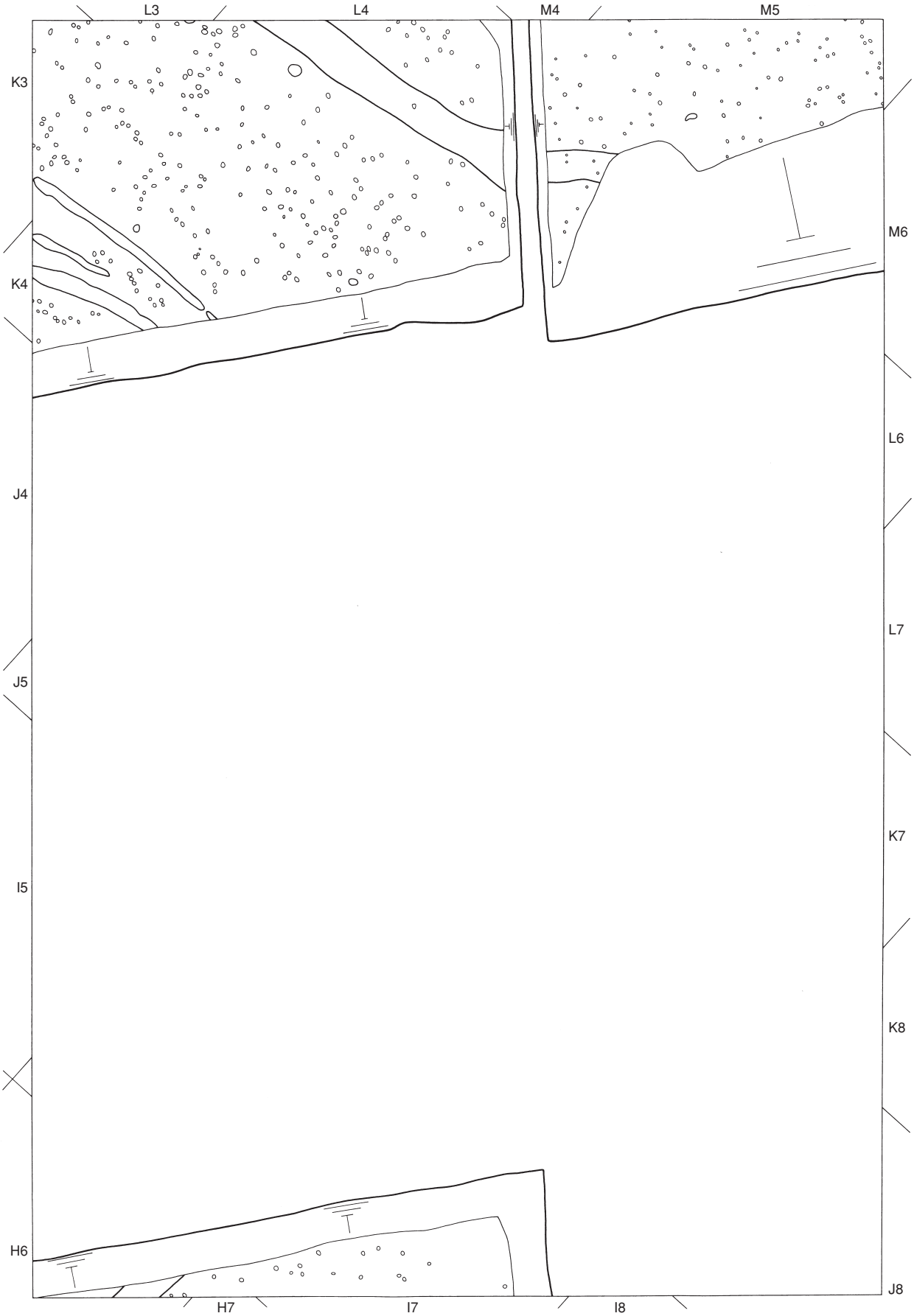
第76図　第１水田面遺構平面図⑱（S＝1/100）

第77図　第１水田面遺構平面図⑲（S＝1/100）

第78図　第１水田面遺構平面図⑳（S＝1/100）

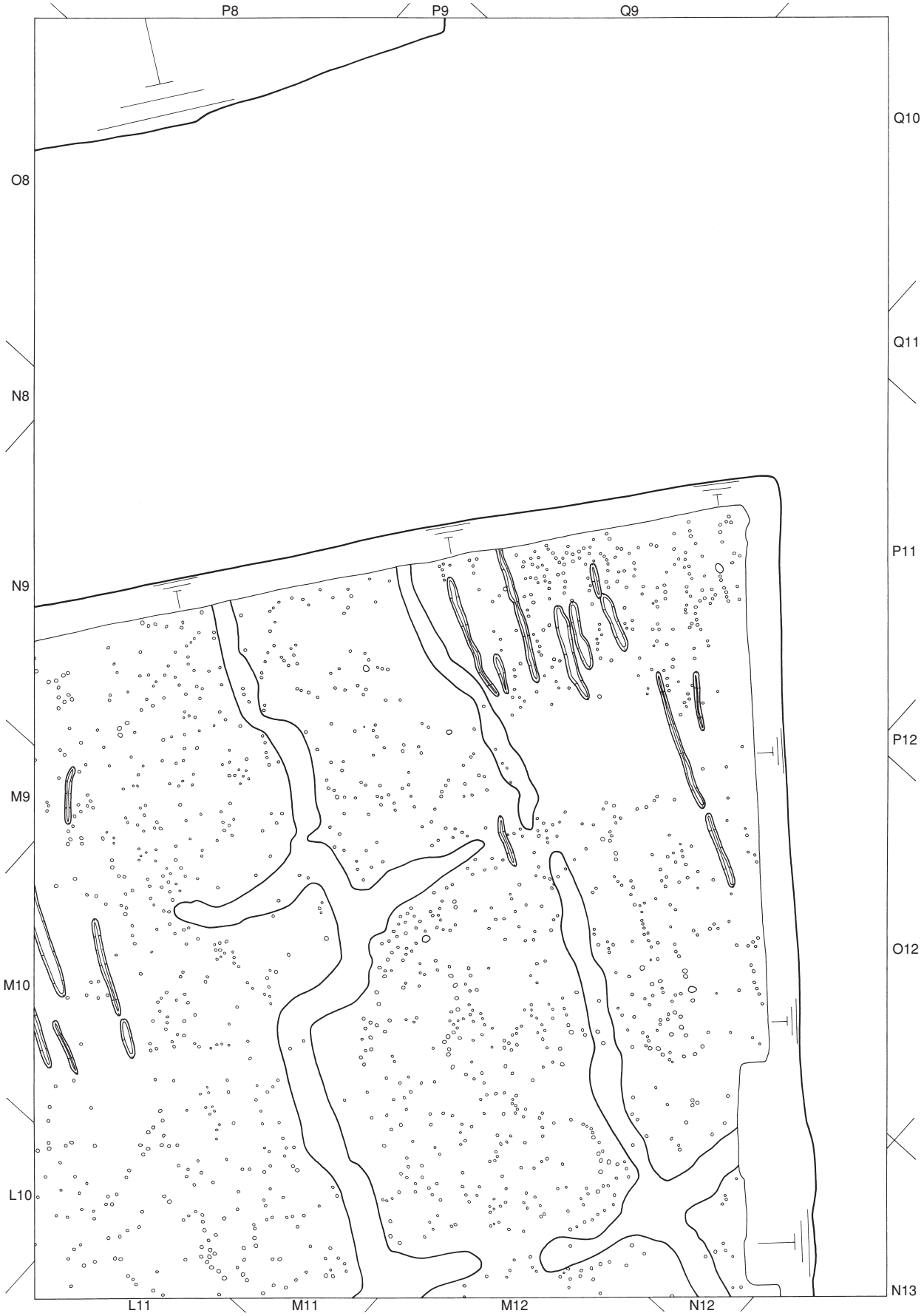


第79図　第１水田面遺構平面図(21)（S＝1/100）

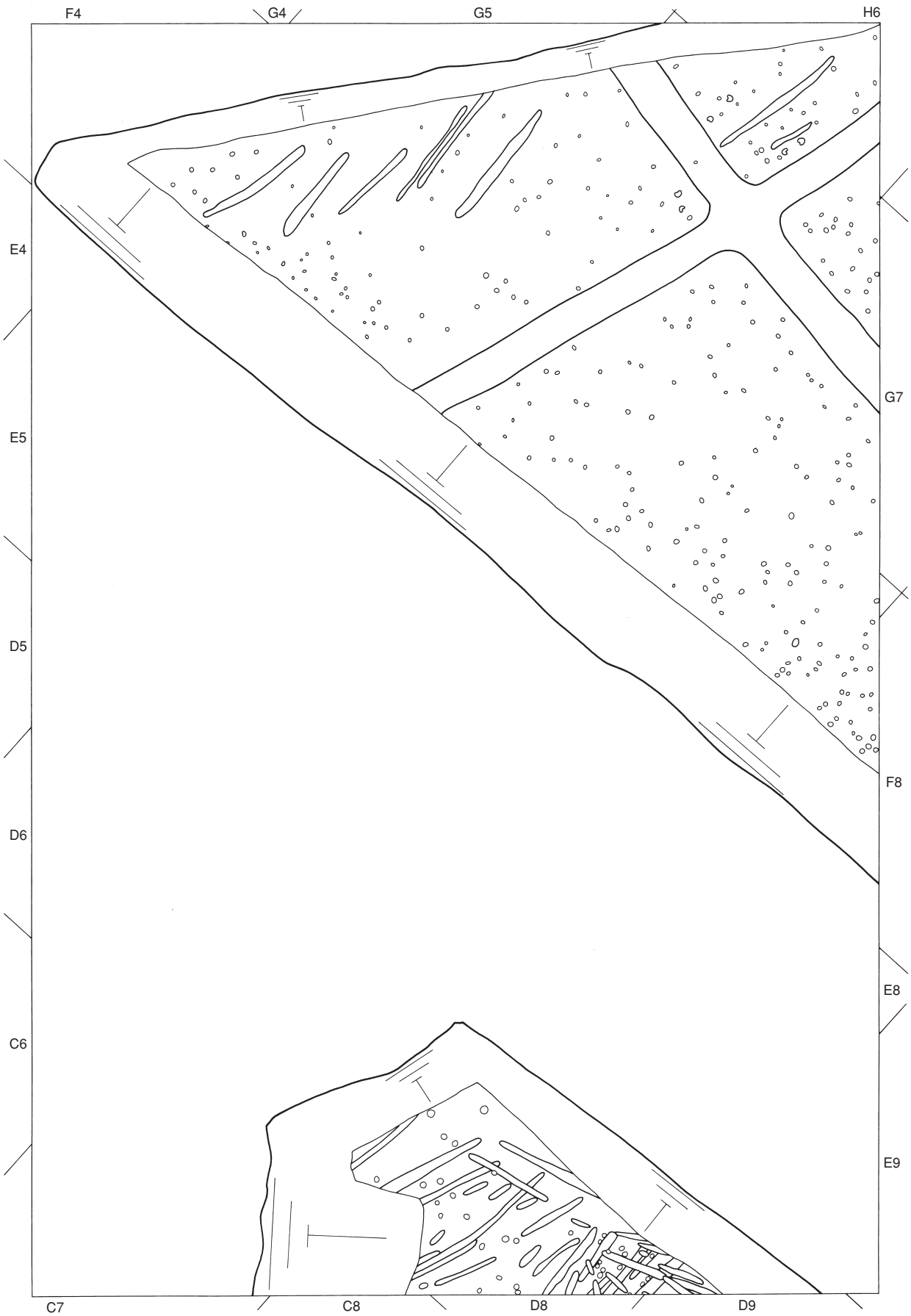


第80図　第１水田面遺構平面図㉒（S＝1/100）

第81図　第１水田面遺構平面図㉓（S＝1/100）

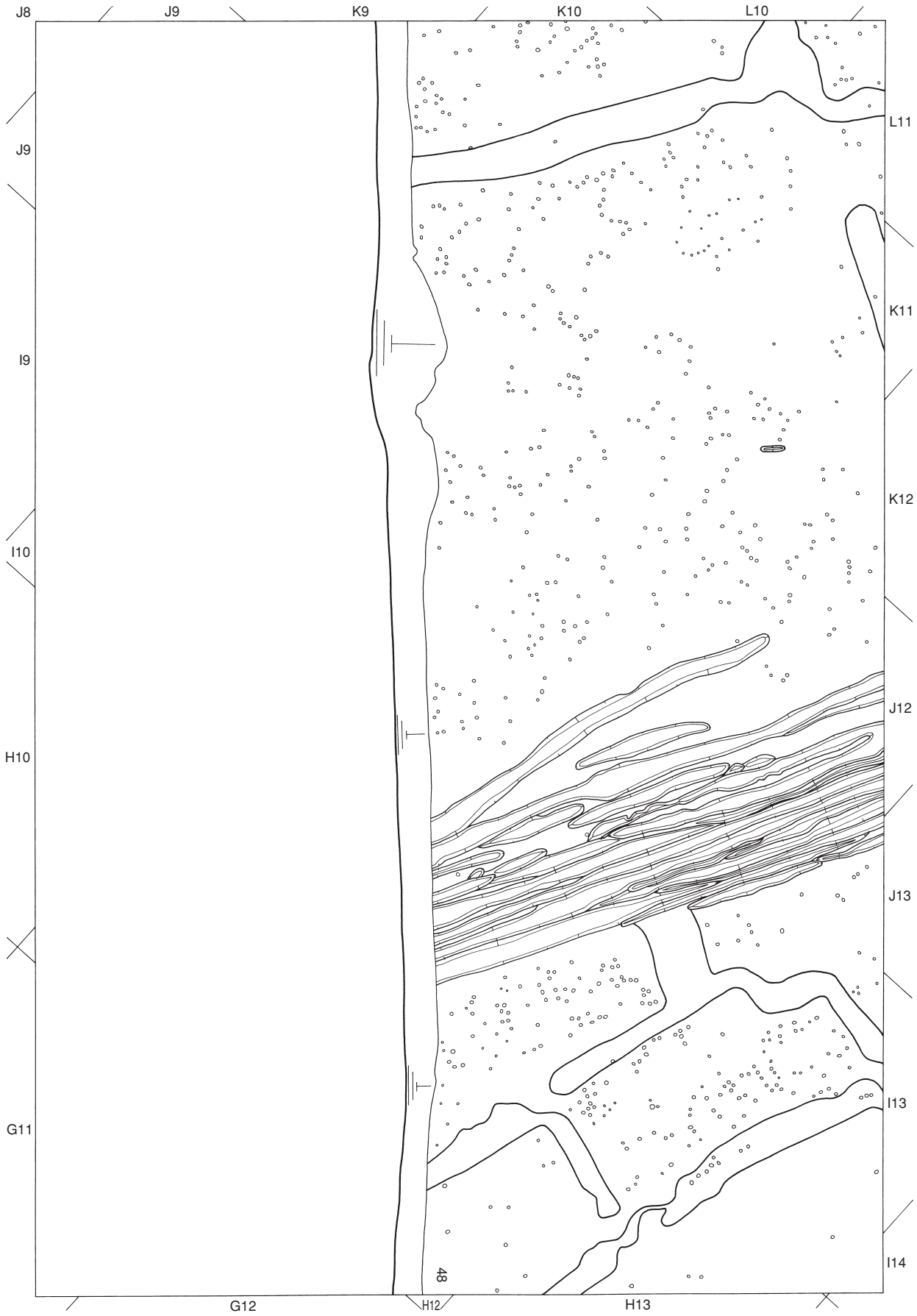


第82図　第１水田面遺構平面図㉔（S＝1/100）

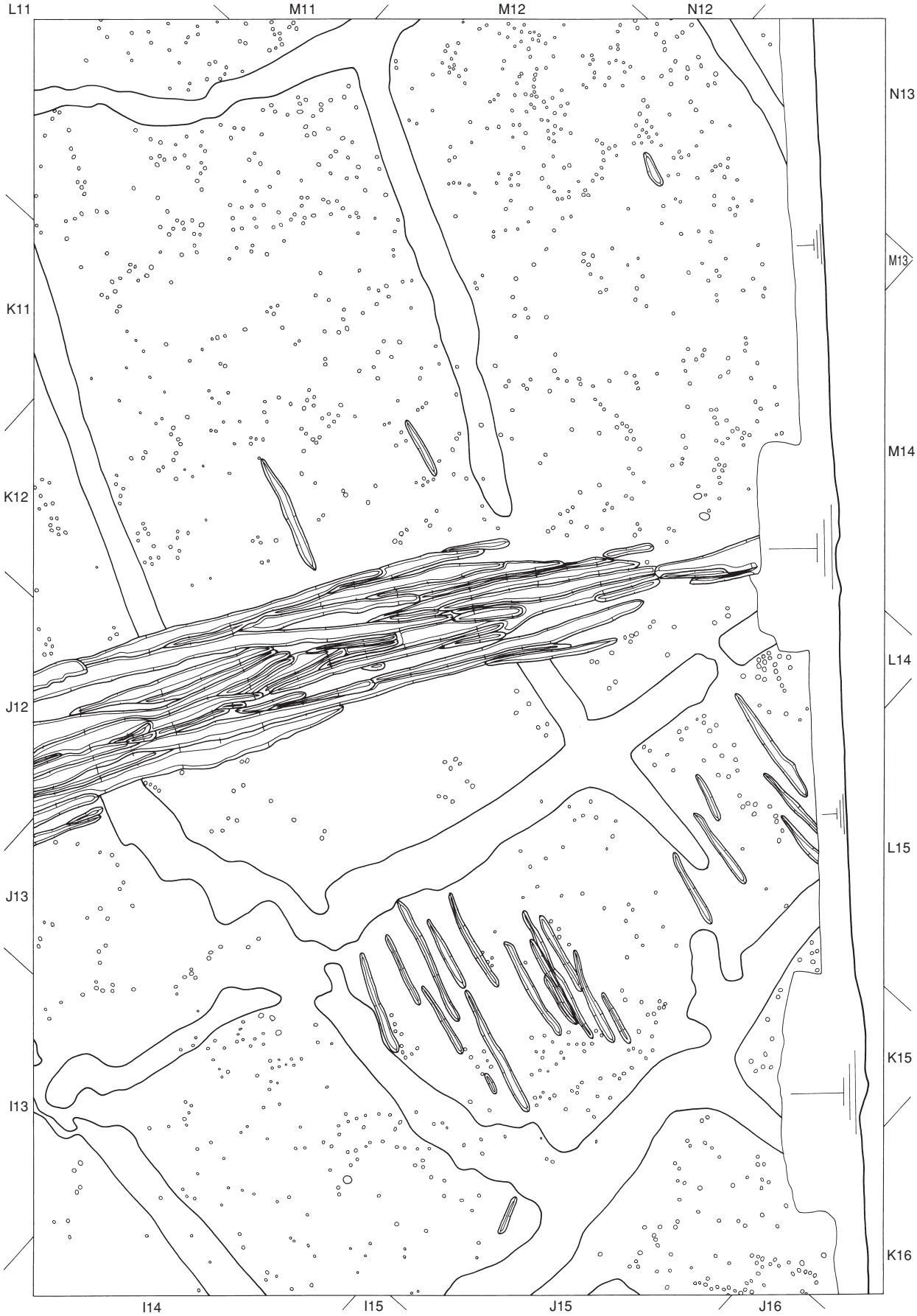


第83図　第１水田面遺構平面図(25)（S＝1/100）

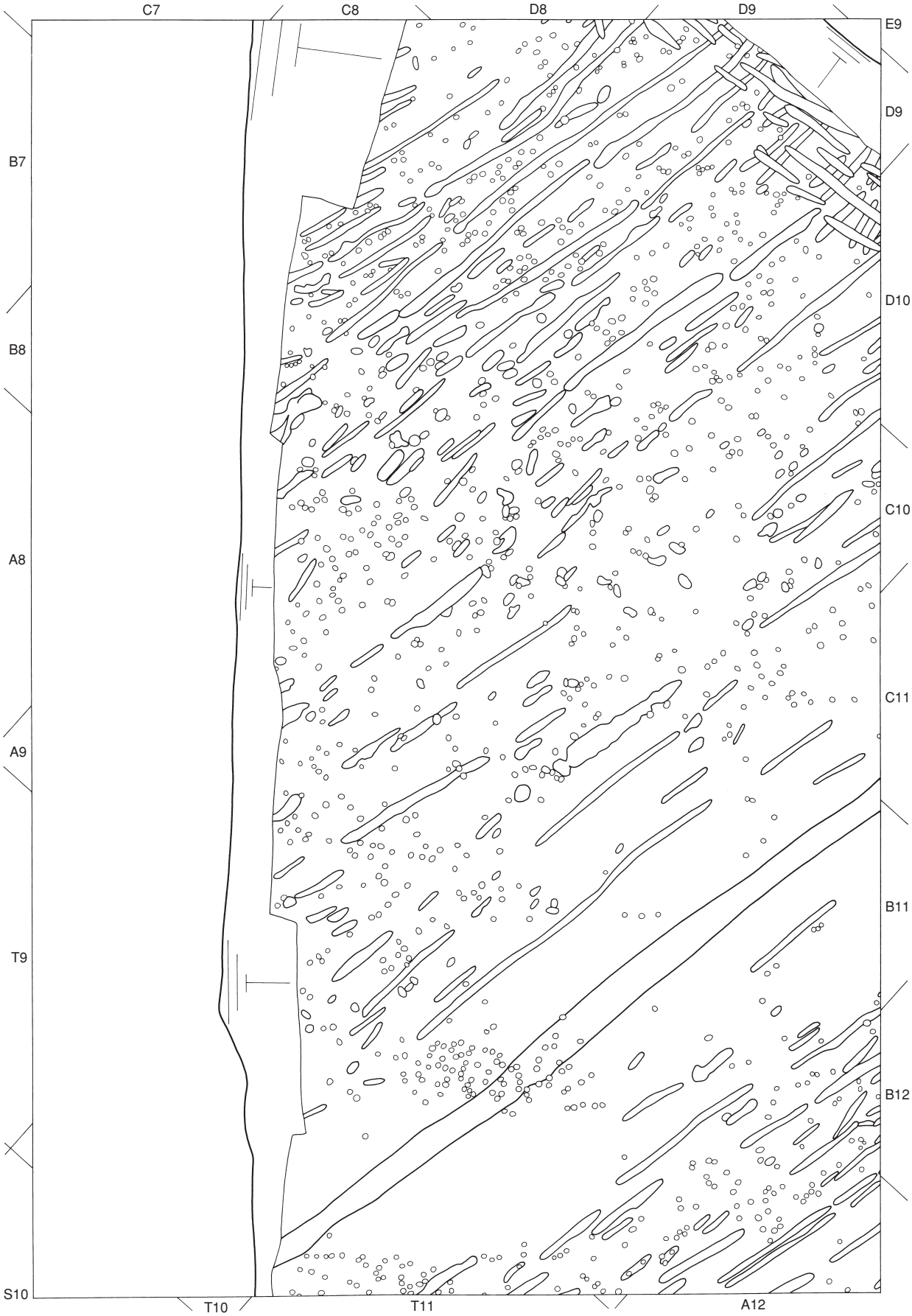
第84図　第１水田面遺構平面図㉖（S＝1/100）



第85図　第１水田面遺構平面図(27)（S＝1/100）

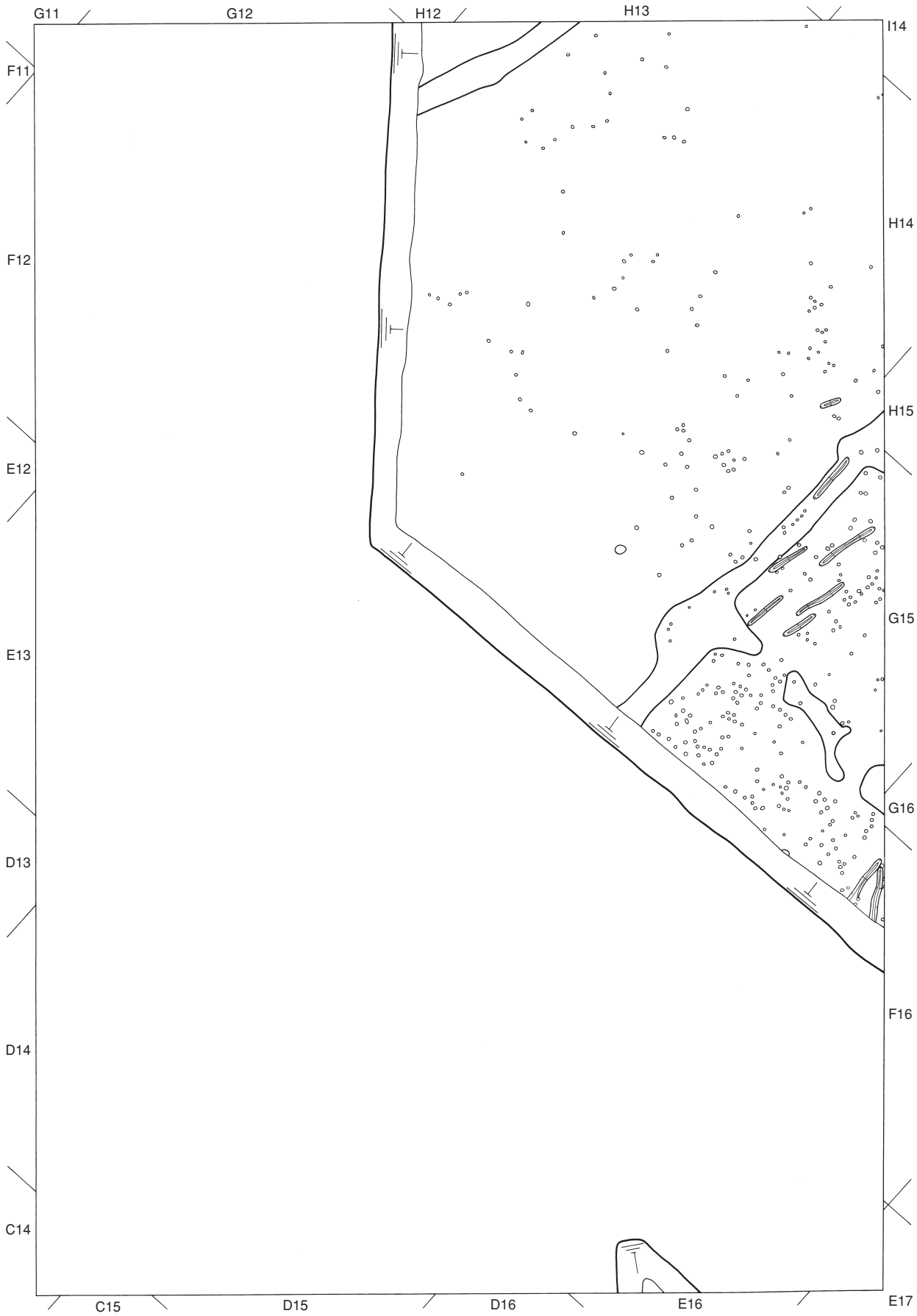


第86図　第１水田面遺構平面図(28)（S＝1/100）



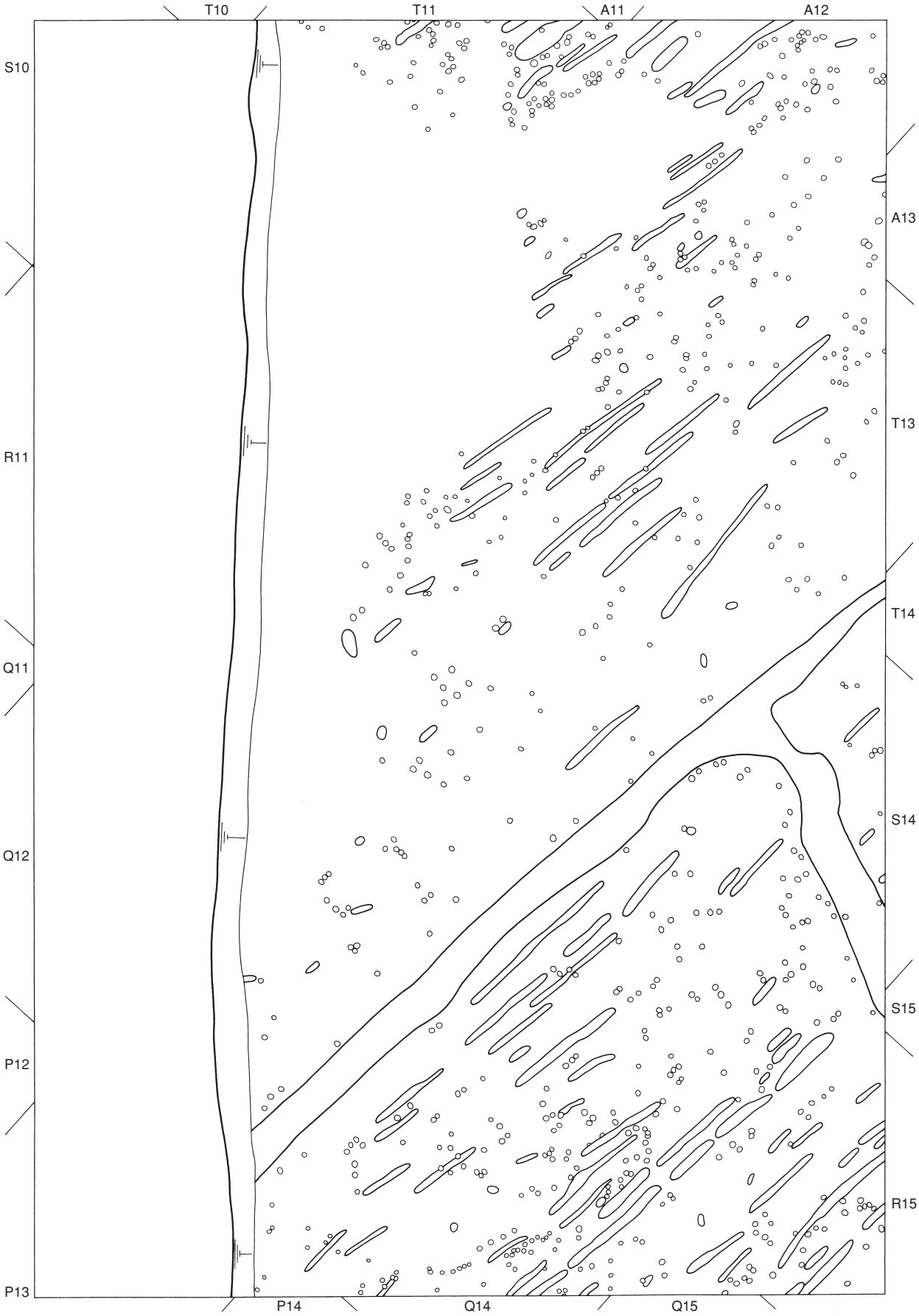
第87図　第１水田面遺構平面図(29)（S＝1/100）

第88図　第１水田面遺構平面図㉚（S＝1/100）

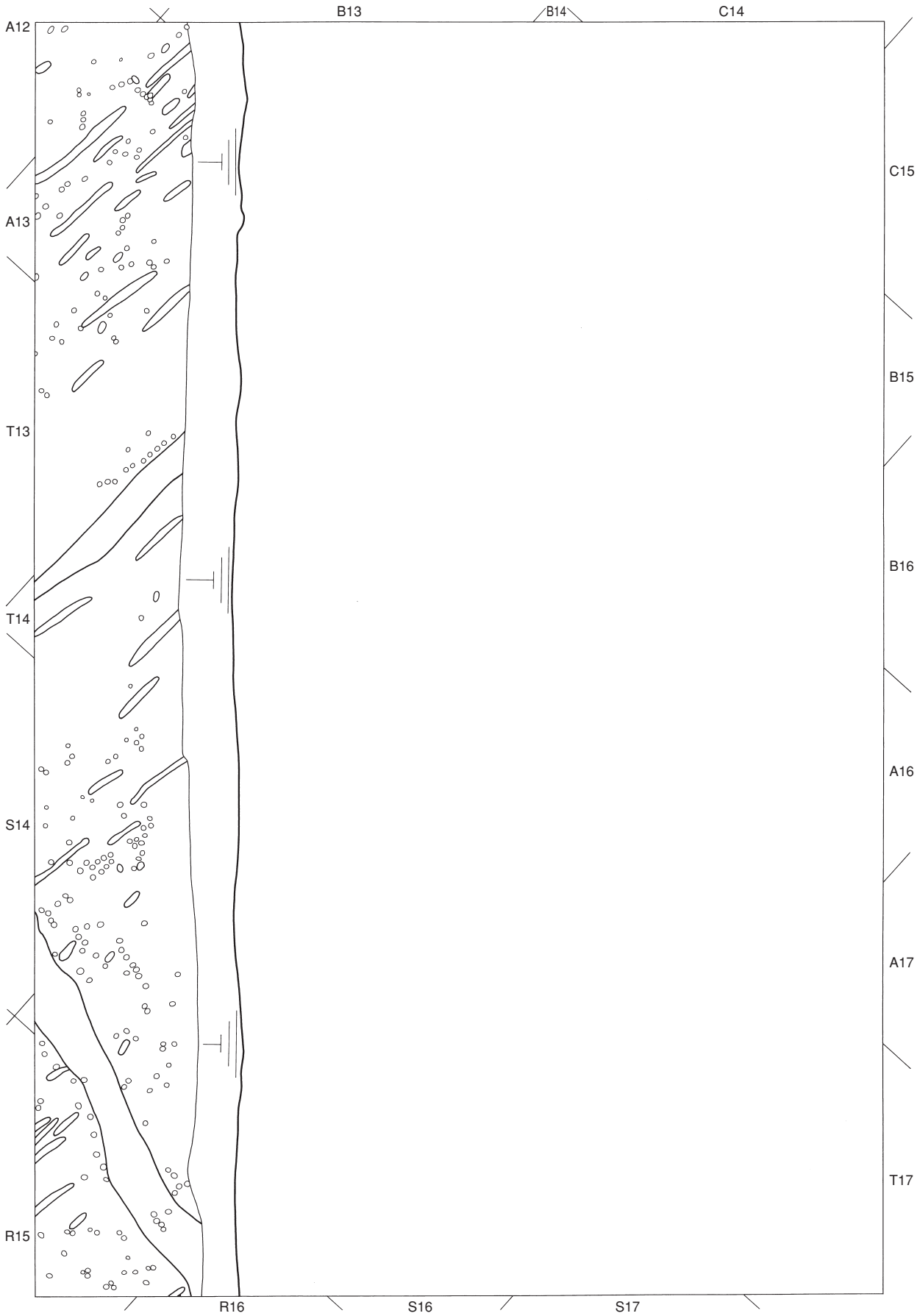


第89図　第１水田面遺構平面図(31)（S＝1/100）

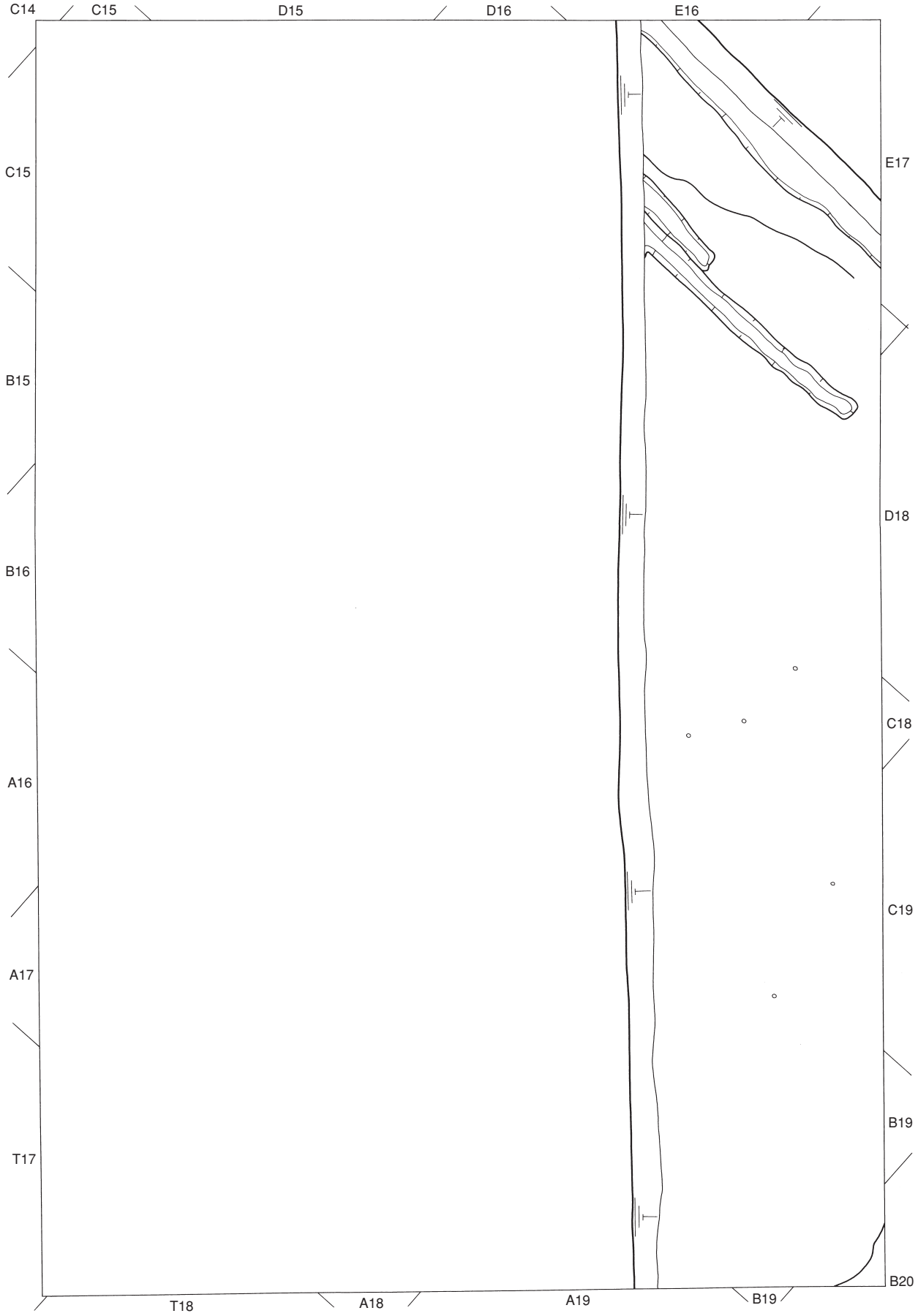
第90図　第１水田面遺構平面図(32)（S＝1/100）



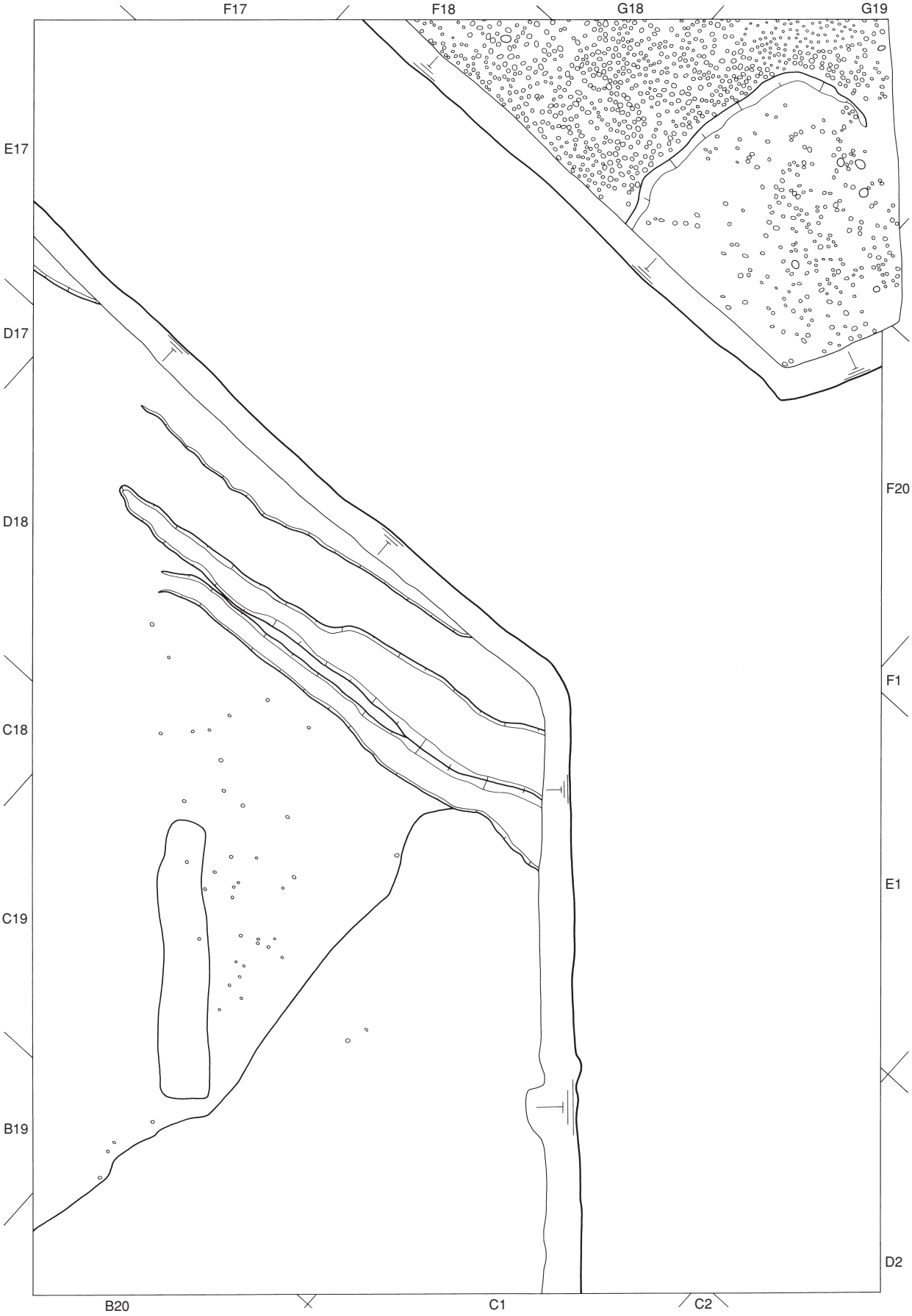
第91図　第１水田面遺構平面図(33)（S＝1/100）



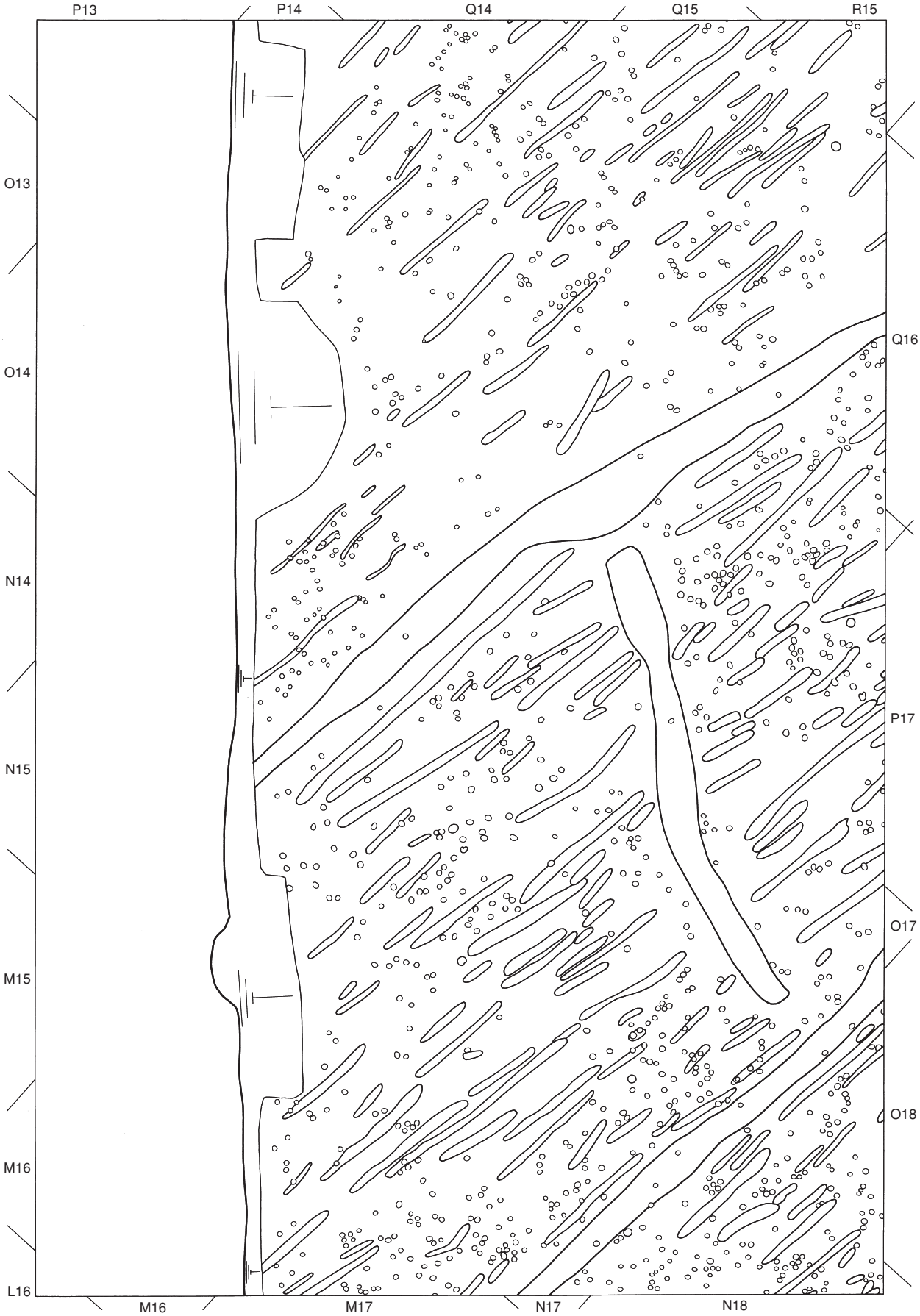
第92図　第１水田面遺構平面図(34)（S＝1/100）



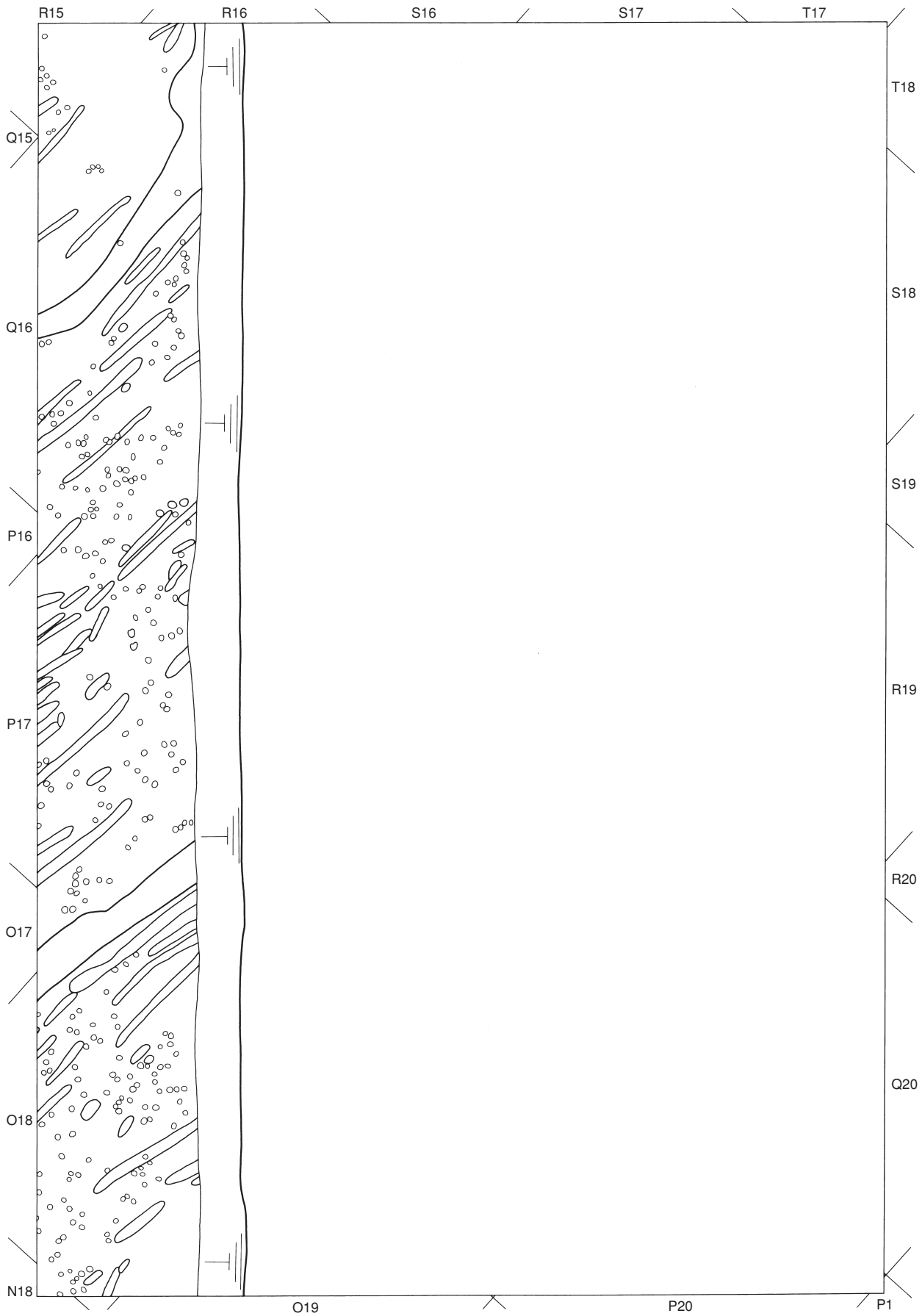
第93図　第１水田面遺構平面図(35)（S＝1/100）



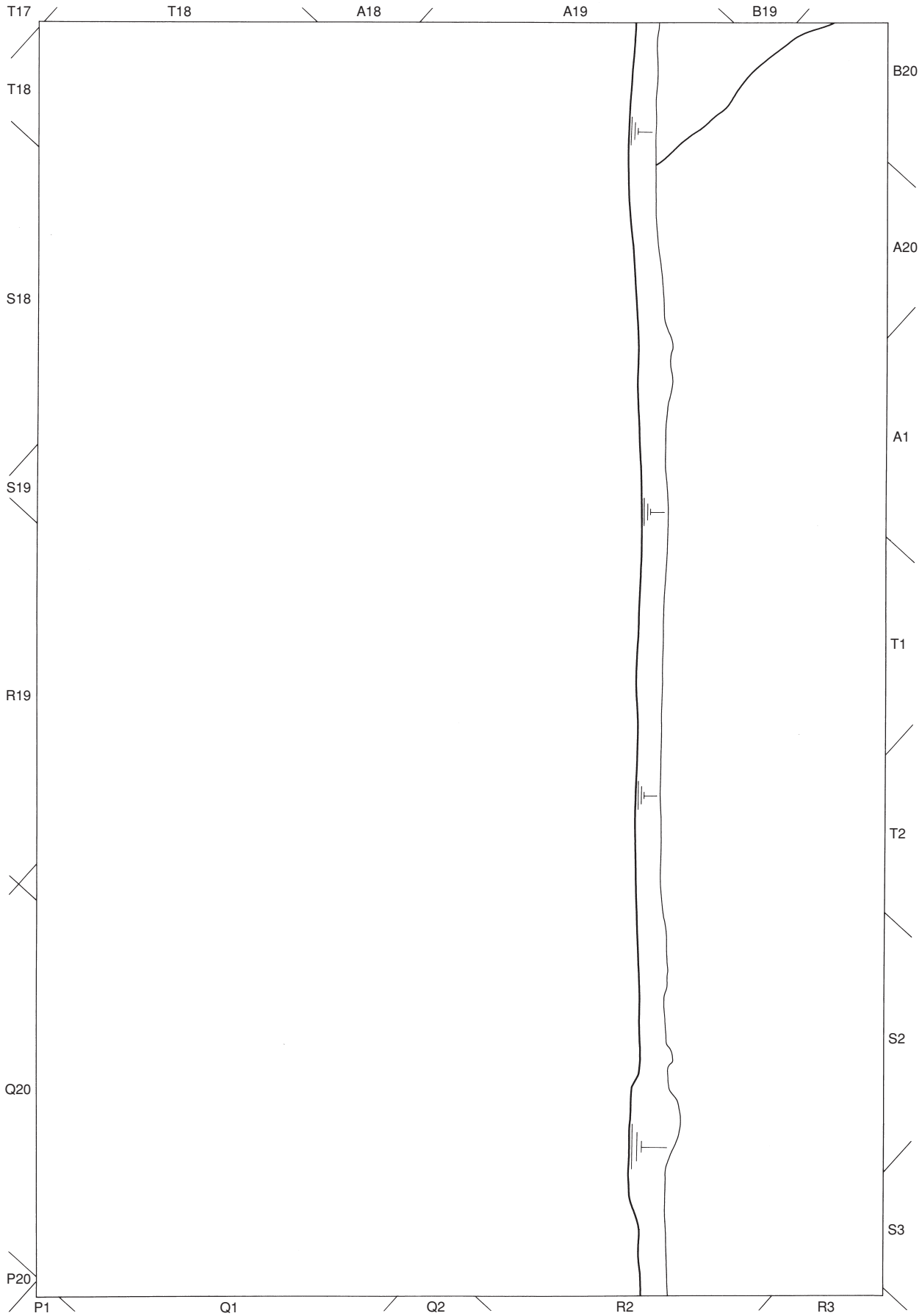
第94図　第１水田面遺構平面図㊱（S＝1/100）



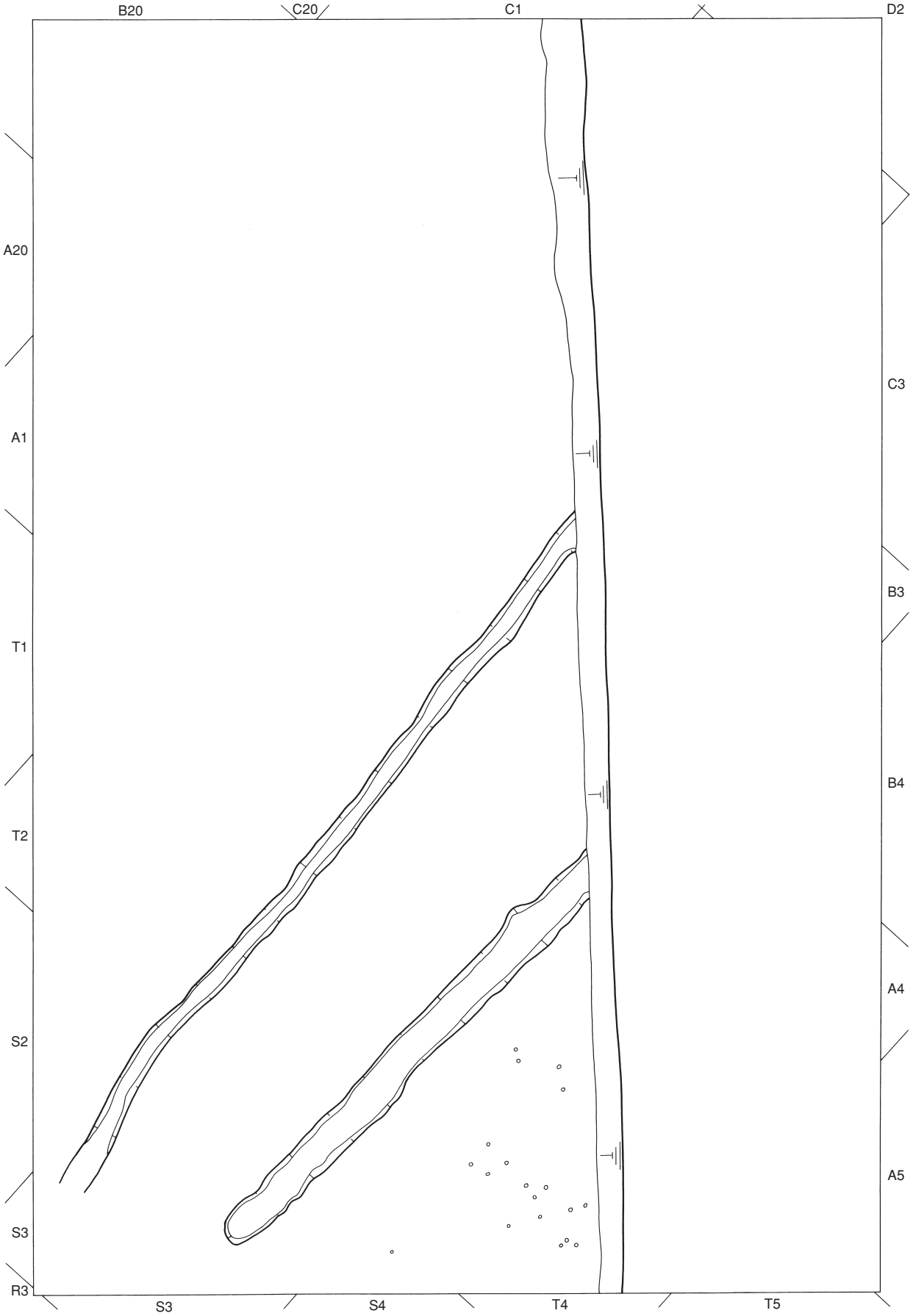
第95図　第１水田面遺構平面図(37)（S＝1/100）



第96図　第１水田面遺構平面図(38)（S＝1/100）

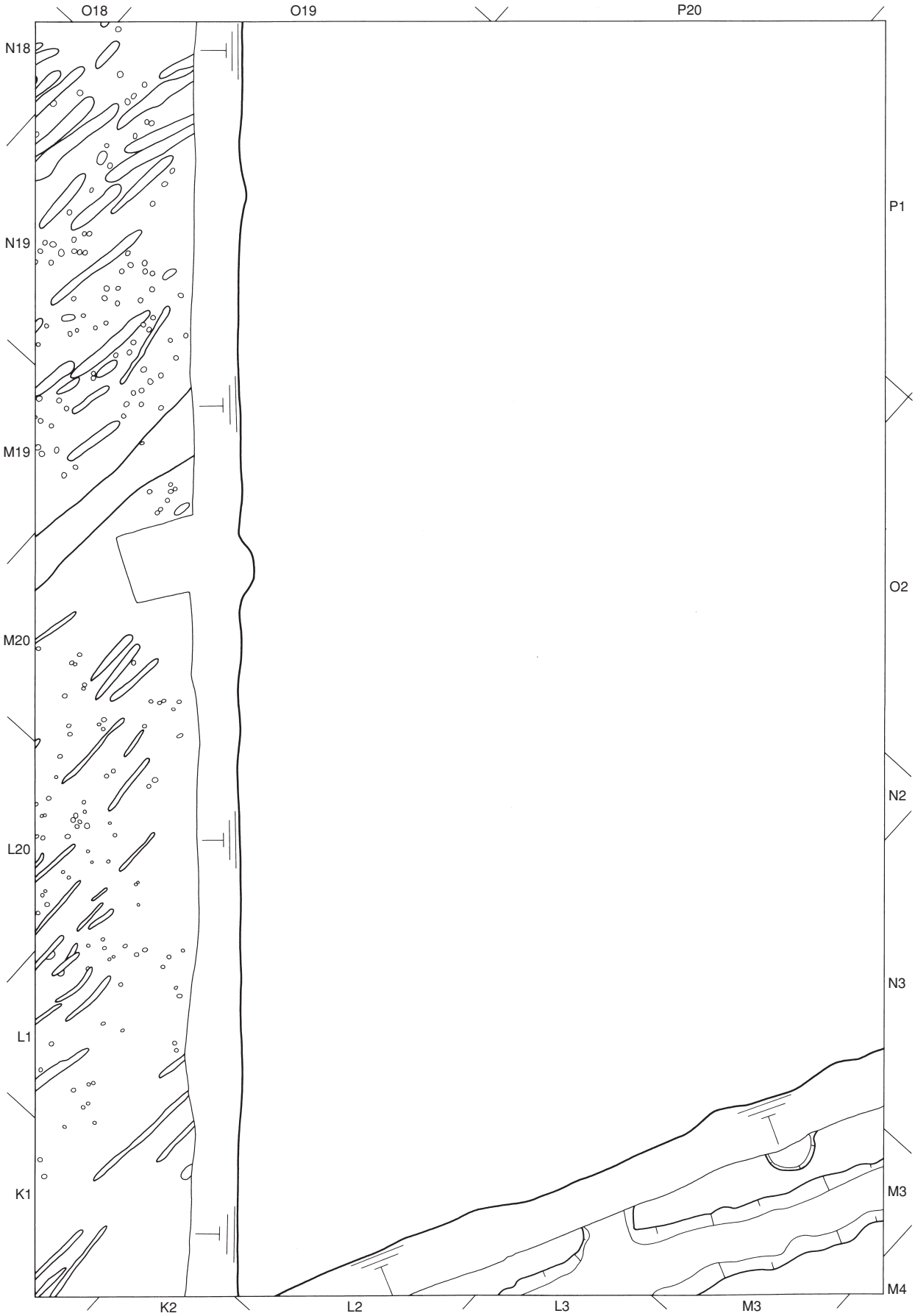


第97図　第１水田面遺構平面図(39)（S＝1/100）

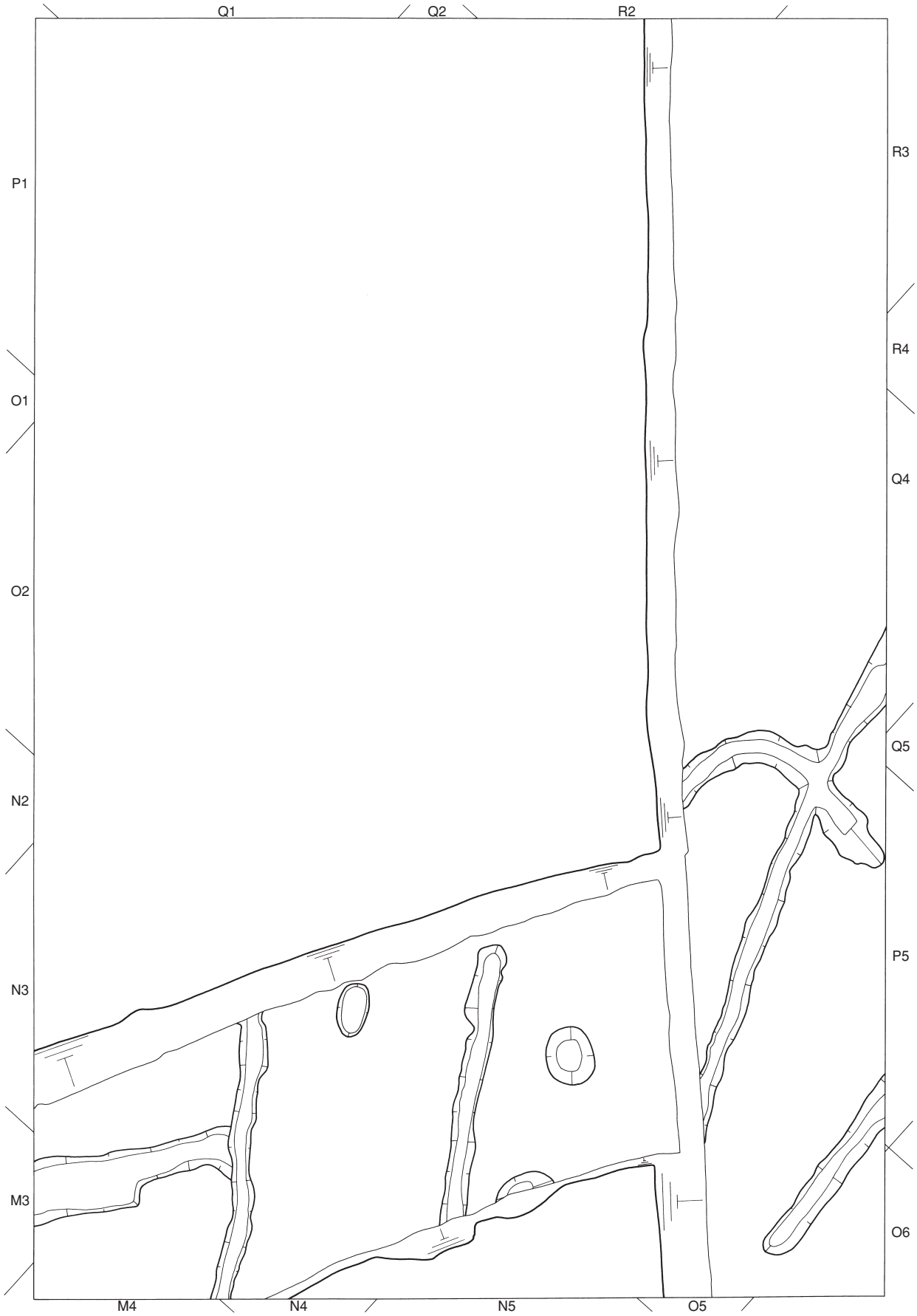


第98図　第１水田面遺構平面図(40)（S＝1/100）

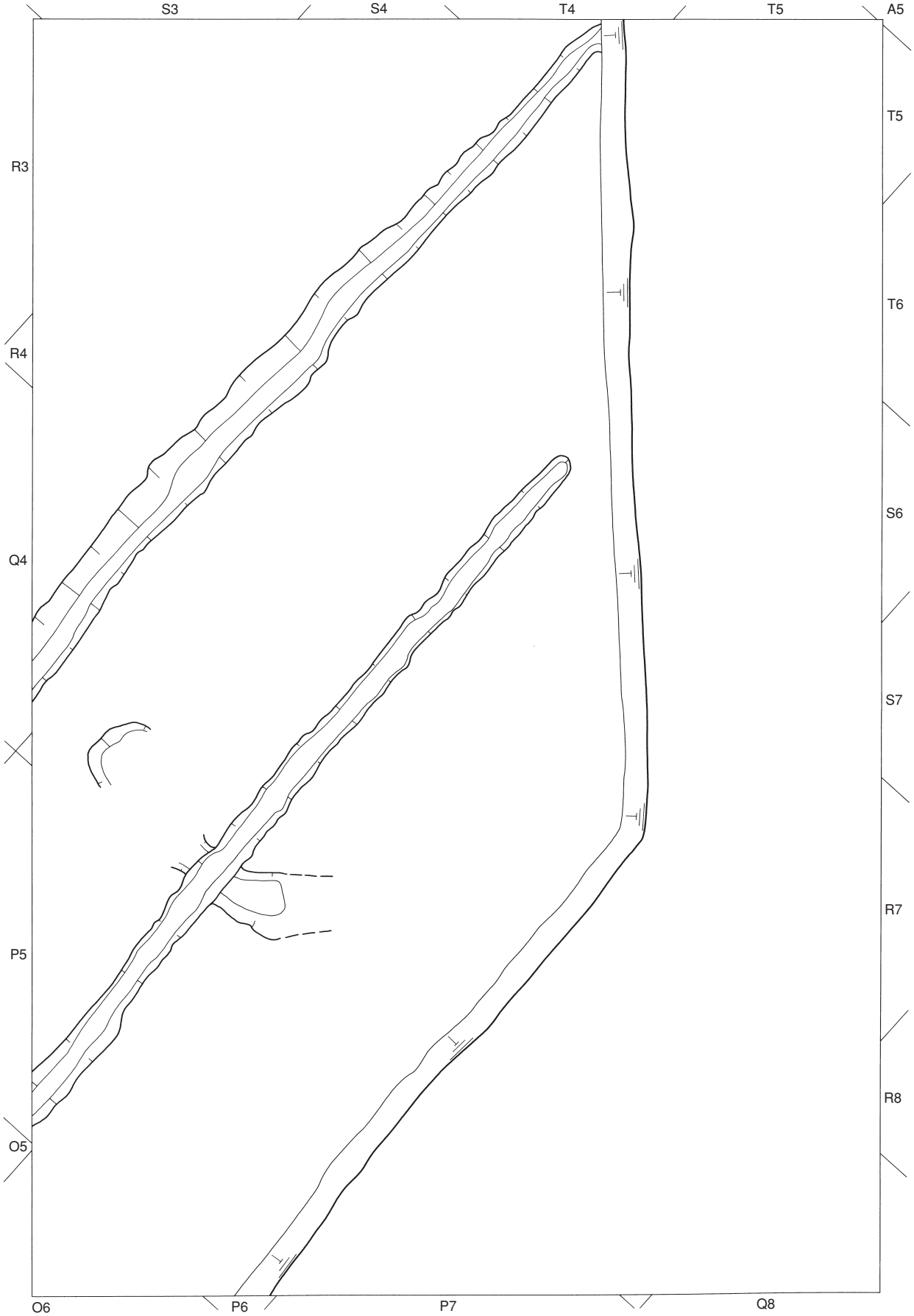
第99図　第１水田面遺構平面図(41)（S＝1/100）



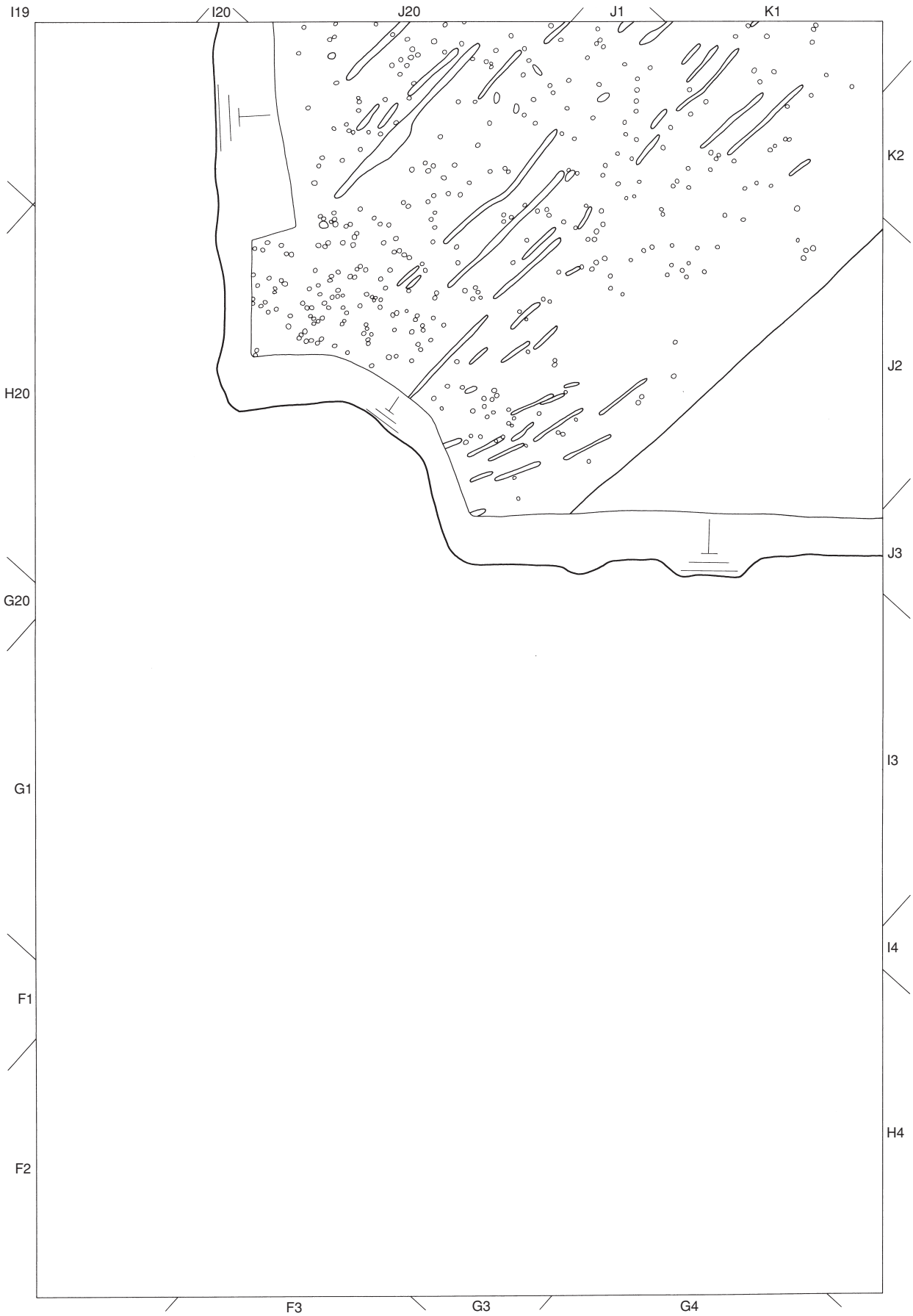
第100図　第１水田面遺構平面図(42)（S＝1/100）



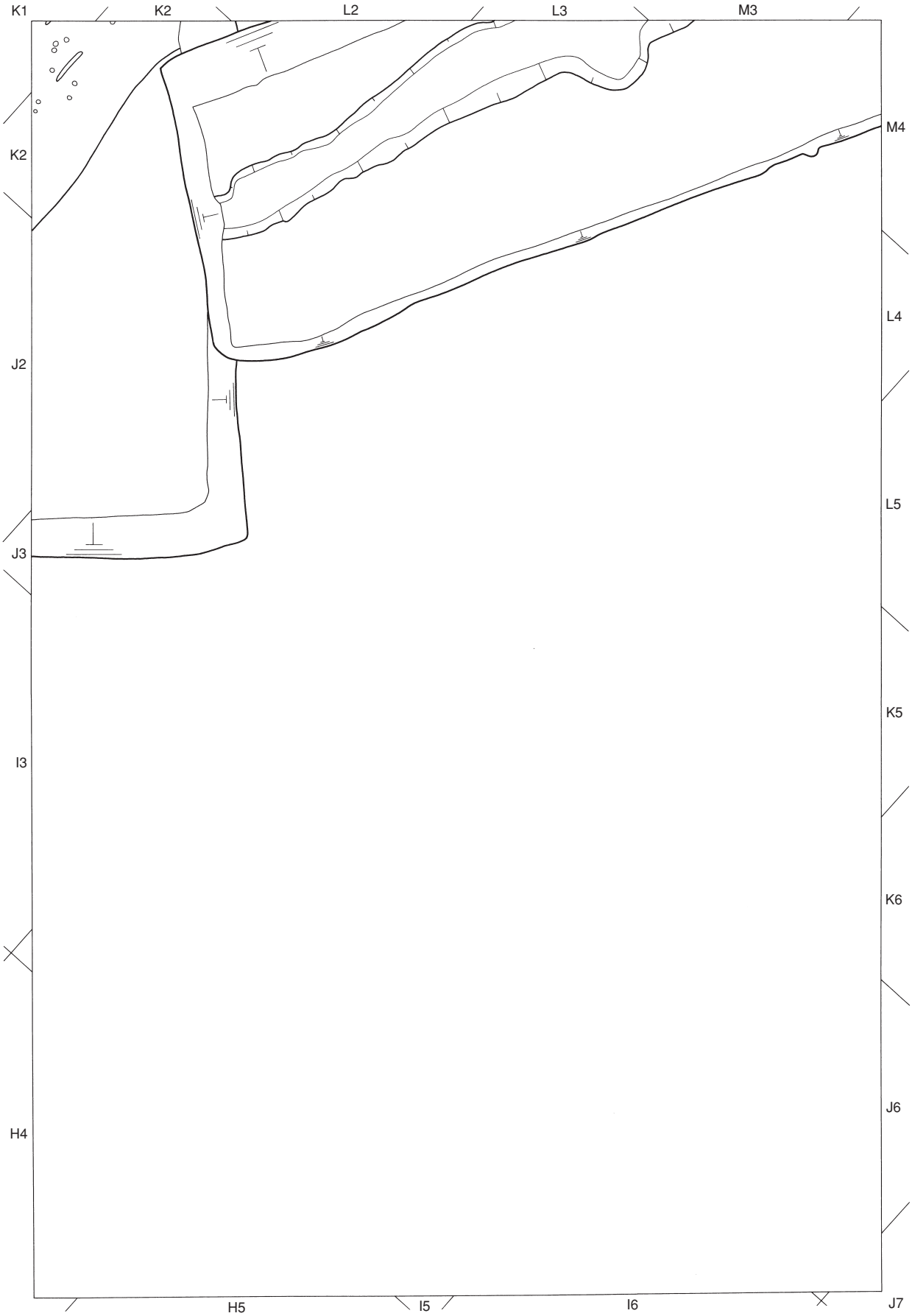
第101図　第１水田面遺構平面図(43)（S＝1/100）



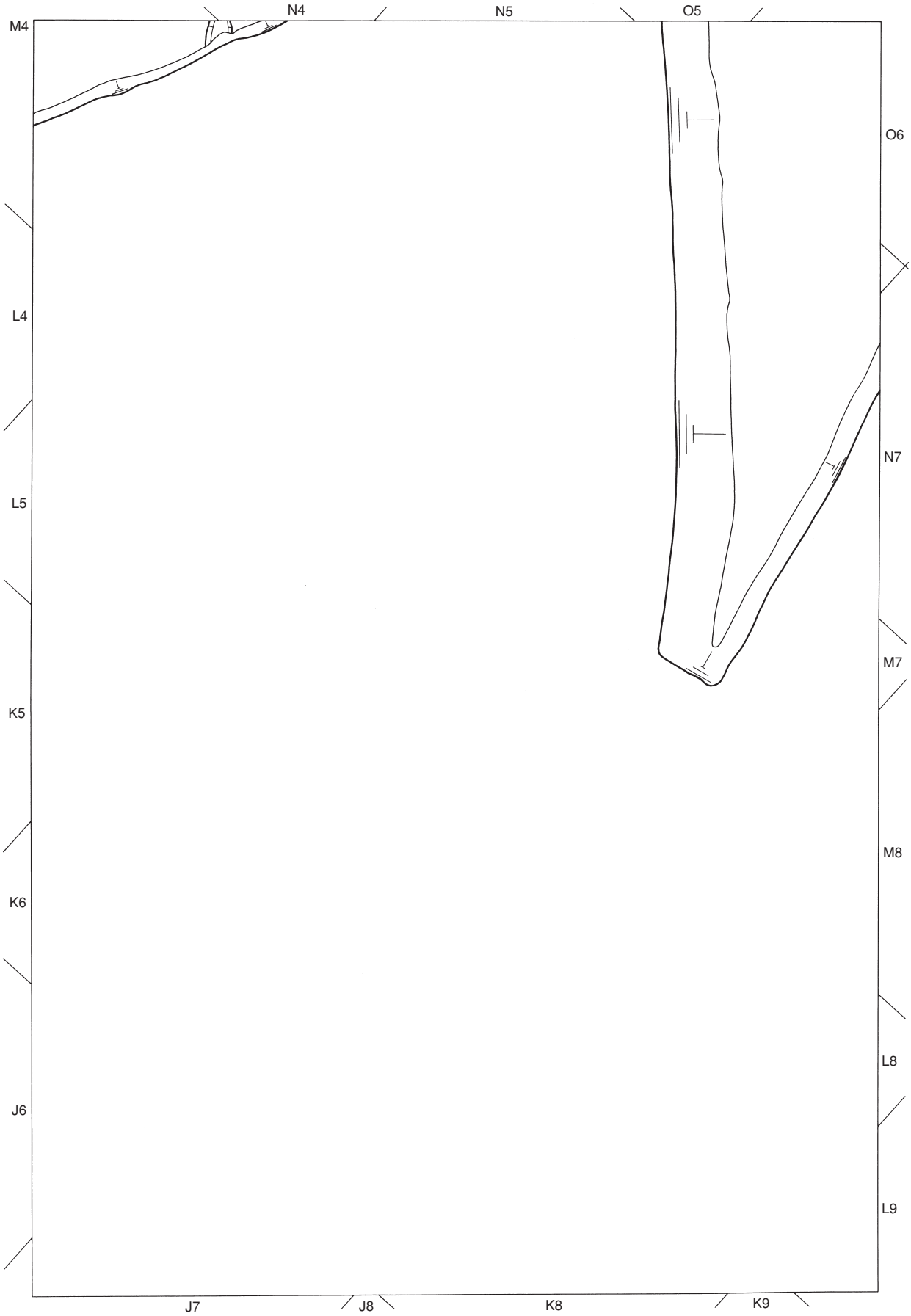
第102図　第１水田面遺構平面図(44)（S＝1/100）



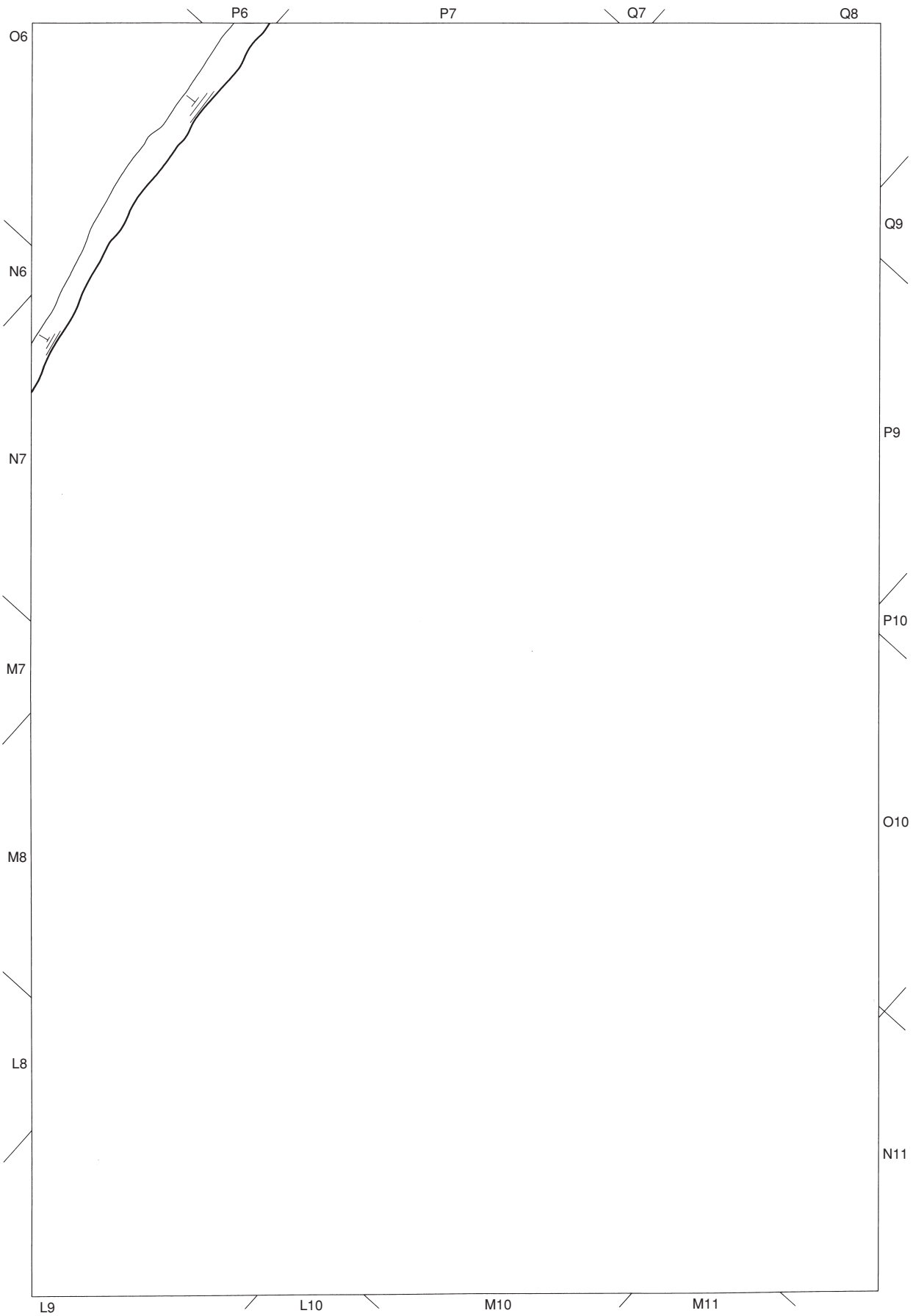
第103図　第１水田面遺構平面図(45)（S＝1/100）



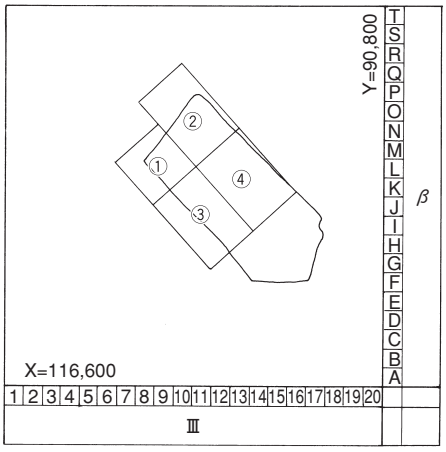
第104図　第１水田面遺構平面図(46)（S＝1/100）



第105図　第１水田面遺構平面図(47)（S＝1/100）

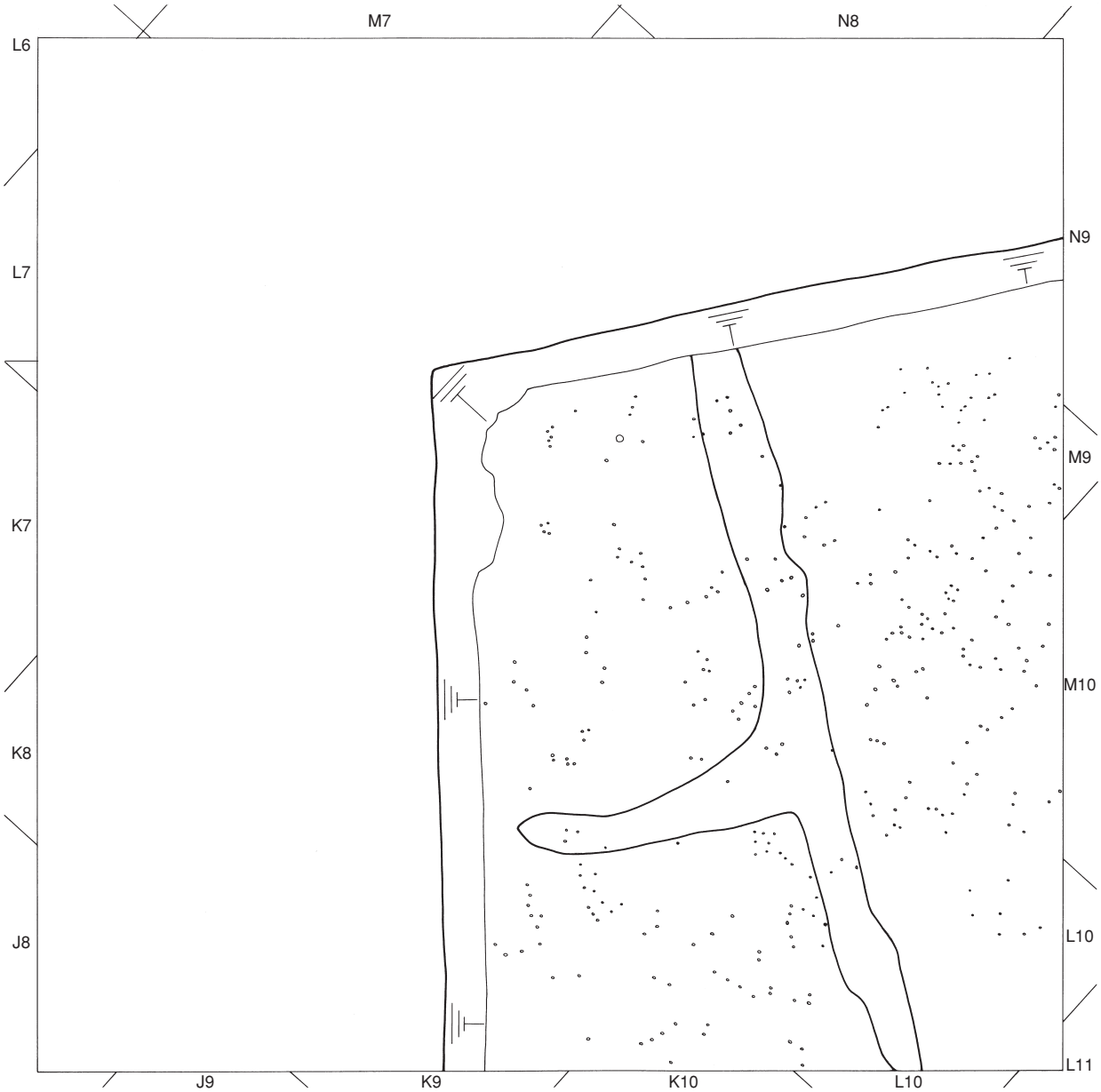


第106図　第１水田面遺構平面図(48)（S＝1/100）

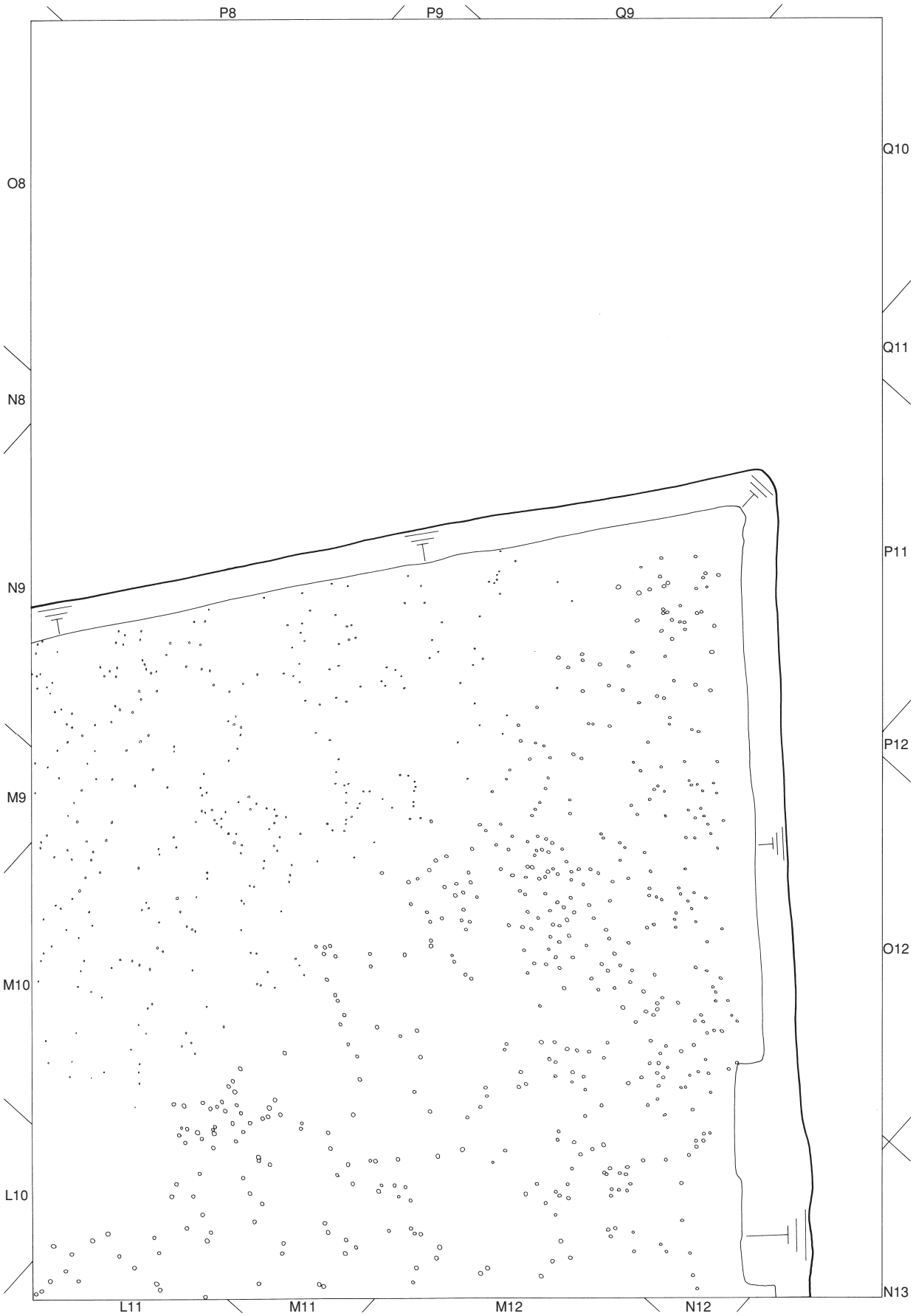


割付図の①～④までの番号は、第108図～第111図までに記載されているキャプションの数字と同じである

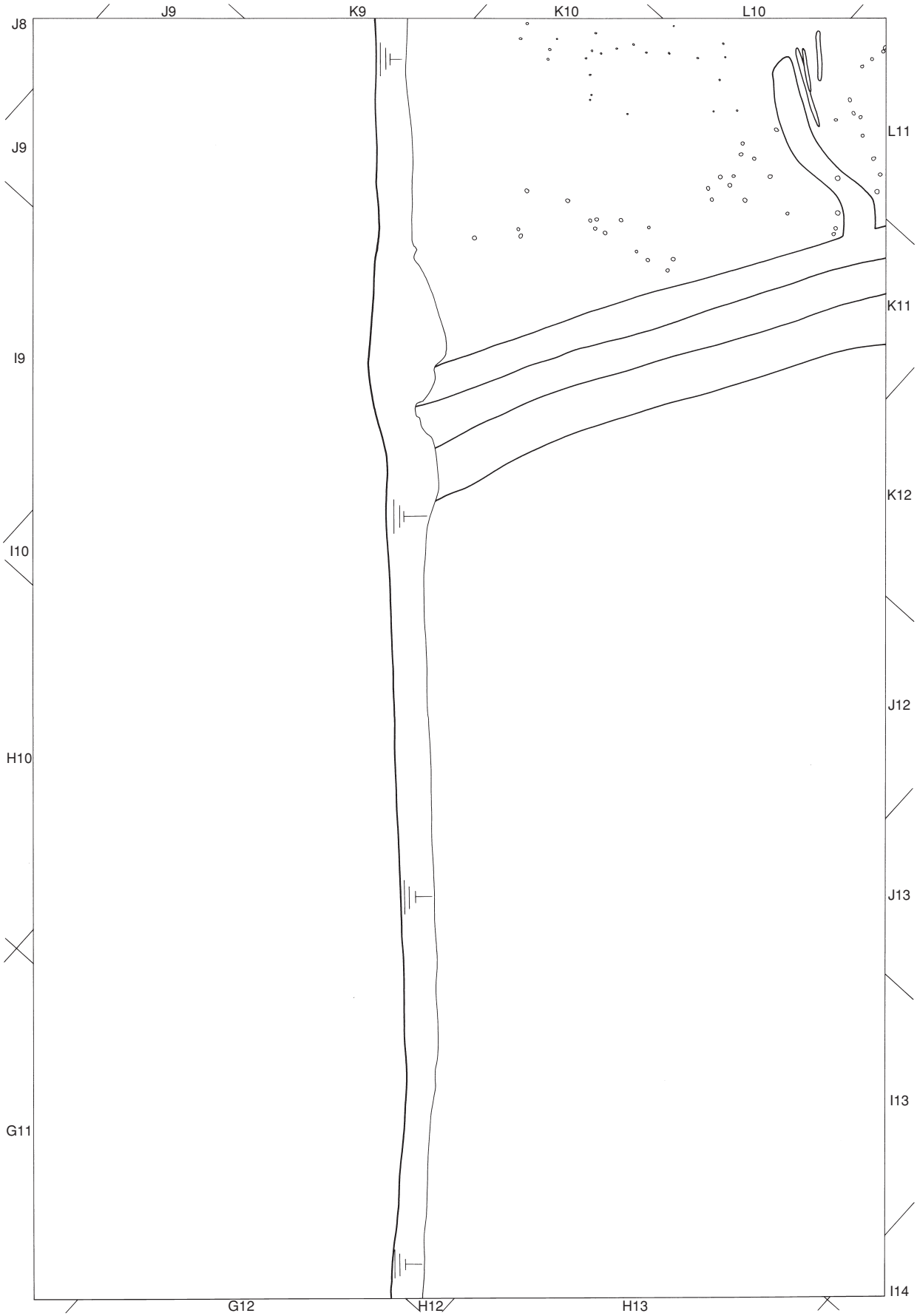
第107図　第１－２水田面遺構平面図割付図（S＝1/2000）



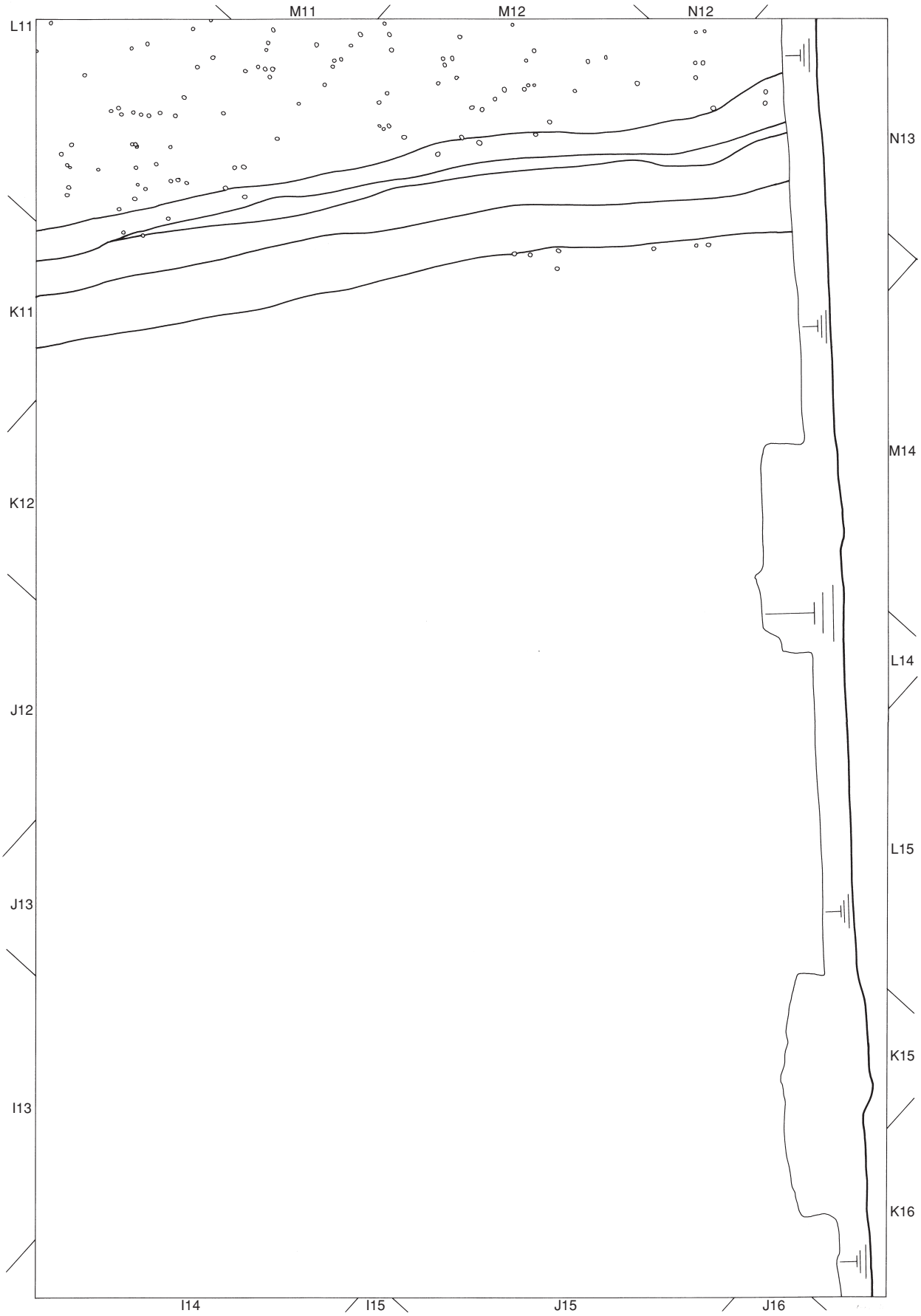
第108図　第１－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



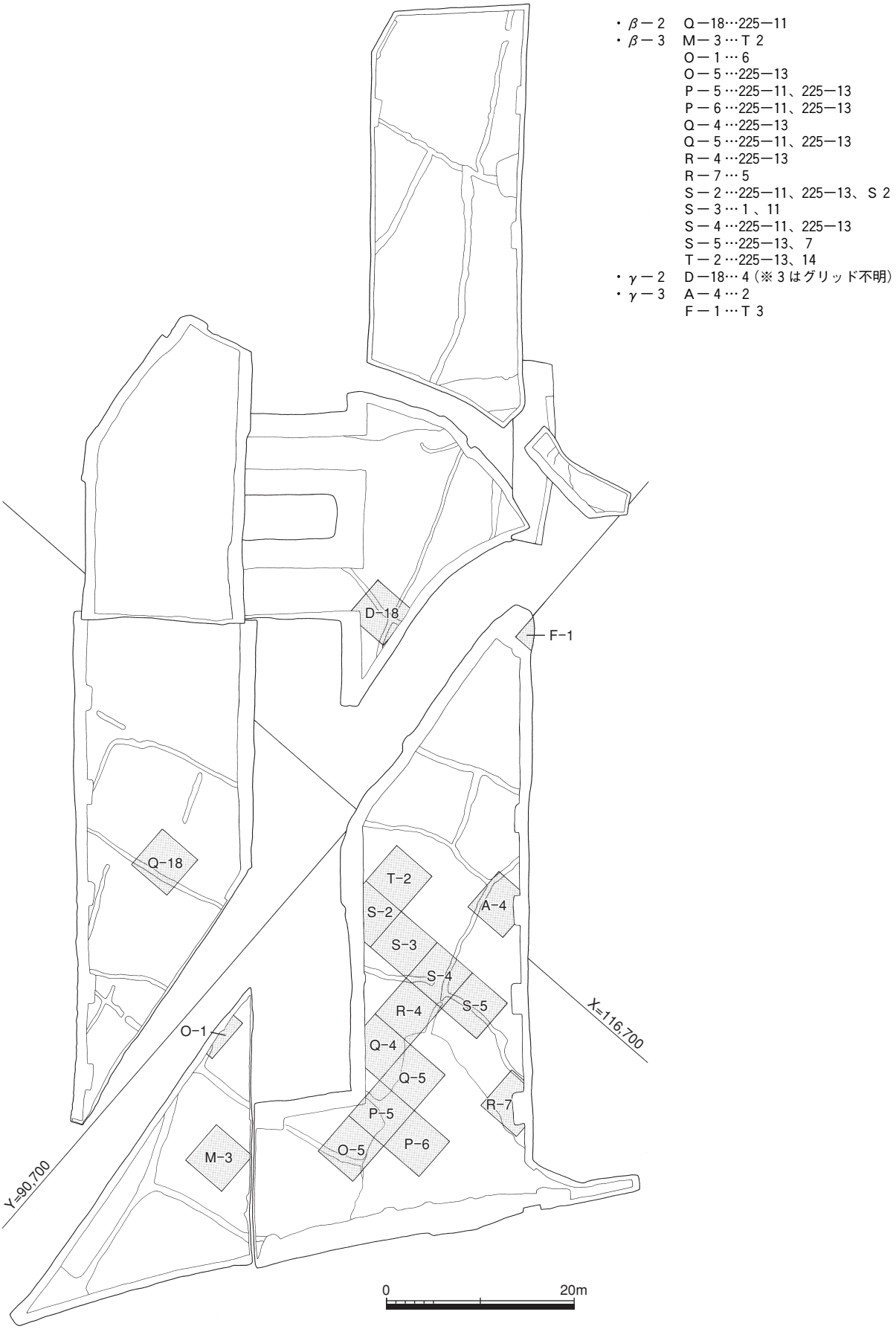
第109図　第１－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



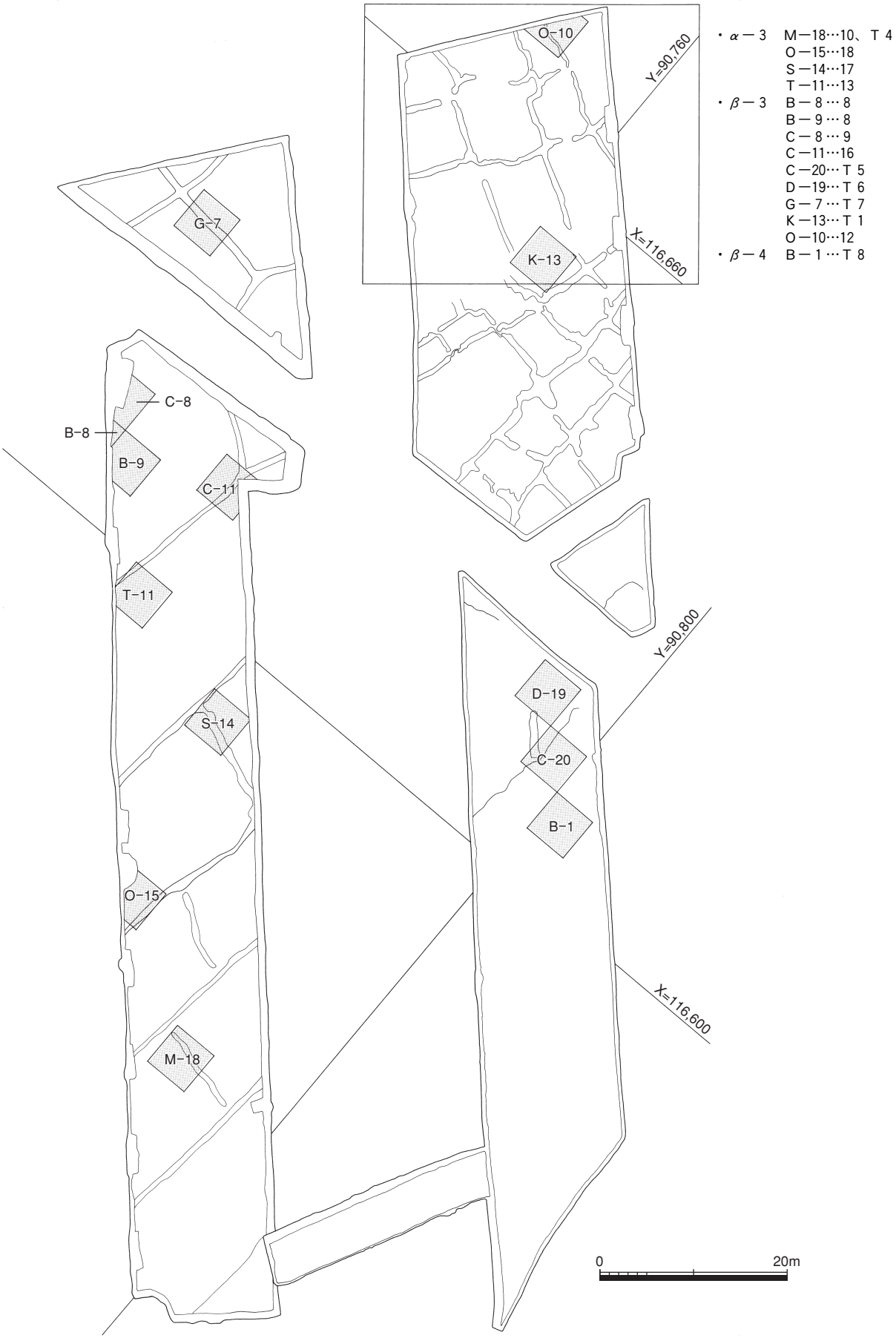
第110図　第１－２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）



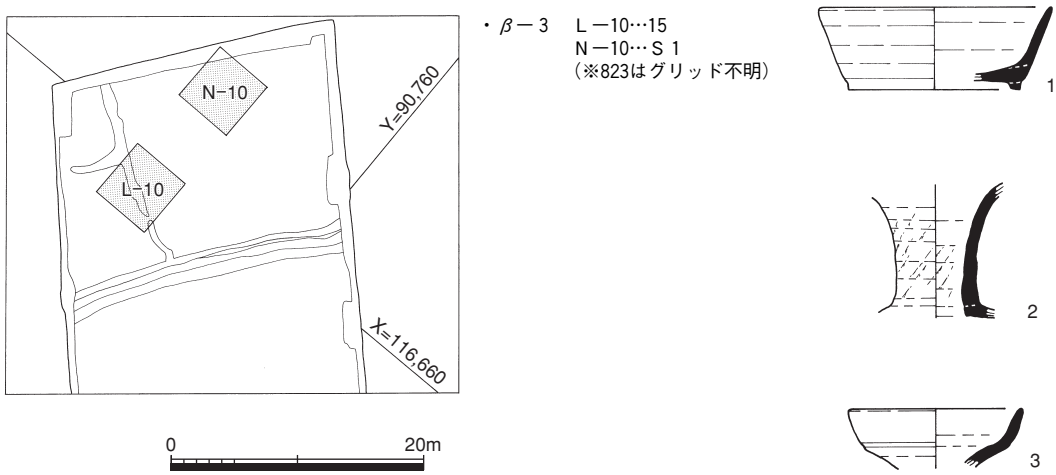
第111図　第１－２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）



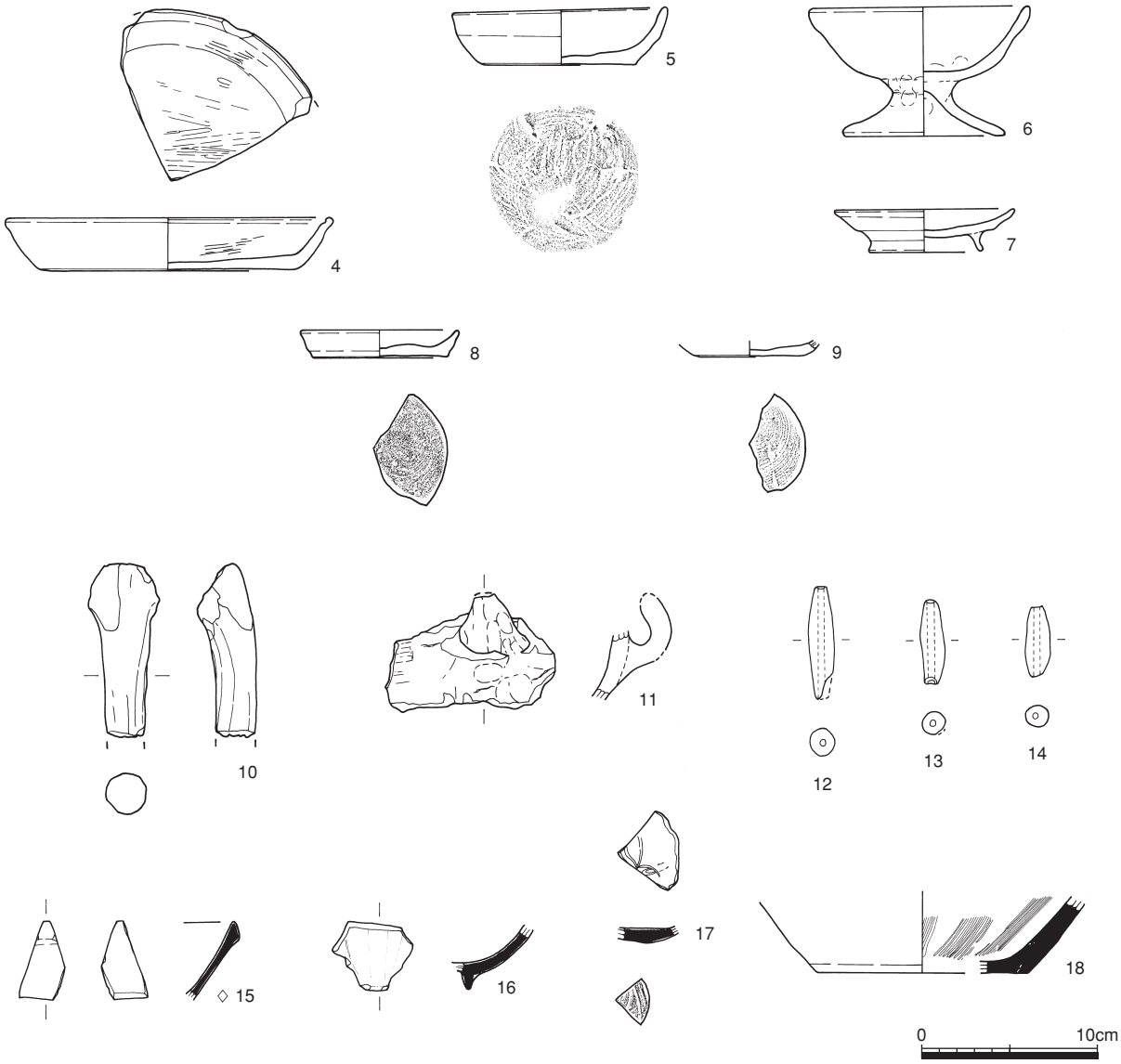
第112図　第１水田面遺物出土地点グリッド対応図(1)



第113図　第１水田面遺物出土地点グリッド対応図(2)

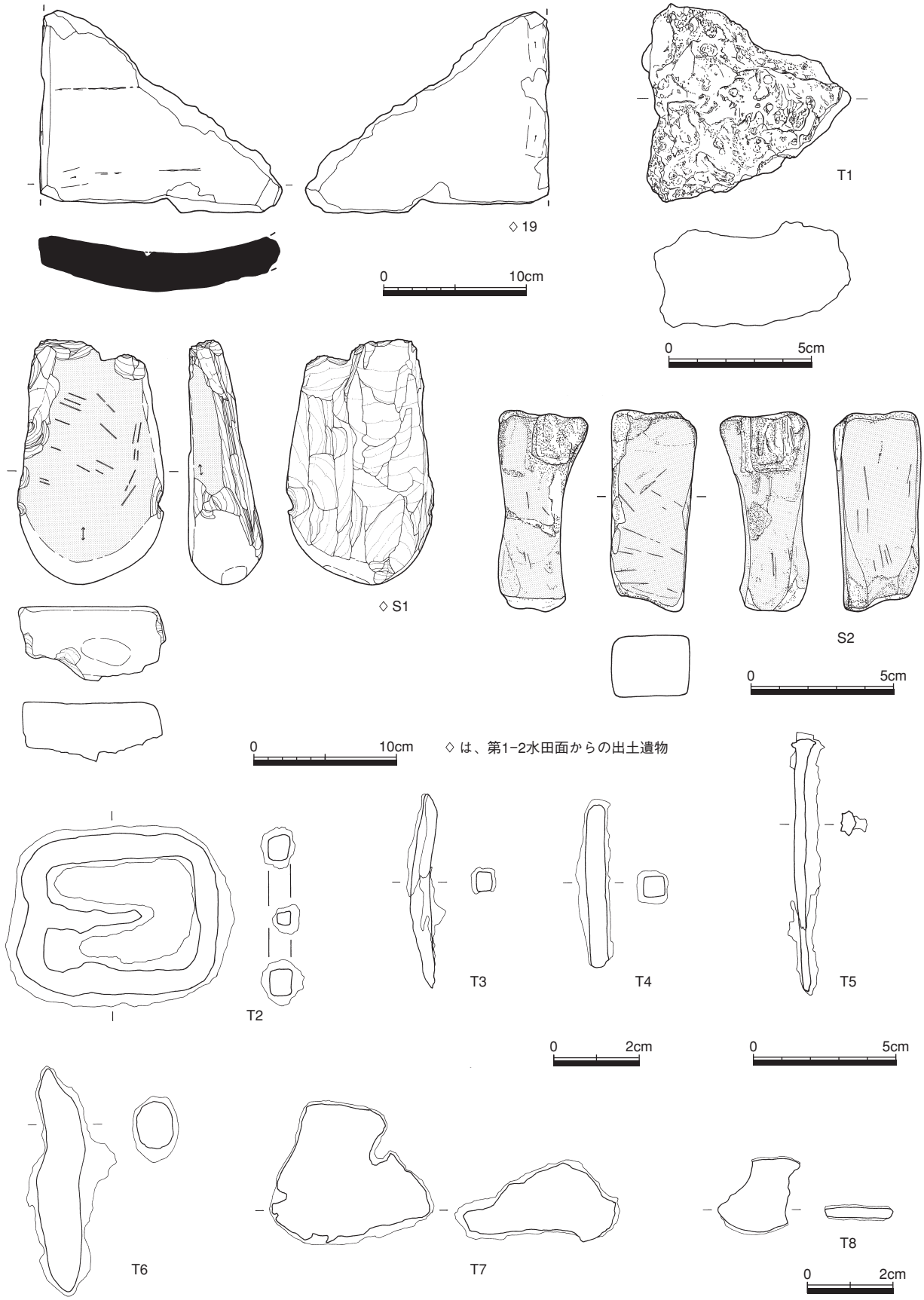


第114図　第１－２水田面遺物出土地点グリッド対応図

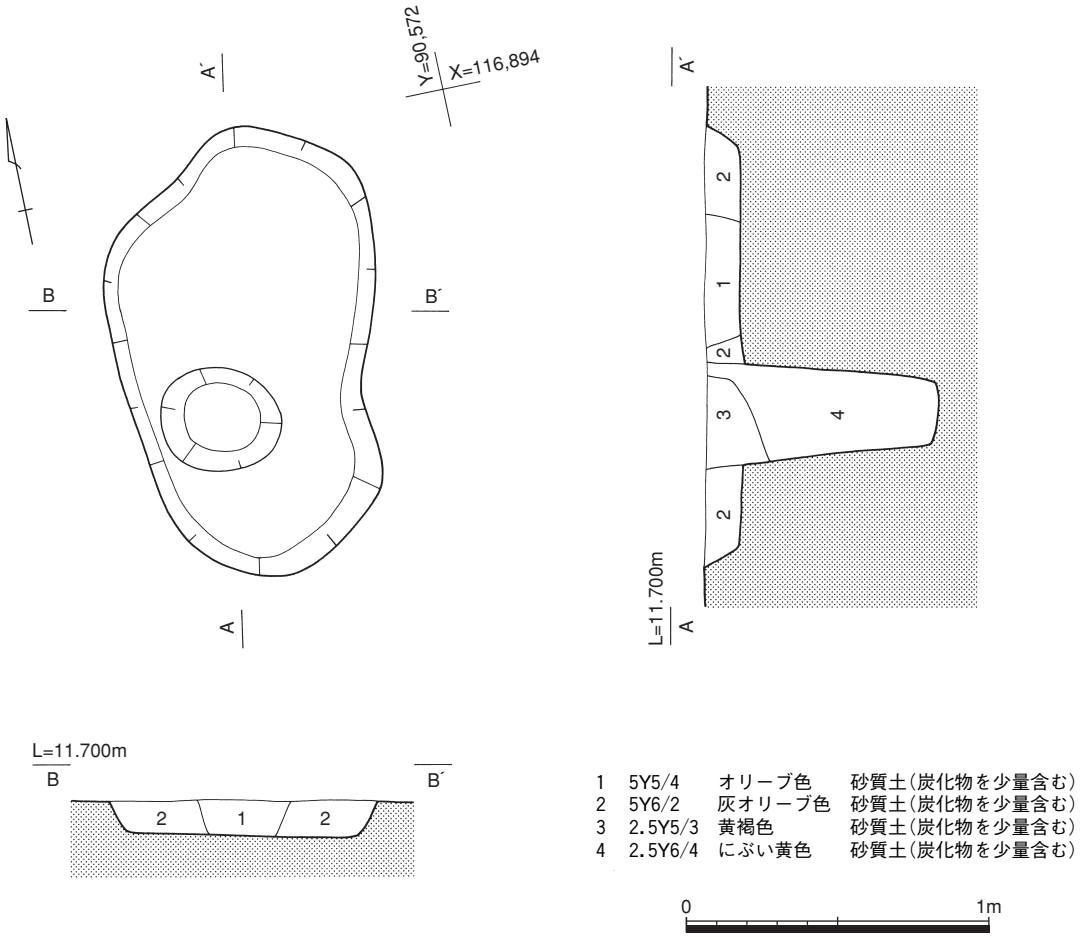


◇ は、第1-2水田面からの出土遺物

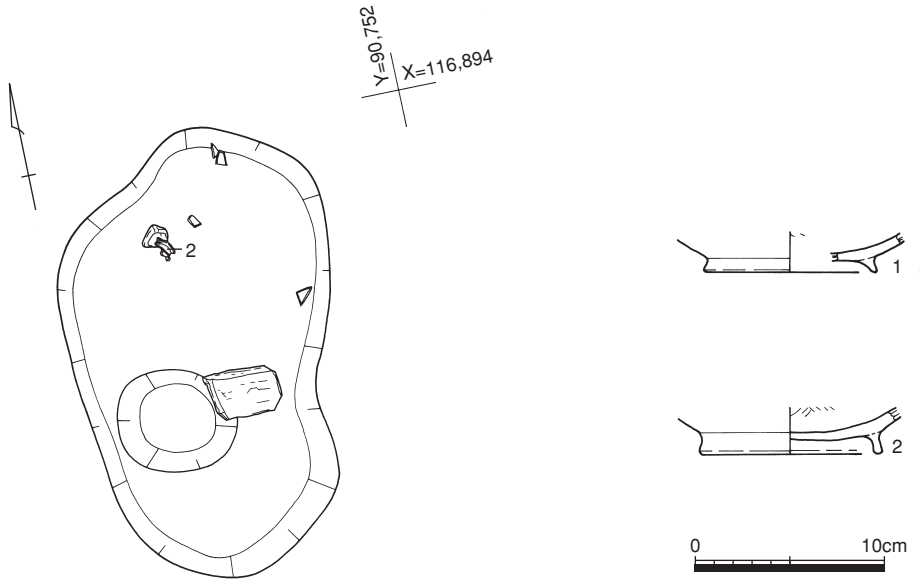
第115図　第１、１－２水田面出土遺物図(1)



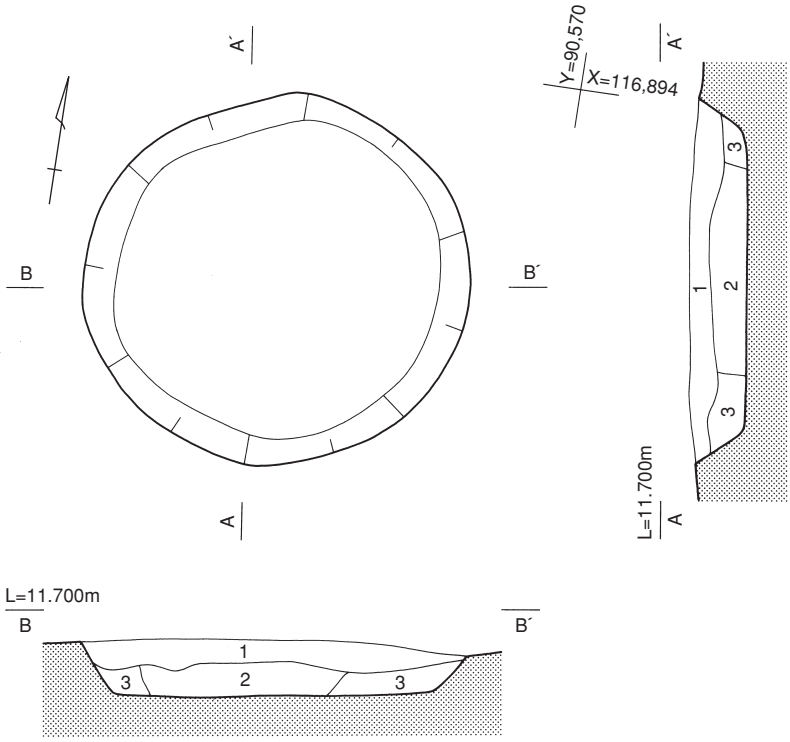
第116図　第１、１－２水田面出土遺物図(2)



第117図　SK1001遺構平・断面図

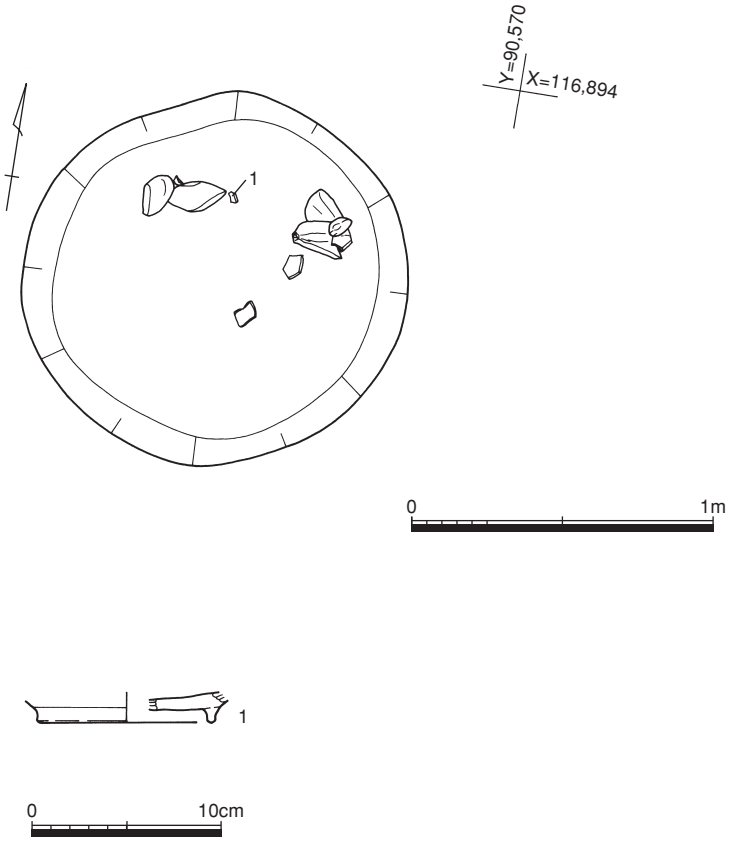


第118図　SK1001遺物出土状況図、出土遺物図



1　2.5Y6/2　灰黄色　砂質土(炭化物を少量含む)
2　2.5Y6/1　黄灰色　砂質土(炭化物を少量含む)
3　2.5Y7/2　灰黄色　砂質土

第119図　SK1002遺構平・断面図



第120図　SK1002遺物出土状況・出土遺物図

３号土坑（SK1003）（第121・122図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｒ－13・14グリッド

規模と形状　長軸2.05m、短軸1.20m、深度0.32mを測る不整長方形を呈する土坑である。中央部に柱穴が伴う。遺構内にEK１、EP１がある。EK１の規模は、長径1.36m、短径0.4～0.8m、深度0.08mを測る。形状は、平面が東西方向に長く不定形であり、断面が逆台形である。EP１の規模は約0.175m、深度0.225mを測る。形状は、平面が円形であり、断面が逆台形である。結晶片岩川原石と共に土器片が出土した。

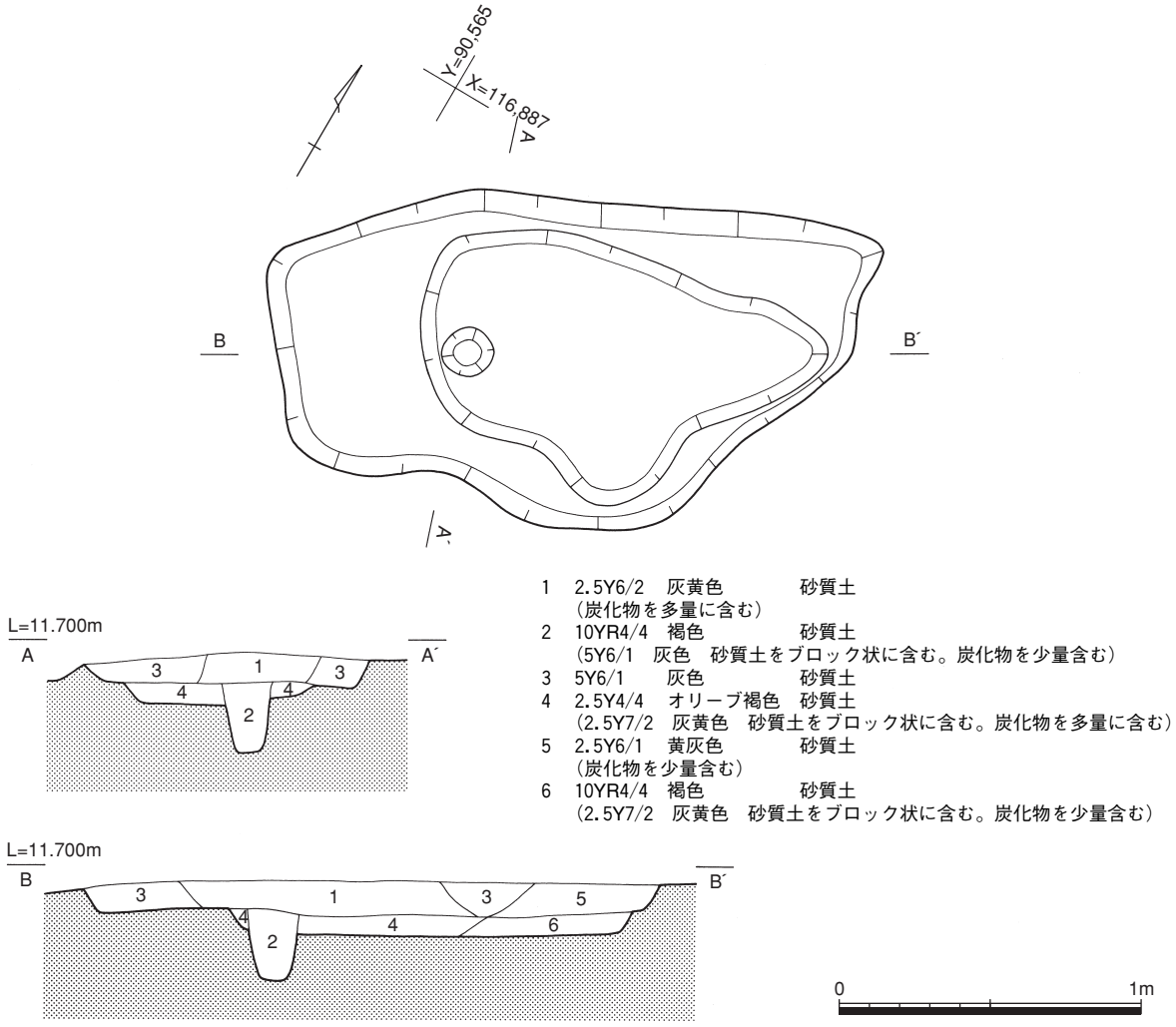
土層　遺構覆土は灰黄色砂質土、褐色砂質土である。

出土遺物　１・２は弥生土器で、１は鉢、２は壺である。３～６は土師器で、３は杯、４・５は皿、６は杯である。７は須恵器壺である。

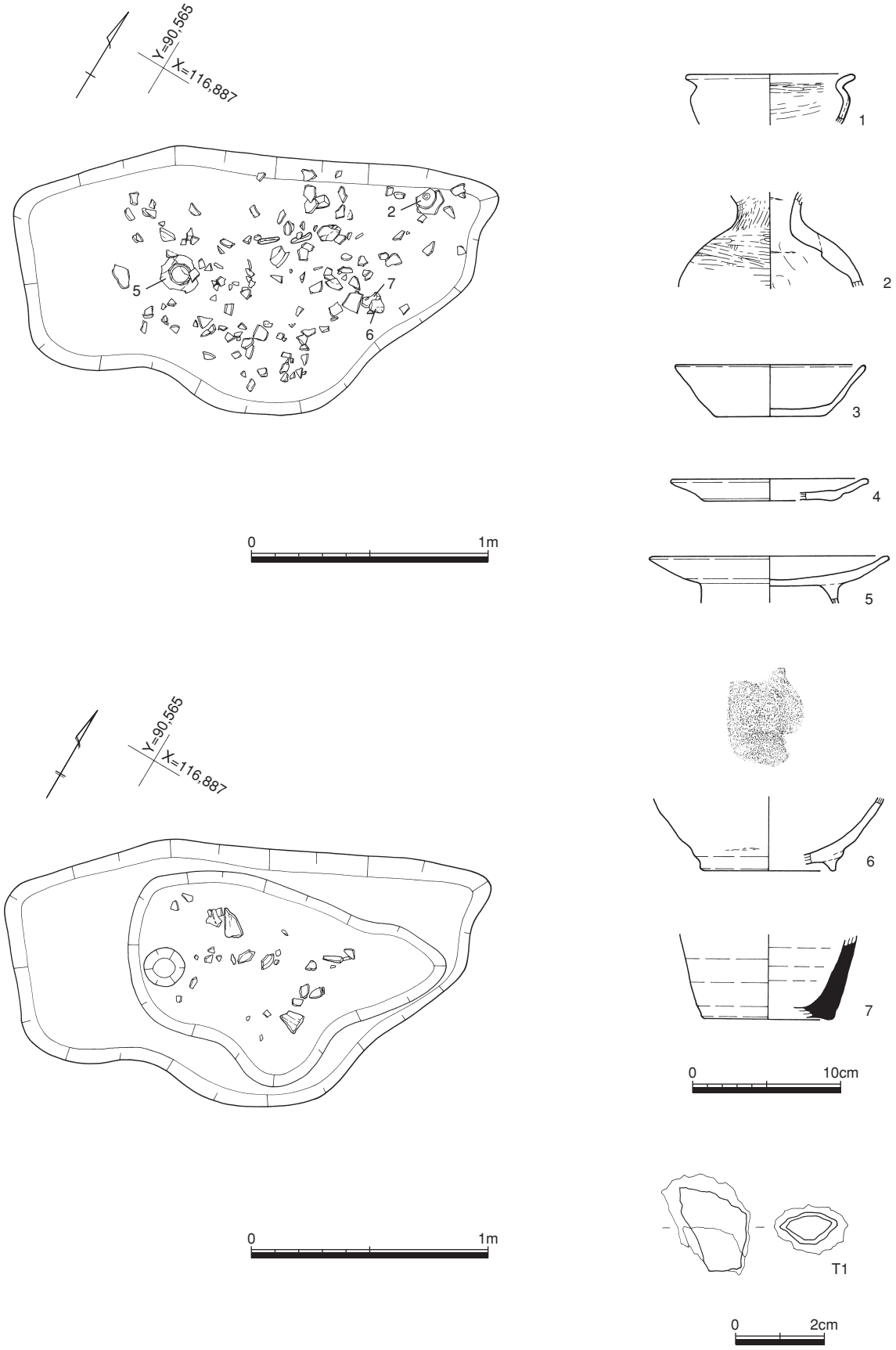
時期　古代である。

12号土坑（SK1012）（第123～126図）

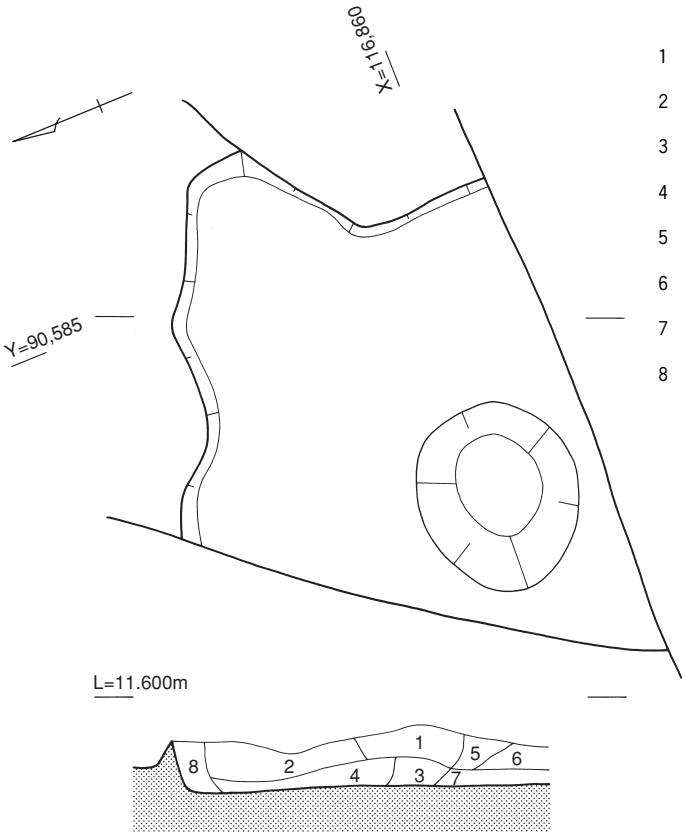
位置　97－1区。Loc.Ｂ－３　δⅠ　Ｍ－17・18グリッド



第121図　SK1003遺構平・断面図



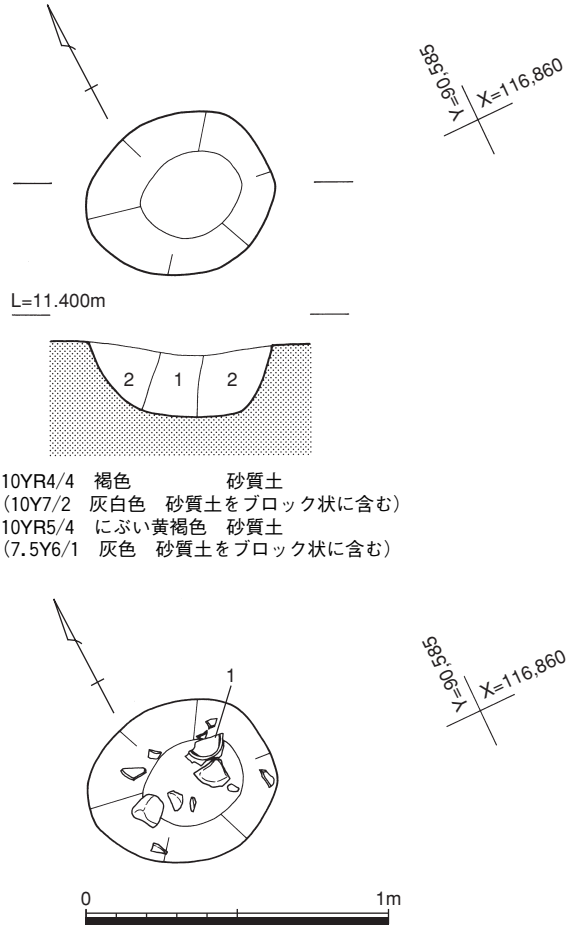
第122図　SK1003遺物出土状況・出土遺物図



1　10YR4/4　褐色　　砂質土
（7.5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む）
2　10YR5/2　灰黄褐色　　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
3　10YR4/4　褐色　　砂質土
（5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）
4　10YR3/4　暗褐色　　砂質土
（10Y7/2　灰白色　砂質土をブロック状に含む）
5　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
（10Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）
6　10YR4/4　褐色　　砂質土
（5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む）
7　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
（5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む）
8　10YR3/4　暗褐色　　砂質土
（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む）

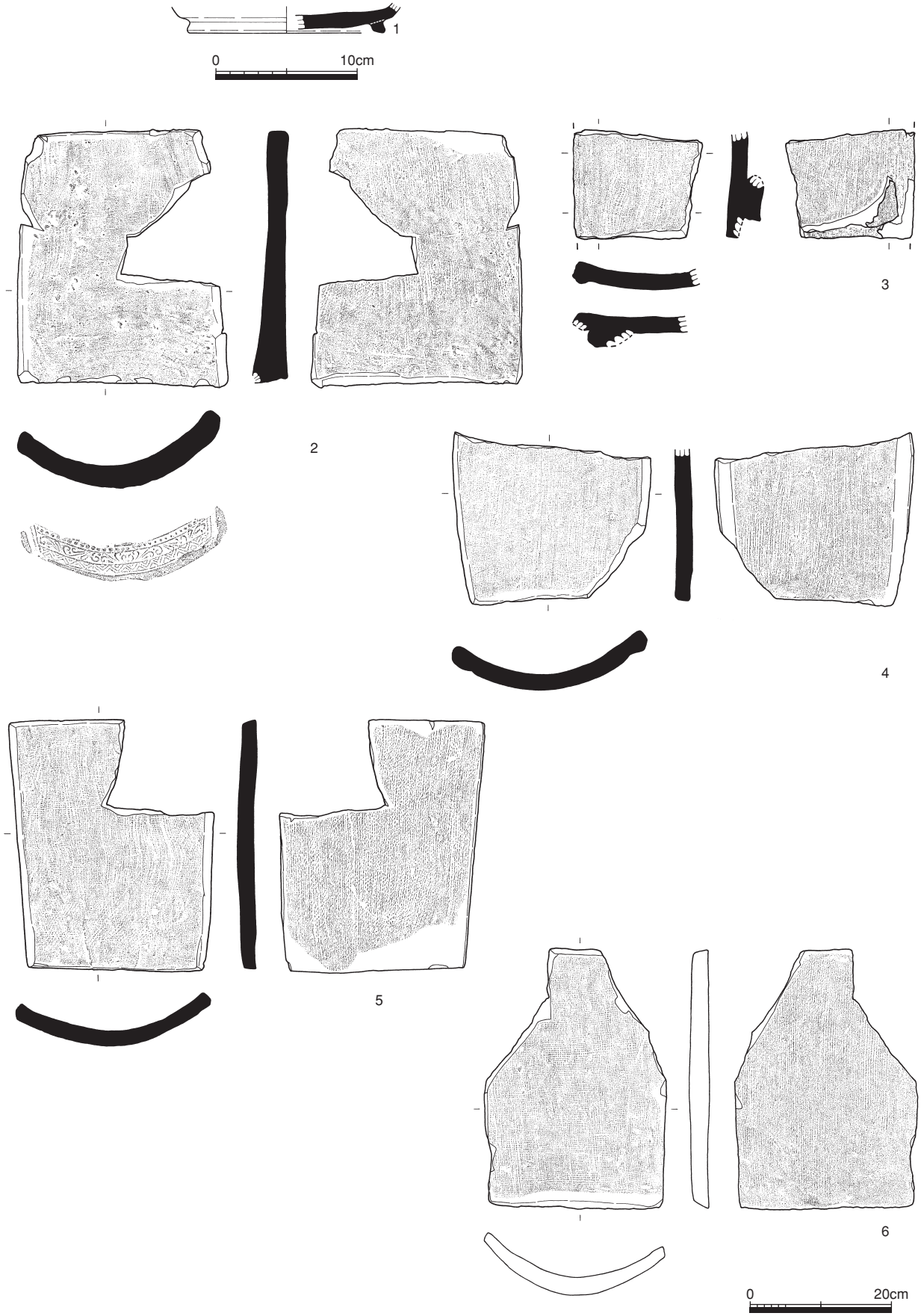
第123図　SK1012遺構平・断面図

第124図　SK1012遺物出土状況図

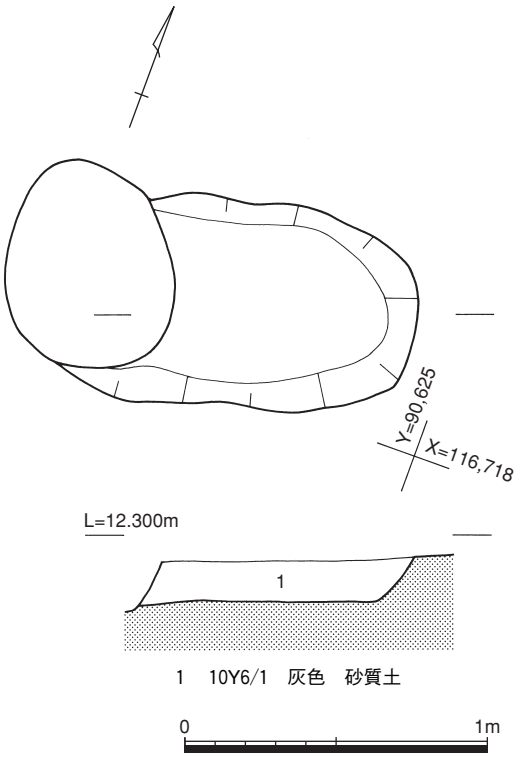


1　10YR4/4　褐色　　砂質土
（10Y7/2　灰白色　砂質土をブロック状に含む）
2　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
（7.5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）

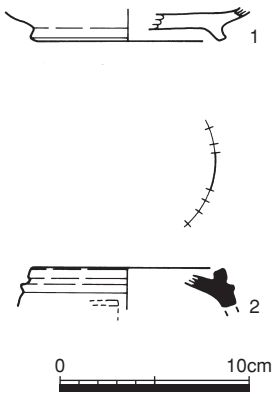
第125図　SK1012EP－１遺構平・断面・遺物出土状況図



第126図　SK1012出土遺物図



第127図　SK1025遺構平・断面図



第128図　SK1025出土遺物図

規模と形状　東・南・西側を別遺構に切られており、本来形状は不明である。残存長軸2.10m、残存短軸1.90m、深度0.20mを測る。残存部南西側に柱穴（EP１）が１基伴う。EP１は、規模が0.6m、深度0.28mを測る。形状は、平面が不整円形であり、断面は船底形である。結晶片岩割石と共に、平瓦が出土した。平瓦２・３・４は一箇所に重なった状態で出土している。

土層　遺構覆土は、褐色砂質土・暗褐色砂質土・にぶい黄褐色砂質土である。EP１内覆土は褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土である。

出土遺物　１は須恵器皿である。２は瓦当に均整唐草文を有する軒平瓦、３～６はいずれも凸面に縄蓆文叩きを施す平瓦である。

時期　古代である。

25号土坑（SK1025）（第127・128図）

位置　97－3区。Loc.Ｂ３　γⅡ　Ｄ－5グリッド

規模と形状　西側を柱穴に切られている。残存長軸0.88m、短軸0.68m、深度0.14mを測る隅丸長方形を呈する土坑である。

土層　遺構覆土は灰色砂質土である。

出土遺物　１は土師器杯である。２は須恵質焼成の円面硯である。器形は鼓形をなし、圏足部には長方形の透かし孔が穿たれる。

時期　古代である。

柱穴

14号柱穴（SP1014）（第129・130図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｒ－13グリッド

規模と形状　長径0.59m、短径0.56m、深度0.41mを測る柱穴である。遺構の形状は、平面が不整円形で、断面は逆台形を呈する。柱抜き取り跡は、直径約0.28m、深度0.32mを測る。形状は、平面が円形であり、断面が逆台形である。

土層　柱抜き取り跡部の土層は灰オリーブ褐色砂質土、黄褐色砂質土である。埋土は褐色砂質土・オリーブ褐色砂質土・暗灰黄色砂質土である。

出土遺物　１は土師質の竈形土器片である。

時期　古代である。

16号柱穴（SP1016）（第131・132図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－12グリッド

規模と形状　長径0.48m、短径0.46m、深度0.40mを測る柱穴である。平面が円形で、断面は逆台形を呈する。柱抜き取り跡は、直径0.25m、深度0.4mを測る。形状は、平面が円形で断面が逆台形である。

土層　柱抜き取り跡部は、オリーブ褐色砂質土である。埋土はオリーブ褐色砂質土である。

出土遺物　１は土師器皿である。

時期　古代である。

17号柱穴（SP1017）（第131・133図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－12グリッド

規模と形状　長径0.76m、短径0.72m、深度0.52mを測る柱穴である。平面が不整円形で、断面が逆台形を呈する。柱抜き取り跡は、直径0.28m、深度0.47mを測る。形状は、平面が円形であり、断面が逆台形である。

土層　柱抜き取り跡はにぶい黄色砂質土である。埋土は灰黄色砂質土、灰オリーブ色砂質土等である。

出土遺物　１は土師器杯である。

時期　古代である。

26号柱穴（SP1026）（第134・135図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－15グリッド

規模と形状　長径0.39m、短径0.29m、深度0.54mを測る柱穴である。平面が不整円形で、断面が逆台形を呈する。

土層　柱抜き取り跡は黄褐色砂質土である。埋土は暗褐色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器甕である。流れ込みと推定される。

時期　遺構面の対応関係から見て、古代以降である。

30号柱穴（SP1030）（第136・137図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　R－15グリッド

規模と形状　長径0.63m、短径0.56m、深度0.51mを測る柱穴である。平面が隅丸方形で、断面が逆台形を呈する。柱抜き取り跡は、直径0.32m、深度0.3mを測る。平面が円形で、断面は逆台形である。柱抜き取り跡覆土より土師器１が出土している。

土層　柱抜き取り跡は、灰オリーブ色砂質土・黄褐色砂質土・黄灰色砂質土である。埋土は灰オリーブ色砂質土である。

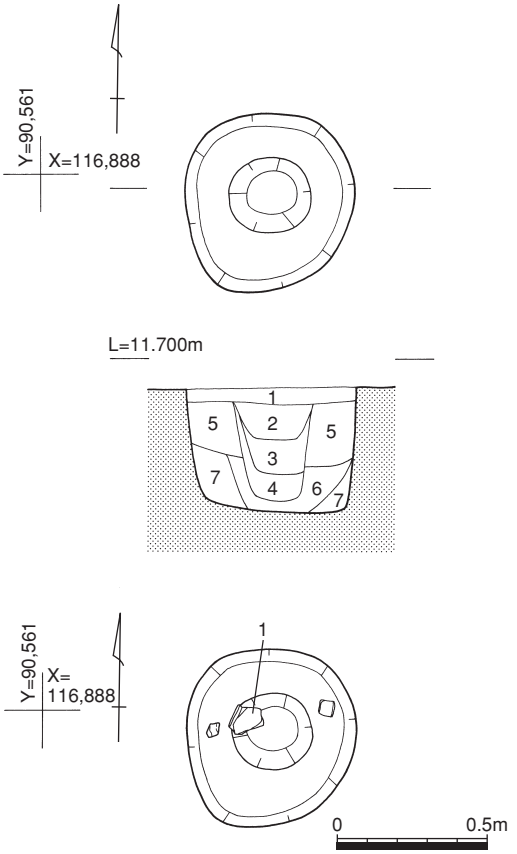
出土遺物　１は土師器杯、内外面に赤色顔料が塗布されている。土師器２は皿である。

時期　古代以降である。

31号柱穴（SP1031）（第138・139図）

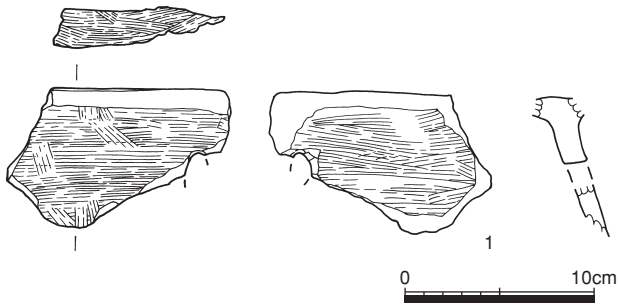
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　R－15グリッド

規模と形状　長径0.54m、短径0.49m、深度0.56mを測る柱穴である。平面が隅丸方形で、断面が逆台

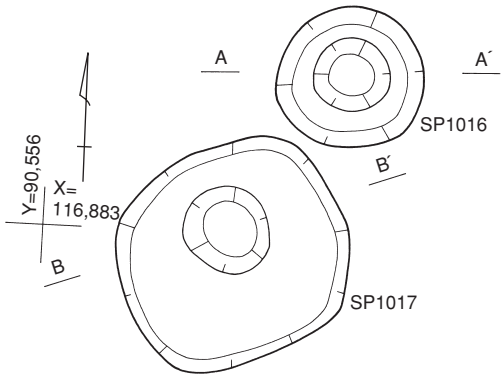


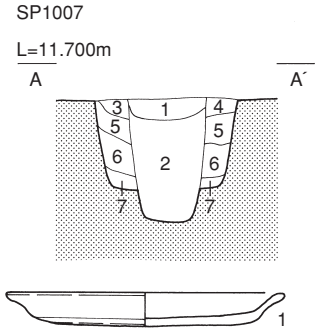
1　5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR5/6　にぶい黄褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
2　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
3　2.5Y5/6　黄褐色　砂質土
4　2.5Y4/4　オリーブ褐色　砂質土（炭化物を少量含む）
5　10YR4/4　褐色　砂質土
6　2.5Y4/6　オリーブ褐色　砂質土
7　2.5Y5/2　暗灰黄色　砂質土

第129図　SP1014遺構平・断面・遺物出土状況図



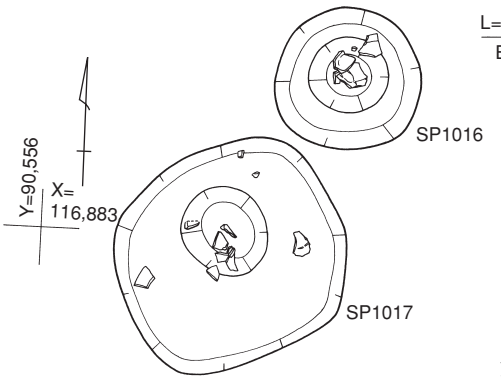
第130図　SP1014出土遺物図

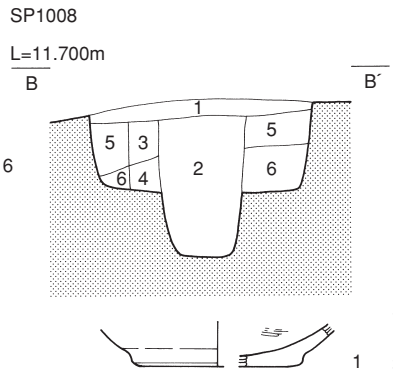




1　5Y6/3　オリーブ黄色　砂質土
2　5Y6/4　オリーブ黄色　砂質土
3　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
4　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
5　5Y5/2　灰オリーブ色　砂質土
6　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土
7　2.5Y4/4　オリーブ褐色　砂質土

第132図　SP1016出土遺物図



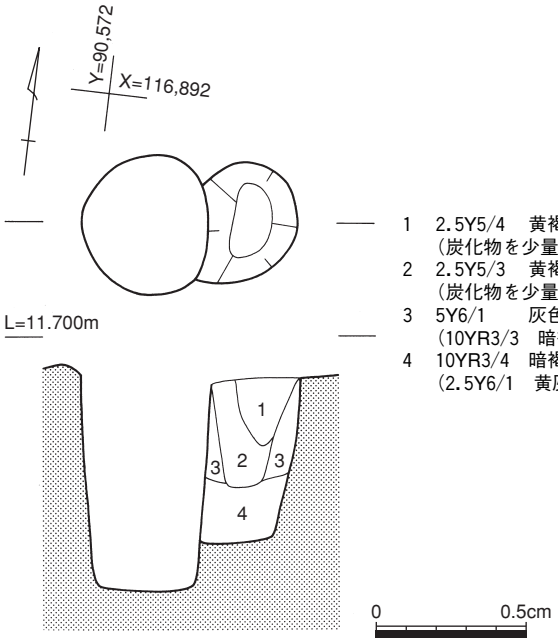


1　2.5Y5/2　暗灰黄色　砂質土
2　2.5Y6/3　にぶい黄色　砂質土
3　5Y5/4　オリーブ色　砂質土
4　2.5Y4/6　オリーブ褐色　砂質土
5　2.5Y6/2　灰黄色　砂質土
6　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土

平・断面図　0　0.5m
遺　物　図　0　10cm

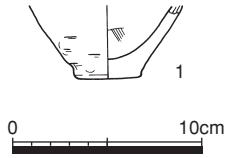
第133図　SP1017出土遺物図

第131図　SP1016、1017遺構平・断面・遺物出土状況図

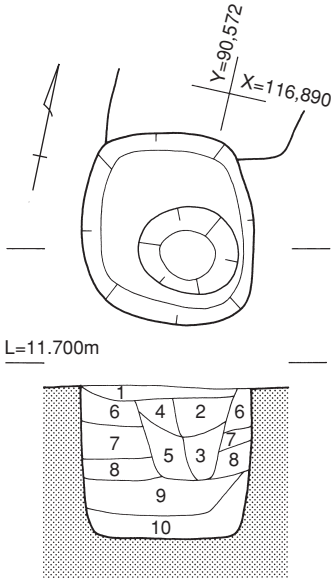


1　2.5Y5/4　黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
2　2.5Y5/3　黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
3　5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR3/3　暗褐色　砂質土をブロック状に含む）
4　10YR3/4　暗褐色　砂質土
（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む）

第134図　SP1026遺構平・断面図



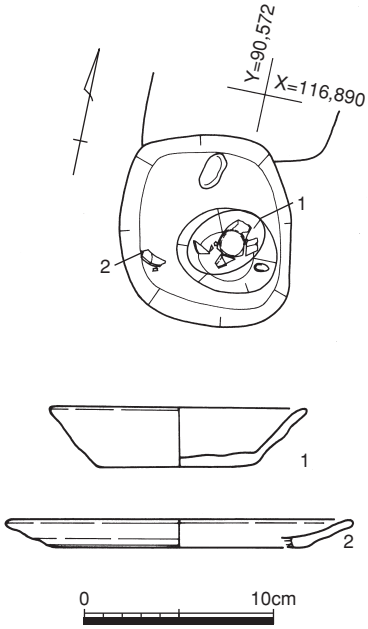
第135図　SP1026出土遺物図



1　2.5Y6/1　黄灰色　砂質土
2　5Y5/2　灰オリーブ色　砂質土
3　2.5Y5/3　黄褐色　砂質土
4　2.5Y5/1　黄灰色　砂質土
（炭化物を少量含む）
5　2.5Y6/3　にぶい黄色　砂質土
6　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
7　5Y6/3　オリーブ黄色　砂質土
（炭化物を少量含む）
8　5Y5/1　灰色　砂質土
9　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
10　5Y5/3　灰オリーブ色　砂質土

0　0.5m

第136図　SP1030遺構平・断面図



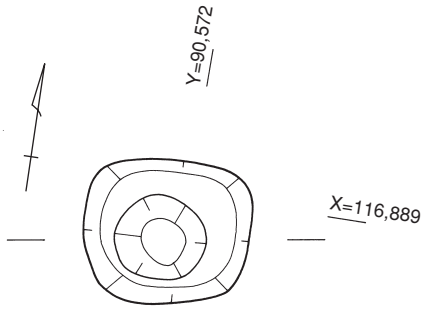
第137図　SP1030遺物出土状況・出土遺物図

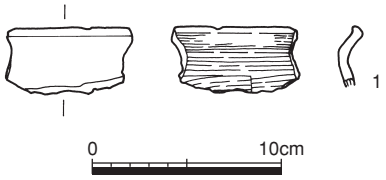
形を呈する。柱抜き取り跡は、直径0.3m、深度0.48mを測る。平面が不整円形で、断面が逆台形を呈する。

土層　柱抜き取り跡はオリーブ褐色砂質土である。埋土は褐色砂質土・にぶい黄褐色砂質土・暗褐色砂質土である。

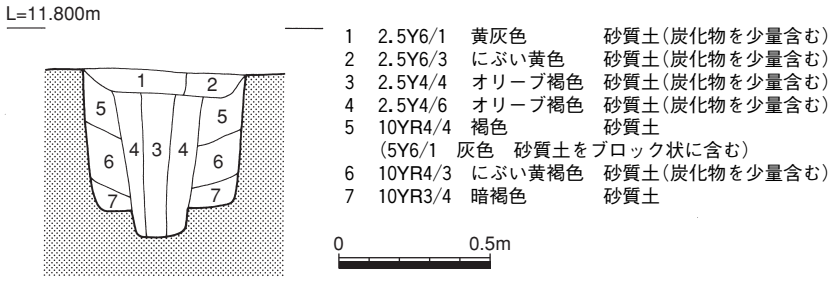
出土遺物　1は土師器甕である。

時期　古代である。

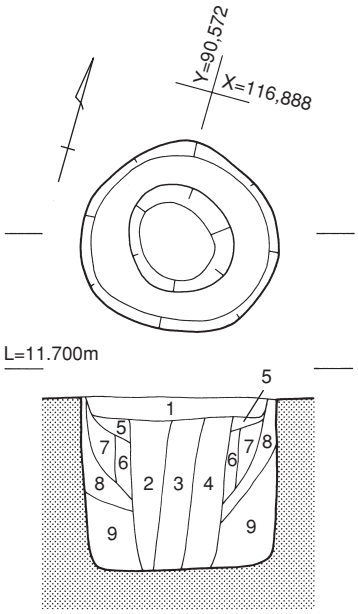


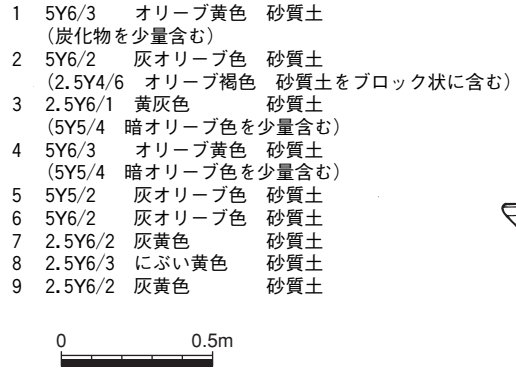


第139図　SP1031出土遺物図

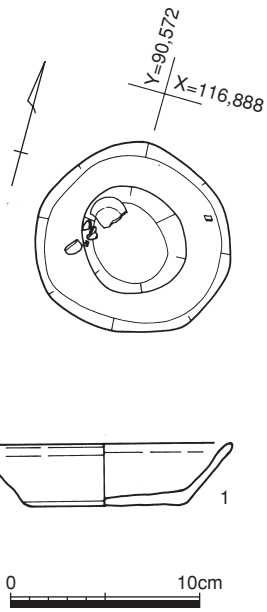


第138図　SP1031遺構平・断面図





第140図　SP1036遺構平・断面図



第141図　SP1036遺物出土状況・出土遺物図

36号柱穴（SP1036）（第140・141図）

位置　97－1区。Loc.B3　δⅠ　R－15グリッド

規模と形状　長径0.64m、短径0.63m、深度0.57mを測る柱穴である。平面が円形で、断面は逆台形を呈する。柱抜き取り跡は、直径0.36m、深度は0.5mを測り、平面が円形を、断面を逆台形を呈する。

土層　柱抜き取り跡は灰オリーブ色砂質土・黄灰色砂質土・オリーブ黄色砂質土である。埋土は灰オリーブ色砂質土・灰黄色砂質土・にぶい黄色砂質土である。

出土遺物　1は土師器杯である。内外面に赤色顔料が塗布されている。

時期　古代である。

83号柱穴（SP1083）（第142・143図）

位置　96－4区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ⅰ－13・14グリッド

規模と形状　長径0.74m、短径0.71m深度0.48mを測る柱穴である。平面が隅丸方形で、断面が逆台形である。柱穴底部９層中より、瓦１が結晶片岩川原石と共に出土した。根石の代用として置かれた可能性がある。

土層　柱抜き取り跡は黄褐色砂質土である。埋土は黄褐色砂質土、にぶい黄色砂質土である。

出土遺物　１は平瓦である。

時期　古代である。

110号柱穴（SP1110）（第144・145図）

位置　97－3区。Loc.Ｂ３　γⅡ　Ｂ－８グリッド

規模と形状　長径0.61m、短径0.54m、深度0.17mを測る柱穴である。平面が隅丸方形で、断面が逆台形を呈する。覆土中より須恵器１が出土した。

土層　遺構覆土は灰色砂質土である。

出土遺物　１は須恵器の高杯杯部である。

時期　古墳時代後期以降である。

性格不明遺構

１号性格不明遺構（SX1001）（第146・147図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　εⅠ　Ｅ・Ｆ－10グリッド

規模と形状　長軸2.18m、短軸1.72m、深度0.22mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、平面が北側は側溝で切られており不定形である。覆土中より図化できない須恵器片と共に、弥生土器１・２が出土している。弥生土器片は流れ込みと推定される。

土層　遺構覆土は褐色砂質土である。

出土遺物　１・２は弥生土器で、１は長頸壺、２は壺底部である。

時期　遺構面の対応関係からみて古代以降である。

２号性格不明遺構（SX1002）（第148・149図）

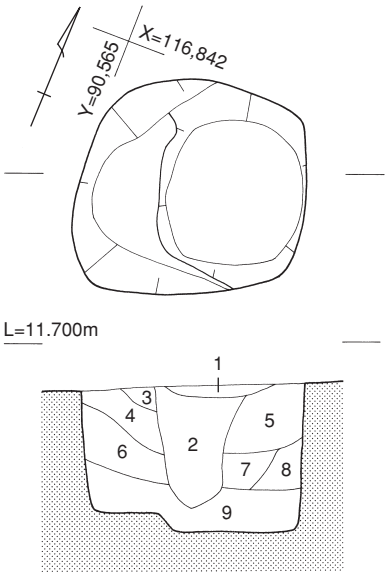
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｐ－13・14グリッド

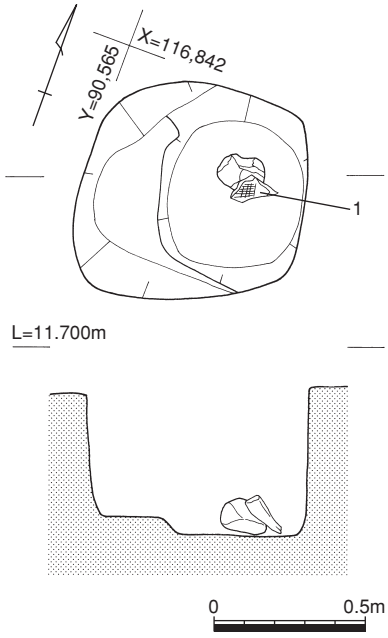
規模と形状　長軸3.42m、短軸2.98m、深度0.11mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、平面が北東～南西方向に長く不定形で、断面が逆台形である。水田区画の可能性や、浅い落ち込みの可能性もある。

土層　遺構覆土は、黄灰色砂質土・灰黄色砂質土・にぶい黄色砂質土である。

出土遺物　１・２は土師器皿である。

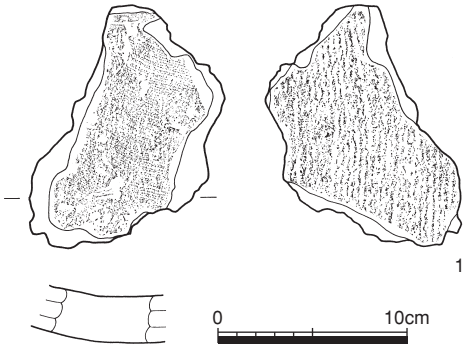
時期　古代である。



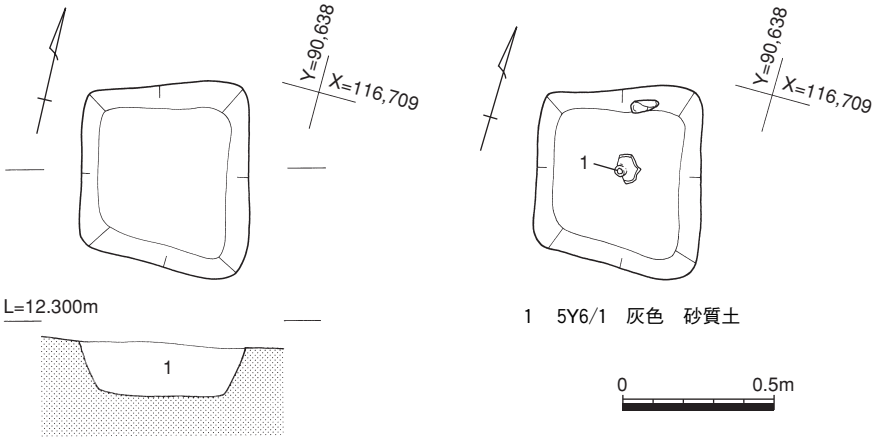


1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
2	2.5Y5/3	黄褐色	粘性砂質土
3	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
4	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土
5	2.5Y5/4	黄褐色	粘性砂質土
6	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
7	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土(炭化物を少量含む)
8	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘質土
9	2.5Y5/6	黄褐色	

第142図　SP1083遺構平・断面・遺物出土状況図

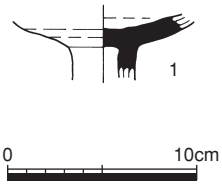


第143図　SP1083出土遺物図

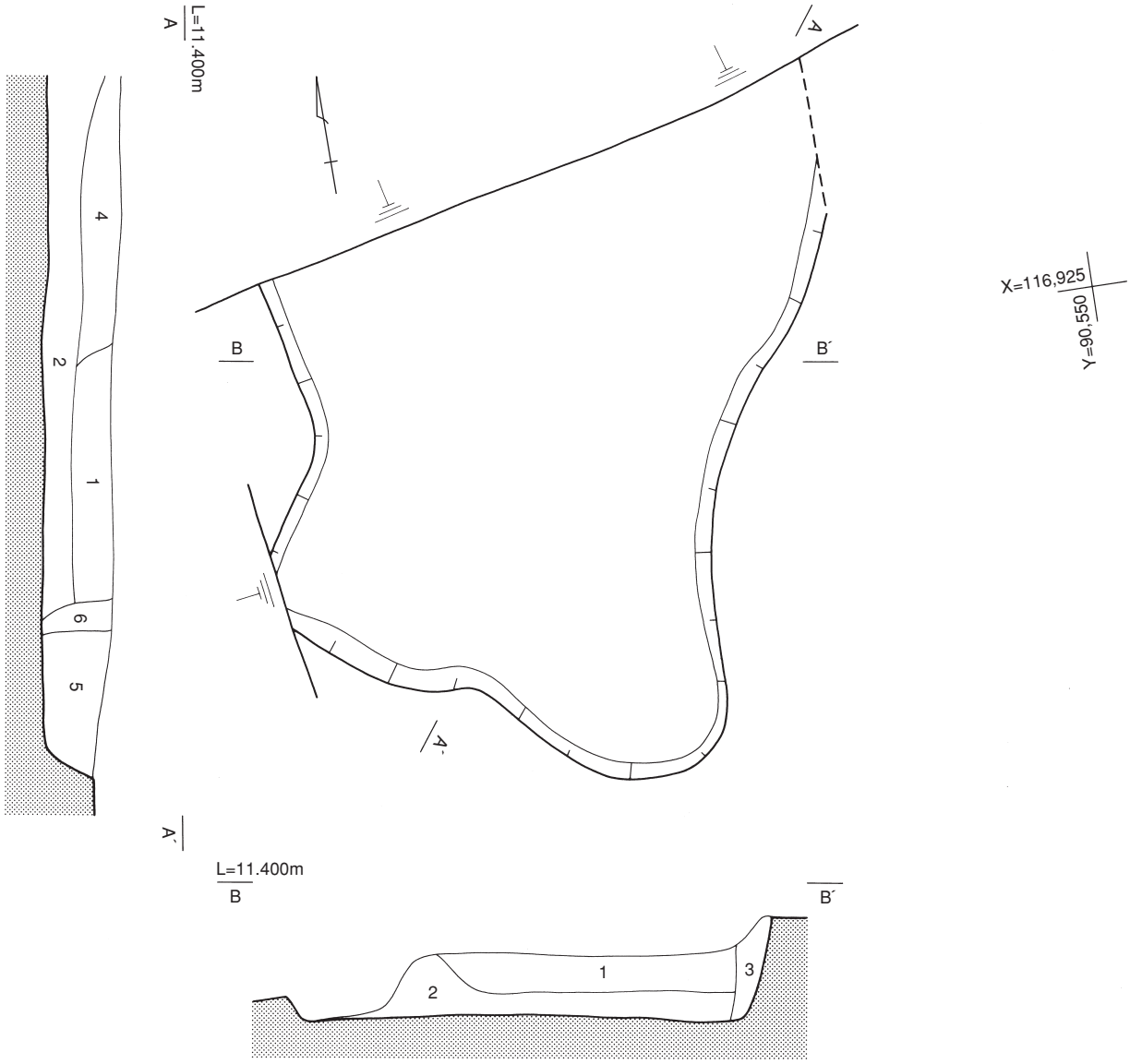


1　5Y6/1　灰色　砂質土

第144図　SP1110遺構平・断面・遺物出土状況図

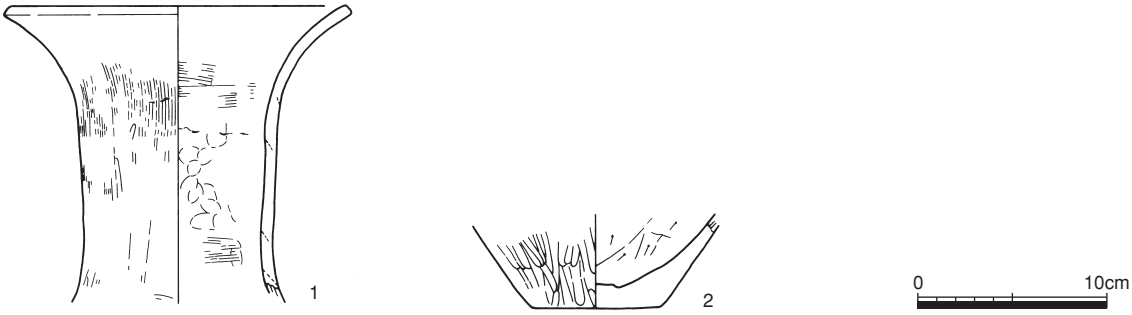


第145図　SP1110出土遺物図

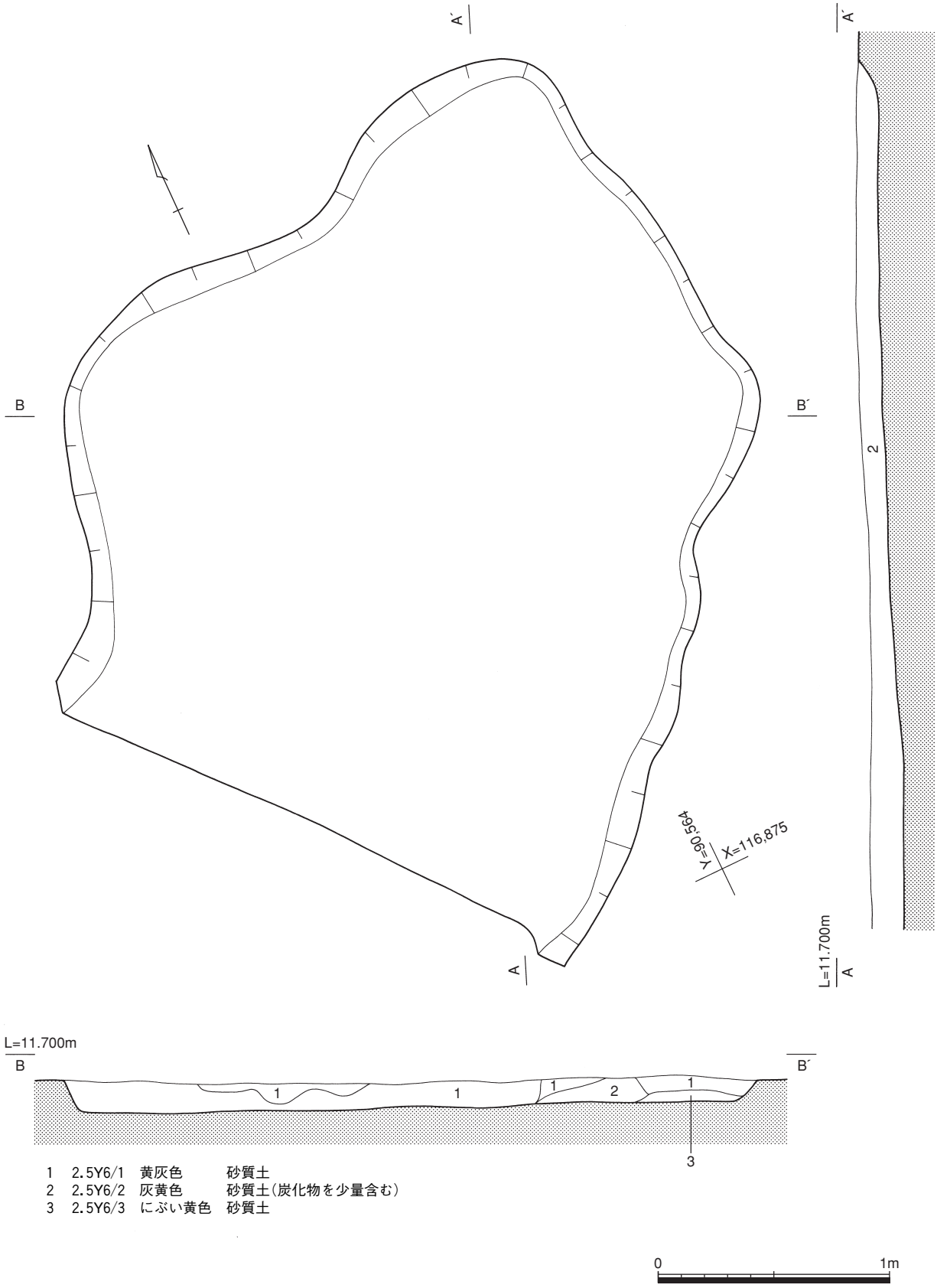


1　10YR4/6　褐色　泥質土(炭化物を含む)
2　10YR4/4　褐色　泥質土(炭化物を含む)
3　10YR4/4　褐色　泥質土(炭化物を含む)
4　10YR4/6　褐色　砂質土(炭化物を含む)
5　10YR4/6　褐色　泥質土(炭化物を少量含む)
6　10YR4/6　褐色　泥質土(炭化物を少量含む)

第146図　SX1001遺構平・断面図

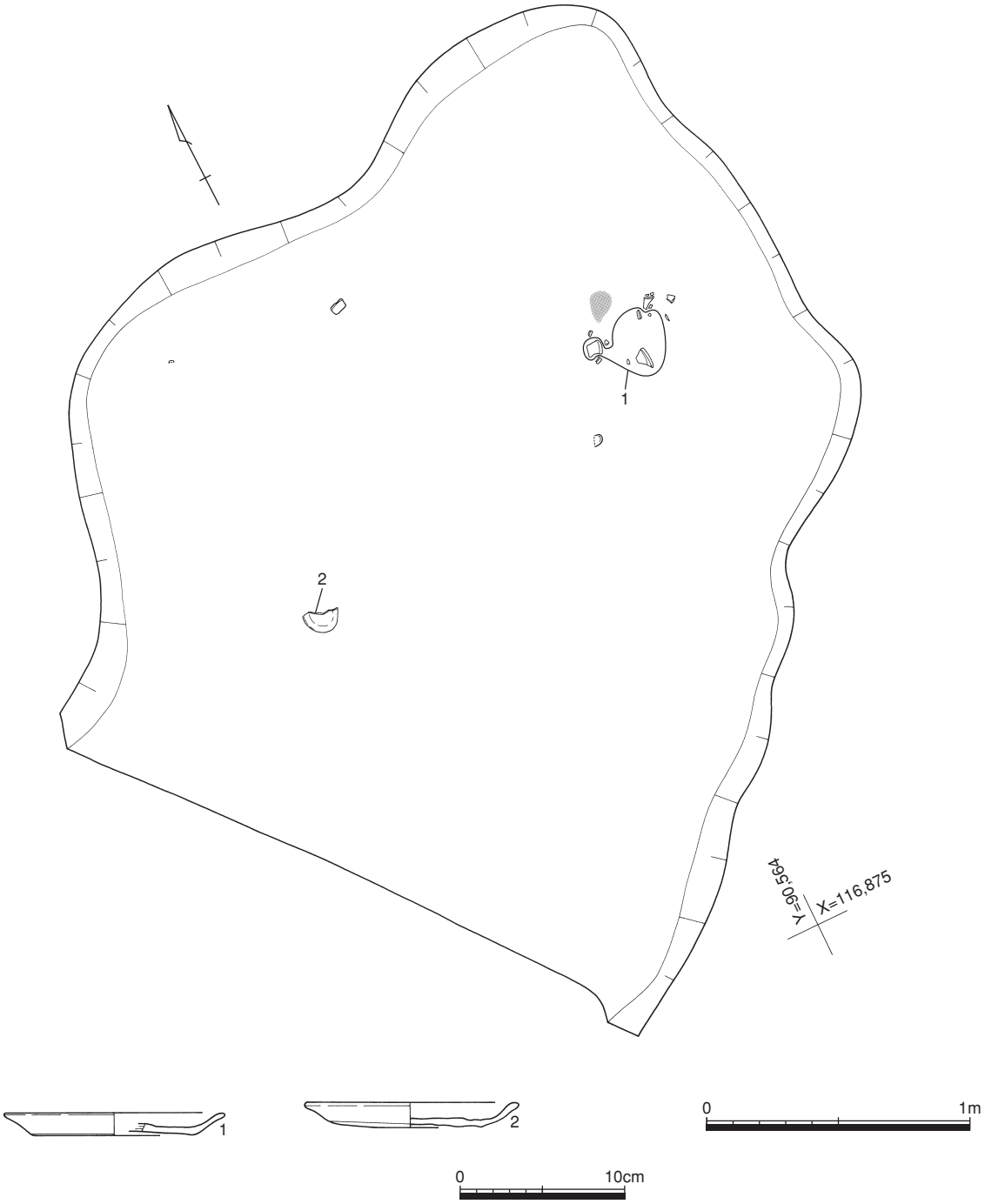


第147図　SX1001出土遺物図

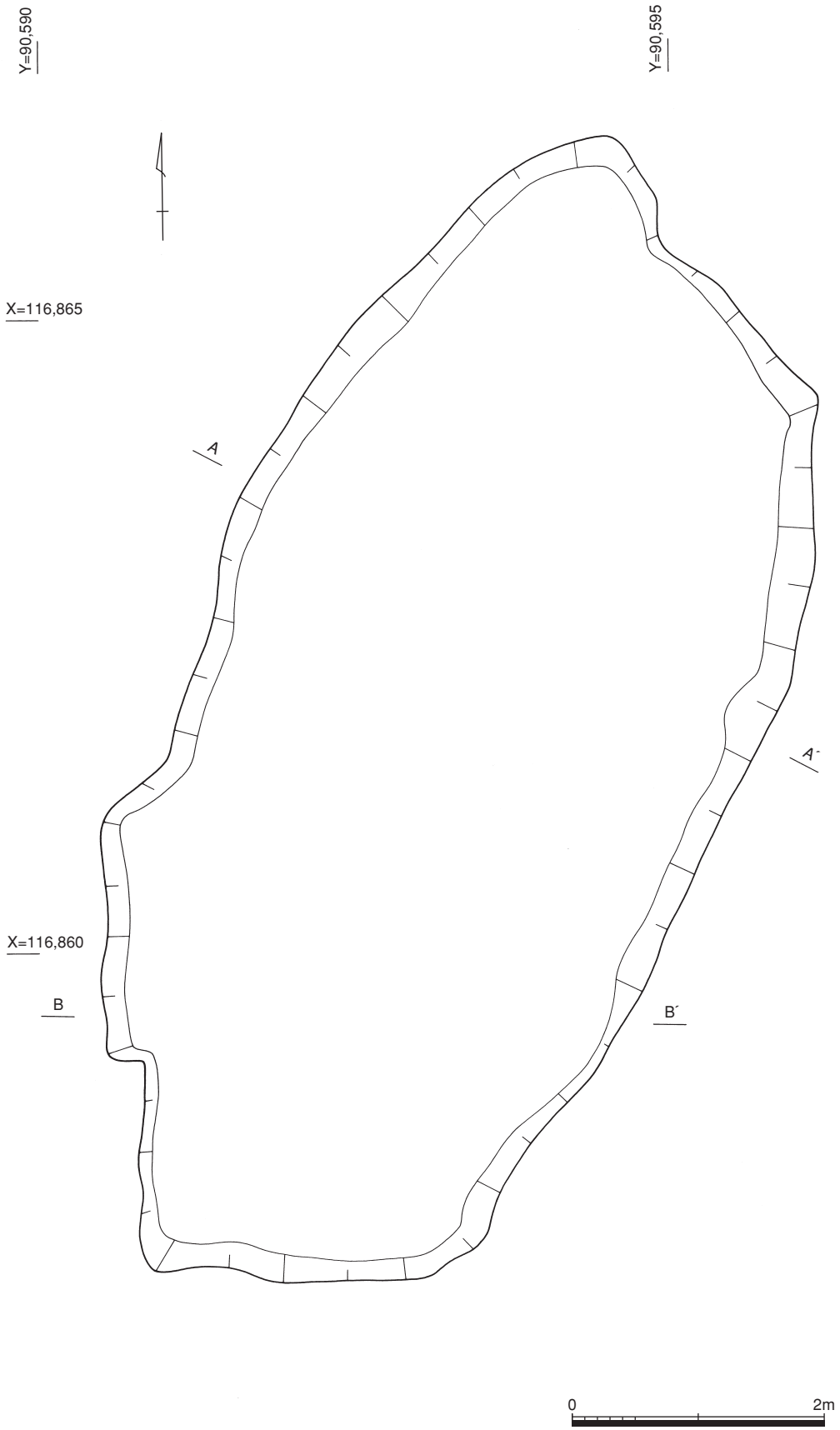


1　2.5Y6/1　黄灰色　　砂質土
2　2.5Y6/2　灰黄色　　砂質土(炭化物を少量含む)
3　2.5Y6/3　にぶい黄色　砂質土

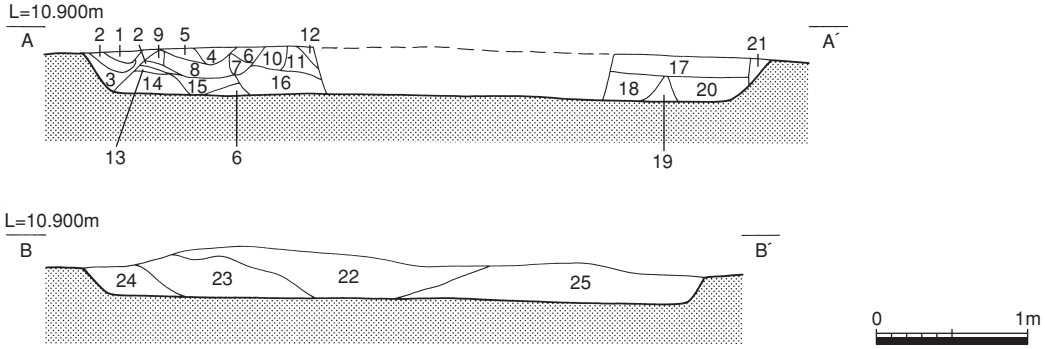
第148図　SX1002遺構平・断面図



第149図　SX1002遺物出土状況図、出土遺物図



第150図　SX1003遺構平面図



1　2.5Y6/2　灰黄色　砂質土
2　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を多量に含む）
3　2.5Y4/4　オリーブ褐色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
4　5Y6/1　灰色　砂質土
5　10YR4/4　褐色　砂質土
6　10Y6/1　灰色　砂質土
7　2.5Y6/1　黄灰色　砂質土
8　10Y7/2　灰白色　砂質土
9　7.5Y6/1　灰色　砂質土
10　10Y6/2　オリーブ灰色　砂質土
（炭化物を少量含む）
11　7.5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
12　5Y6/1　灰色　砂質土
13　5Y6/1　灰色　砂質土
（2.5Y5/4　黄褐色　砂質土をブロック状に含む）
14　7.5Y6/1　灰色　砂質土
15　2.5Y5/3　黄褐色　砂質土
16　7.5Y6/1　灰色　砂質土
17　2.5Y4/6　オリーブ褐色　砂質土
（炭化物を含む）
18　10Y3/4　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
19　2.5Y4/6　オリーブ褐色　砂質土
（7.5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む）
20　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
21　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
22　2.5Y4/3　オリーブ褐色　砂質土
（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
23　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
（10Y6/1　灰白色　砂質土をブロック状に含む）
24　2.5Y4/4　オリーブ褐色　砂質土
（7.5Y6/1　灰白色　砂質土をブロック状に含む）
25　10Y5/1　灰色　砂質土

第151図　SX1003遺構断面図

３号性格不明遺構（SX1003）（第150～161図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｌ－19、Ｍ－19・20、Ｎ－19・20グリッド

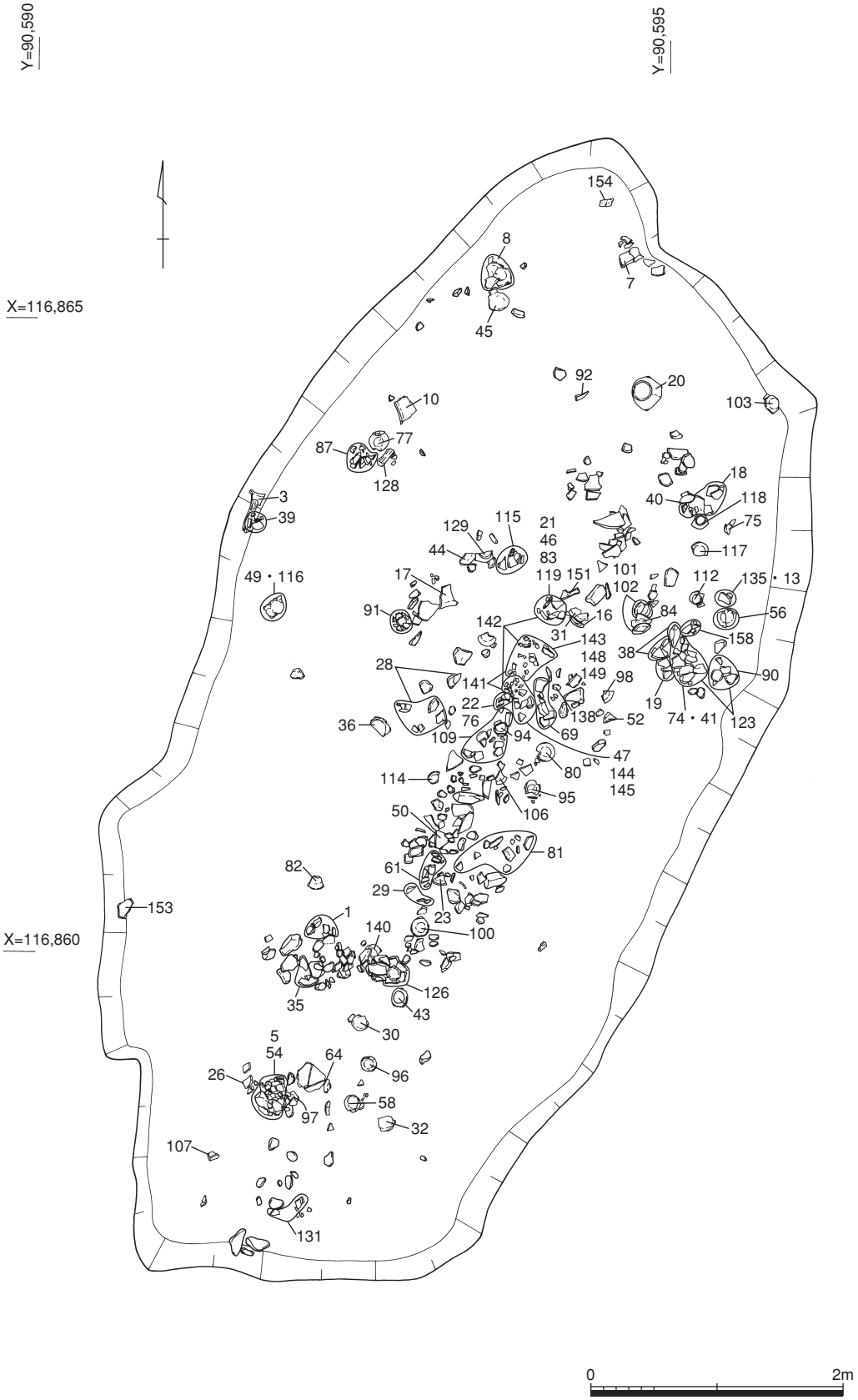
規模と形状　検出長9.45m、幅4.65～2.75m、深度0.30mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、北東～南西方向に延びている不整楕円形であり、断面は、逆台形を呈している。

遺構中央部より、川原石と共に土器類が多数出土した。北東方向から南西方向に筋状に伸びる点も、溝状遺構であった可能性も想定させる。

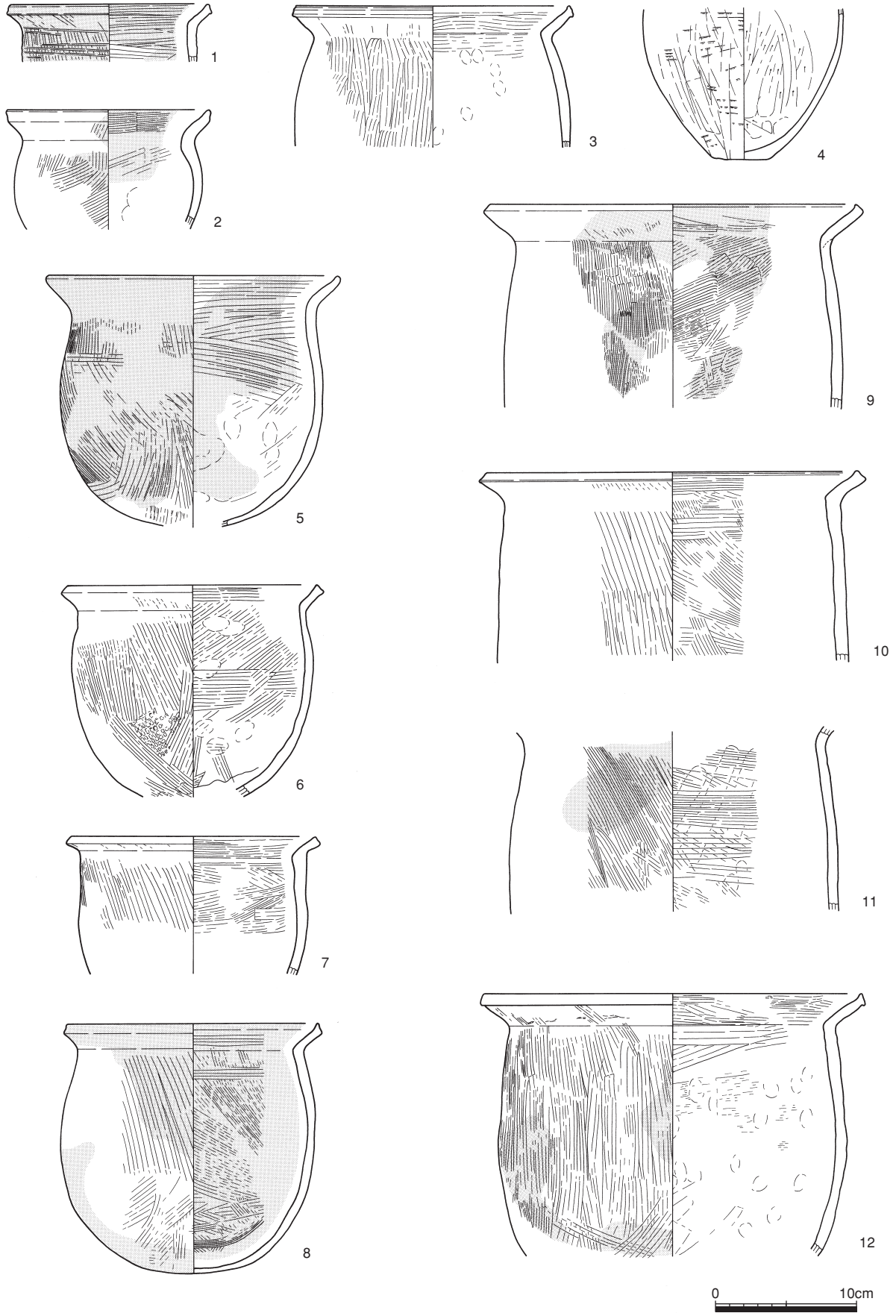
土層　遺構覆土は、灰黄色砂質土・灰色砂質土・オリーブ褐色砂質土等である。

出土遺物　162点図化されている。遺物の内訳は、弥生土器・土師器・須恵器・鉄器などである。

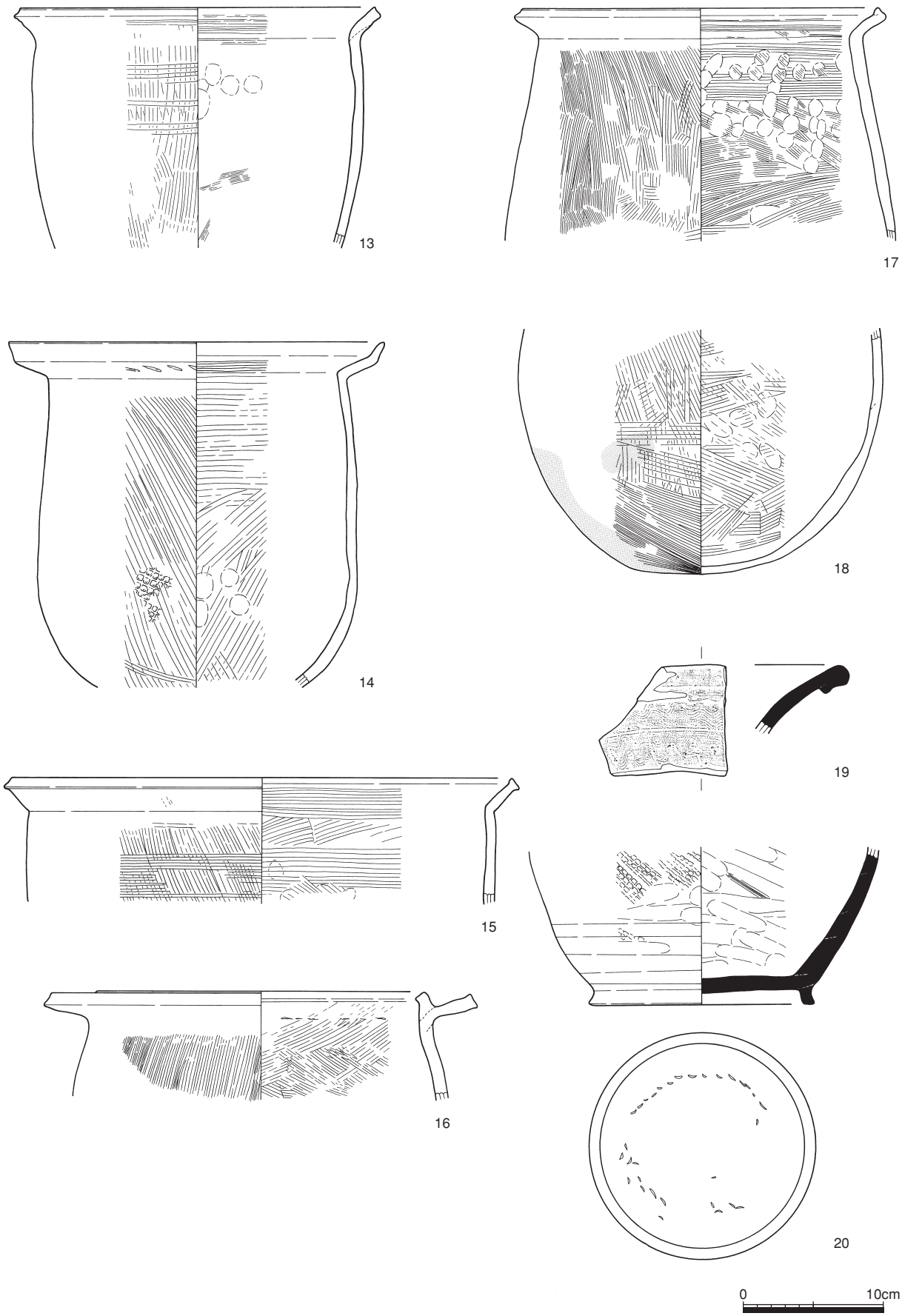
４は弥生土器甕の体部。内外面の調整から見て弥生時代後期のもの。１～３、５～129、150、153～156は土師器。１～３、５～15、17は甕である。体部が球胴状のものと長胴状のものとがあり、いずれも頸部から口縁部への屈曲が「く」の字状となるもの。主として平安時代のもの。21～129は供膳具で、杯・皿・高杯の器種が見られる。杯のうち21・22・24・25・36・37・40などには赤色顔料が塗布されている。また、24、27、101～103、119、127にはヘラ記号がみられる。描かれる位置には内面のみ・外面のみ・内外両面のパターンがあり、描かれる内容も「×」のような単純な記号が多いが、127のように複雑で呪術性の認められるものも含む。杯59・杯60の底部外面には墨書がある。59は外底面いっぱいに「佳」が書かれている。19・20、131～133は須恵器である。133はこね鉢底部か。134・135・137・138は緑釉陶器の椀・皿である。158は中国長沙窯産の青磁の水注である。水注肩部には、角の生えた動物の形をかたどり、目と模様が描かれた動物の顔が飾られており、非常に珍しいもの。T12～T16までは鉄器である。T12は鉄金具もしくは鋏であろうか。T13は鉄片、T14は鉄鏃、T15は釘で、T16は鎌である。



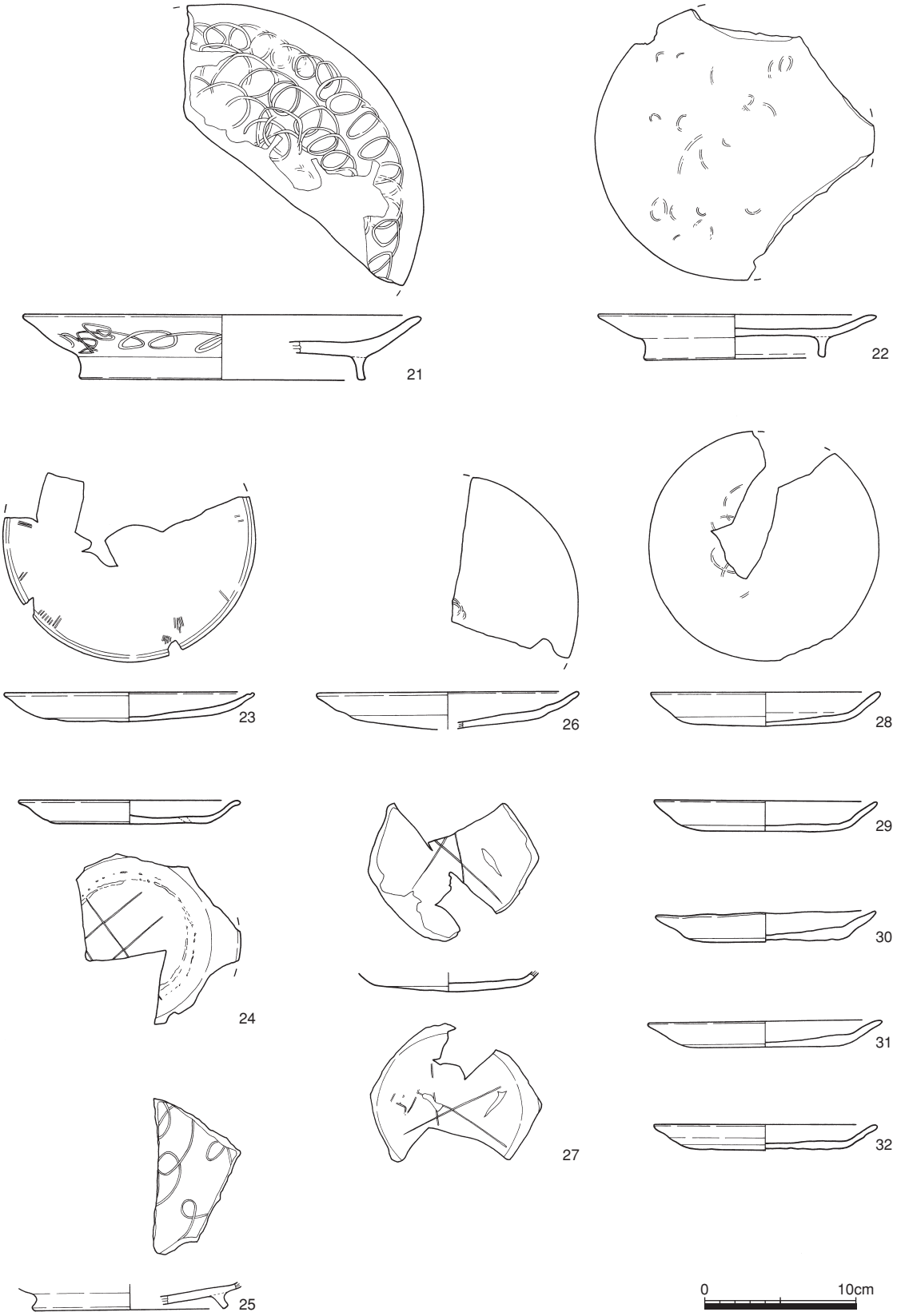
第152図　SX1003遺物出土状況図



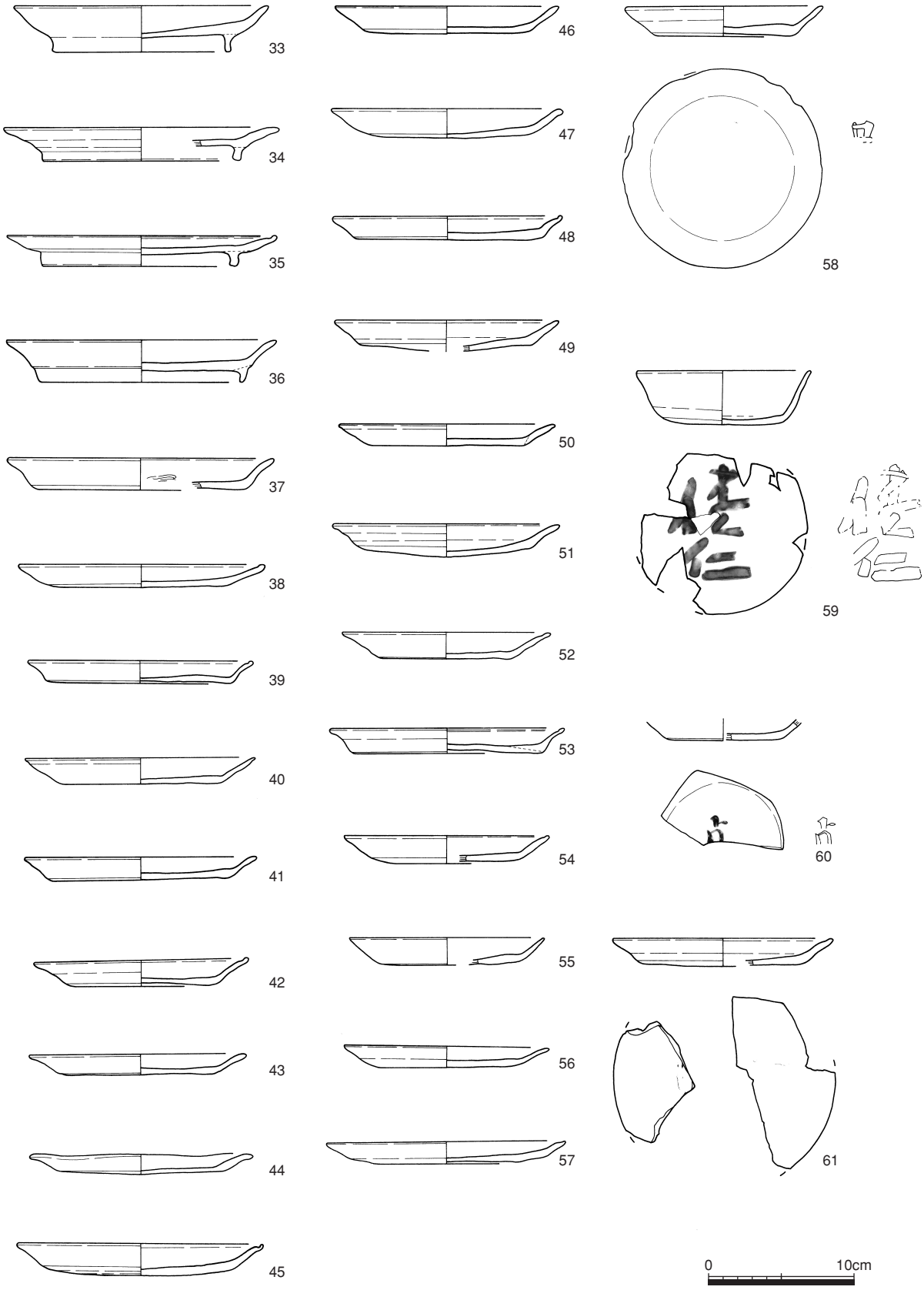
第153図　SX1003出土遺物図(1)



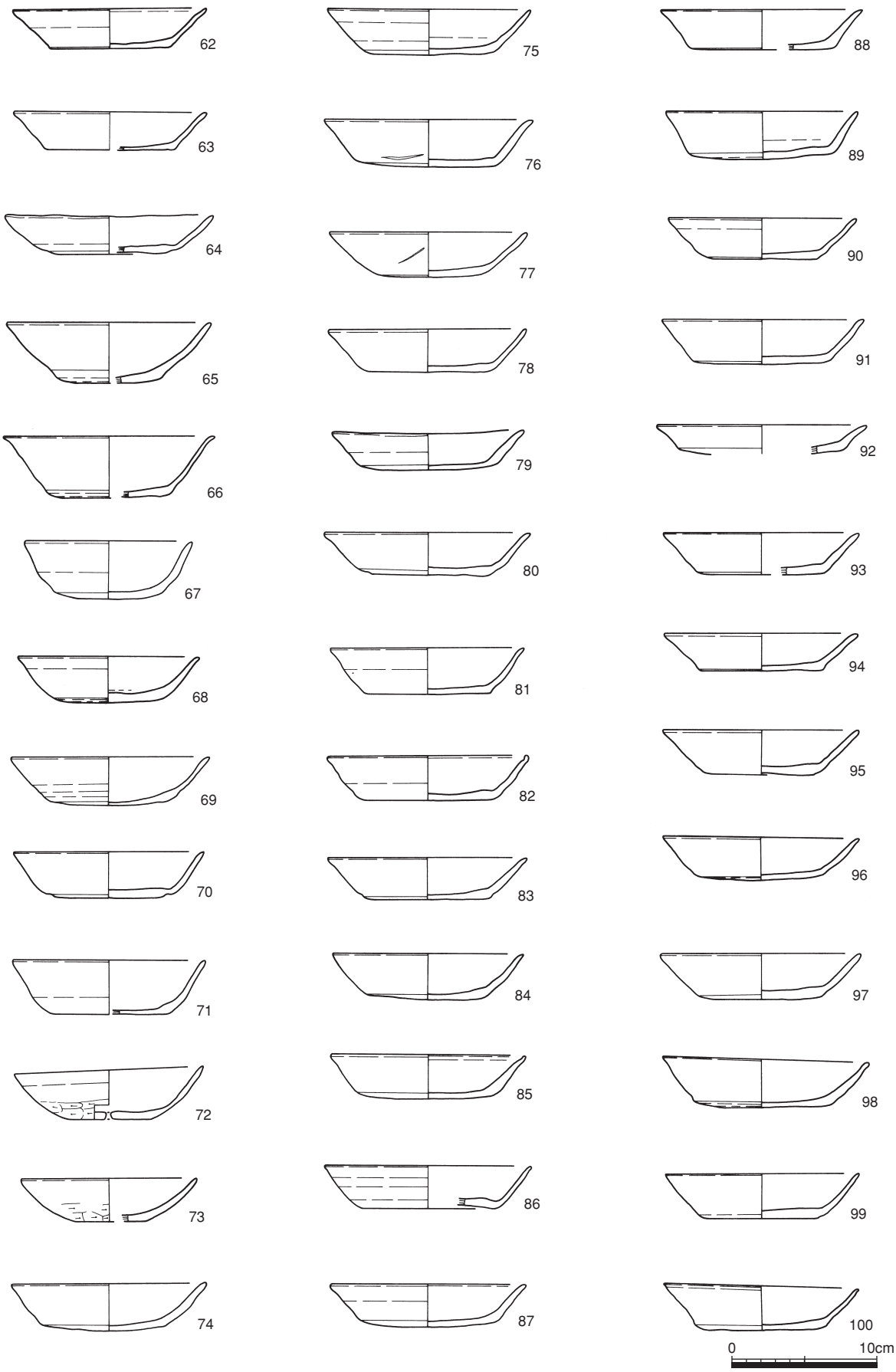
第154図　SX1003出土遺物図(2)



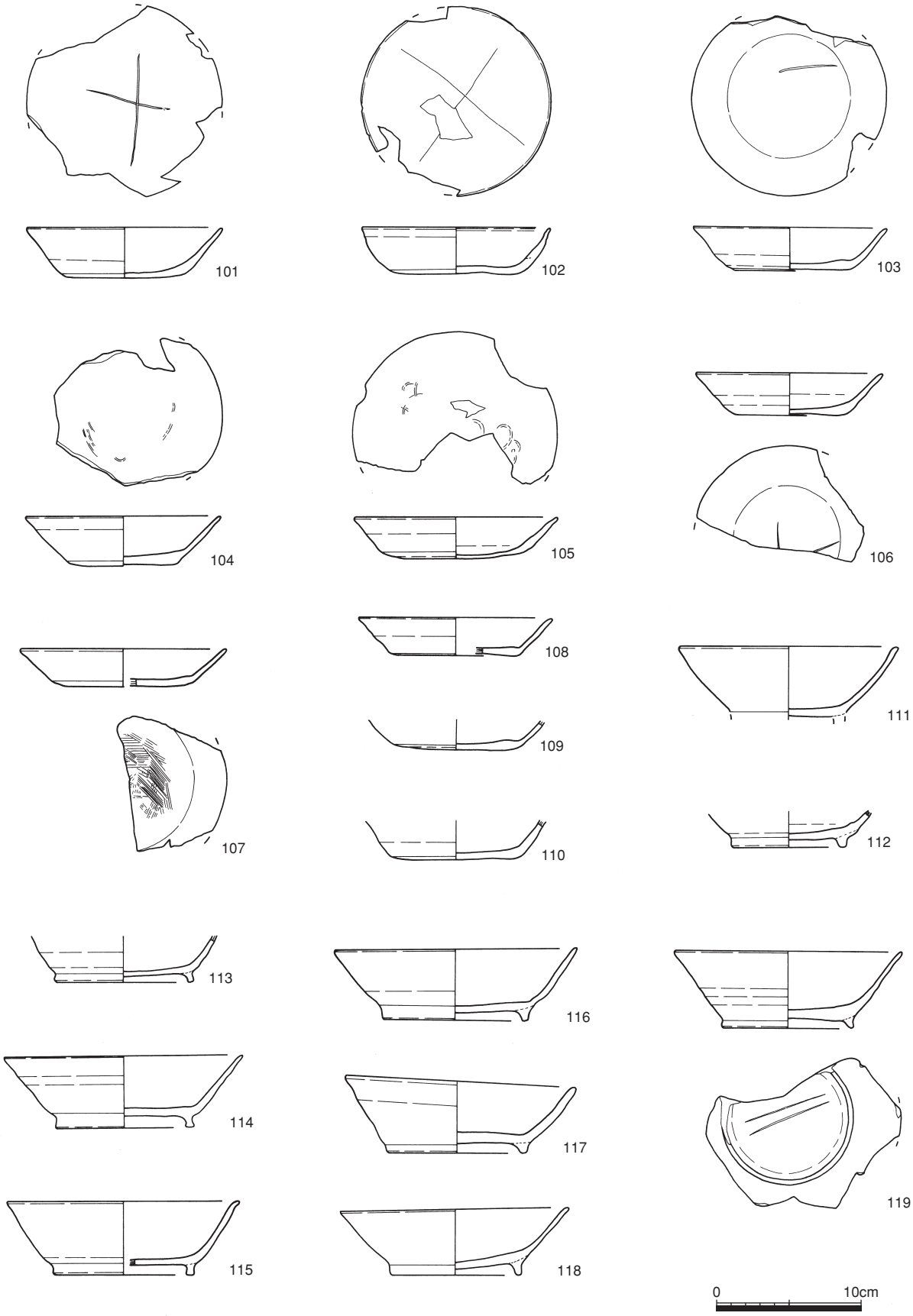
第155図　SX1003出土遺物図(3)



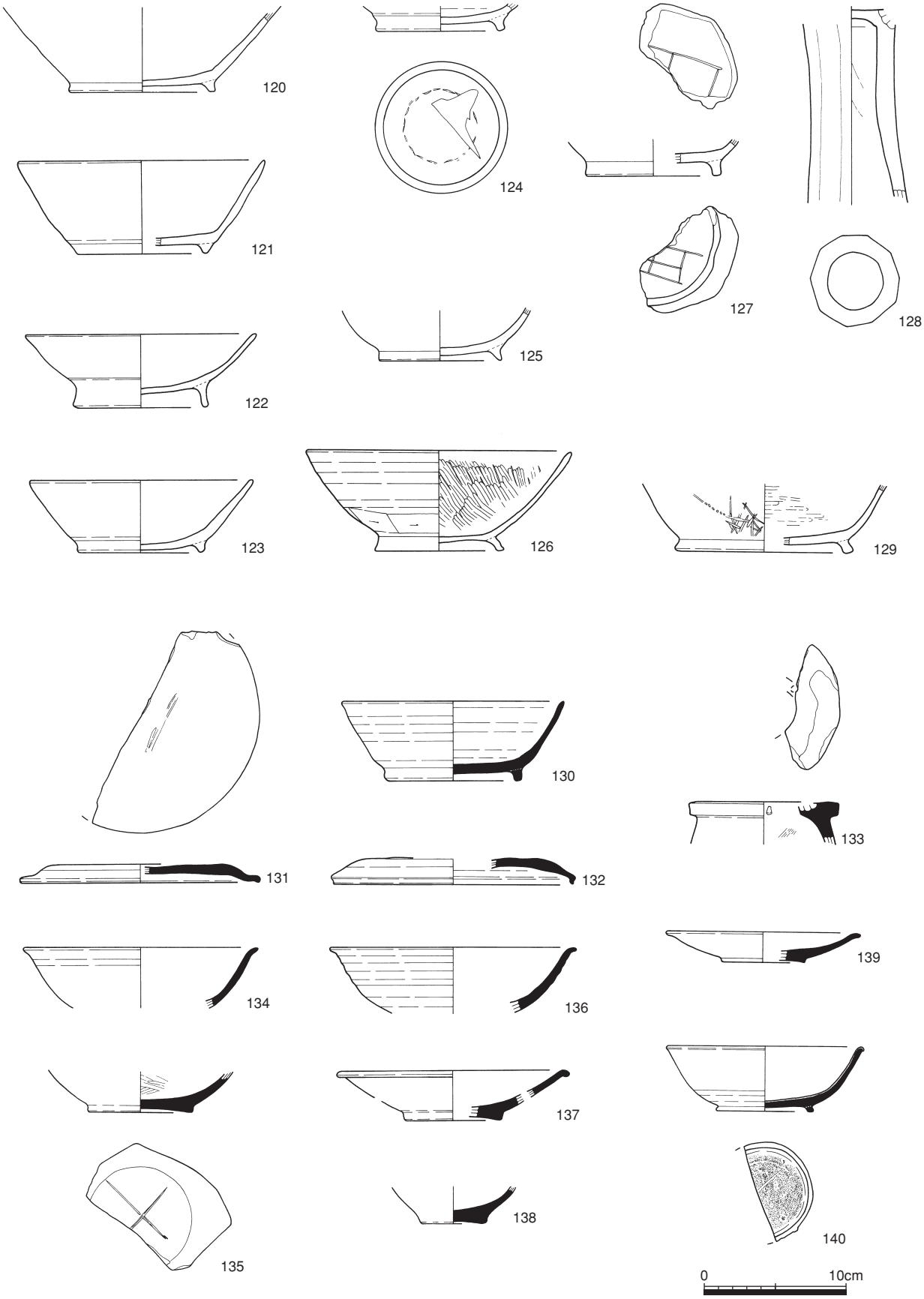
第156図　SX1003出土遺物図(4)



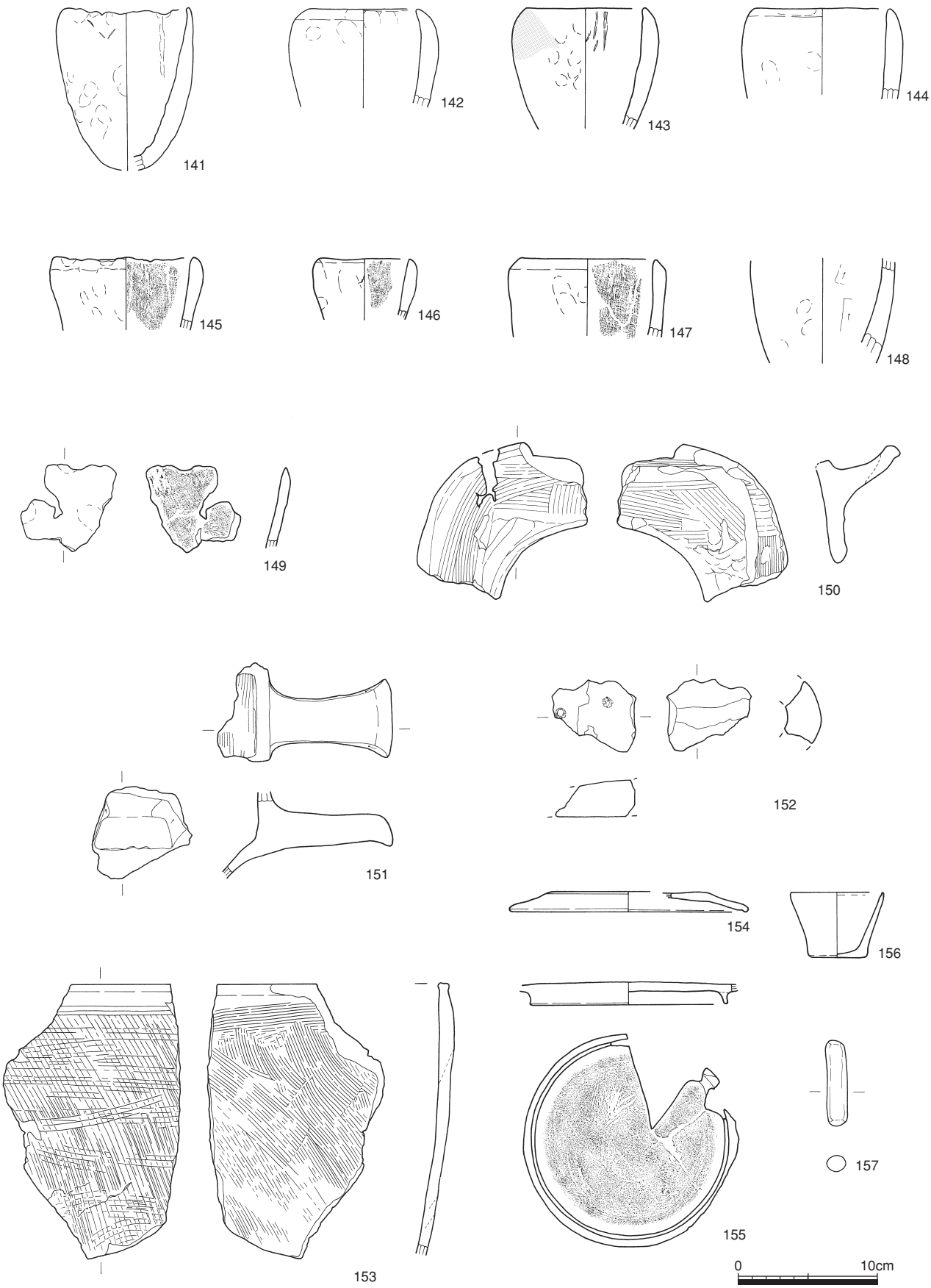
第157図　SX1003出土遺物図(5)



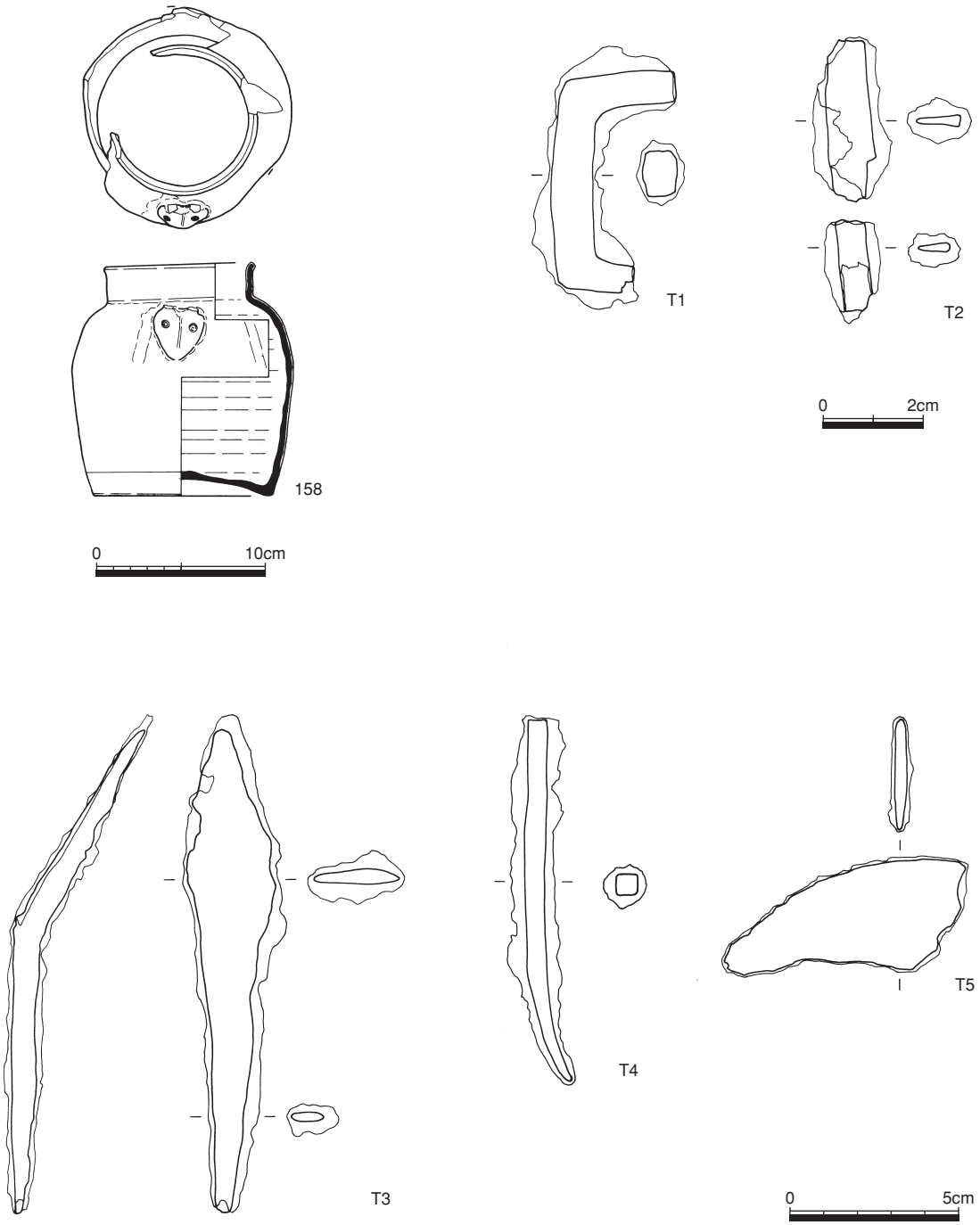
第158図　SX1003出土遺物図(6)



第159図　SX1003出土遺物図(7)



第160図　SX1003出土遺物図(8)



第161図　SX1003出土遺物図(9)

（２）第２遺構面

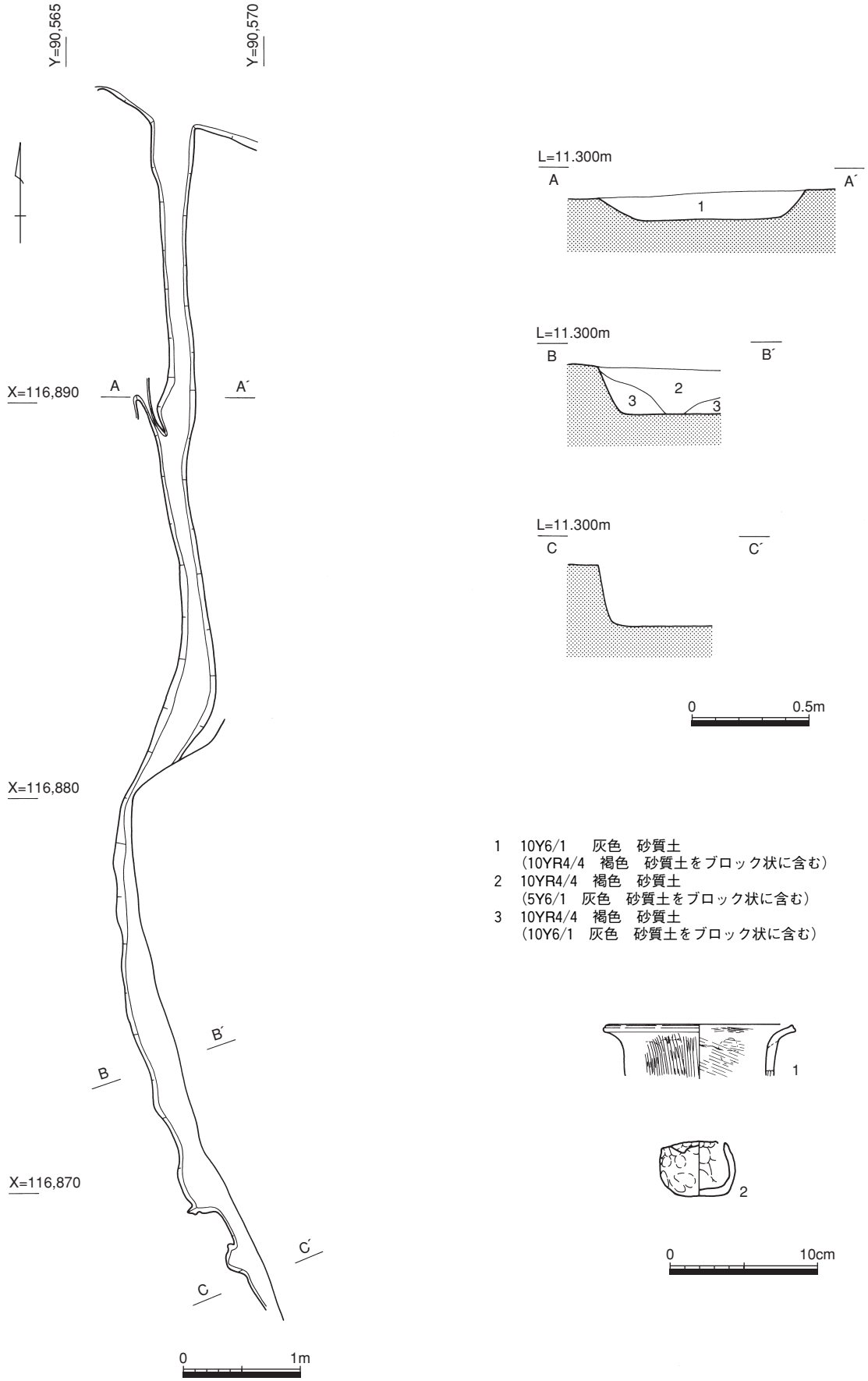
溝状遺構

２号溝状遺構（SD2002）（第162図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｍ・Ｎ・Ｏ・Ｐ・Ｑ・Ｒ－13グリッド

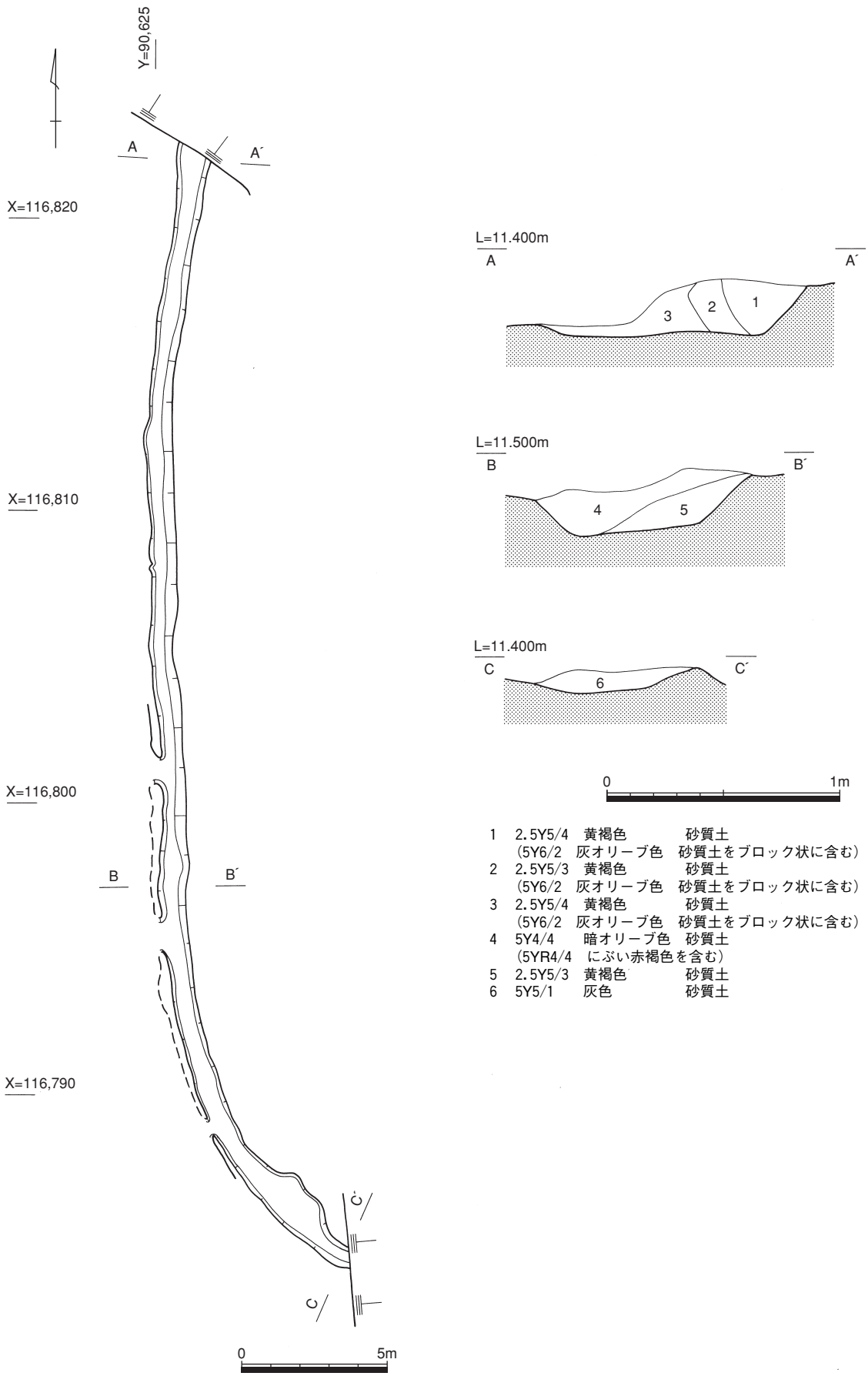
規模と形状　検出長11.2m、幅0.42m、深度0.2mを測る溝状遺構である。南北方向に掘削されている。断面形は緩い逆台形を呈する。

土層　遺構覆土は、灰色砂質土、褐色砂質土である。



1　10Y6/1　灰色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
2　10YR4/4　褐色　砂質土
（5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）
3　10YR4/4　褐色　砂質土
（10Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）

第162図　SD2002遺構平・断面・出土遺物図



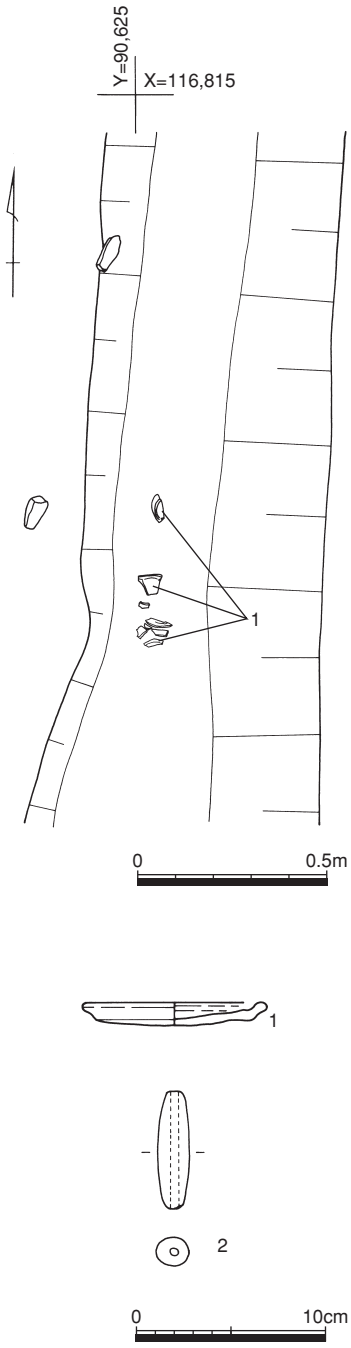
1　2.5Y5/4　黄褐色　　砂質土
　(5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む)
2　2.5Y5/3　黄褐色　　砂質土
　(5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む)
3　2.5Y5/4　黄褐色　　砂質土
　(5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む)
4　5Y4/4　　暗オリーブ色　砂質土
　(5YR4/4　にぶい赤褐色を含む)
5　2.5Y5/3　黄褐色　　砂質土
6　5Y5/1　　灰色　　砂質土

第163図　SD2007遺構平・断面図

出土遺物　１・２は弥生土器で、１は直口壺、２は手捏ね土器である。流れ込みによる混入と推定される。
時期　古代以降である。

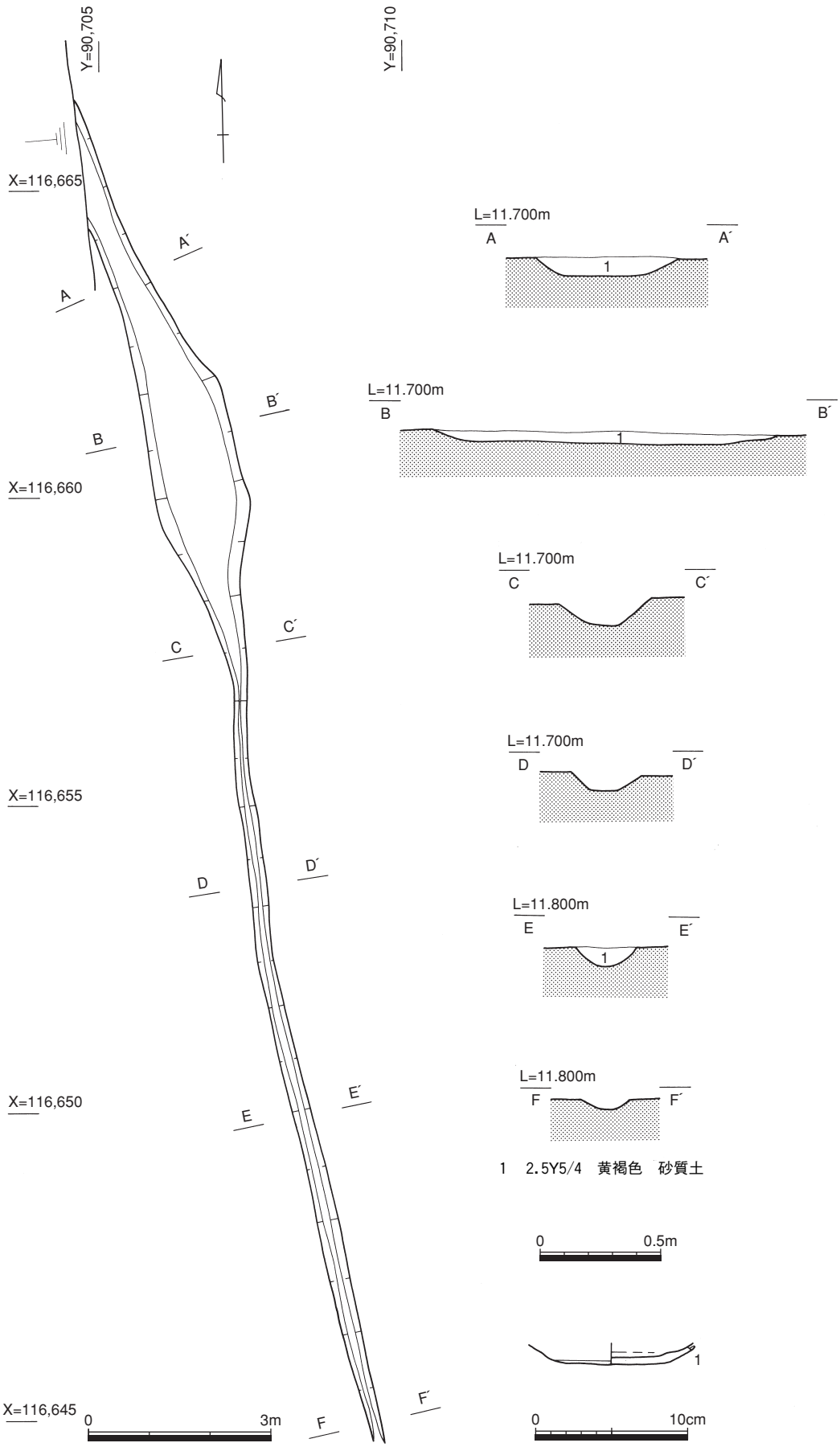
７号溝状遺構（SD2007）（第163・164図）
位置　97－2区。Loc.Ｂ３　γⅠ　Q・R－6、S・T－5・6グリッド、δⅠ　A・B・C・D－5・6、E－6グリッド
規模と形状　検出長40.0m、幅0.41m、深度0.25mを測る溝状遺構である。南北方向に掘削された溝状遺構で、断面形は逆台形を呈する。
土層　遺構内覆土は黄褐色砂質土、暗オリーブ色砂質土、灰色砂質土である。
出土遺物　１は土師器皿、２は管状土錘である。
時期　中世の可能性が高い。

10号溝状遺構（SD2010）（第165図）
位置　99－1区。Loc.Ｂ３　βⅢ　I・J・K・L－2、M・N－1・2グリッド
規模と形状　検出長21.50m、幅1.55～0.20m、最大深度0.08mを測る溝状遺構である。主軸は、南北方向に延びている。遺構断面形状は、北端は浅い逆台形を呈しているが、中央から南端にかけては逆台形から船底形へと変化している。遺構の床面の標高が、南端よりも北端の方が0.33m低いことから、北へ流れていたであろう。
土層　遺構覆土は、黄褐色砂質土である。
出土遺物　１は土師器杯底部である。
時期　古代以降である。

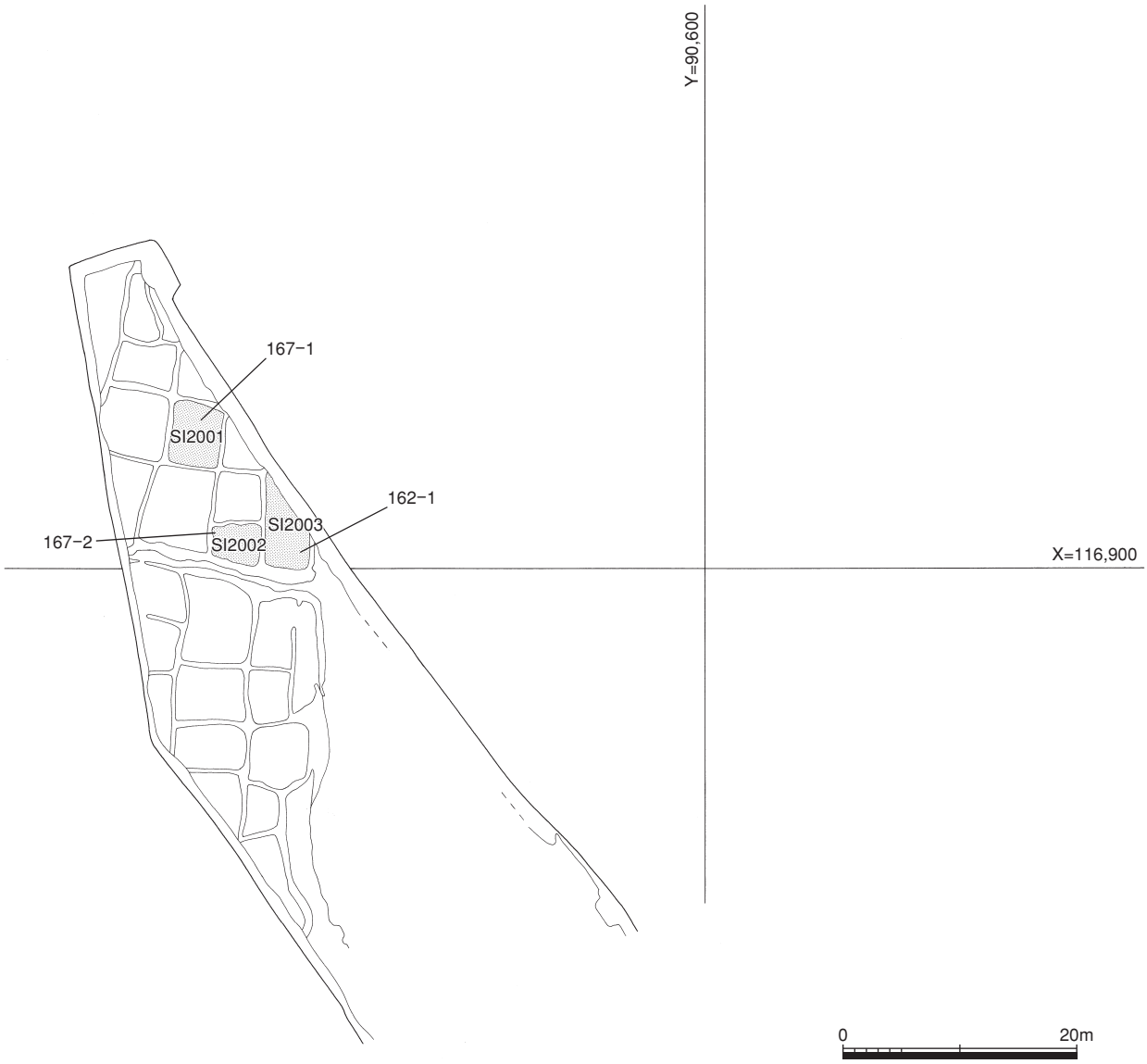


第164図　SD2007遺物出土状況・出土遺物図

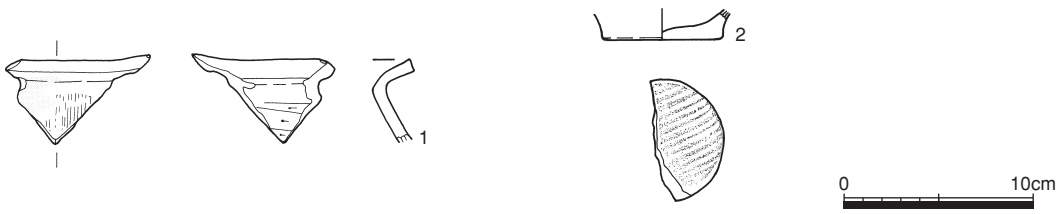
水田遺構
第２水田面（SI2001）（第166～225図）
位置　96－5区、98－1区・98－3区、98－6区～9区、99－1区～3区）
規模と形状　97－1区で検出された水田遺構は、調査区北側に限定されている。南側部分は自然堤防上となり、集落関連遺構が展開していた。同地点の水田区画面積は比較的均質で、最大7.2×5.5mから最小3.7×2.5m規模の区画が造成されているが、殆どは5.5×4.5m規模の区画となる。南東側の自然堤防に隣接する地点では南北方向に細長い区画となる。



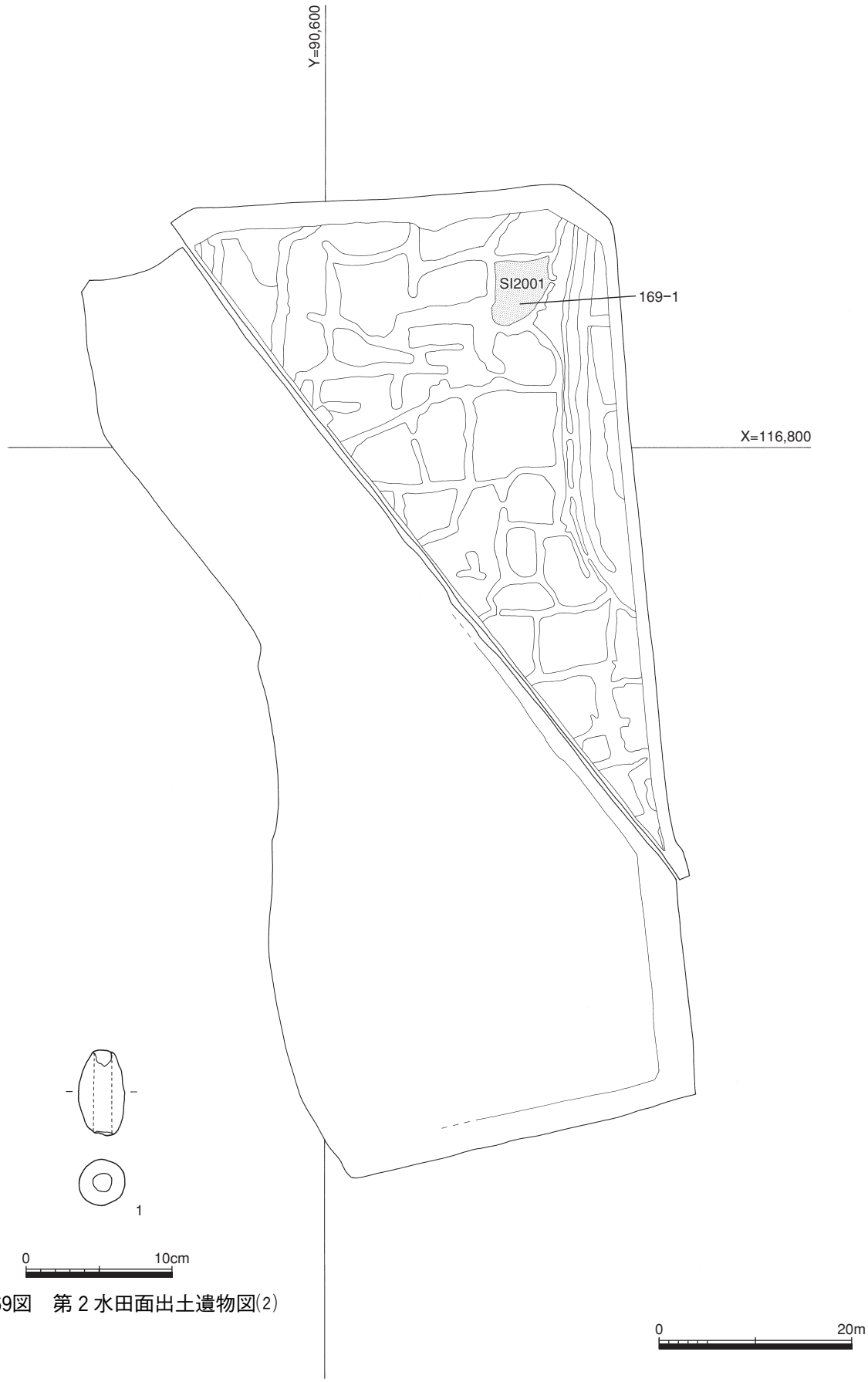
第165図　SD2010遺構平・断面・出土遺物図



第166図　第２水田面遺構配置・遺物出土地点図(1)

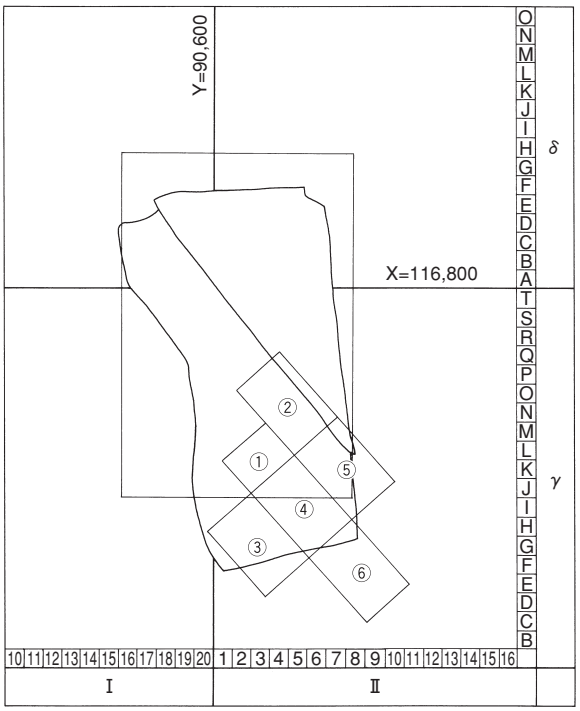


第167図　第２水田出土遺物図(1)



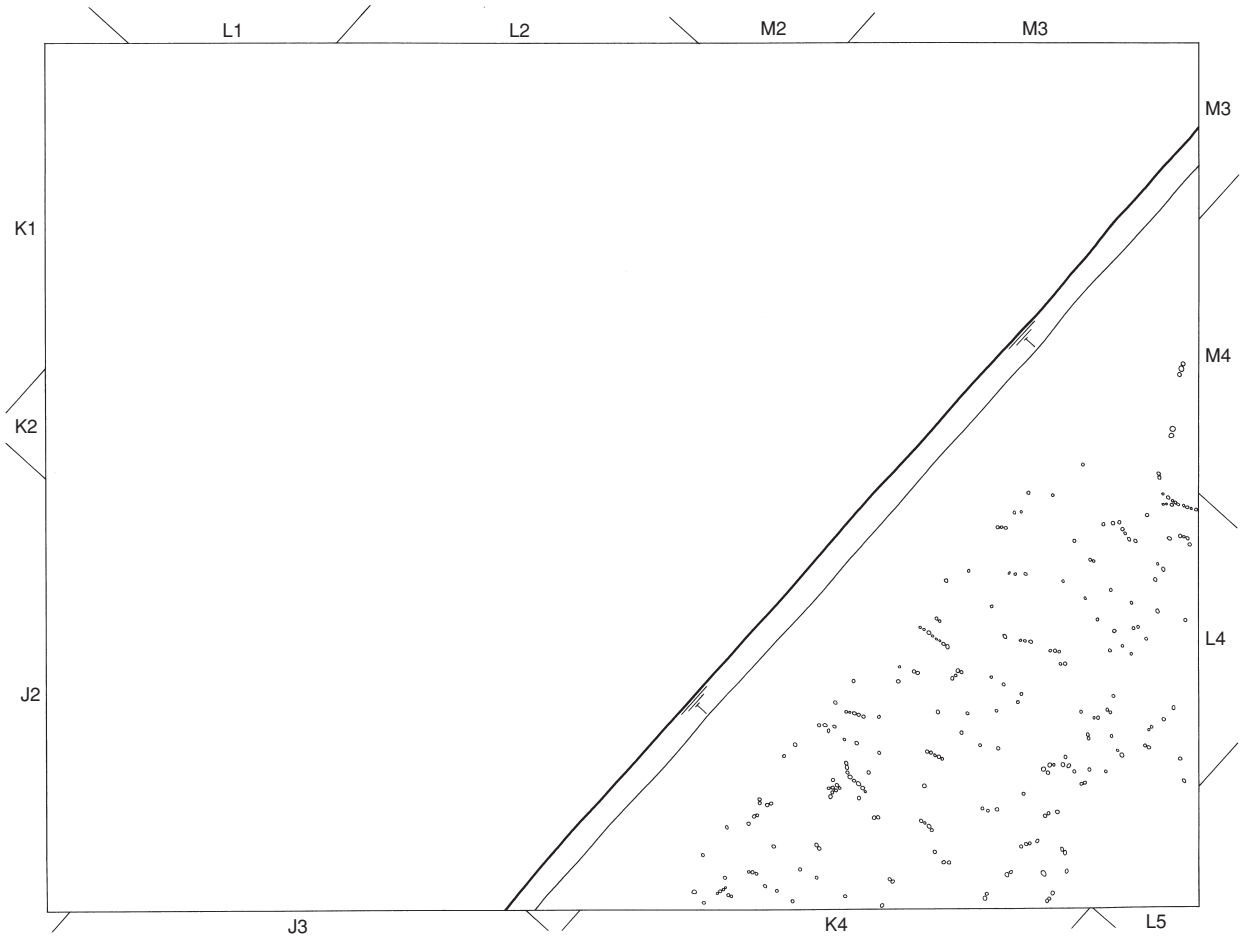
第169図　第２水田面出土遺物図(2)

第168図　第２水田面遺構配置・遺物出土地点図(2)

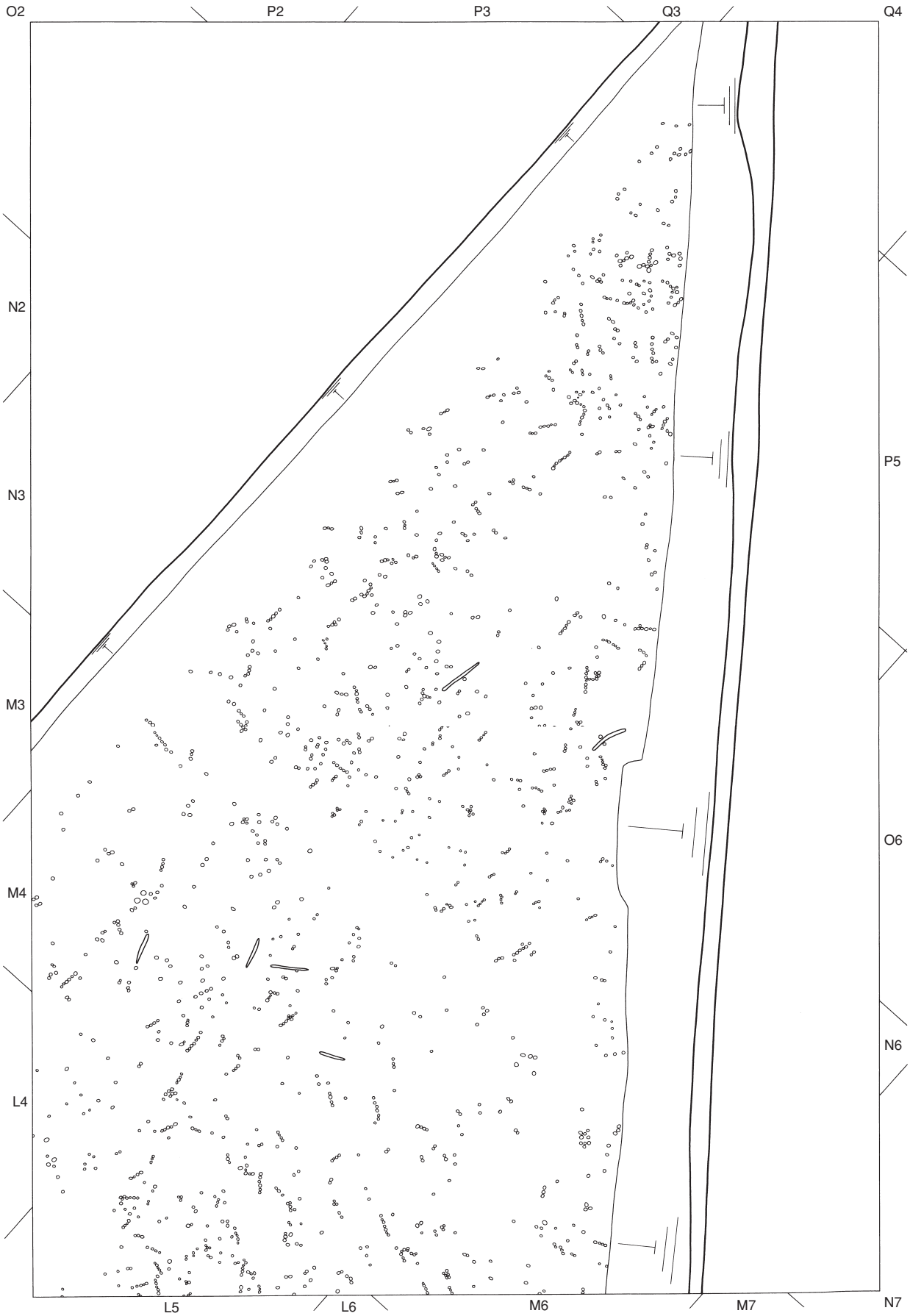


割付図の①～⑥までの番号は、第171図～第176図までに記載されているキャプションの数字と同じである

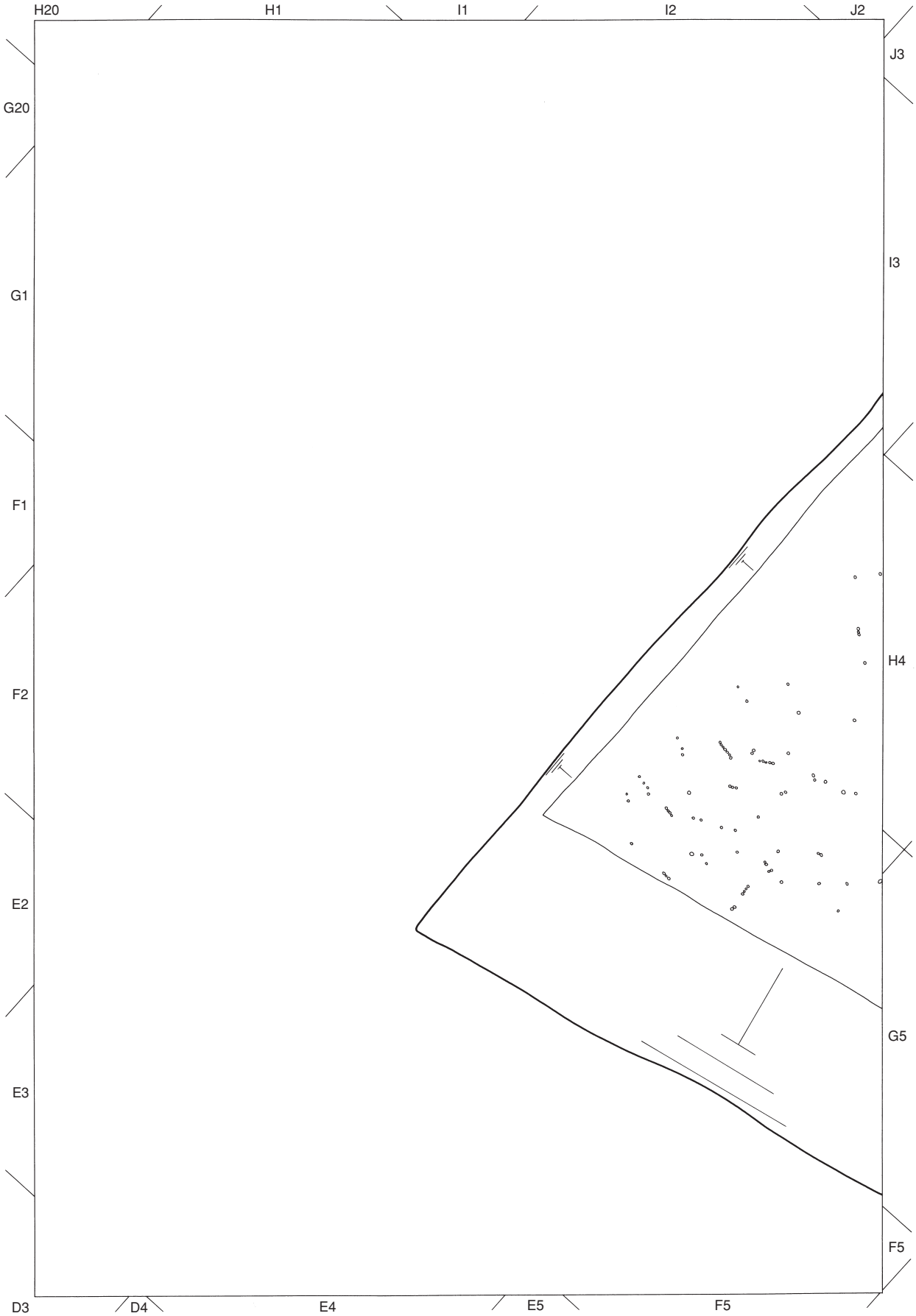
第170図　第２水田面遺構平面割付図(1)（S＝1/2000）



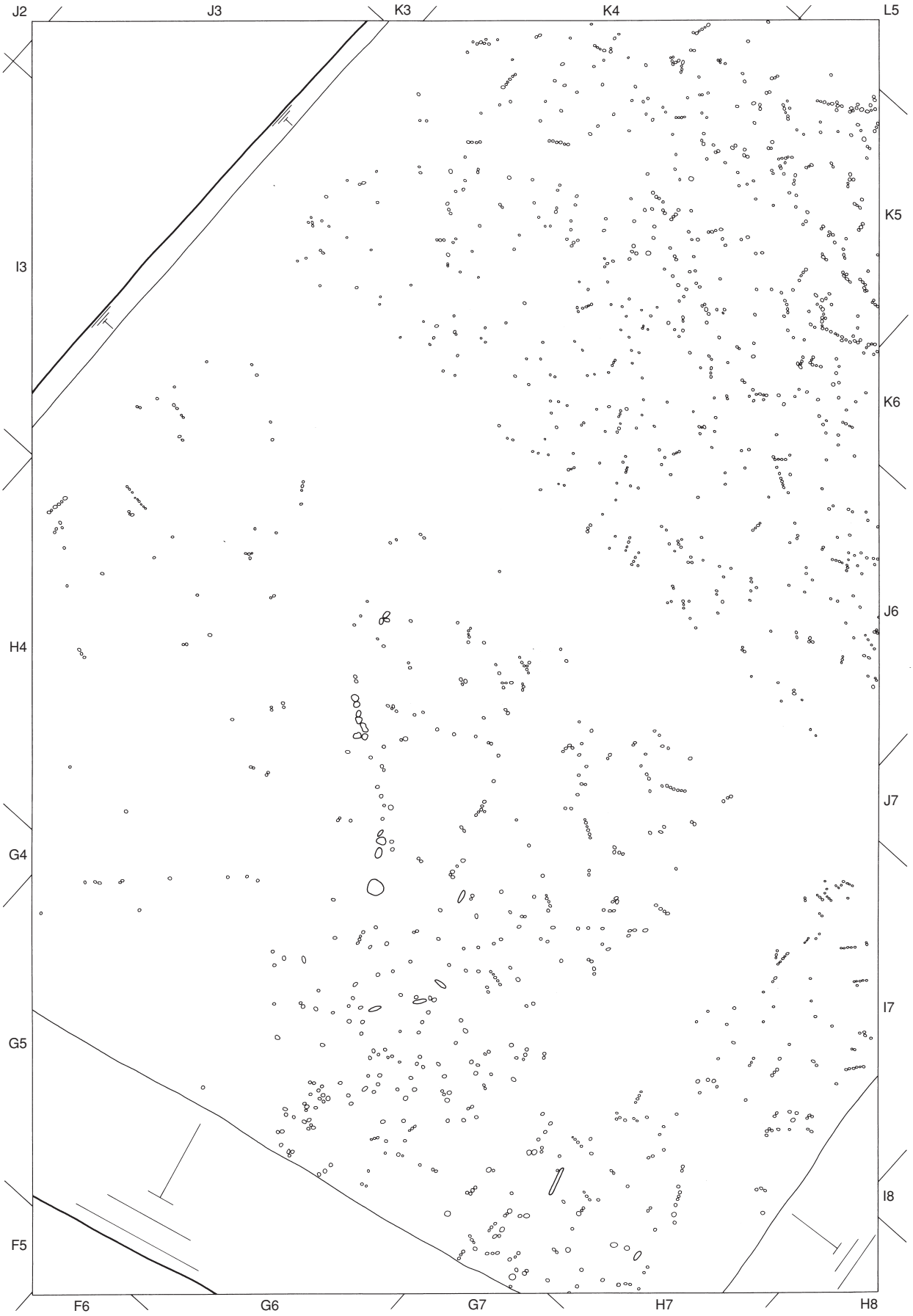
第171図　第２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



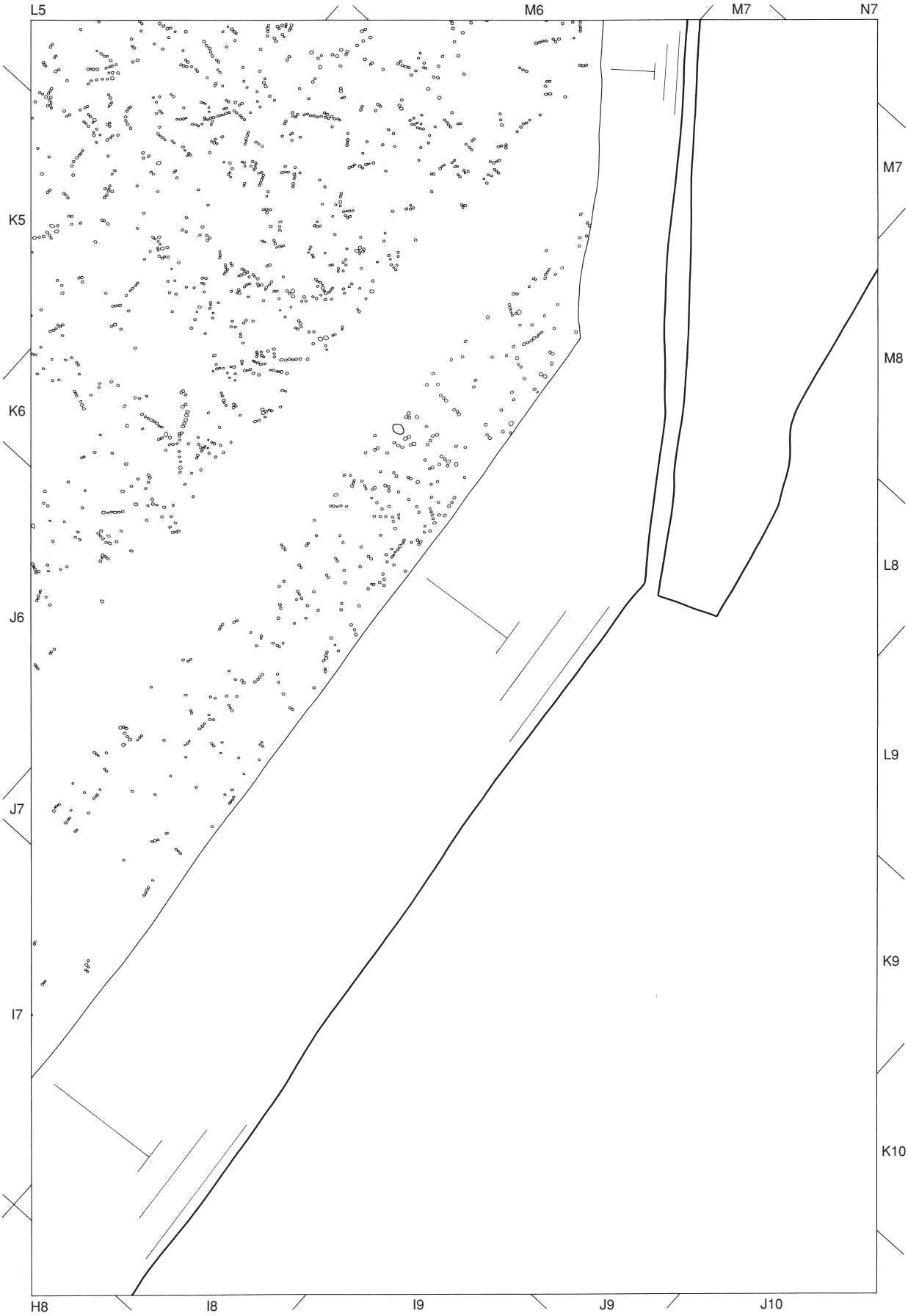
第172図　第２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



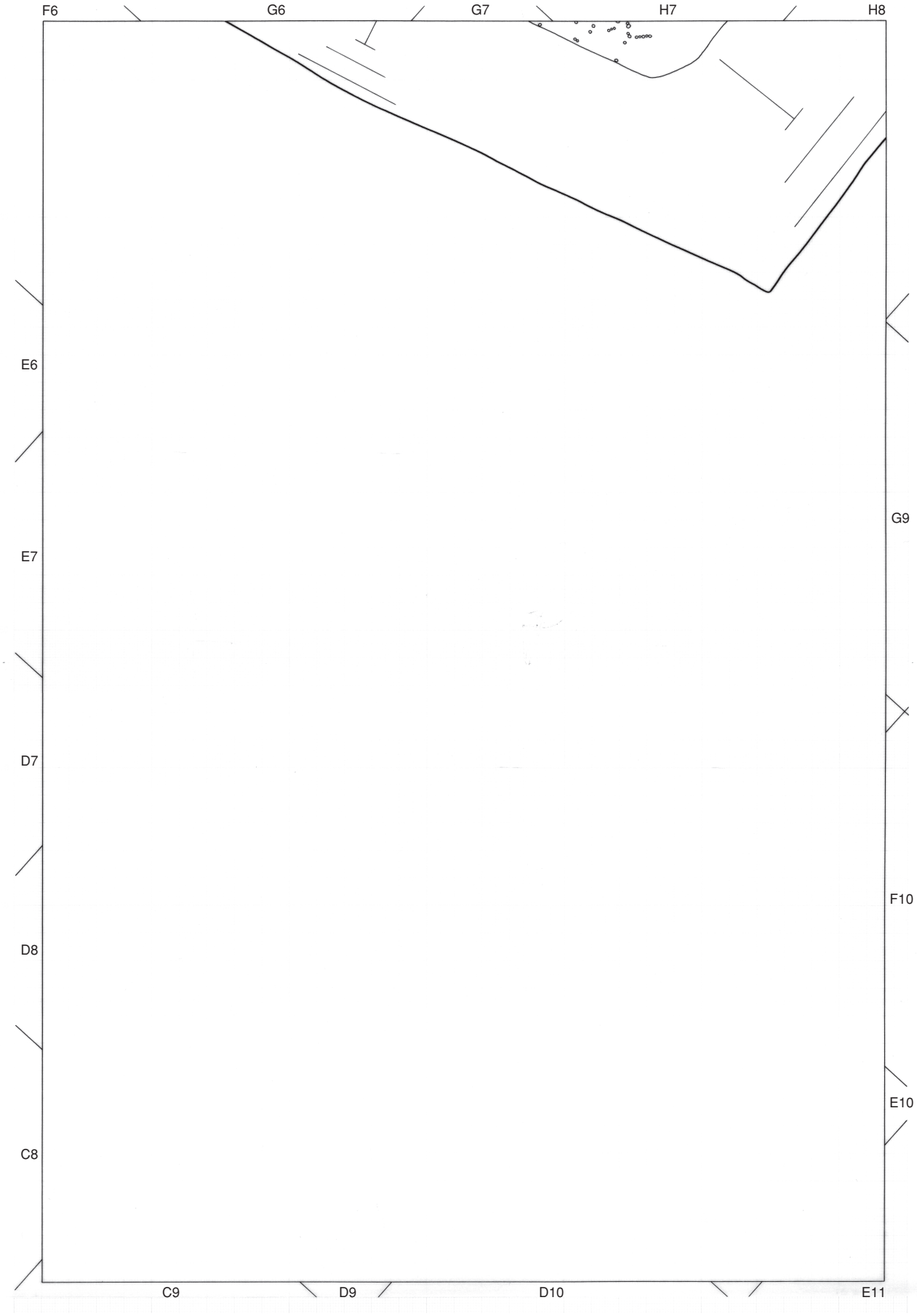
第173図　第２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）



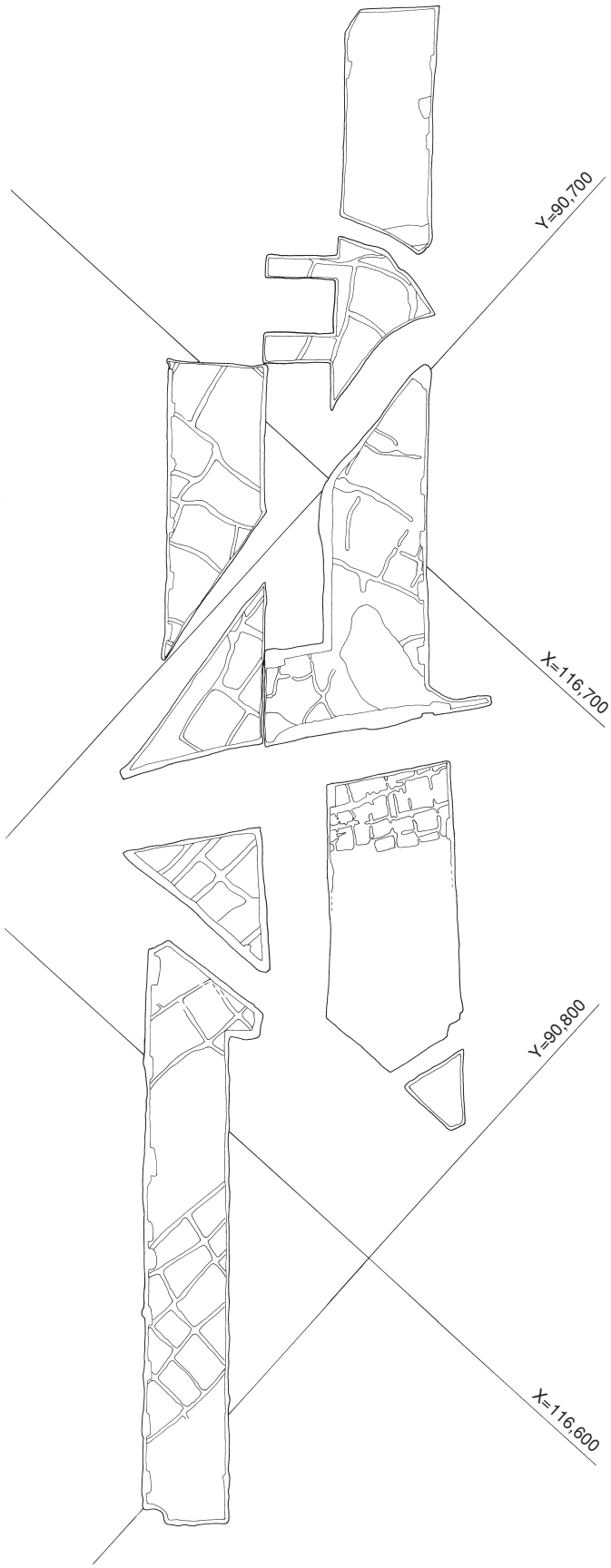
第174図　第２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）



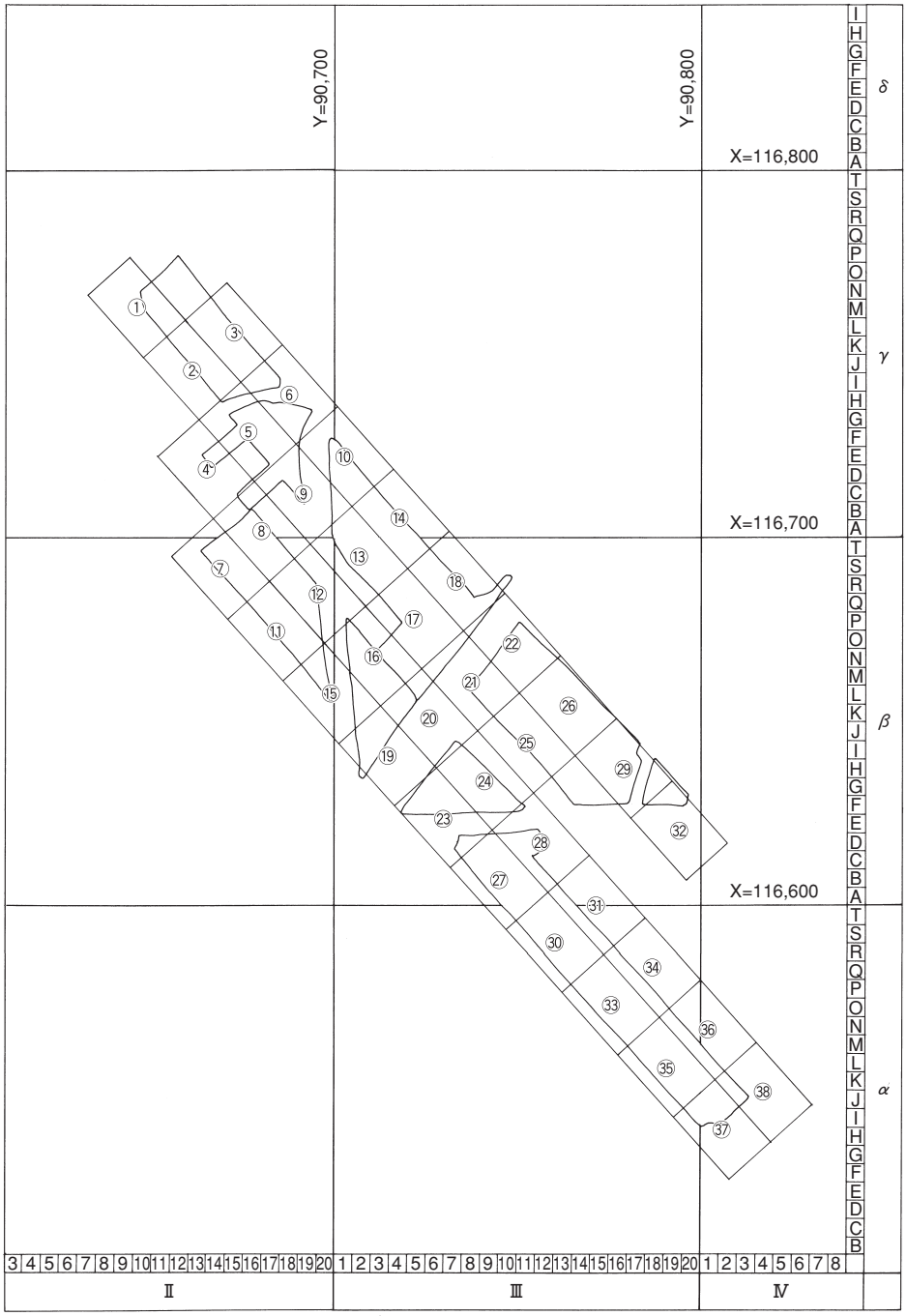
第175図　第２水田面遺構平面図(5)（S=1/100）



第176図　第２水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）

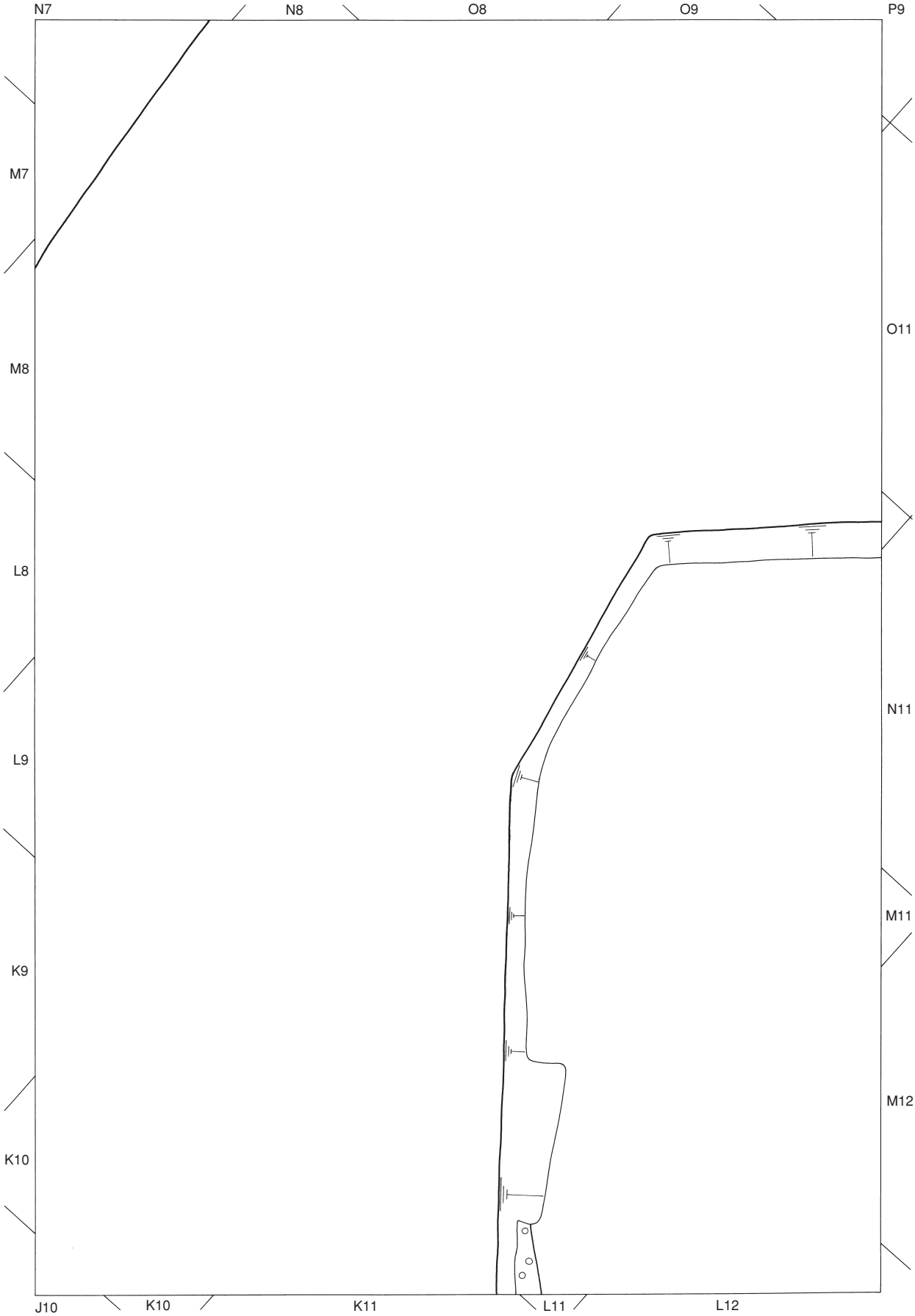


第177図　第２面水田面遺構配置図(3)（S＝1/1250）



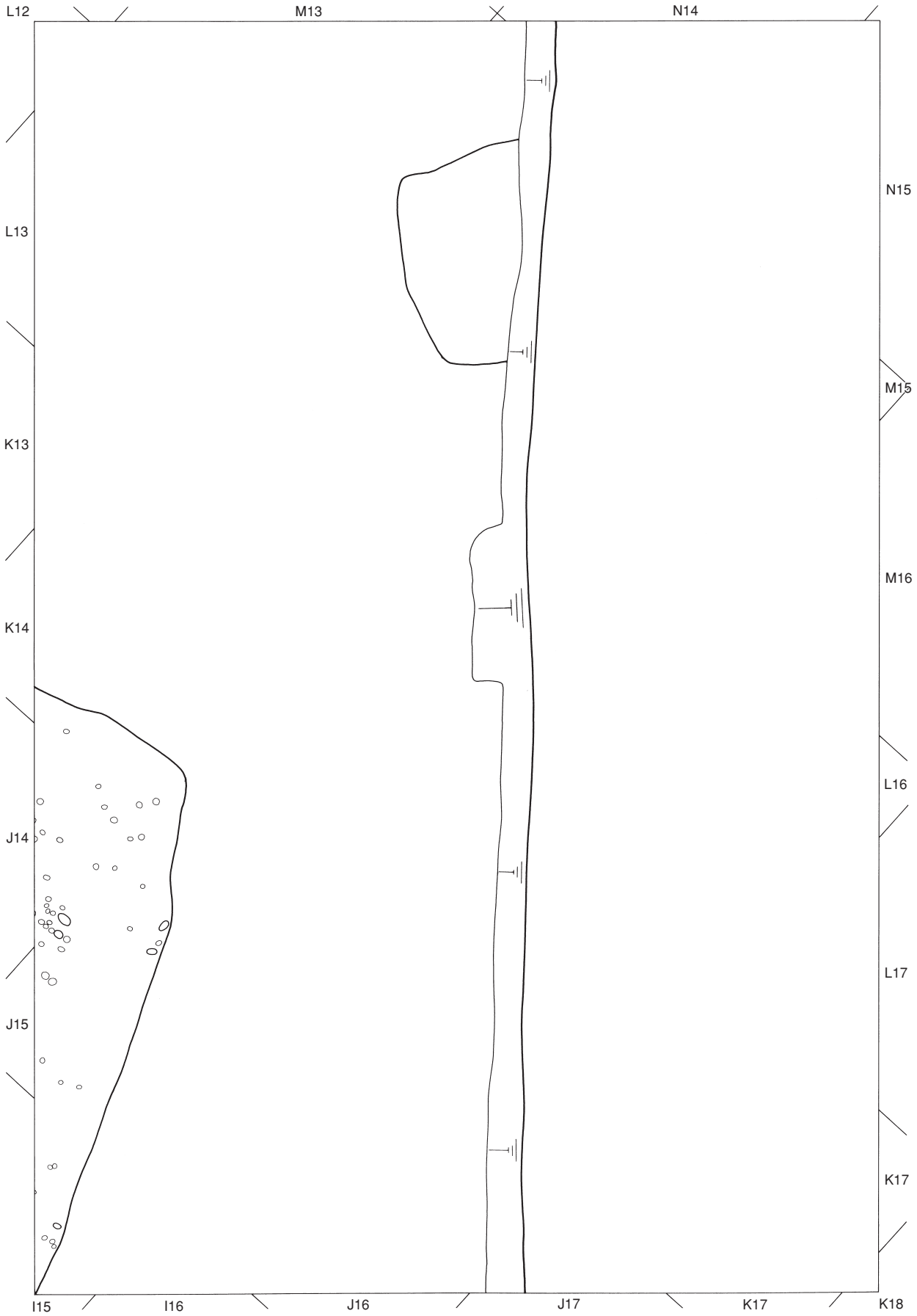
割付図の①～㊳までの番号は、第179図～第216図までに
記載されているキャプションの数字と同じである

第178図　第２水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）

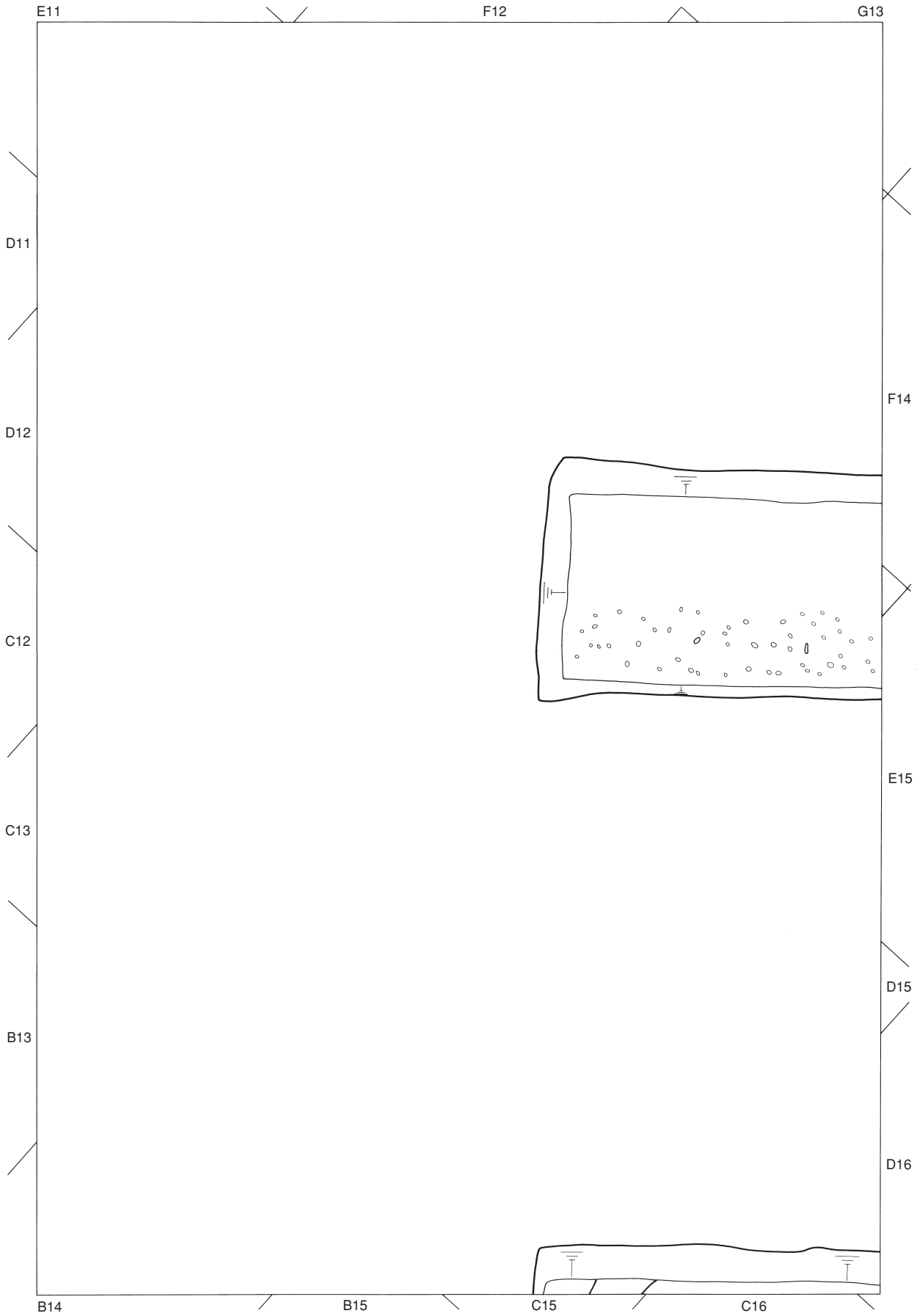


第179図　第２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）

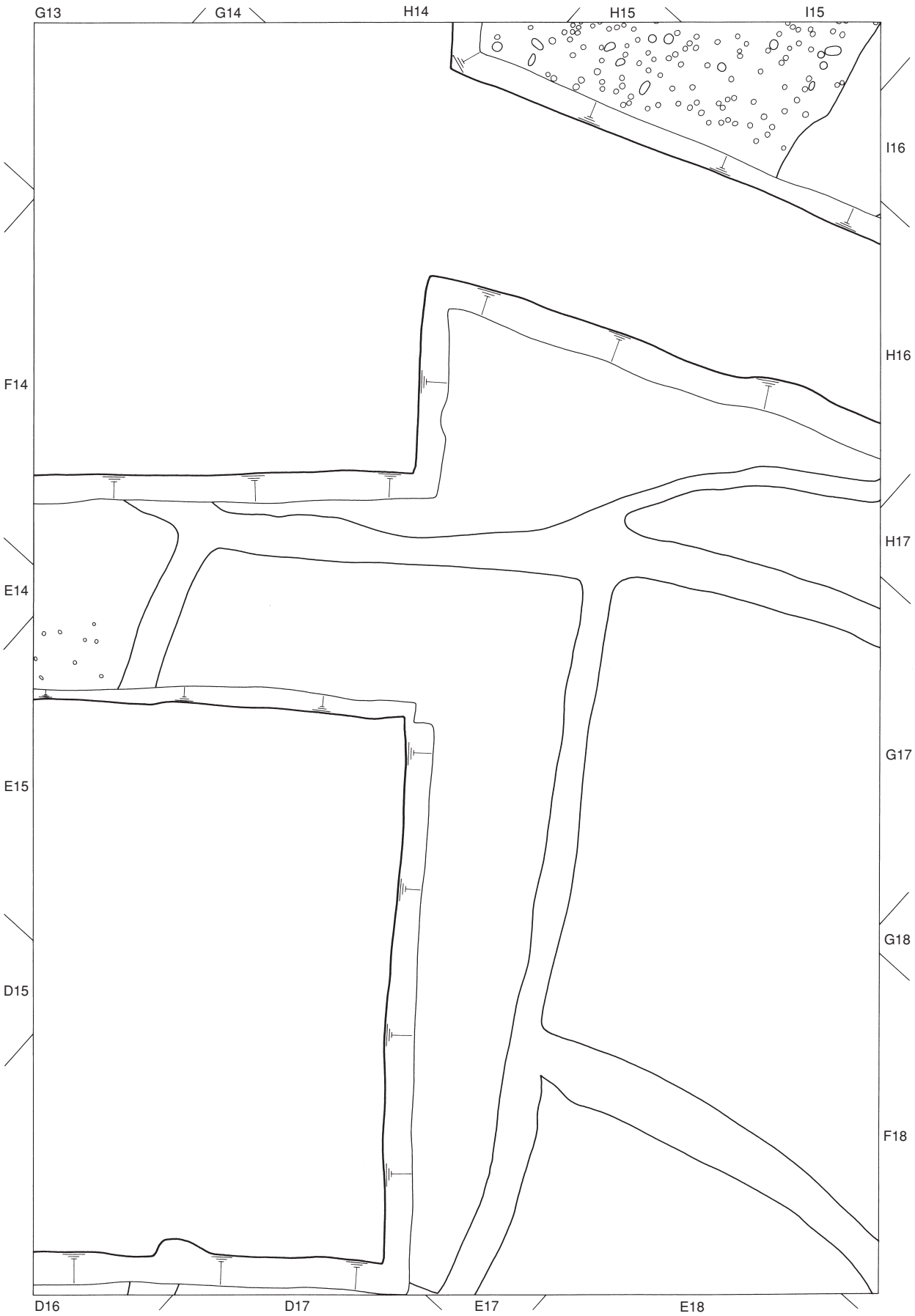
第180図　第２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



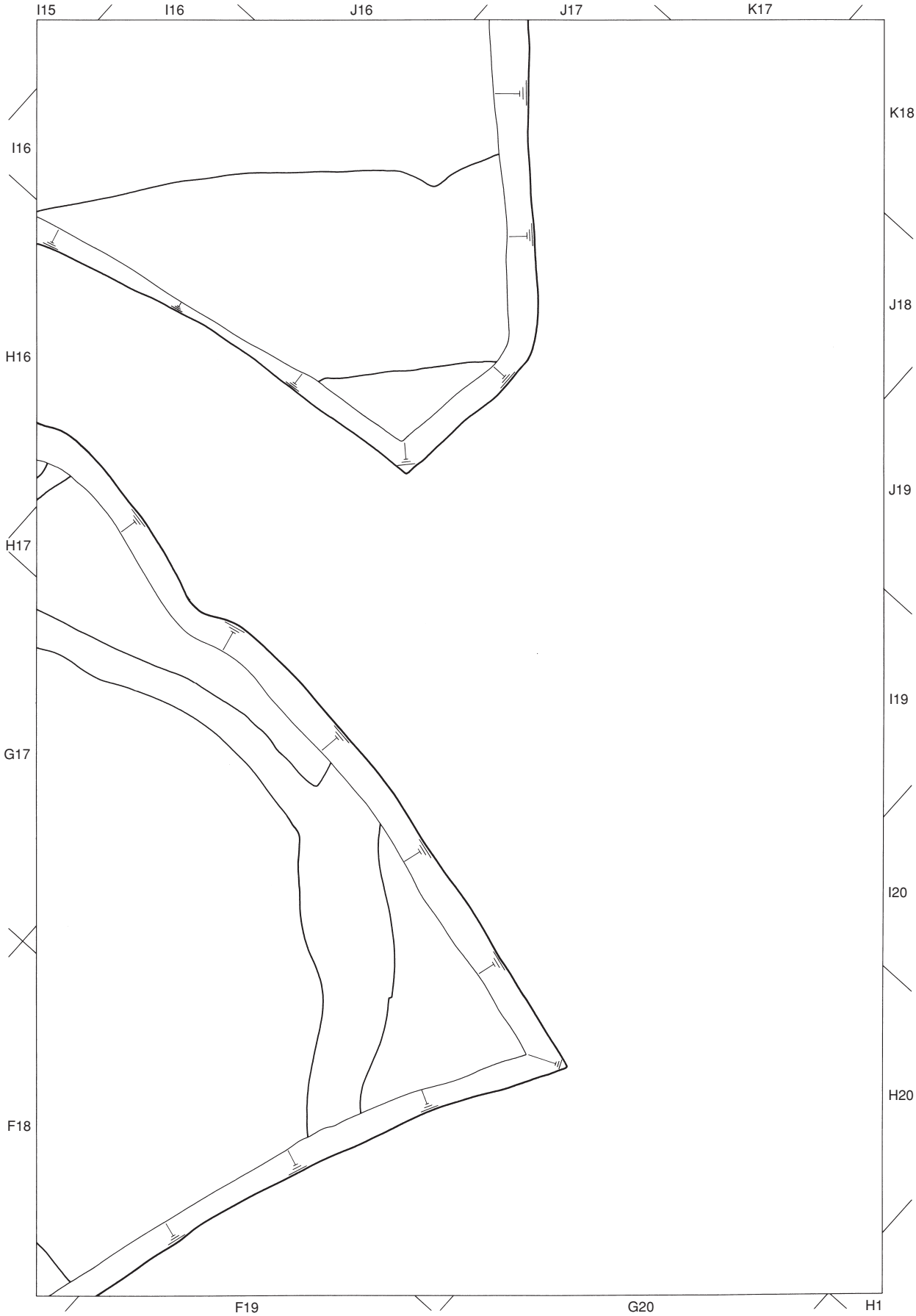
第181図　第２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）



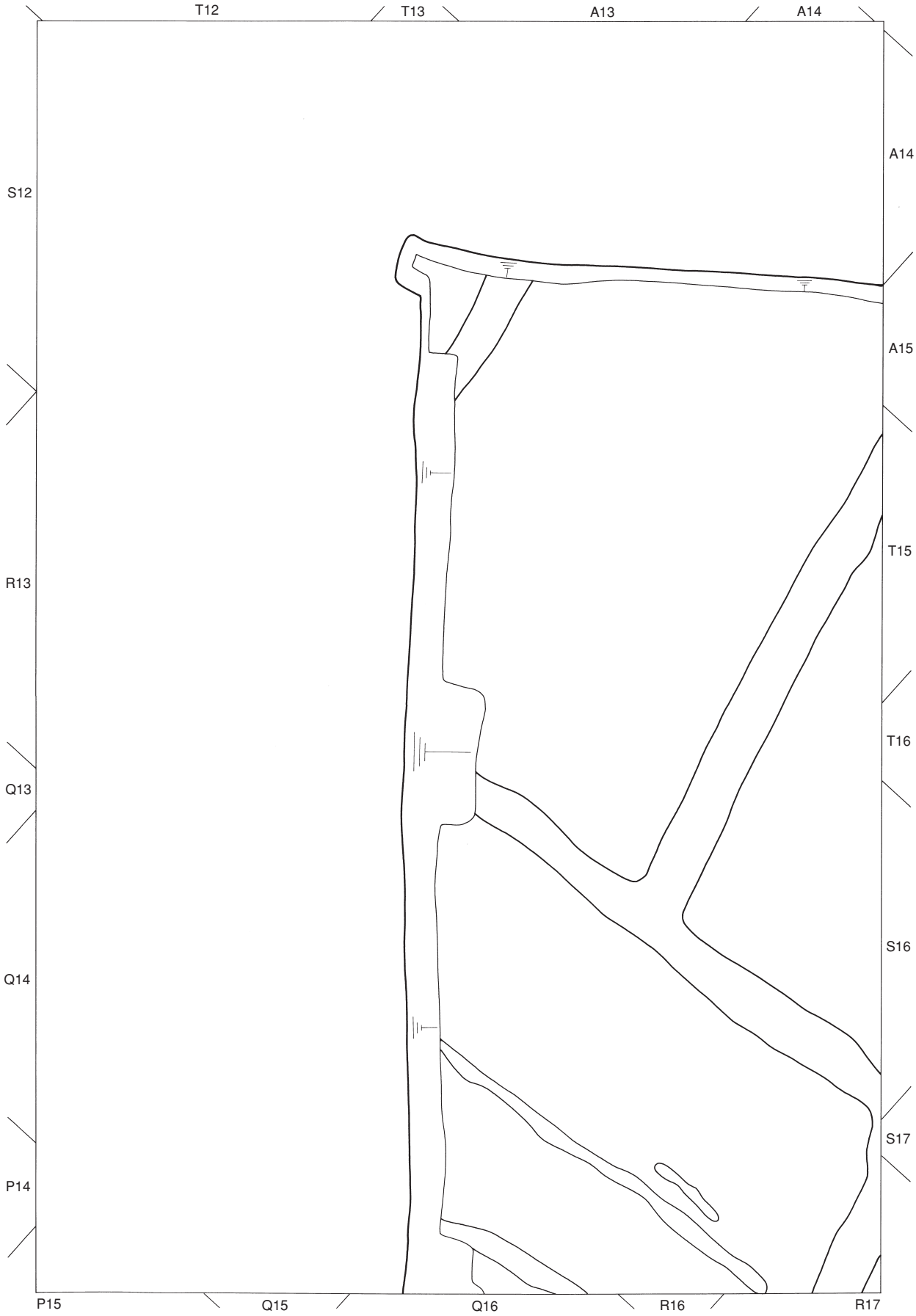
第182図　第２水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）



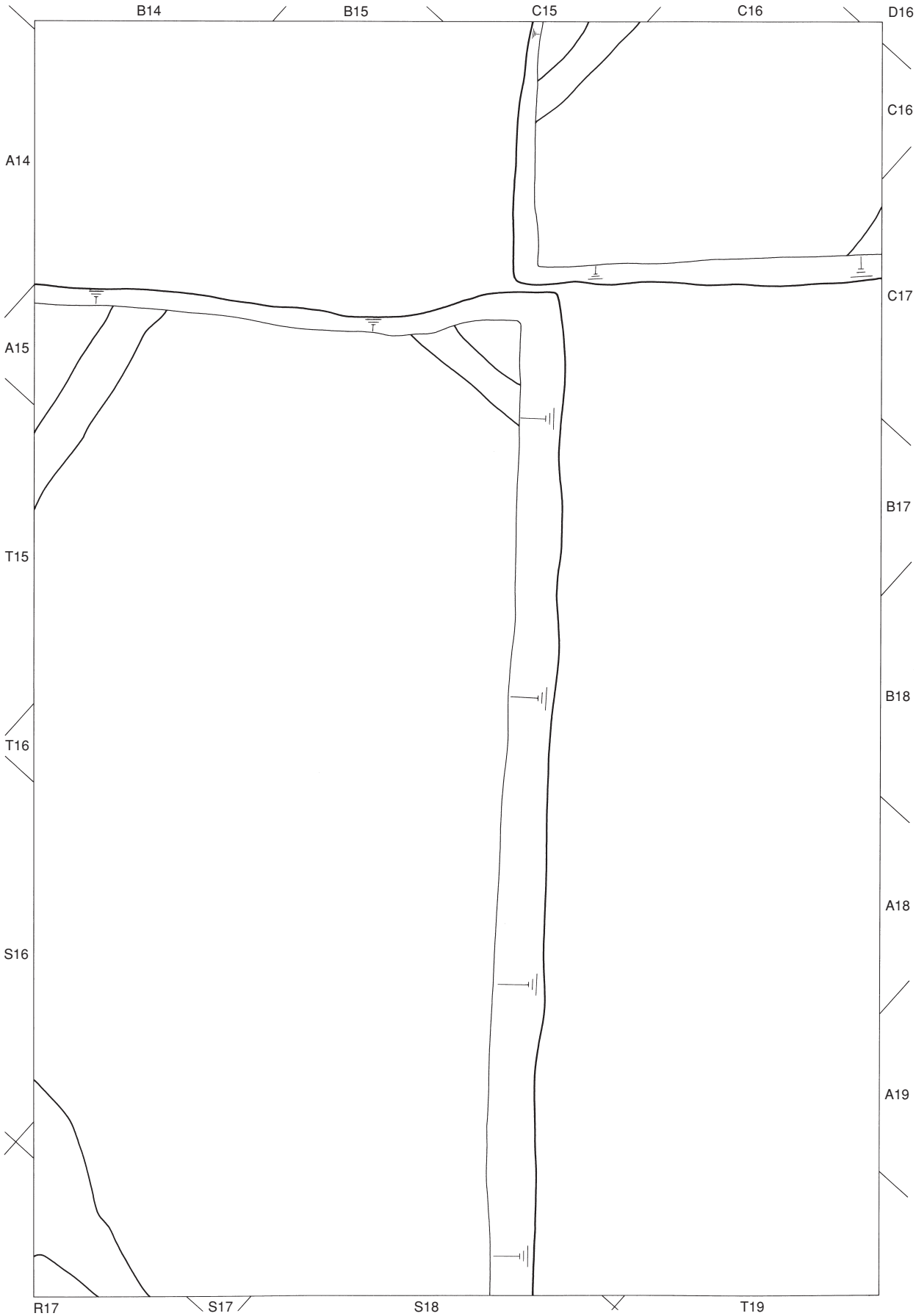
第183図　第２水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）



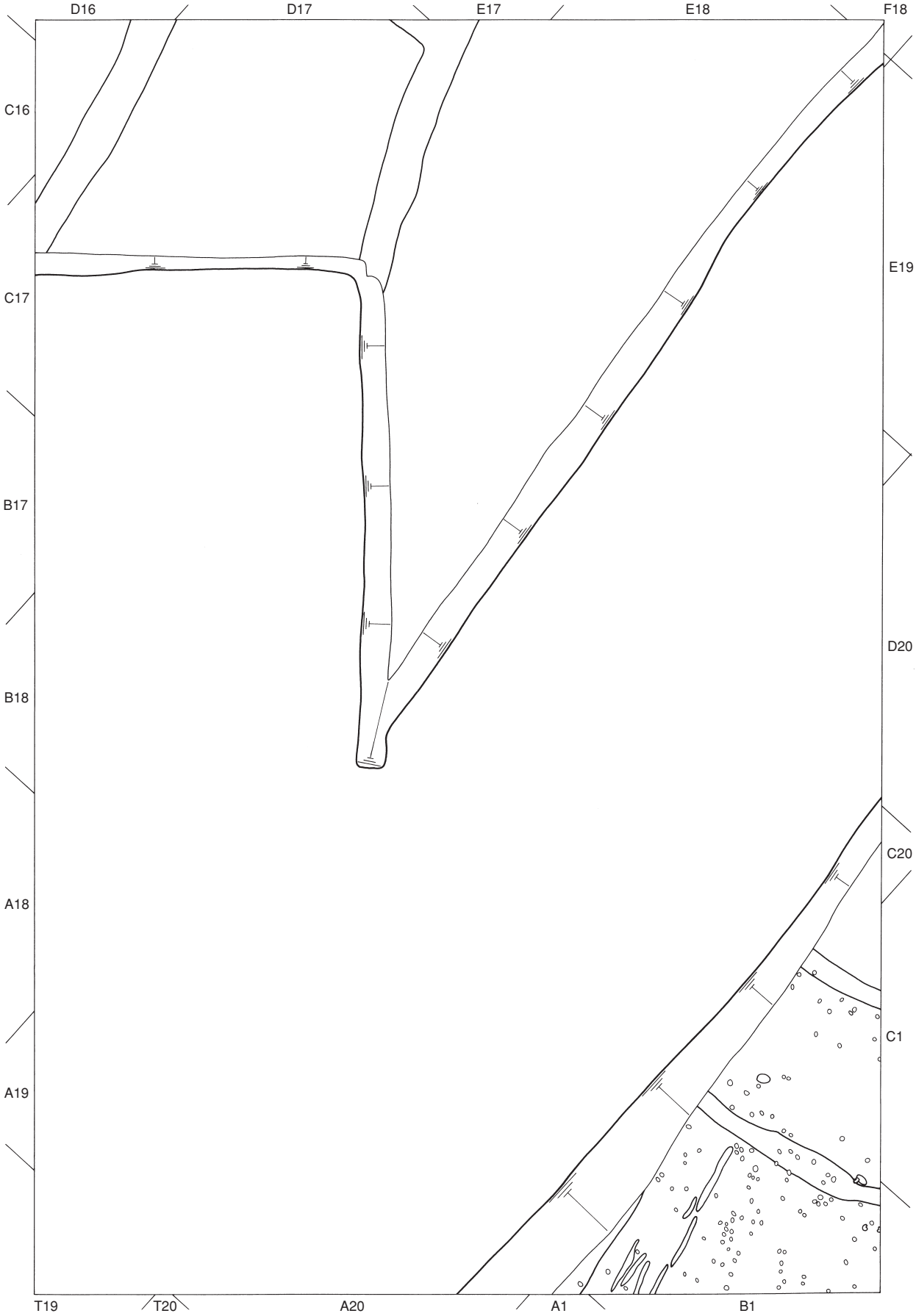
第184図　第２水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）



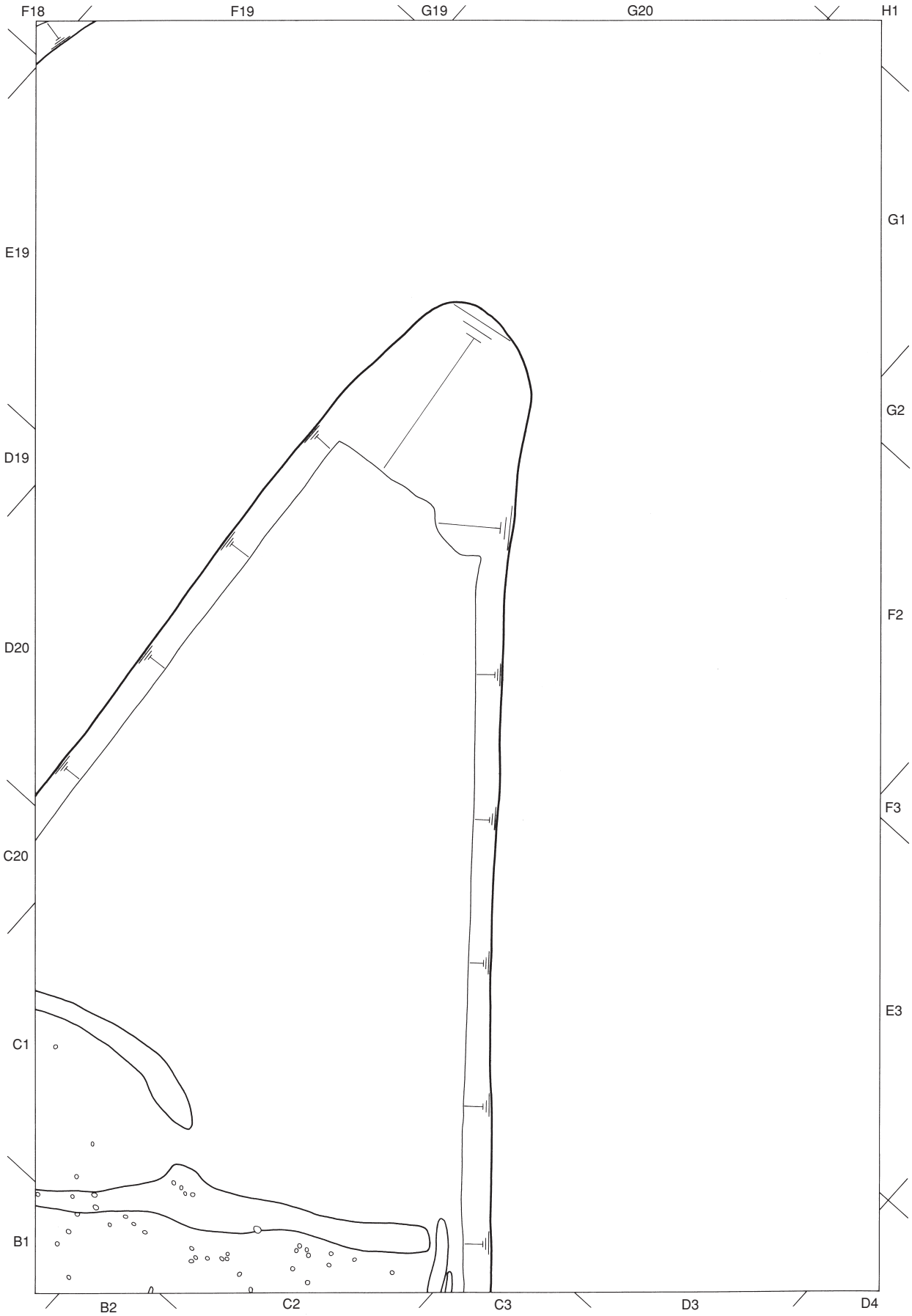
第185図　第２水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）



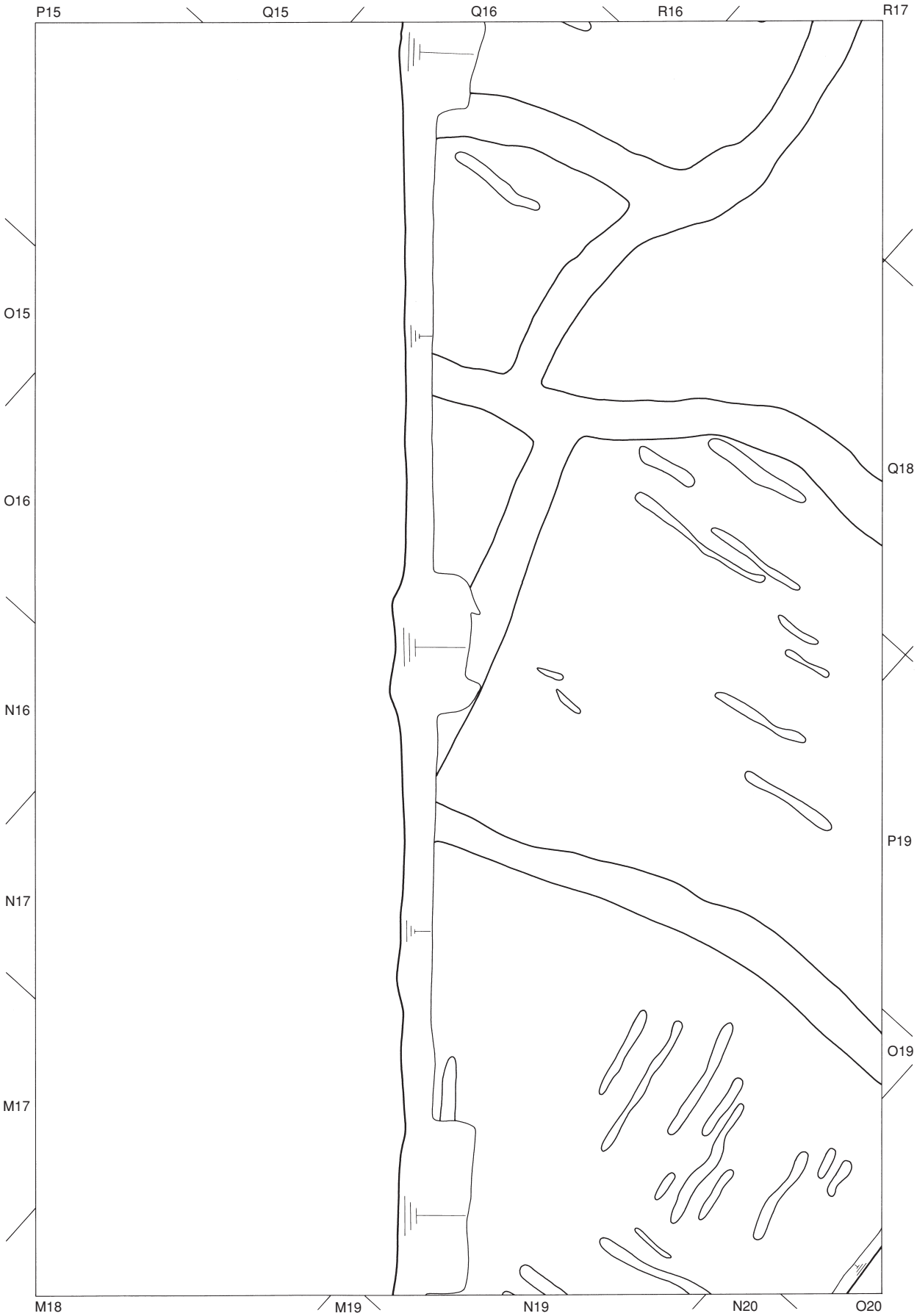
第186図　第２水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）



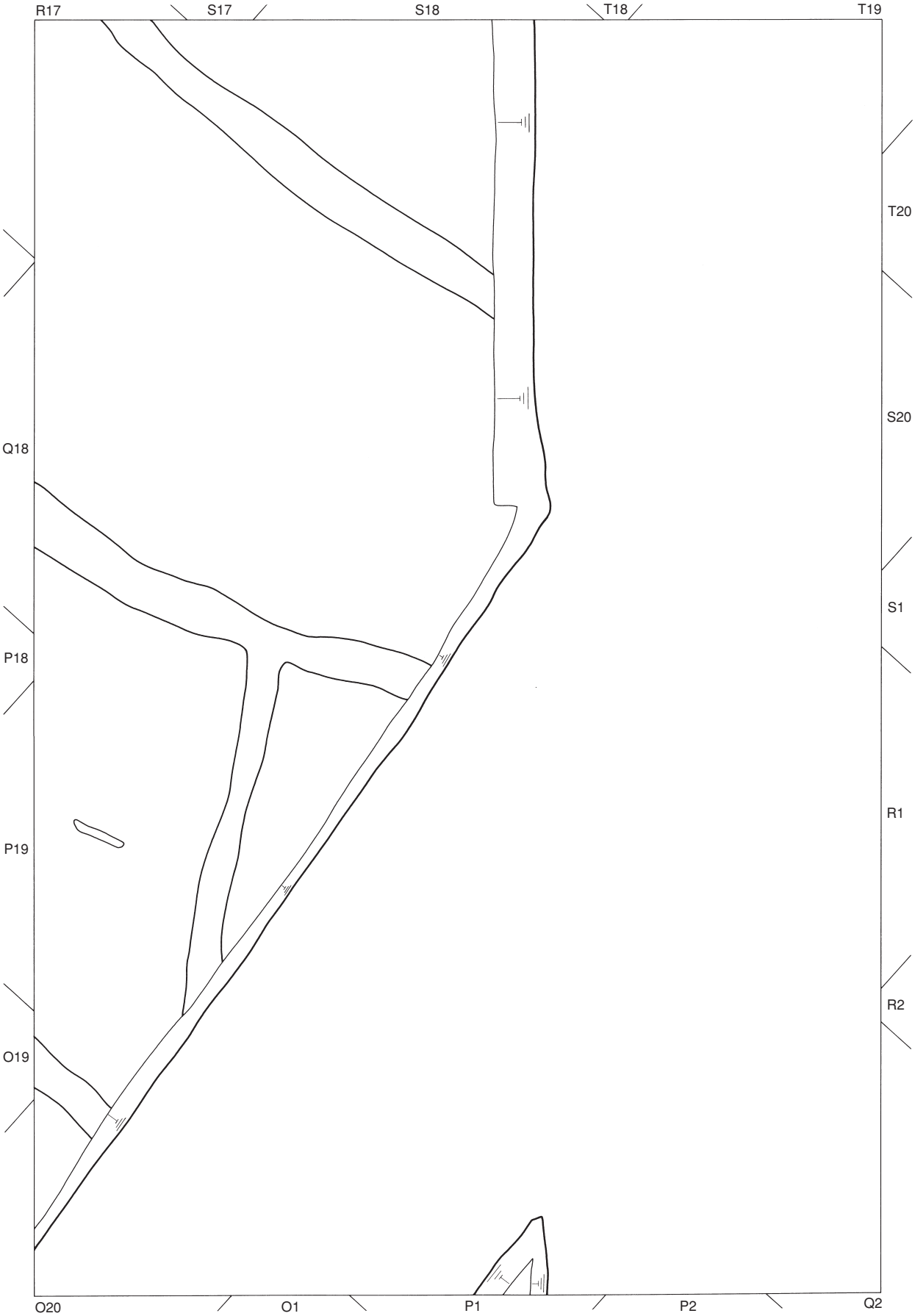
第187図　第２水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）



第188図　第２水田面遺構平面図⑽（S＝1/100）

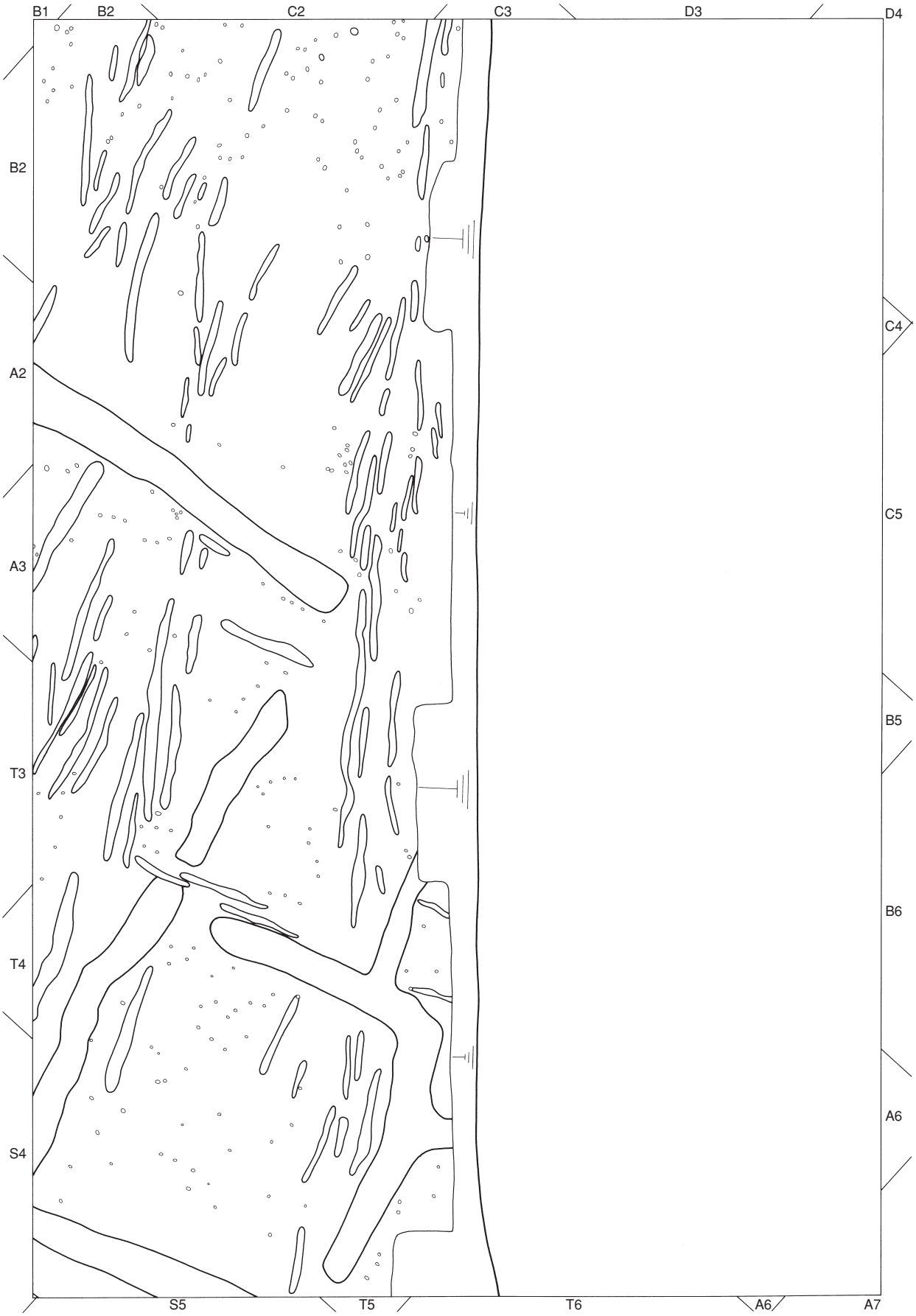


第189図　第２水田面遺構平面図⑾（S＝1/100）

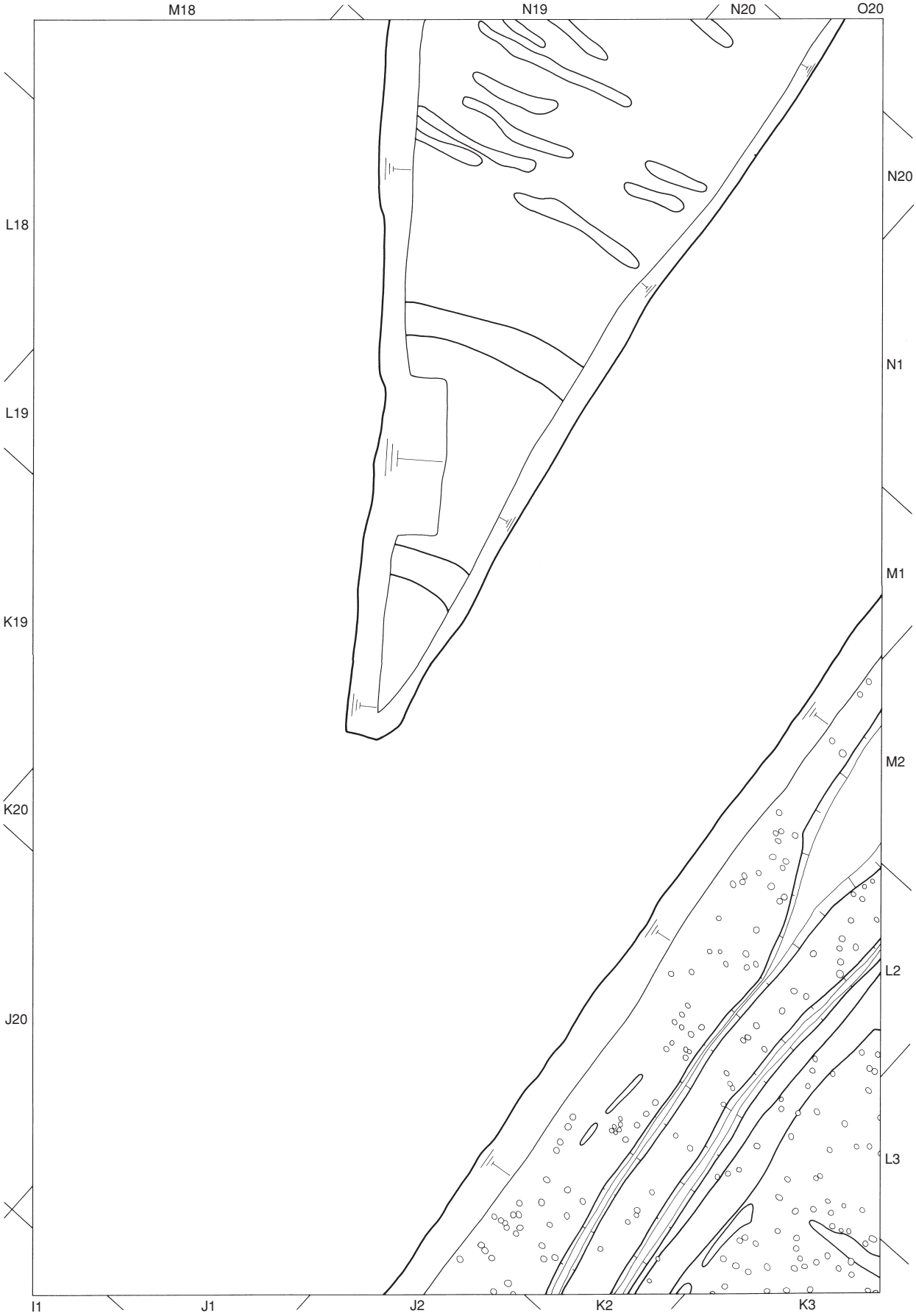


第190図　第２水田面遺構平面図⑫（S＝1/100）

第191図　第２水田面遺構平面図⒀（S＝1/100）



第192図　第２水田面遺構平面図⑭（S＝1/100）

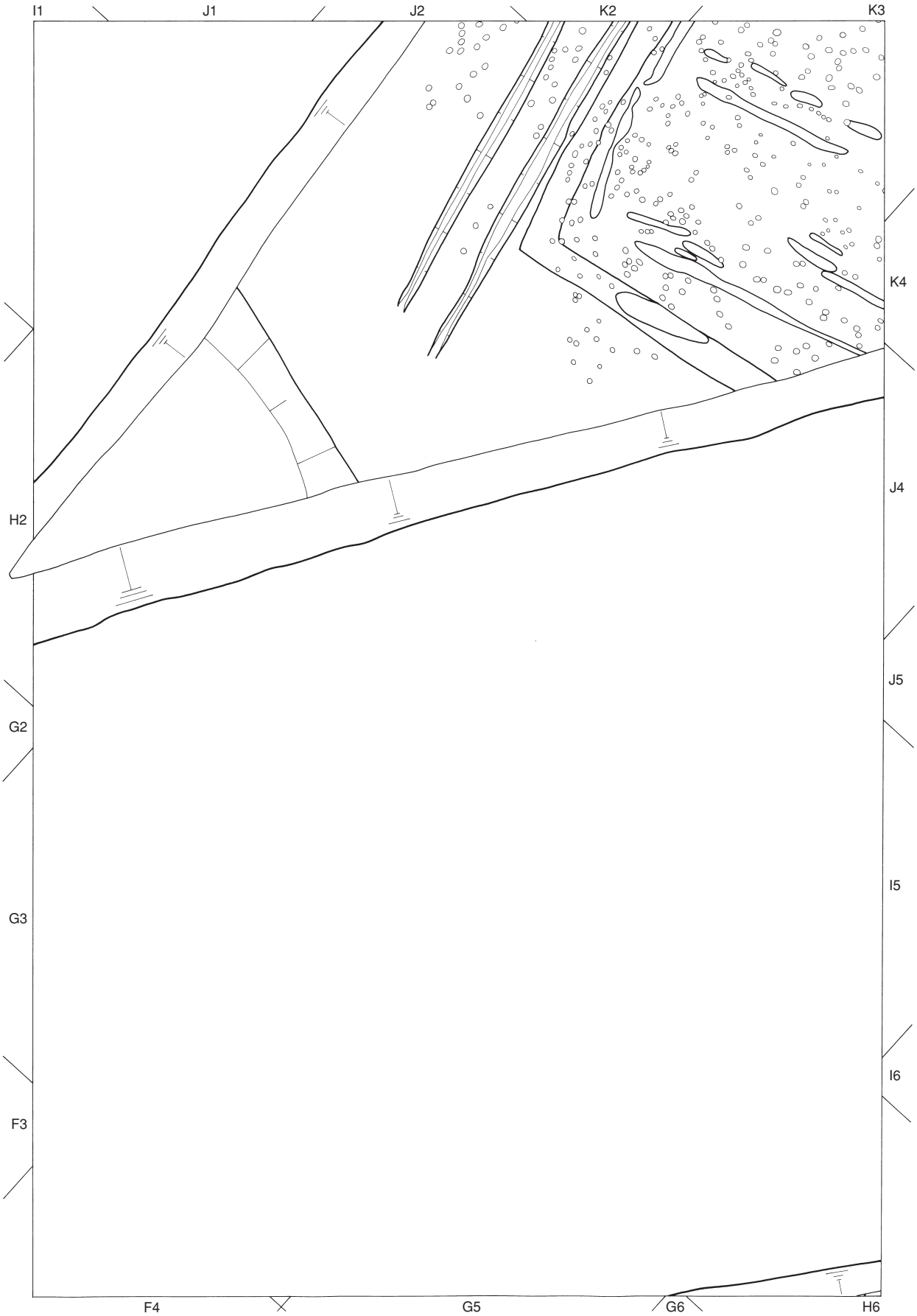


第193図　第２水田面遺構平面図⑮（S＝1/100）

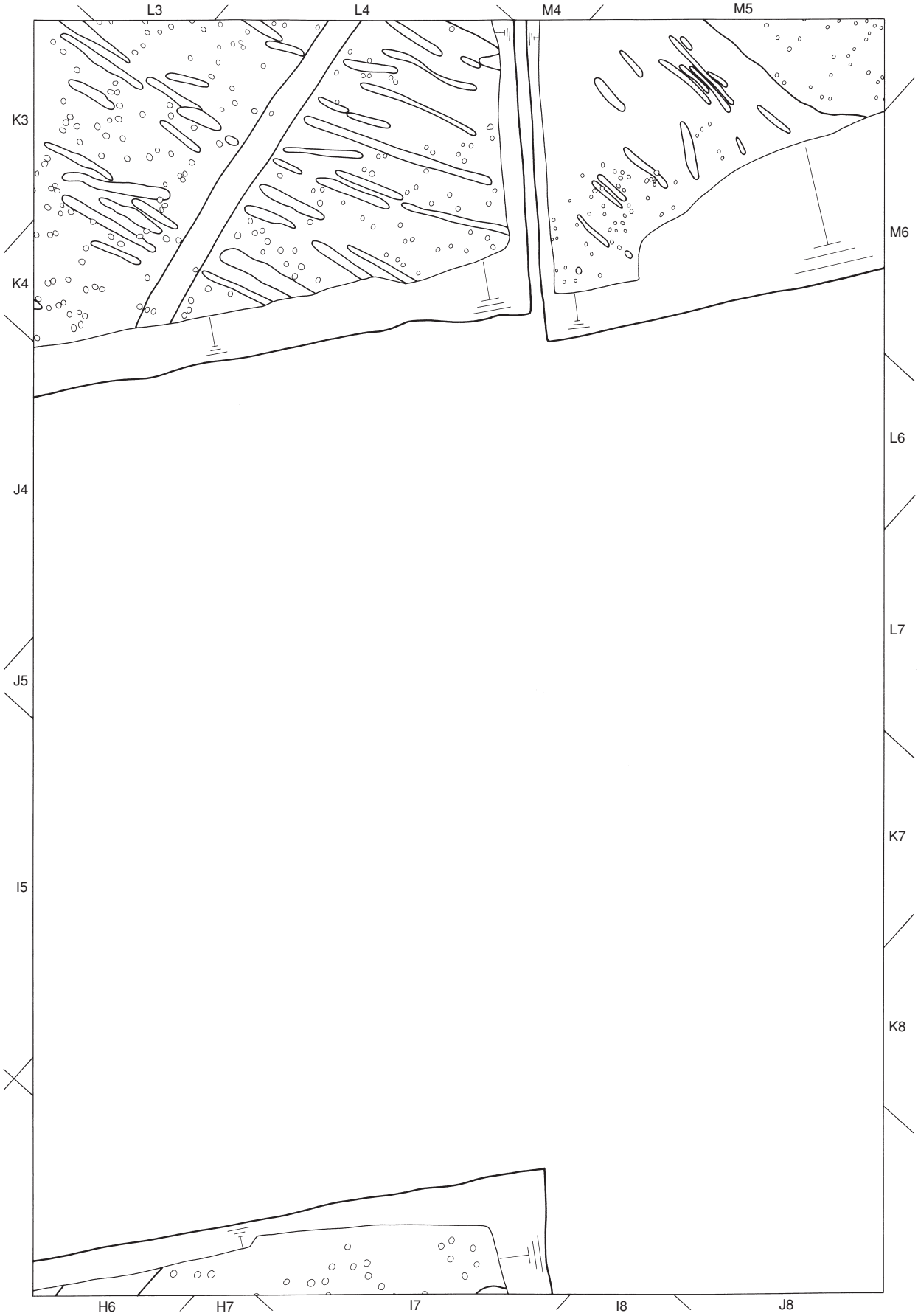
第194図　第２水田面遺構平面図⑯（S＝1/100）

第195図　第２水田面遺構平面図⑰（S＝1/100）

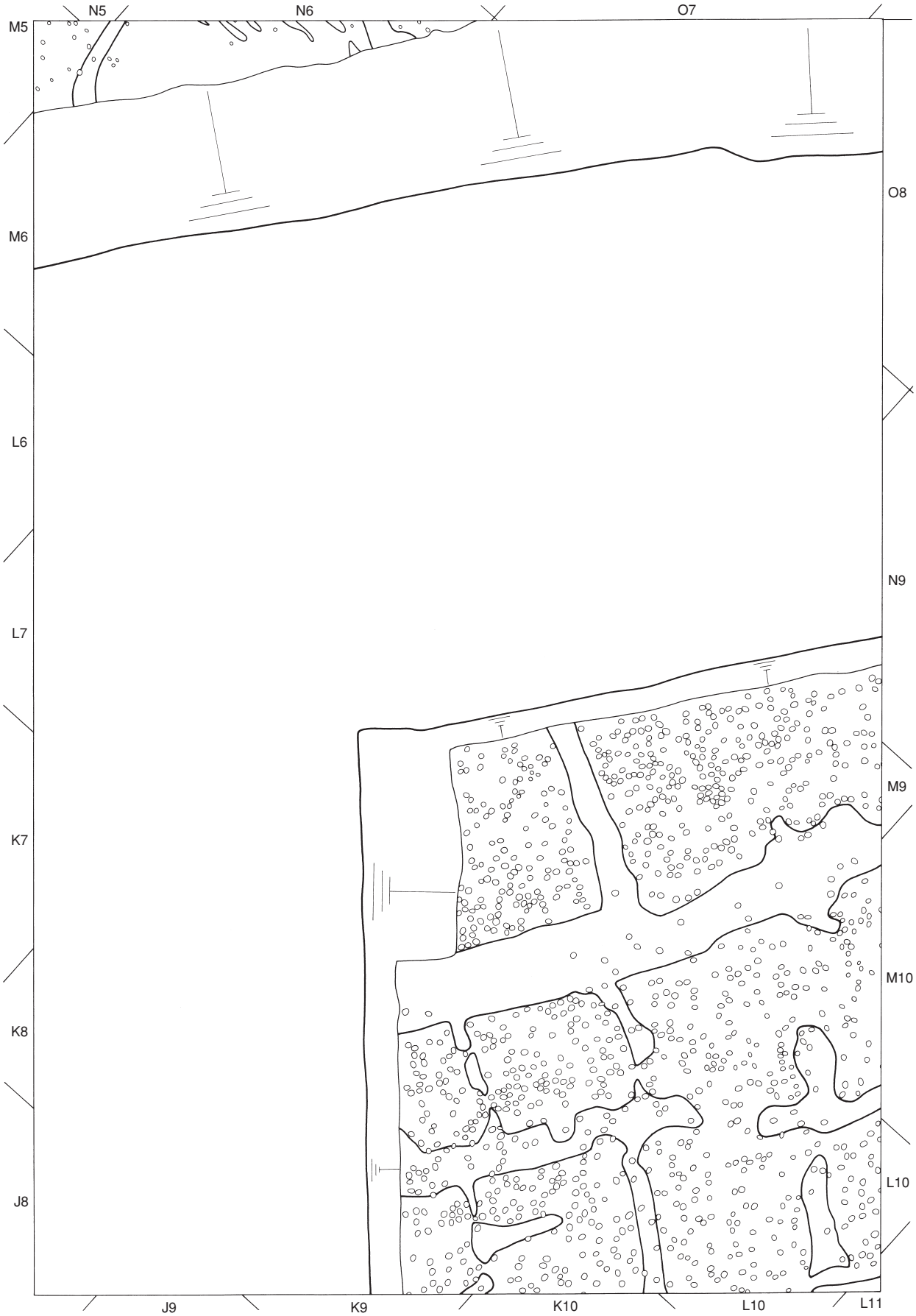
第196図　第２水田面遺構平面図⒅（S＝1/100）



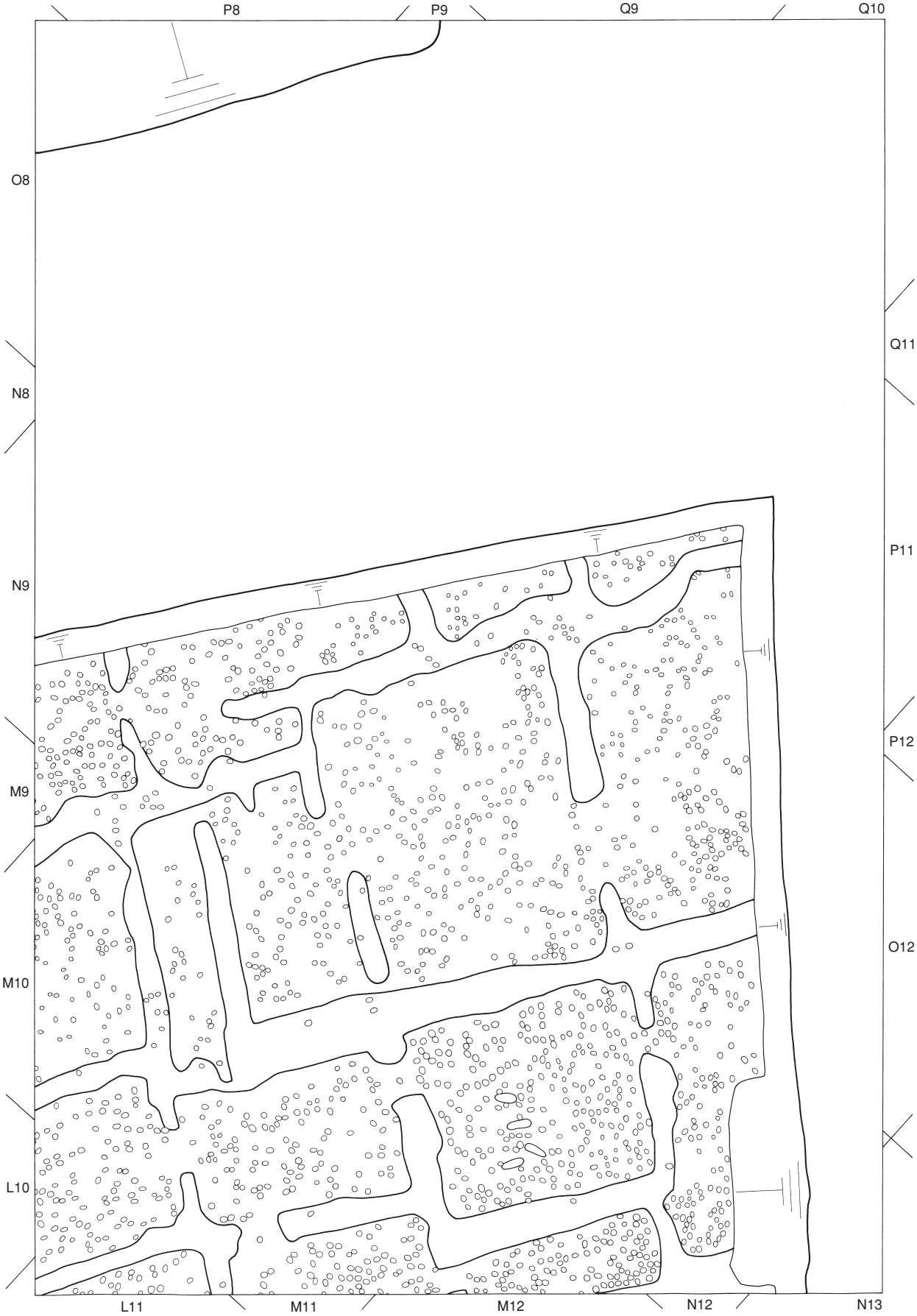
第197図　第２水田面遺構平面図⑲（S＝1/100）



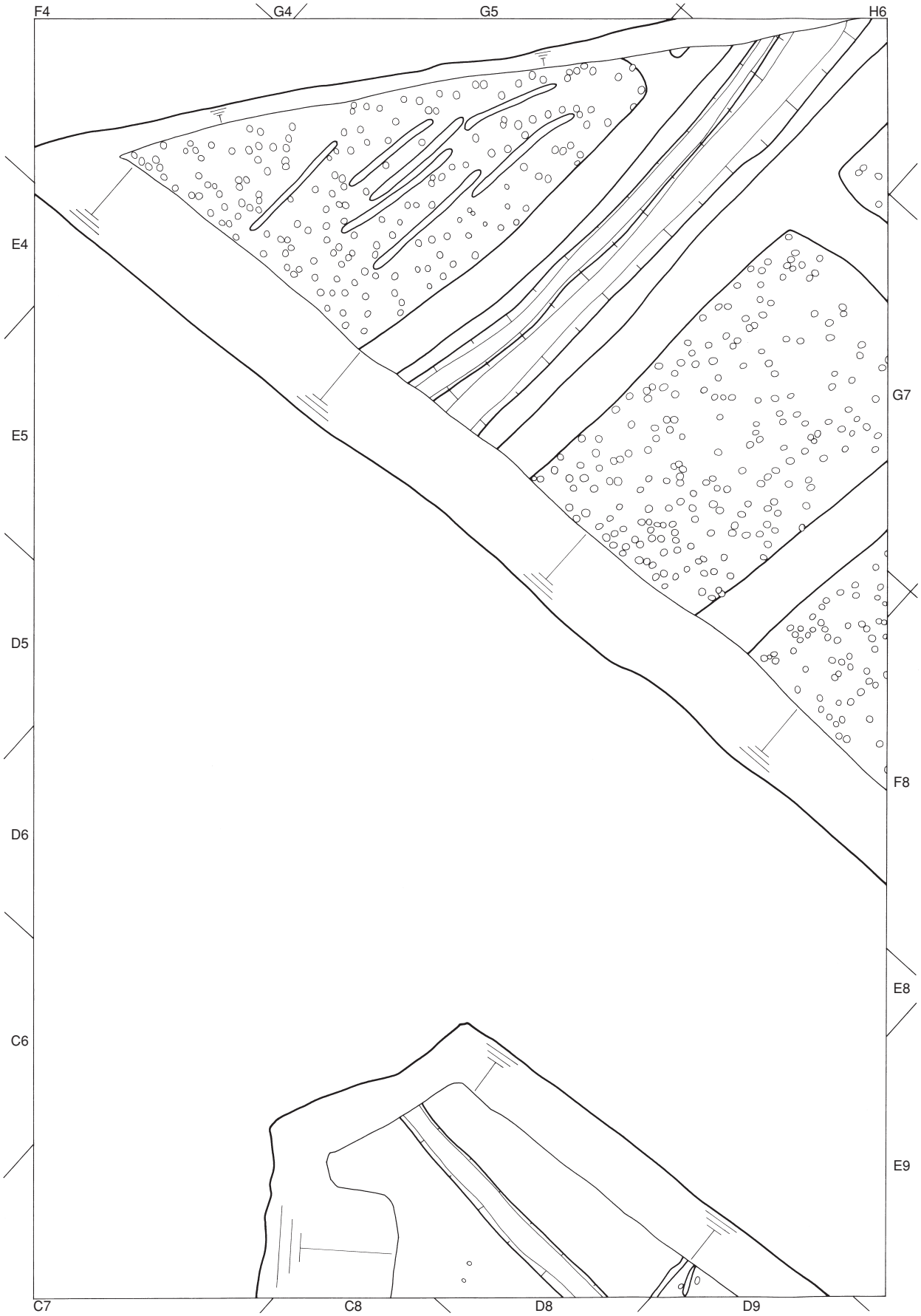
第198図　第２水田面遺構平面図⑳（S＝1/100）



第199図　第２水田面遺構平面図(21)（S＝1/100）

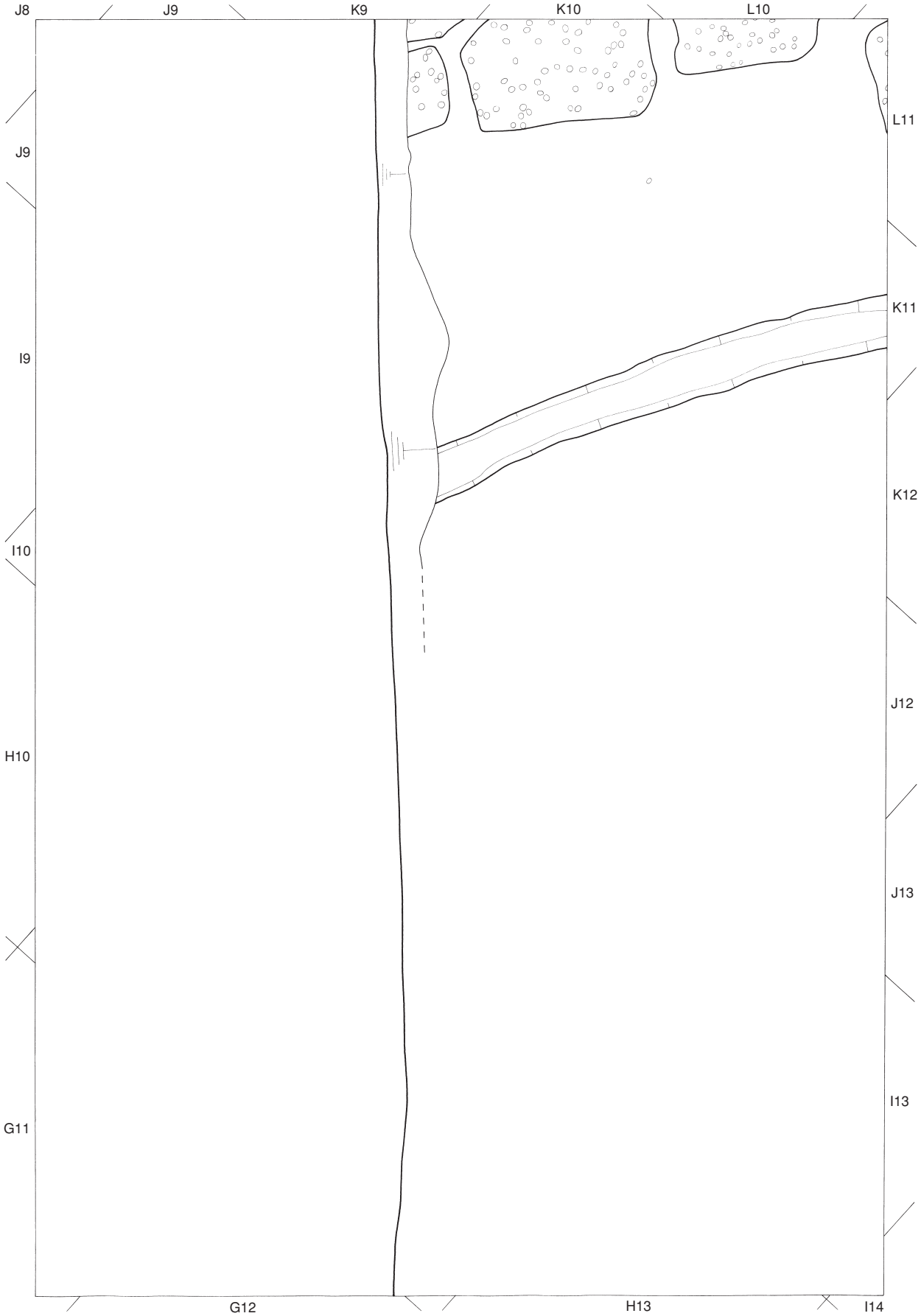


第200図　第２水田面遺構平面図㉒（S＝1/100）

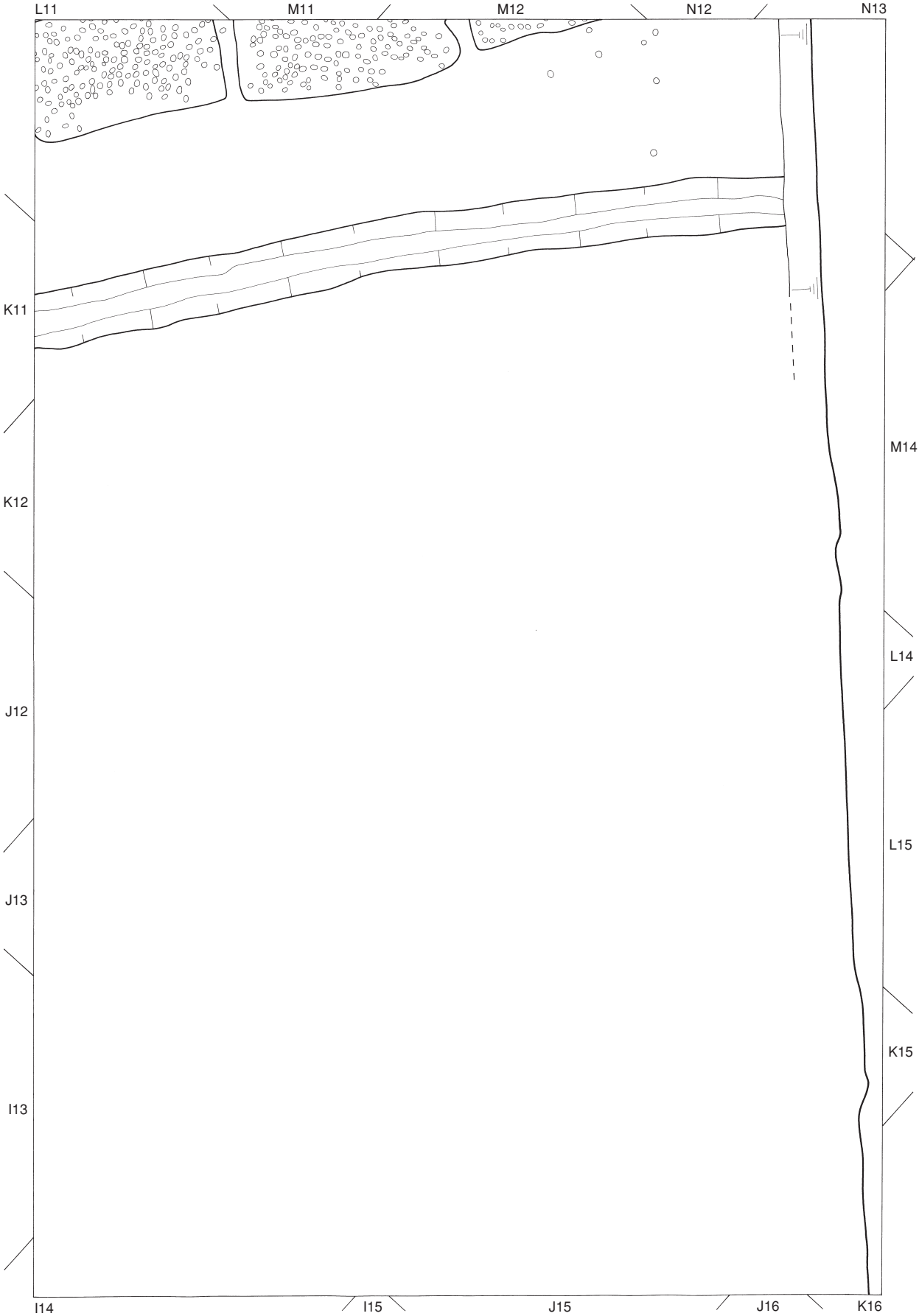


第201図　第２水田面遺構平面図㉓（S＝1/100）

第202図　第２水田面遺構平面図㉔（S＝1/100）

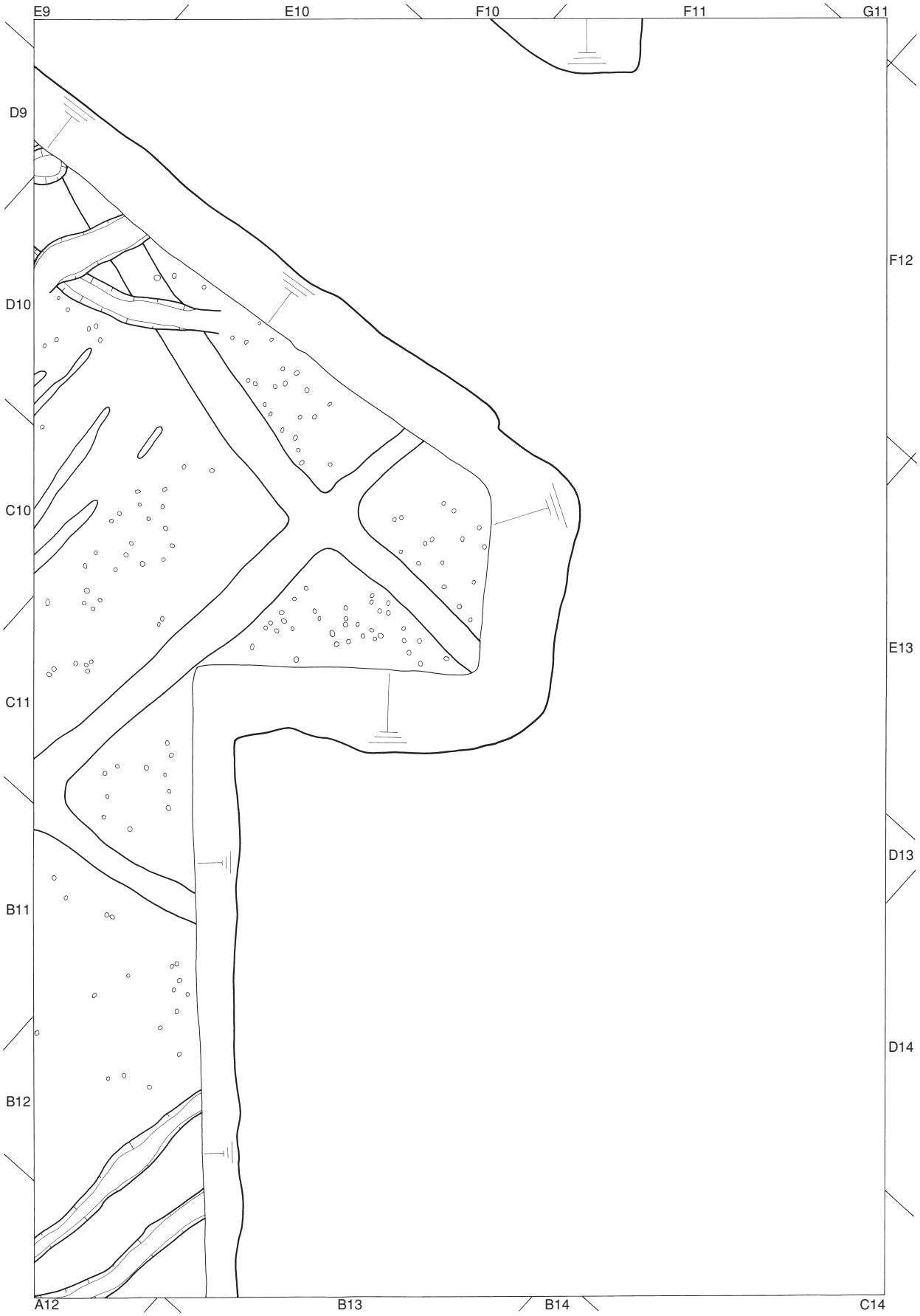


第203図　第２水田面遺構平面図㉕（S＝1/100）

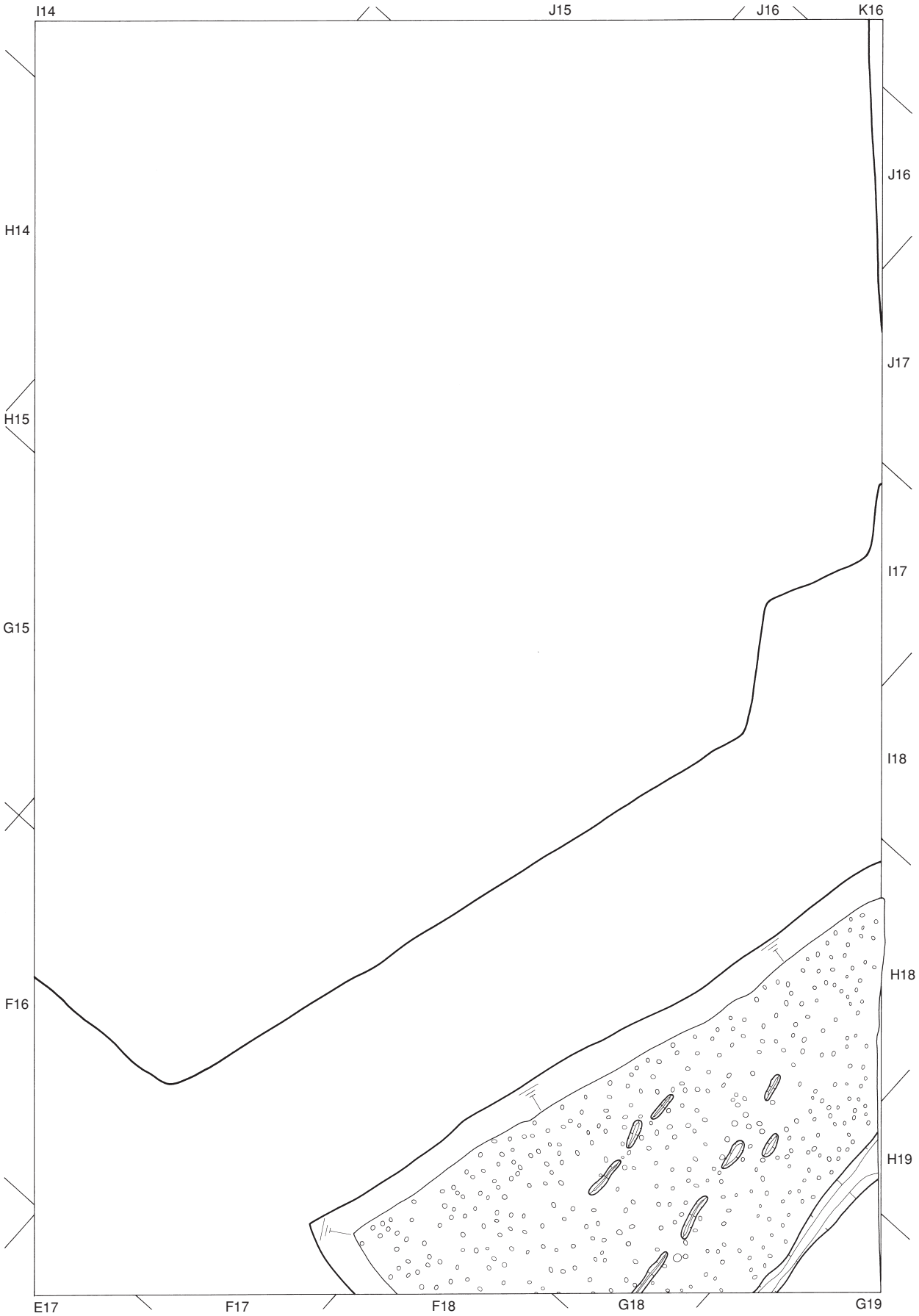


第204図　第２水田面遺構平面図㉖（S＝1/100）

第205図　第２水田面遺構平面図(27)（S＝1/100）

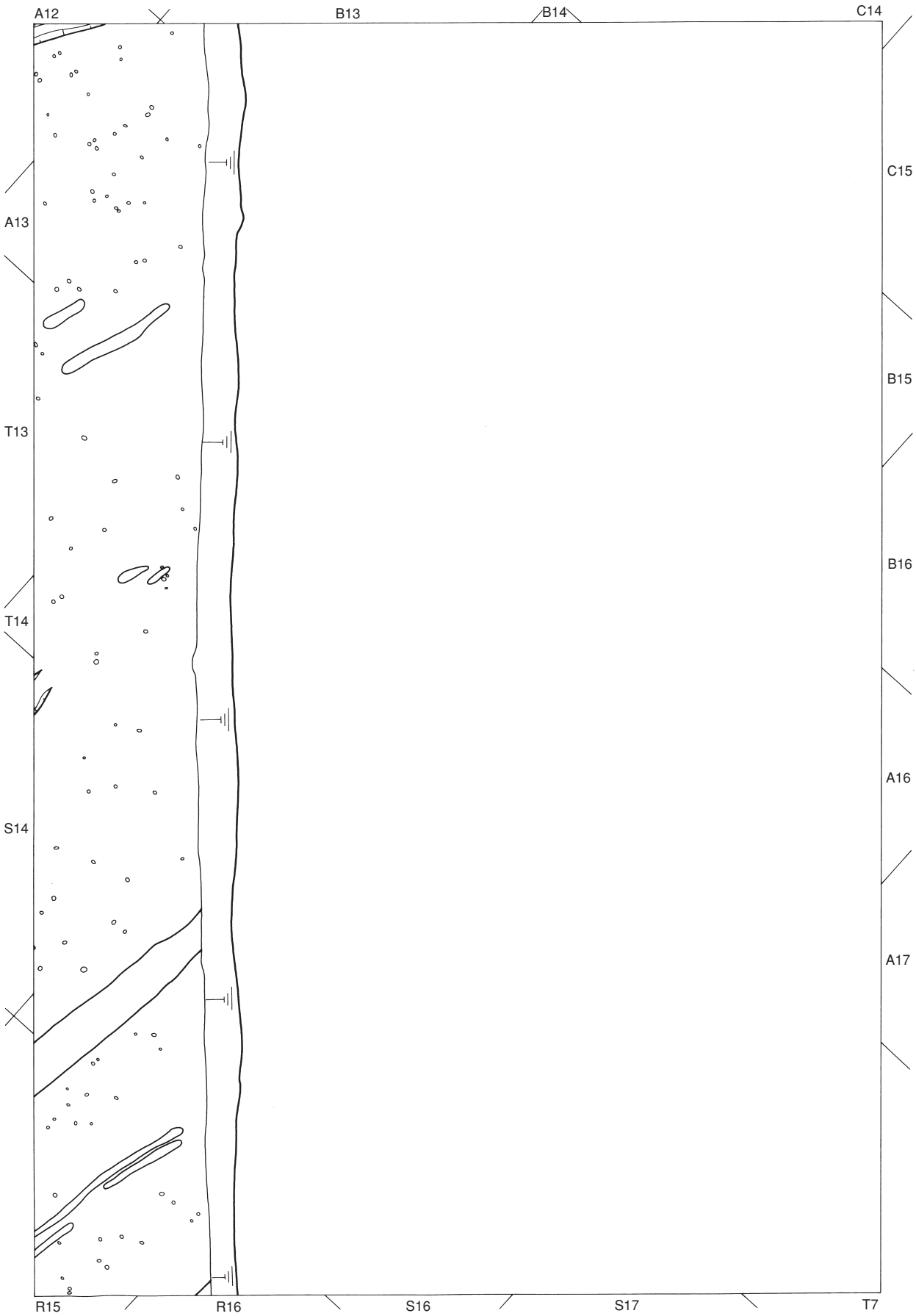


第206図　第２水田面遺構平面図㉘（S＝1/100）

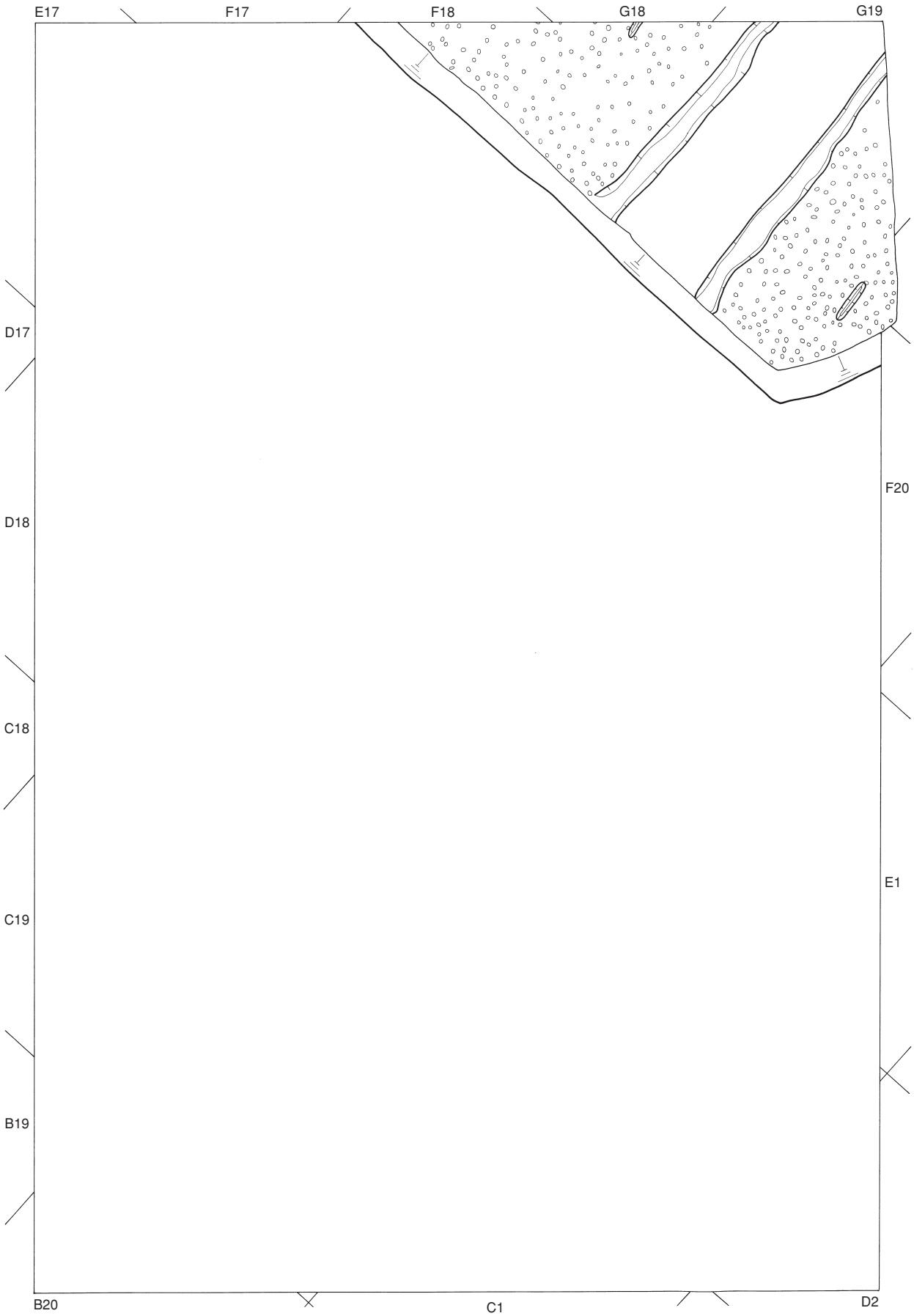


第207図　第２水田面遺構平面図(29)（S＝1/100）

第208図　第２水田面遺構平面図(30)（S＝1/100）

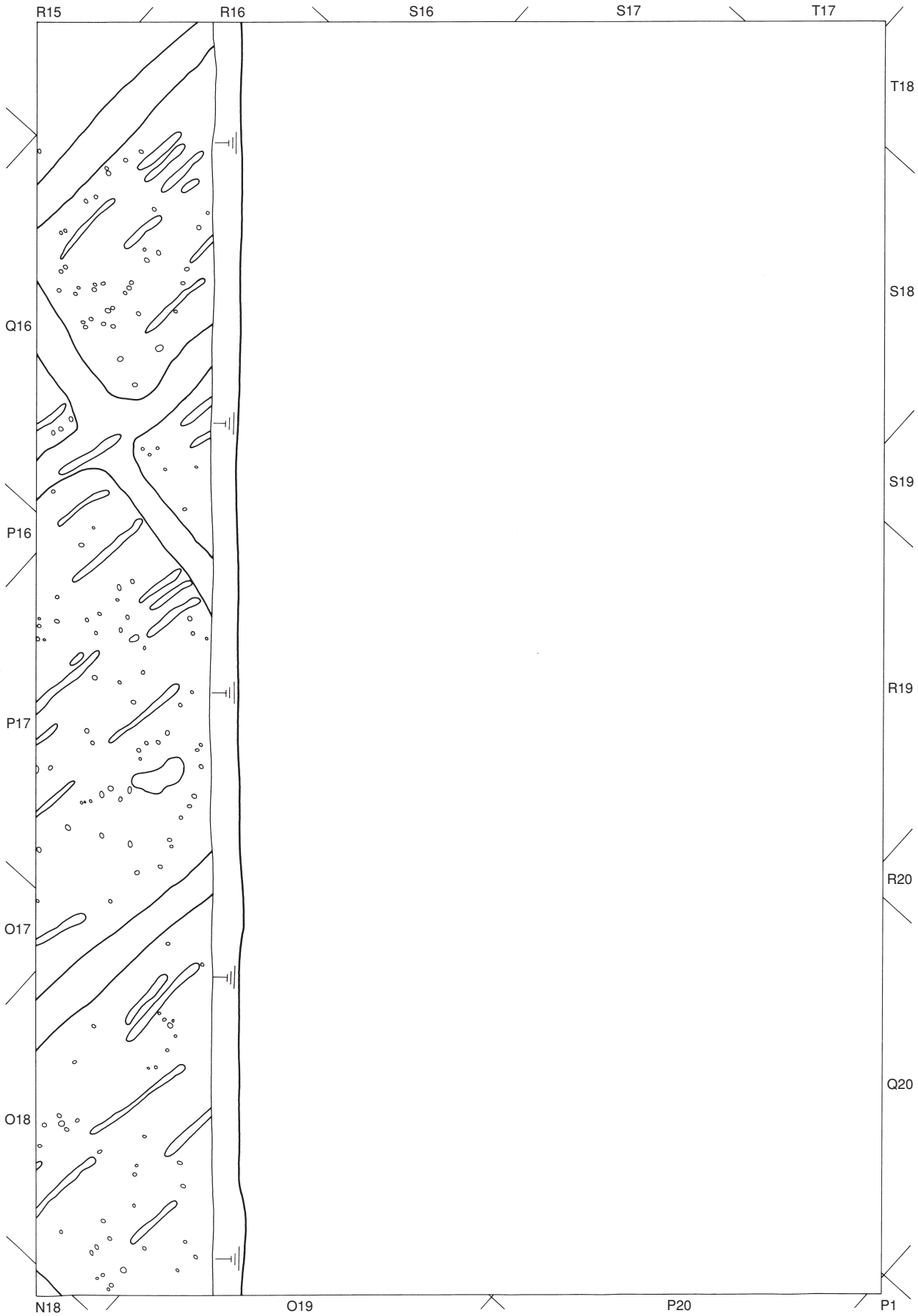


第209図　第２水田面遺構平面図(31)（S＝1/100）



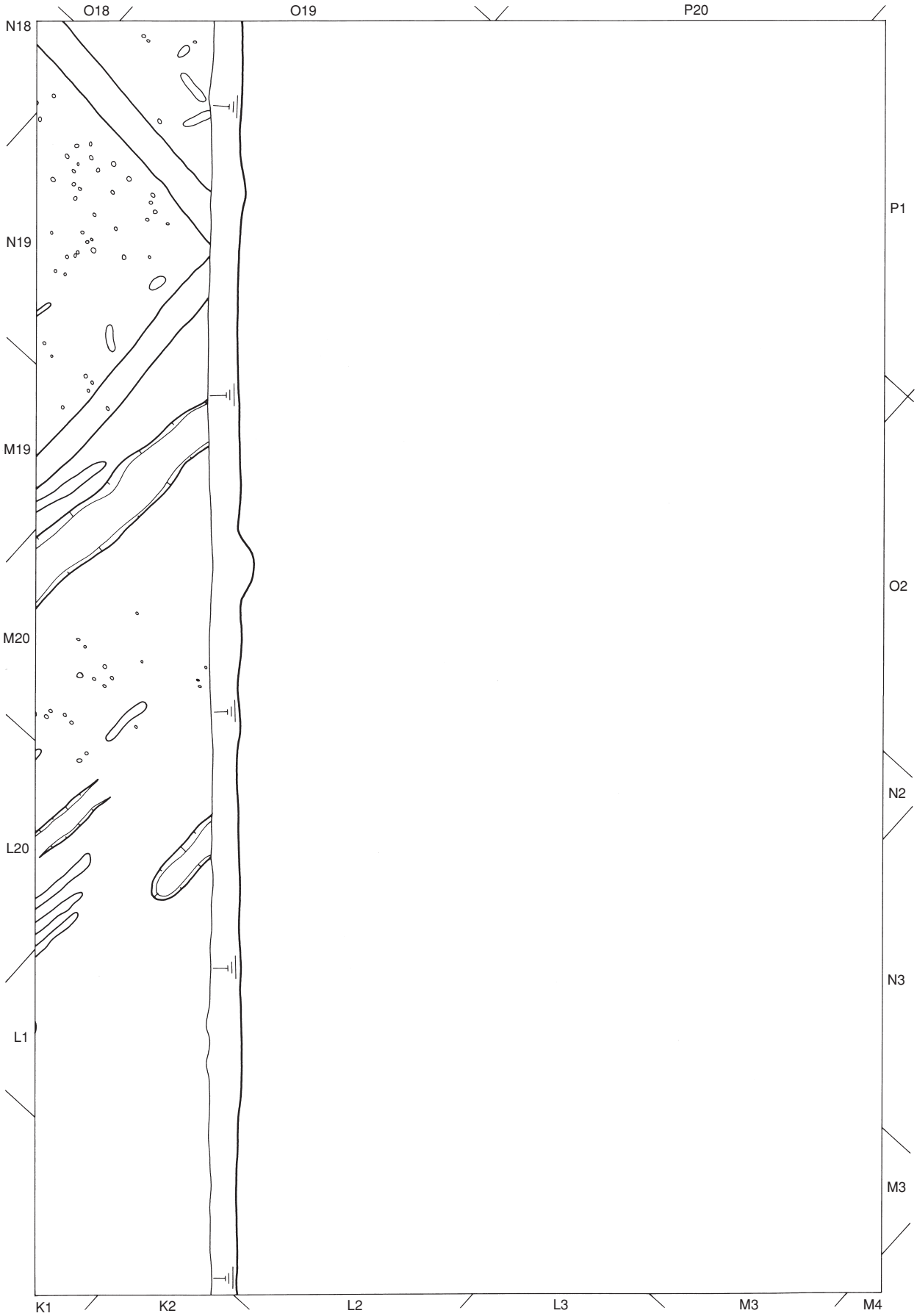
第210図　第２水田面遺構平面図(32)（S＝1/100）

第211図　第２水田面遺構平面図(33)（S＝1/100）

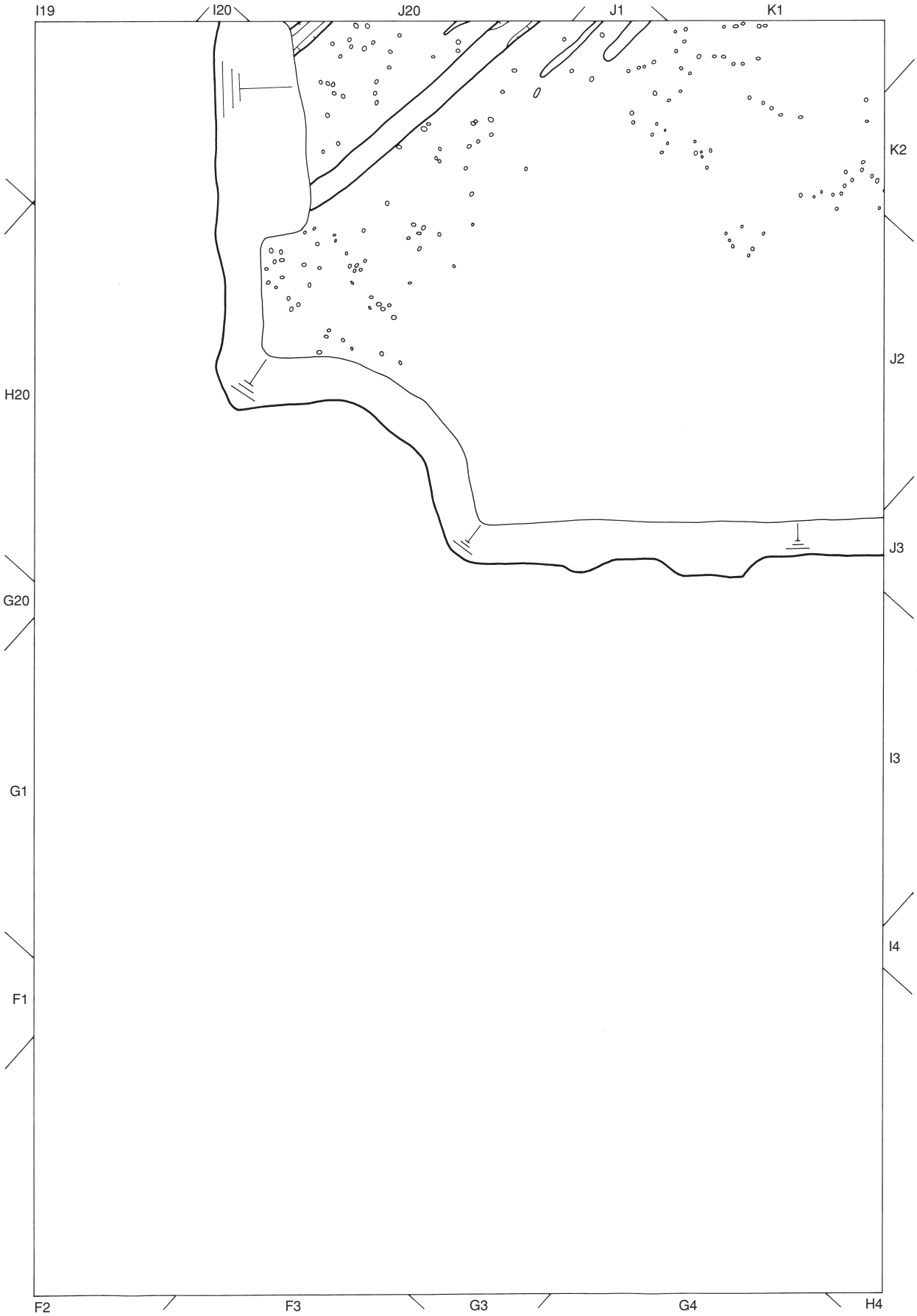


第212図　第２水田面遺構平面図(34)（S＝1/100）

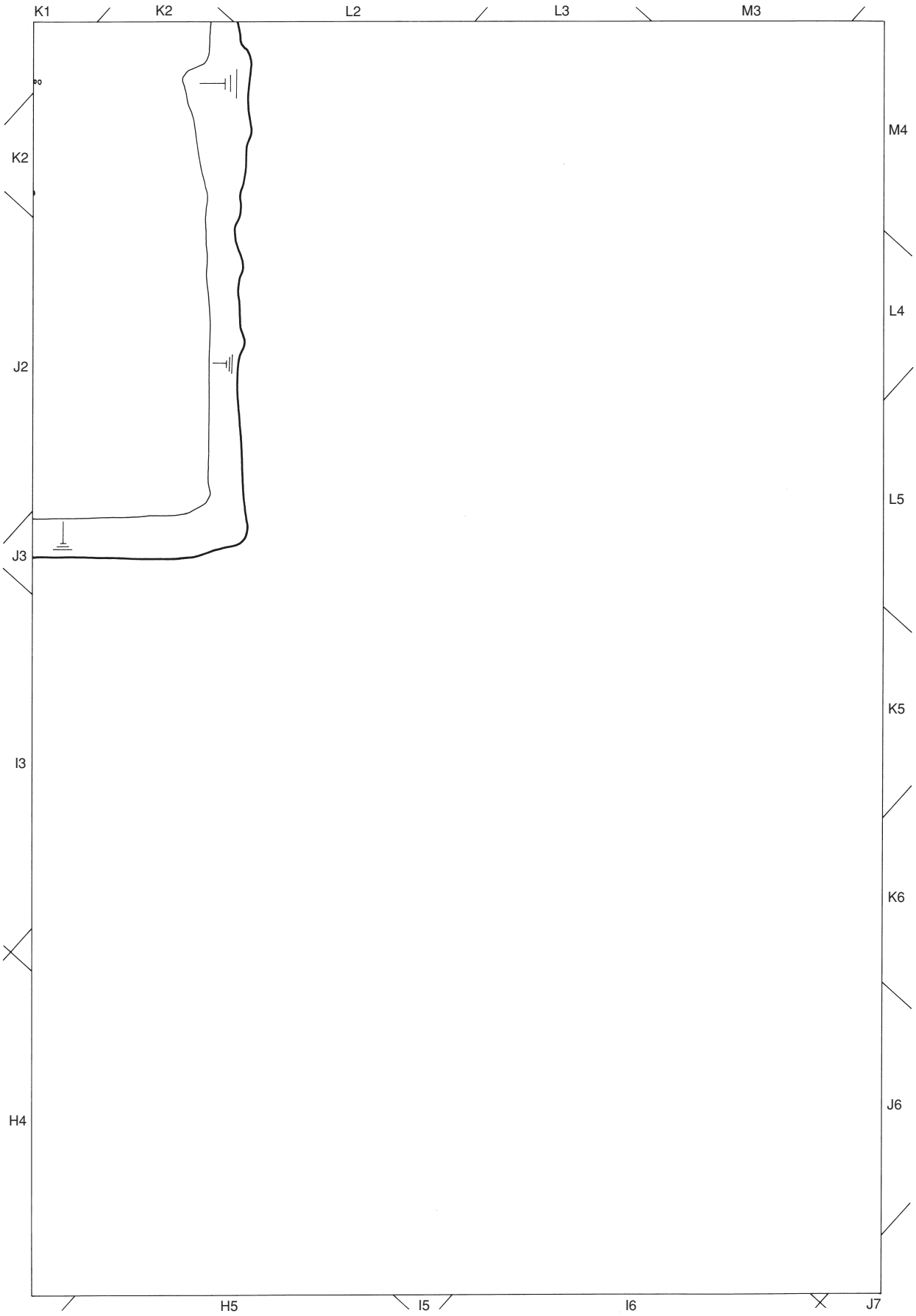
第213図　第２水田面遺構平面図㉟（S＝1/100）



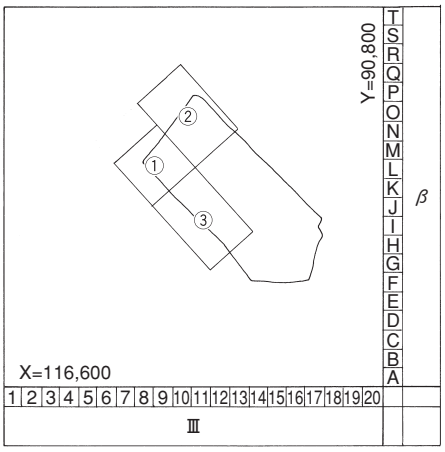
第214図　第２水田面遺構平面図㊱（S＝1/100）



第215図　第２水田面遺構平面図(37)（S＝1/100）

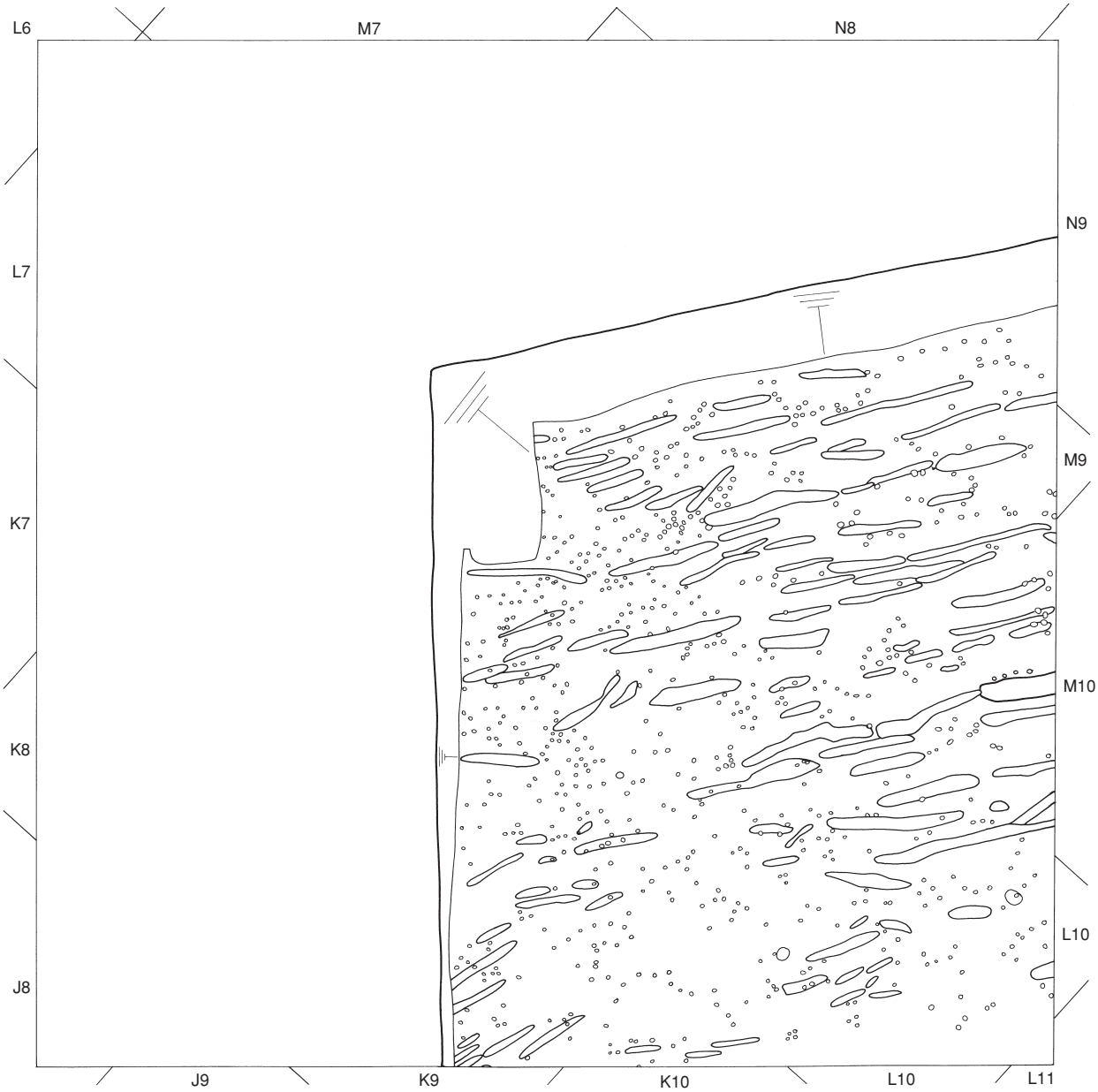


第216図　第２水田面遺構平面図㊳（S＝1/100）

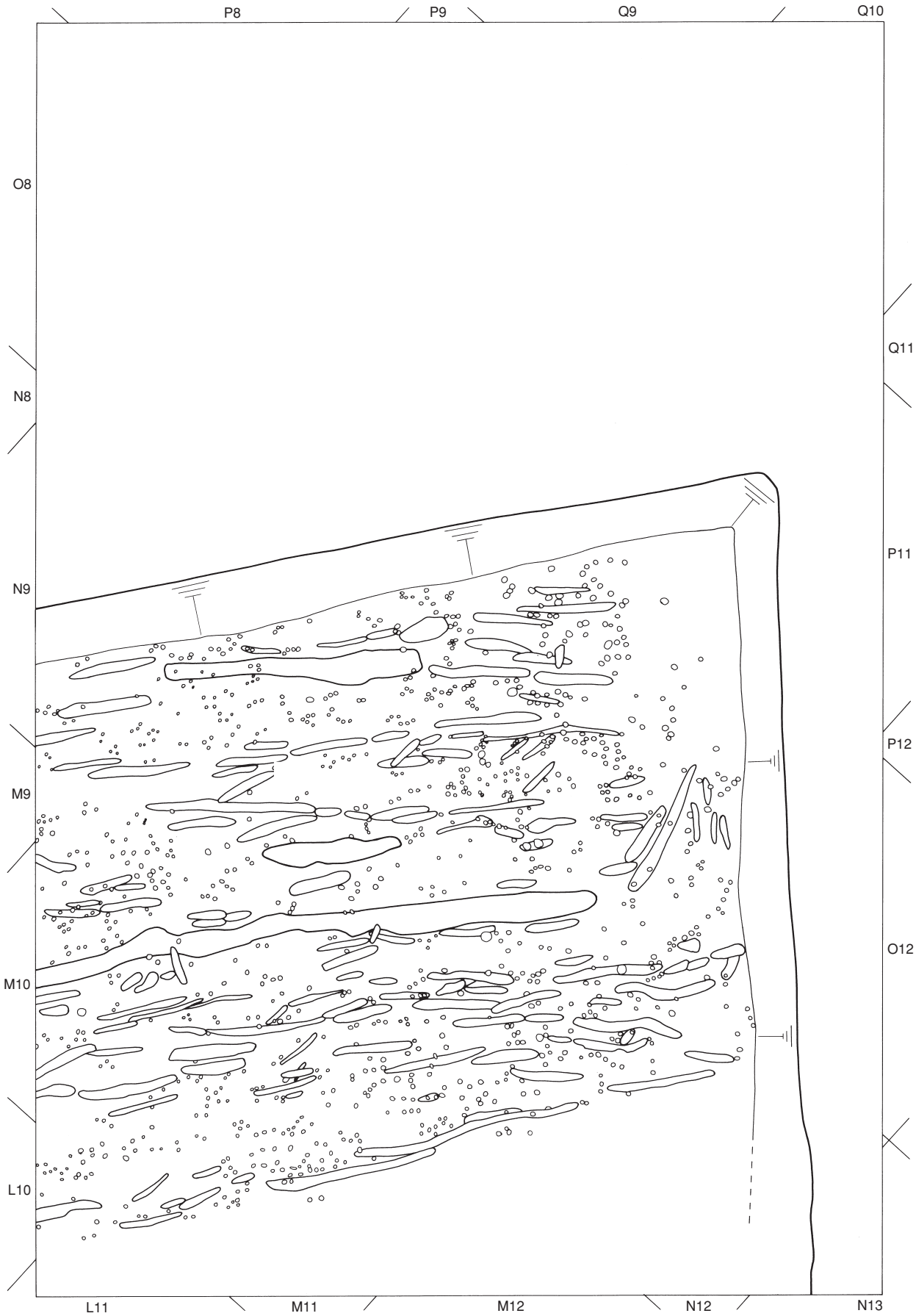


割付図の①～③までの番号は、第218図～第220図までに
記載されているキャプションの数字と同じである

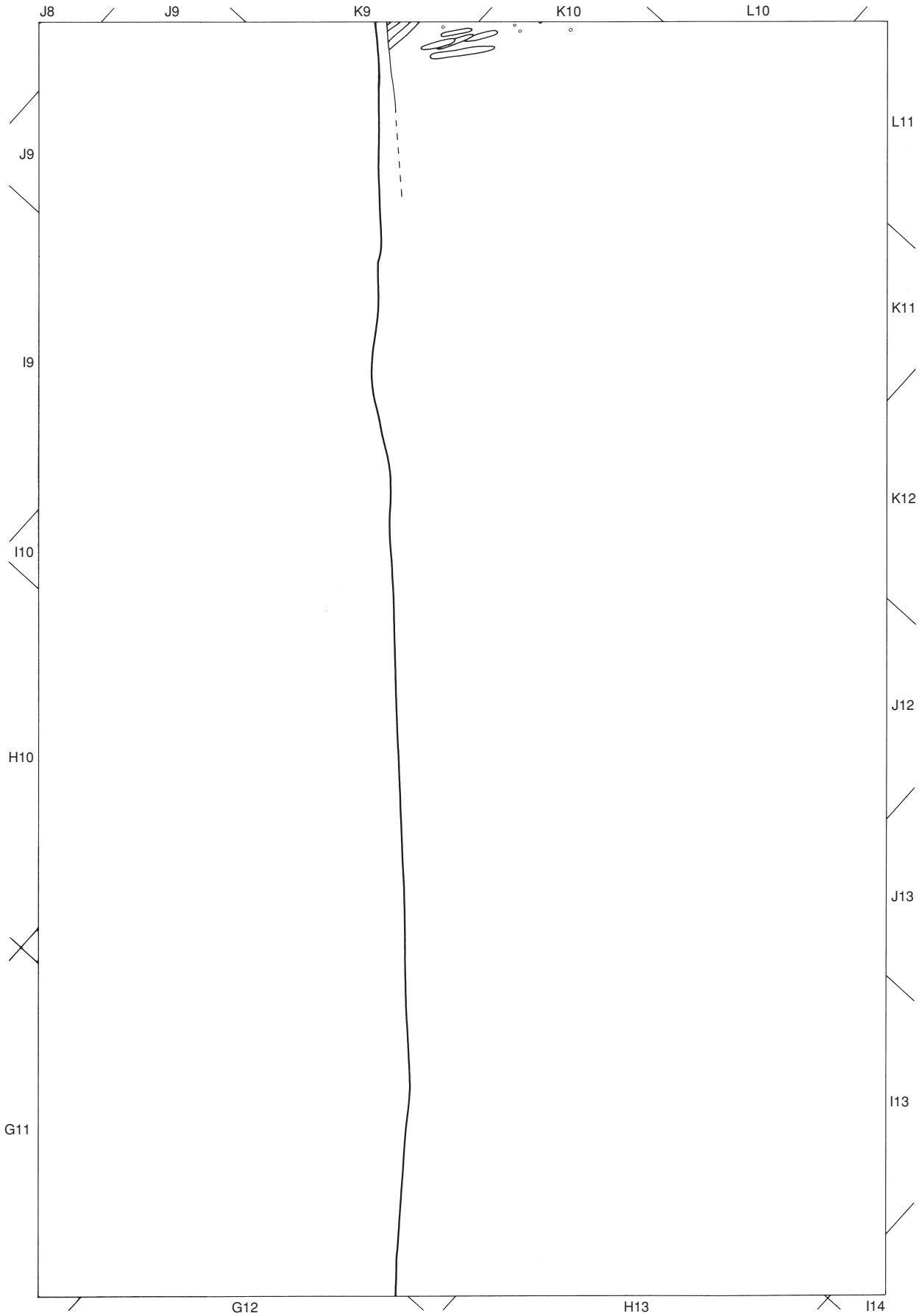
第217図　第２－２水田面遺構平面図割付図（S＝1/2000）



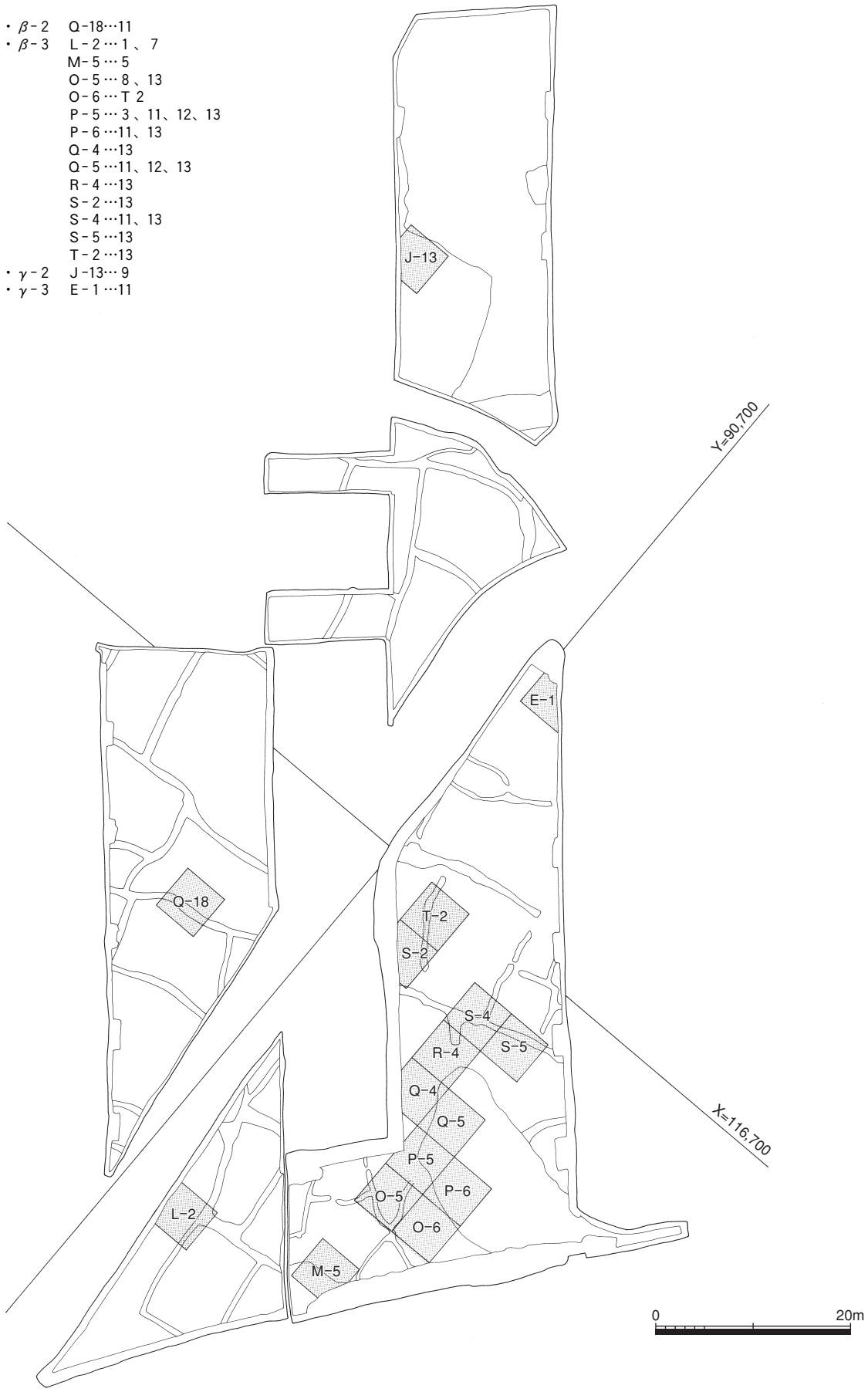
第218図　第２－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



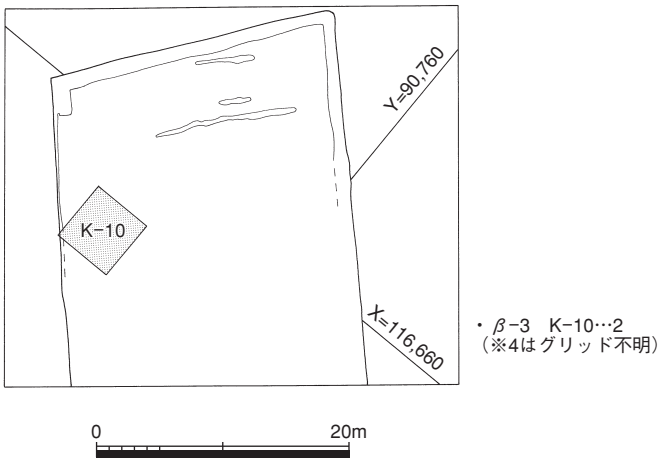
第219図　第２－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



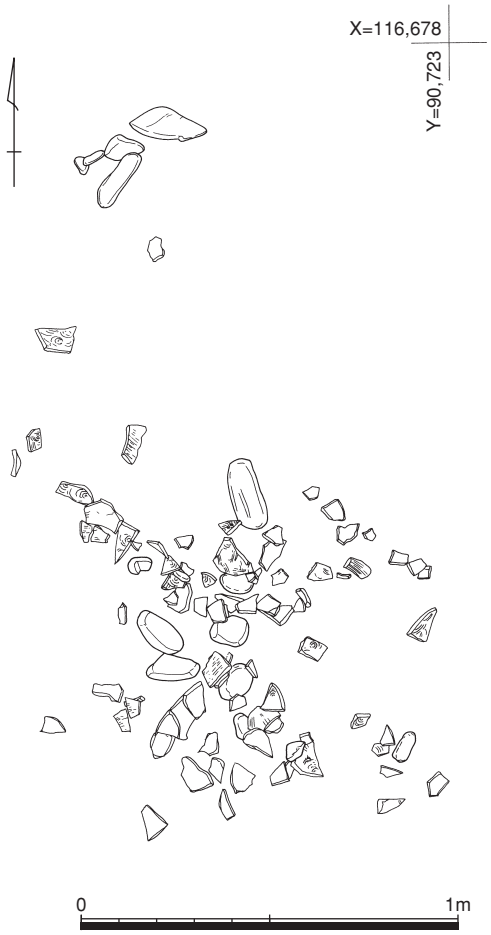
第220図　第２－２水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）



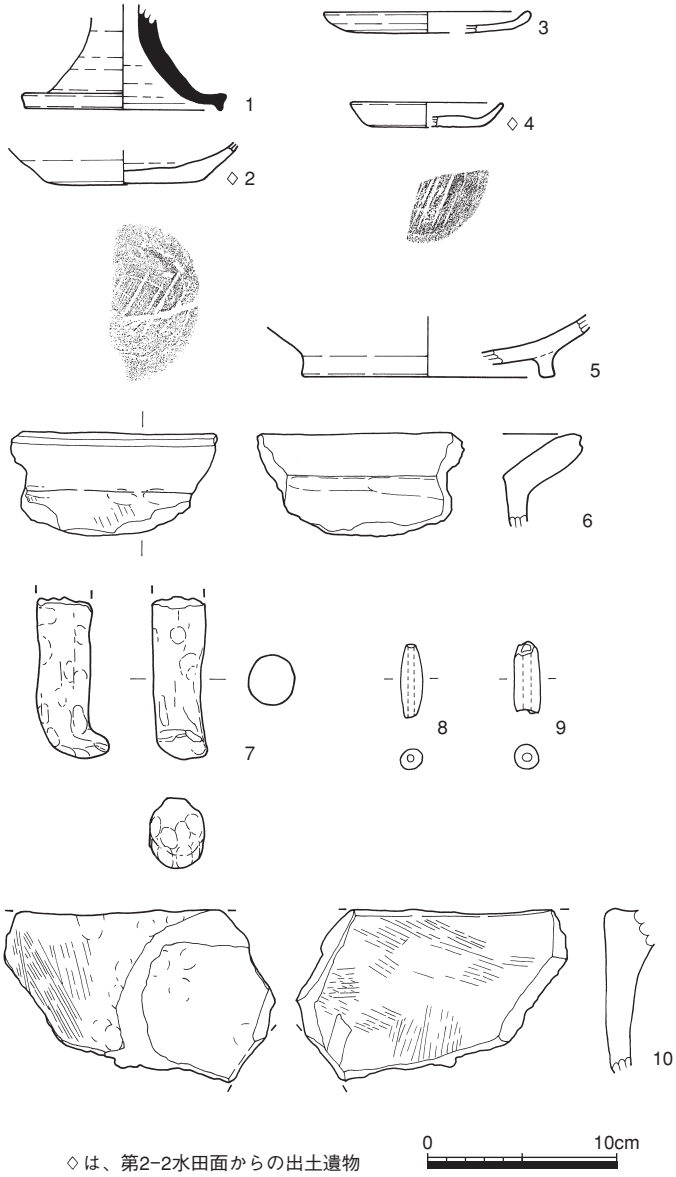
第221図　第２水田面遺物出土地点グリッド対応図

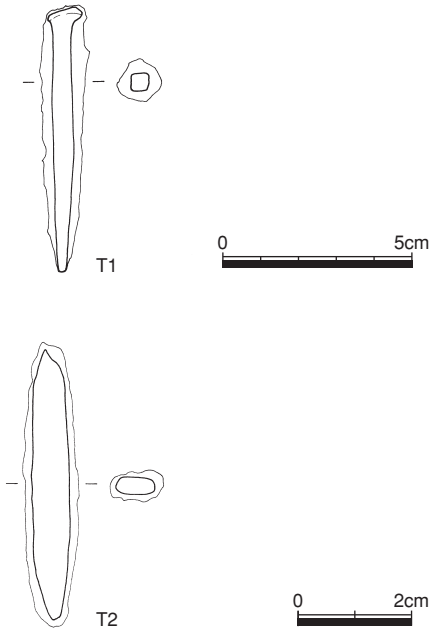


第222図　第２－２水田面遺物出土地点グリッド対応図

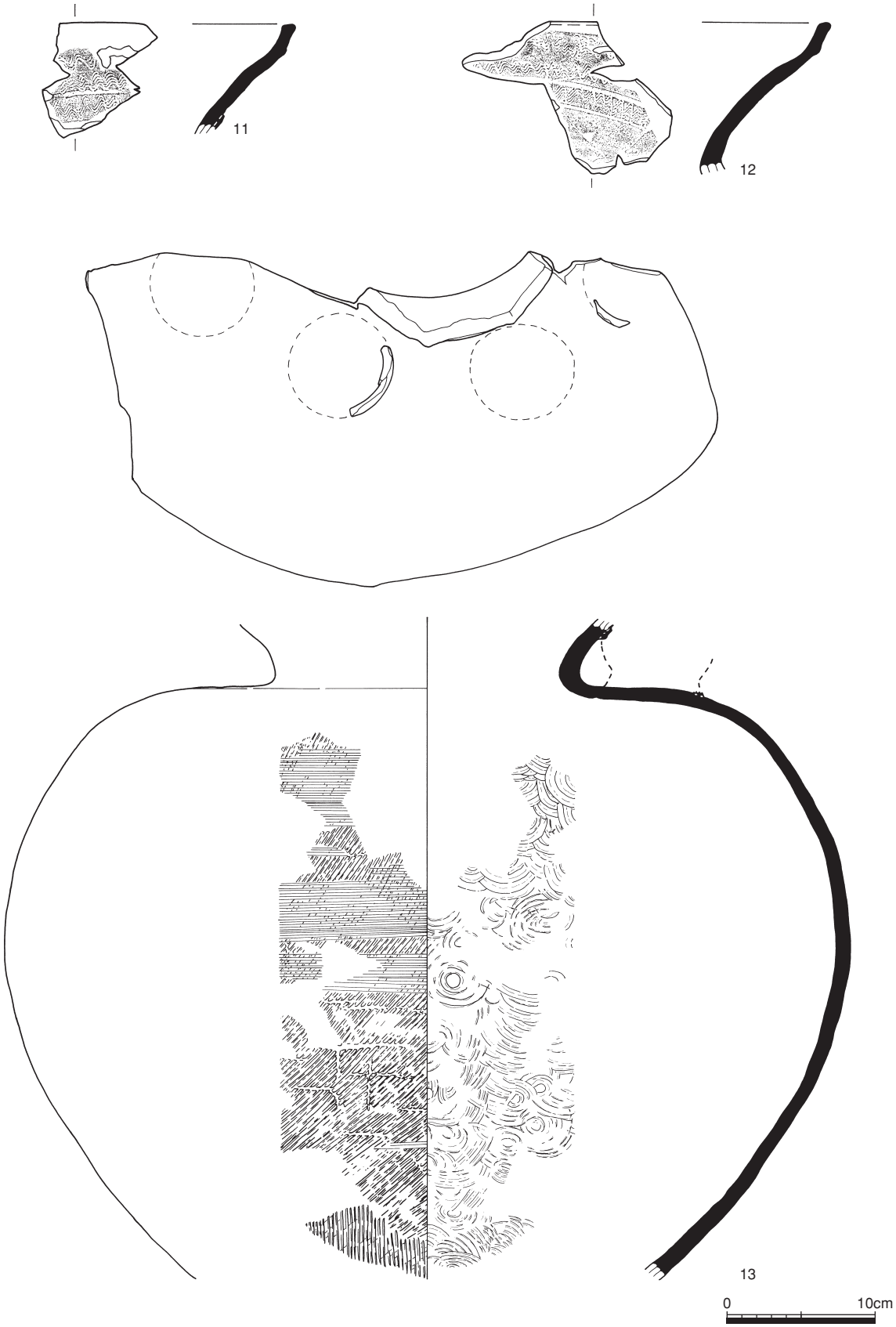


第223図　第２水田面№13出土状況図





第224図　第２、２－２水田面出土遺物図(1)



第225図　第２水田面出土遺物図(2)

97－2区においては調査区全面に水田区画が検出された。北西側の自然堤防に近い地点では歪な区画が認められるが、南側では5.5×6.5m規模の長方形を呈する区画が連続している。東側には南北方向の溝が掘削されており、給排水されていた。

1998・1999年度調査区のほぼ全域において水田区画が検出された。98－7区の南側は自然堤防となり、水田区画は検出されていない。自然堤防北側の水田は、98－6区南端部の島状高まりに挟まれた地域であることから3.8×4.0m規模の小規模な区画が連続する。島状高まりの周辺部には不定型な水田区画が展開するが、北西側では10.6×7.5m規模の水田区画が造成されている。

出土遺物　97－1区において出土した１・２は弥生土器で、１は甕、２は甕底部である。97－2区において出土した土製品１は管状土錘である。

98－2区～98－6区、99－3区において出土した１は須恵器高杯、２～４土師器は皿である。５は黒色土器椀、６は土師器甕、７は土師器羽釜脚部である。８・９は管状土錘である。10は土師質の竈である。Ｔ１・Ｔ２は釘、Ｔ２はヤリガンナである。11～13は須恵器で、11・12は器台、13は子持付壺である。

（３）第３遺構面

溝状遺構

２号溝状遺構（SD3002）（第226・227図）

位置　99－1区。Loc.Ｂ３　βⅢ　Ｉ・Ｊ－２・３、Ｋ・Ｌ－２、Ｍ・Ｎ－１・２グリッド

規模と形状　検出長24.70m、幅1.30～0.60m、深度0.12mを測る溝状遺構である。主軸方向は、南北方向である。遺構の断面形状は、逆台形を呈しているが、北側が浅く、南側になるにつれて深くなっている。遺構床面の標高が、南端、北端よりも中央部の方が、0.8m低いため溝がどちらの方向に流れていたかは不明である。

土層　遺構覆土は黄褐色砂質土である。

遺物出土状況　遺構北端部に近い地点において、４mの範囲に渡って結晶片岩川原石により溝を充填された状態で検出された。

出土遺物　１は土師器把手付鍋である。

時期　古代である。

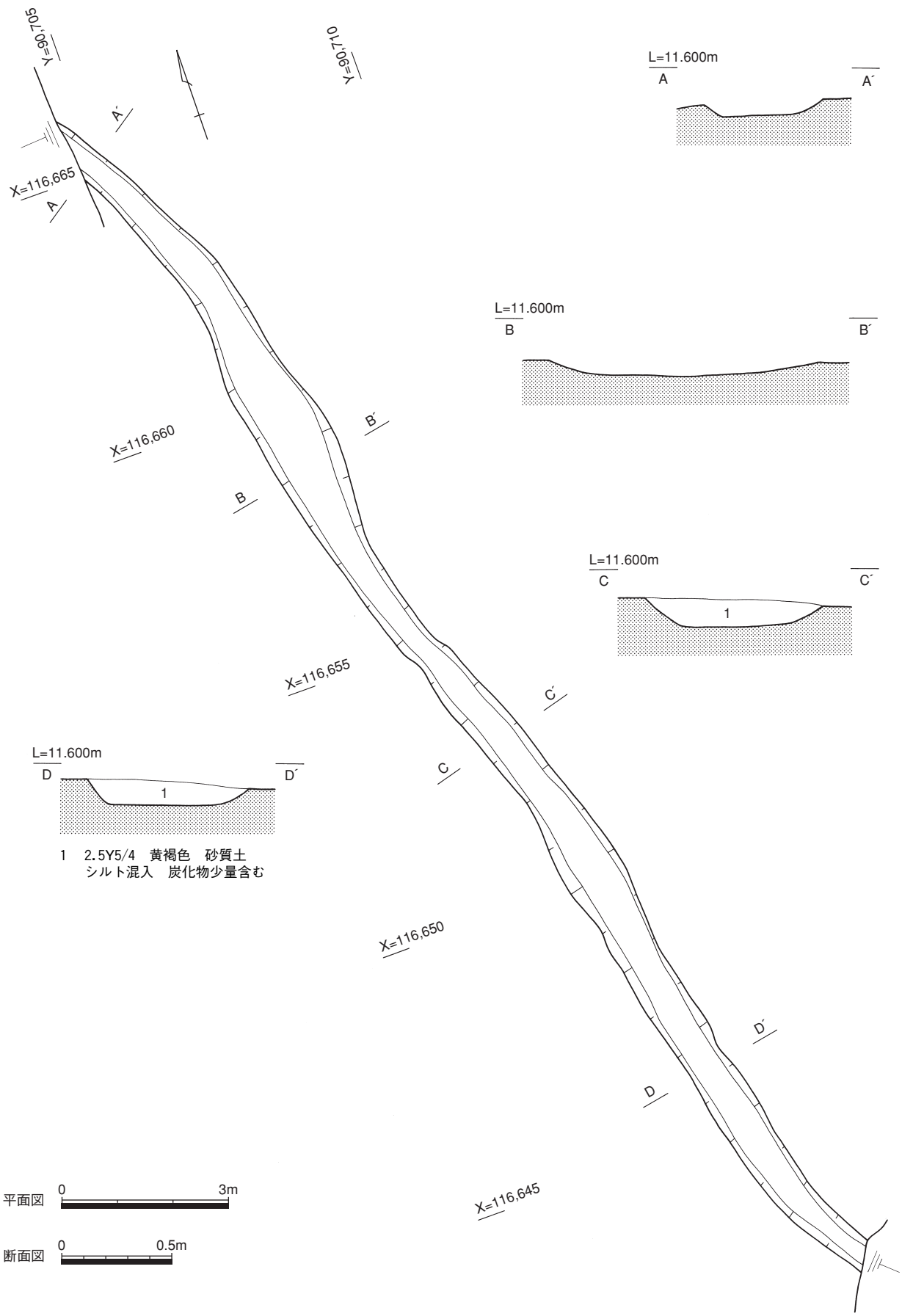
水田遺構

第３水田面（SI3001）（第228～289図）

規模と形状　96－4区・97－2区において検出された水田は、大区画畦畔を伴う。畦畔の方向はほぼ東西方向を指向する。大畦畔の南北方向の間隔は約13mを測る。東西方向の間隔は不明である。

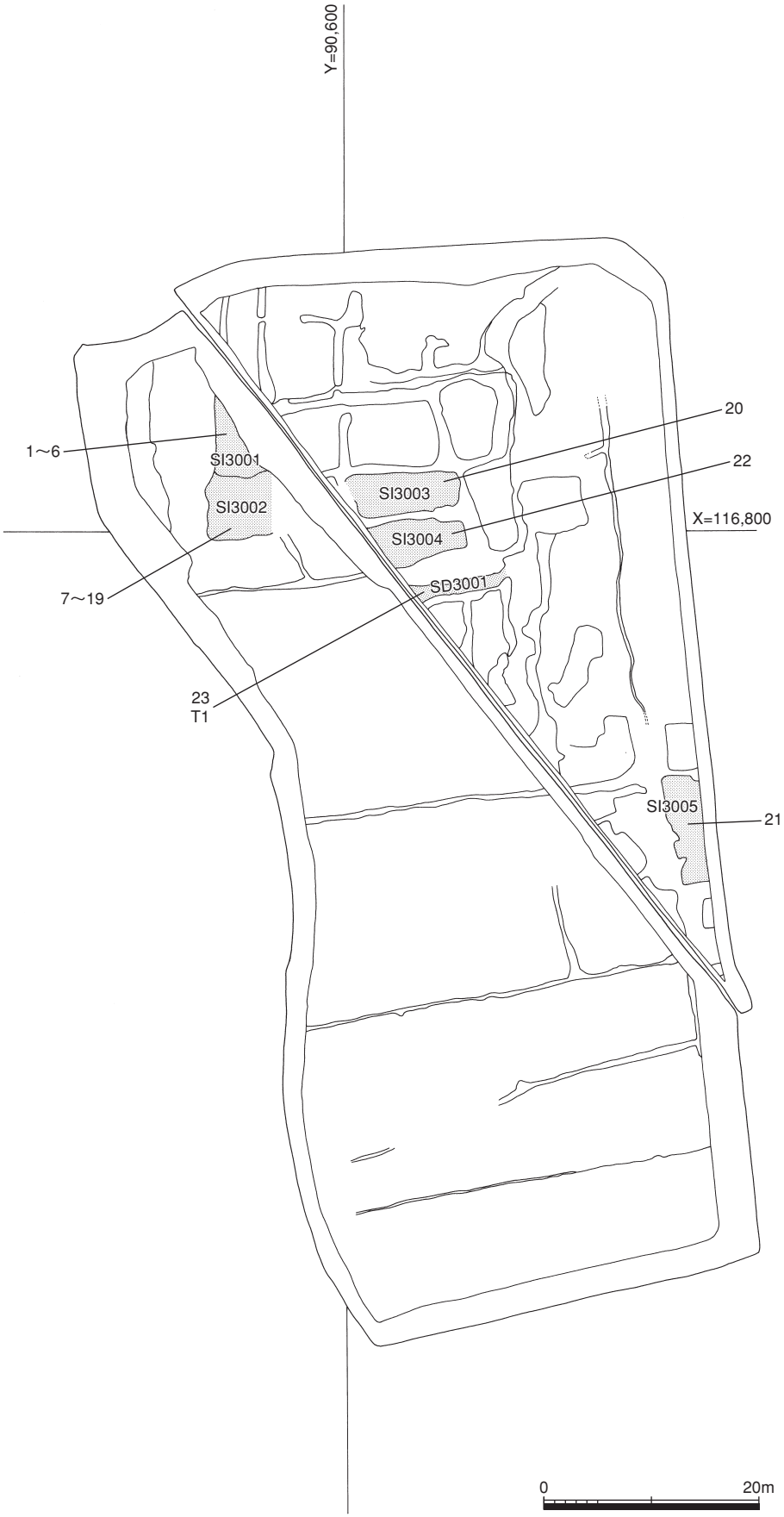
98－4区～98－7，99－1～3区で検出された水田は小区画水田となる。98－6区南側の島状高まりと98－7区北側の自然堤防の南側には、一辺４m規模の小区画水田が造成される。一方、島状高まりの北西側では、最大11.2×6.3m～最小6.0×5.5m規模の水田区画が造成される。99－3区南側の水田区画区画は7.2×7.5m規模の水田が連続する。

出土遺物　96－4区、97－2区出土（第243・244図）の縄文土器１は刻目突帯文土器である。土師器２は甑である。土師器３・４は杯である。杯４は内面全体に墨が遺存する。須恵器５・６は壺である。壺５は高台部に打ち欠きが施されている。土師器７・８・９は甕である。土師器10・11は高台付杯である。

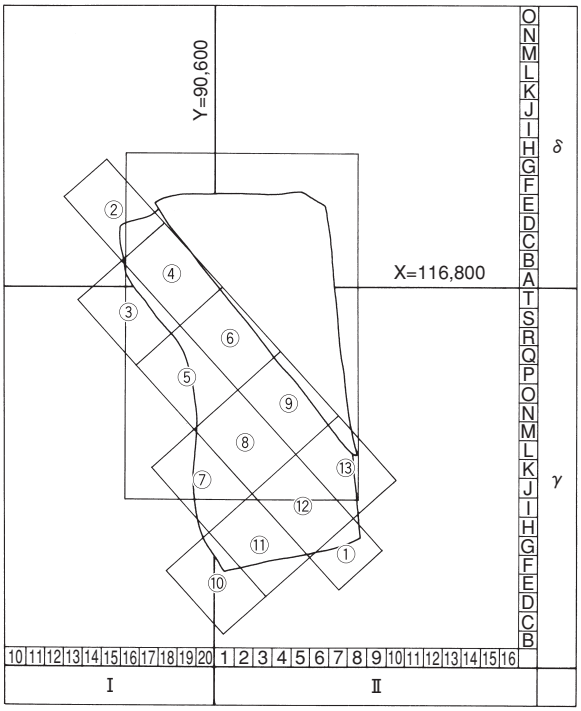


第226図　SD3002遺構平・断面図

第227図　SD3002遺物出土状況・出土遺物図

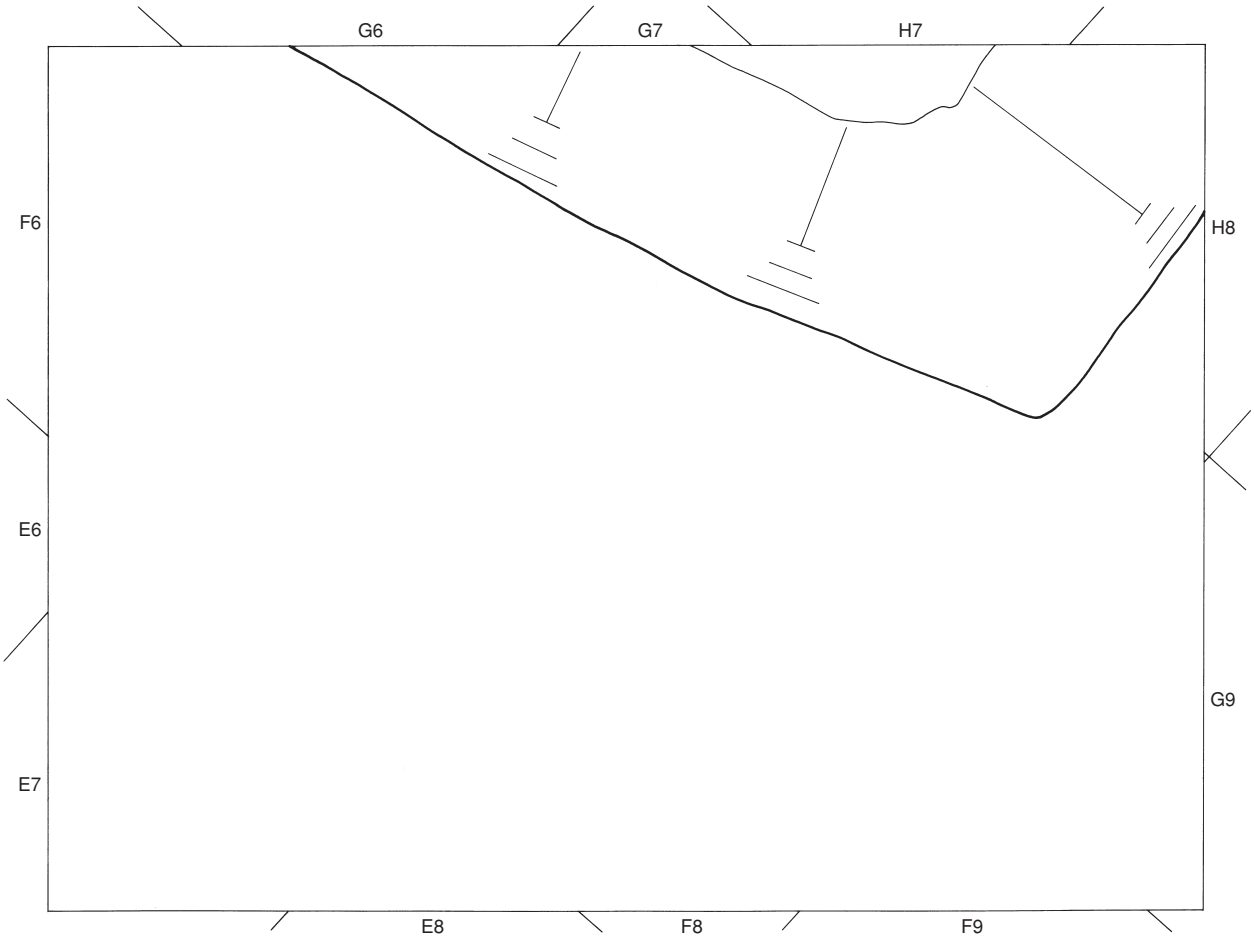


第228図　第３水田面遺構平面・遺物出土地点グリッド対応図(1)

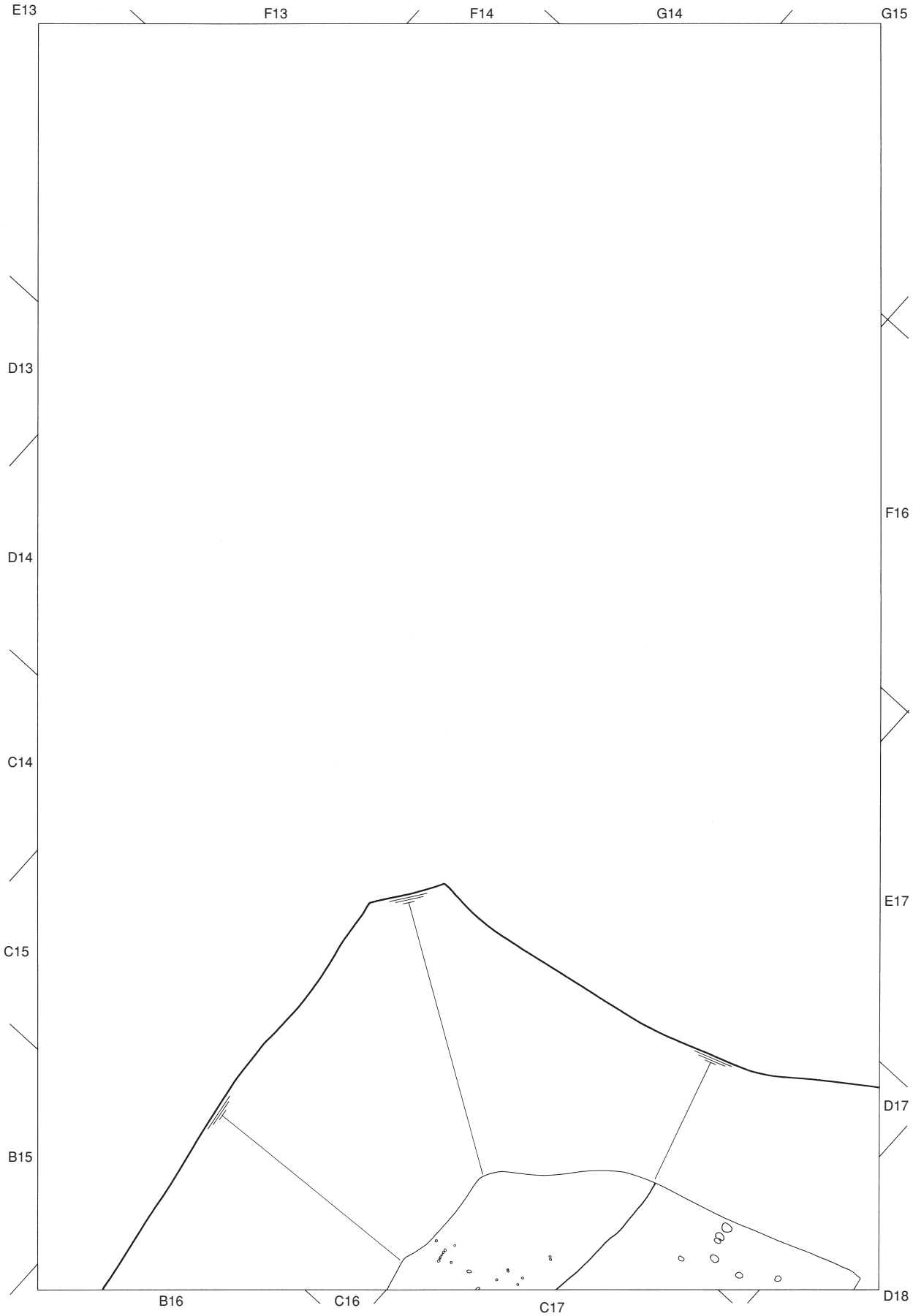


割付図の①～⑬までの番号は、第230図～第242図までに記載されているキャプションの数字と同じである

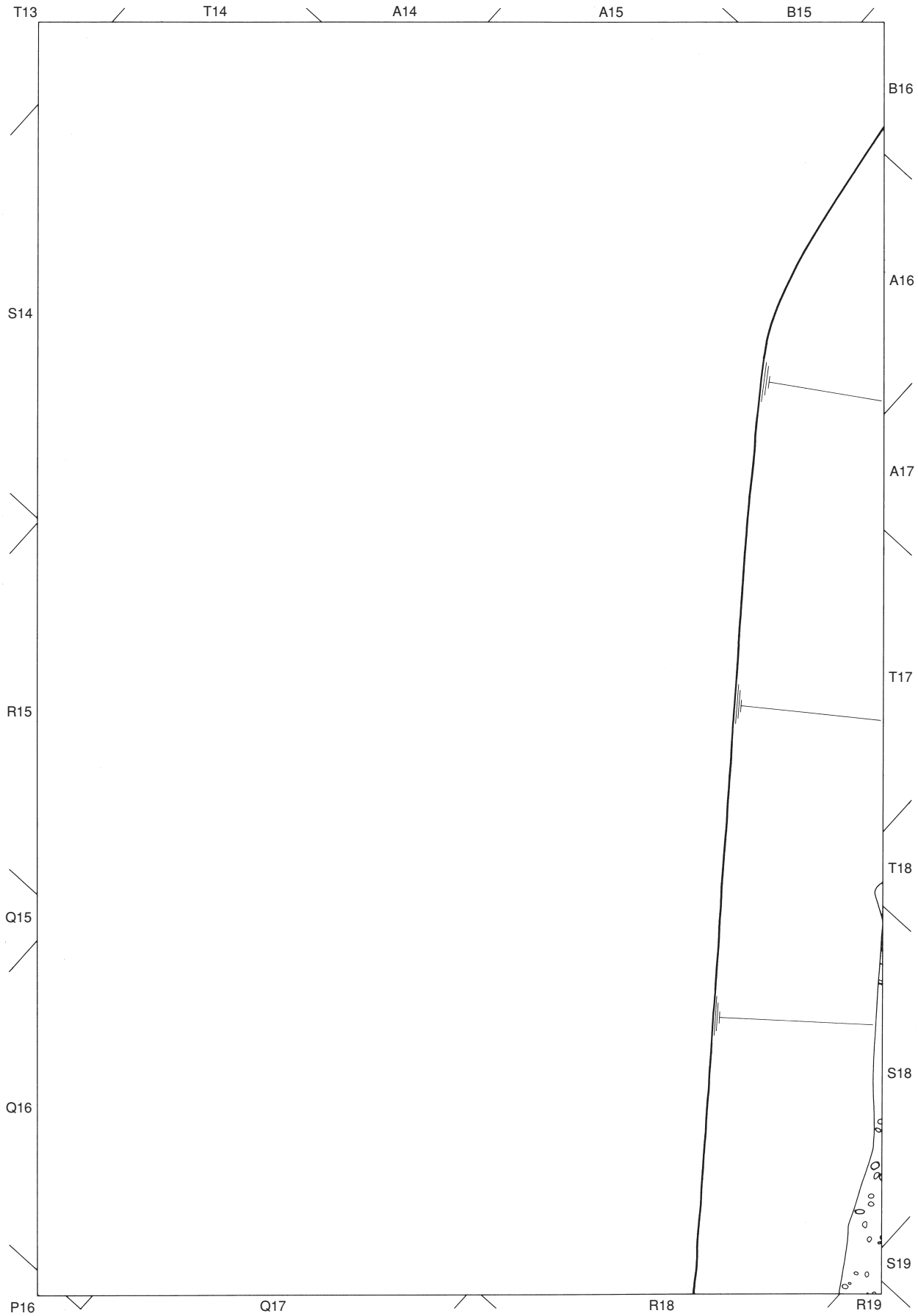
第229図　第３水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）



第230図　第３水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）

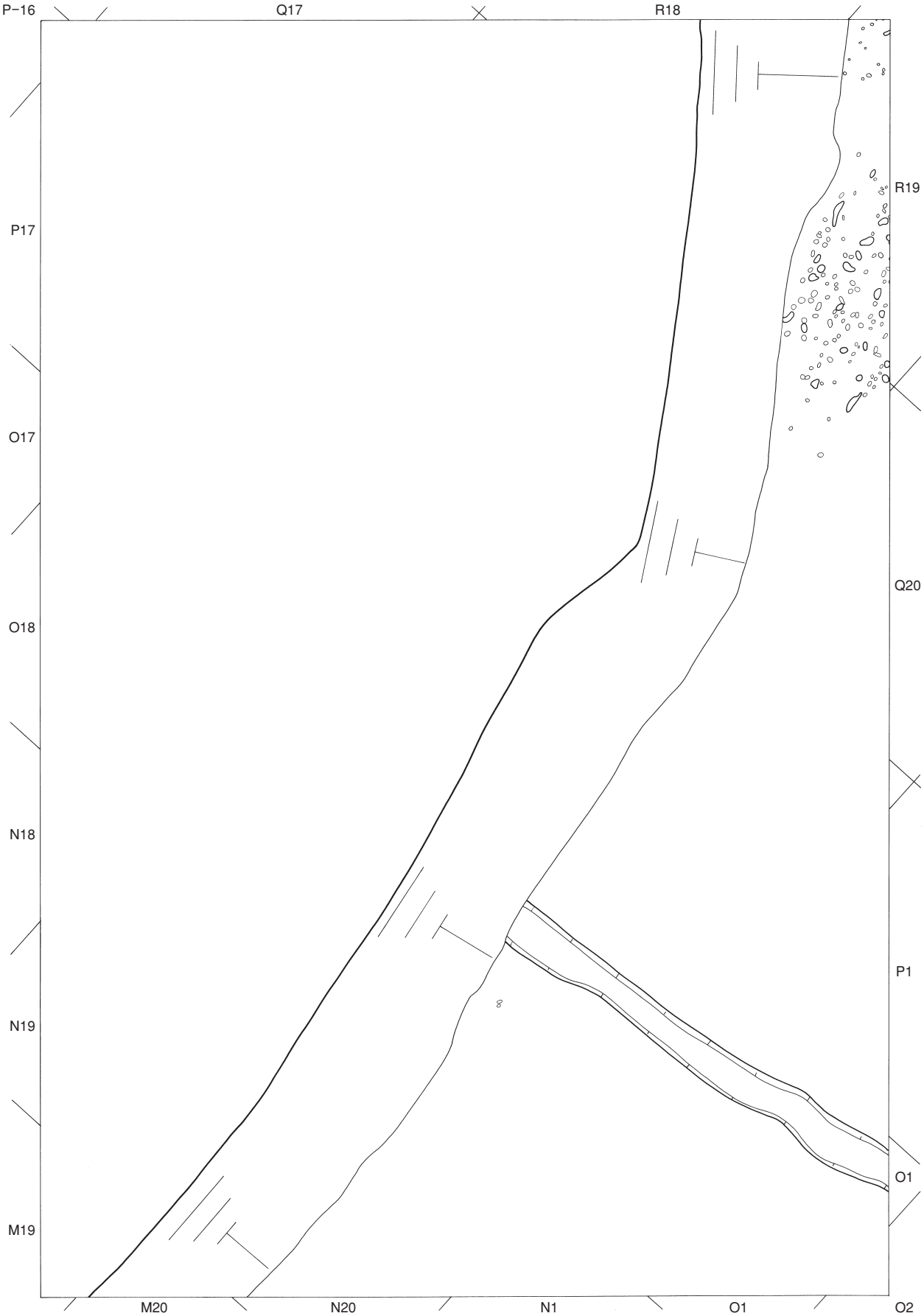


第231図　第３水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）

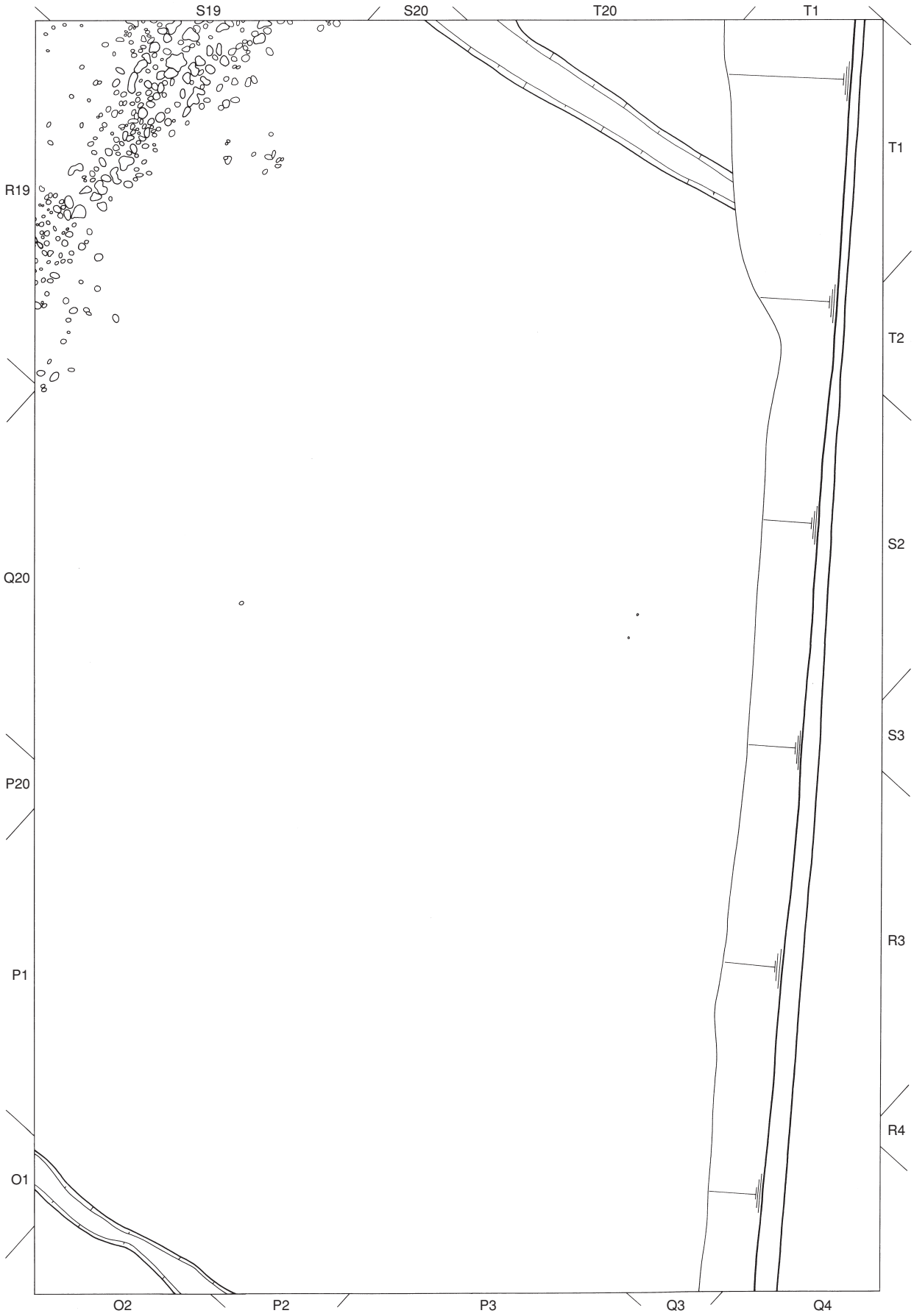


第232図　第３水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）

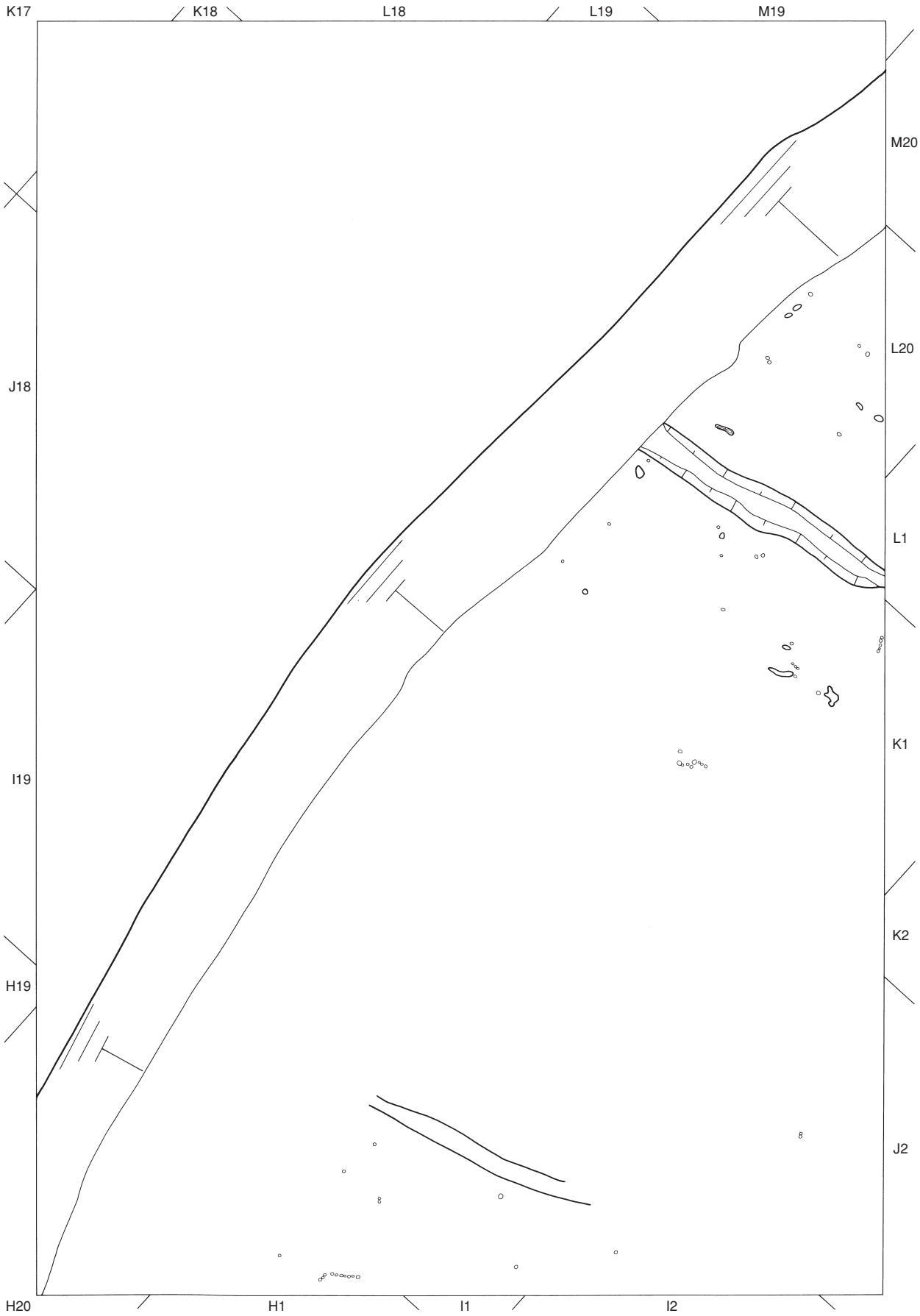
第233図　第３水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）



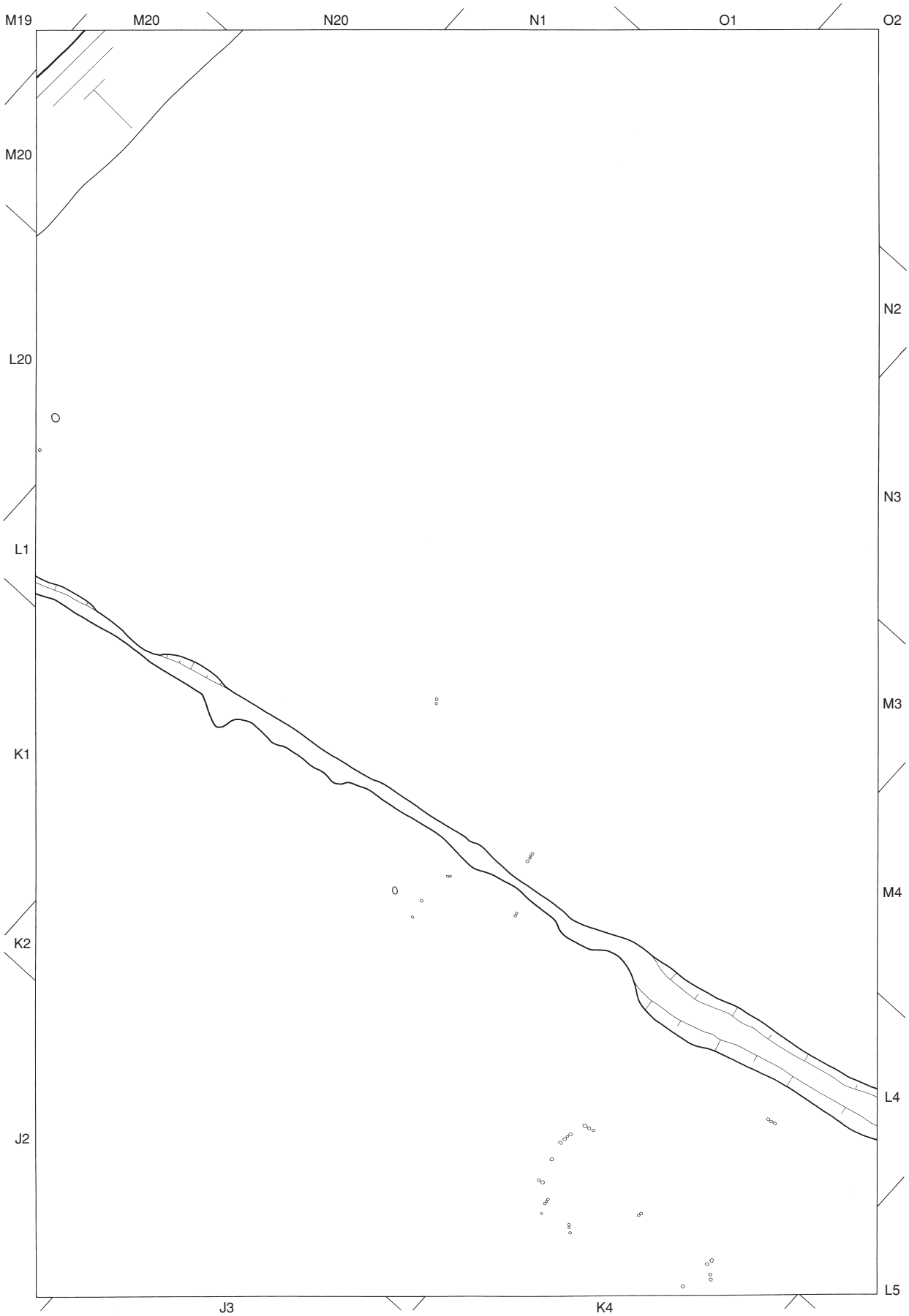
第234図　第３水田面遺構平面図(5)（S=1/100）



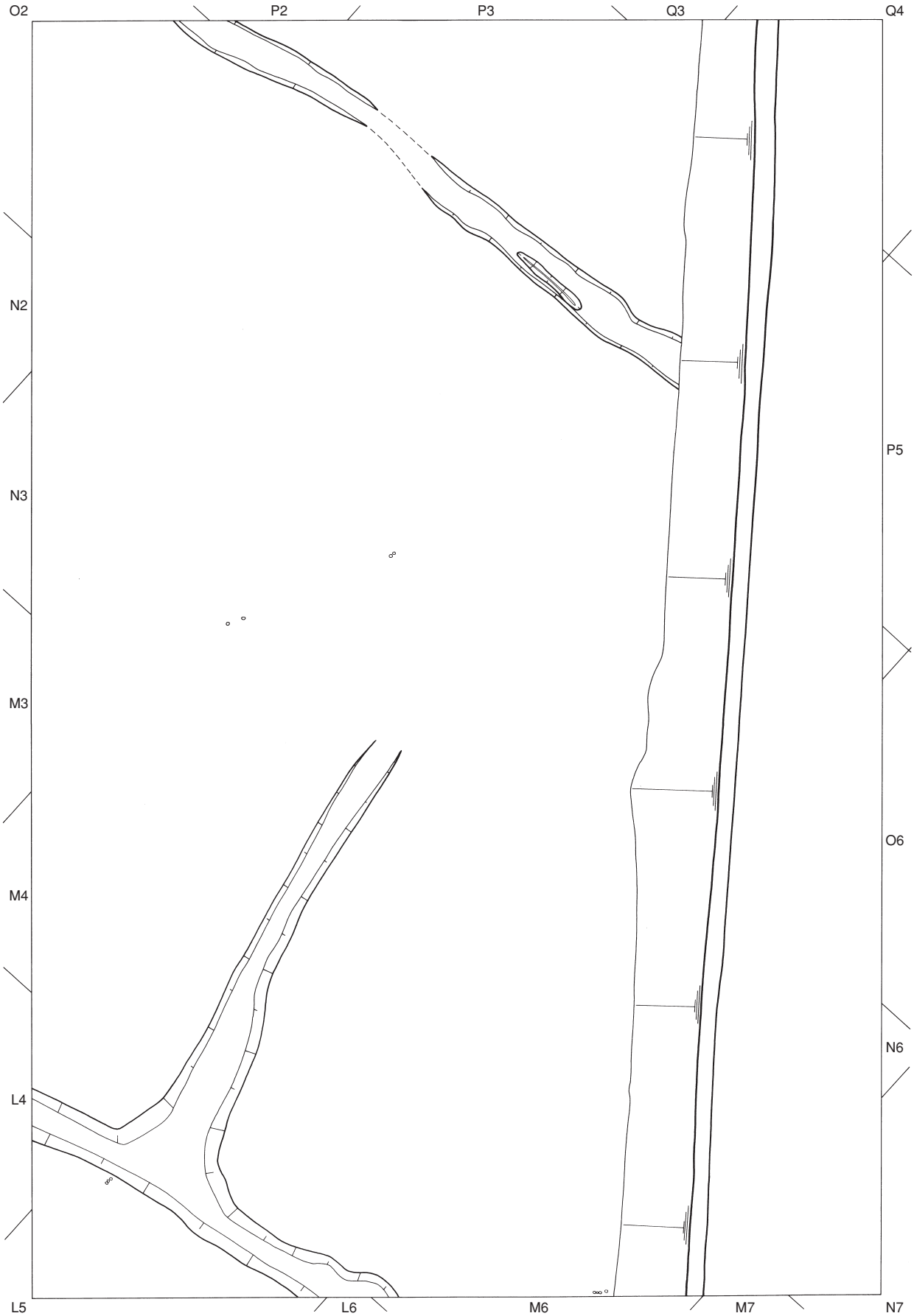
第235図　第３水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）



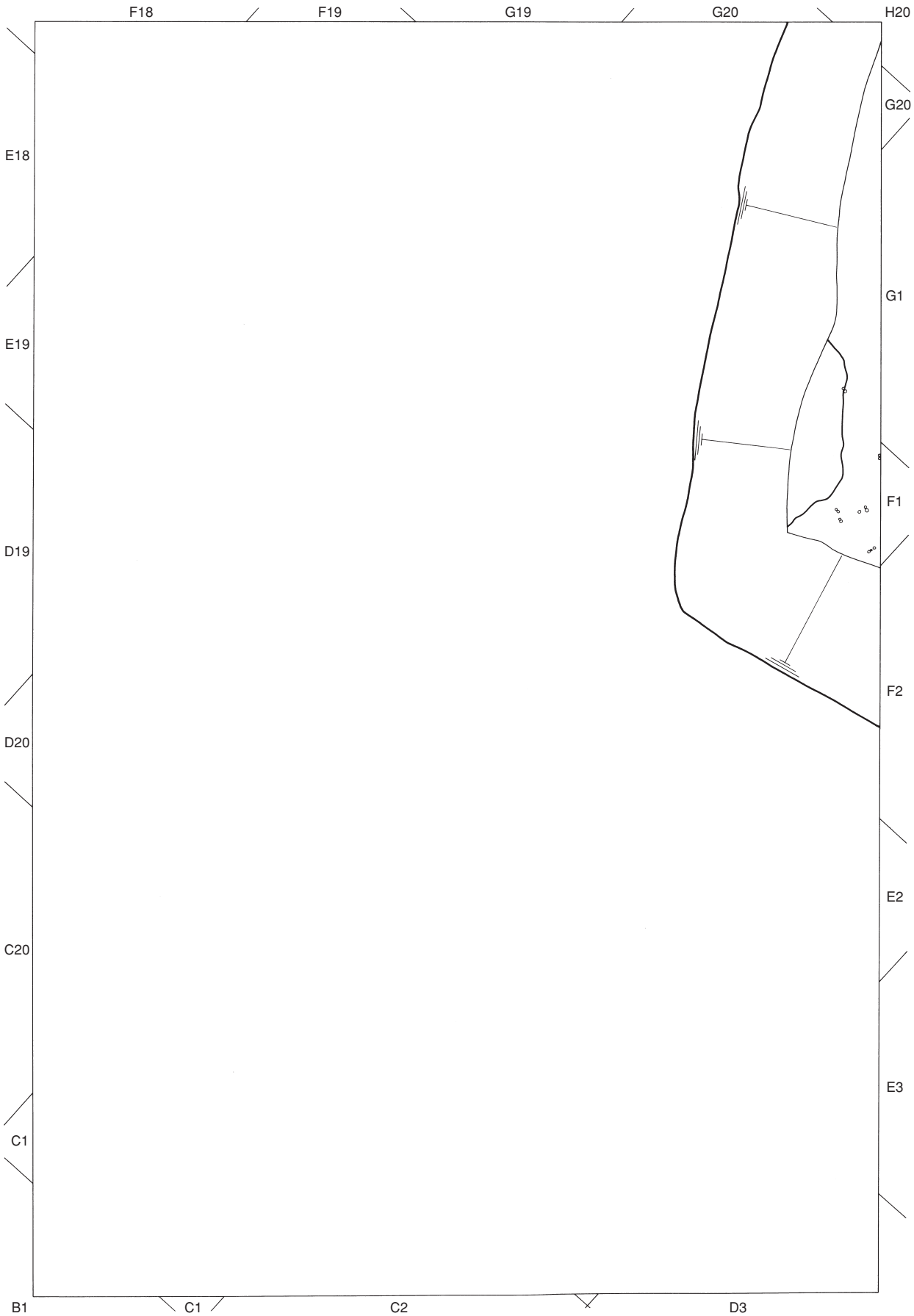
第236図　第３水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）



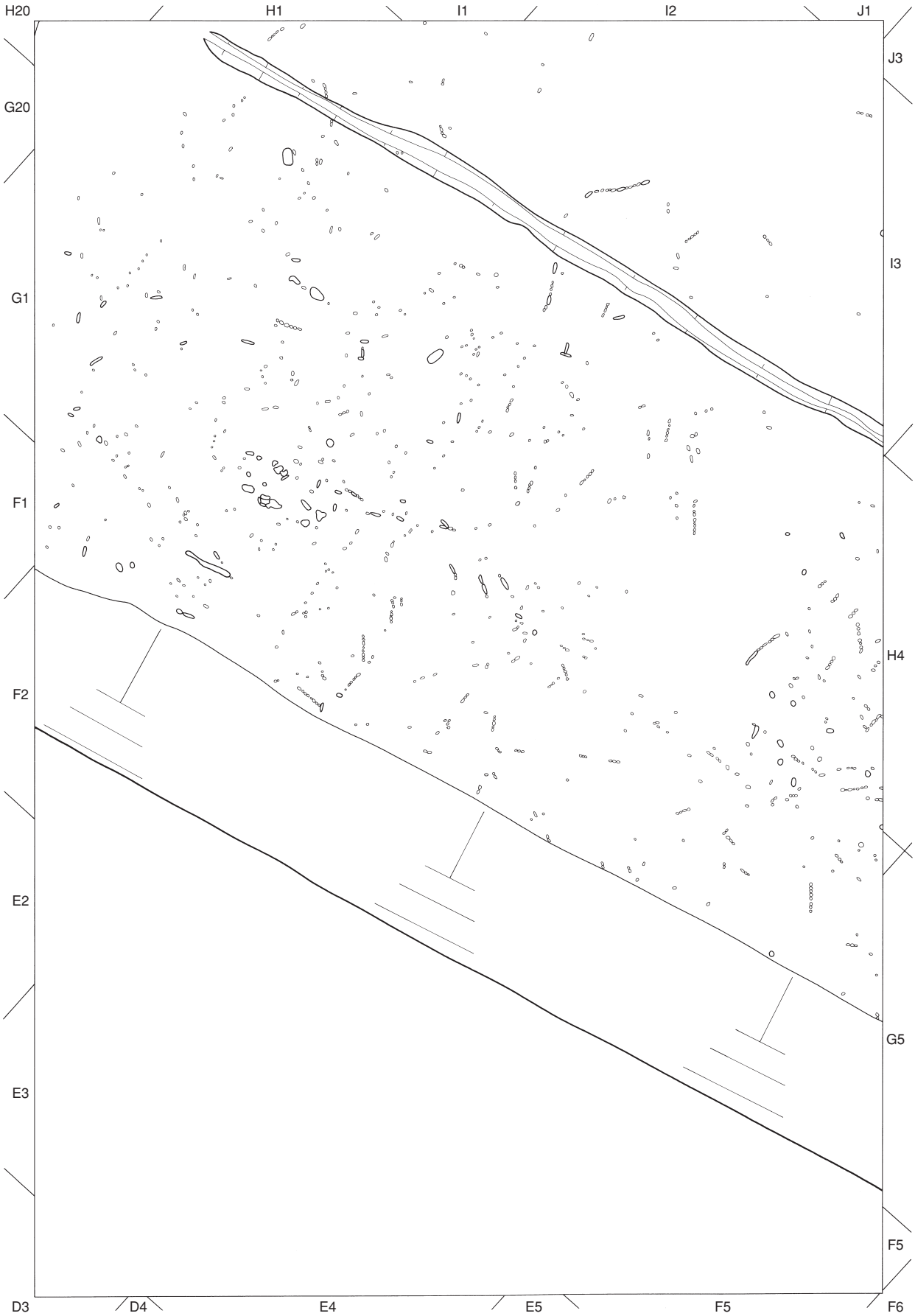
第237図　第３水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）



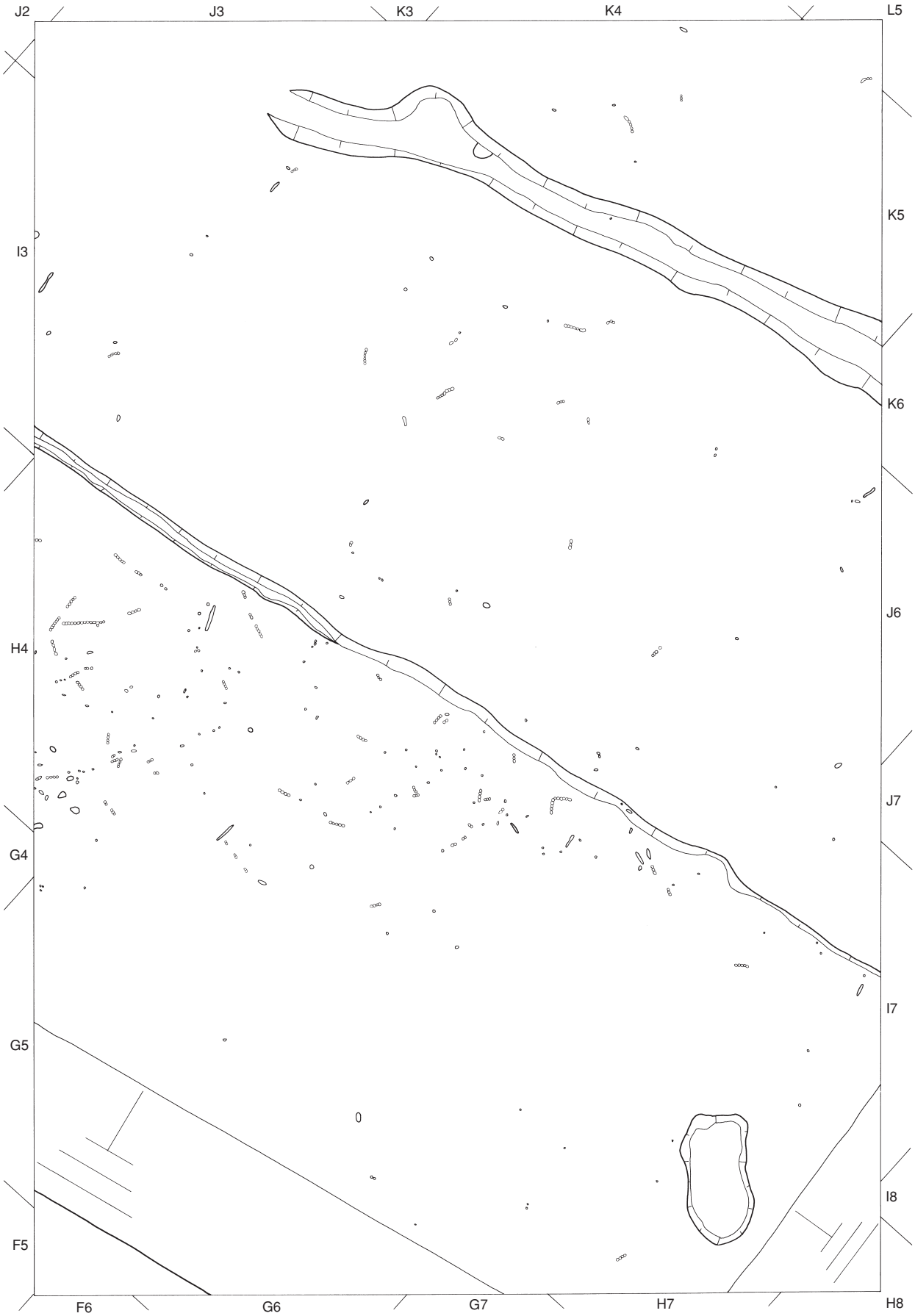
第238図　第３水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）



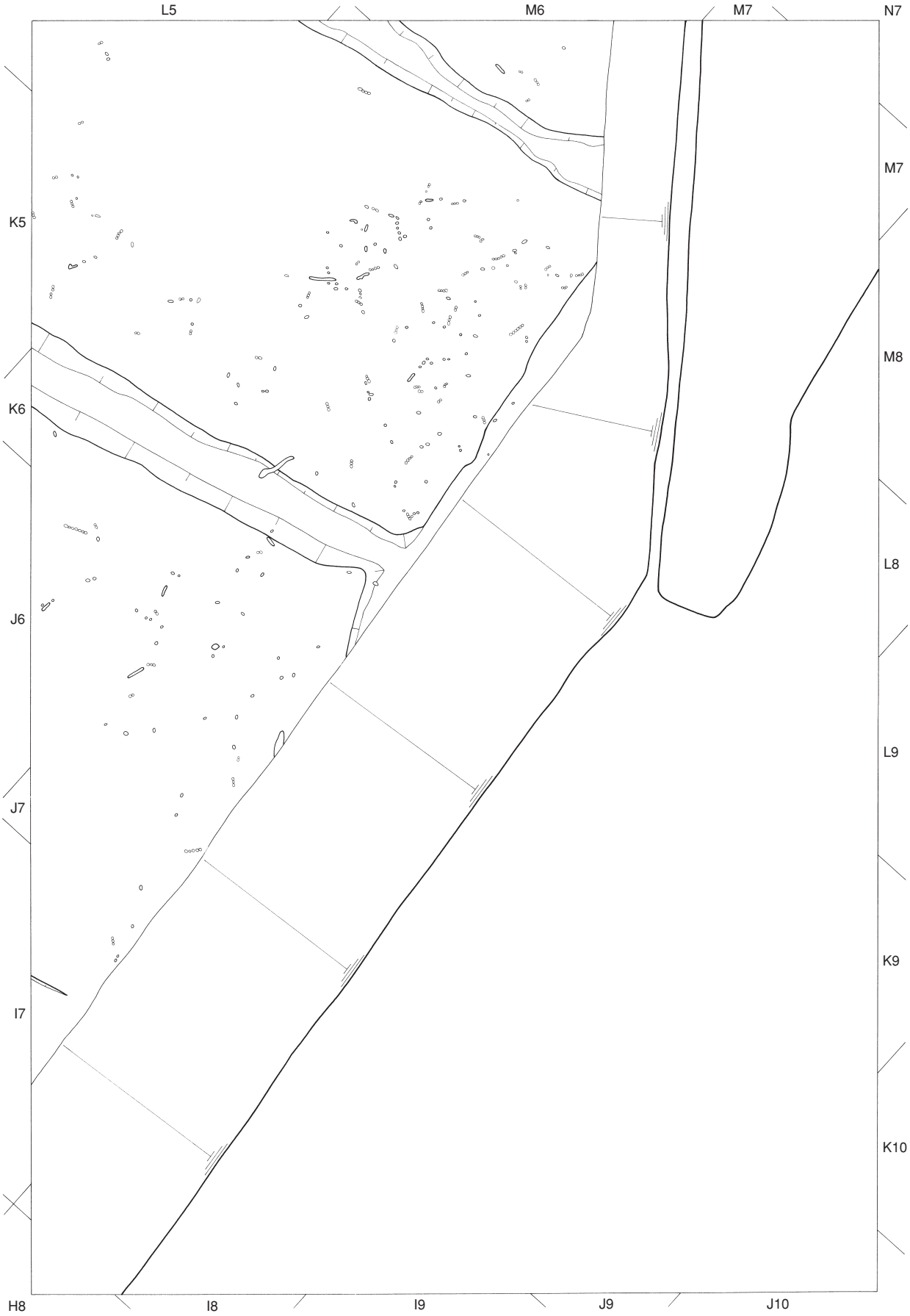
第239図　第３水田面遺構平面図⑽（S＝1/100）



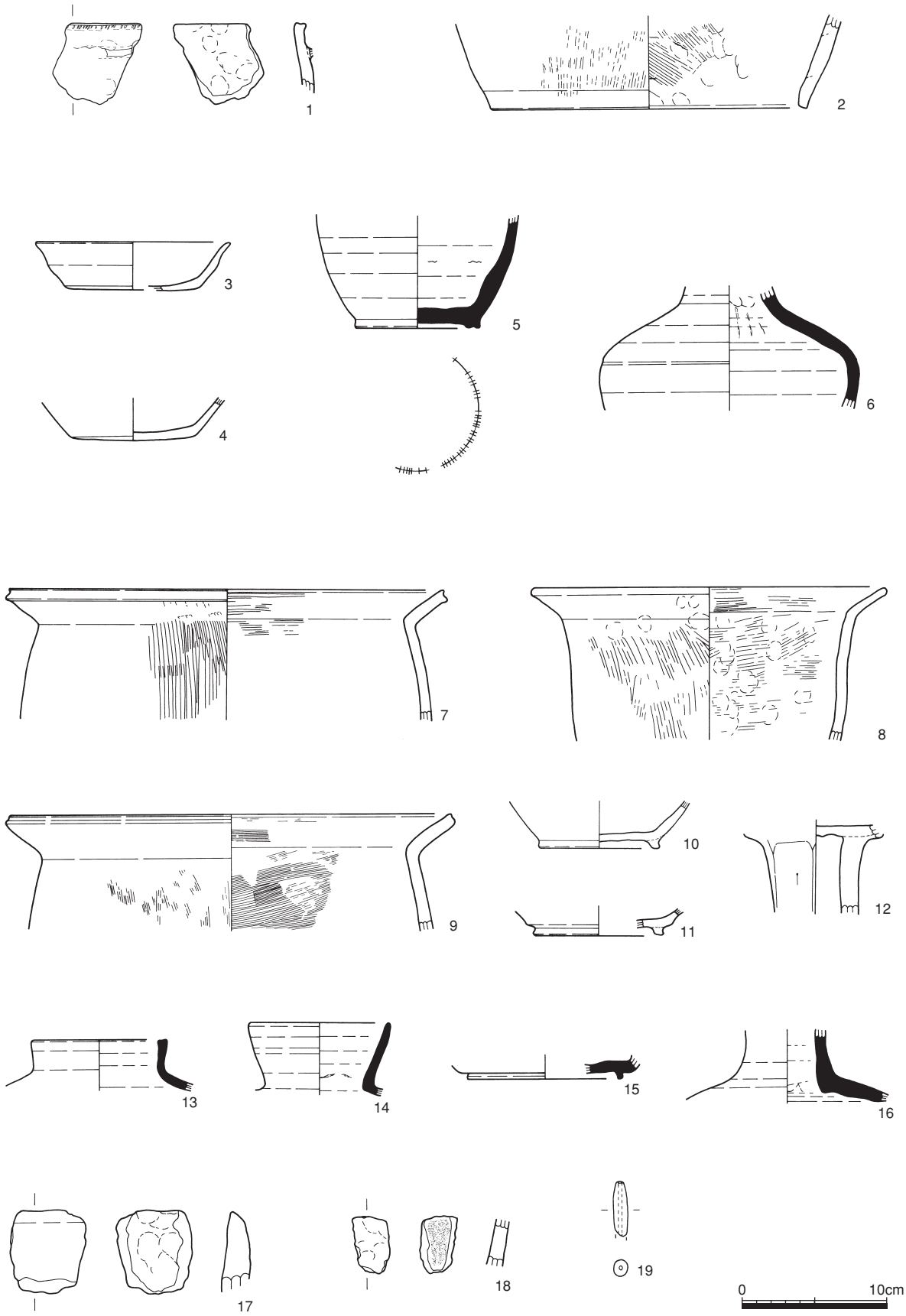
第240図　第３水田面遺構平面図⑾（S＝1/100）



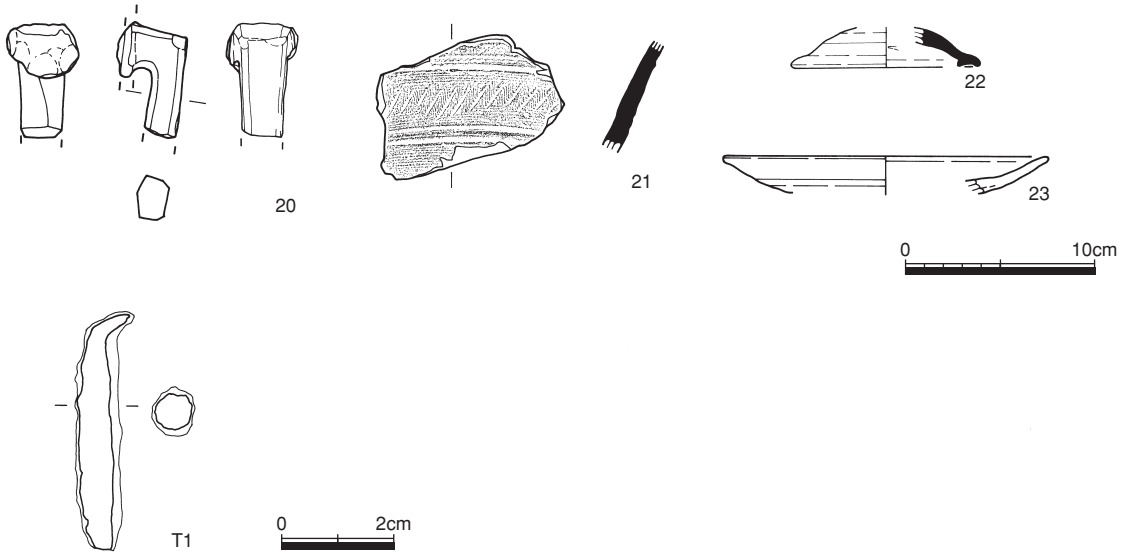
第241図　第３水田面遺構平面図⑫（S＝1/100）



第242図　第３水田面遺構平面図⒀（S＝1/100）



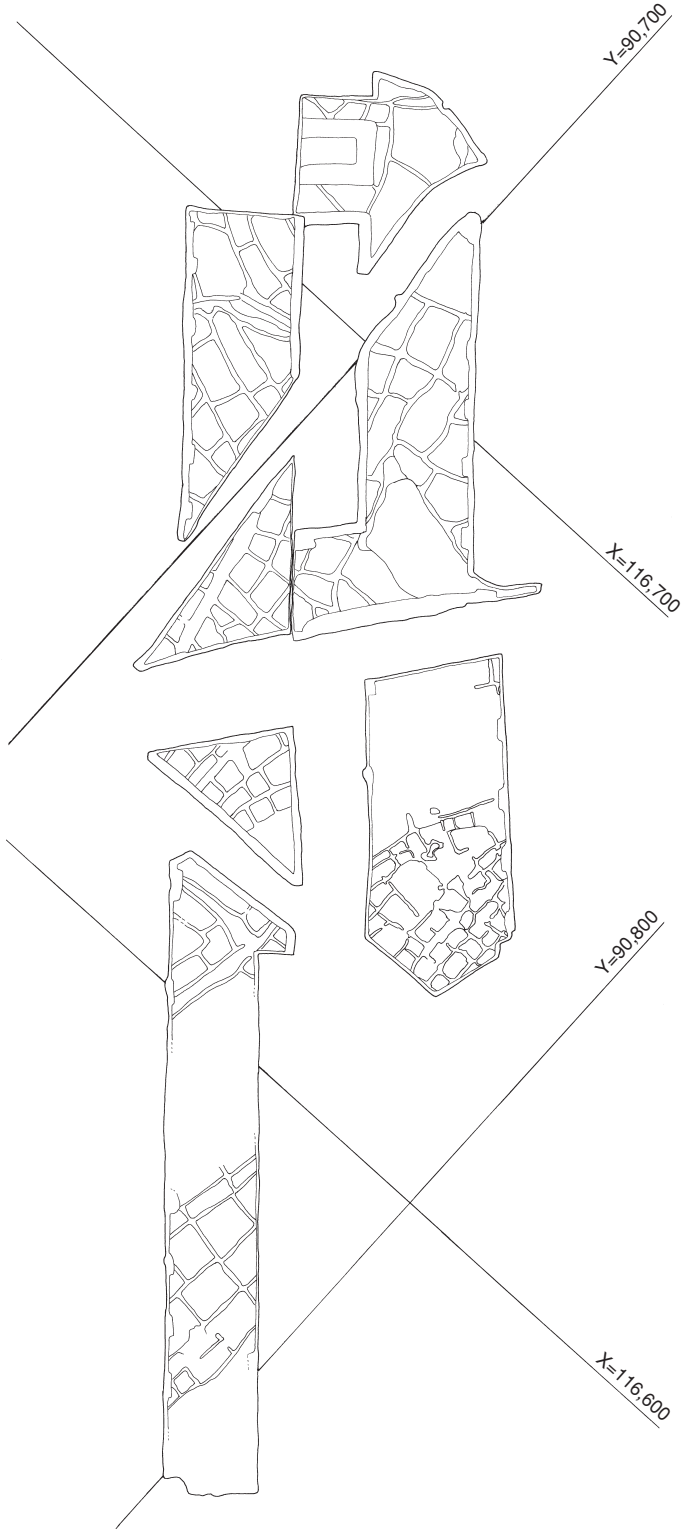
第243図　第３水田面出土遺物図(1)



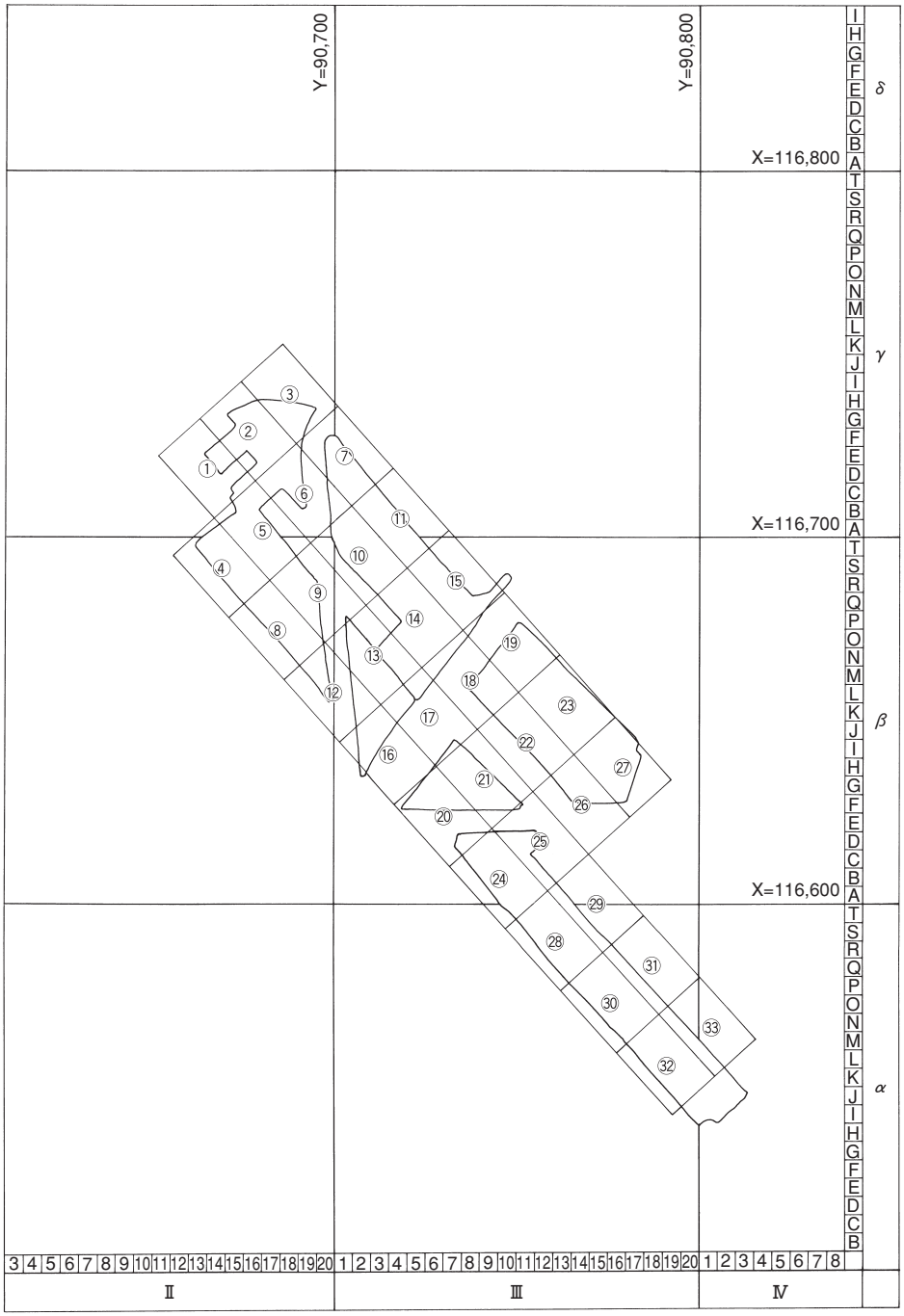
第244図　第３水田面出土遺物図(2)

土師器12は高杯である。須恵器13は短頸壺である。須恵器14・16は壺である。須恵器15は杯である。17は製塩土器である。19は管状土錘である。20は須恵器平瓶の把手、21は甕、22は杯蓋である。土師器23は皿である。内外面に赤色顔料が塗布されている。鉄製品Ｔ１は鎹である。

98－4区～98－7区・99－1～3区出土（第285～289図）の土師器１は蓋である。内外面に赤色顔料が塗布されている。２は椀、３は盤である。４は黒色土器椀、５は瓦器椀である。６～10は須恵器で、６は杯身で、口縁端部には打ち欠きが施されているもの。７はハソウである。８・９・10は壺である。11は白磁碗である。12・13は土師器高台付皿である。13は内外面に赤色顔料が塗布されている。内面には暗文が施されている。14は製塩土器である。15は土師器把手付鍋の把手部、16は管状土錘である。17は平瓦である。18～21は須恵器で、18は壺、19は蓋、20・21は高杯である。22は白磁碗である。23～29は土師器杯である。杯25・27は内外面に赤色顔料を塗布している。30～32は土師器皿、33～35は椀である。椀35は内面に焦げが付着する。須恵器36は壺である。外面に被熱赤変が、内面には黒色の付着物が観察される。37はこね鉢、38は杯である。底部外面にヘラ記号が施されている。須恵器39は円面硯である。40は緑釉陶器椀である。41は鈴型土製品、42～44は管状土錘である。45は製塩土器である。46・47は平瓦である。Ｔ１は刀子である。Ｓ１は結晶片岩製敲石である。一部に磨面が観察される。Ｓ２は砂質片岩敲石、Ｓ３は粘板岩製砥石である。鉄製刃器による擦痕が観察される。Ｓ４は砂質片岩製砥石である。Ｓ５は閃緑岩製磨製石斧を砥石に転用したものである。

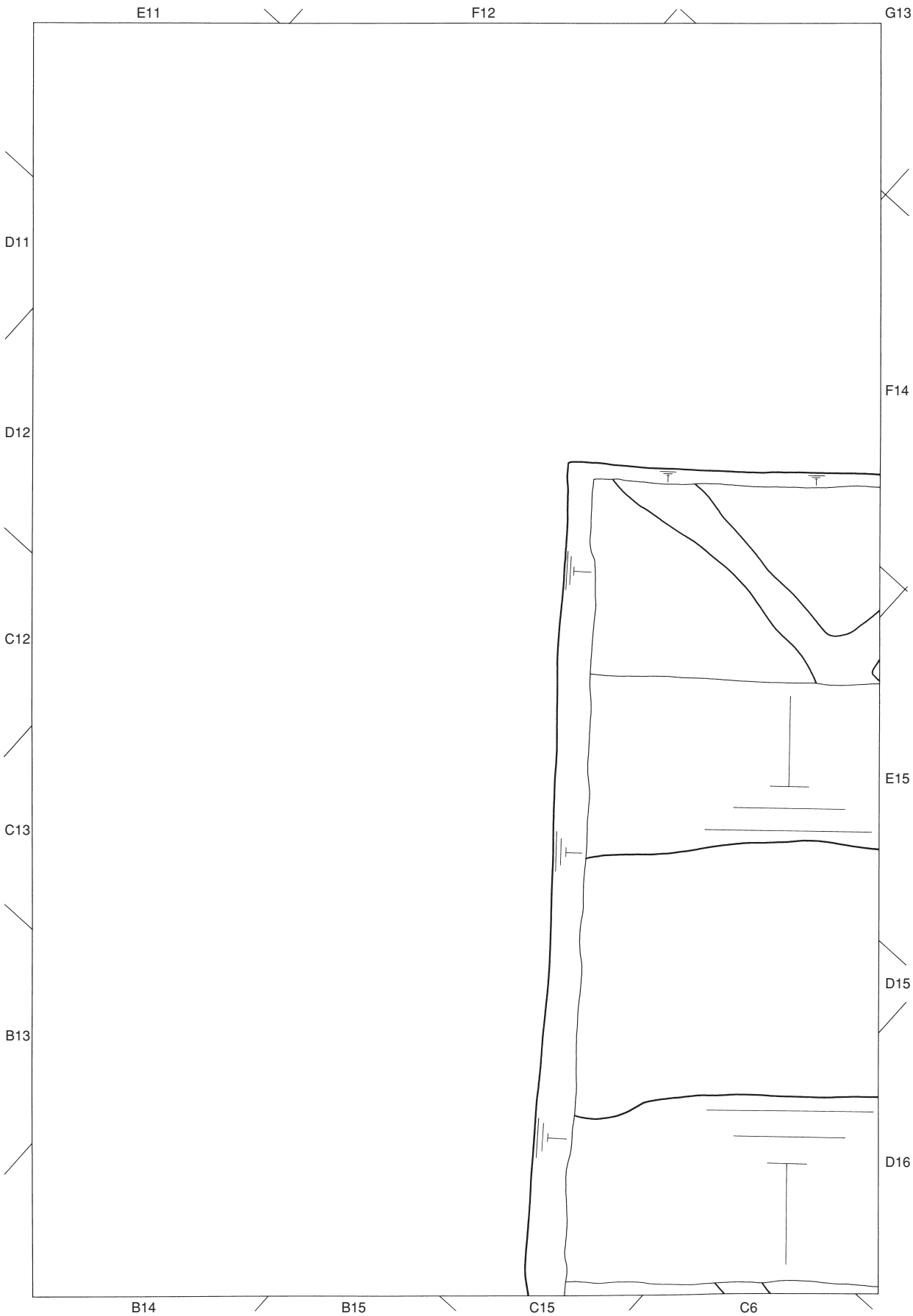


第245図　第３水田面遺構配置図（S＝1/1250）

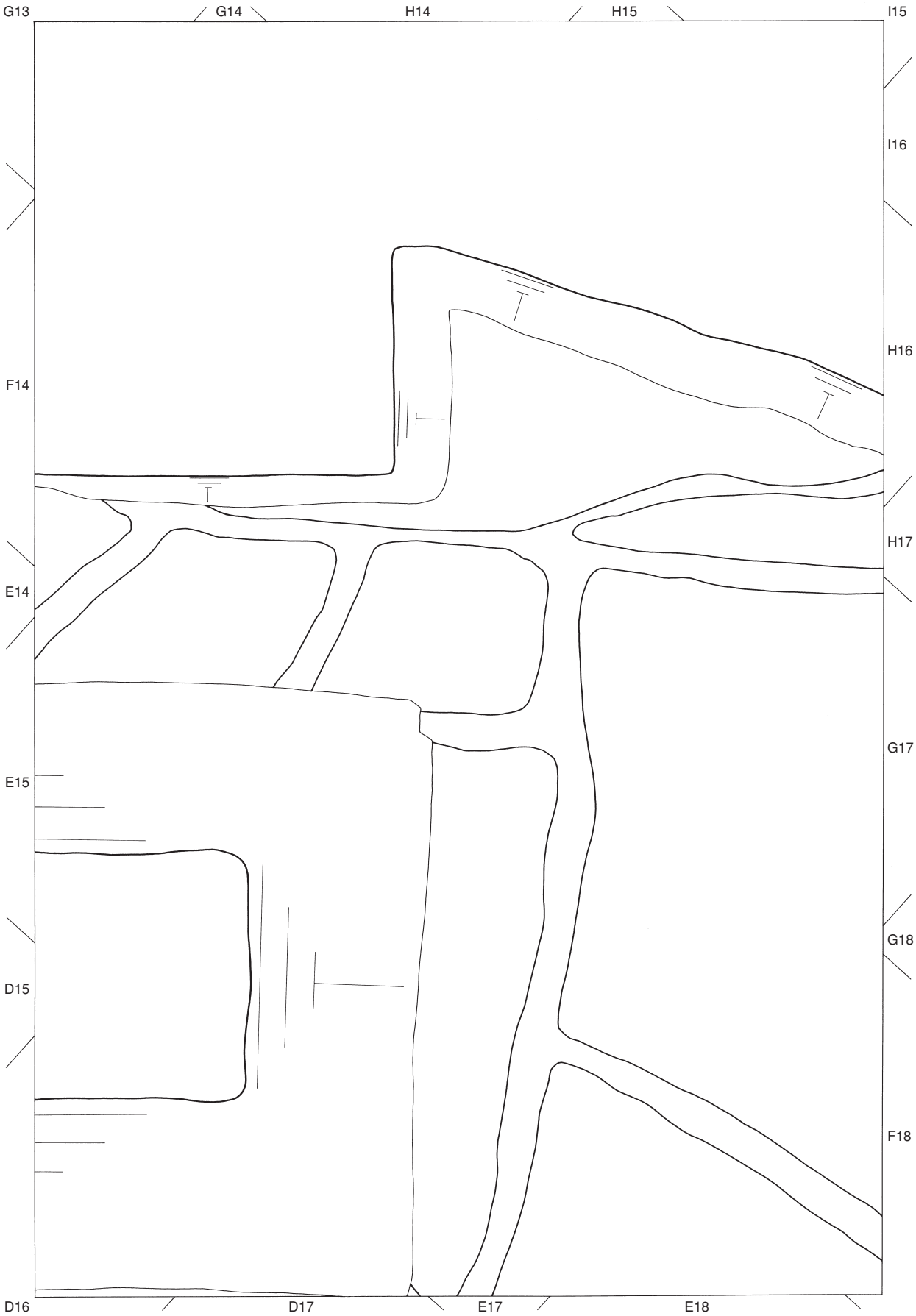


割付図の①～㉝までの番号は、第247図～第279図までに
記載されているキャプションの数字と同じである

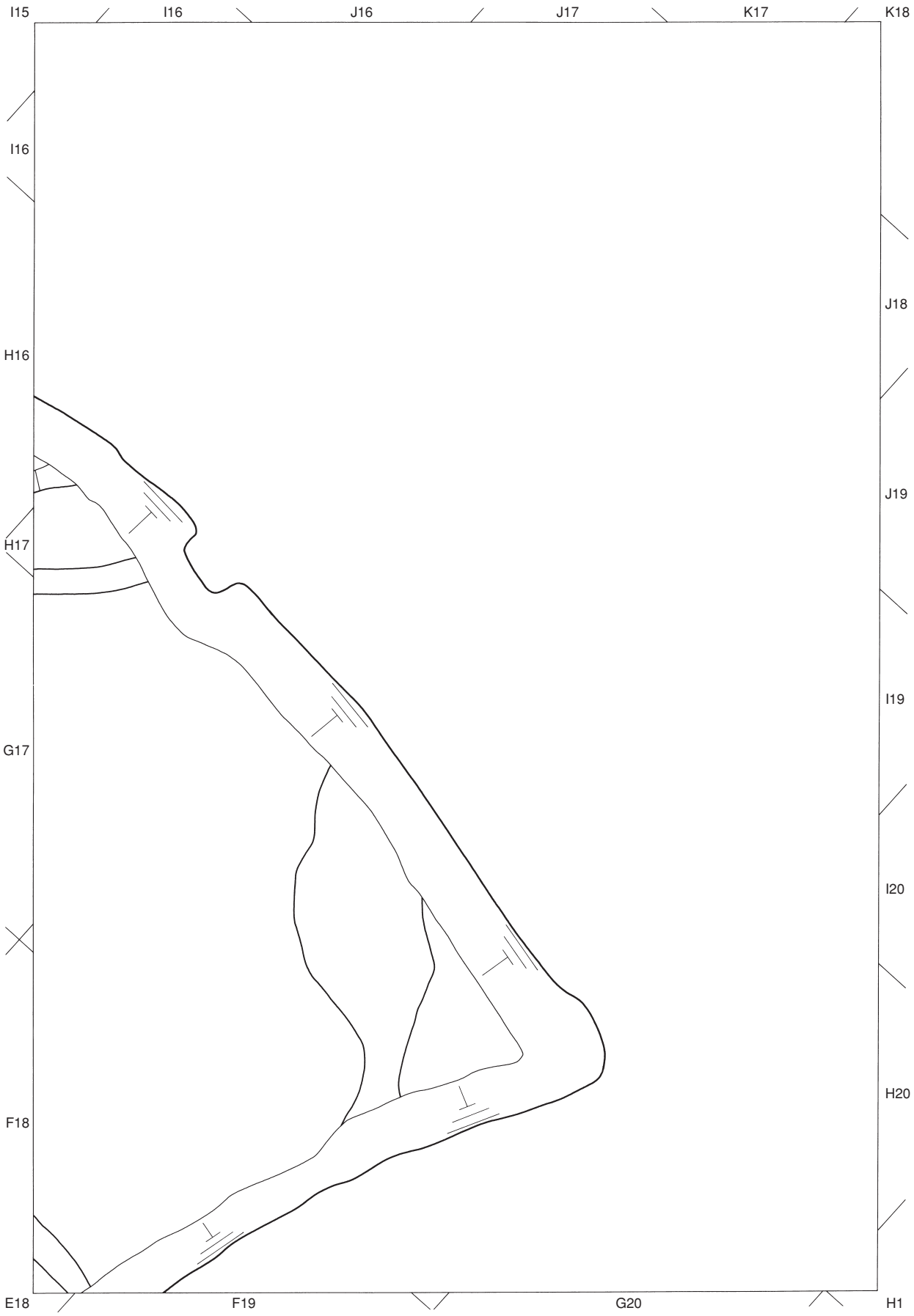
第246図　第３水田面遺構平面図割付図（S＝1/2000）



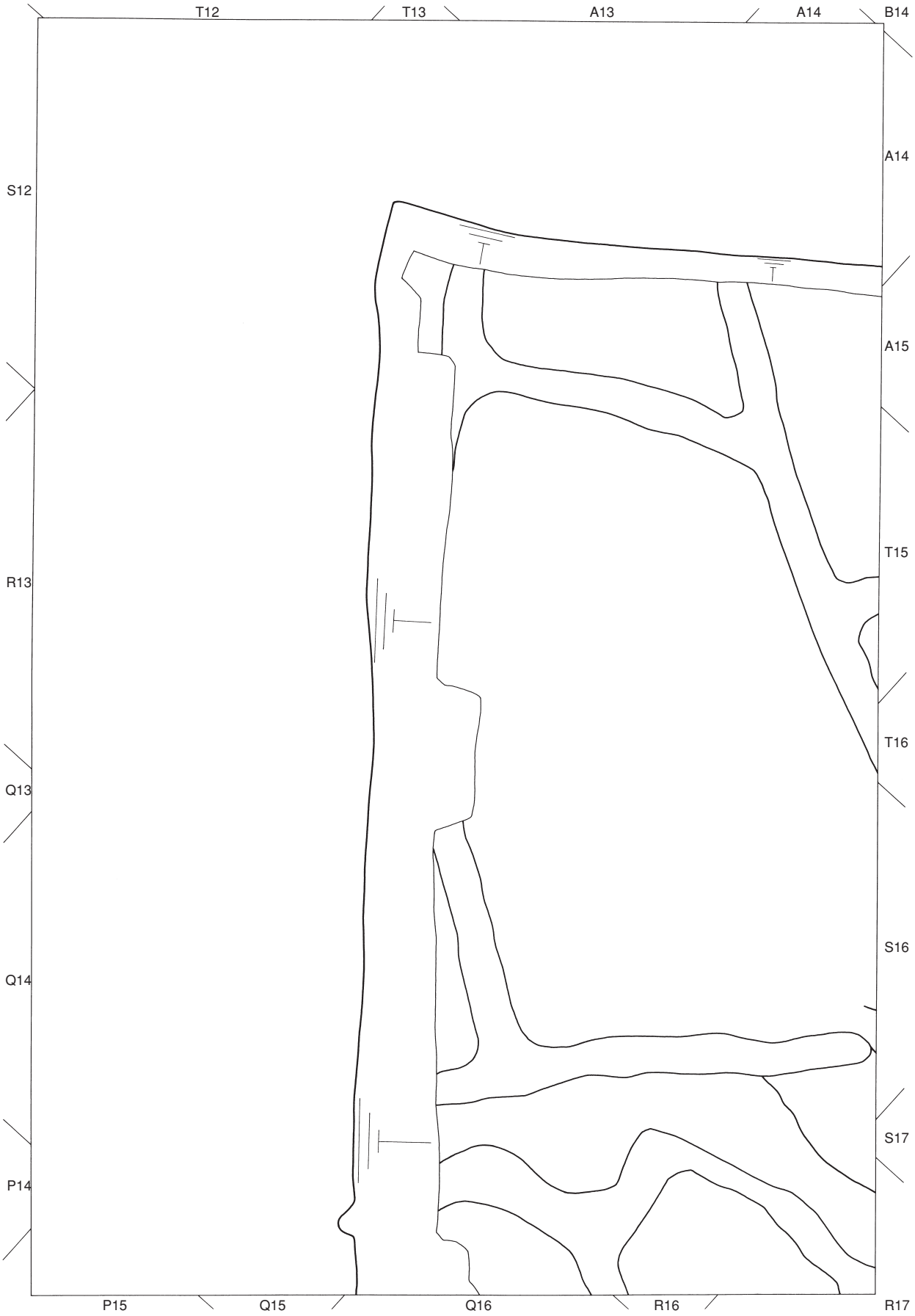
第247図　第３水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



第248図　第３水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）

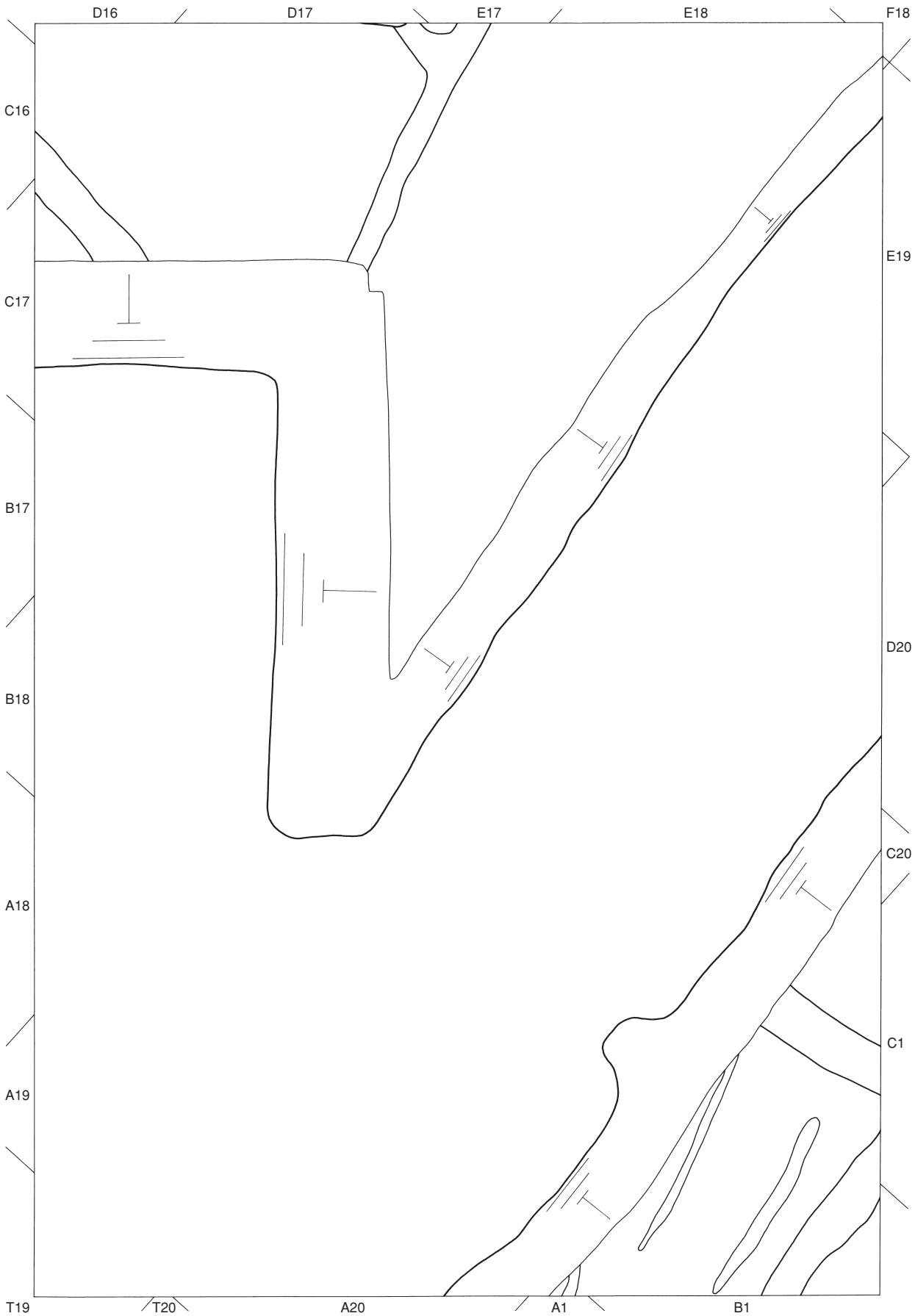


第249図　第３水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）

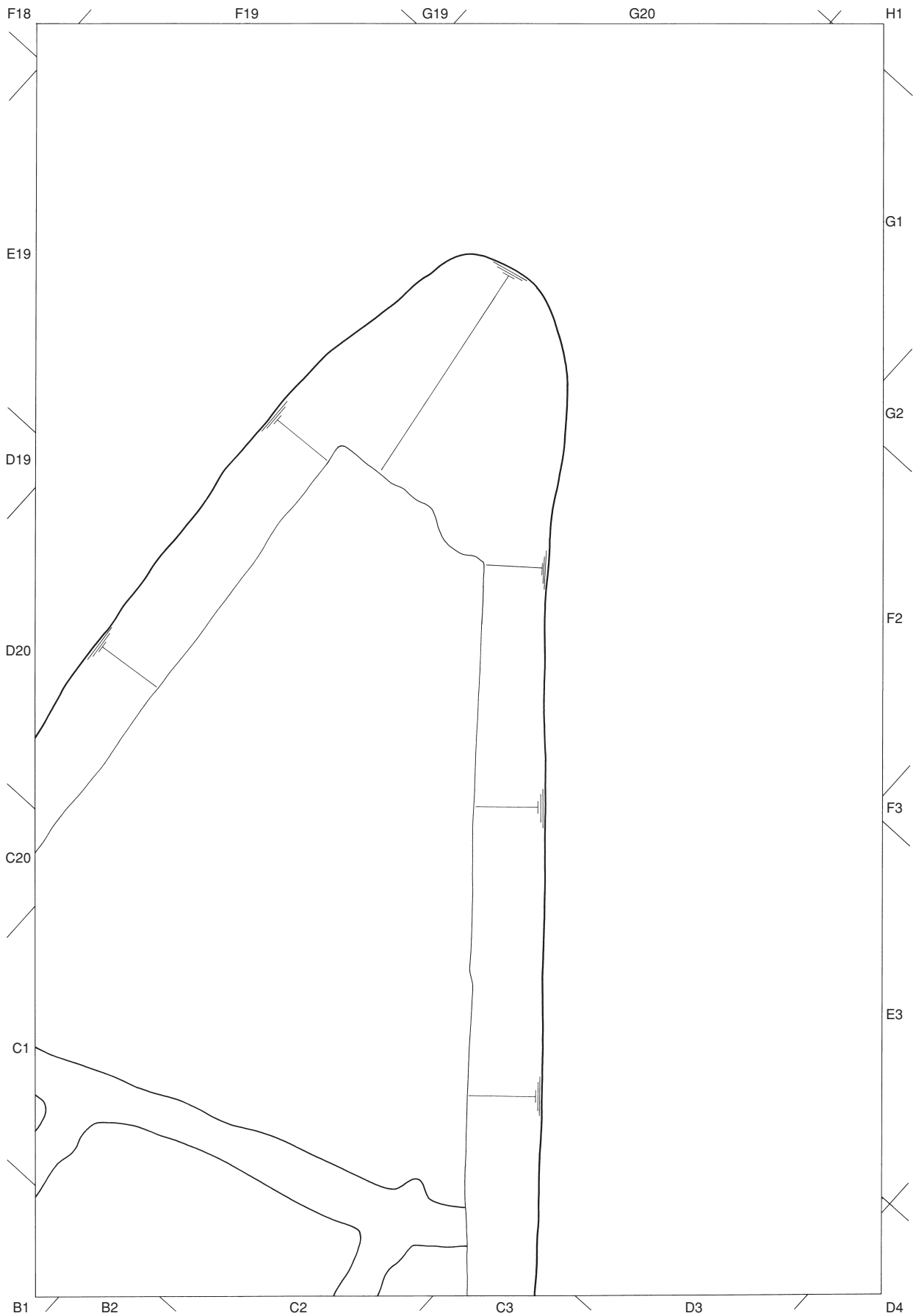


第250図　第３水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）

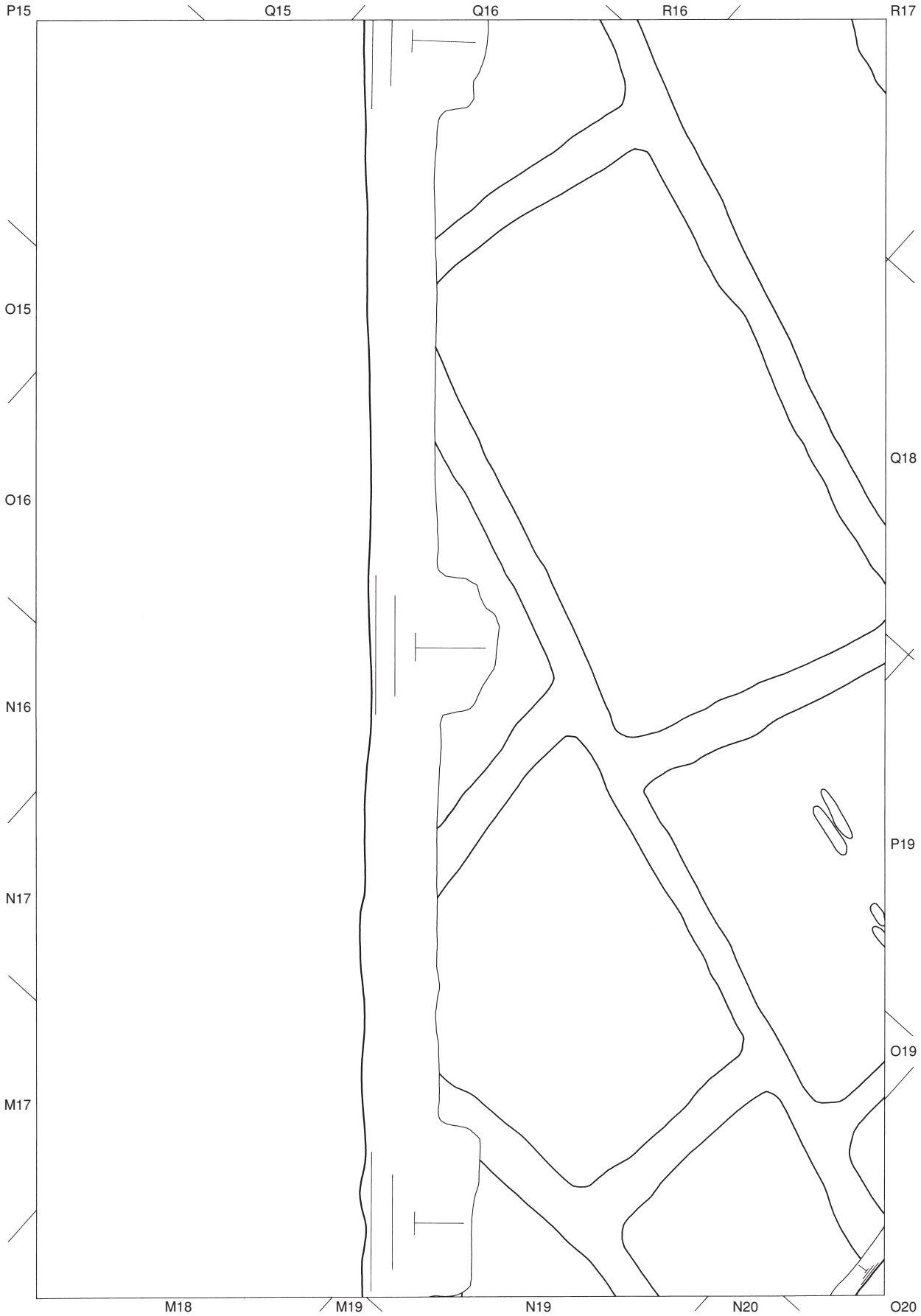
第251図　第３水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）



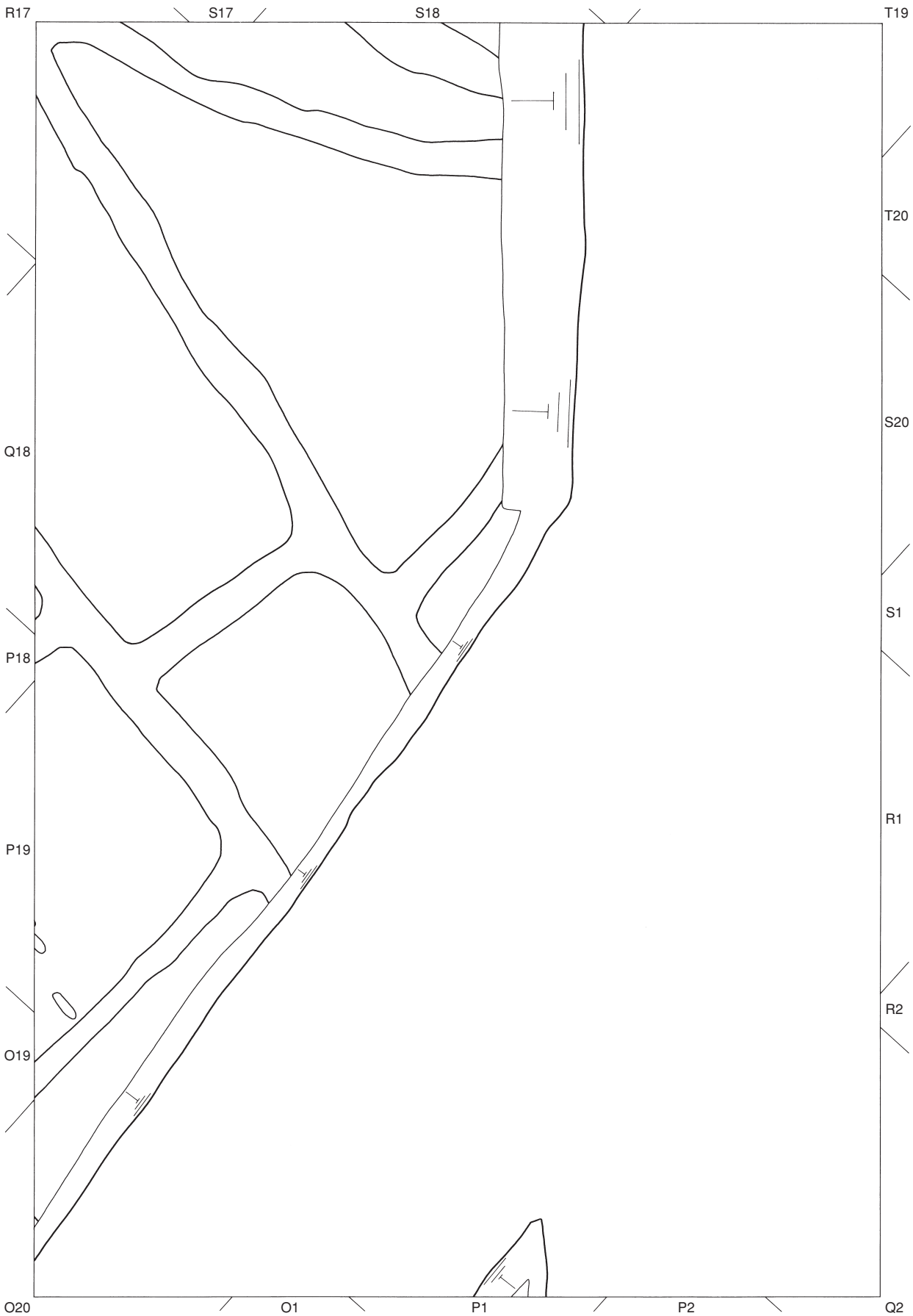
第252図　第３水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）



第253図　第３水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）



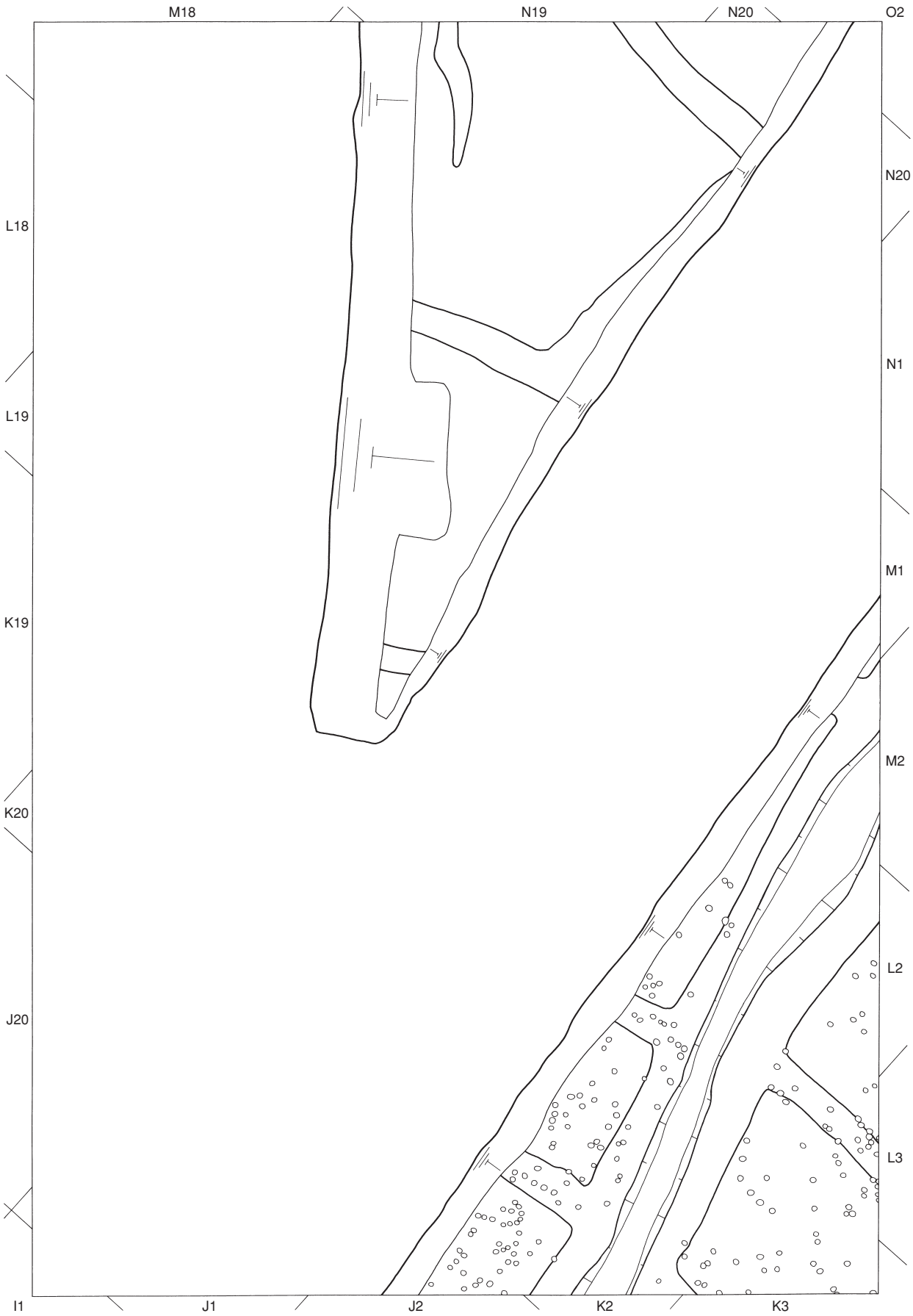
第254図　第３水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）



第255図　第３水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）

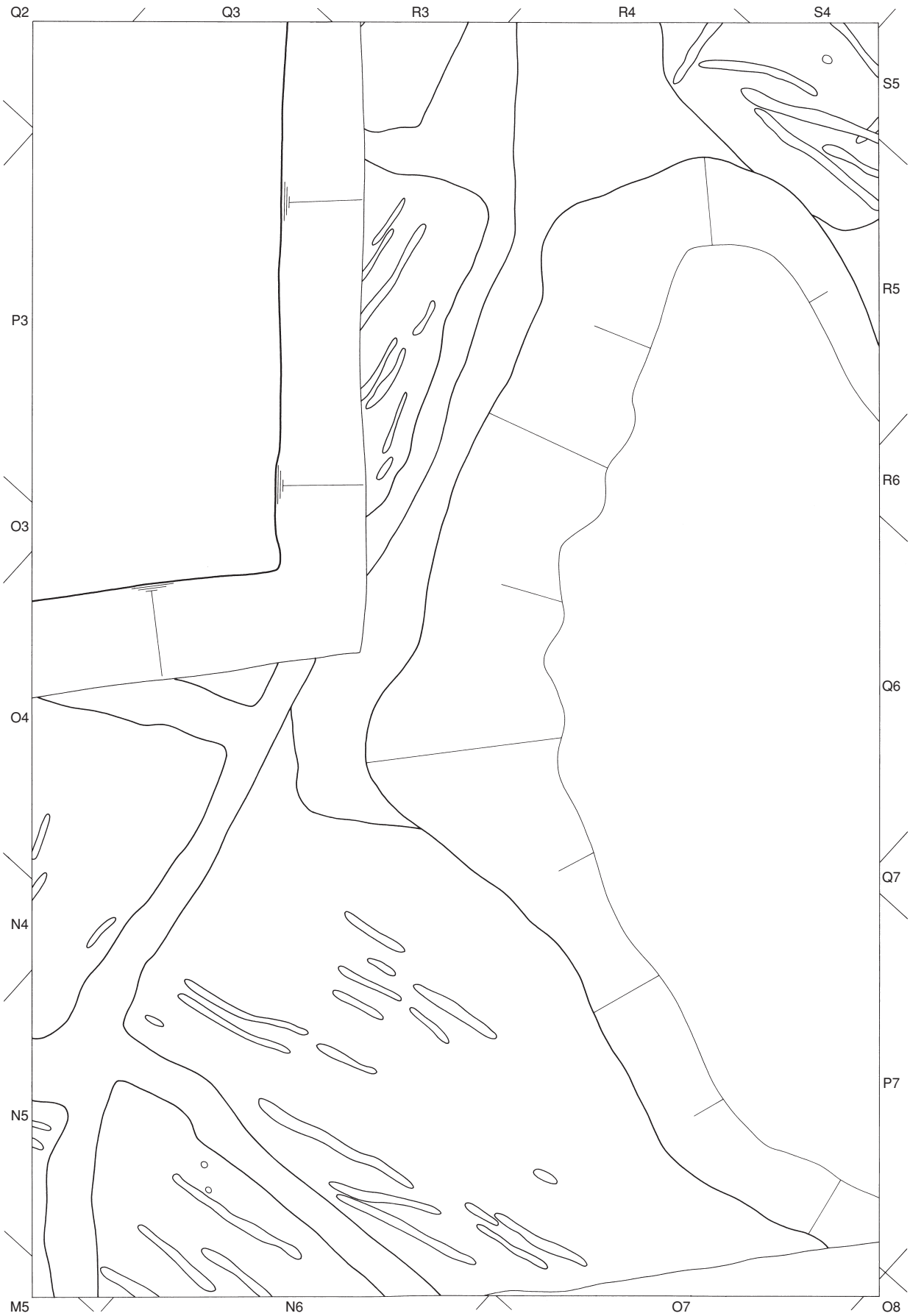
第256図　第３水田面遺構平面図⑽（S＝1/100）

第257図　第３水田面遺構平面図⑾（S＝1/100）



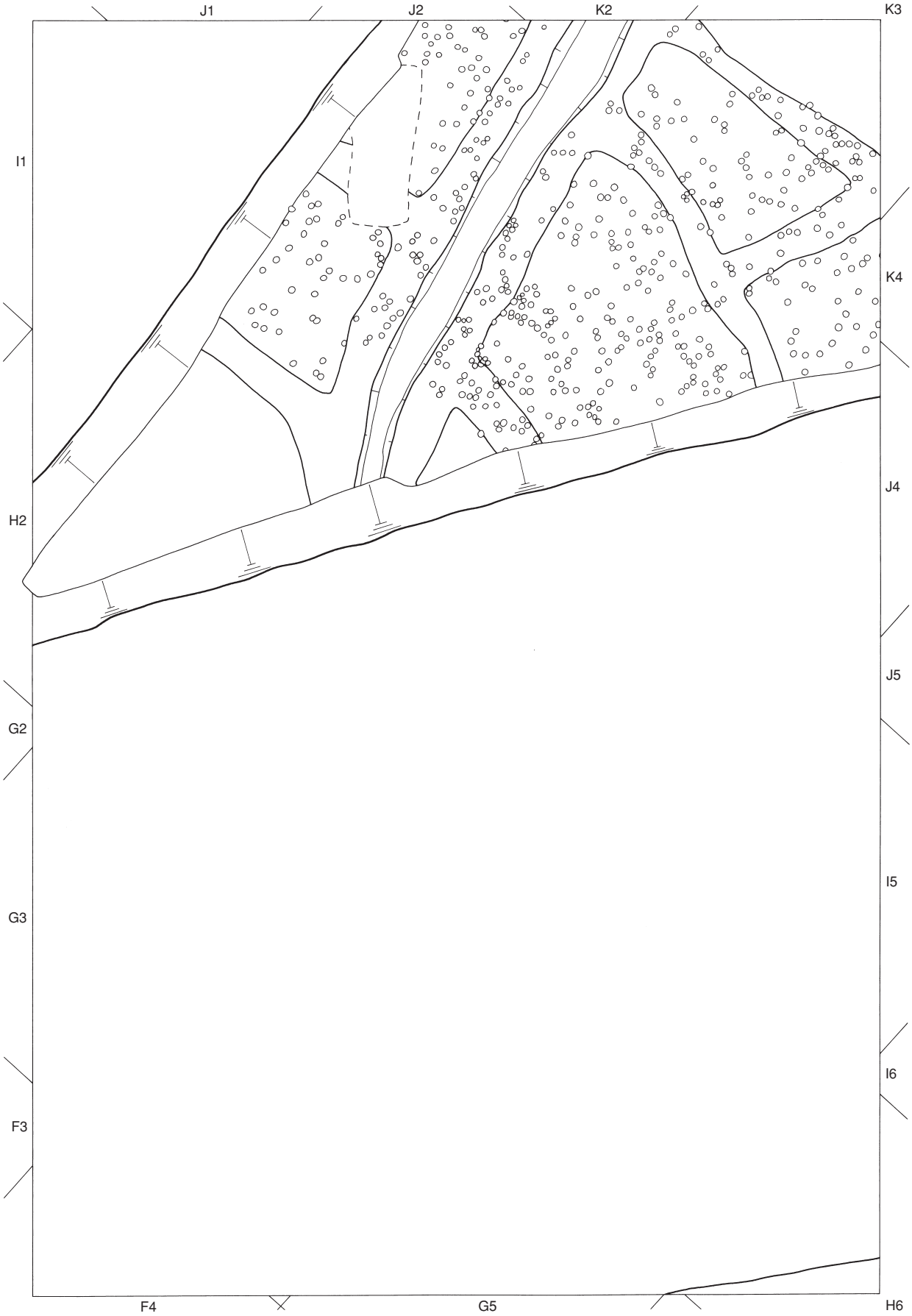
第258図　第３水田面遺構平面図⑫（S＝1/100）

第259図　第３水田面遺構平面図⒀（S＝1/100）

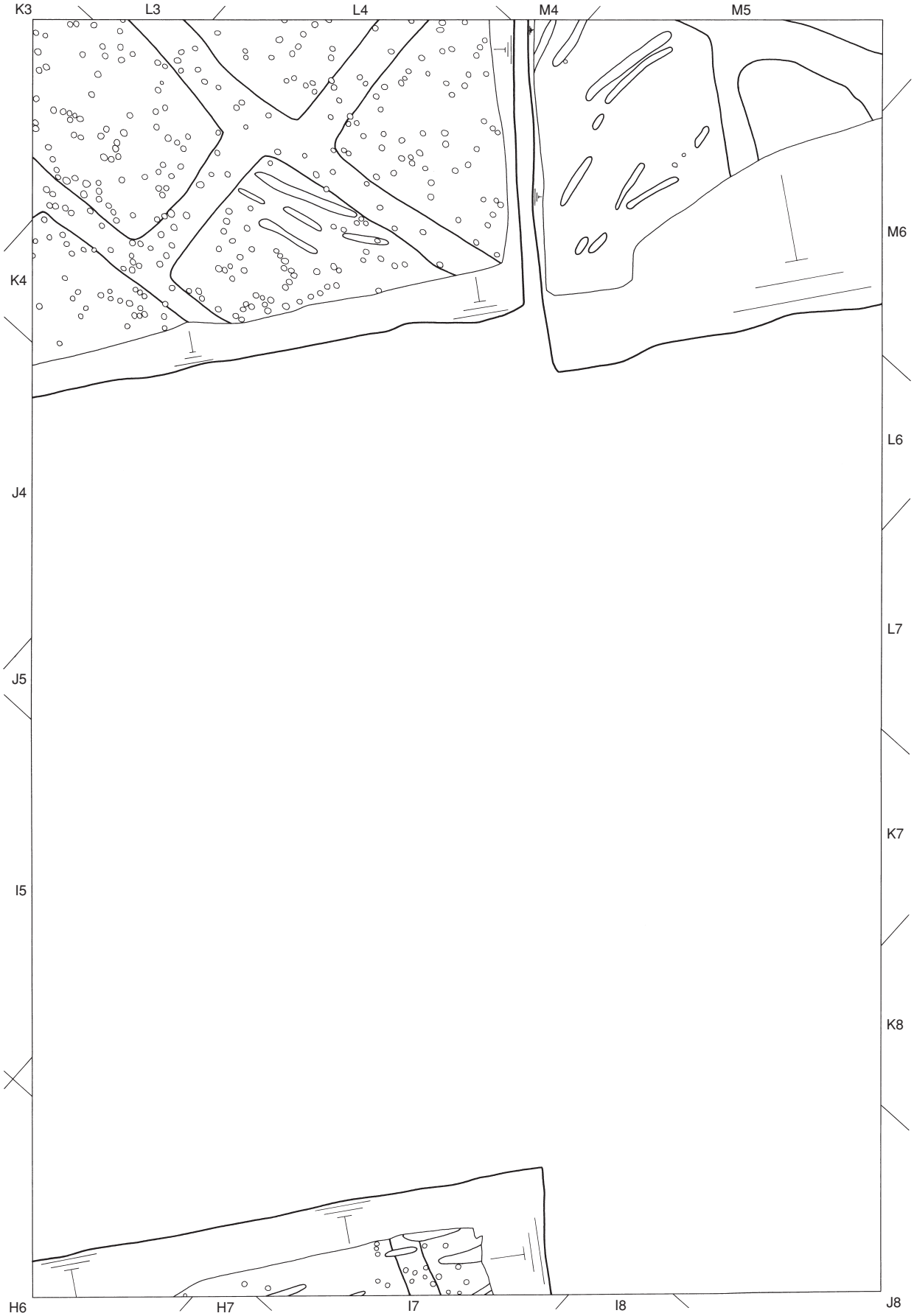


第260図　第３水田面遺構平面図⒁（S＝1/100）

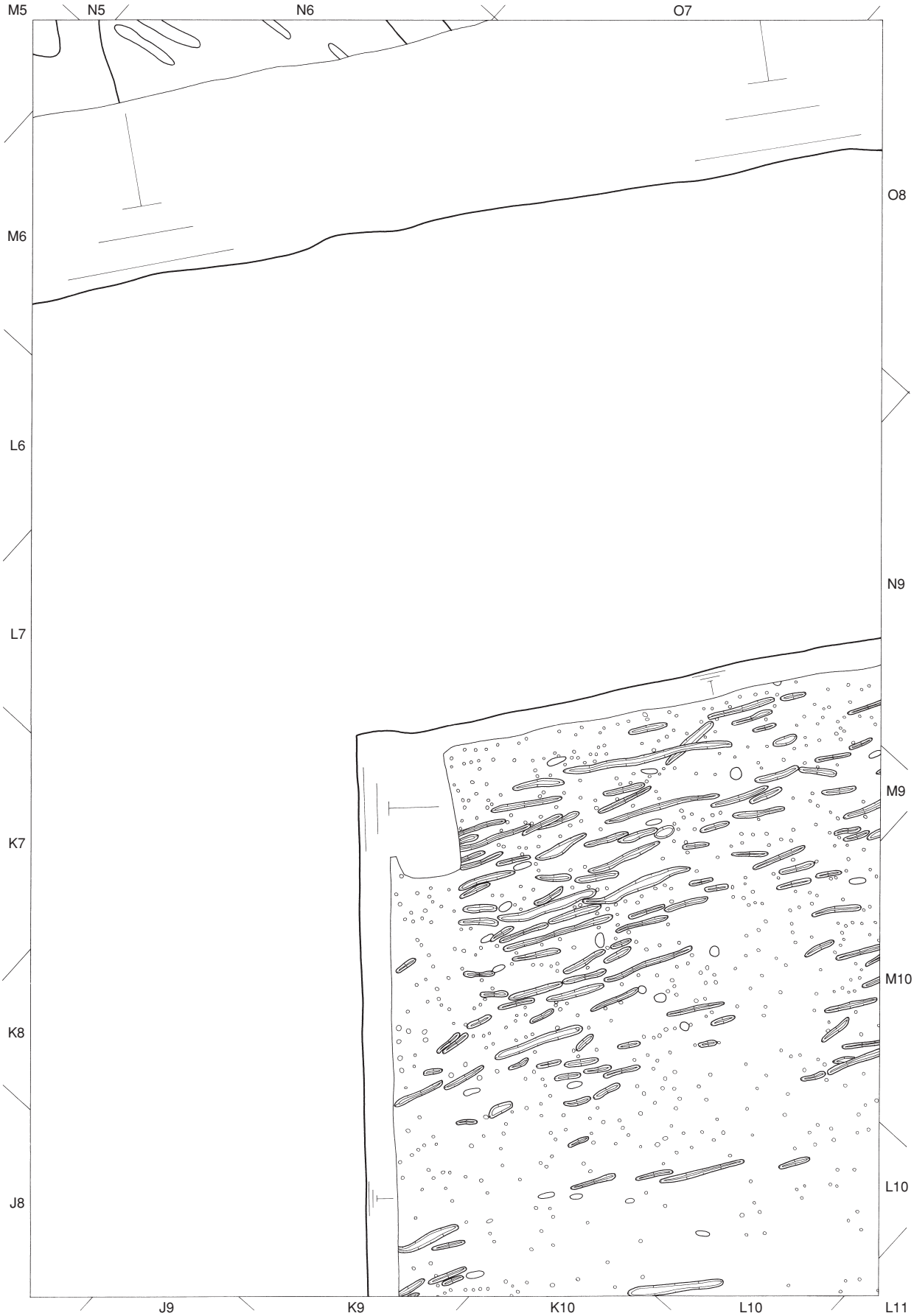
第261図　第３水田面遺構平面図⑮（S＝1/100）



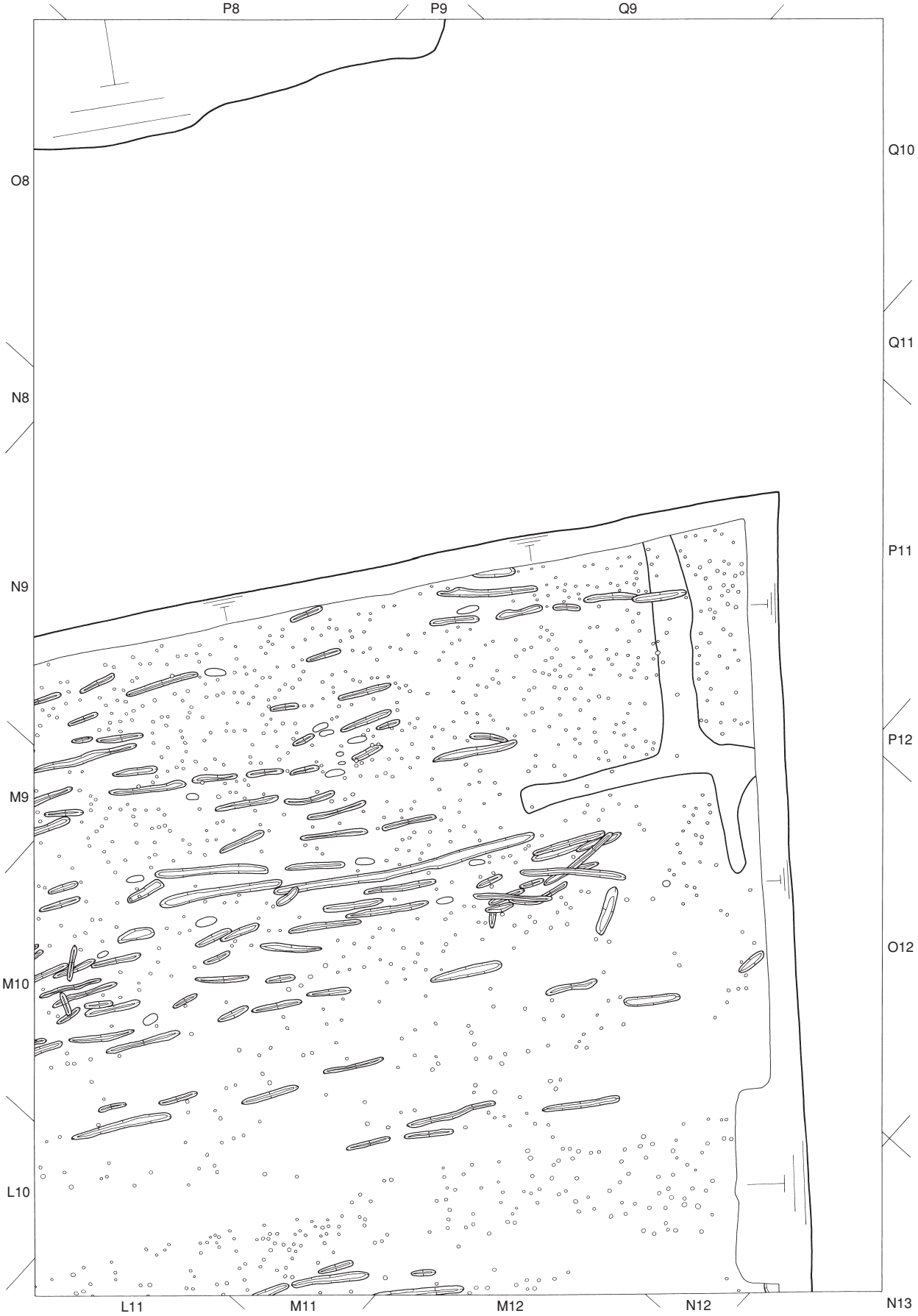
第262図　第３水田面遺構平面図⑯（S＝1/100）



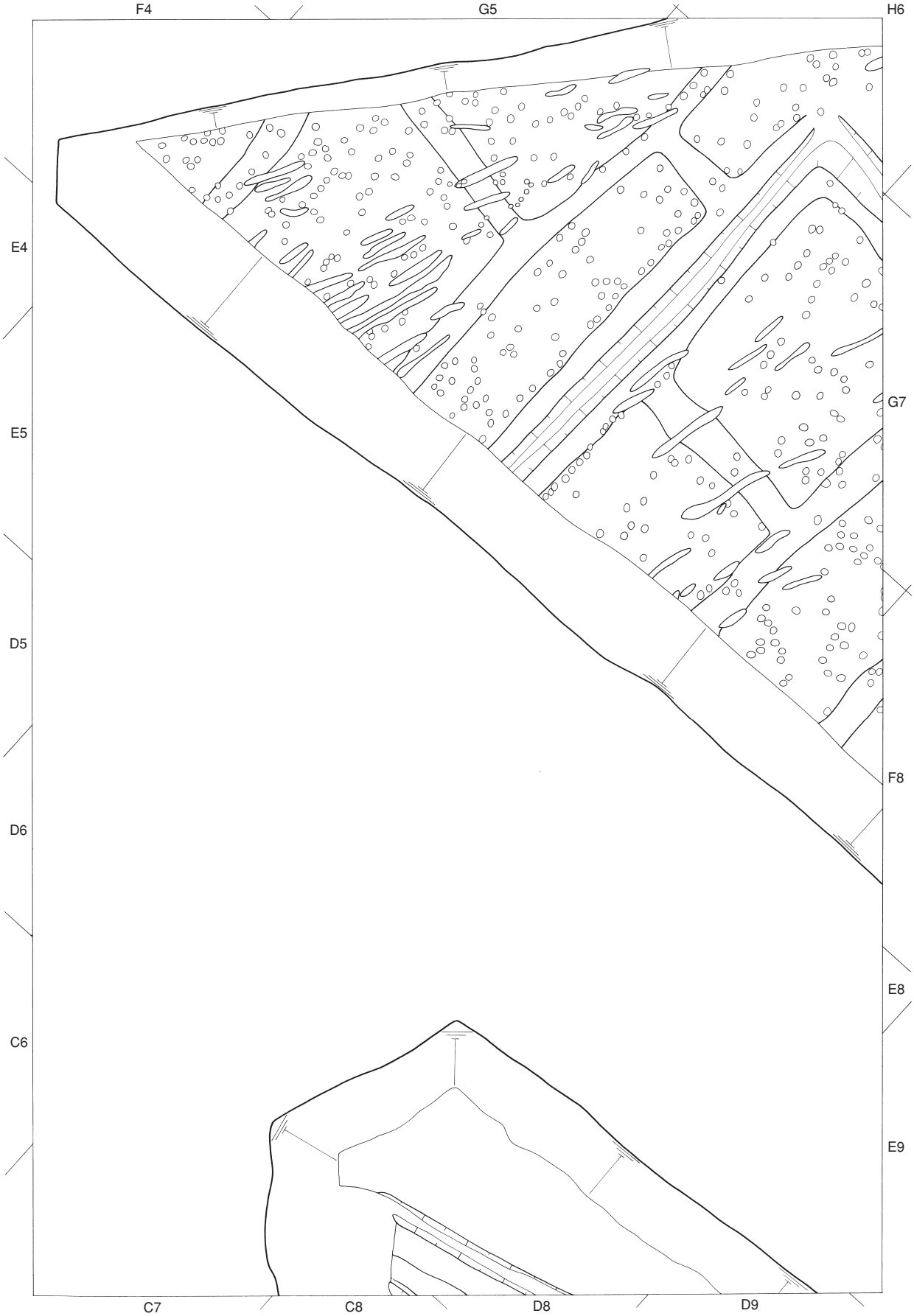
第263図　第３水田面遺構平面図⑰（S＝1/100）



第264図　第３水田面遺構平面図⒅（S＝1/100）



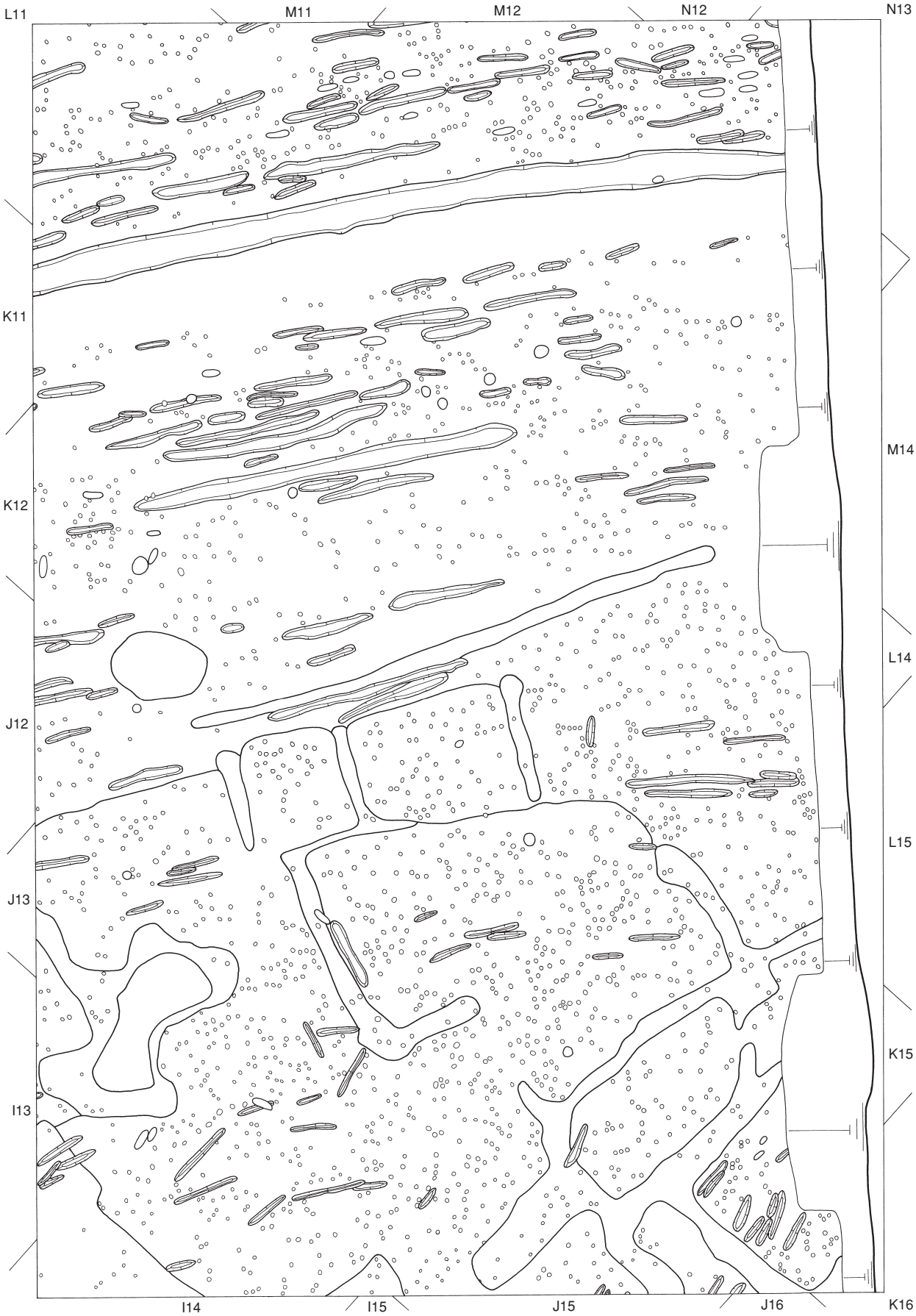
第265図　第３水田面遺構平面図⑲（S＝1/100）



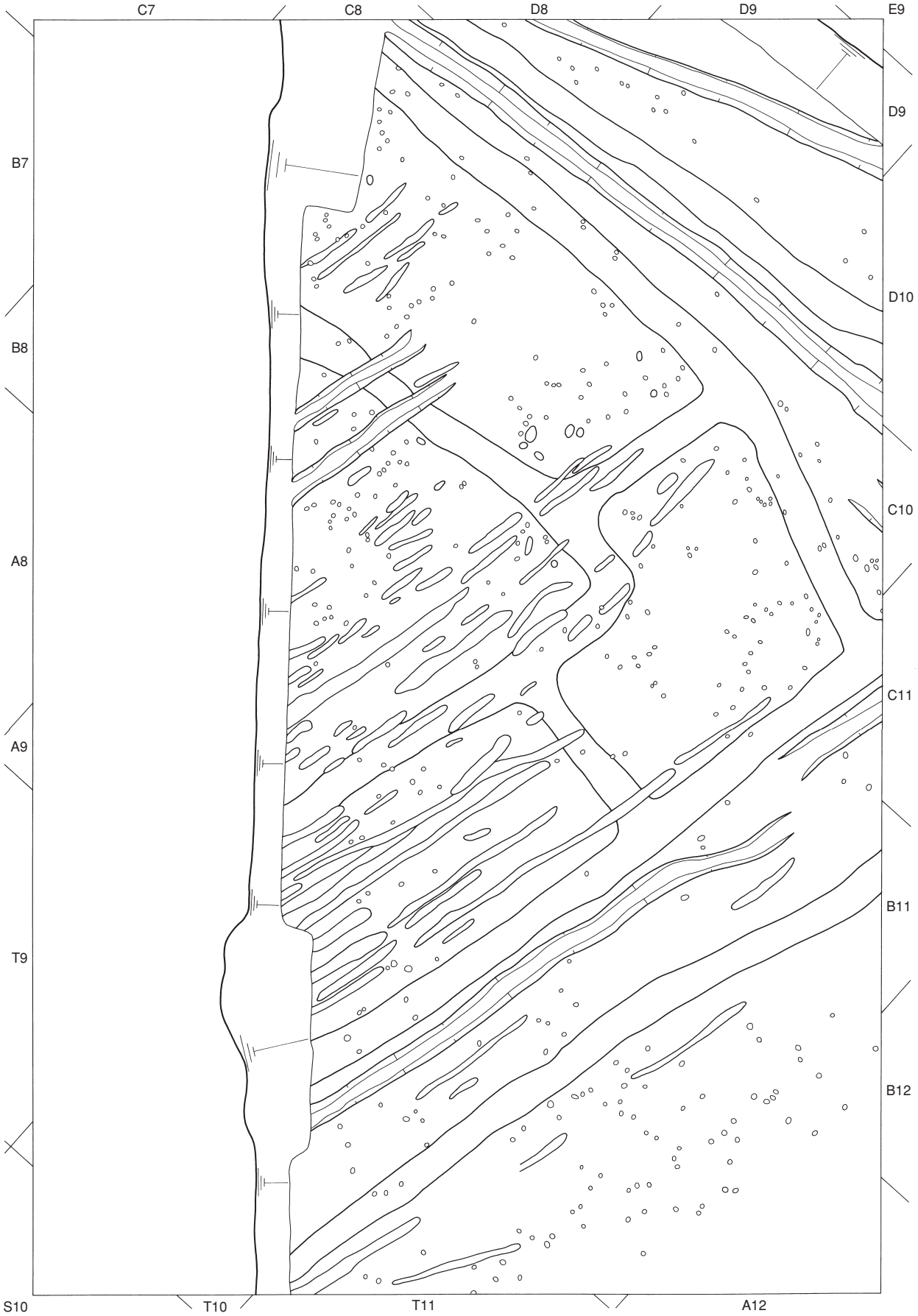
第266図　第３水田面遺構平面図⑳（S＝1/100）

第267図　第３水田面遺構平面図(21)（S＝1/100）

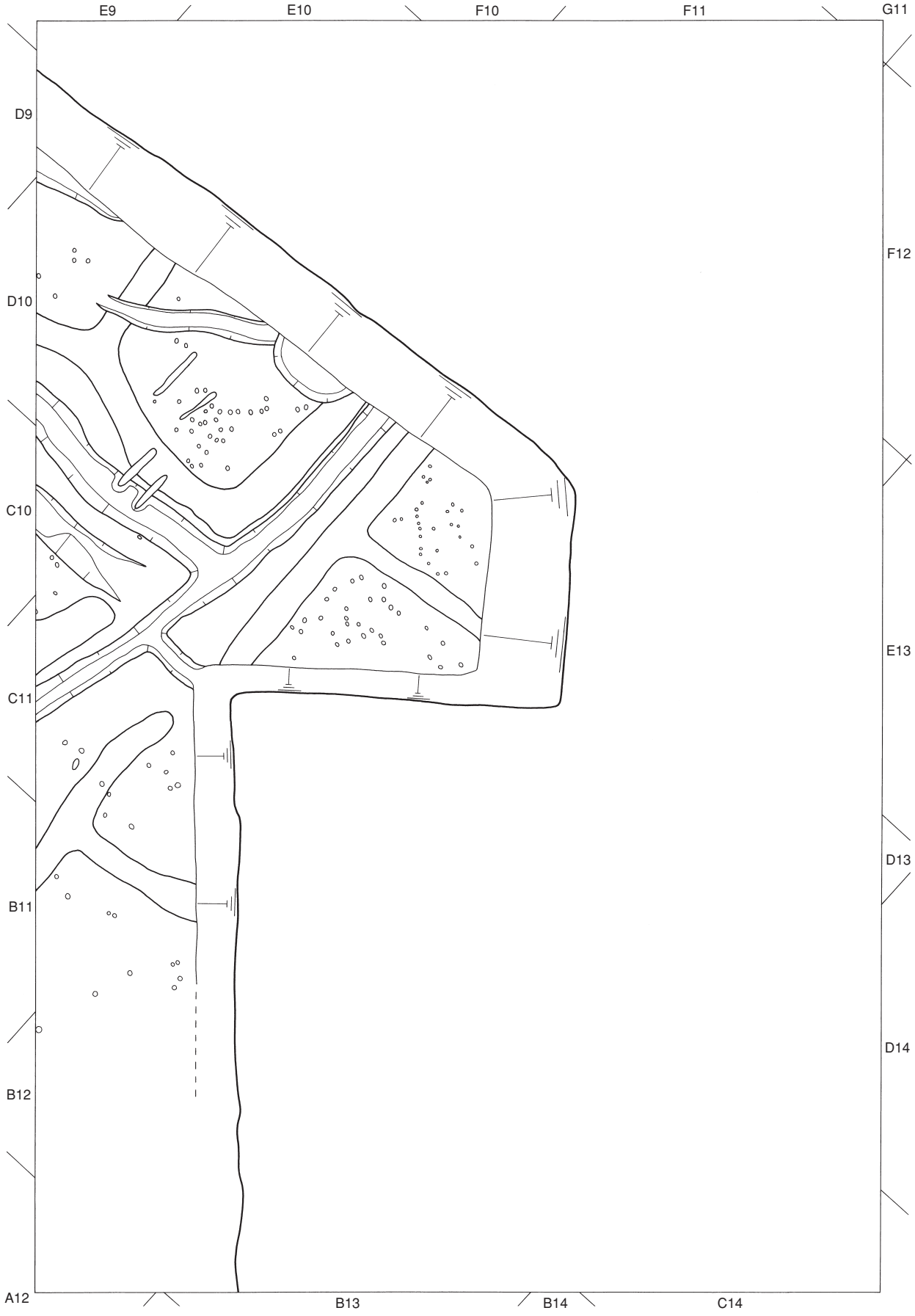
第268図　第３水田面遺構平面図㉒（S＝1/100）



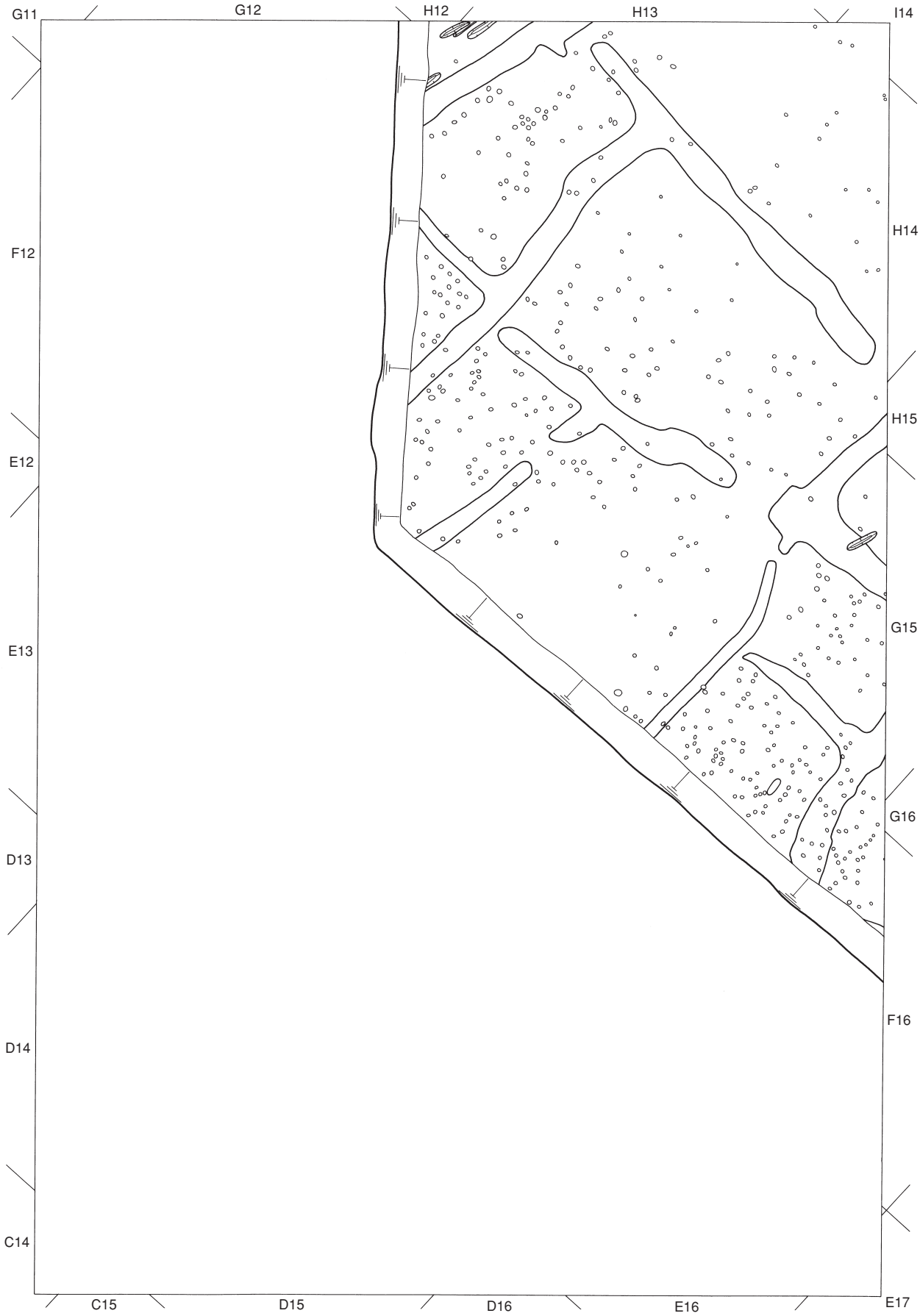
第269図　第３水田面遺構平面図㉓（S＝1/100）



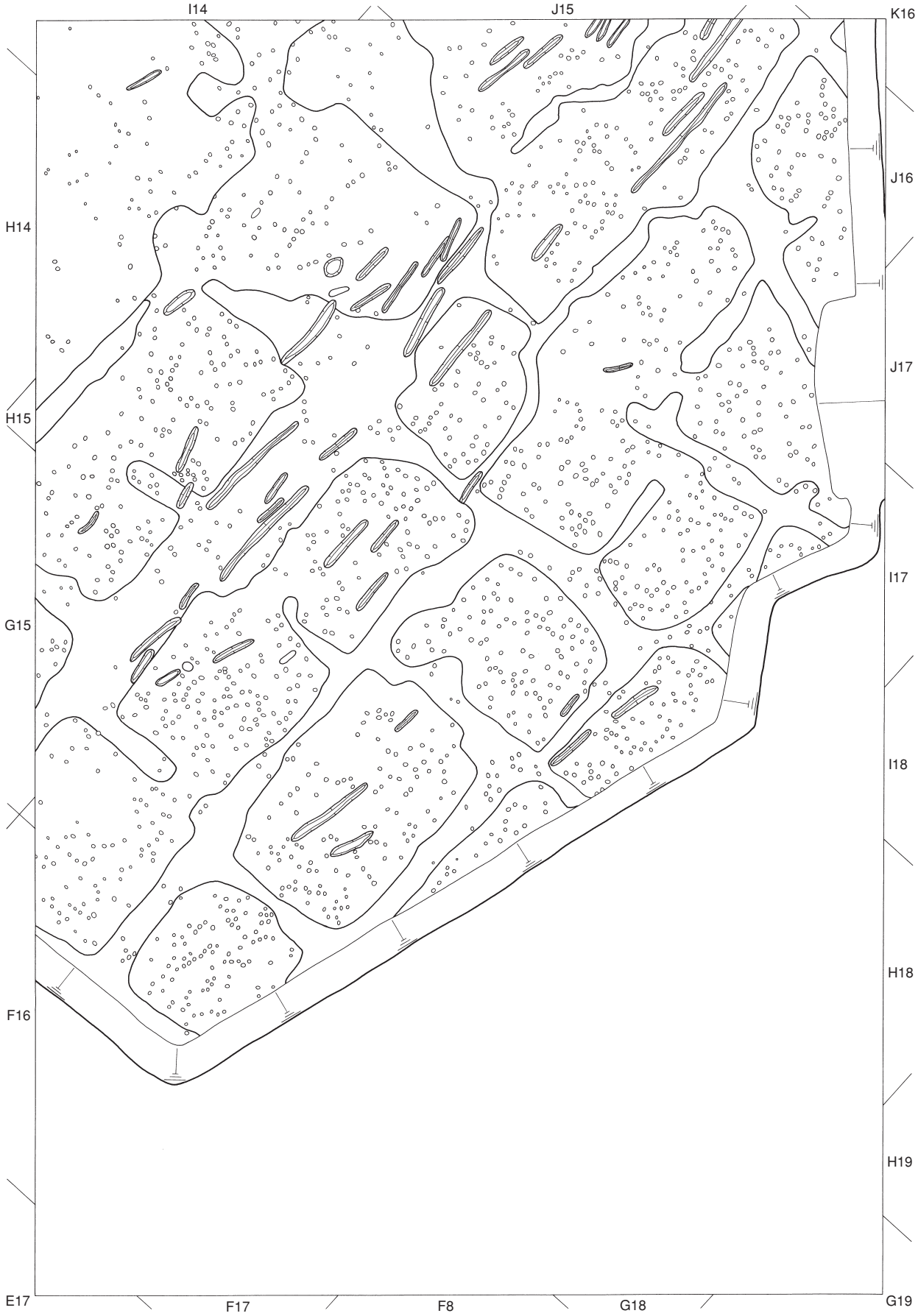
第270図　第３水田面遺構平面図㉔（S＝1/100）



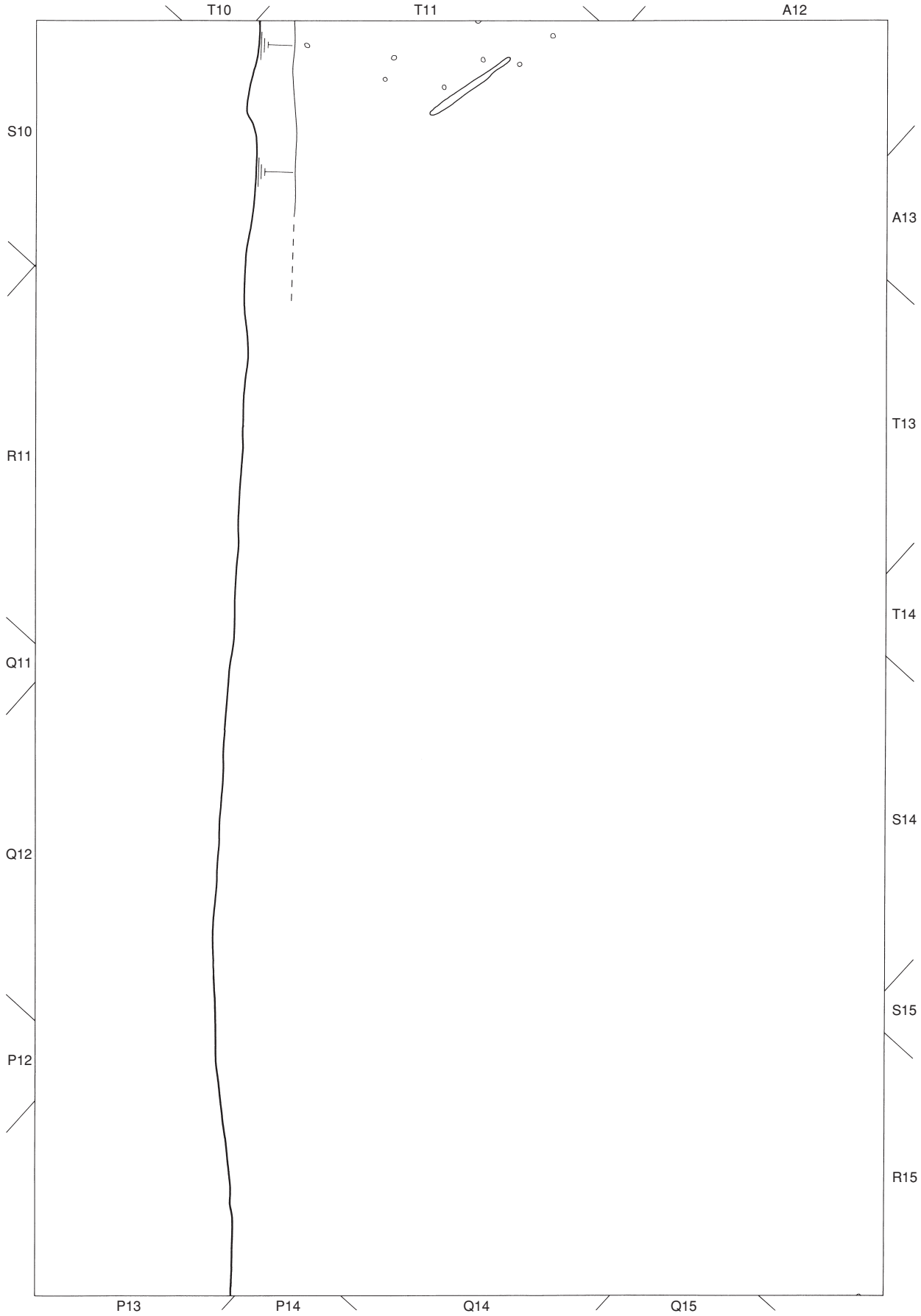
第271図　第３水田面遺構平面図㉕（S＝1/100）



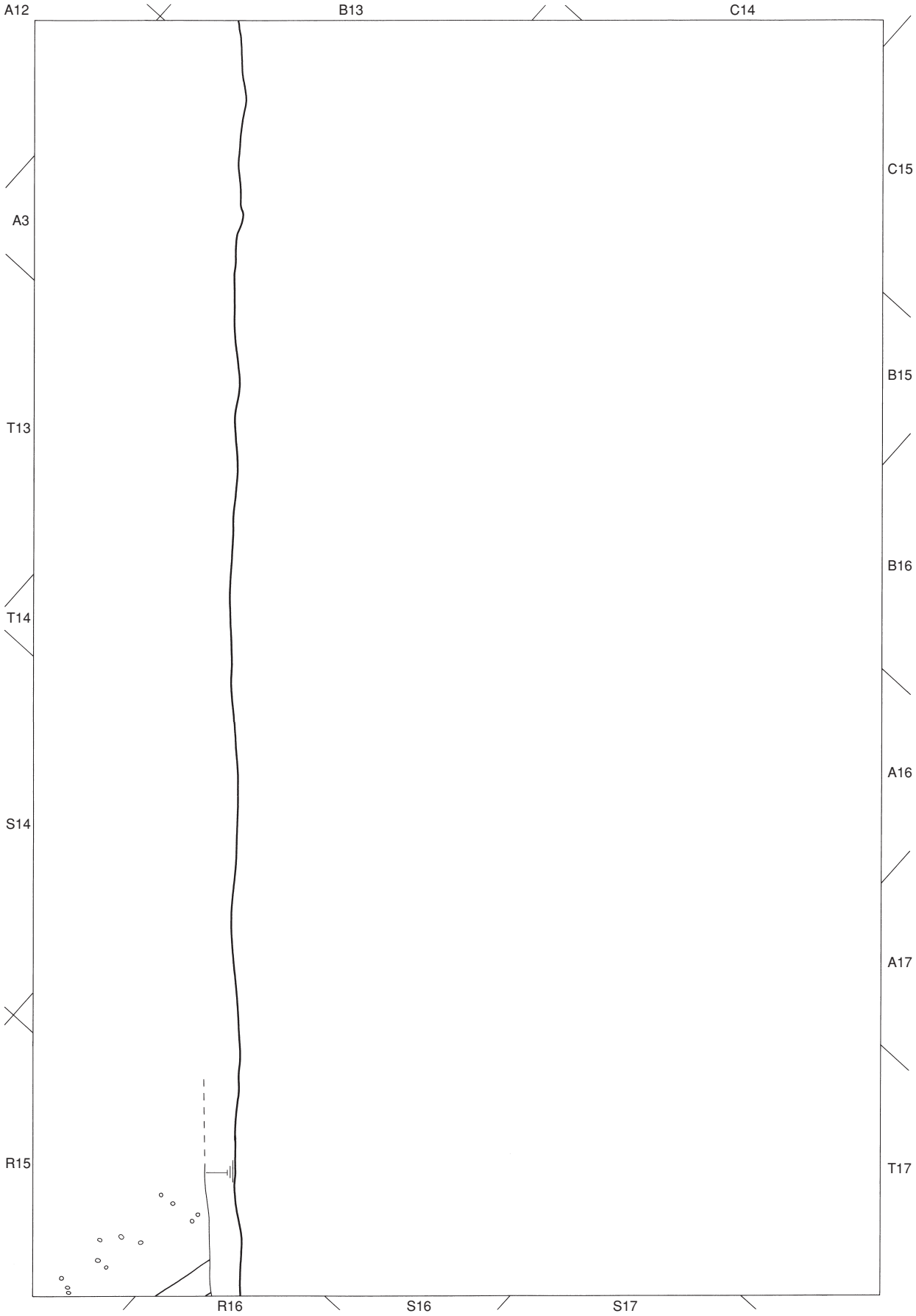
第272図　第３水田面遺構平面図㉖（S＝1/100）



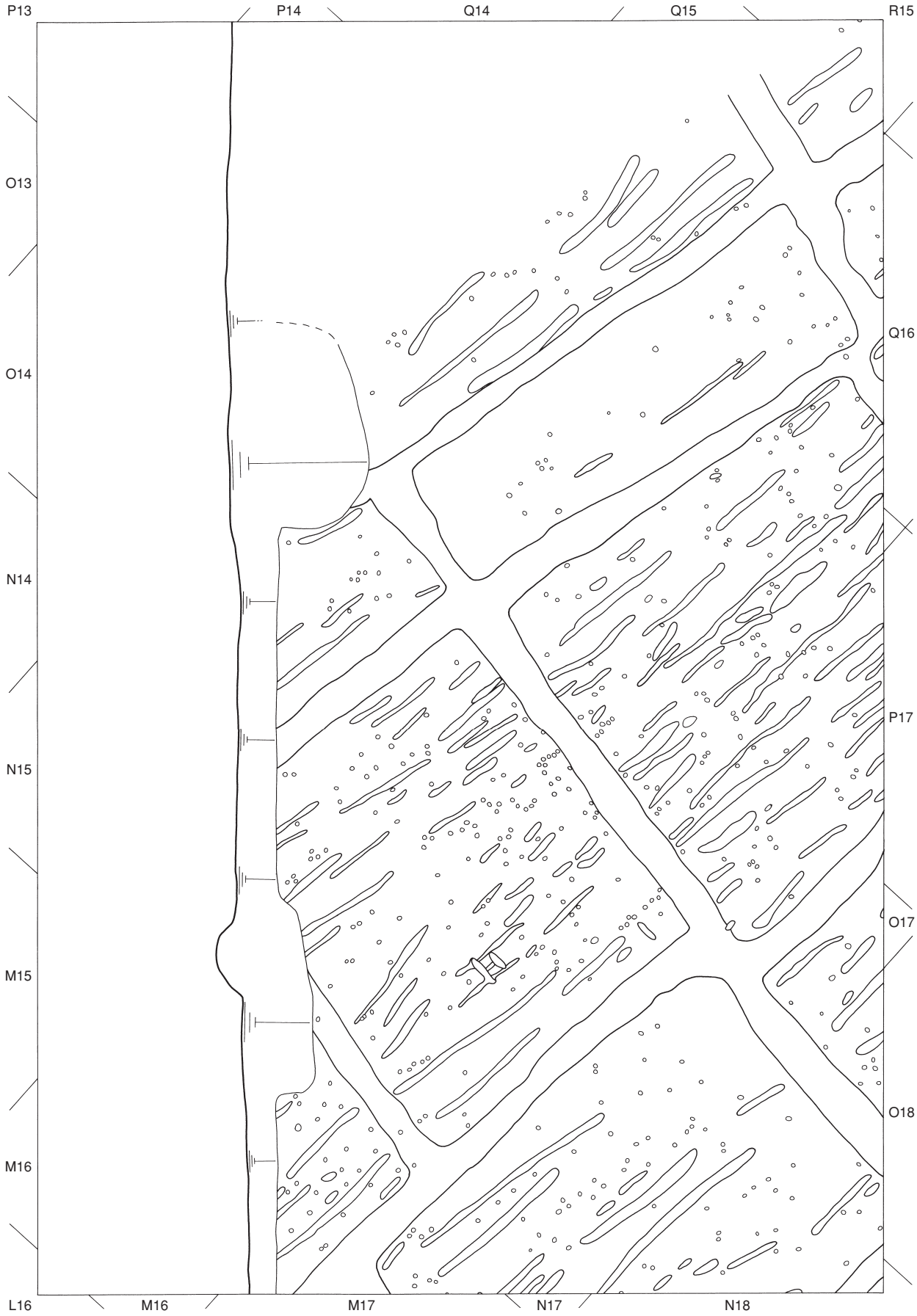
第273図　第３水田面遺構平面図(27)（S＝1/100）



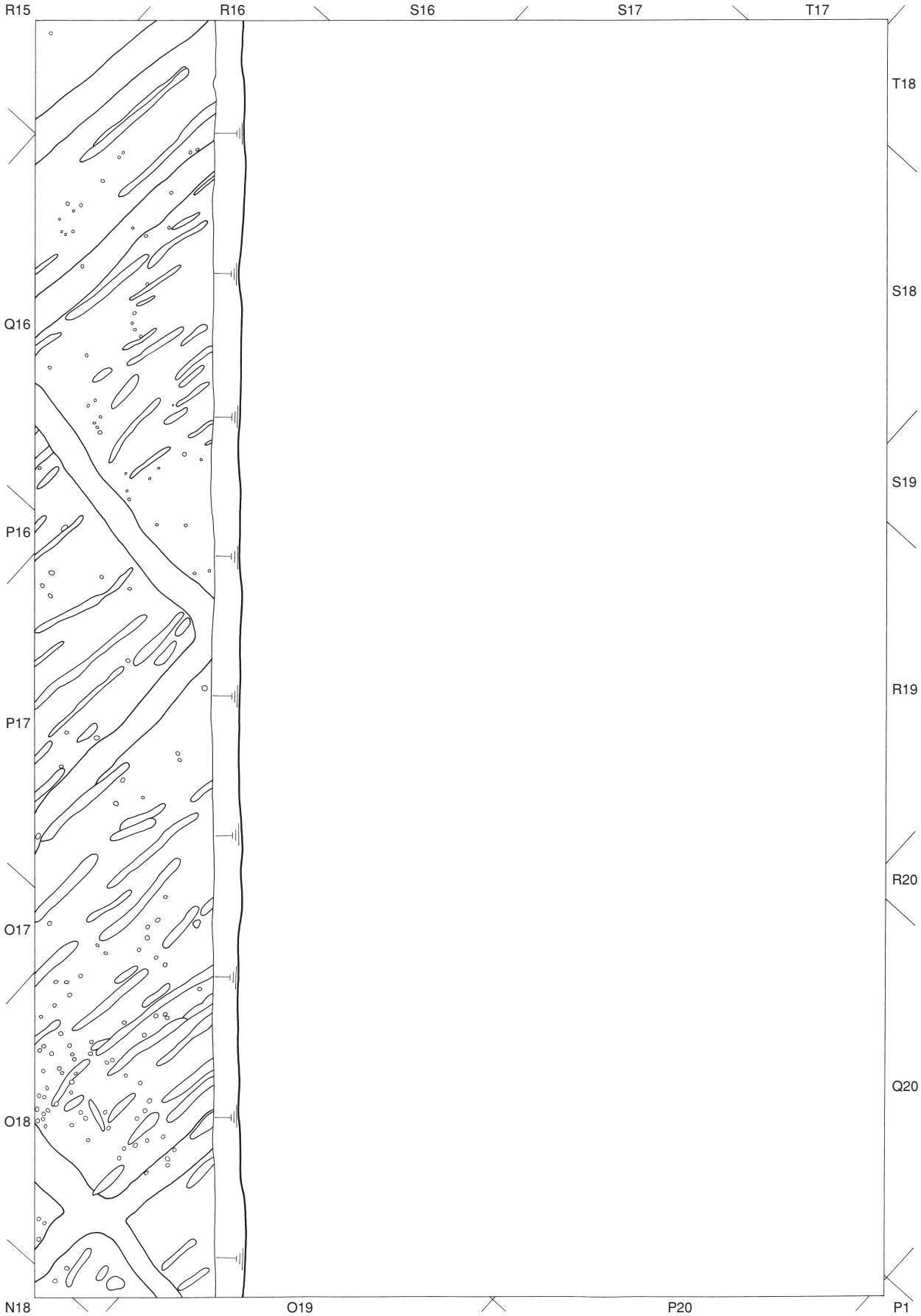
第274図　第３水田面遺構平面図㉘（S＝1/100）



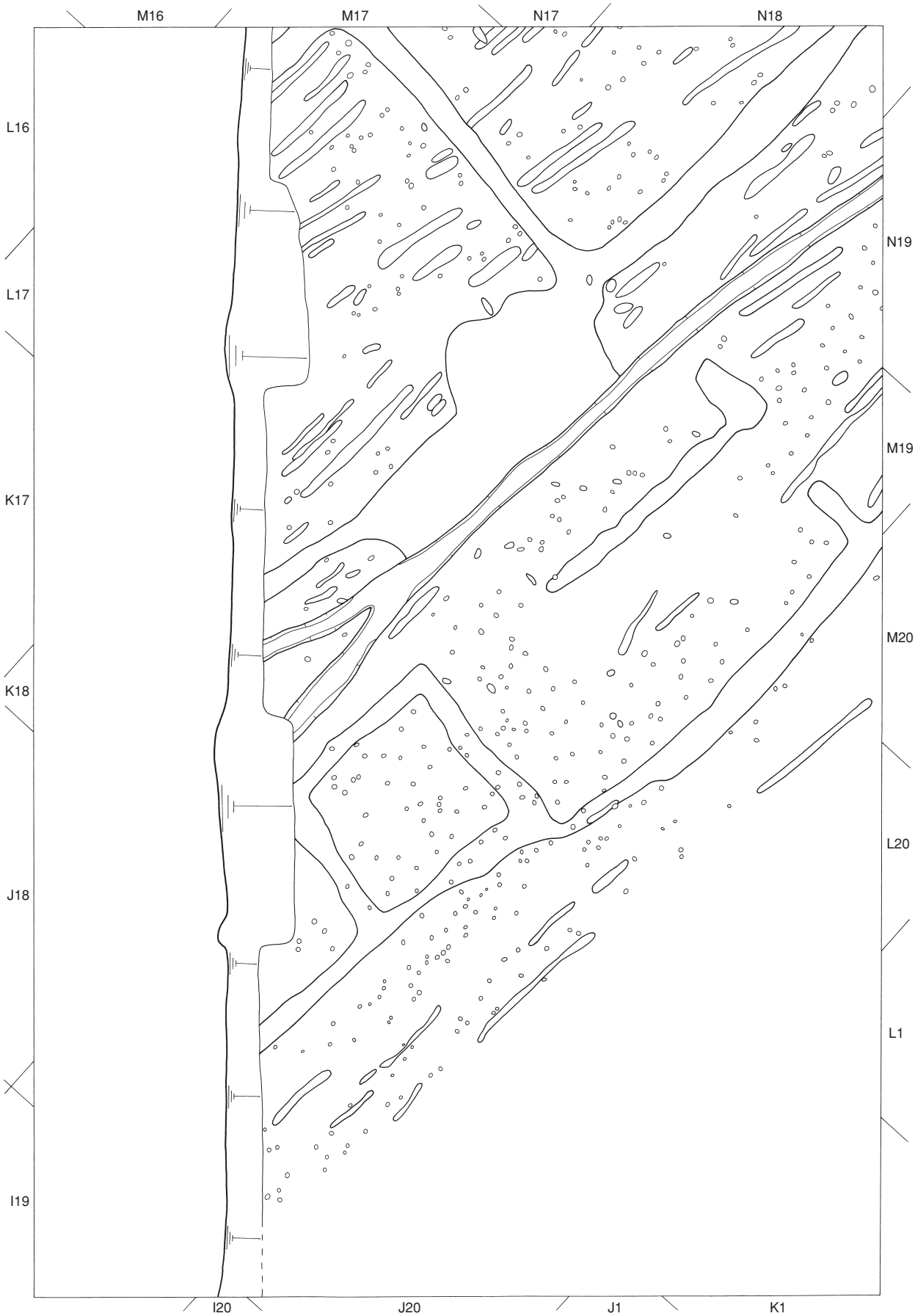
第275図　第３水田面遺構平面図㉙（S＝1/100）



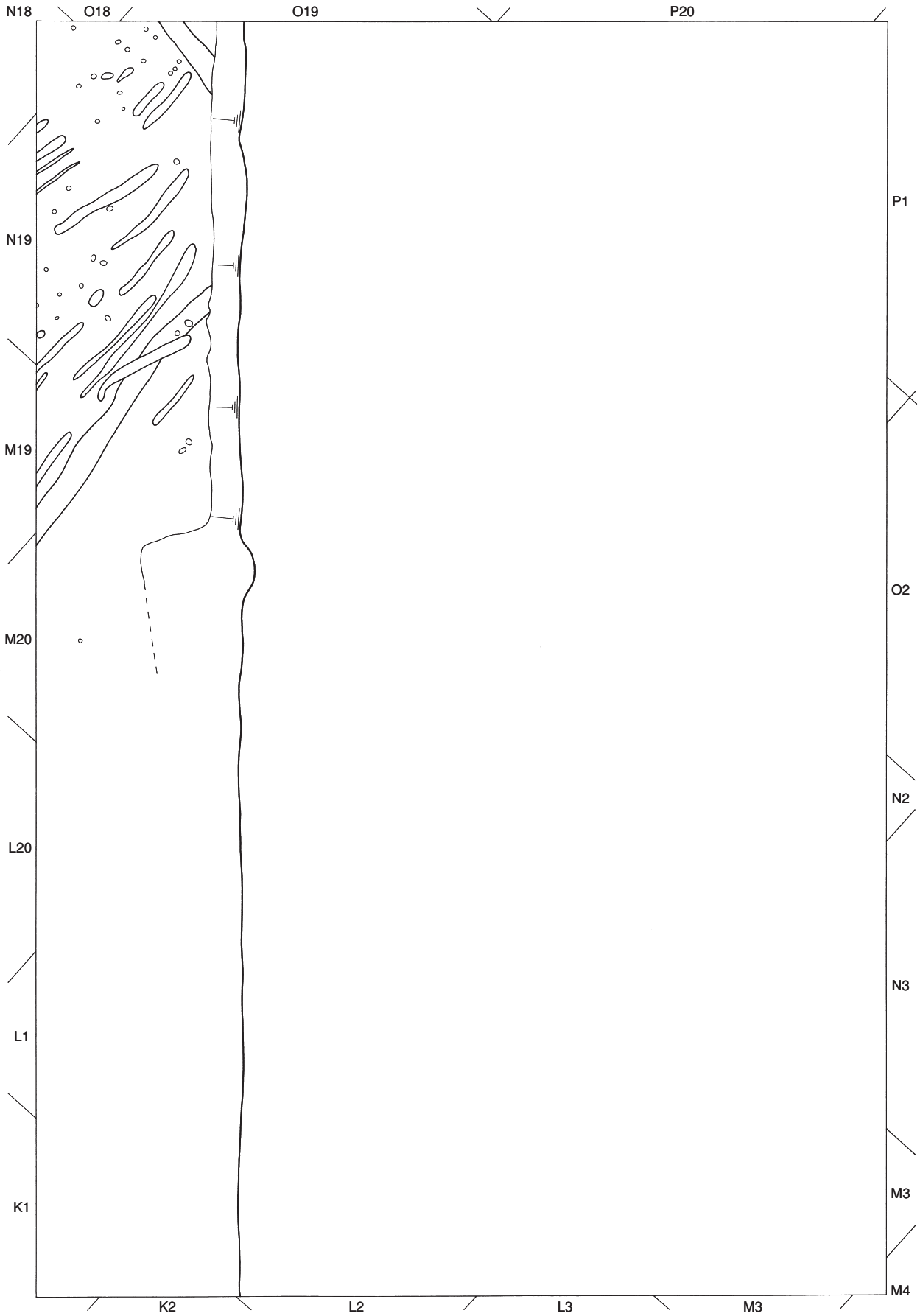
第276図　第３水田面遺構平面図㉚（S＝1/100）



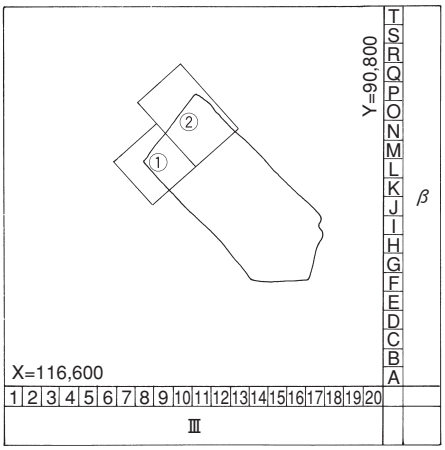
第277図　第３水田面遺構平面図(31)（S＝1/100）



第278図　第３水田面遺構平面図(32)（S＝1/100）

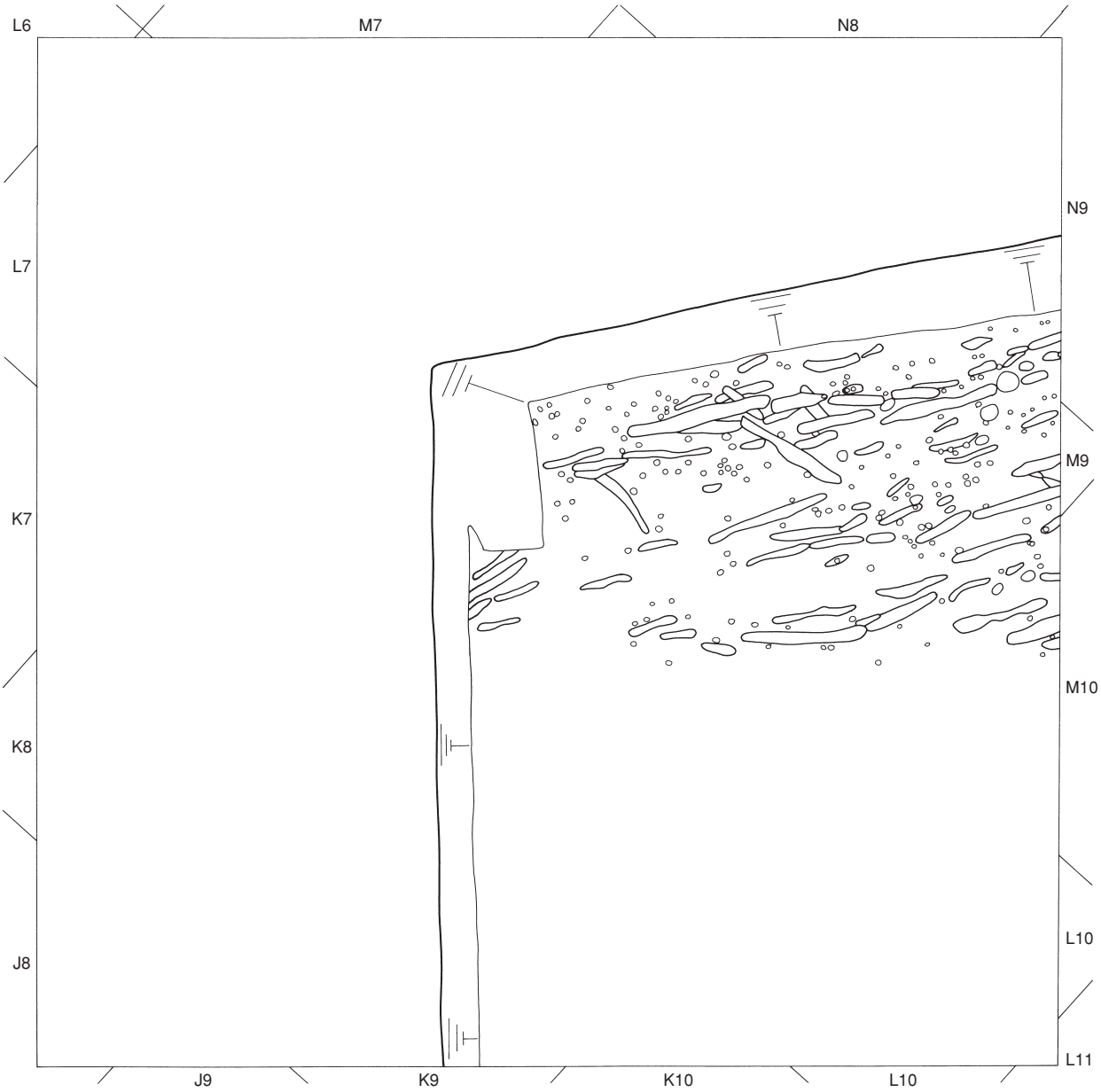


第279図　第３水田面遺構平面図(33)（S＝1/100）

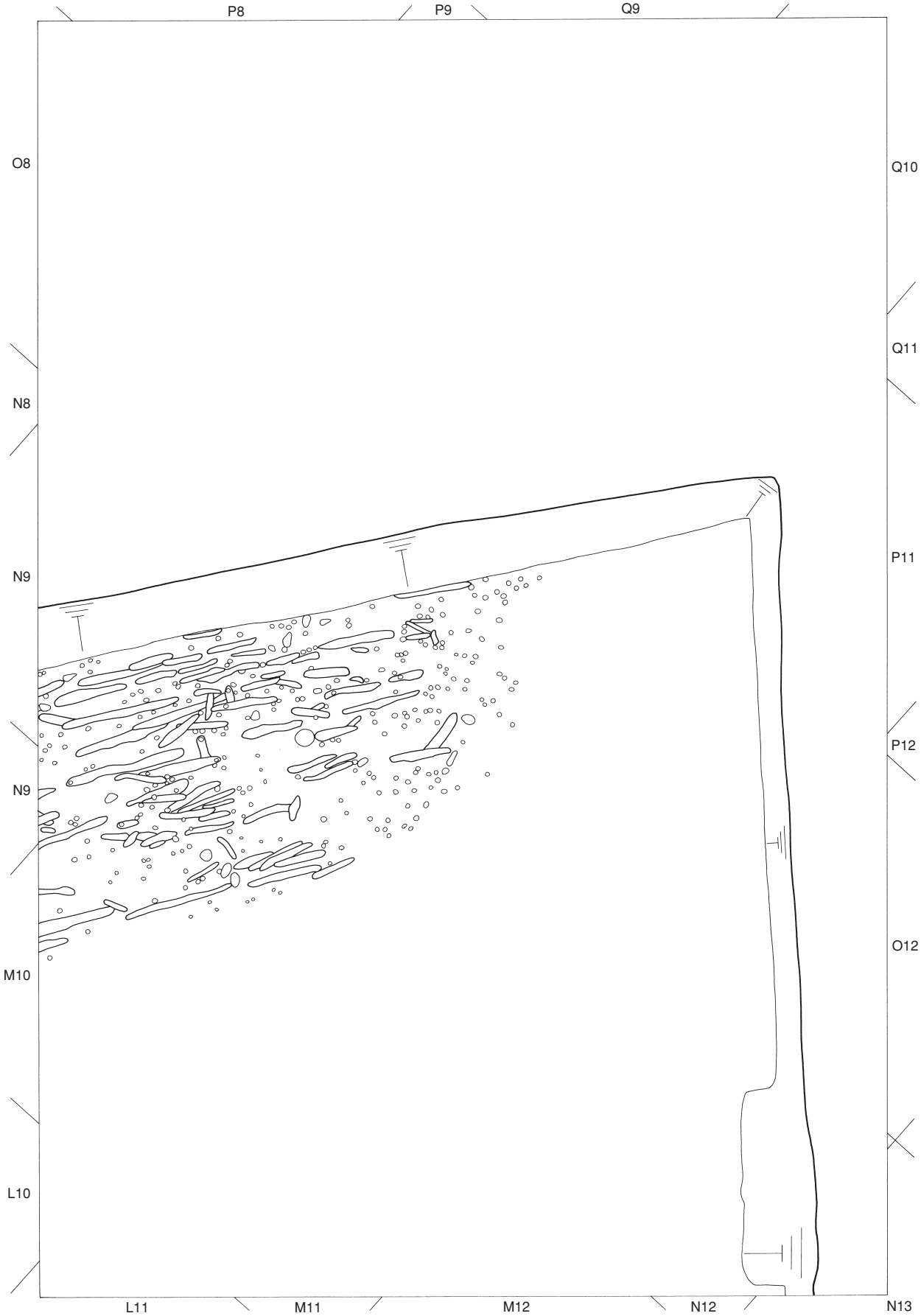


割付図の①、②の番号は、第281図、第282図に
記載されているキャプションの数字と同じである

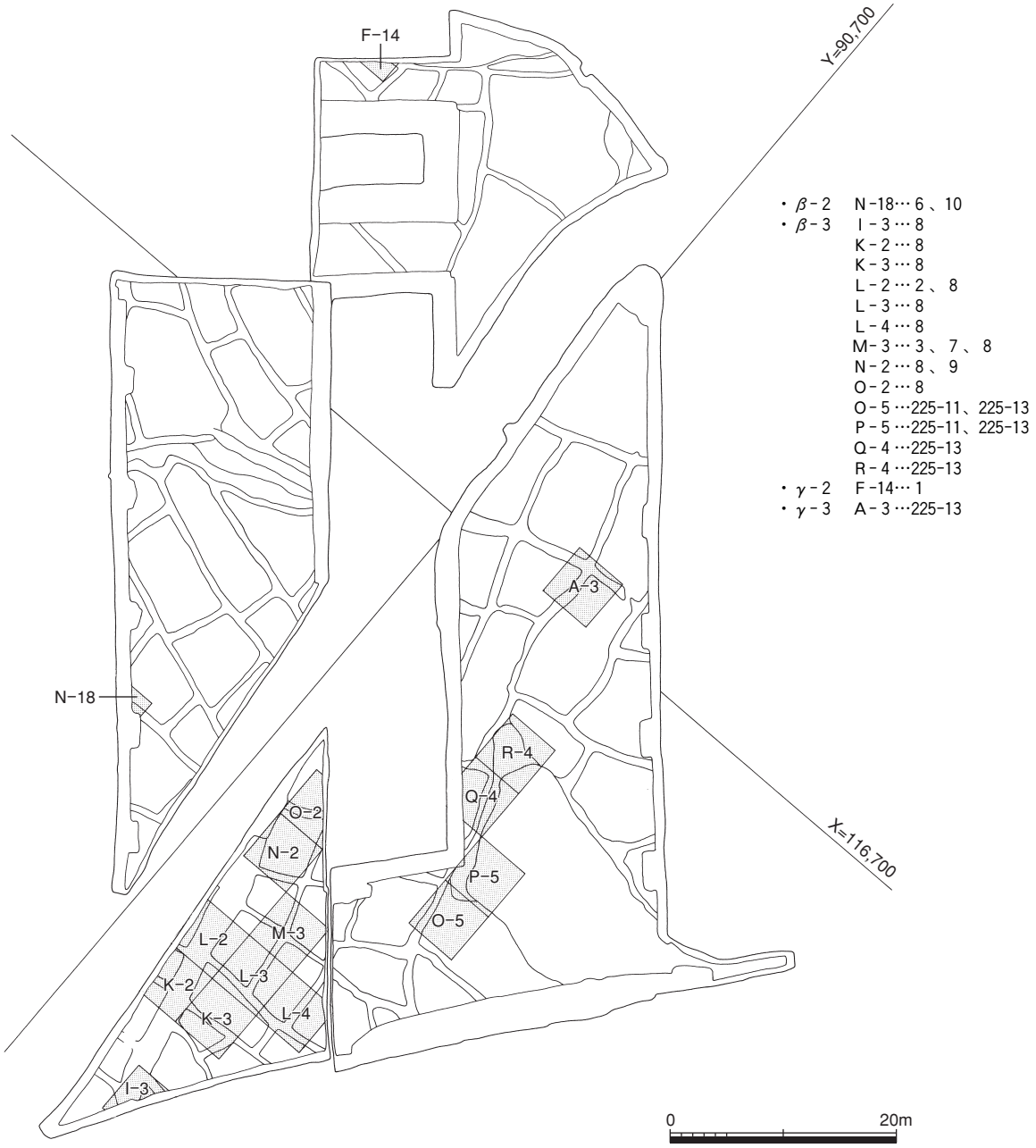
第280図　第３－２水田面遺構平面図割付図（S＝1/2000）



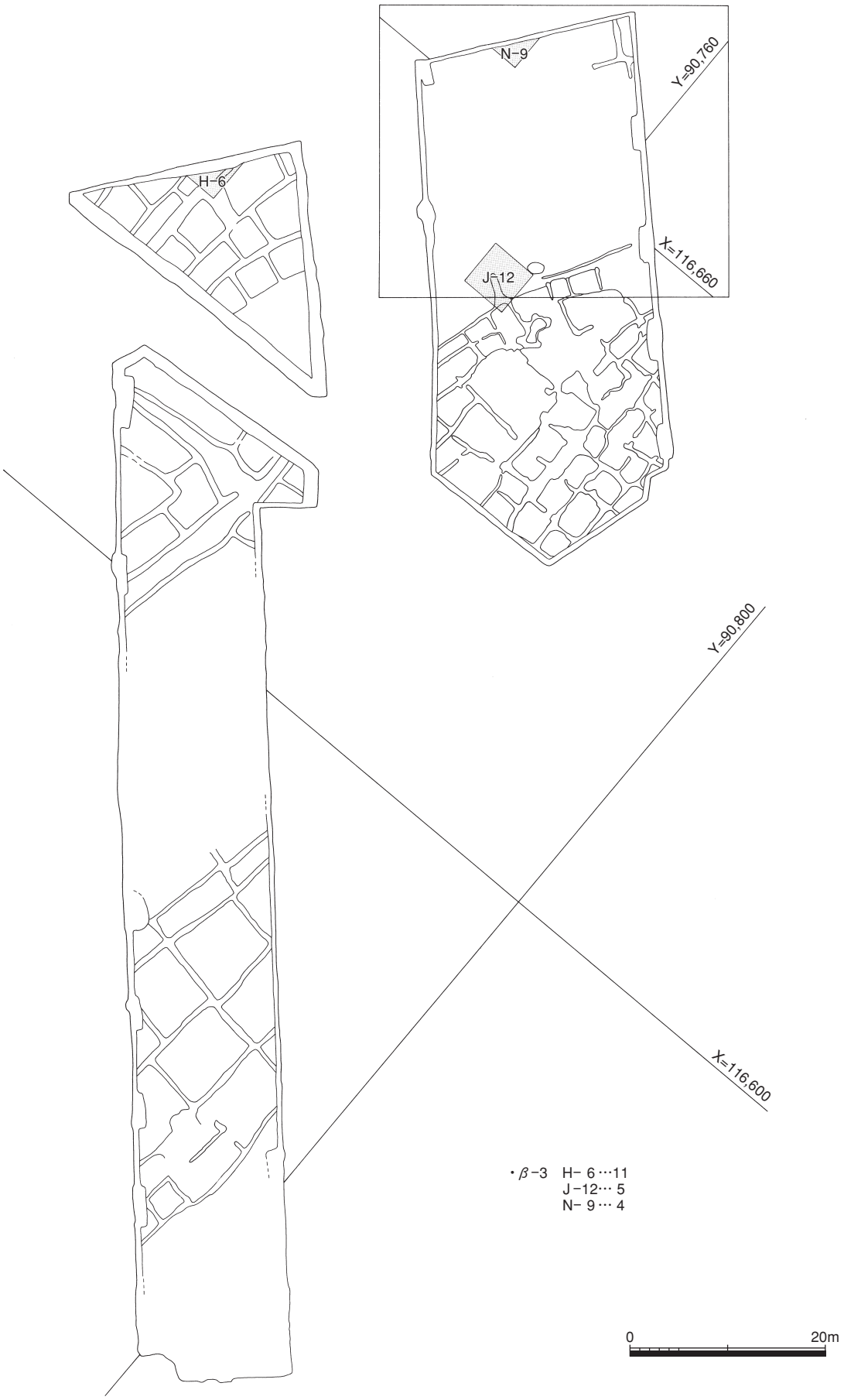
第281図　第３－２水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



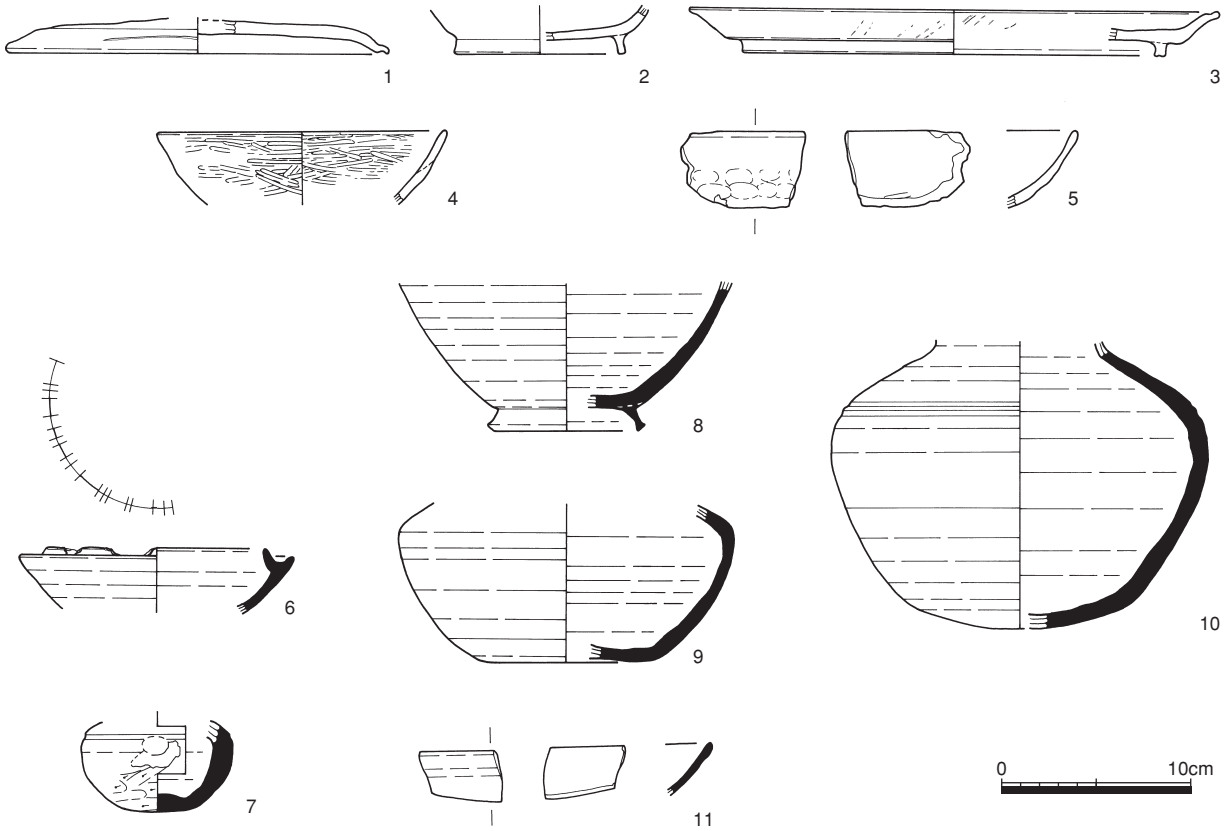
第282図　第３－２水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



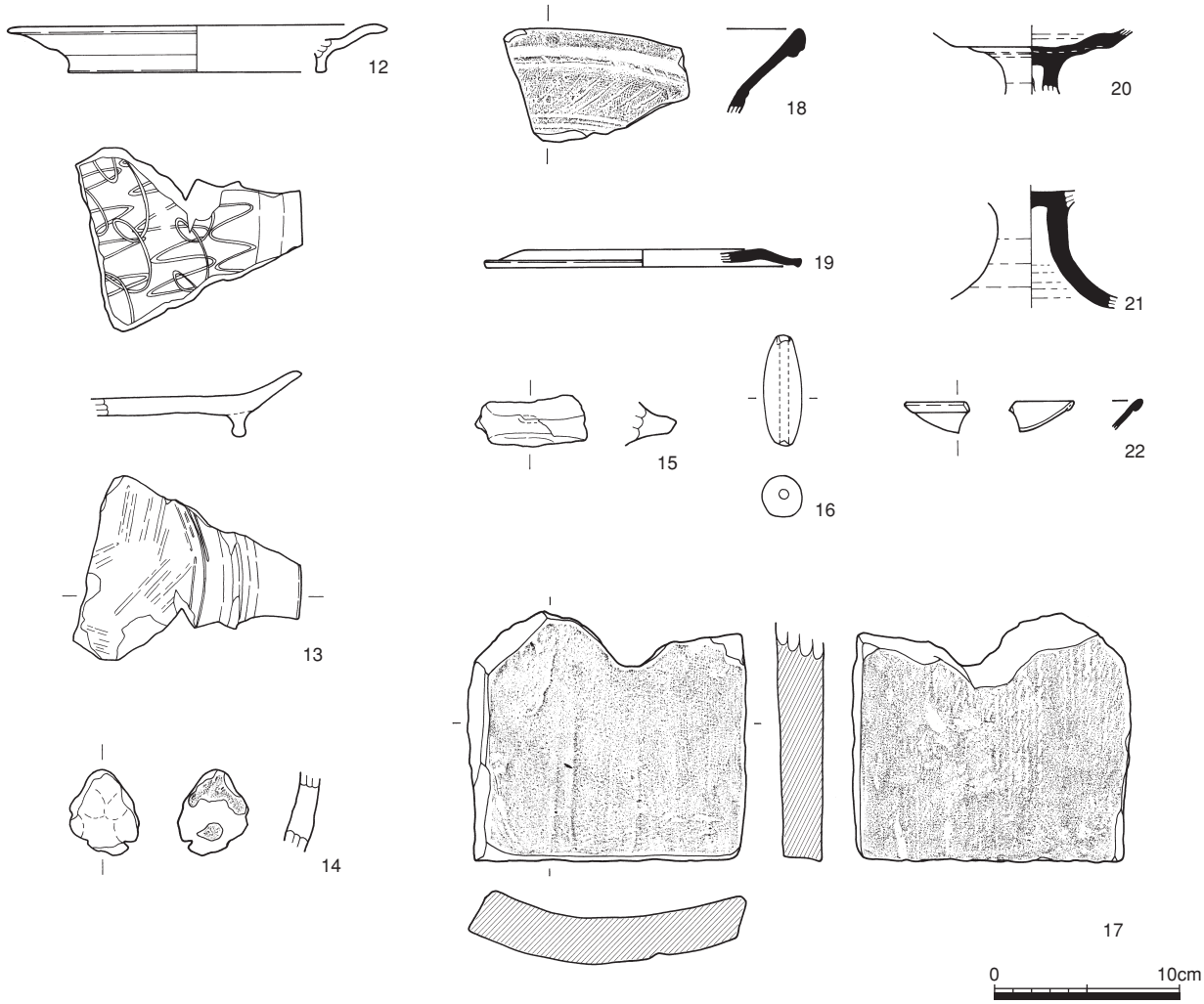
第283図　第３水田面遺物出土地点グリッド対応図(1)



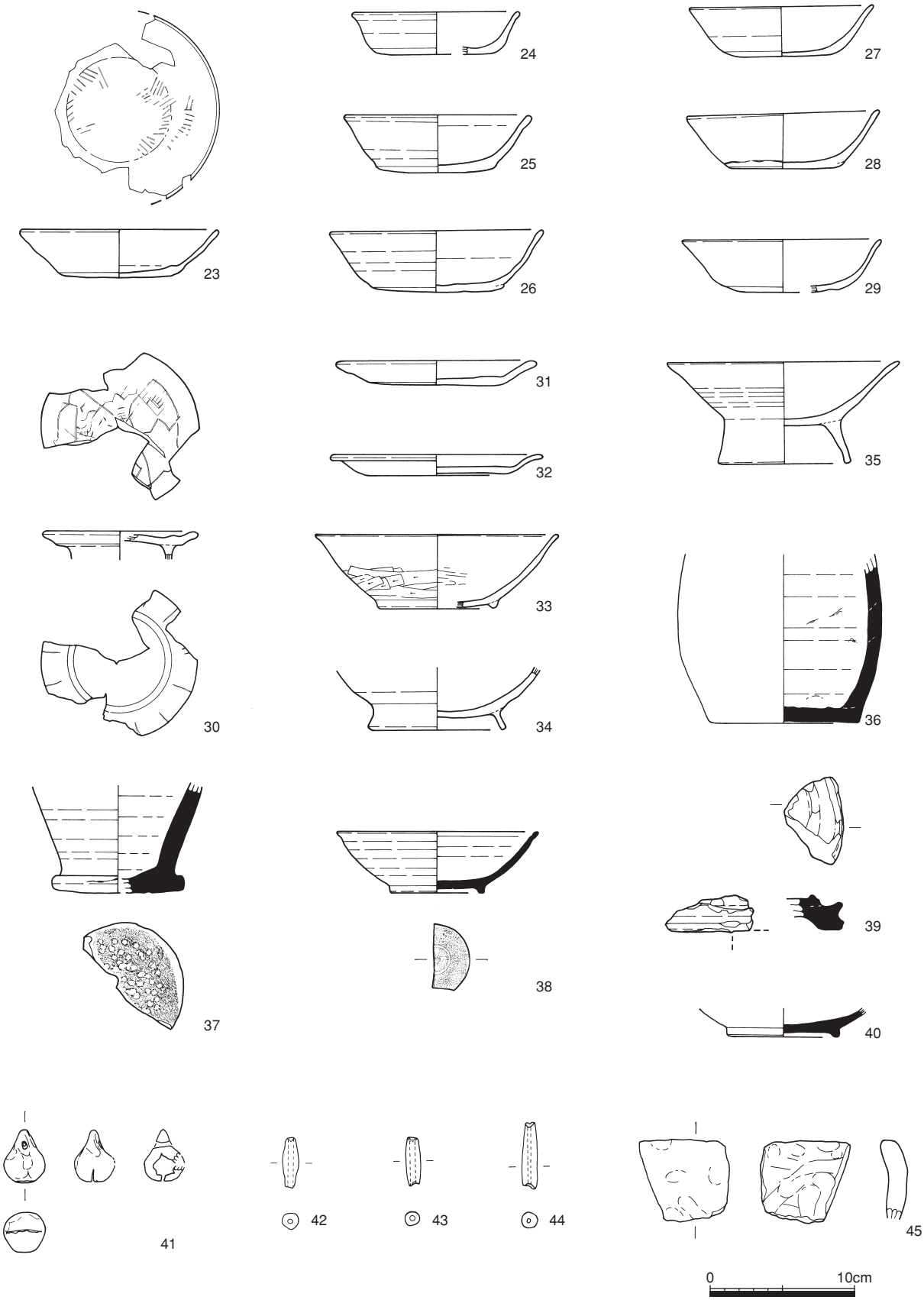
第284図　第３水田面遺物出土地点グリッド対応図(2)



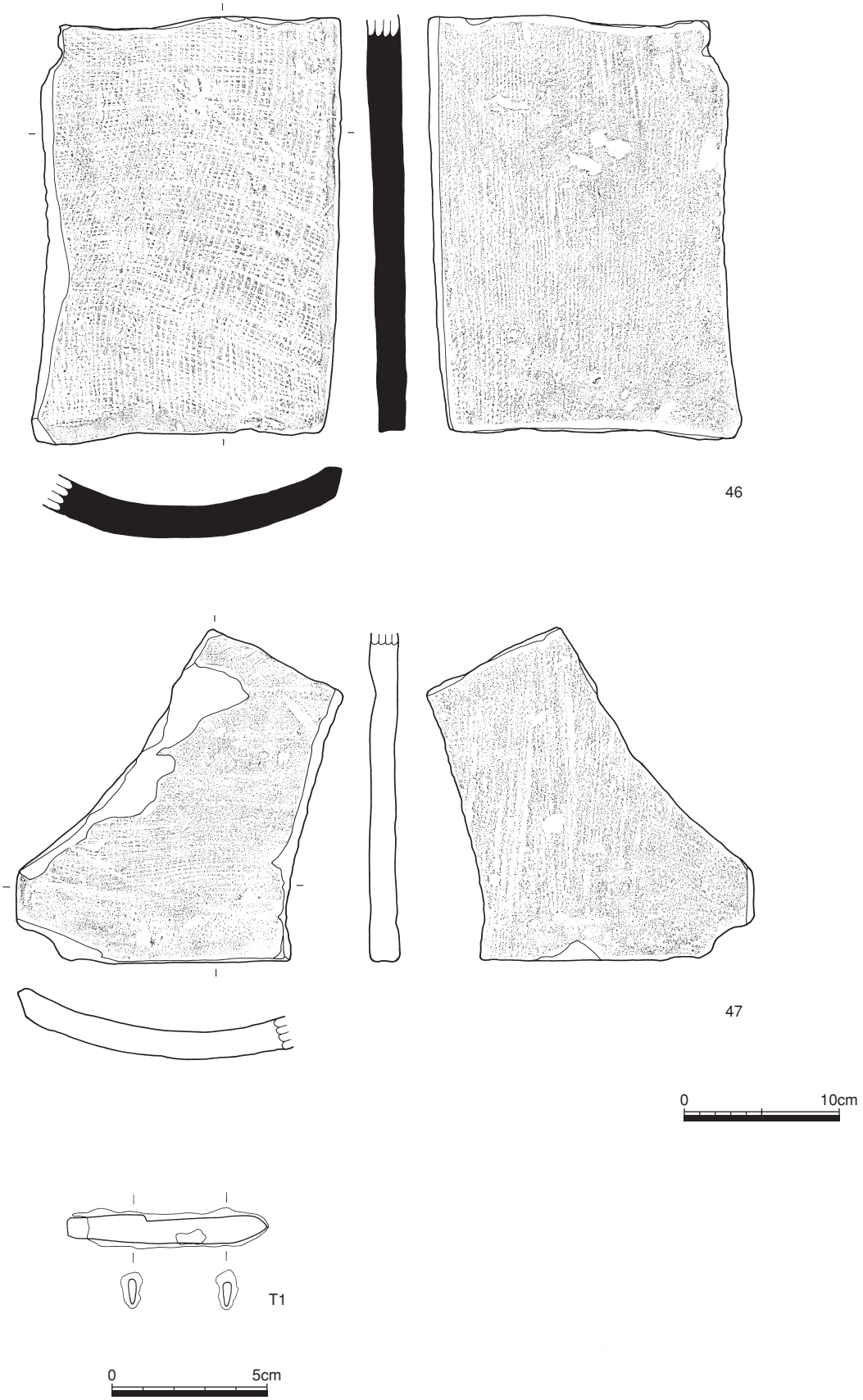
第285図　第３水田面出土遺物図(3)



第286図　第３水田面出土遺物図(4)



第287図　第３水田面出土遺物図(5)



第288図　第３水田面出土遺物図(6)

第289図　第３水田面出土遺物図(7)

（４）第４遺構面

水田

第４水田面（SI4001）（第291～310図）

規模と形状　98－5区・98－6区、99－3区で検出された水田は、ほぼ同規模の小区画水田が連続する。98－6区南側の島状高まり付近のみ不定型な区画で造成される。水田区画規模は約6.0×6.0mである。島状高まりを中心に遺物が出土した。

出土遺物　島状高まり出土の１は土師器杯、２は皿もしくは盤、３は高杯である。４は須恵器壺、５は長頸壺である。６は緑釉陶器皿である。

98－5・6区、99－1区出土の土師器１は高杯である。土師器２・３は杯である。杯２は内外面に赤色顔料が塗布されている。４～10は須恵器で、４・５は杯蓋、６・７は杯、８は高台付杯、９は無蓋高杯、10は壺である。

第１～４水田出土遺物（第311～316図）

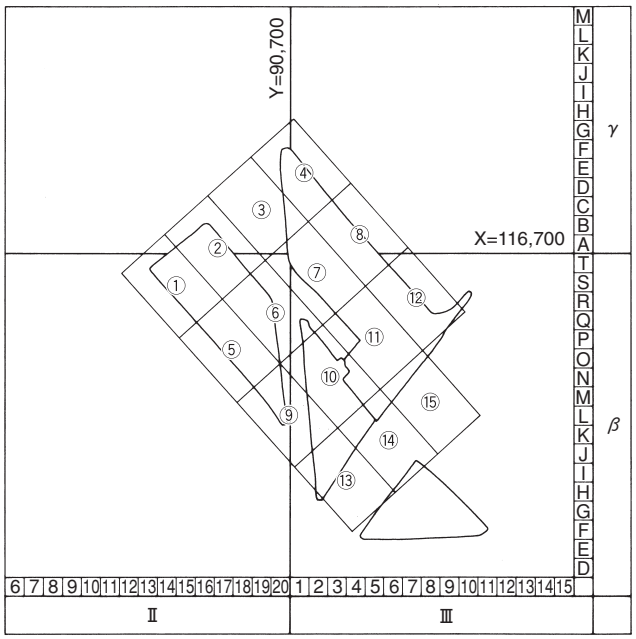
水田土壌掘削時に出土した遺物群を包含層出土遺物として取り上げているが、本来は各水田遺構に伴う遺物群である。

１・２は弥生土器甕である。１は口径30㎝を大きく上回る大形で、端部の上下への拡張から弥生時代中期末ごろのものとみられる。３～24・31～34は土師器で、３・４は甕、５～12は杯であり、杯のうち、７・11・12・13・14は内外面に赤色顔料が塗布されている。13～16は皿であり、13・14・16は内外面に赤色顔料を塗布している。皿13は黒痕らしいものがみえ、墨書土器の可能性もある。17は器種不明である。内外面に赤色顔料が塗布され、体部下半に穿孔が施されている。18は高杯で、内外面に赤色顔料が塗布されている。19は鉢であり、内面に炭素が吸着している。20・21は黒色土器椀で、椀21は内外面に赤色顔料が塗布されている。22・23は土師質の竈形土器である。土師器24は手捏ね土器である。25・26・28・29は須恵器で、25はハソウまたは長頸壺、26は壺である。須恵器28は杯である。須恵器29は蓋である。27・20は陶器で、27は椀、30は皿である。31・32は土師質土器羽釜で、羽釜31の内外面に煤が付着する。土師器33・34は杯である。杯33は穿孔が施されている。杯34は内外面に赤色顔料を塗布し、未貫通の穿孔がある。35・36は紡錘車である。共に弥生土器の体部を転用したものである。37・38は製塩土器である。39～42は瓦類で、39は丸瓦、40は軒平瓦、41は丸瓦、42は平瓦である。40には瓦当文様の唐草文の一部が見える。43は棒状土錘、44～52は管状土錘である。53～56は鞴羽口である。

第１～４包含層出土遺物（第317～318図）

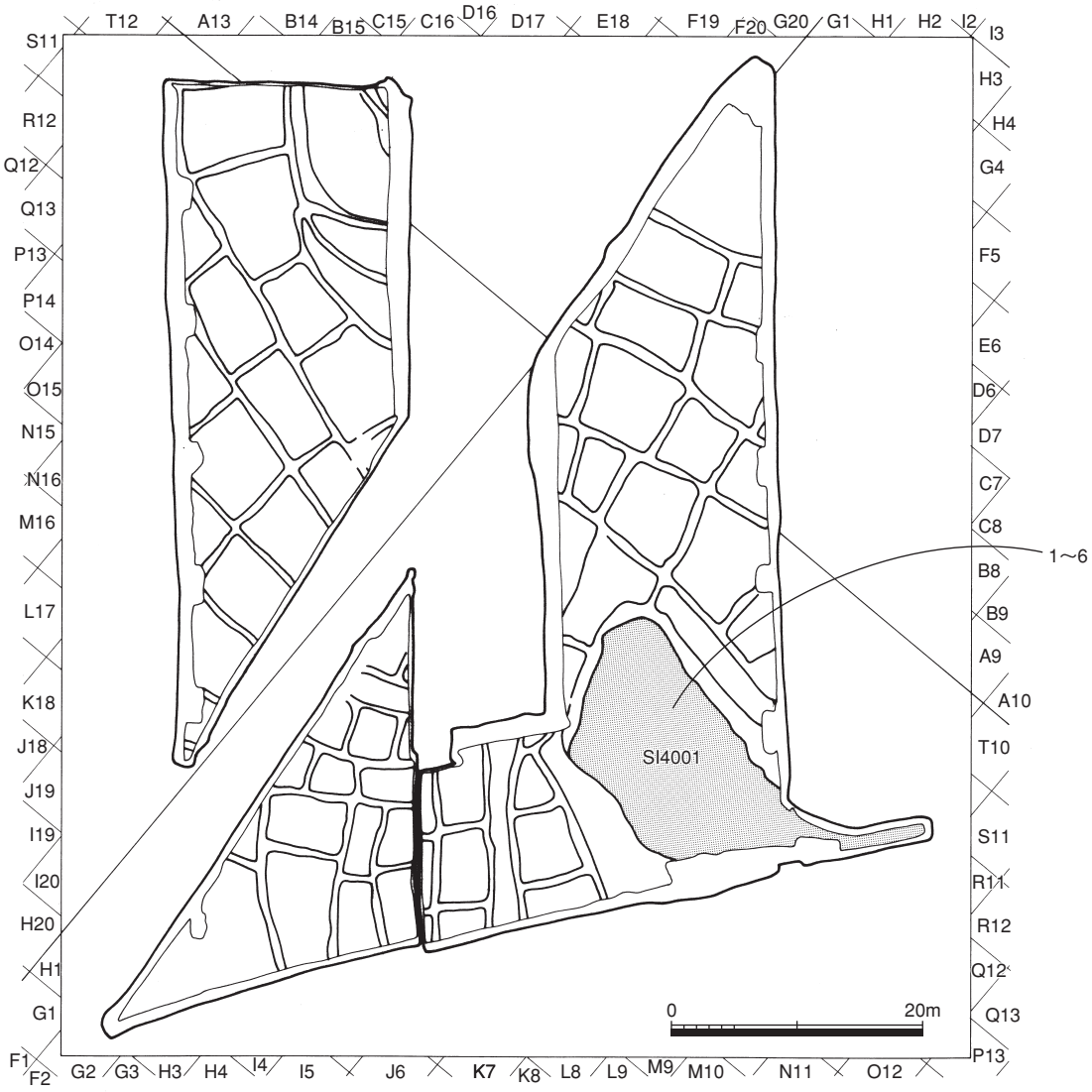
57～71は土師器で、57は甕、58は鉢である。58は口縁部に焼成後の穿孔が施されている。59は椀、60～62は皿、63は高杯、64～69は杯である。杯のうち、64・65・67は内外面に赤色顔料を塗布している。70は瓦器椀である。71は土師質の竈である。72・73は管状土錘である。74は不明な土製品である。75は軒平瓦である。顎に明瞭な段をもち、瓦当には唐草文の一部がみえる。76は製塩土器である。77は須恵器長頸壺、78は緑釉陶器椀、79は須恵器杯蓋、80は椀である。81は陶器椀、82は緑釉陶器椀である。

鉄製品Ｔ３～５・７・８は釘である。Ｔ６は火箸である。Ｔ９は鎌である。T10は不明鉄製品である。T11は刃器である。背部が湾曲する。T12は不明鉄製品である。T13は座金もしくは責金具である。T14は鐙、T15は鉸具である。T16～19は鏨、T20は不明鉄製品、T21は釘もしくは鋲、T22は刀子茎であ

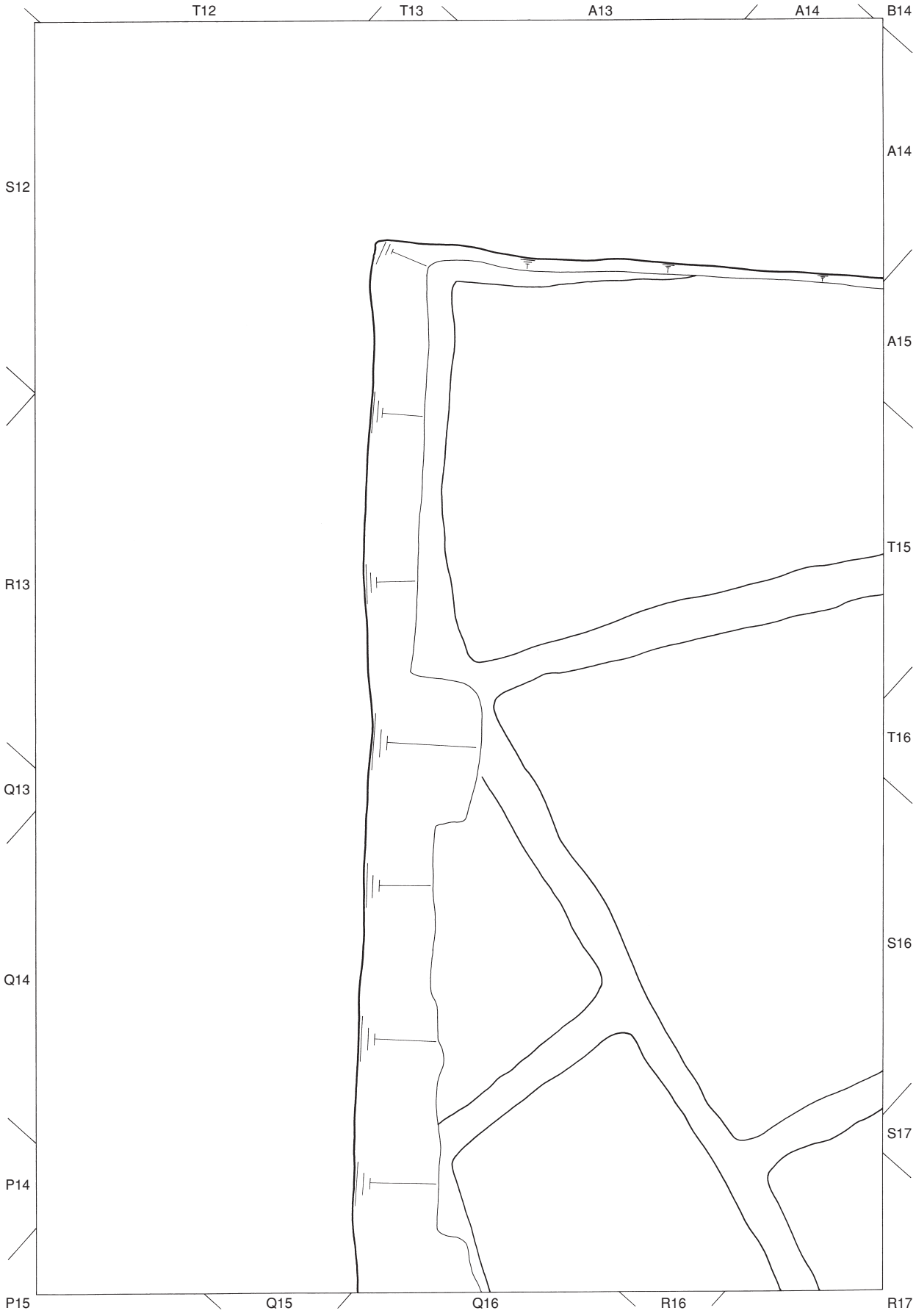


割付図の①～⑮までの番号は、第292図～第306図までに記載されているキャプションの数字と同じである

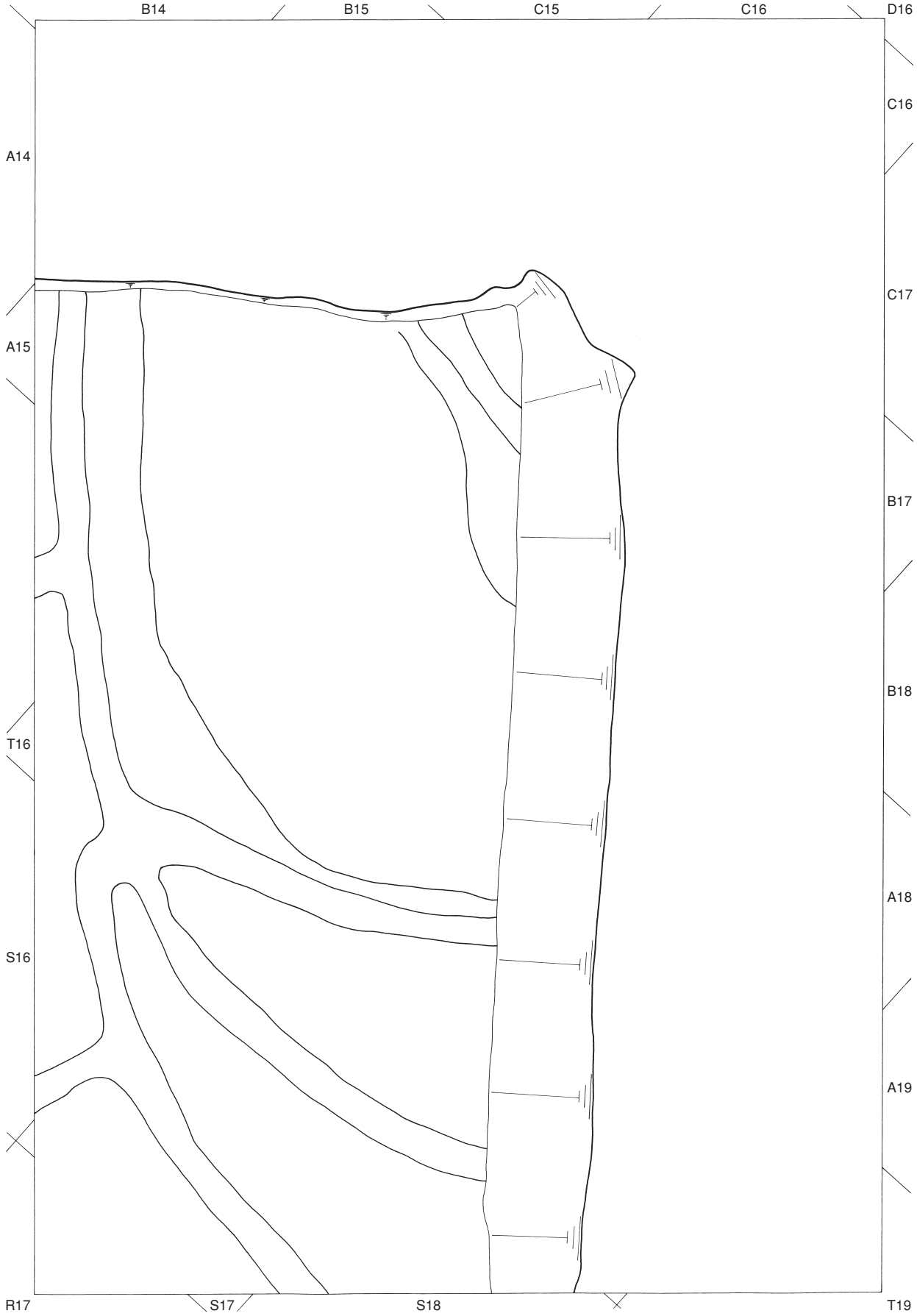
第290図　第４水田面遺構平面割付図（S＝1/2000）



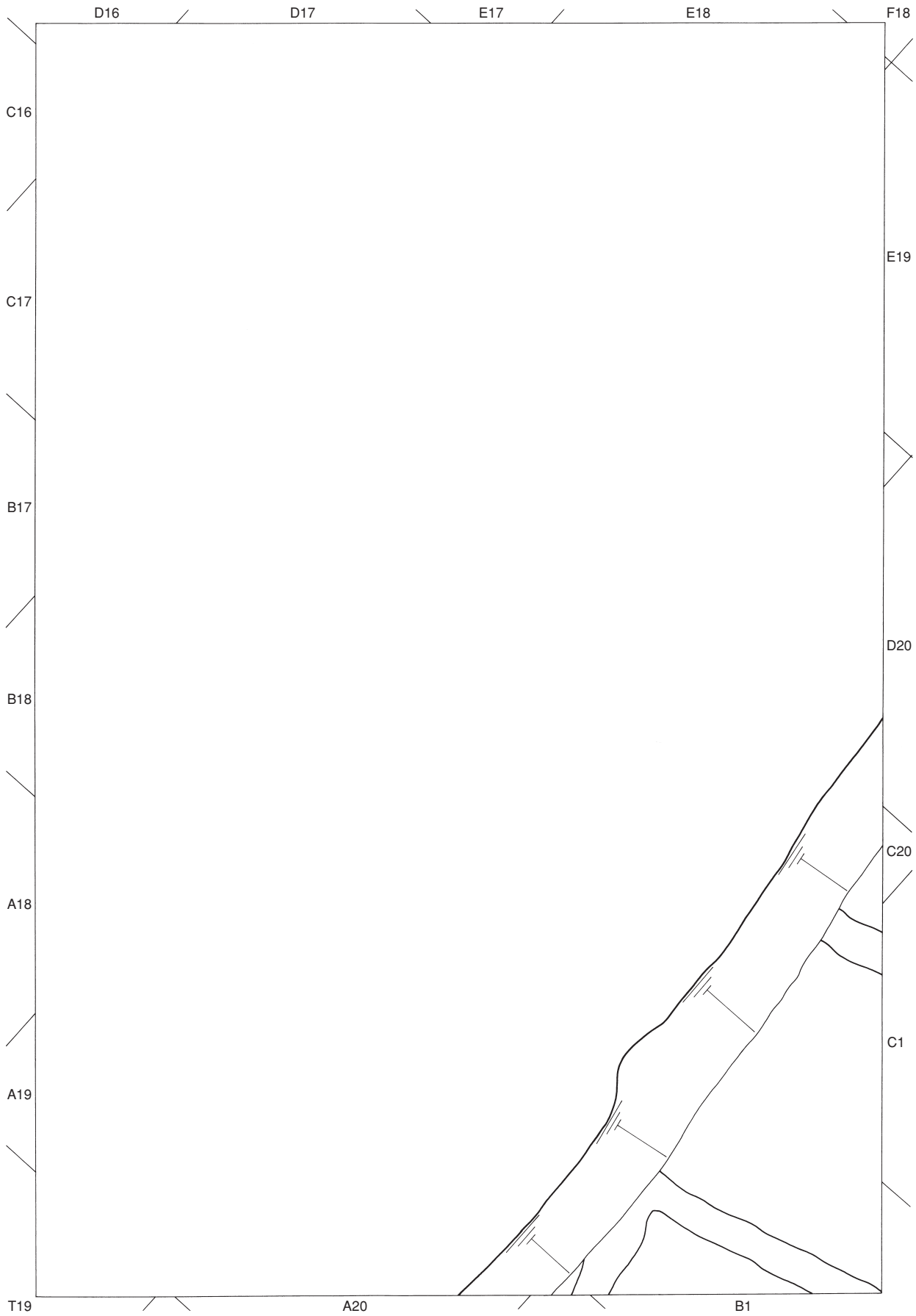
第291図　第４水田面遺構配置図（S＝1/600）



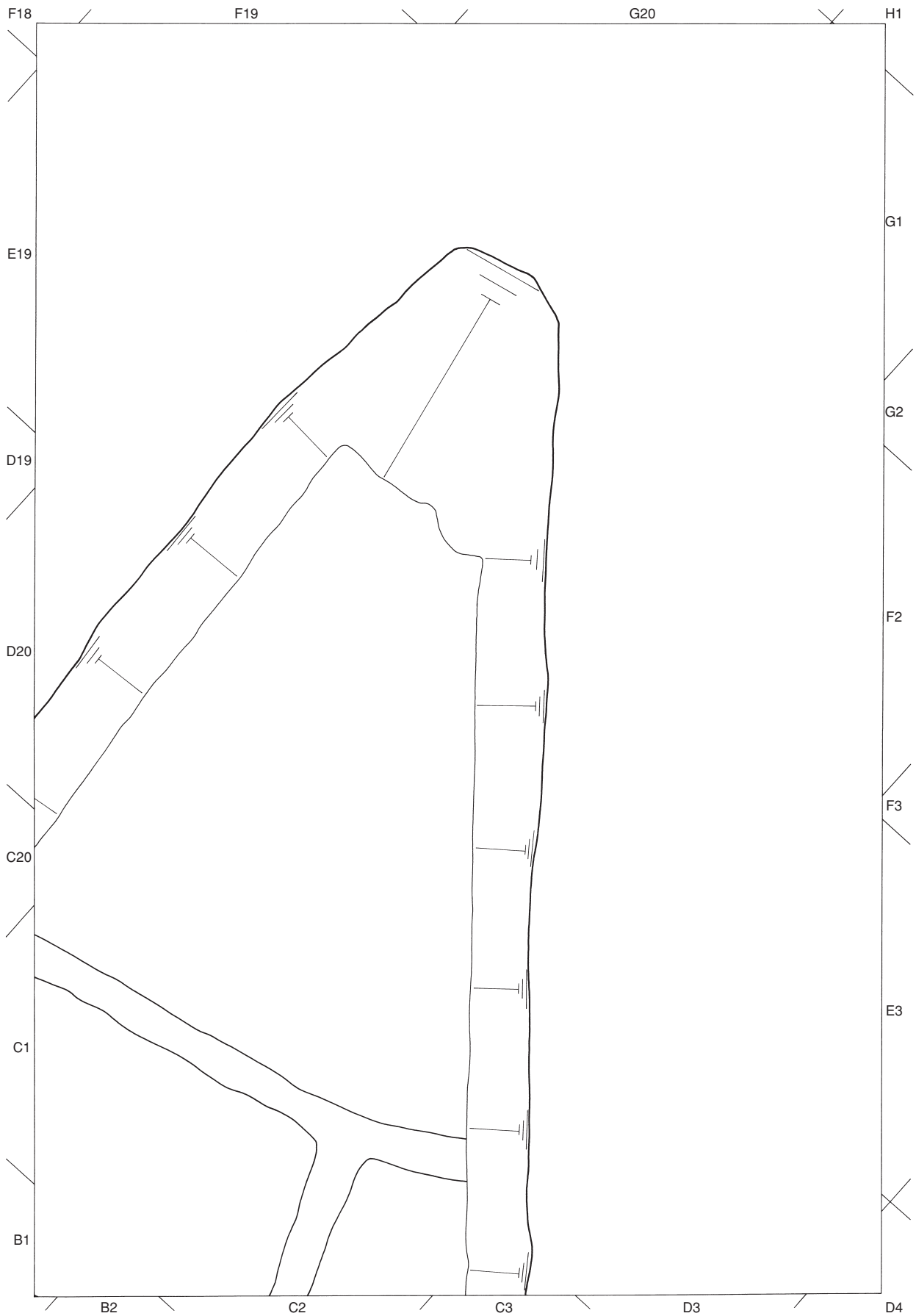
第292図　第４水田面遺構平面図(1)（S＝1/100）



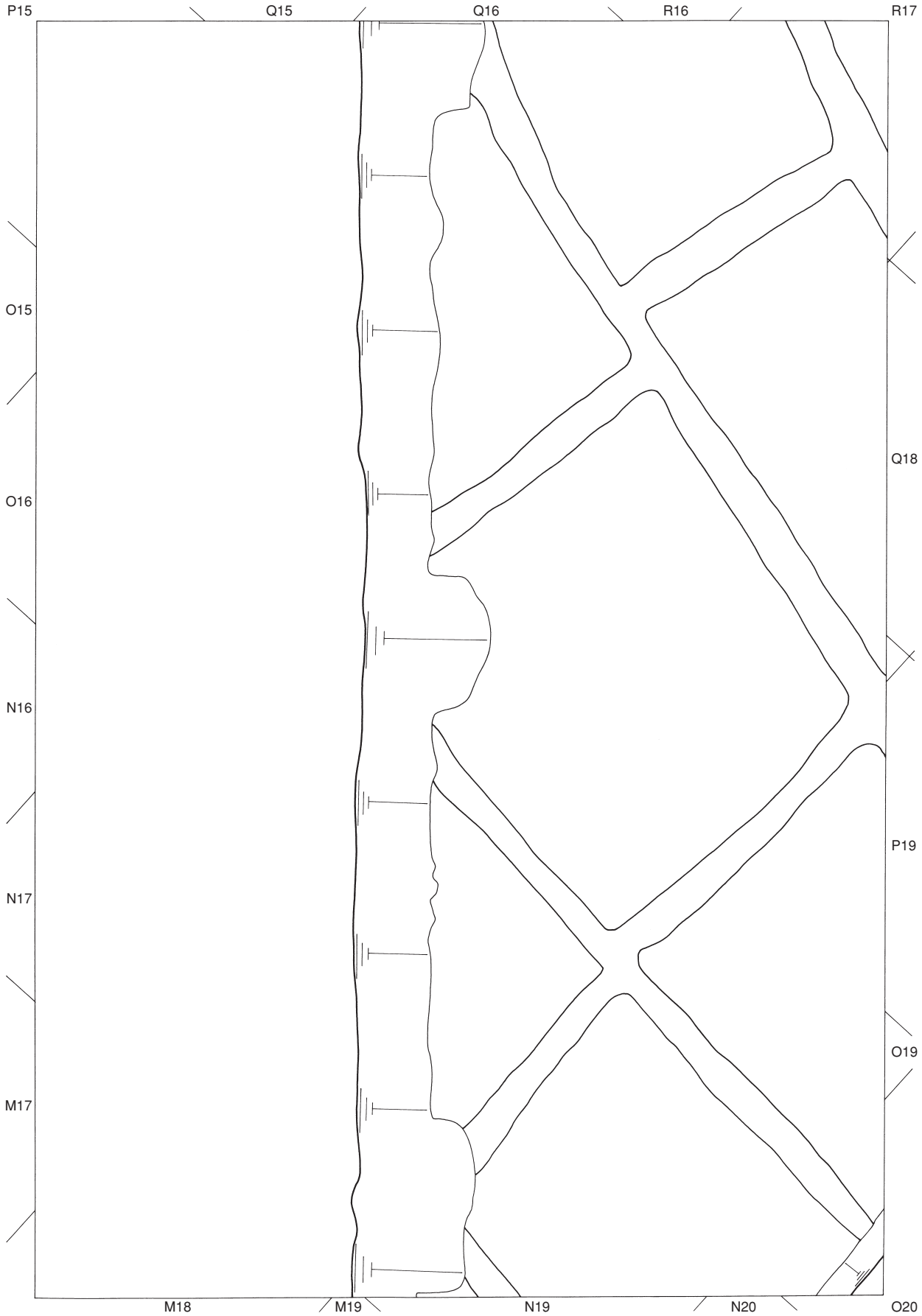
第293図　第４水田面遺構平面図(2)（S＝1/100）



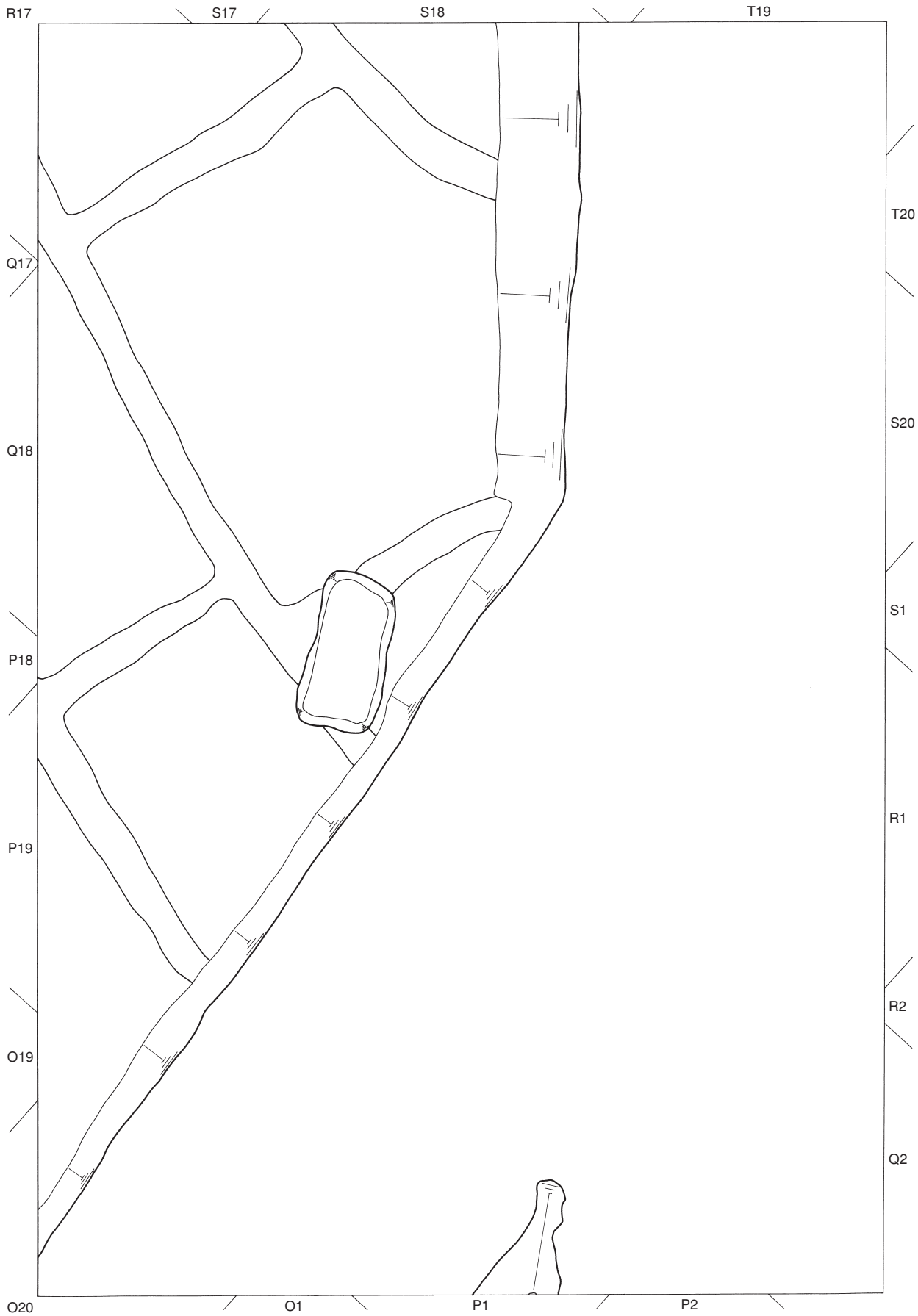
第294図　第４水田面遺構平面図(3)（S＝1/100）



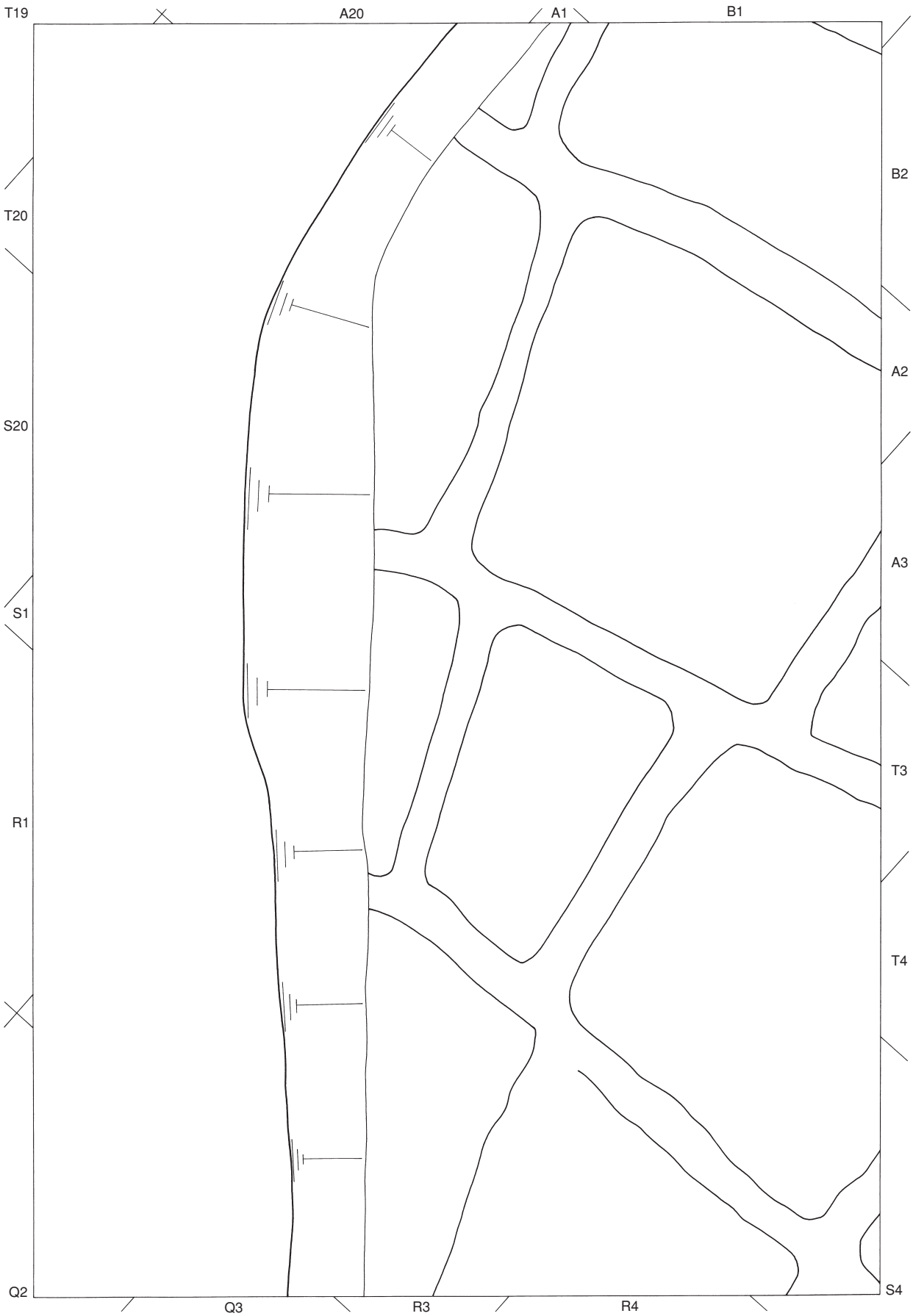
第295図　第４水田面遺構平面図(4)（S＝1/100）



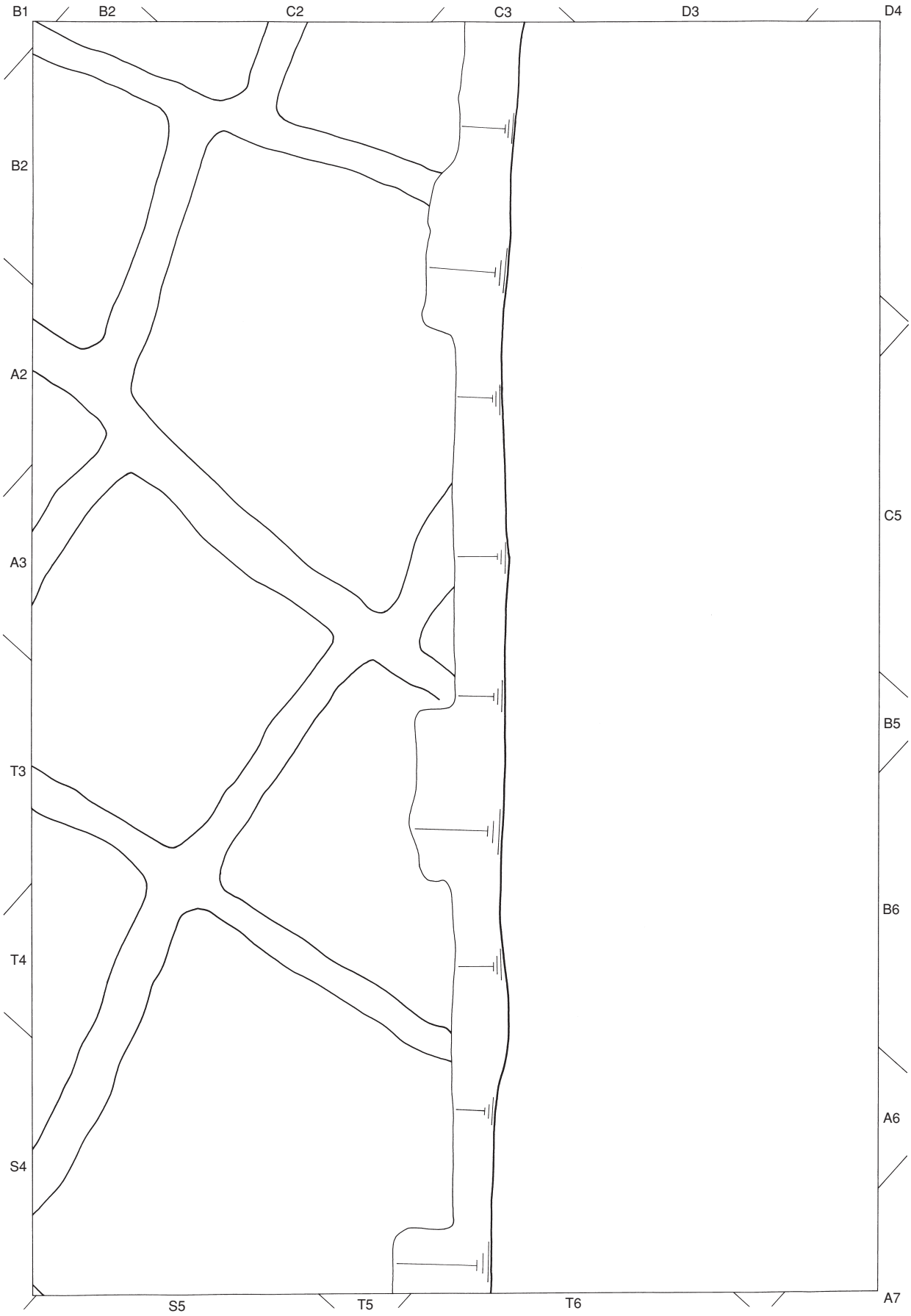
第296図　第４水田面遺構平面図(5)（S＝1/100）



第297図　第４水田面遺構平面図(6)（S＝1/100）



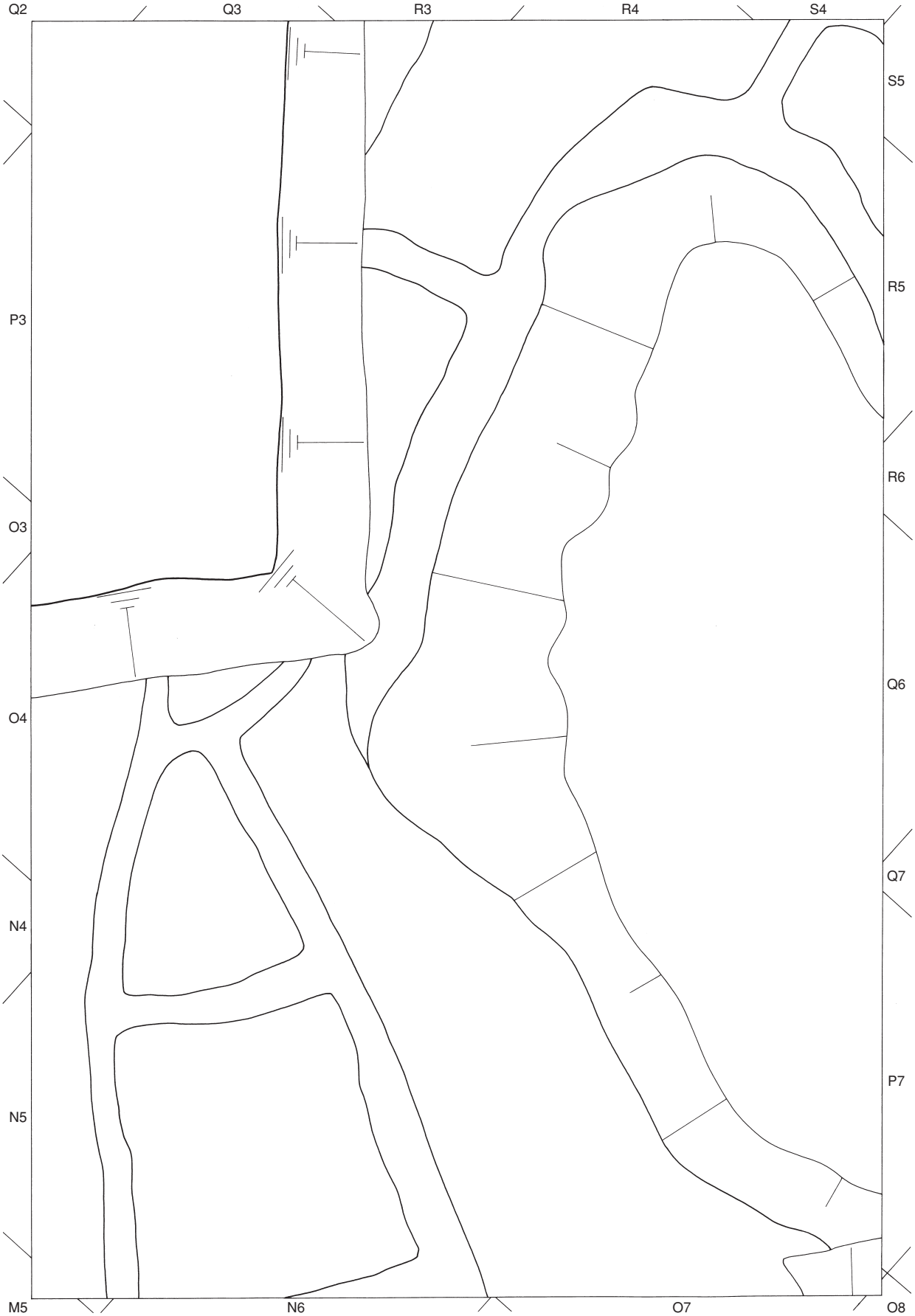
第298図　第４水田面遺構平面図(7)（S＝1/100）



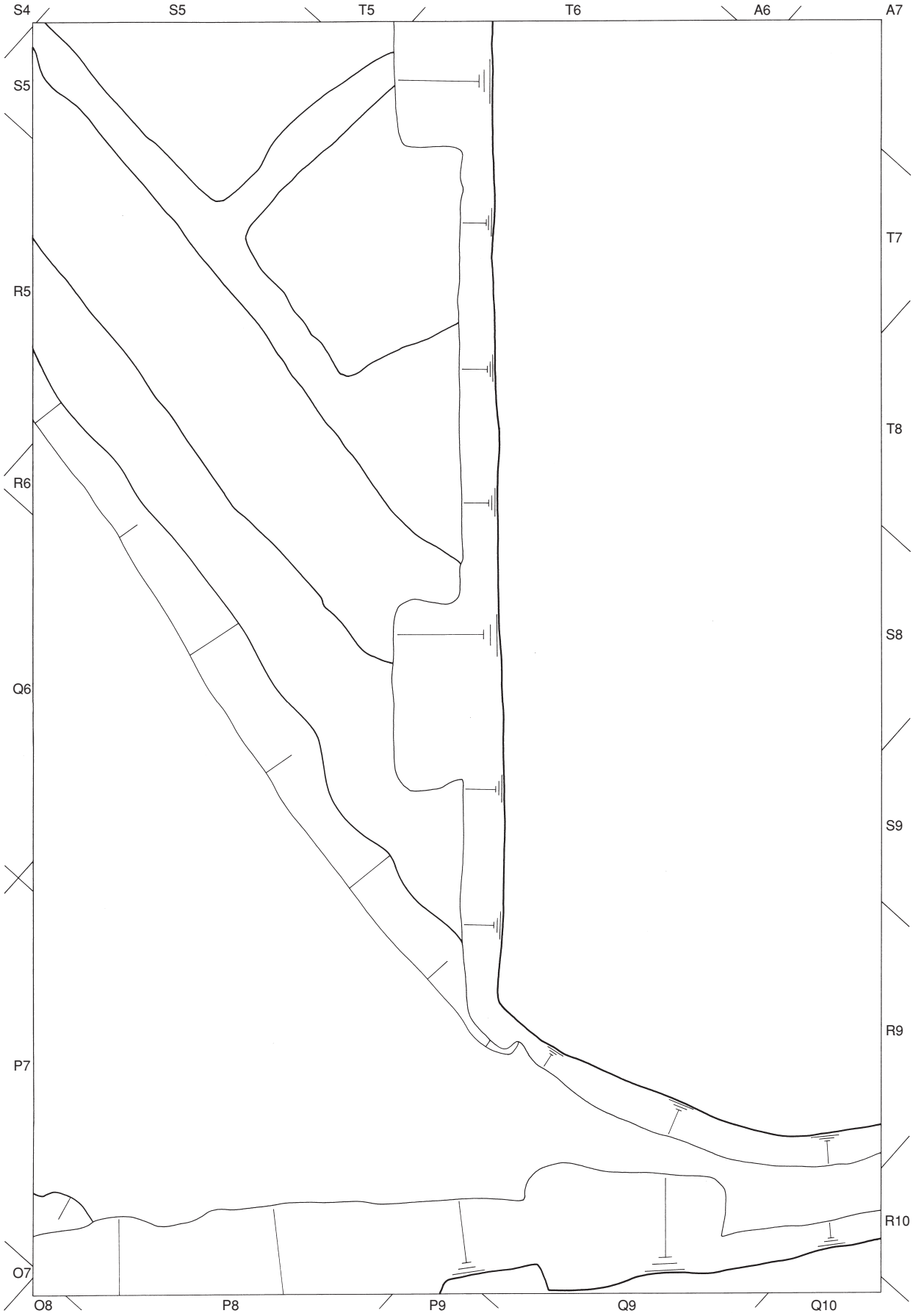
第299図　第４水田面遺構平面図(8)（S＝1/100）

第300図　第４水田面遺構平面図(9)（S＝1/100）

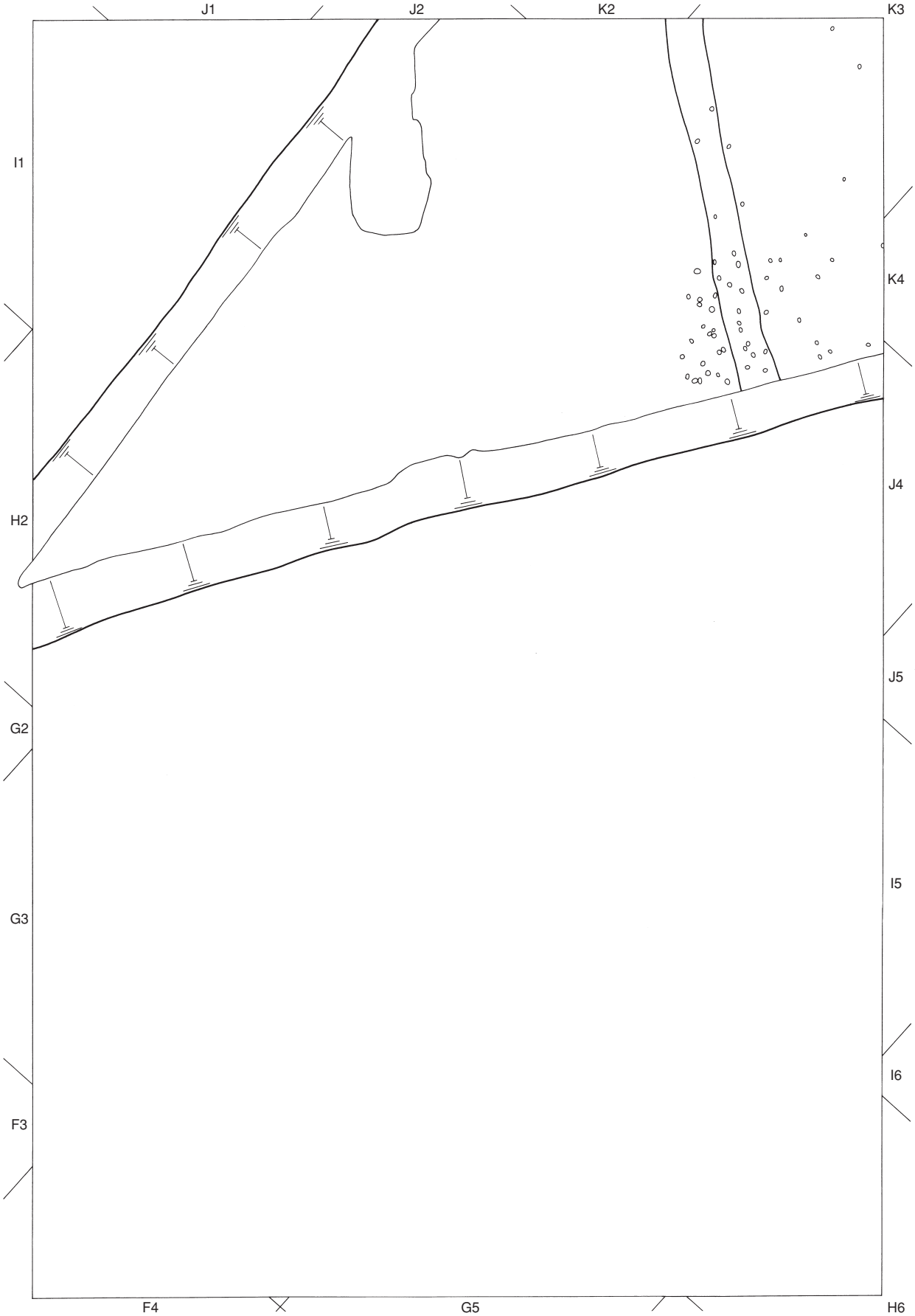
第301図　第４水田面遺構平面図⑽（S＝1/100）



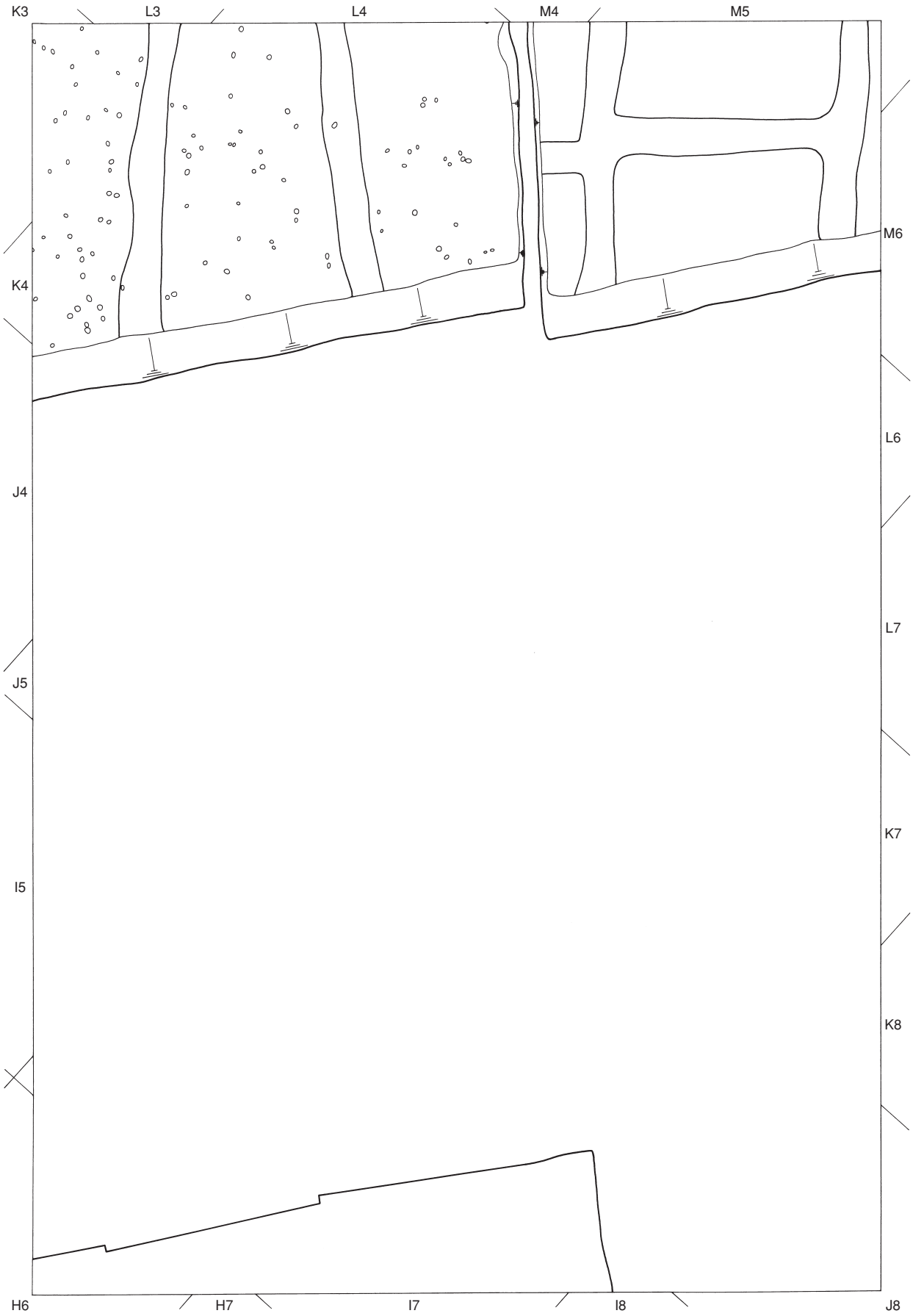
第302図　第４水田面遺構平面図(11)（S＝1/100）



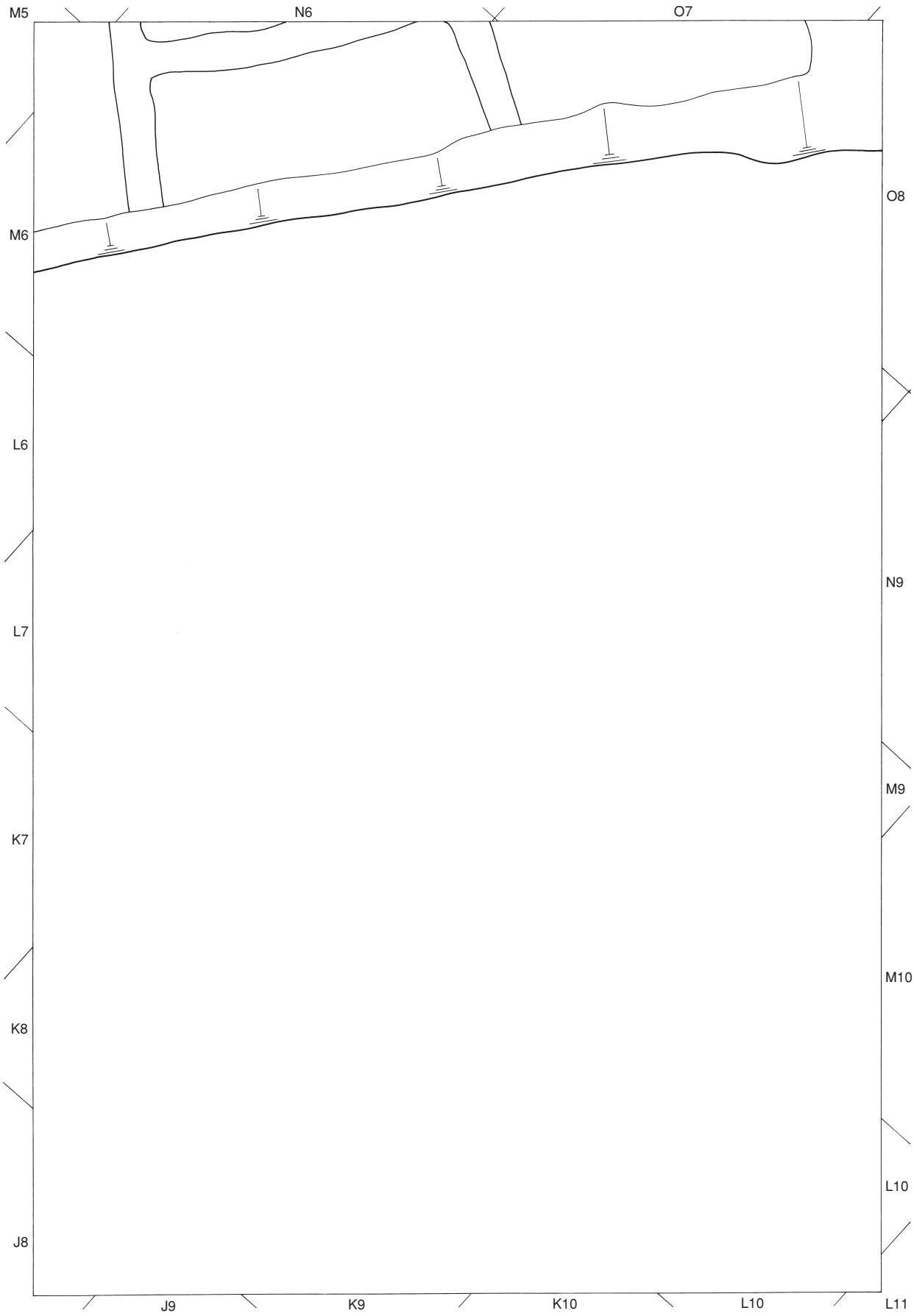
第303図　第４水田面遺構平面図⑫（S＝1/100）



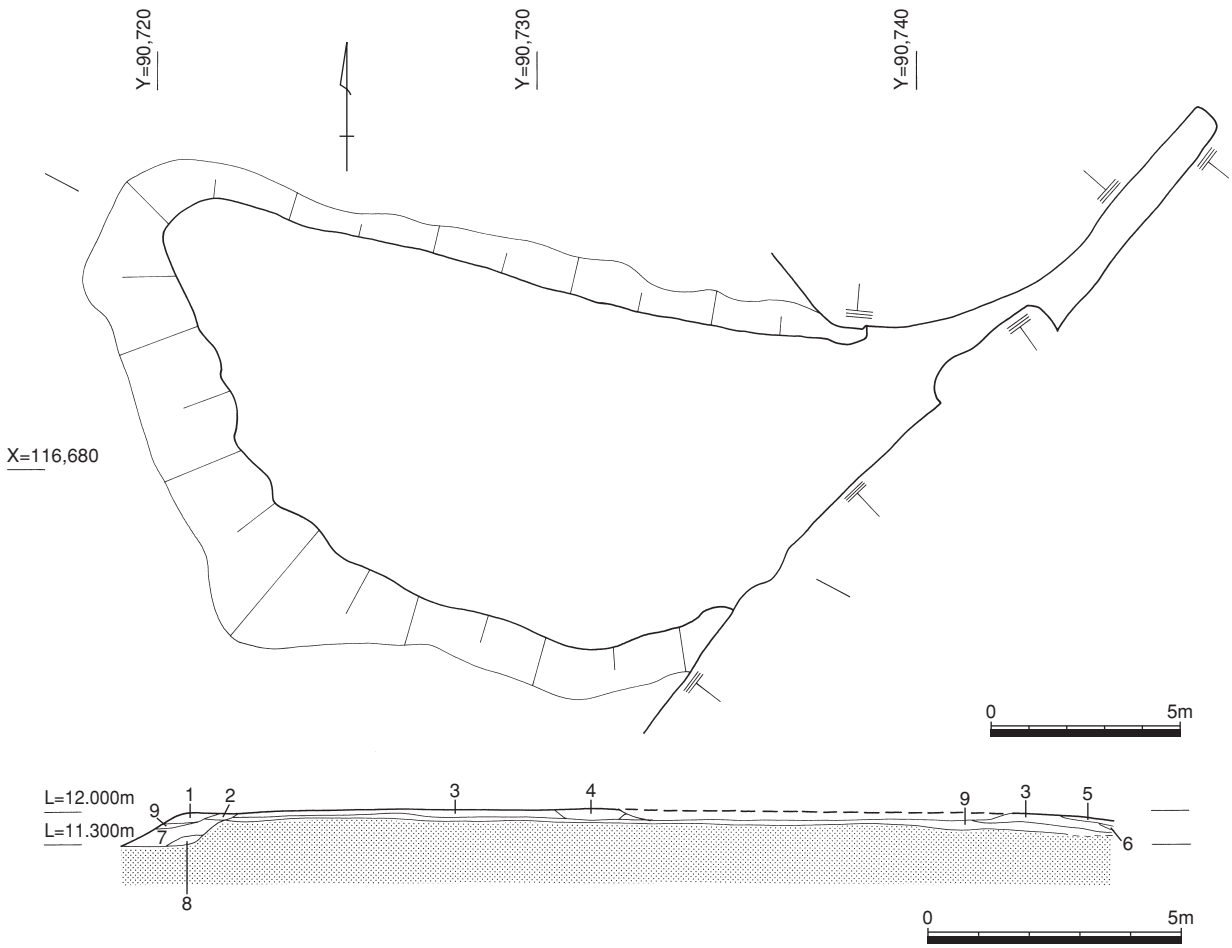
第304図　第４水田面遺構平面図⒀（S＝1/100）



第305図　第４水田面遺構平面図⑭（S＝1/100）

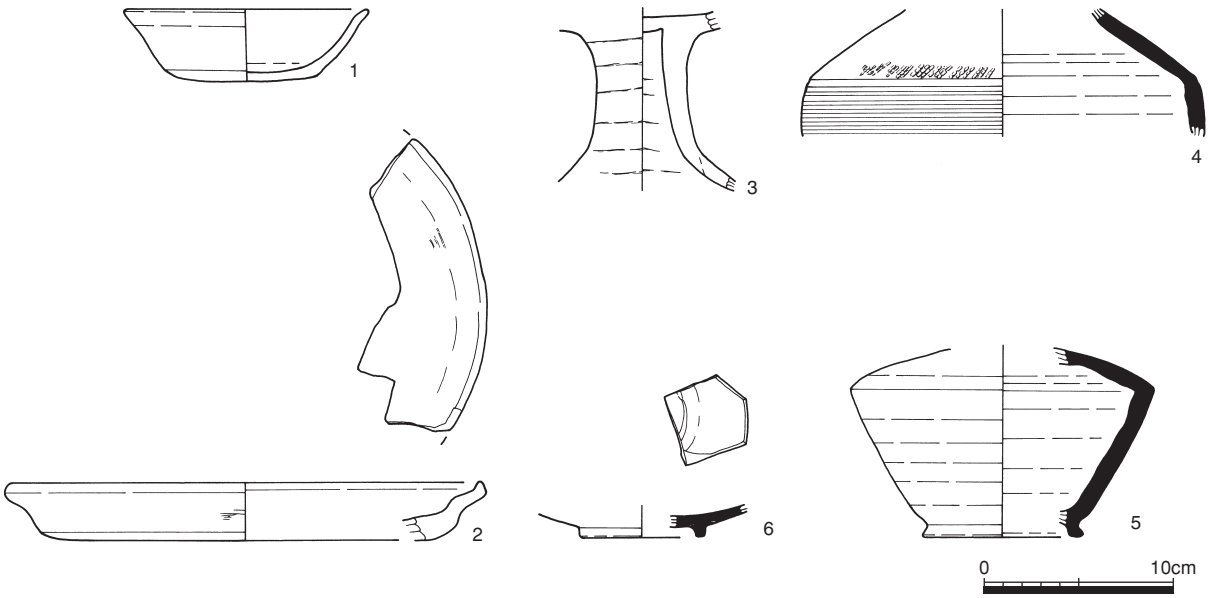


第306図　第４水田面遺構平面図⑮（S＝1/100）

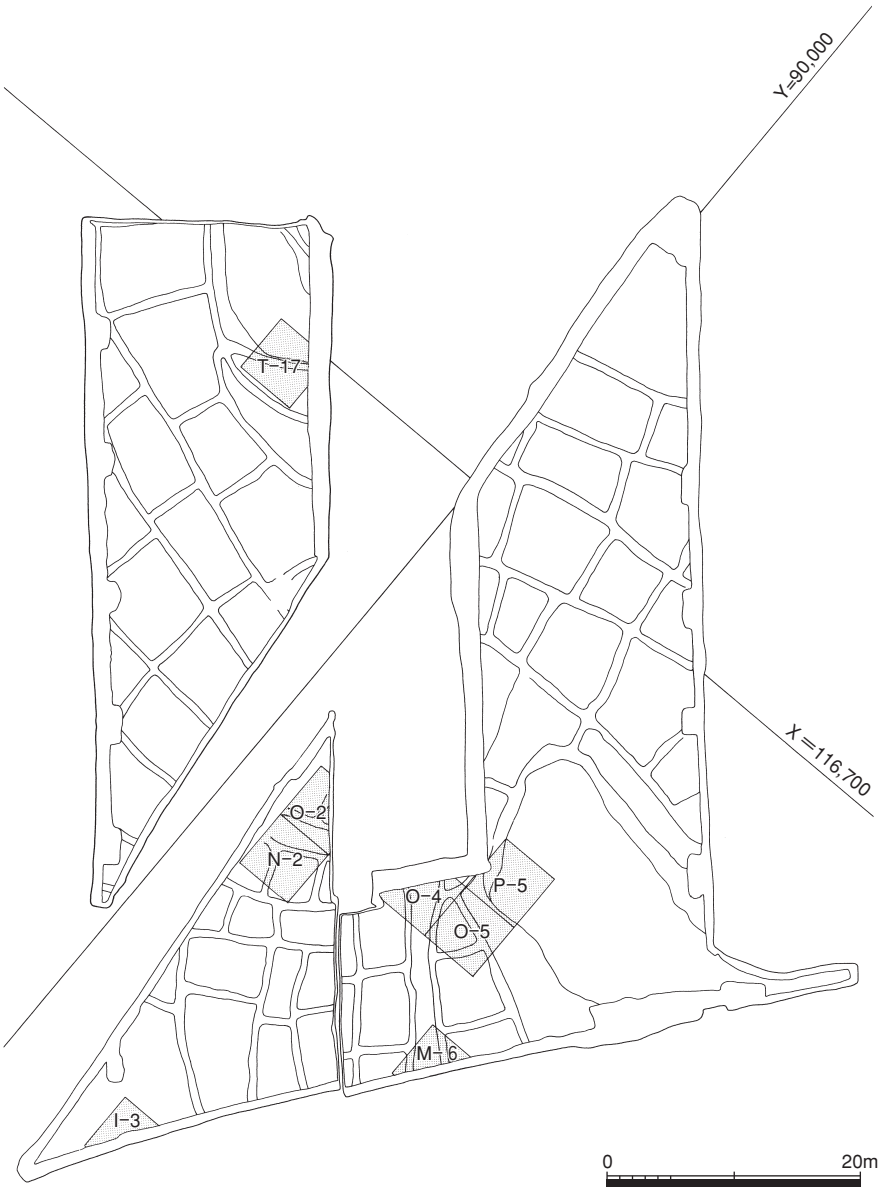


1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質土	5	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘質土	9	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土
2	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土	6	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘質土	10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	
3	2.5Y5/4	黄褐色	粘質土	7	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質土				
4	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土	8	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質土				

第307図　SI4001島状高まり平・断面図

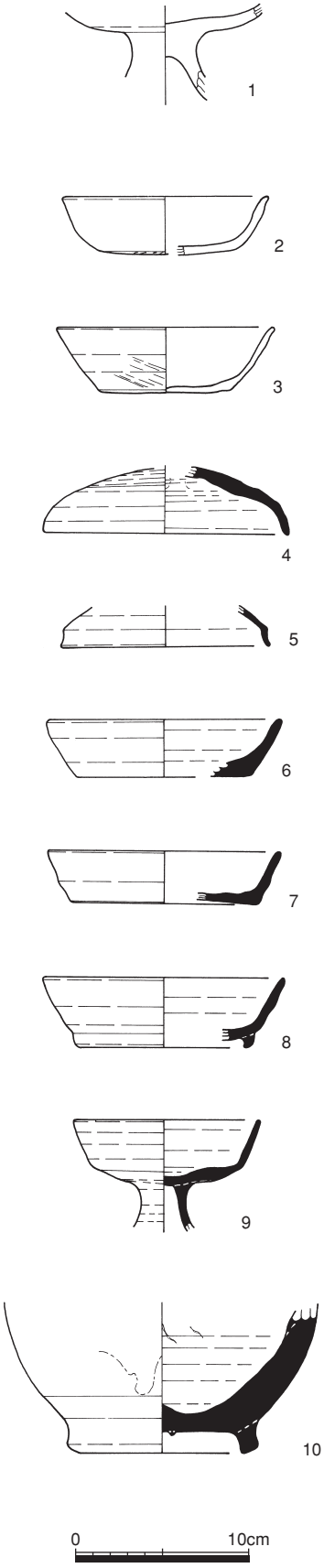


第308図　SI4001島状高まり周辺出土遺物図

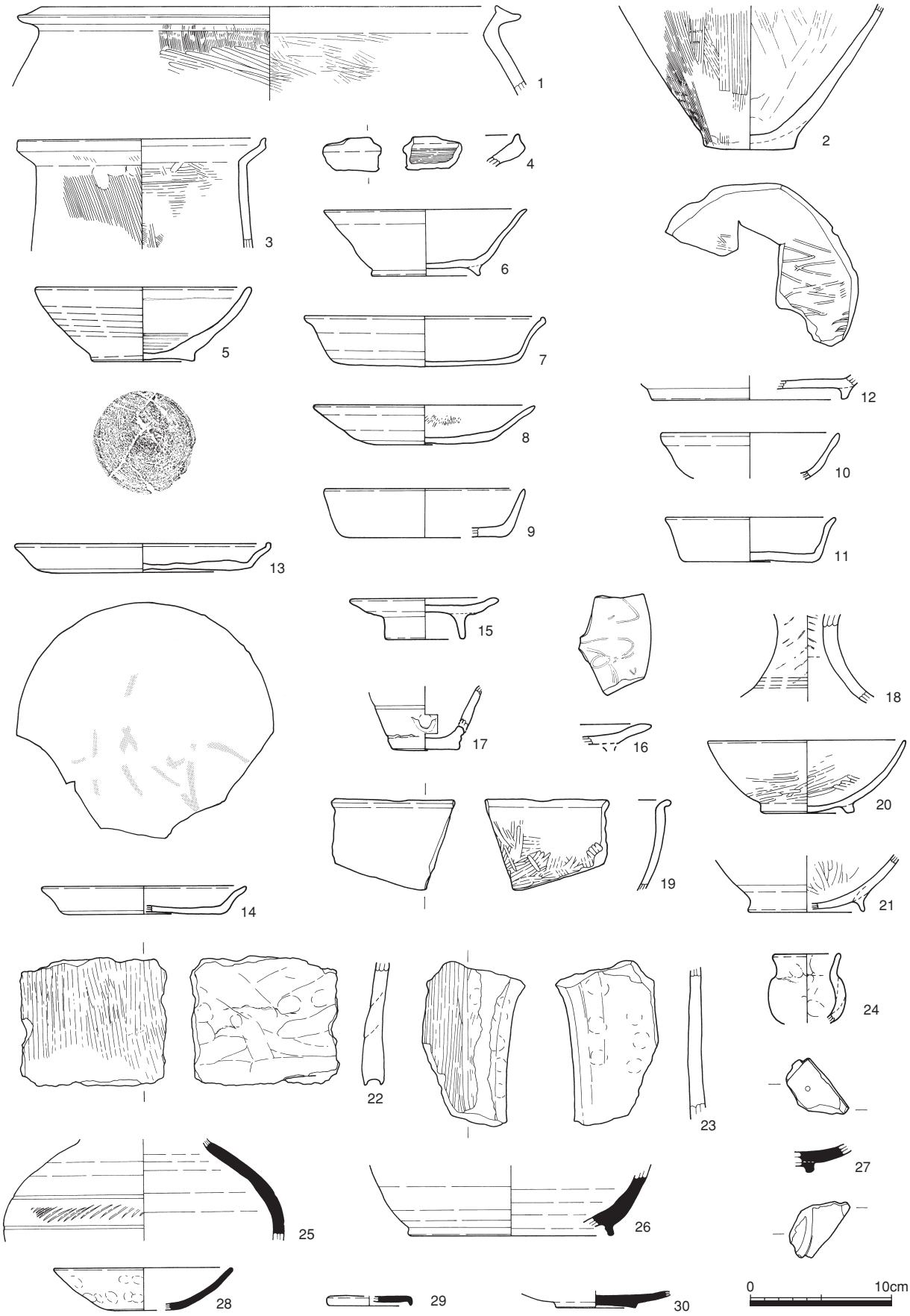


・β－2　Ｉ－３…310－２、３、７、８、９、10
Ｍ－６…225－13
Ｎ－２…310－３
Ｏ－２…310－４
Ｏ－４…310－１、225－11、13
Ｏ－５…225－13
Ｐ－５…225－11、13
・γ－2　Ｔ－17…310－５

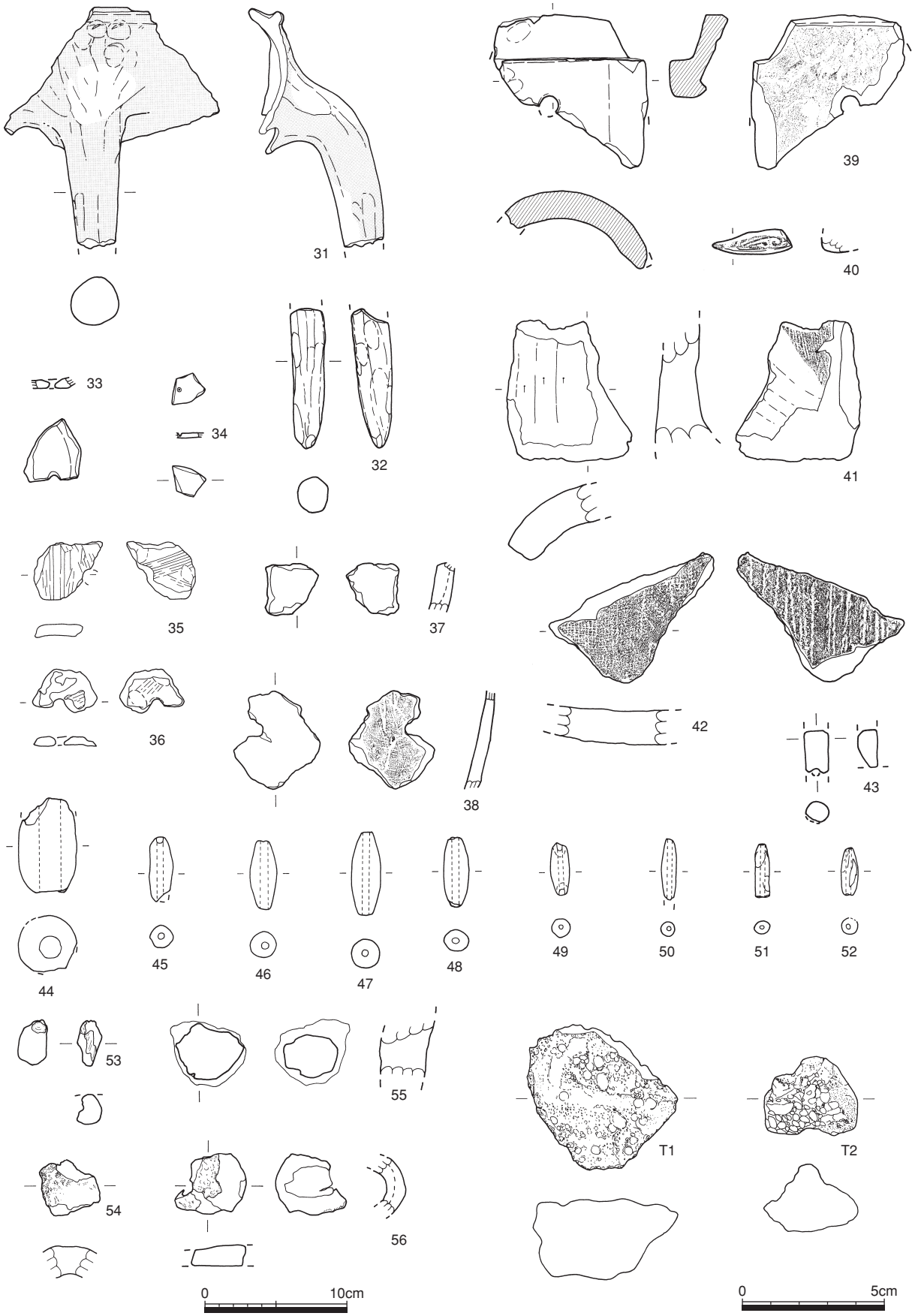
第309図　第４水田面遺物出土地点グリッド対応図



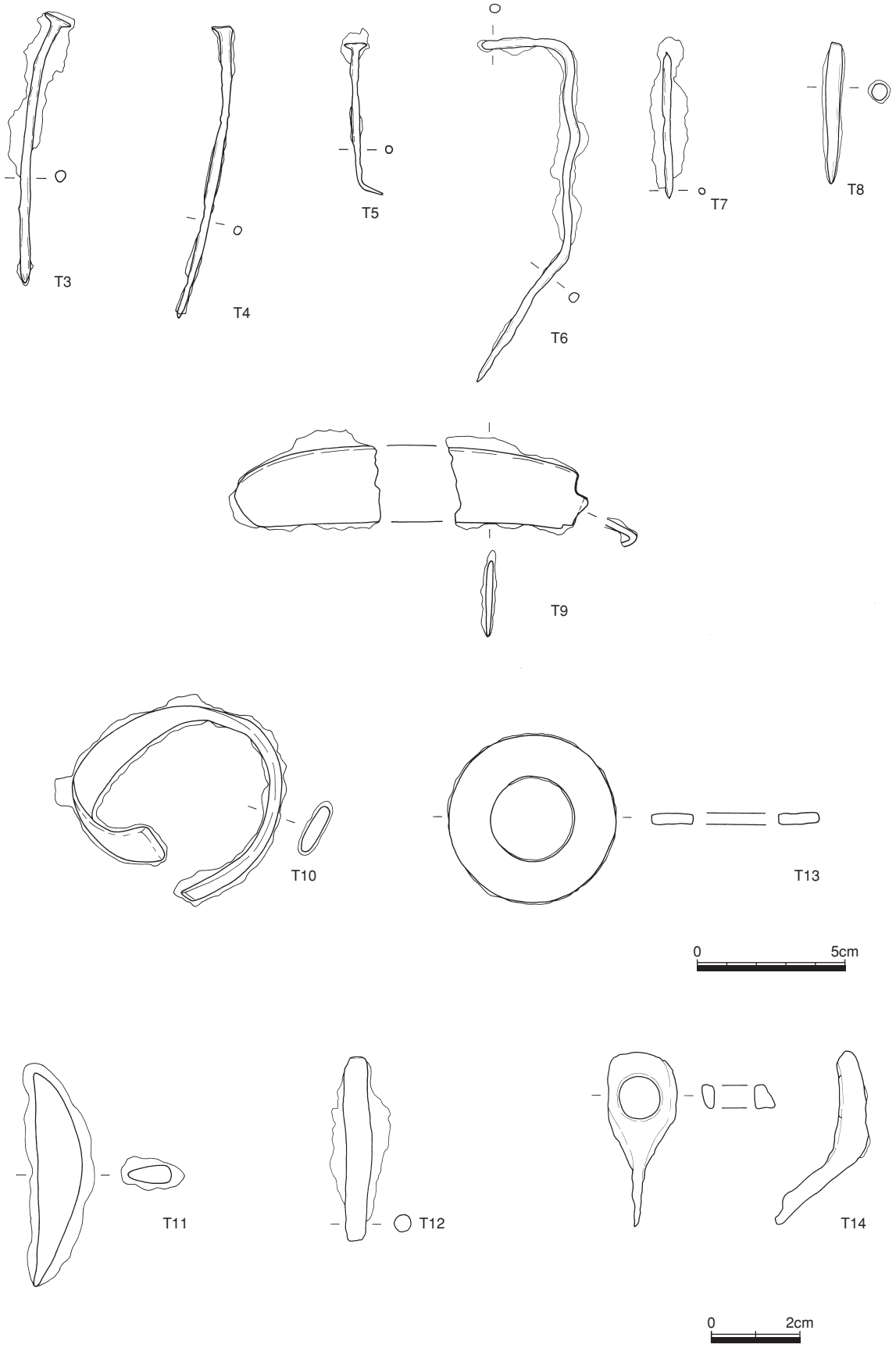
第310図　第４水田面出土遺物図



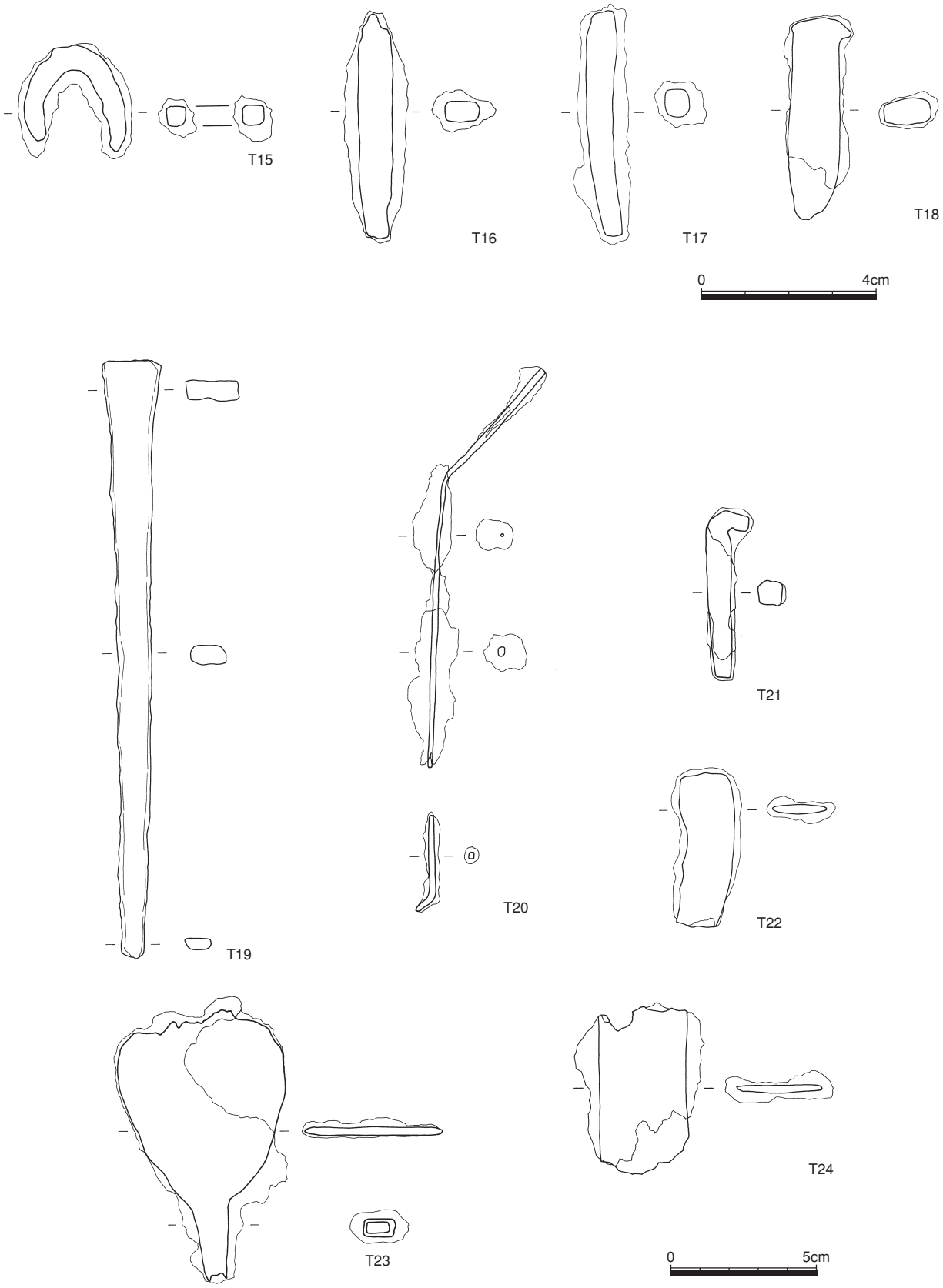
第311図　第１～４包含層出土遺物(1)



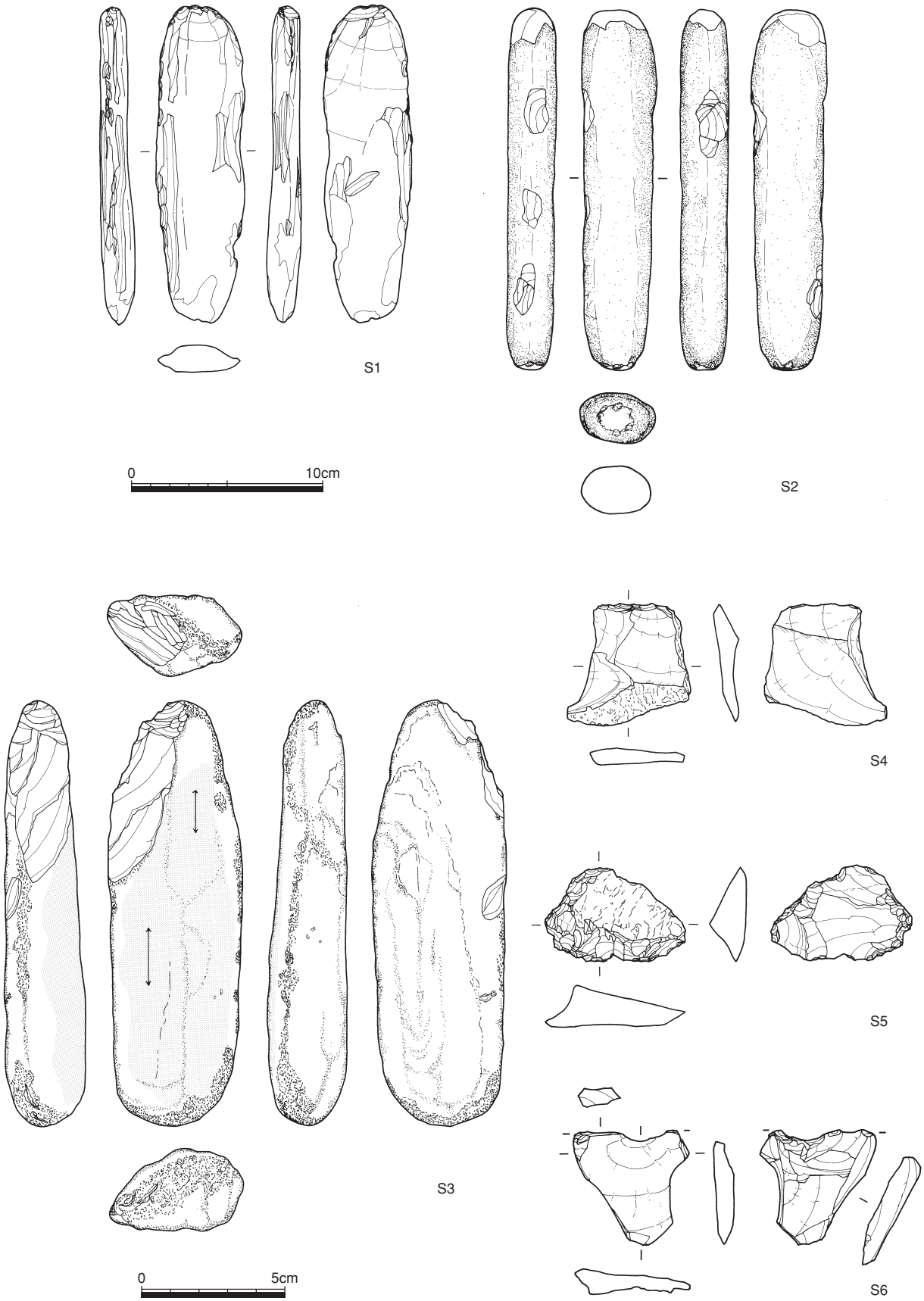
第312図　第１～４包含層出土遺物(2)



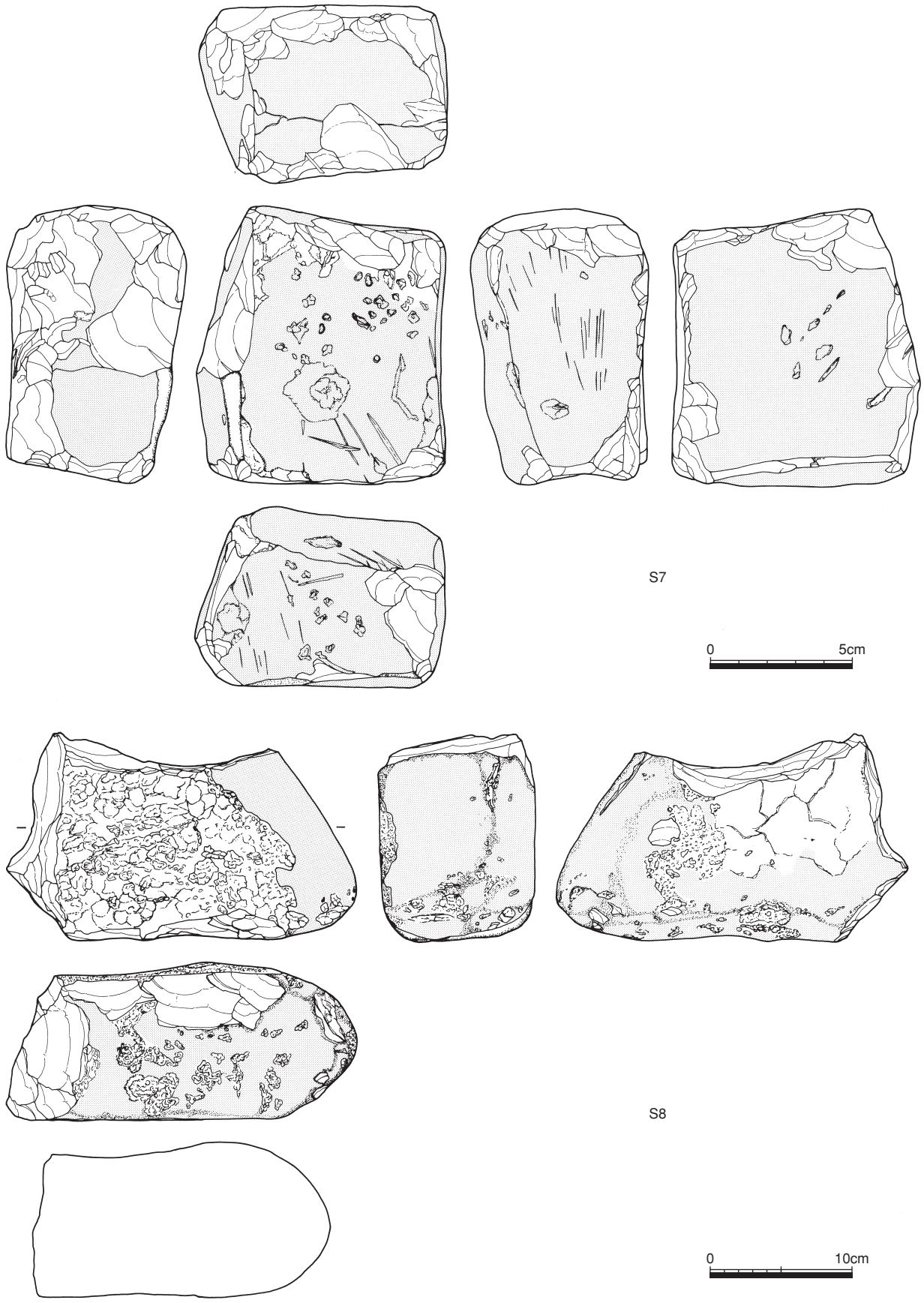
第313図　第１～４包含層出土遺物(3)



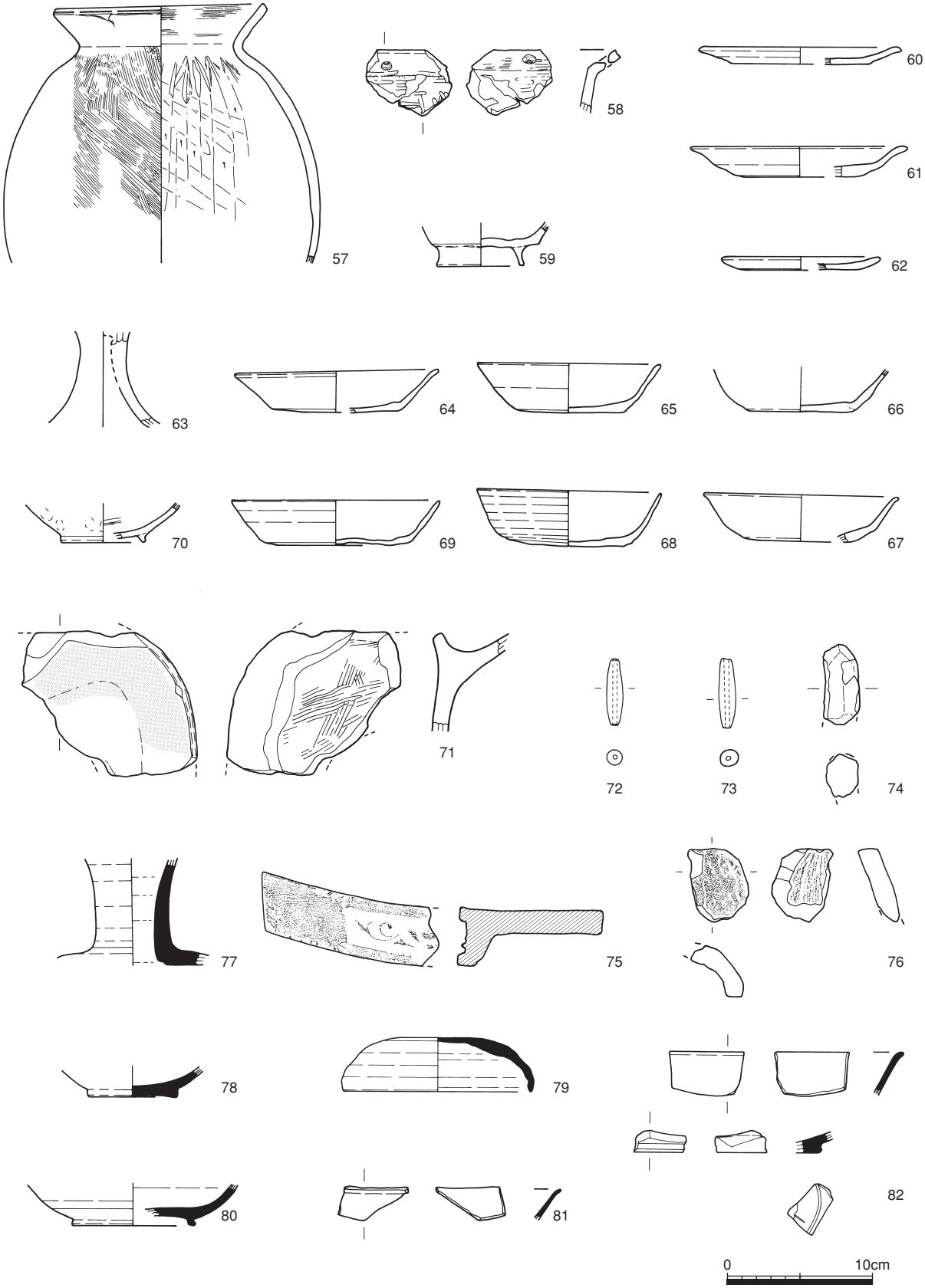
第314図　第１～４包含層出土遺物(4)



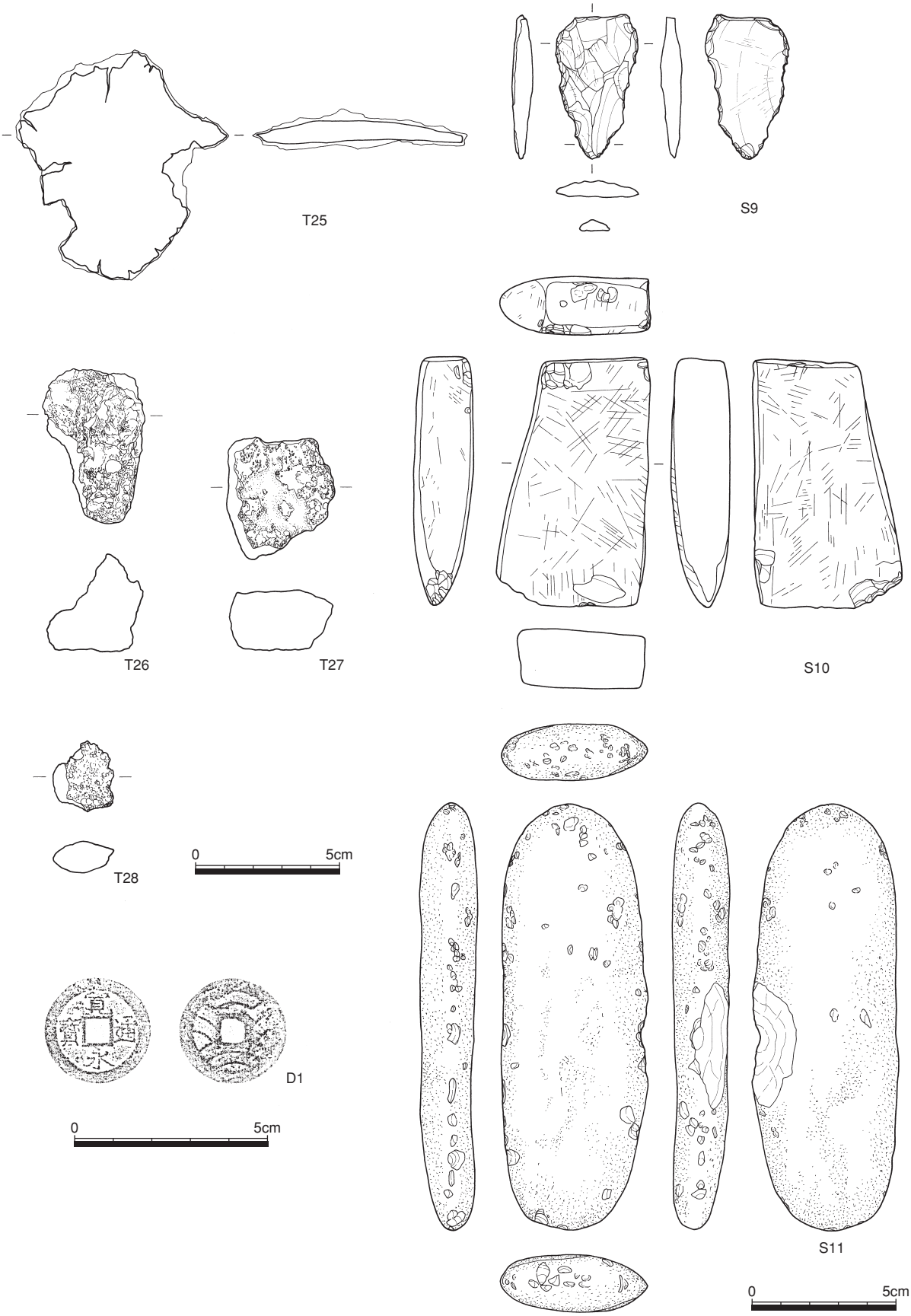
第315図　第１～４包含層出土遺物(5)



第316図　第１～４包含層出土遺物(6)



第317図　第１～４包含層出土遺物(7)



第318図　第１～４包含層出土遺物(8)

る。T23は匙もしくはヘラ状鉄製品である。T24は刀子である。T25は不明鉄製品、鋳造鋤先の一部か。T26・27・28は鉄滓である。

石器Ｓ１は緑泥片岩製砥石である。Ｓ２は結晶片岩製敲石もしくは石棒か。上下端に摩滅が認められる。Ｓ３は泥質片岩製敲石、Ｓ４はサヌカイト製剥片、Ｓ５はチャート製剥片、Ｓ６はサヌカイト製楔形石器、Ｓ７は砂岩製砥石、Ｓ８は砂岩製砥石である。Ｓ８は台石として転用している可能性がある。Ｓ９はチャート製石錐、S10は緑泥片岩製磨製石斧、S11は御荷鉾石製敲石である。

（５）第５遺構面

弥生時代中期～後期と考えられる遺構が検出され、これらに伴う遺物も出土している。検出された遺構の種類は、竪穴住居（SB）、溝（SD）、土坑（SK）、ピット（SP）、土壙墓、集石墓（ST）、性格不明遺構（SX）である。遺構検出数は、竪穴住居２基、溝６基、土坑41基、ピット100基、土壙墓12基、集石墓２基、性格不明遺構15基、合計200基の遺構確認できている。以下は、検出された遺構から遺物の出土しているものを報告する。

竪穴住居

１号竪穴住居（SB5001）（第319～325図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　Ｄ－3グリッド

規模と形状　長軸4.85m、短軸2.10m、最大深度0.15mを測る竪穴住居である。平面形態は円形を呈する。北側約１／２は調査区外へと拡がる。

推定中央部より炉（EH１）が検出された。全長は不明、幅0.8mを測る。平面形態は不整形を呈し、主軸は南北方向を指向すると推定される。遺構覆土には炭化物を含む。

主柱穴は３基検出された。EP1～2間は1.5m、EP2～3間は２mを測る。主柱穴の周辺には小型の柱穴が伴うが、主柱穴に伴う遺構であるかは不明である。周壁溝は未検出である。

土層　遺構覆土は９層に分層できる。１層はにぶい黄褐色シルト質土、２層は暗褐色シルト質土、３層はオリーブ褐色シルト質土、４層は黄褐色シルト質土、５層は褐色シルト質土、６層はにぶい黄橙色シルト質土、７・８層はにぶい黄褐色シルト質土、９層は褐色シルト質土である。

遺物出土状況　EP３覆土上面から弥生土器１・３が出土した。壺１の破片はEH１西側からも出土した。EH１の周辺には結晶片岩川原石Ｓ２が出土している。

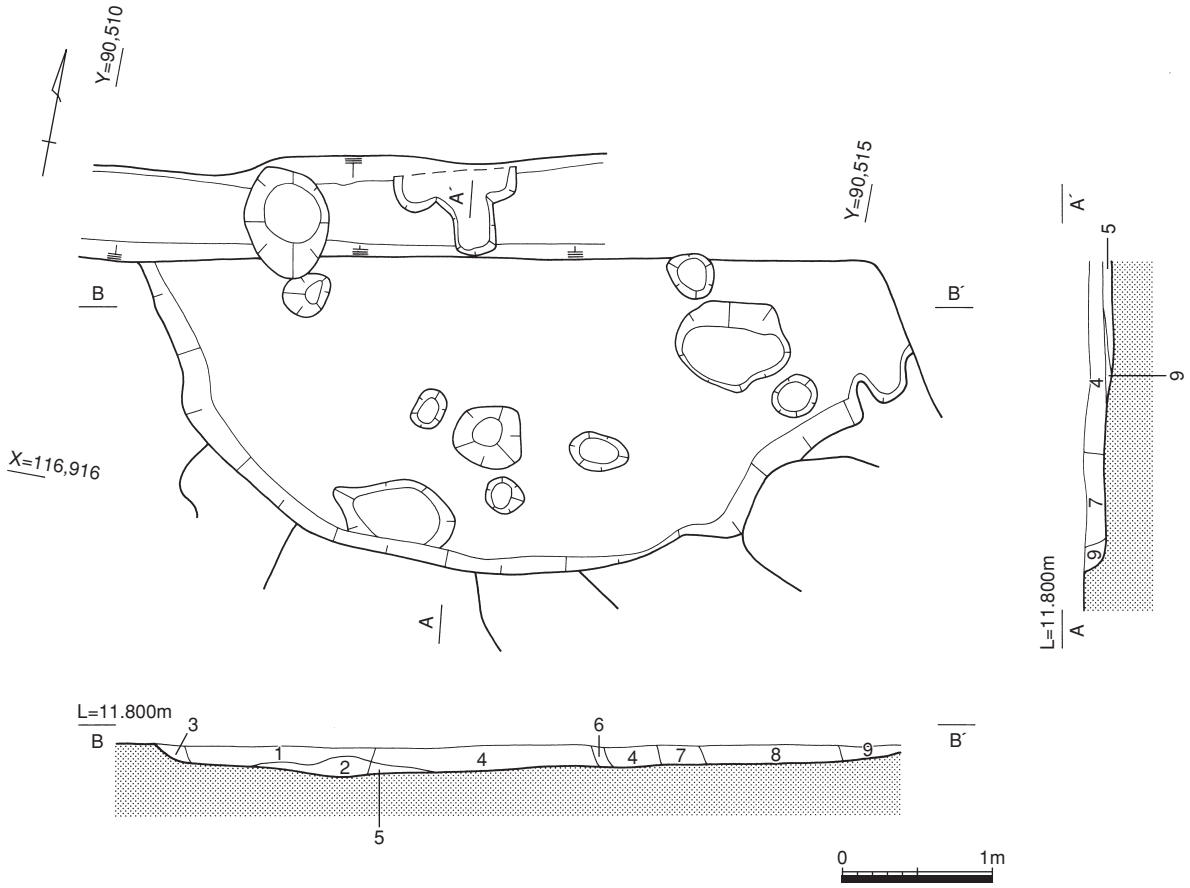
出土遺物　１～５は土器で、１は壺、２～５は甕である。うち１は頸部に貼付突帯、口縁部直下に凹線文と列点文による装飾性に富む大形品。石器Ｓ１はサヌカイト製石鏃、Ｓ２は砂質片岩製削器、Ｓ３はサヌカイト製スクレイパー、Ｓ４はサヌカイト製楔形石器である。Ｓ５～13はサヌカイト製剥片である。S14～18は敲石で、S14は御荷鉾石製、S15は結晶片岩製、S16はチャート製、S17は砂質片岩製、S18は砂岩製である。S19は結晶片岩製砥石である。

時期　弥生時代中期である。

２号竪穴住居（SB5002）（第326・327図）

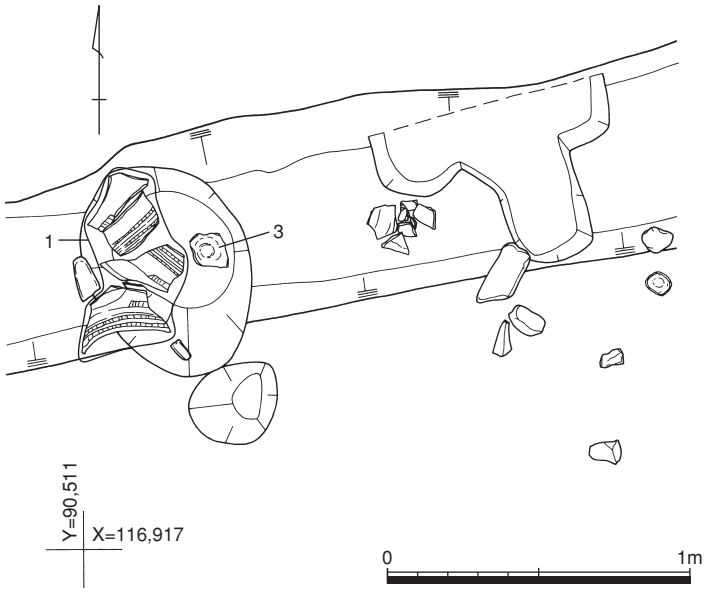
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　Ｄ－3グリッド

規模と形状　検出長軸7.00m、検出短軸1.05m、最大深度0.64mを測る竪穴住居である。平面形態は隅

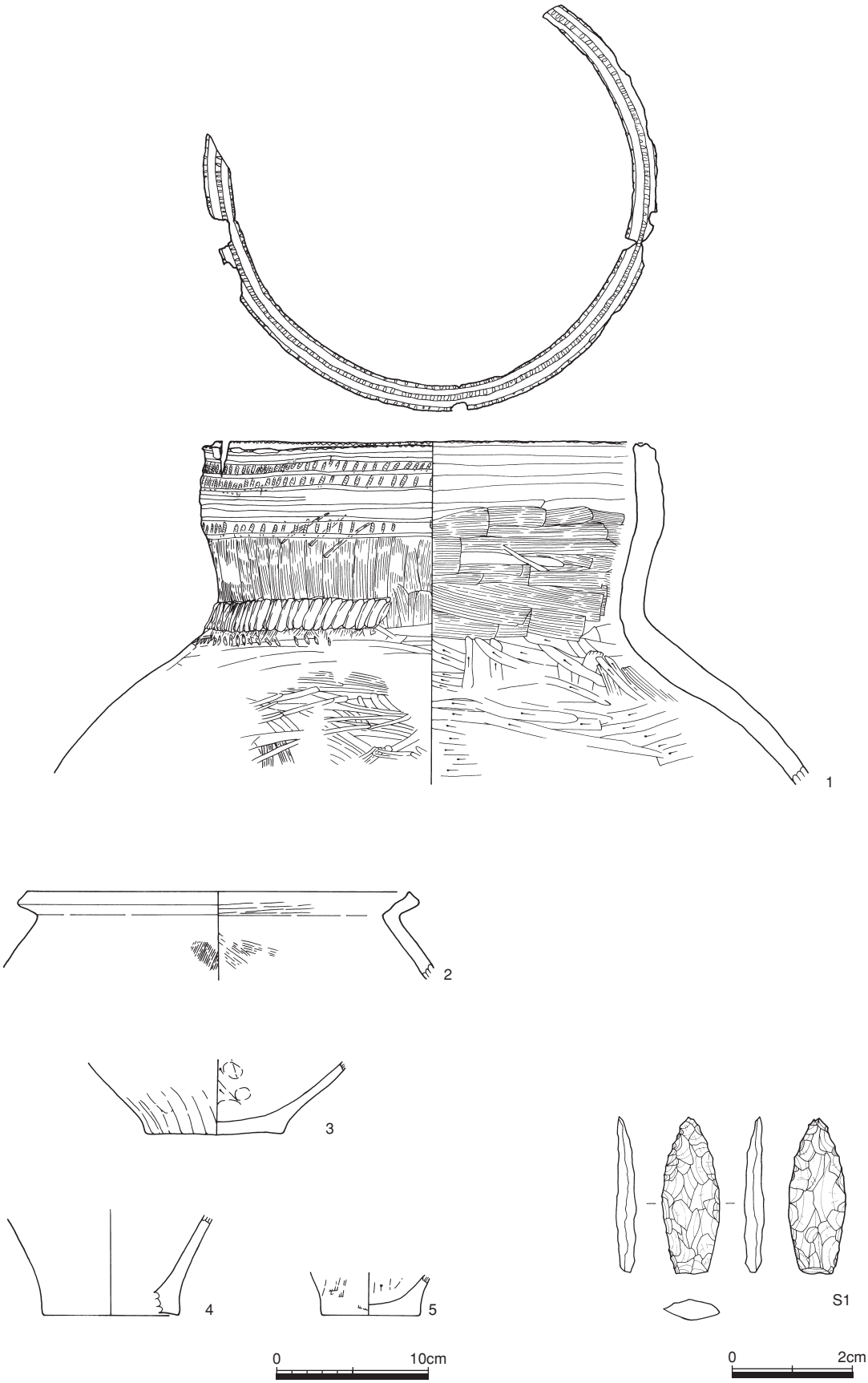


1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト(炭化物を少量含む)
2	10YR3/4	暗褐色	シルト(炭化物を多量含む)
3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
4	10YR5/6	黄褐色	シルト
5	10YR4/6	褐色	シルト(炭化物を少量含む)
6	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト
7	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト(炭化物を少量含む)
8	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
9	10YR4/4	褐色	シルト

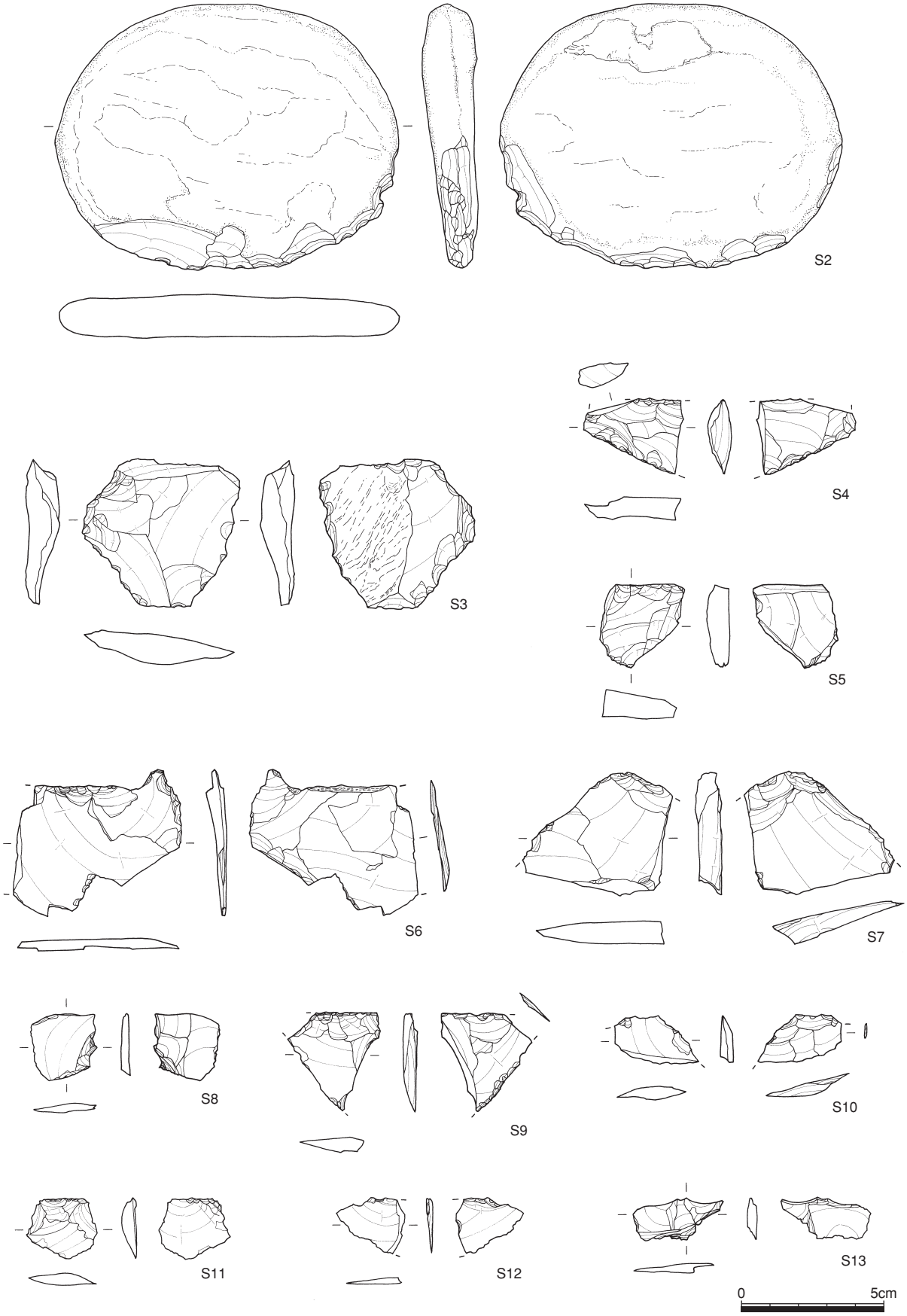
第319図　SB5001遺構平・断面図



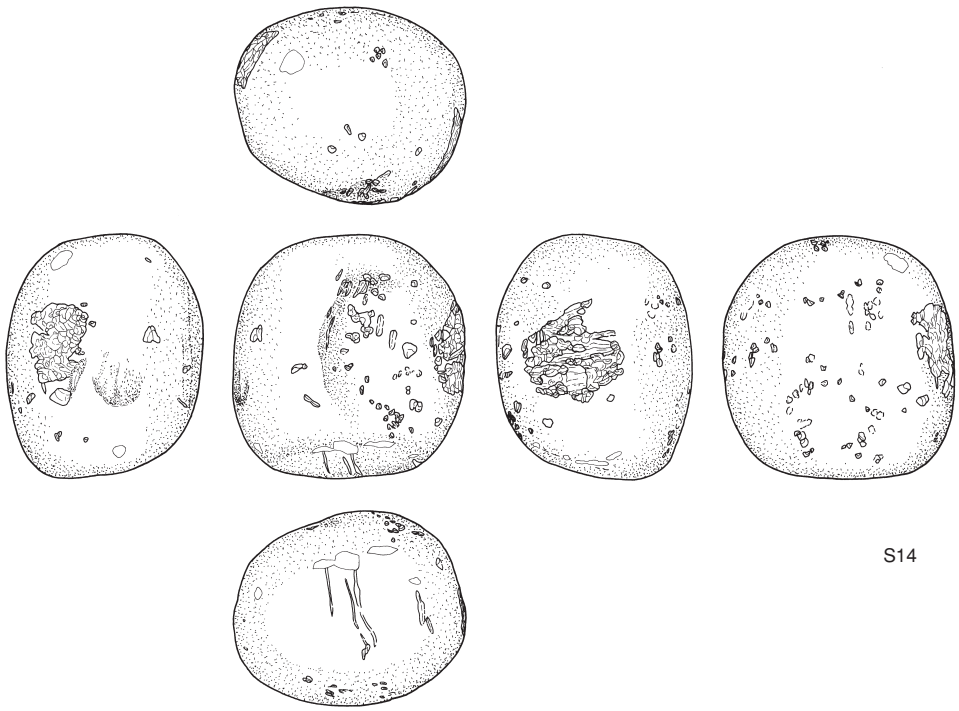
第320図　SB5001遺物出土状況図



第321図　SB5001出土遺物図(1)

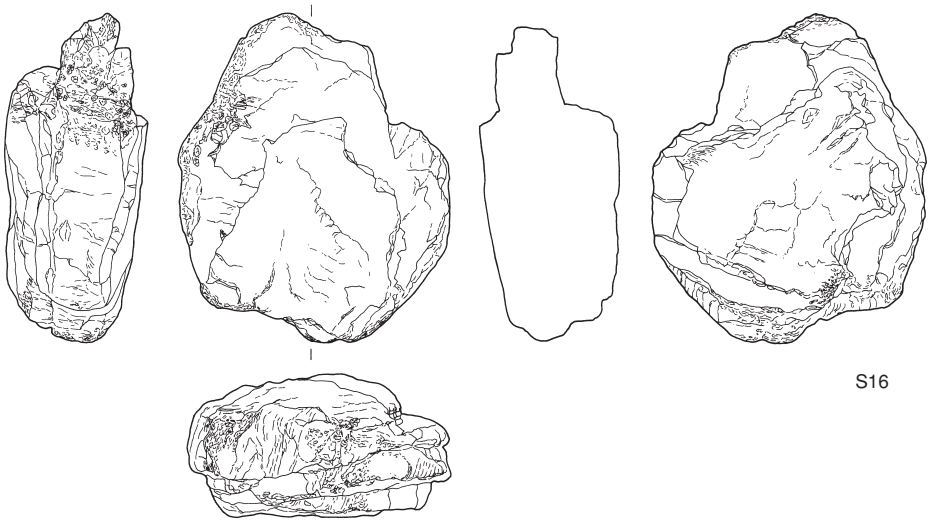


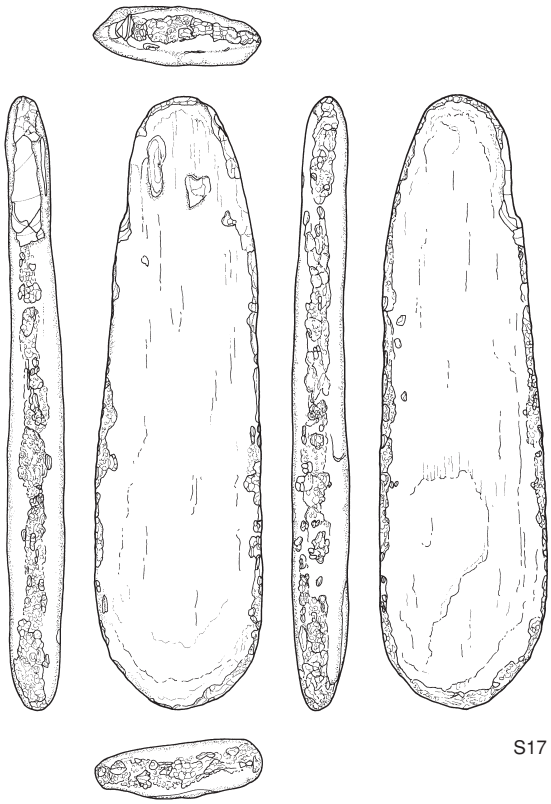
第322図　SB5001出土遺物図(2)



0　10cm

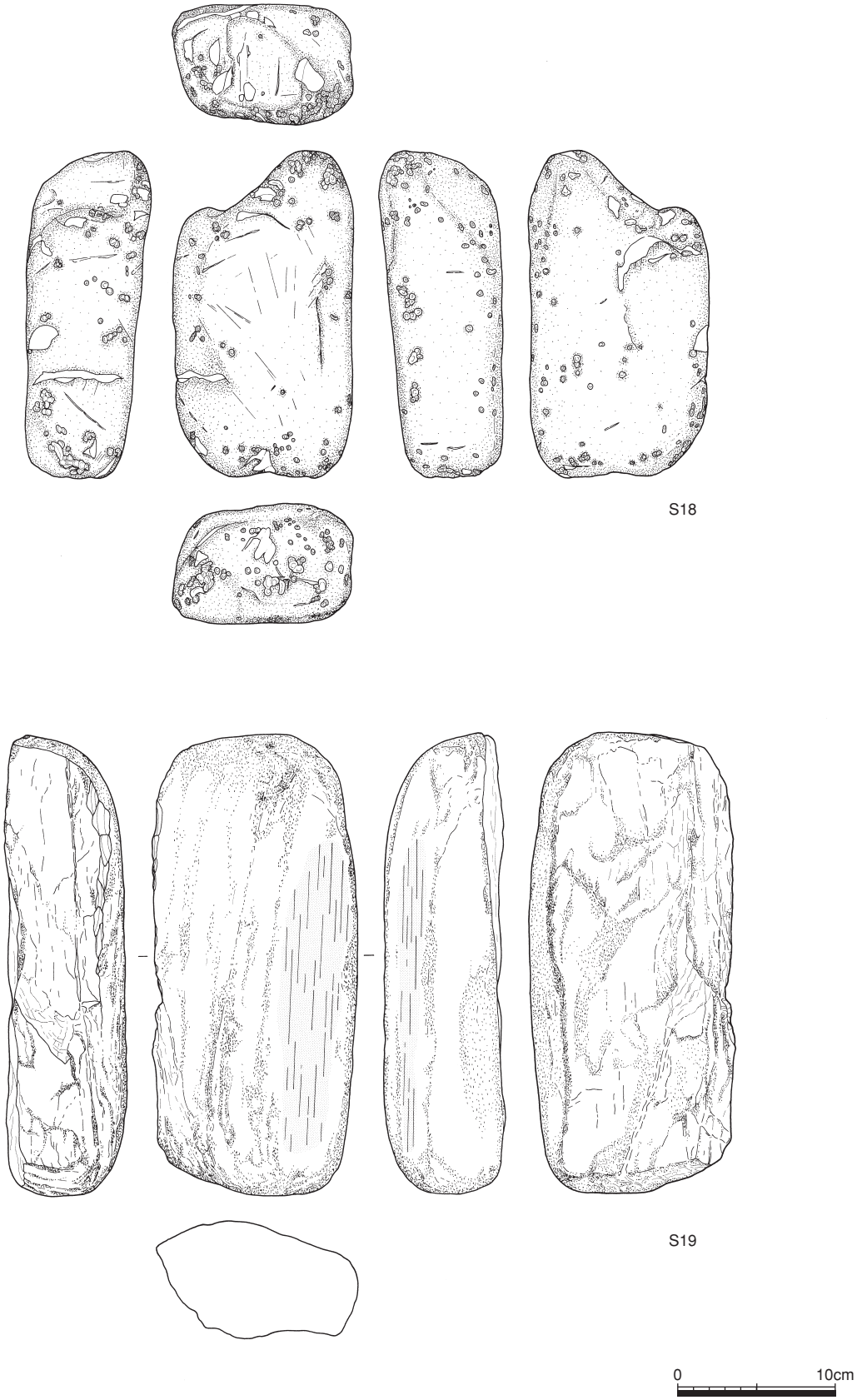
第323図　SB5001出土遺物図(3)



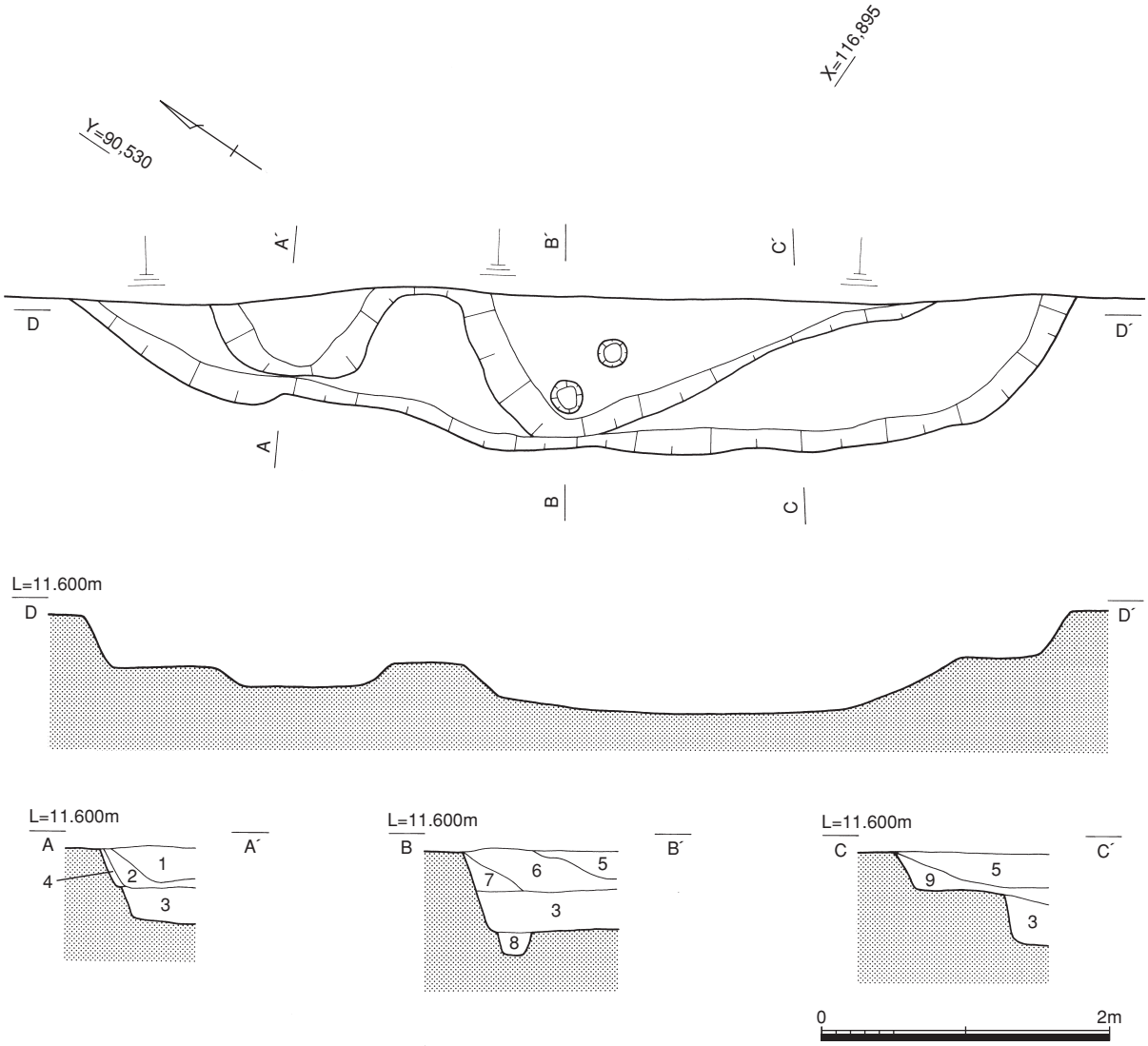


0 10cm

第324図　SB5001出土遺物図(4)

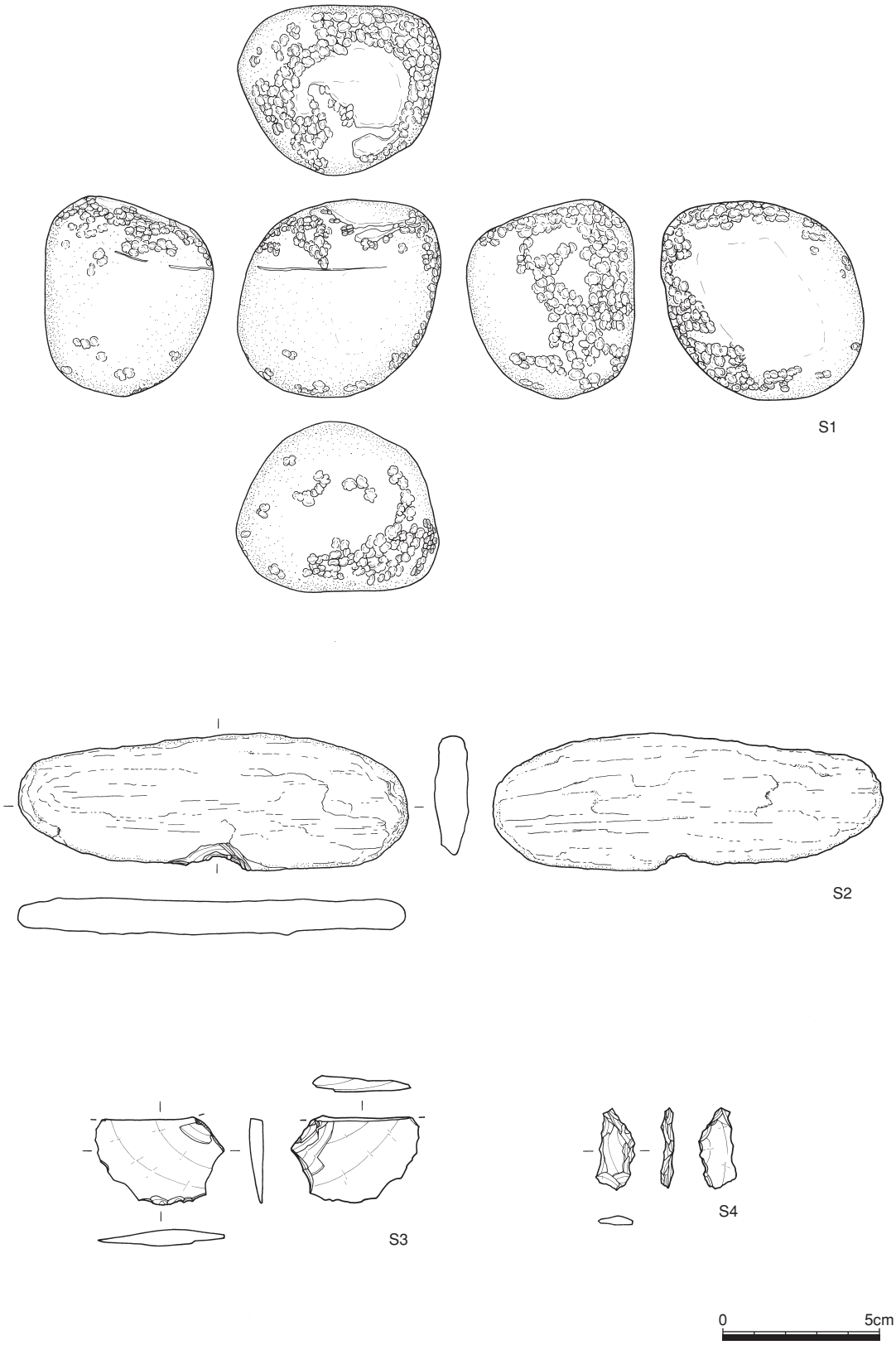


第325図　SB5001出土遺物図(5)



1　10YR4/4　褐色　砂質土
2　10YR4/4　褐色　砂質土
3　10YR3/4　暗褐色　砂質土
（炭化物を含む。底部に焼土を含む）
4　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
5　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質土
6　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
7　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
8　10YR3/4　暗褐色　砂質土（炭化物を含む）
9　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト

第326図　SB5002遺構平・断面図



第327図　SB5002出土遺物図

丸方形を呈すると推定されるが、半分以上が調査区外であるため、平面形状を正確に読みとることができない。主柱穴や炉跡は検出されなかった。

土層　１・２層は褐色砂質土である。３層は暗褐色砂質土、４～７層はにぶい黄褐色砂質土、８層は暗褐色砂質土、９層はにぶい黄褐色シルト質土である。

出土遺物　Ｓ１は斑糲岩製敲石、Ｓ２は砂質片岩製石錘、Ｓ３・４はサヌカイト製剥片である。

時期　弥生時代と推定される。

溝状遺構

１号溝状遺構（SD5001）（第328図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　Ａ・Ｂ－1、Ｂ・Ｃ・Ｄ－2

規模と形状　検出長14.7m、幅1.62m、深度0.42mを測る溝状遺構である。南南西から北北東方向へ掘削された溝である。

土層　遺構覆土はにぶい黄褐色砂質、褐色砂質土である。

出土遺物　図化可能遺物は出土していない。

時期　遺構面の対応関係からみて弥生時代と推定される。

３号溝状遺構（SD5003）（第329図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｑ・Ｒ－4・5・6グリッド

規模と形状　検出長9.6m、幅1.3m、深度0.25mを測る溝状遺構である。東西方向に掘削された溝であるが、西端において幅を減じながら北方向にほぼ直角に曲がる。

土層　遺構覆土は黄褐色砂質土や褐色砂質土である。

出土遺物　図化可能遺物は出土していない。

時期　遺構面の対応関係からみて弥生時代と推定される。

４号溝状遺構（SD5004）（第330・331図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｏ－6グリッド

規模と形状　検出長16.5m、幅1.1～2.1m、最大深度1.1mを測る溝である、主軸は、東西方向に延びている。遺構断面形状は、西端・東端共に逆台形を呈している。Ｂ－Ｂ'断面では、南半分が撹乱のため、遺構の形は維持されていないと考えられる。遺構床面の標高が西端より東端の方が0.45m低いことから溝の機能としては、西から東方向へ流れているであろう。

出土遺物　１～11は弥生土器で、１～６は甕、７・８は高杯、９～11は壺である。Ｓ１～３はサヌカイト製剥片である。

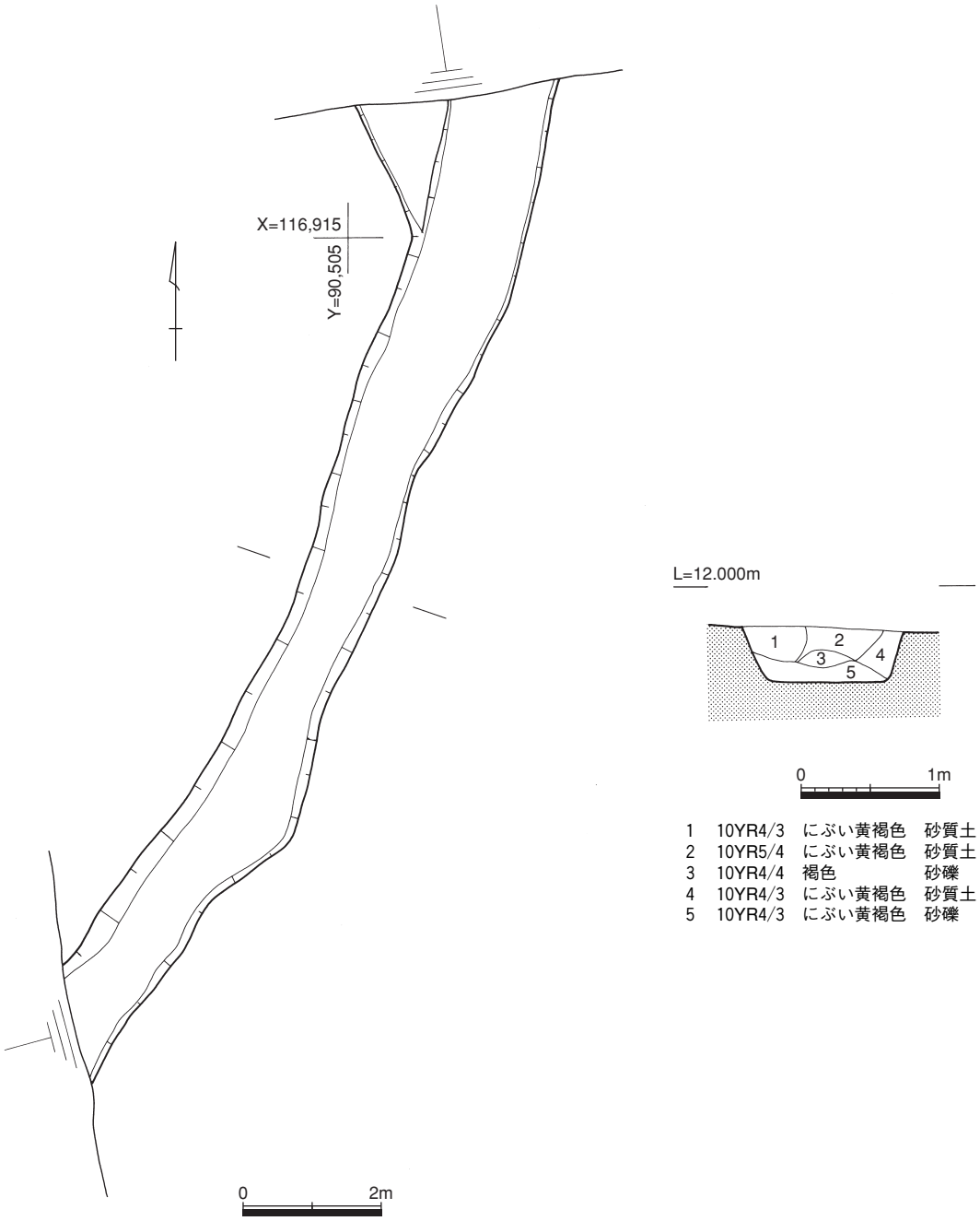
時期　弥生時代後期である。

５号溝状遺構（SD5005）（第332～334図）

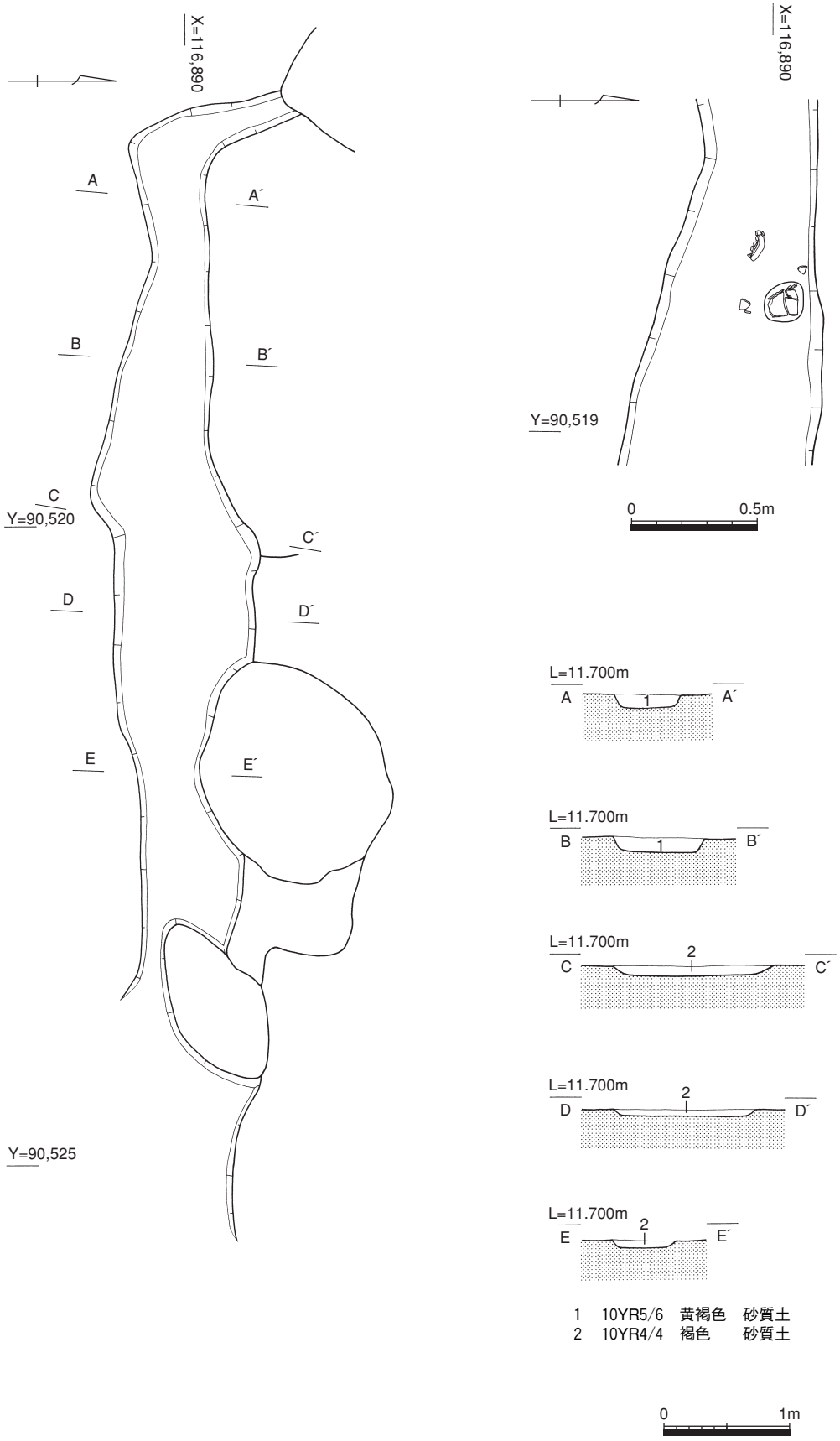
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｍ・Ｎ－5・6、Ｍ－7グリッド

規模と形状　検出長12.9m、幅1.23m、深度0.22mを測る溝状遺構である。

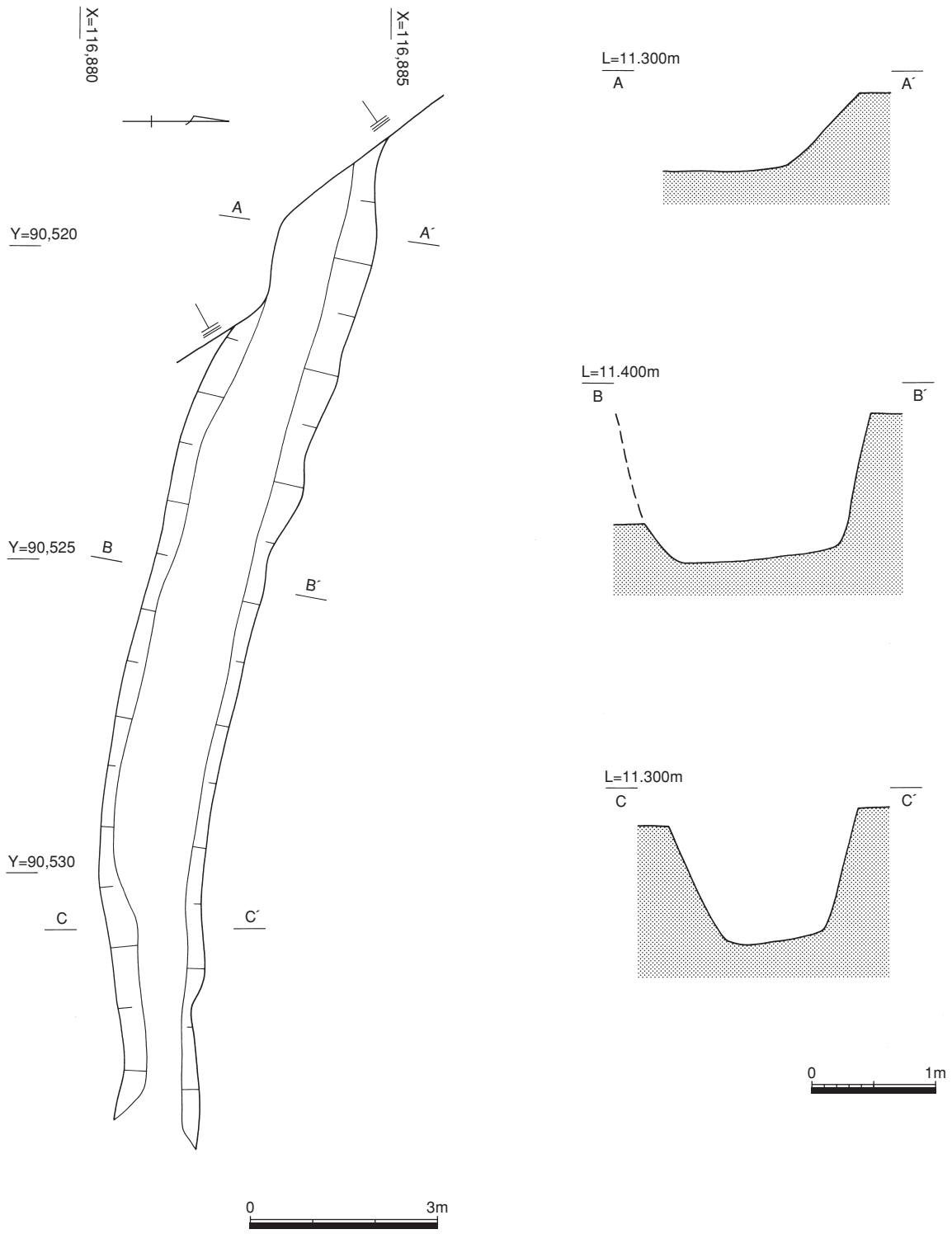
土層　遺構覆土は暗褐色砂質、褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質である。



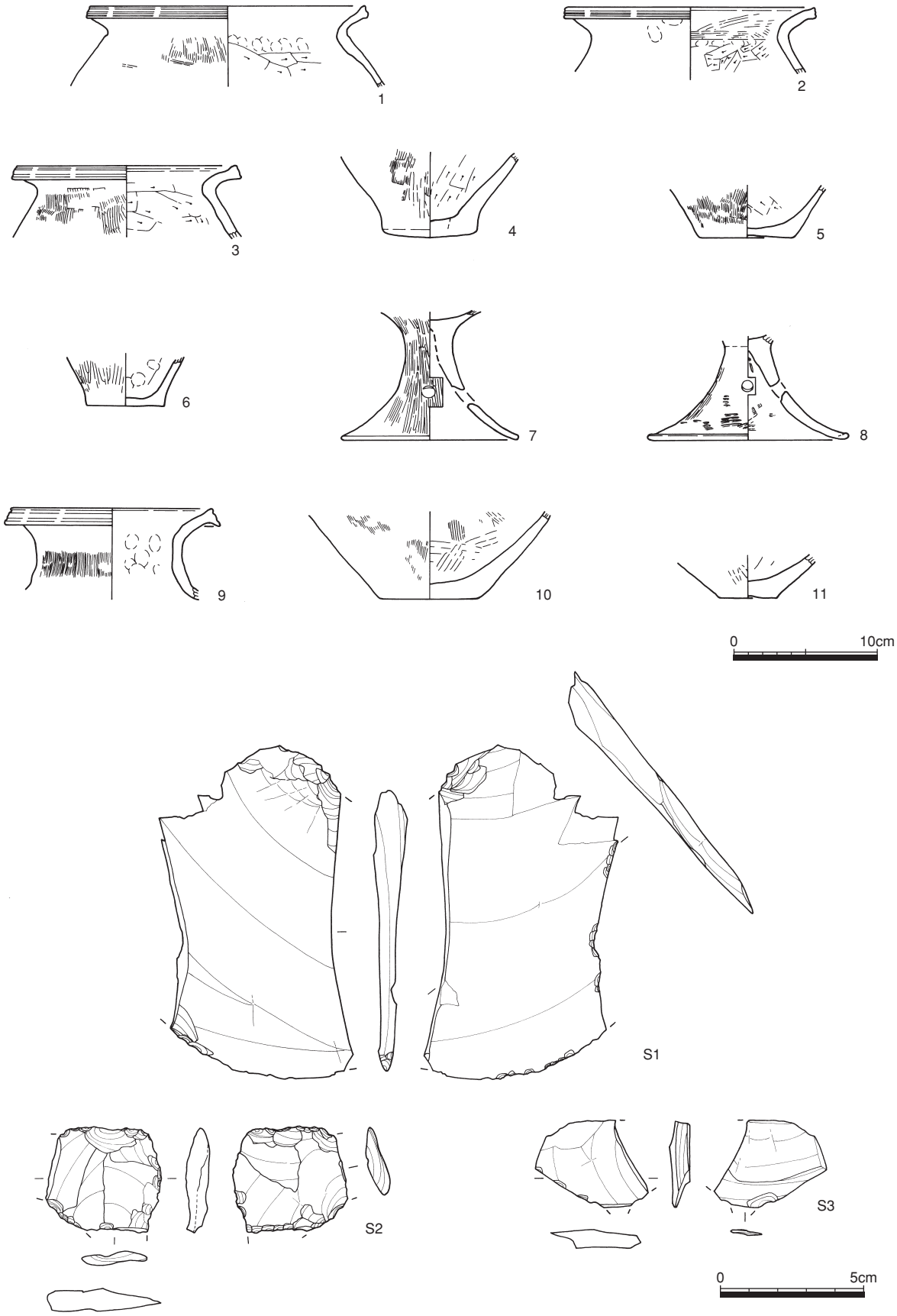
第328図　SD5001遺構平・断面図



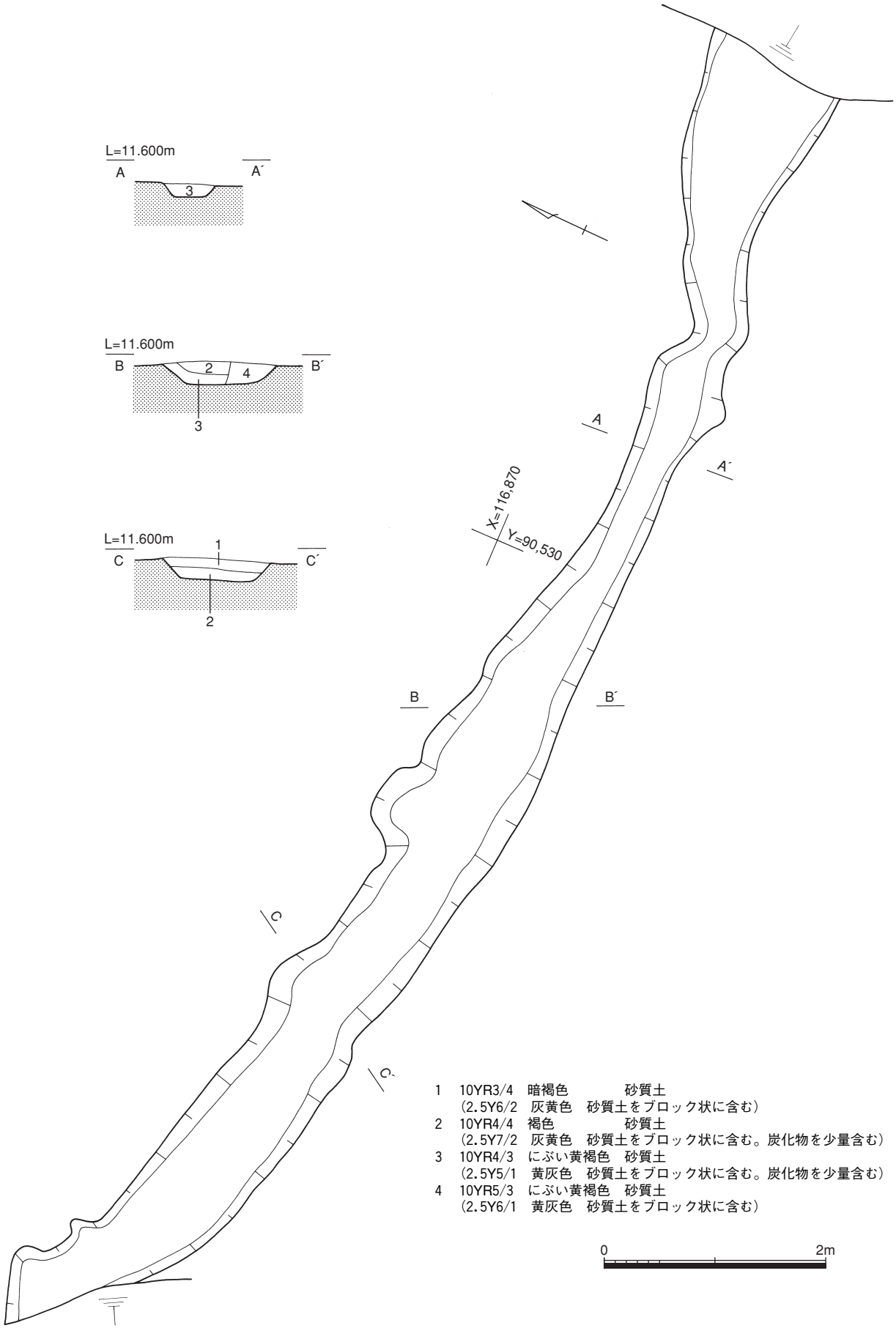
第329図　SD5003遺構平・断面・遺物出土状況図



第330図　SD5004遺構平・断面図

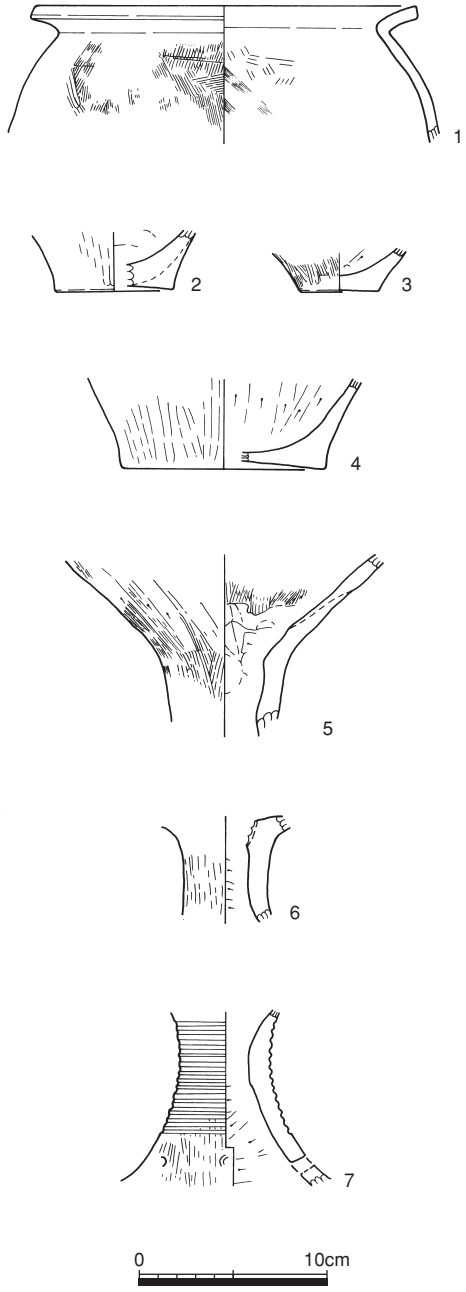


第331図　SD5004出土遺物図



第332図　SD5005遺構平・断面図

第333図　SD5005内集石検出状況図



第334図　SD5005出土遺物図

遺物出土状況　溝中央部より結晶片岩川原石と共に土器片が出土した。

出土遺物　1～7は弥生土器で、1・2は甕、3は鉢、4は壺、5～7は高杯である。

時期　弥生時代後期である。

6号溝状遺構（SD5006）（第335～337図）

位置　96－1・2区。Loc.B－3、δⅠ　L・M－7・8グリッド

規模と形状　最大検出長6.00m、幅1.43～0.76m、最大深度0.18mを測る溝である、主軸は、南北方向に延びている。遺構断面形状は、北端は浅い逆台形を呈し、南端は船底形を呈している。遺構床面の標高が北端より南端の方が0.13m低いことから溝の機能としては、北から南方向へ流れているであろう。
土層　遺構覆土は褐色砂質土である。
遺物出土状況　溝の上端部からは結晶片岩川原石が出土した。溝底部より弥生土器１・３が出土した。
出土遺物　１～５は弥生土器で、１～３は壺、４は甕、５は高杯である。
時期　弥生時代後期である。

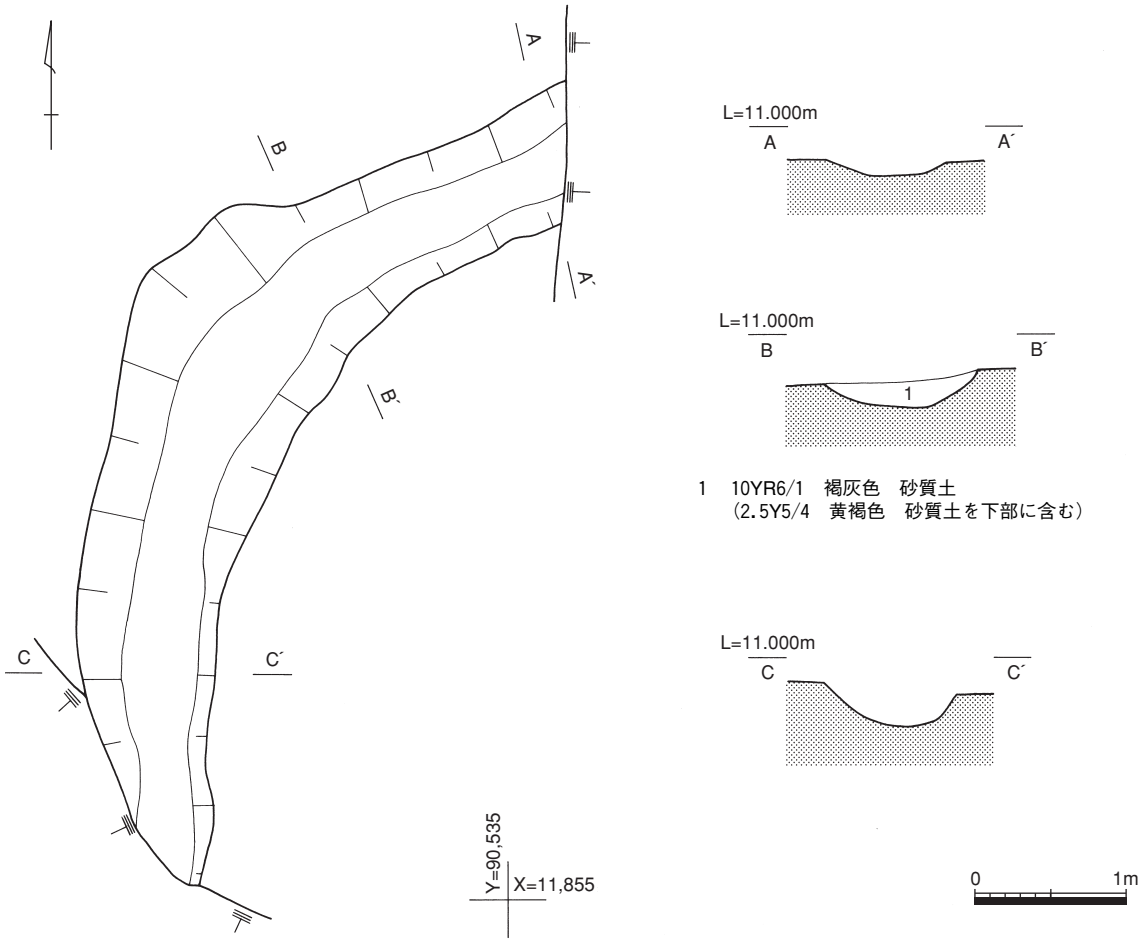
土坑

１号土坑（SK5001）（第338～340図）
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　D－3・4グリッド
規模と形状　長径1.63m、短径1.04m、最大深度0.16mを測る土坑である。遺構の形状は、北東側の側溝によってきられているため不明であるが、平面は東西方向に長い楕円形であろうか。断面は、逆台形である。
土層　遺構覆土は、1層はにぶい黄褐色シルト層、2層は黄褐色シルト層、3層は褐色シルト層である。
遺物出土状況　川原石と共に土器片が出土した。土器片は小型で、完形のものはない。
出土遺物　１・２は弥生土器で、１は甕、２は鉢である。S１は石斧未製品である。
時期　弥生時代後期である。

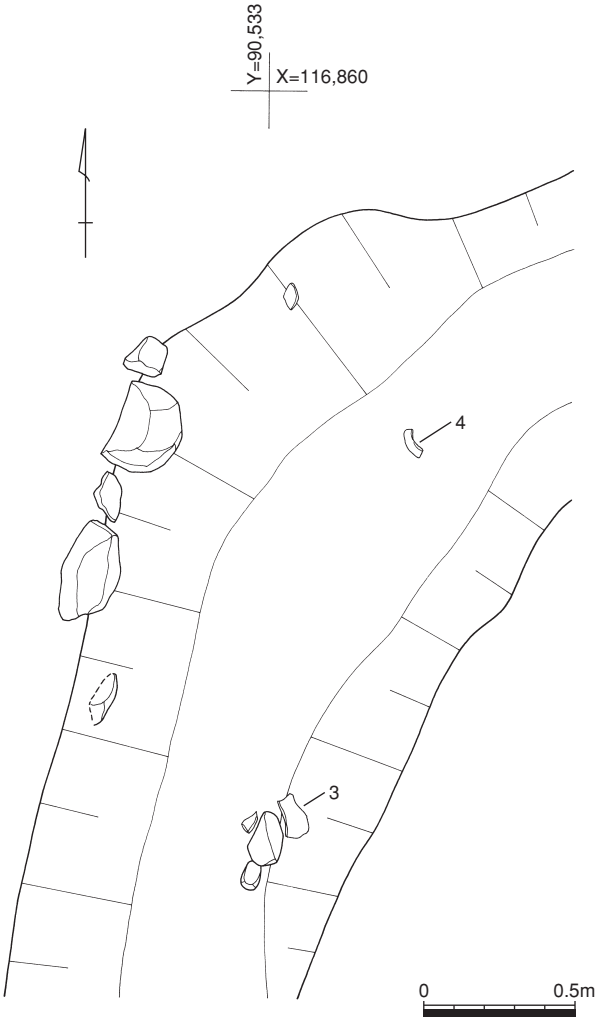
３号土坑（SK5003）（第341・342図）
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　C・D－4グリッド
規模と形状　長径0.82m、短径0.50m、深度0.19mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であるが、断面は逆台形である。
土層　遺構覆土は、２層に分層される。１層はにぶい黄褐色シルト層、２層は褐色シルト層である。
出土遺物　１は弥生土器甕である。１は結晶片岩製敲石である。
時期　弥生時代後期である。

15号土坑（SK5015）（第341・343図）
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　C－4グリッド
規模と形状　長径0.94m、短径0.63m、深度0.49mを測る土坑である。遺構形状は、平面が不整楕円形であり、断面が逆台形であるが、遺構床面の中央部が若干盛り上がっている。
土層　遺構覆土は３層に分層され、１層は褐色砂質土、２・３層は褐色シルト層である。
出土遺物　１は弥生土器の無頸壺である。
時期　弥生時代後期である。

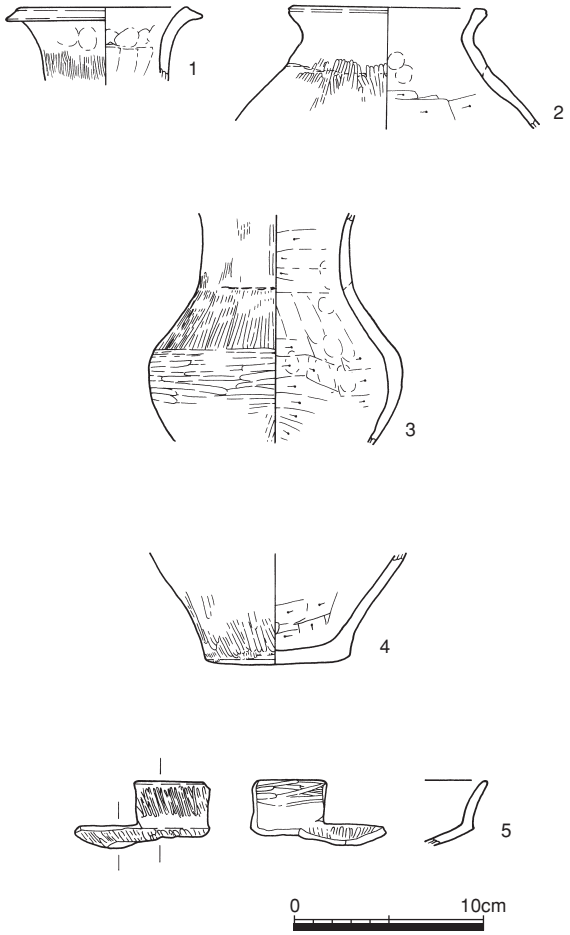
20号土坑（SK5020）（第344・345図）
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３、εⅠ　B－4グリッド
規模と形状　長径1.2m、短径0.98m、深度0.28mを測る土坑である。遺構形状は、平面が不整円形で



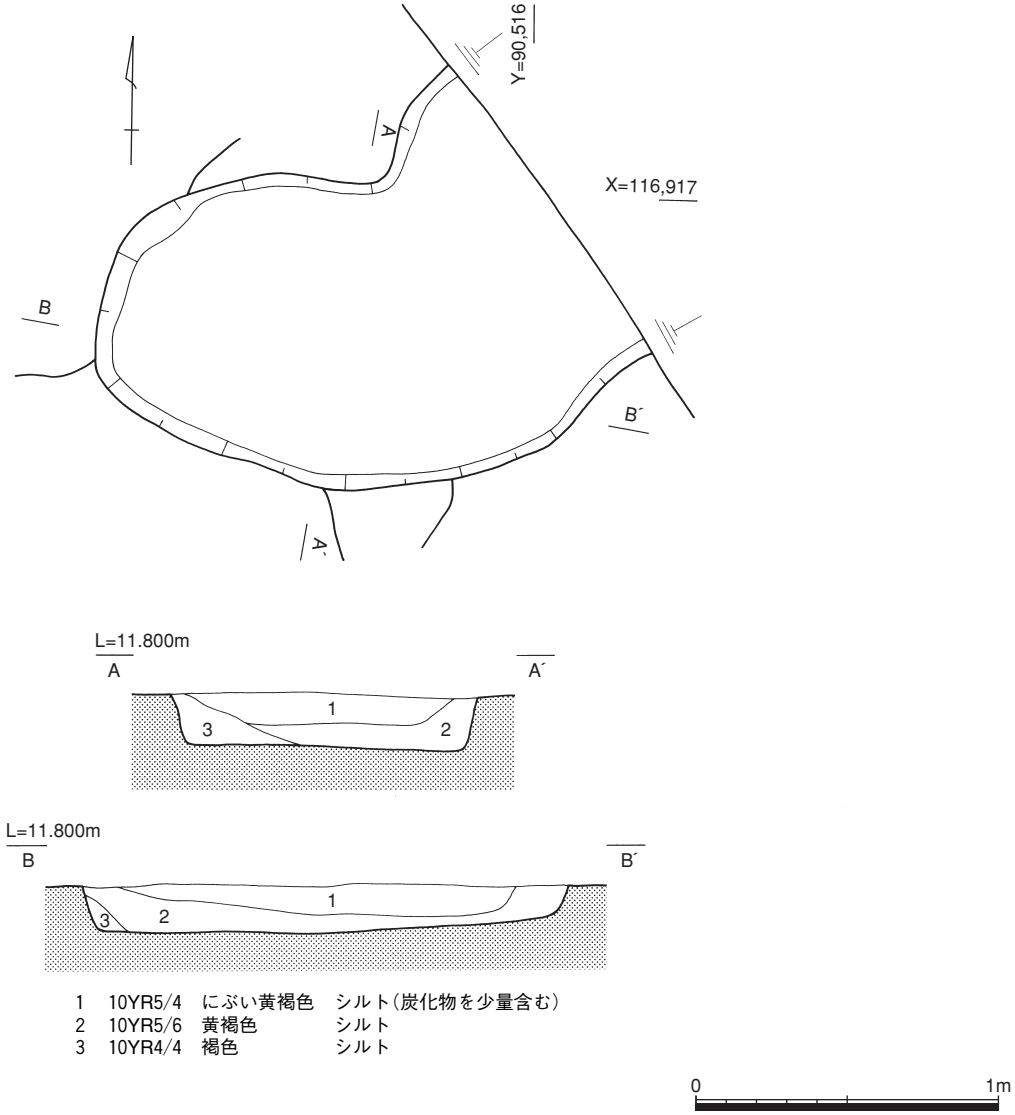
第335図　SD5006遺構平・断面図



第336図　SD5006遺物出土状況図

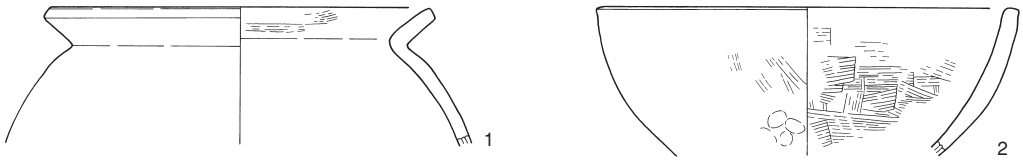


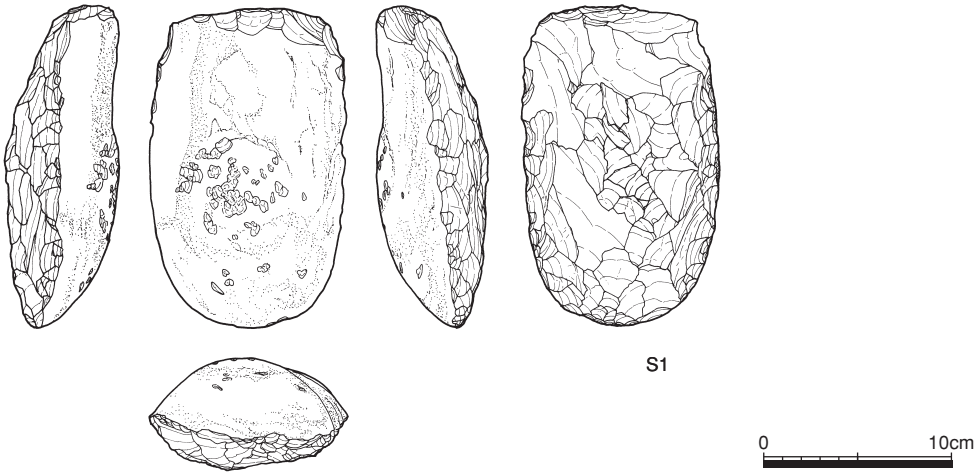
第337図　SD5006出土遺物図



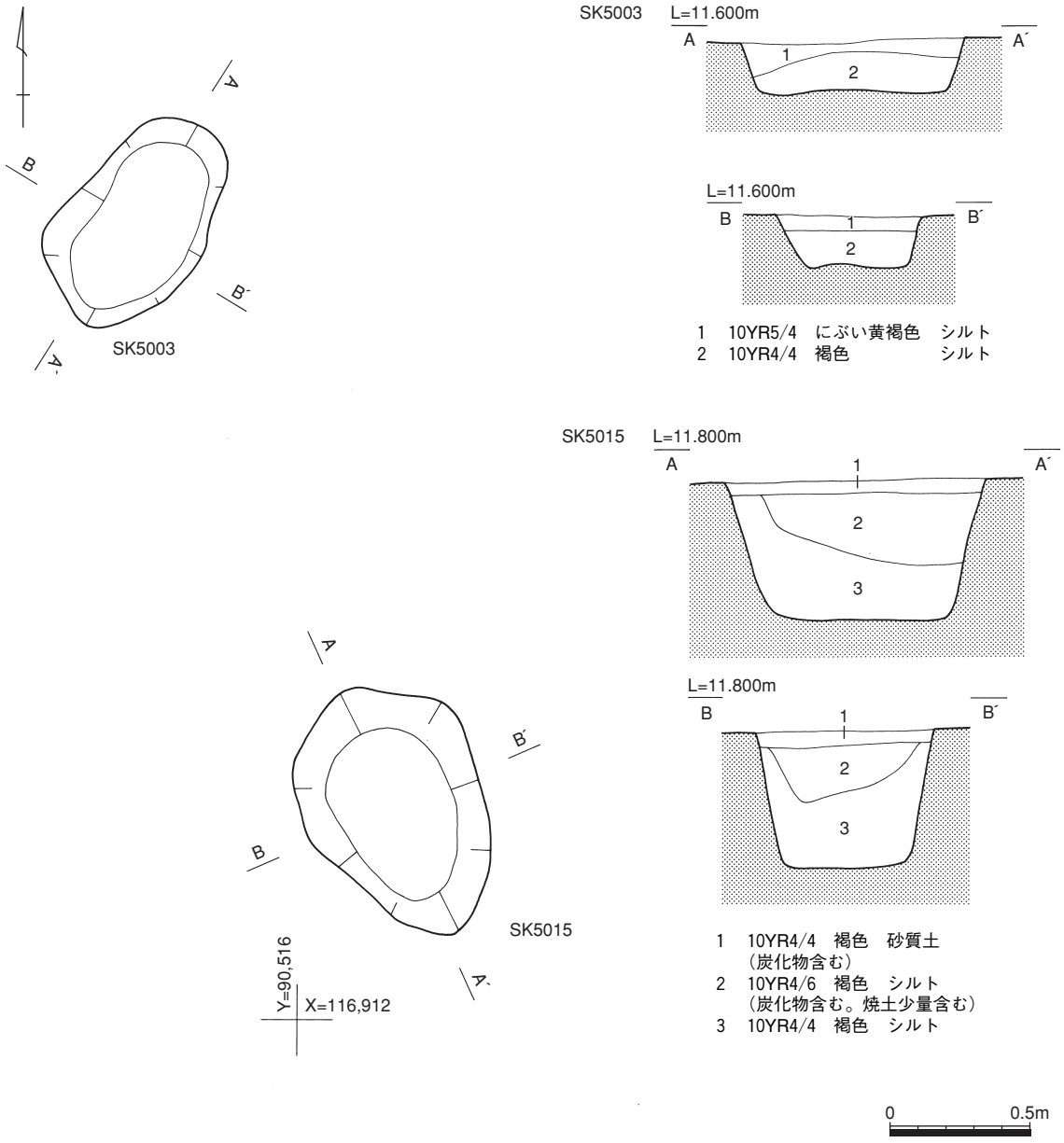
第338図　SK5001遺構平・断面図

第339図　SK5001遺物出土状況図

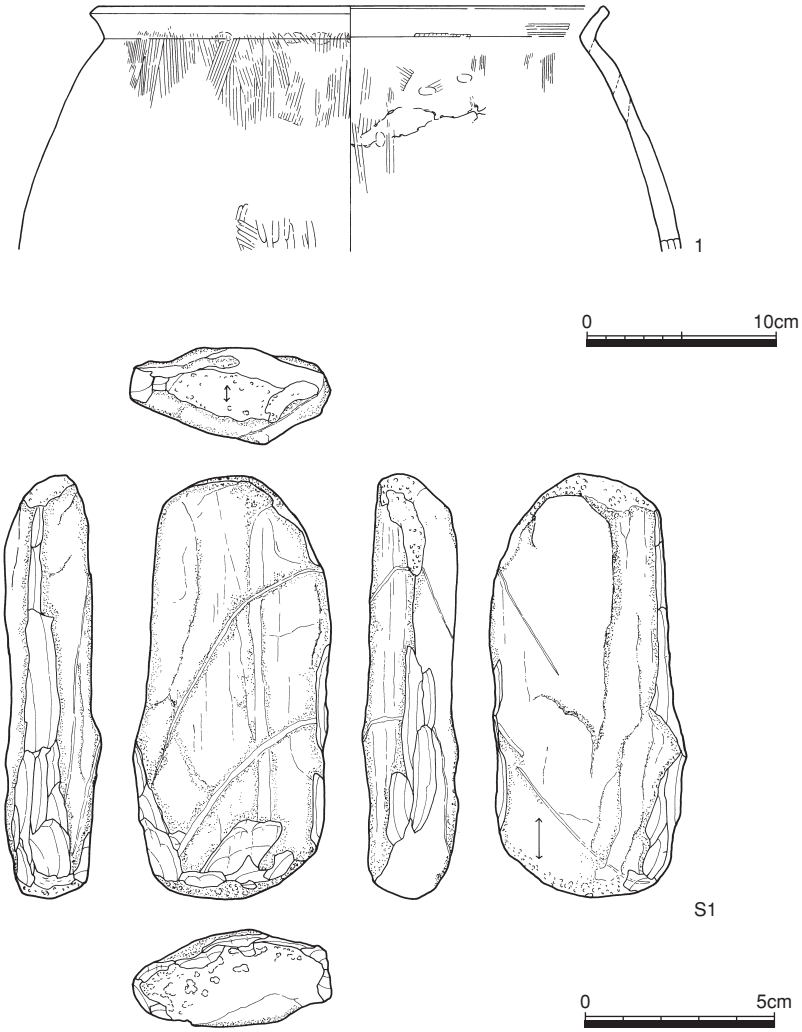




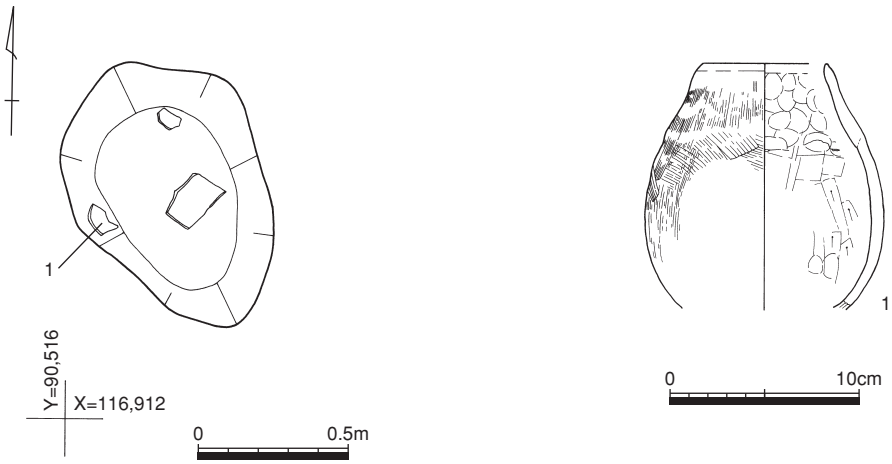
第340図　SK5001出土遺物図



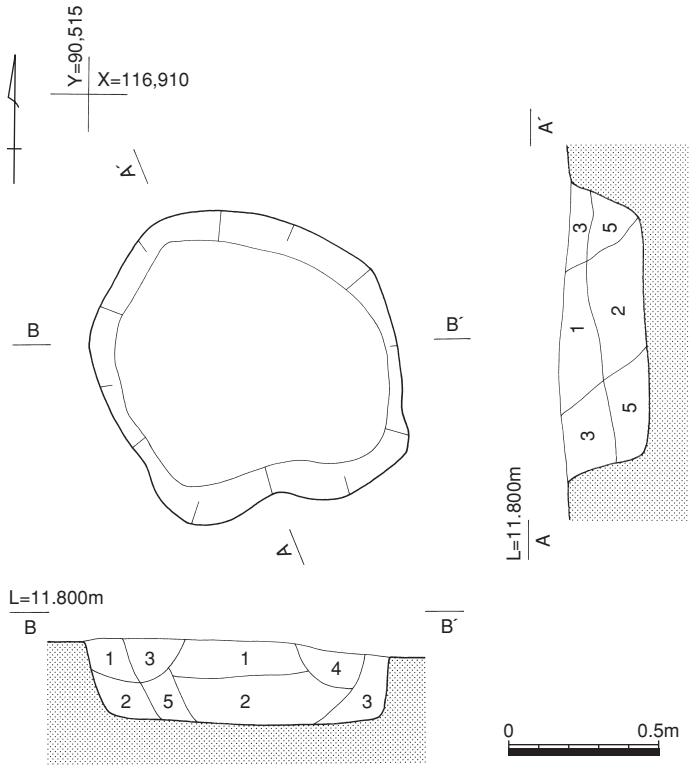
第341図　SK5003、SK5015遺構平・断面図



第342図　SK5003出土遺物図

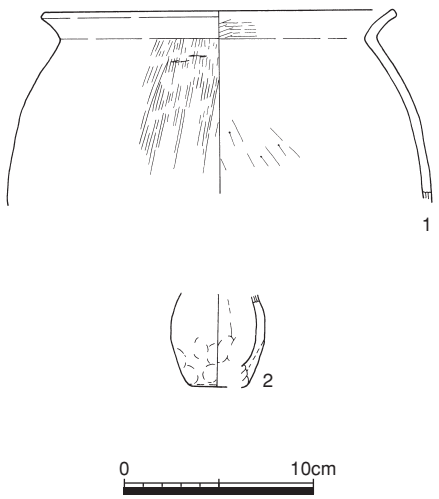


第343図　SK5015遺物出土状況・出土遺物図



1　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト
2　10YR4/4　褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
3　10YR5/6　黄褐色　シルト
4　2.5Y4/4　オリーブ褐色　シルト(炭化物を少量含む)
5　10YR4/6　褐色　シルト

第344図　SK5020遺構平・断面図



第345図　SK5020出土遺物図

あり、断面が逆台形である。

土層　遺構覆土は５層に分層でき、１・３層はにぶい黄褐色シルト層、２層は褐色砂質土、４層はオリーブ褐色シルト層、５層は褐色シルト層である。

出土遺物　１・２は弥生土器で、１は甕、２はミニチュア土器の壺である。

時期　弥生時代後期である。

27号土坑（SK5027）（第346・347図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　εⅠ　A－3グリッド

規模と形状　長径0.79m、短径0.52m、深度0.09mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であり、断面が浅い逆台形である。

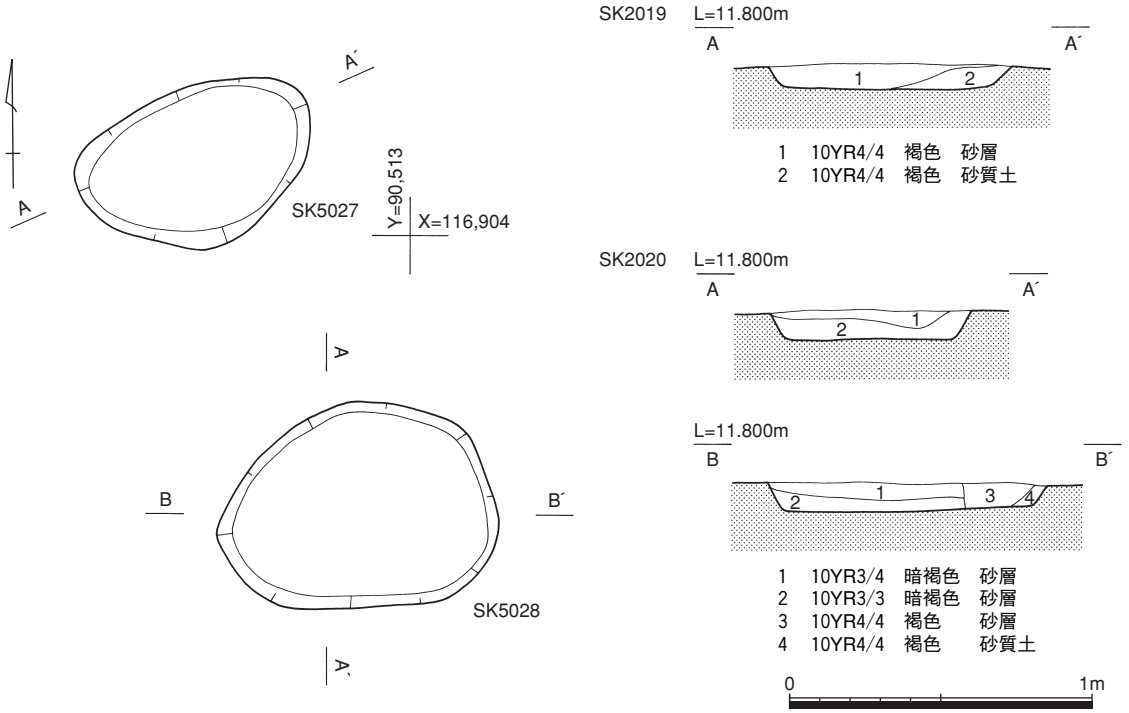
土層　遺構覆土は、褐色砂層と褐色砂質土である。

出土遺物　１・２は弥生土器で、１は甕、２は壺である。

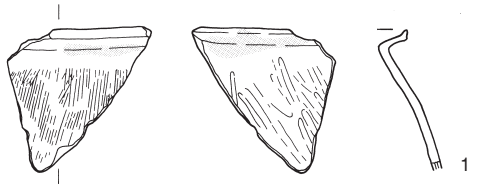
28号土坑（SK5028）

位置　96－1・2区。Loc.B３　εⅠ　A－3グリッド

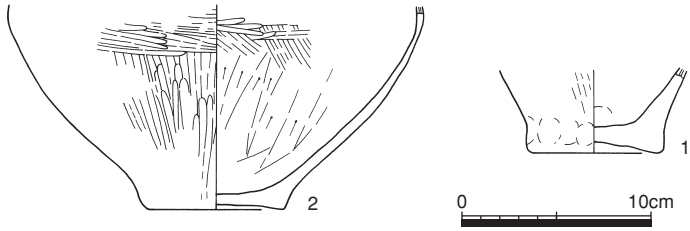
規模と形状　長径0.92m、短径0.66m、深度0.10mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が楕円形であり、断面が浅い逆台形である。



第346図　SK5027、5028遺構平・断面図



第347図　SK5027出土遺物図



第348図　SK5028出土遺物図

土層　遺構覆土は４層に分層でき、１・２層は暗褐色砂層、３層は褐色砂層、４層は褐色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器甕である。

時期　弥生時代後期である。

42号土坑（SK5042）（第349～351図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－5グリッド

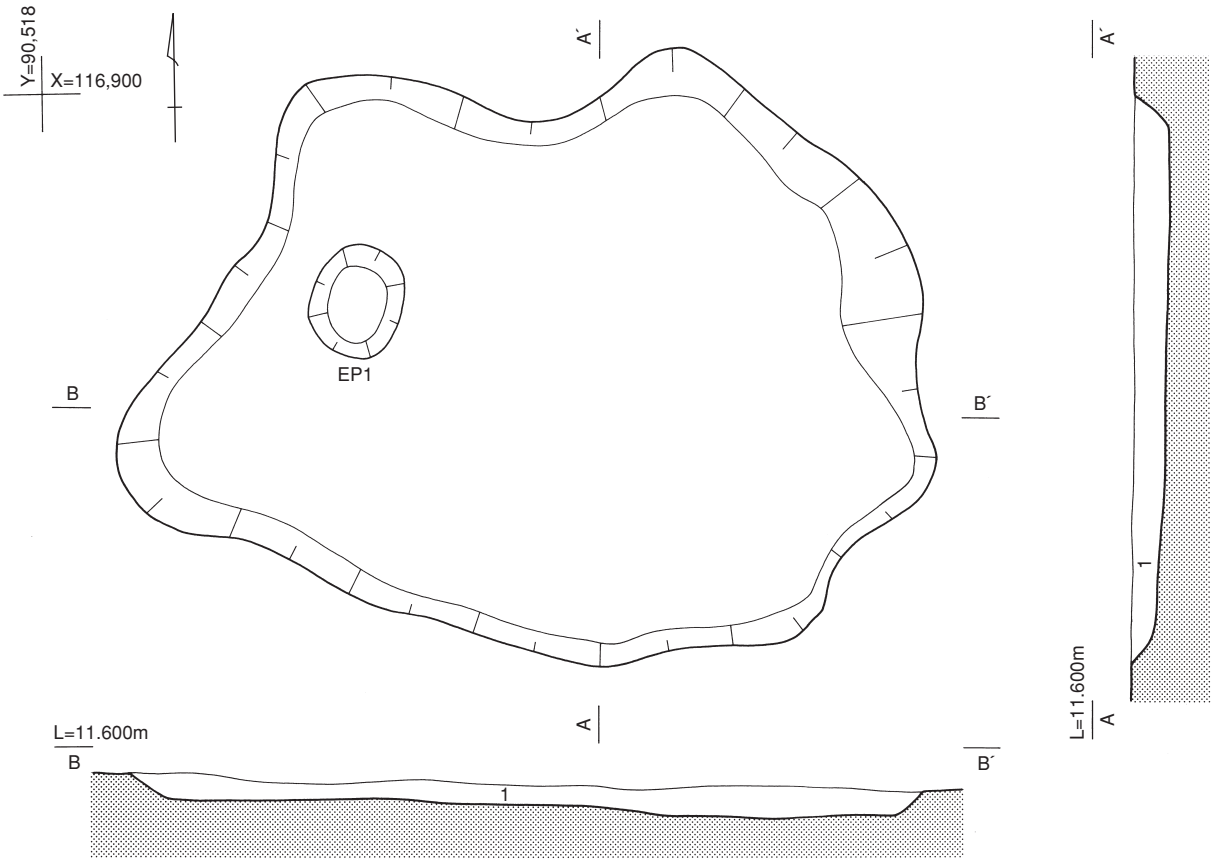
規模と形状　長径2.10m、短径1.50m、深度0.08mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不定形であり、断面が浅い逆台形である。遺構内のEP１は、西側に位置し、長径2.80m、短径2.75m、深度0.09mを測る。EP１の形状は、平面が不整楕円形であり、断面が逆台形である。

土層　遺構覆土は暗褐色砂質土である。

遺物出土状況　EP内より銅鏃が出土した。

出土遺物　Ｄ１は銅鏃である。

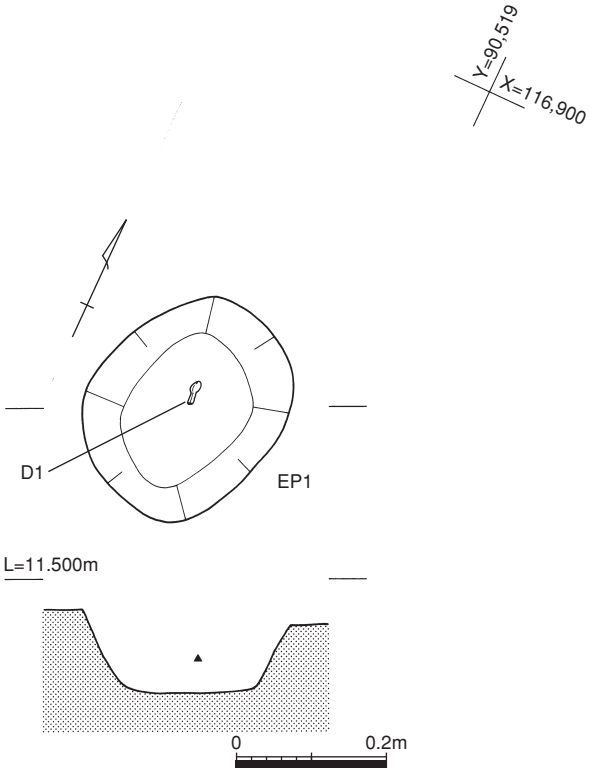
時期　弥生時代後期である。



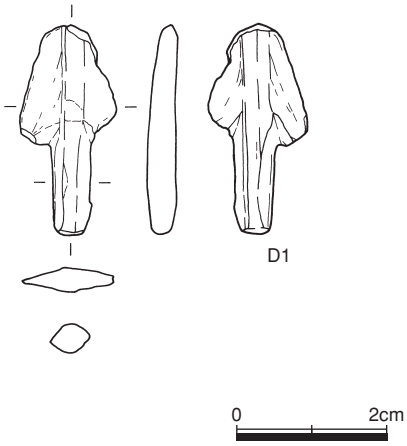
1　10YR3/4　暗褐色　砂質土(2.5Y6/2　灰黄色　砂質土をブロック状に含む)

0　0.5m

第349図　SK5042遺構平・断面図



第350図　SK5042遺物出土状況図



第351図　SK5042出土遺物図

46号土坑（SK5046）（第353・354図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　T－5グリッド

規模と形状　長径1.14m、短径0.81m、深度0.11mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不定形であり、断面が浅い逆台形である。

土層　遺構覆土は２層に分層され、１層はにぶい黄褐色砂質土、２層は褐色砂質土である。

遺物出土状況　掘削深度が浅い土坑であることから、床面付近より甕１が潰れた状態で検出された。隣接して甕２・３も出土している。

出土遺物　１～４は弥生土器で、１～３は甕、４は高杯である。

時期　弥生時代後期である。

50号土坑（SK5050）（第355～357図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　T－5・6グリッド

規模と形状　長径2.13m、短径1.34m、深度0.08mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であり、断面が浅い逆台形であろうか。EP１は、中央に位置し、長径0.35m、短径0.32m、深度0.17mを測る。EP１の断面形状は、浅い逆台形である。

土層　遺構覆土は、１・２層共に褐色砂質土である。

遺物出土状況　EP１内より高杯１が横転した状態で検出された。杯部は伴っていない。

出土遺物　１は弥生土器高杯である。S１はサヌカイト製剥片である。

時期　弥生時代後期である。

53号土坑（SK5053）（第358～360図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　S・T－5グリッド

規模と形状　長径2.10m、短径1.48m、深度0.12mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であり、断面は浅い逆台形である。

土層　遺構覆土は７層に分層され、１・３・６・７層は暗褐色砂質土、２・４・５層は褐色砂質土である。

遺物出土状況　結晶片岩礫に交じって土器片が出土した。完形に復元することが可能な個体はない。当初より欠損した土器を入れたものと推定される。

出土遺物　１～４は弥生土器で、１は直口壺、２は壺、３・４は甕である。

時期　弥生時代後期である。

55号土坑（SK5055）（第361・362図）

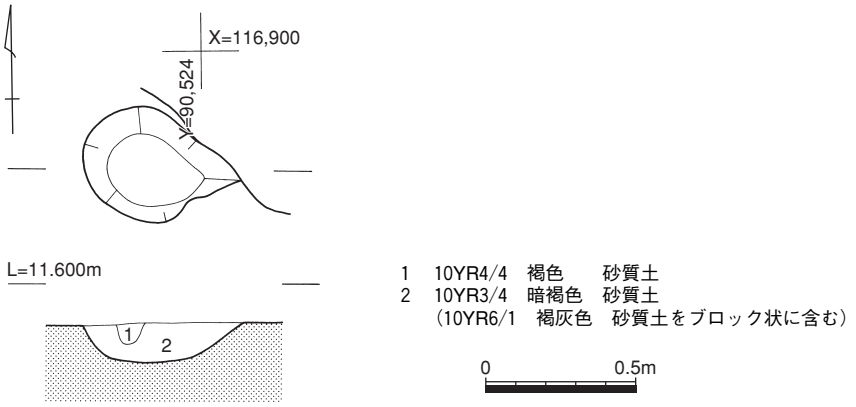
位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　S－5グリッド

規模と形状　長径1.26m、短径0.63m、深度0.11mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不定形であり、断面が逆台形である。

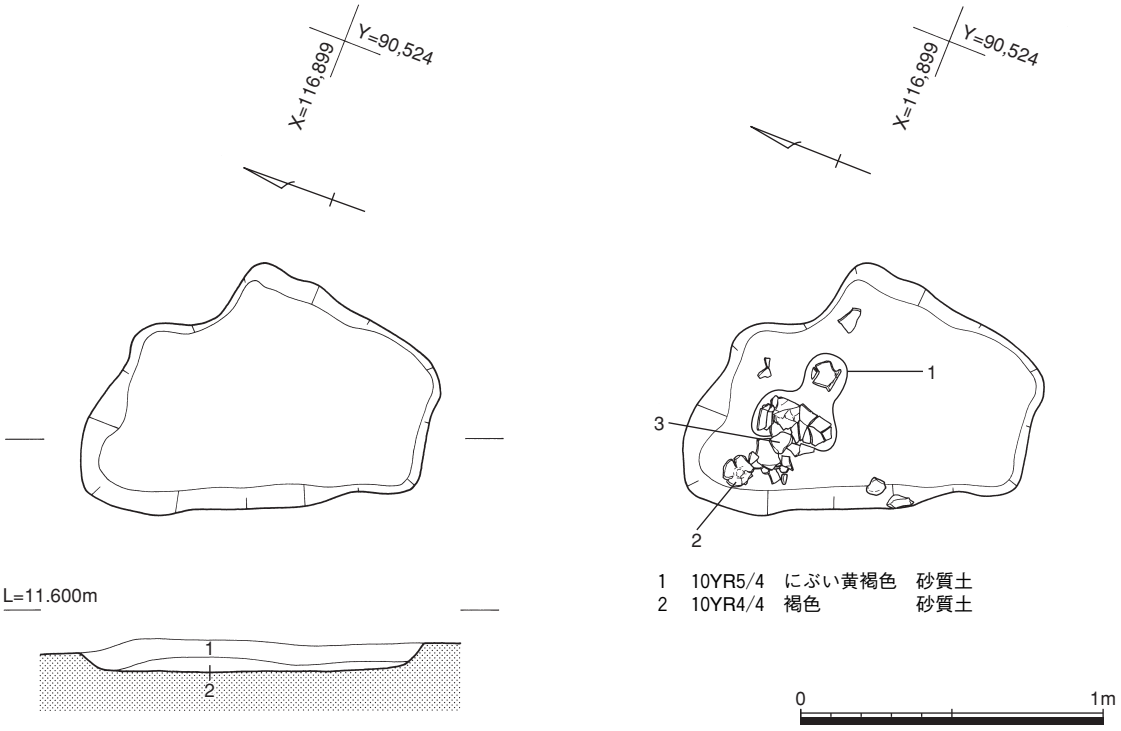
土層　遺構覆土は４層に分層でき、１～３層は褐色砂質土で、４層はにぶい黄褐色砂質土である。

出土遺物　１・２は弥生土器で、１は壺、２は甕底部である。

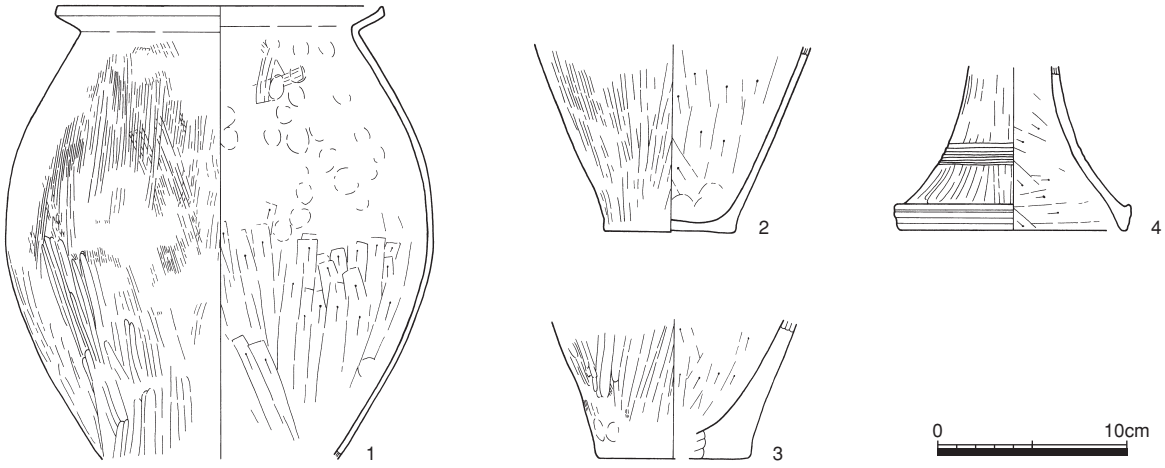
時期　弥生時代後期である。



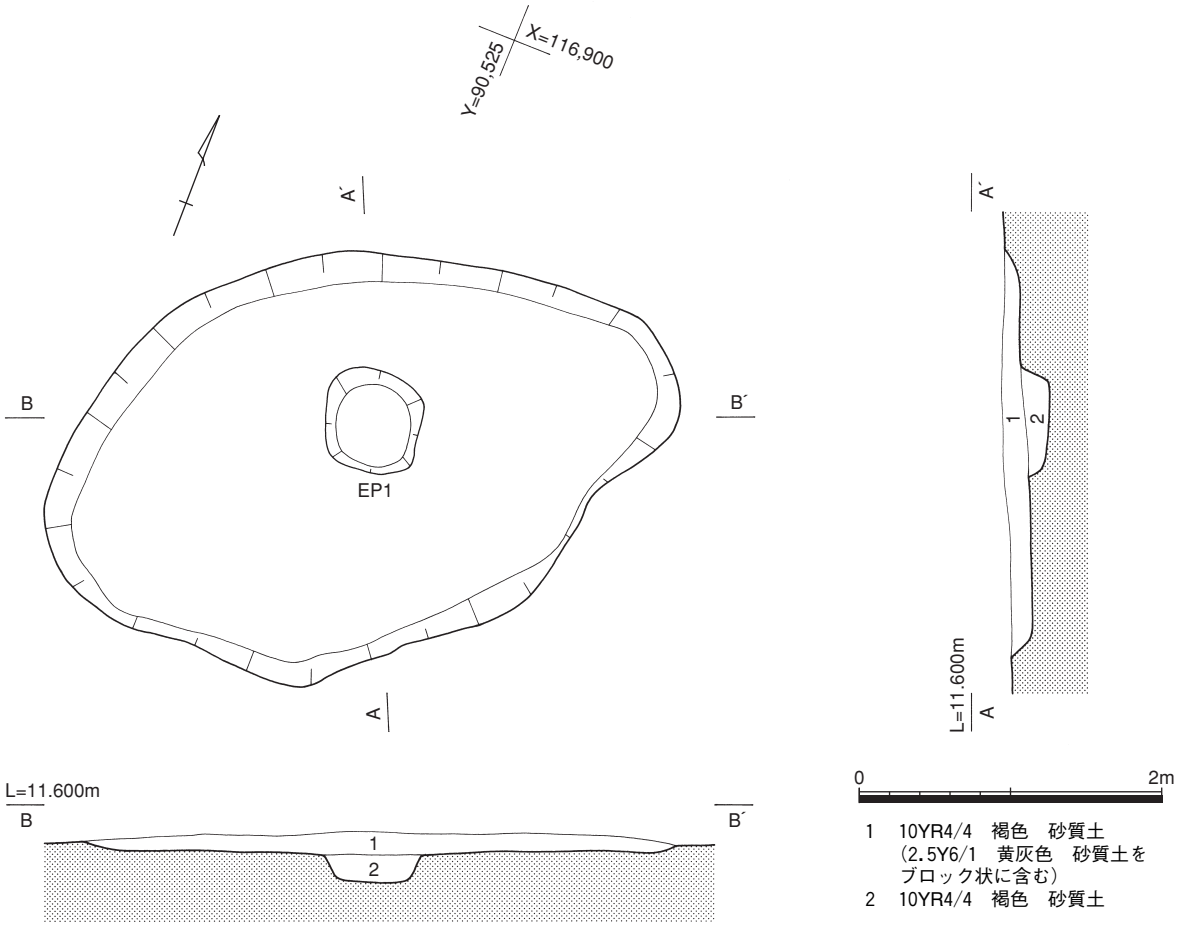
第352図　SK5045遺構平・断面図



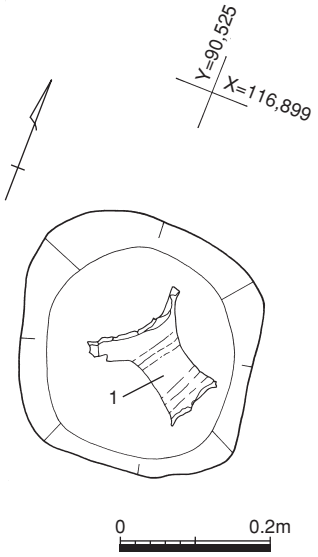
第353図　SK5046遺構平・断面・遺物出土状況図



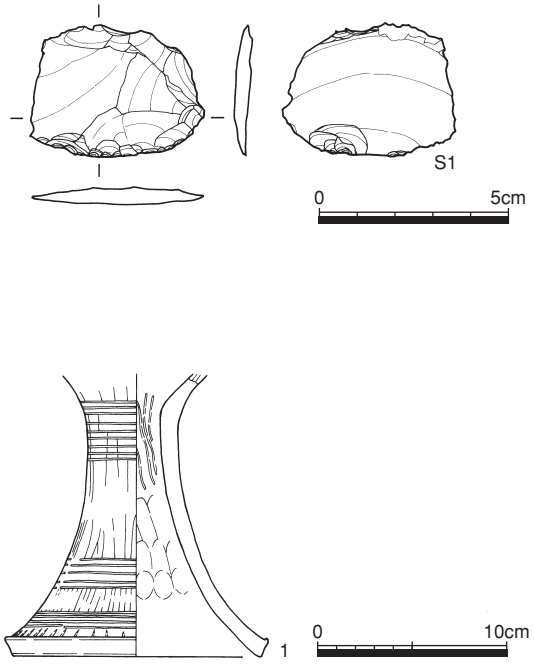
第354図　SK5046出土遺物図



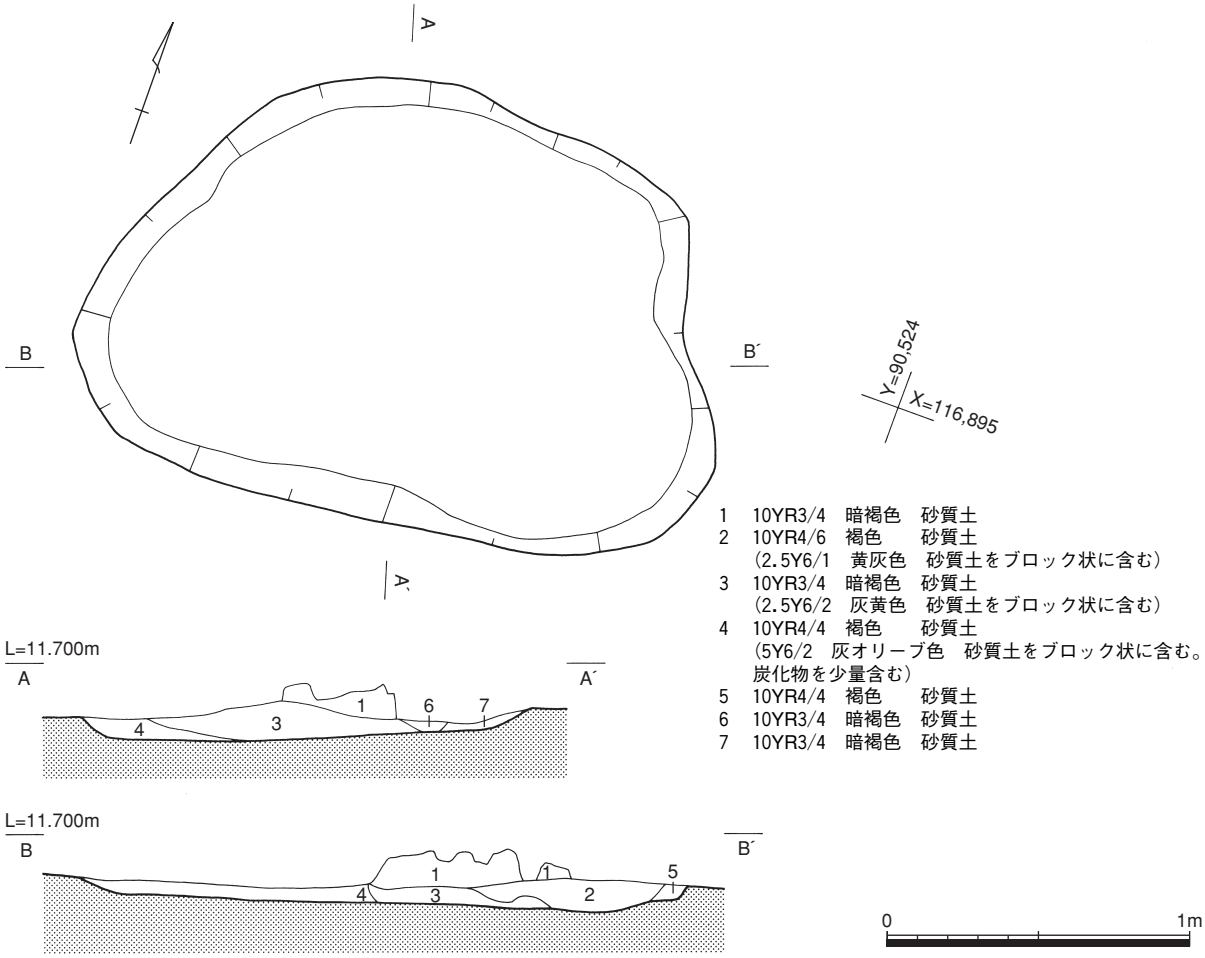
第355図　SK5050遺構平・断面図



第356図　SK5050EPI 遺物出土状況図

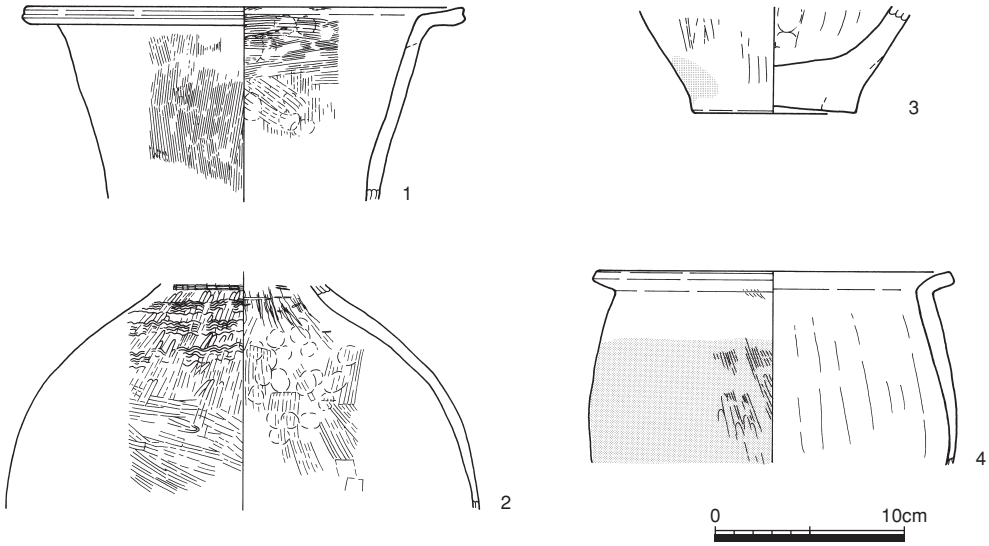


第357図　SK5050出土遺物図

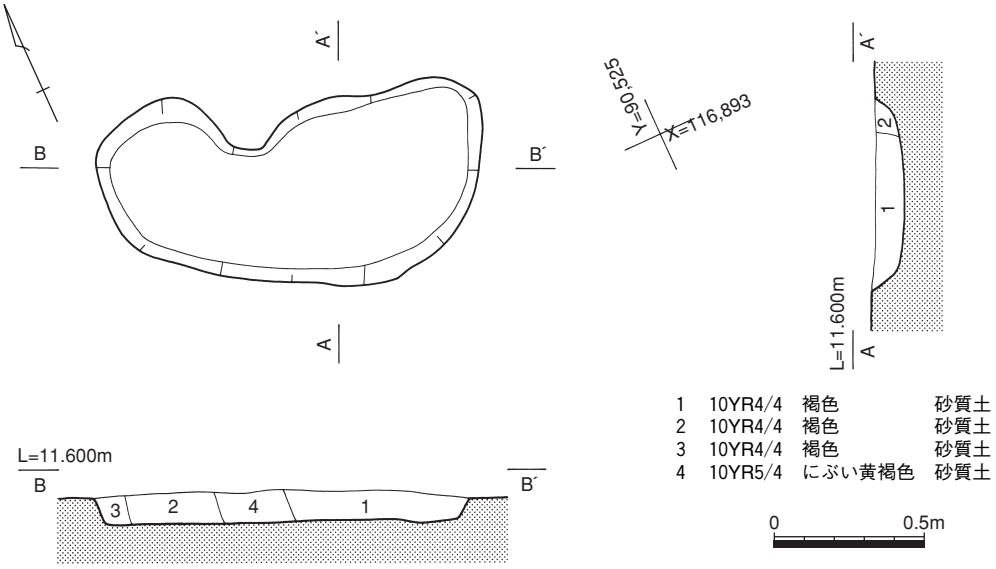


第358図　SK5053遺構平・断面図

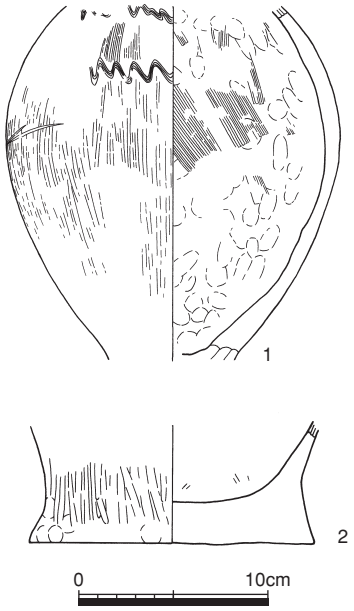
第359図　SK5053遺物出土状況図



第360図　SK5053出土遺物図



第361図　SK5055遺構平・断面図



第362図　SK5055出土遺物図

57号土坑（SK5057）（第363～365図）

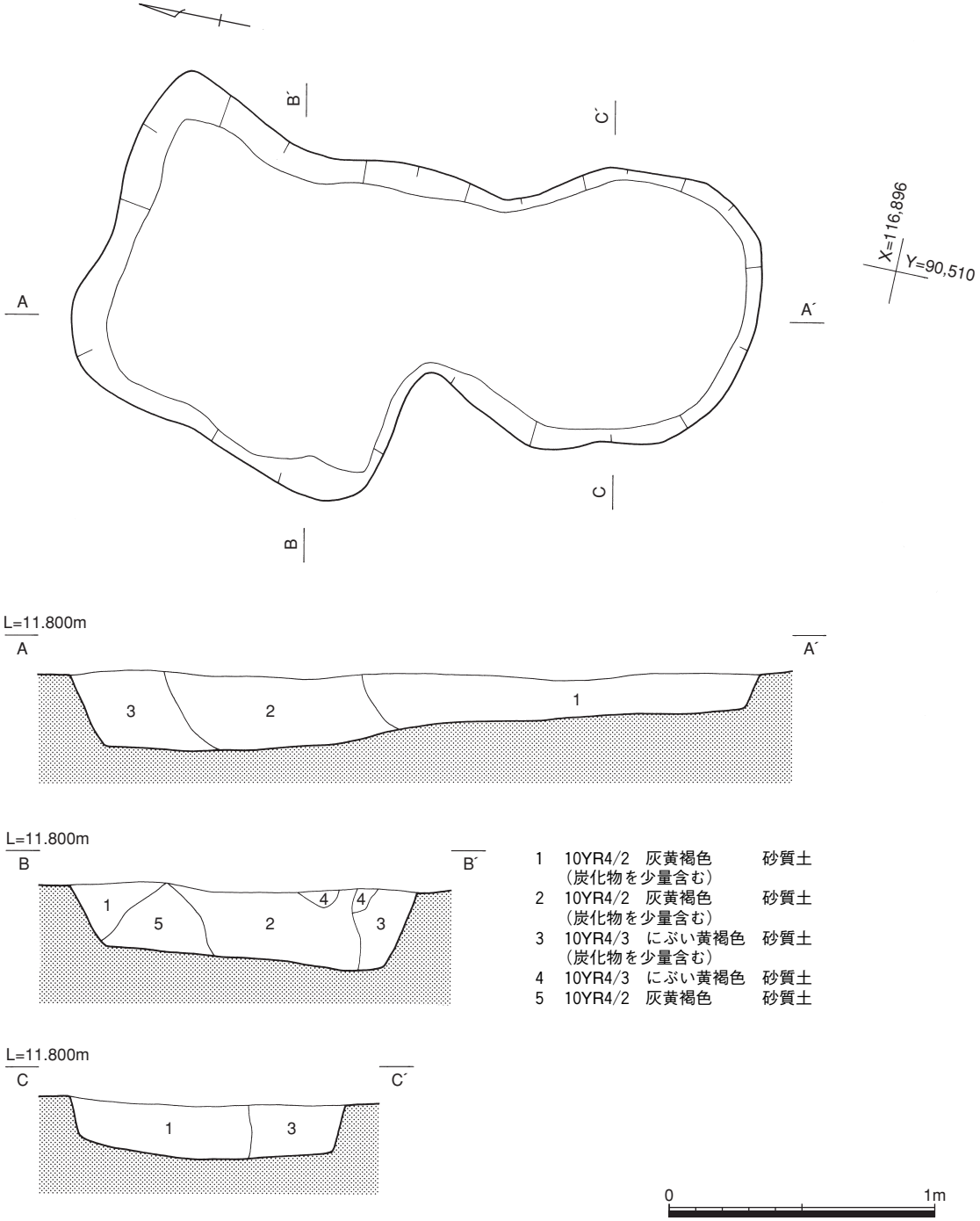
位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　T－2・3グリッド

規模と形状　長径2.58m、短径1.28m、深度0.25mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が南北に長い不定形である。断面は逆台形である。

土層　遺構覆土は５層に分層され、１・２・５層は灰黄褐色砂質土、３・４層はにぶい黄褐色砂質土である。

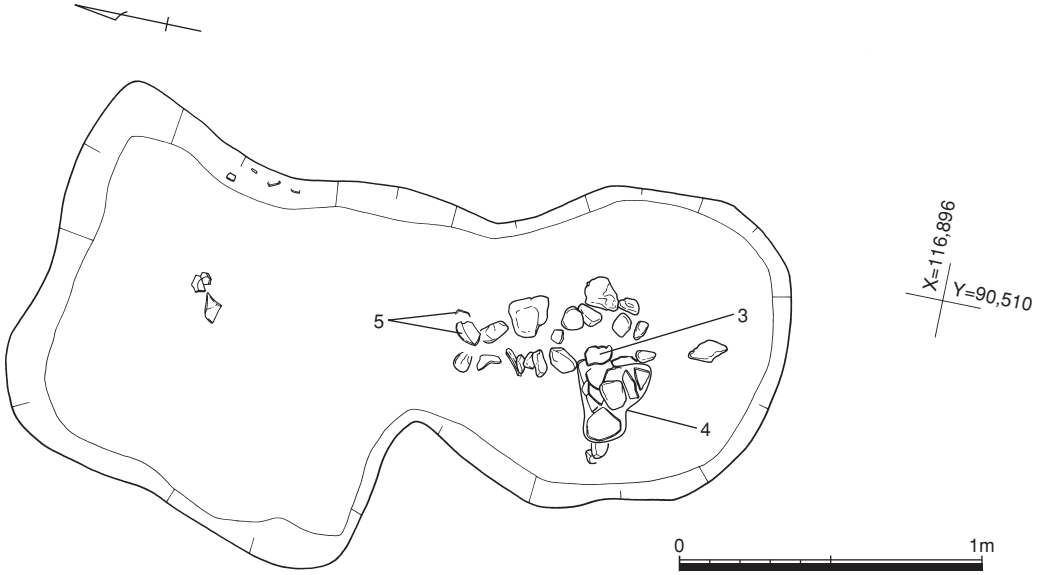
遺物出土状況　遺構南側より土器が比較的まとまった状態で検出された。壺４は底部を西方向に向け横転した状態で検出された。周辺には結晶片岩川原石が出土した。

出土遺物　１～５は弥生土器で、１～３は甕、４・５は直口壺である。

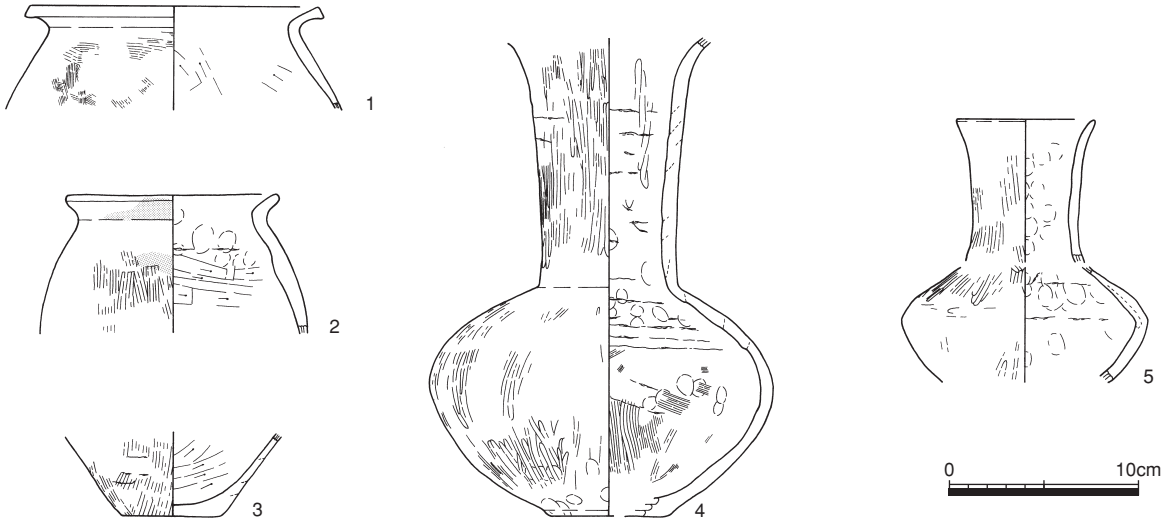


1　10YR4/2　灰黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
2　10YR4/2　灰黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
3　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
4　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
5　10YR4/2　灰黄褐色　砂質土

第363図　SK5057遺構平・断面図



第364図　SK5057遺物出土状況図



第365図　SK5057出土遺物図

時期　弥生時代後期である。

67号土坑（SK5067）（第366・367図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３、δⅠ　Ｓ－6グリッド

規模と形状　長径0.7m、短径0.5m、深度0.55mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が楕円形であり、断面が逆台形である。

土層　遺構覆土は、オリーブ褐色砂質土である。

出土遺物　Ｓ１・２はサヌカイト製剥片である。

時期　弥生時代と推定される。

69号土坑（SK5069）（第368～370図）

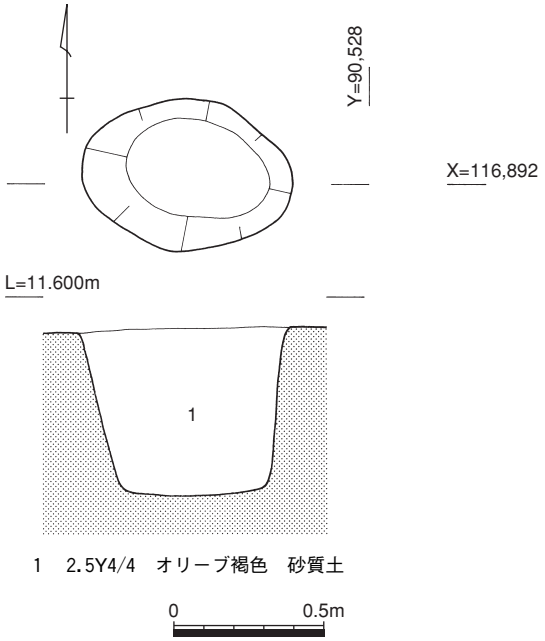
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－5グリッド

規模と形状　長径0.91m、短径0.54m、深度0.15mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不定形であり、断面が浅い逆台形であるが、遺構中央の土層が盛り上がっており、本来、遺構の上端は、報告する断面の上端よりも高かったと考えられる。

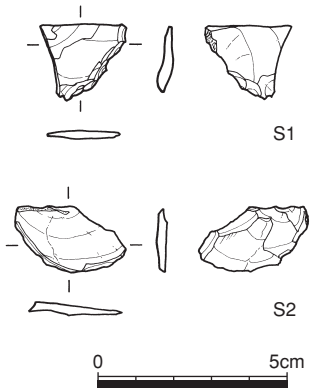
土層　遺構覆土は、褐色砂質土と黄褐色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器壺である。

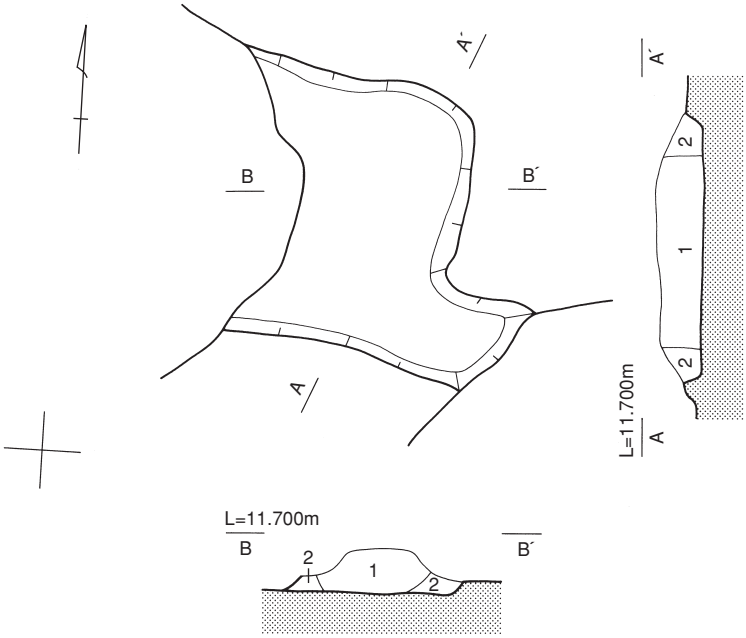
時期　弥生時代後期である。



第366図　SK5067遺構平・断面図

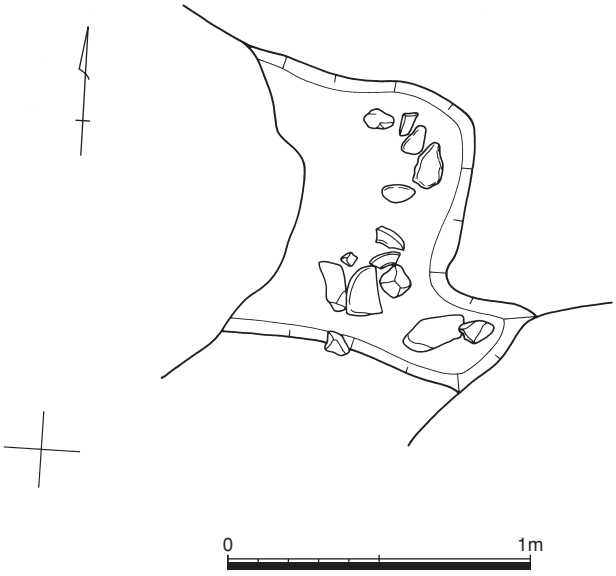


第367図　SK5067出土遺物図

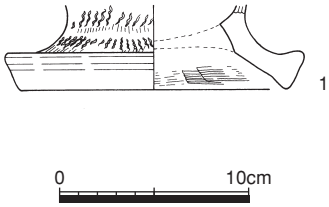


1　10YR4/4　褐色　　砂質土
　（2.5Y7/3　浅黄色　砂質土をブロック状に含む）
2　10YR5/6　黄褐色　砂質土

第368図　SK5069遺構平・断面図



第369図　SK5069遺物出土状況図



第370図　SK5069出土遺物図

70号土坑（SK5070）（第371～373図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　R－3グリッド

規模と形状　残存長軸0.8m、短軸0.56m、深度0.17mを測る土坑である。平面形態は不整楕円形を呈する。

土層　遺構覆土は、暗褐色砂質である。

出土遺物　１は弥生土器高杯である。

時期　弥生時代後期である。

72号土坑（SK5072）（第378～380図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　R－7グリッド

規模と形状　長径1.25m、短径0.69m、深度0.10mを測る土器溜りである。遺構の形状は、遺構の東側が確認されてないが、平面は、東西に長い楕円形であろう。断面は、逆台形である。

土層　遺構覆土は２層に分層でき、１層はにぶい黄褐色砂質土、２層は褐色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器壺である。

時期　弥生時代と推定される。

73号土坑（SK5073）（第374・375図）

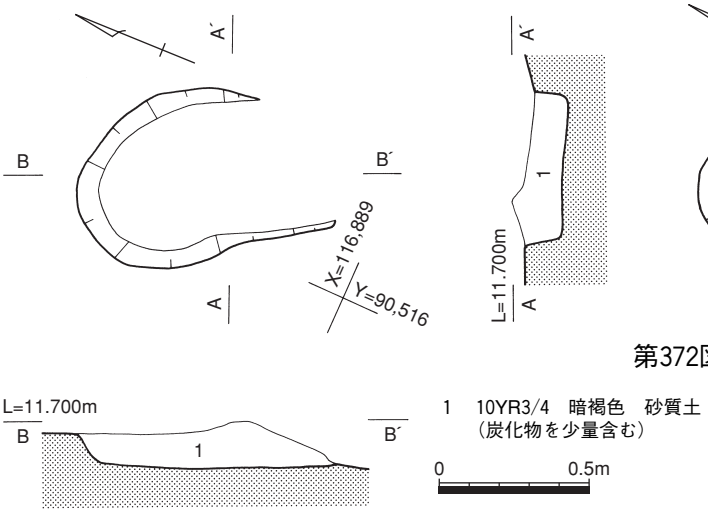
位置　96－1・2区。Loc.B３、δⅠ　R・S－7グリッド

規模と形状　長径0.85m、短径0.70m、深度0.10mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であり、断面が浅い逆台形である。

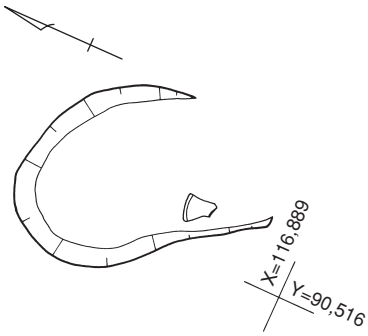
土層　遺構覆土は、オリーブ褐色砂質土である。

出土遺物　S１は結晶片岩製磨石である。

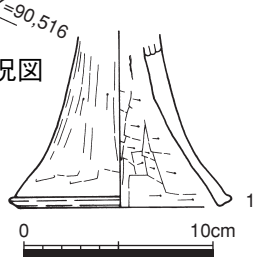
時期　弥生時代と推定される。



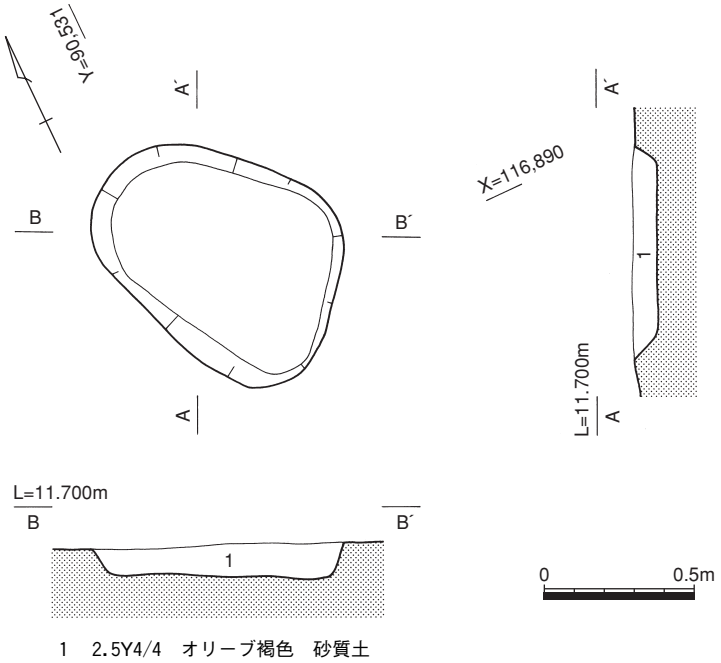
第371図　SK5070遺構平・断面図



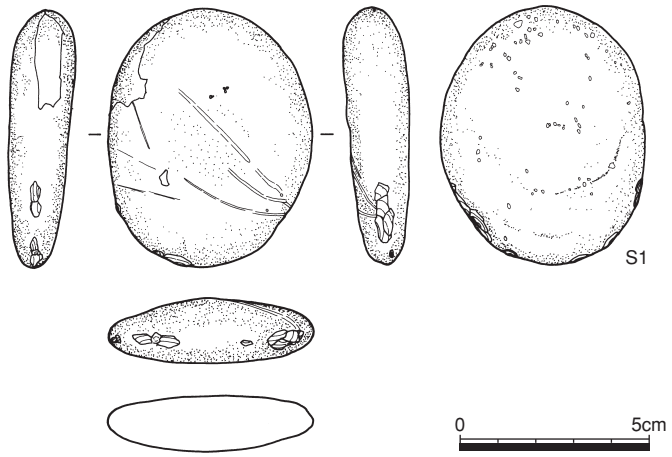
第372図　SK5070遺物出土状況図



第373図　SK5070出土遺物図



第374図　SK5073遺構平・断面図



第375図　SK5073出土遺物図

78号土坑（SK5078）（第376・377図）

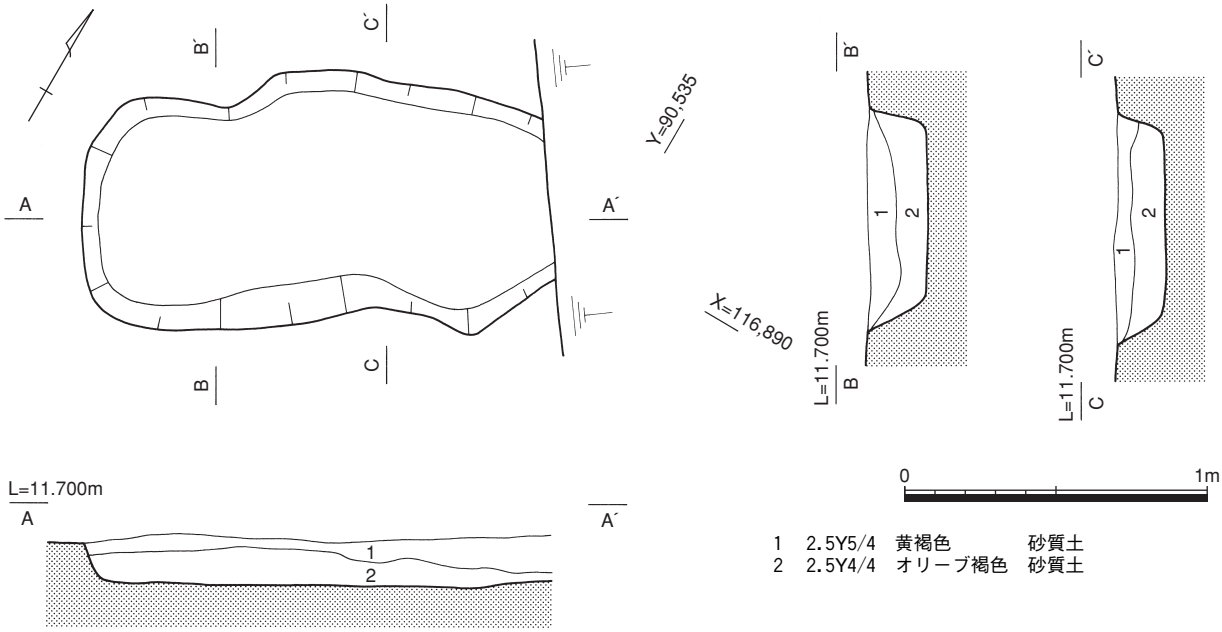
位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　R・S－7グリッド

規模と形状　長径1.54m、短径0.74m、深度0.18mを測る土坑である。遺構の形状は、北東～南西方向に長い不整楕円形であり、断面は逆台形である。北東部分が側溝で切られている。

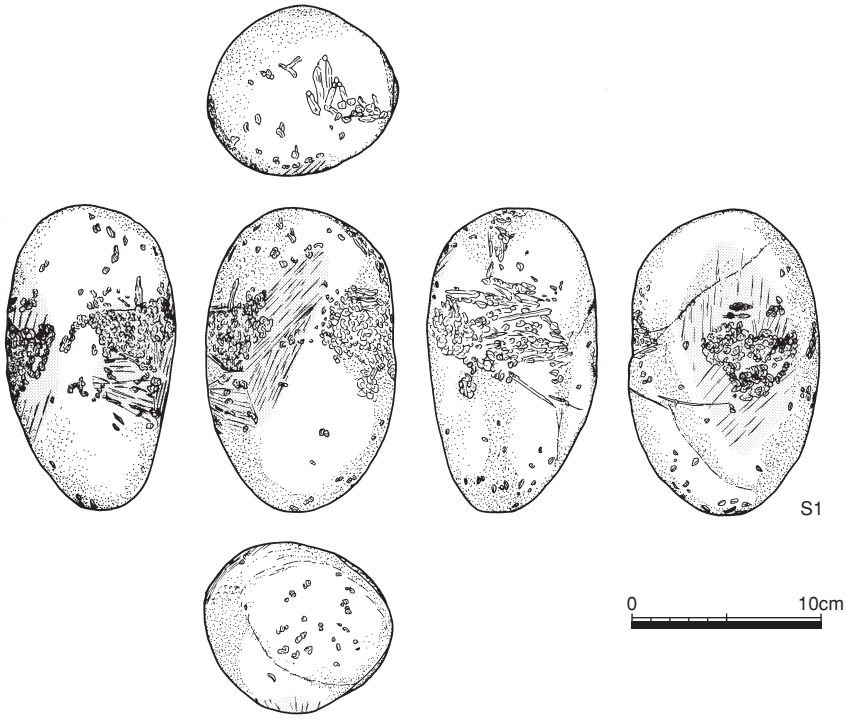
土層　遺構覆土は２層に分層することができ、１層は黄褐色砂質土、２層はオリーブ褐色砂質土である。

出土遺物　S１は結晶片岩製敲石である。２ヶ所磨かれた痕跡がある。

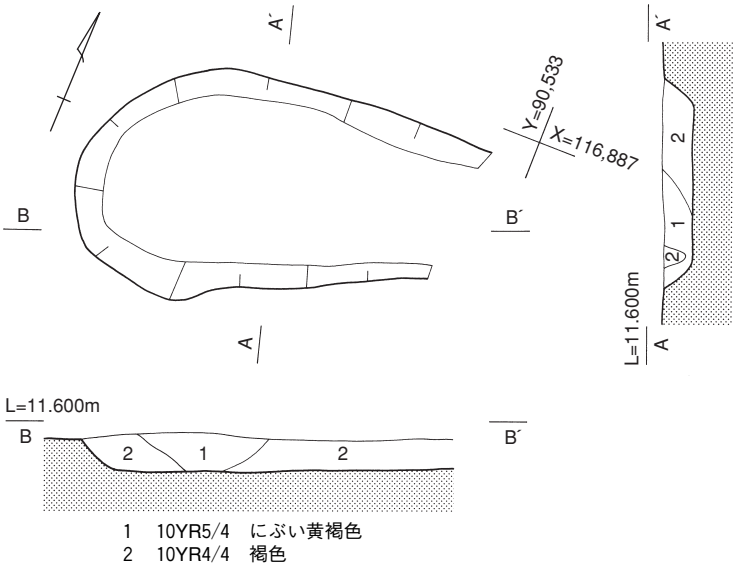
時期　弥生時代と推定される。



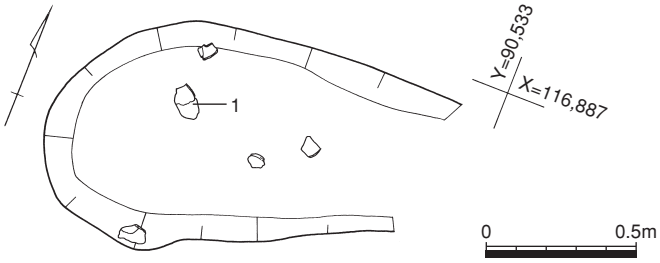
第376図　SK5078遺構平・断面図



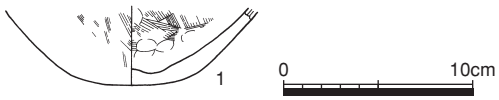
第377図　SK5078出土遺物図



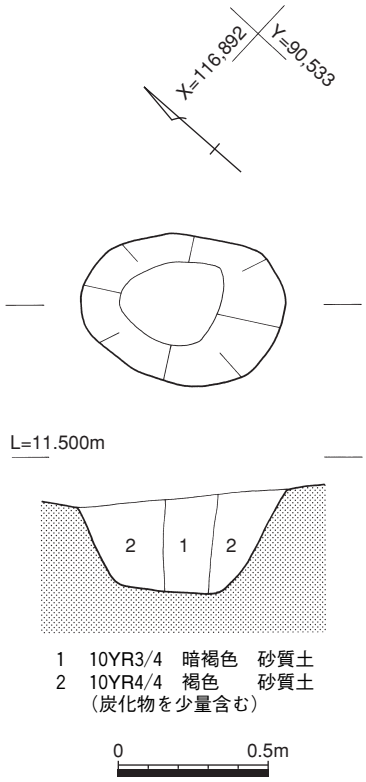
第378図　SK5072遺構平・断面図



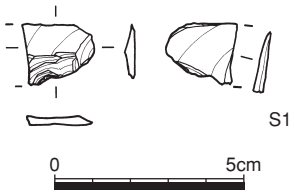
第379図　SK5072遺物出土状況図



第380図　SK5072出土遺物図



第381図　SK5080遺構平・断面図



第382図　SK5080出土遺物図

80号土坑（SK5080）（第381～382図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　S－7グリッド

規模と形状　長径0.67m、短径0.49m、深度0.31mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が楕円形であり、断面は逆台形である。

土層　遺構覆土は、暗褐色砂質土と褐色砂質土である。

出土遺物　S１はサヌカイト製剥片である。

時期　弥生時代と推定される。

85号土坑（SK5085）（第383～385図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　Q・R－7・8グリッド

規模と形状　長径1.08m、短径0.89m、深度0.17mを測る土坑である。遺構の形状は、南側の形状が確認できなかったが、隅丸方形であろうか。断面は逆台形である。

土層　遺構覆土は褐色砂質土である。

遺物出土状況　結晶片岩川原石と共に壺１が出土した。

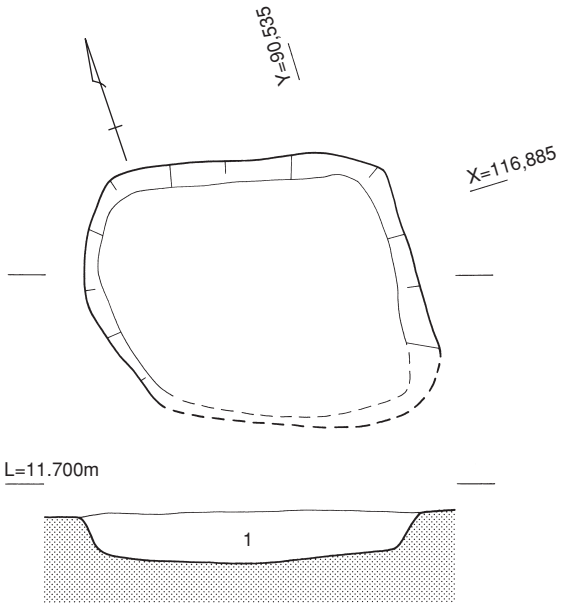
出土遺物　１・２は弥生土器で、１は広口壺、２は甕である。
時期　弥生時代後期である。

86号土坑（SK5086）（第386図）
位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　P・Q－7・8グリッド
規模と形状　長軸0.57m、短軸0.42m、深度0.2mを測る土坑である。平面形態は不整楕円形を呈する。
土層　遺構覆土は、にぶい黄褐色砂質土と褐色砂質土である。
時期　図化可能な遺物はなかったものの、遺構面の対応関係からみて弥生時代と推定される。

89号土坑（SK5089）（第387～389図）
位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　Q－7グリッド
規模と形状　長径0.82m、短径0.79m、深度0.22mを測る土坑である。遺構の形状は、遺構の南東側が検出されていないが、平面は不整円形であろうか。断面は逆台形である。
土層　遺構覆土は、褐色砂質土である。
出土遺物　１は弥生土器壺である。
時期　弥生時代後期である。

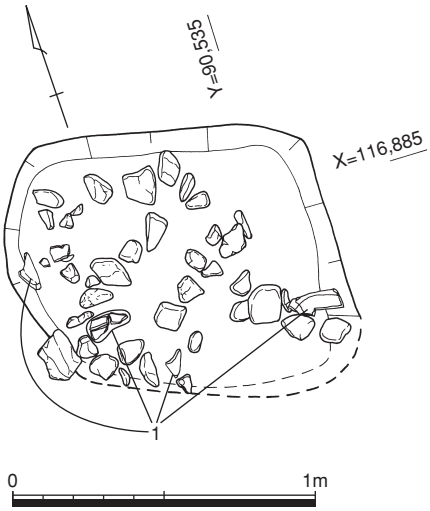
91号土坑（SK5091）（第390～392図）
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－7・8グリッド
規模と形状　長径1.08m、短径0.56m、深度0.18mを測る土坑である。遺構の形状は、遺構の南側が検出されていないが、平面は南北に長い不定形である。断面は、逆台形であろうか。
土層　遺構覆土は４層に分層することができ、１・３層は褐色砂質土、２層は褐色砂礫層、４層はにぶい黄褐色砂質土ある。
出土遺物　１は弥生土器壺である。
時期　弥生時代後期である。

92号土坑（SK5092）（第393・394図）
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－7グリッド
規模と形状　長径1.65m、短径1.15m、深度0.28mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が楕円形であり、断面が逆台形である。
土層　遺構覆土は褐色砂質土である。
出土遺物　Ｓ１はサヌカイト剥片である。
時期　遺構面の対応関係からみて弥生時代と推定される。

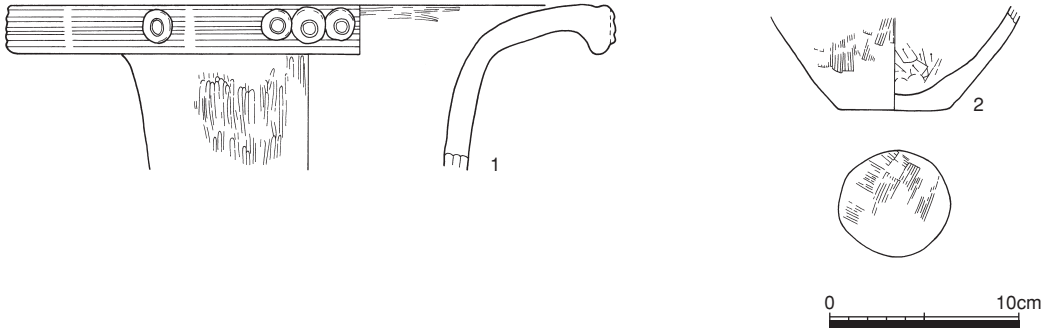


1　10YR4/4　褐色

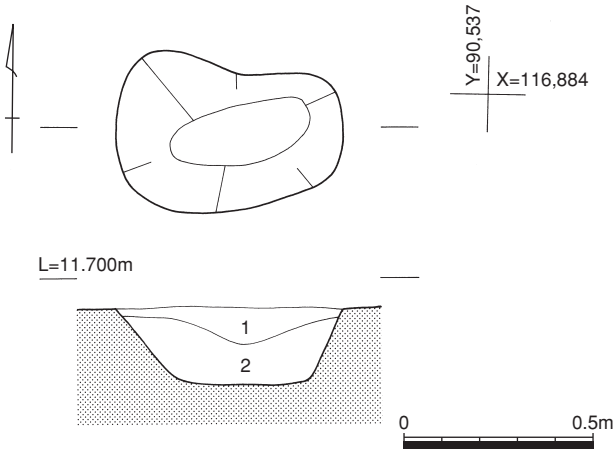
第383図　SK5085遺構平・断面図



第384図　SK5085遺物出土状況図

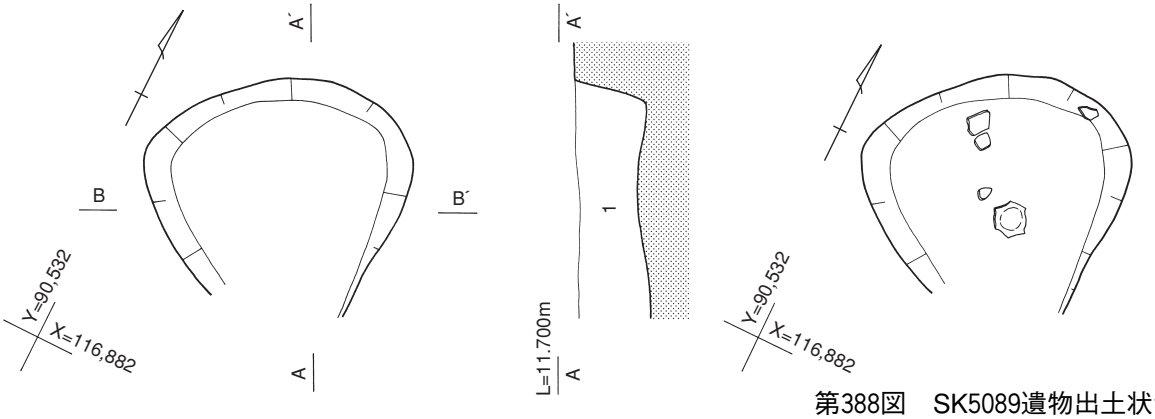


第385図　SK5085出土遺物図

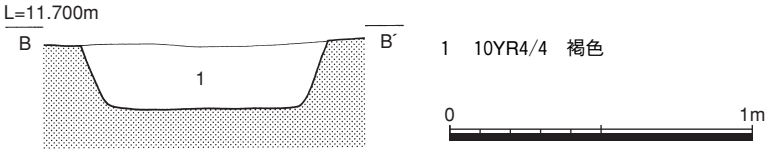


1　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
　（2.5Y6/3　にぶい黄色をブロック状に含む）
2　10YR4/4　褐色　　砂質土

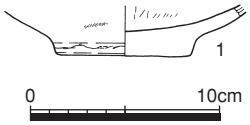
第386図　SK5086遺構平・断面図



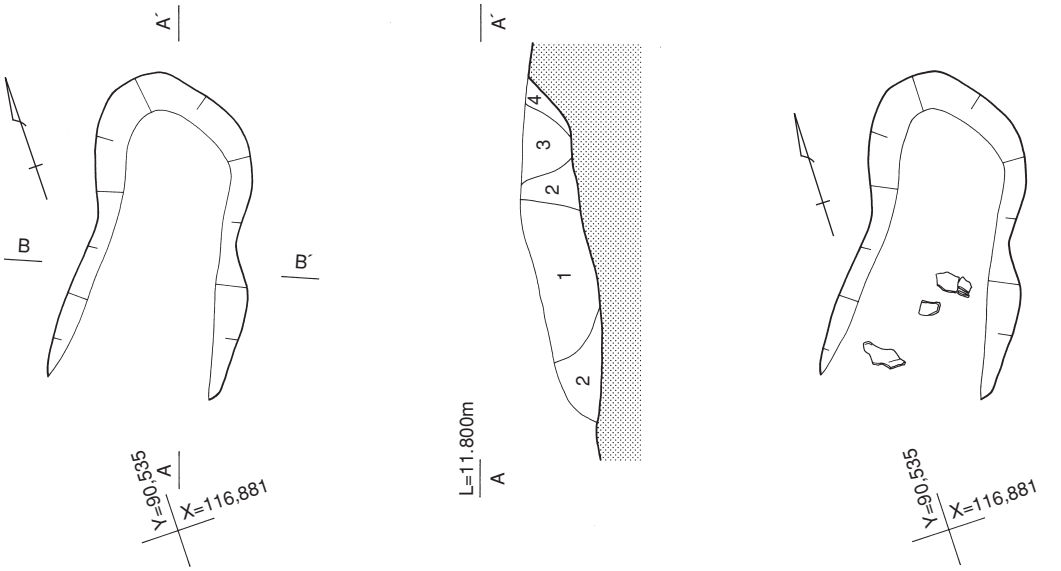
第388図　SK5089遺物出土状況図



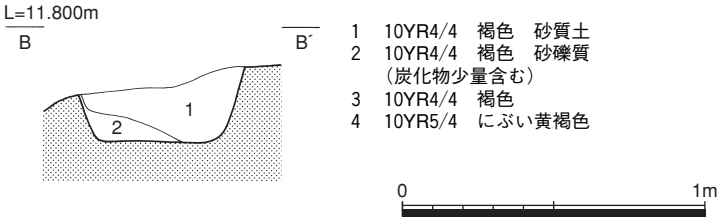
第387図　SK5089遺構平・断面図



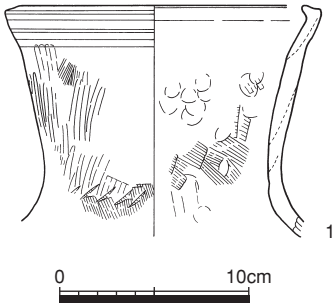
第389図　SK5089出土遺物図



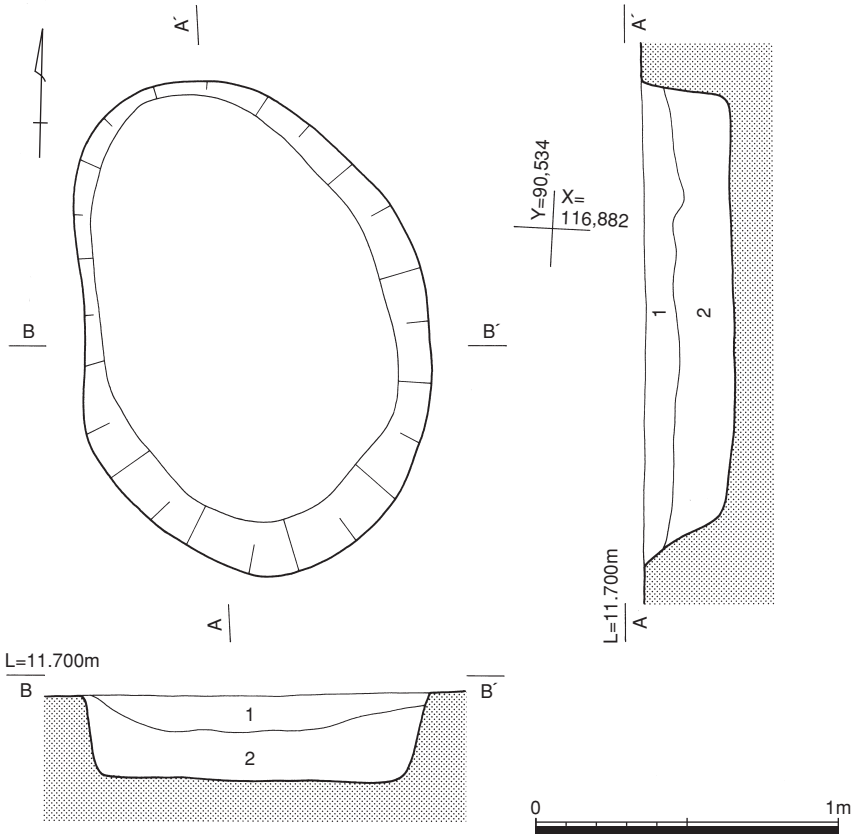
第391図　SK5091遺物出土状況図



第390図　SK5091遺構平・断面図



第392図　SK5091出土遺物図



第394図　SK5092出土遺物図

1　10YR4/6　褐色　砂質土(炭化物を少量含む。全体に5Y5/3　灰オリーブ色をまだらに含む)
2　10YR4/4　褐色　砂質土(炭化物を少量含む。全体に5Y5/3　灰オリーブ色をまだらに含む)

第393図　SK5092遺構平・断面図

94号土坑（SK5094）（第395～397図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　P・Q－6・7グリッド

規模と形状　長径2.24m、短径2.16m、深度0.32mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整円形であり、断面は逆台形である。

土層　遺構内覆土は、褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土である。

遺物出土状況　多量の結晶片岩川原石と共に土器片が検出された。

出土遺物　１～３は弥生土器で、１は甕、２・３は壺である。

時期　弥生時代後期である。

99号土坑（SK5099）（第398・399図）

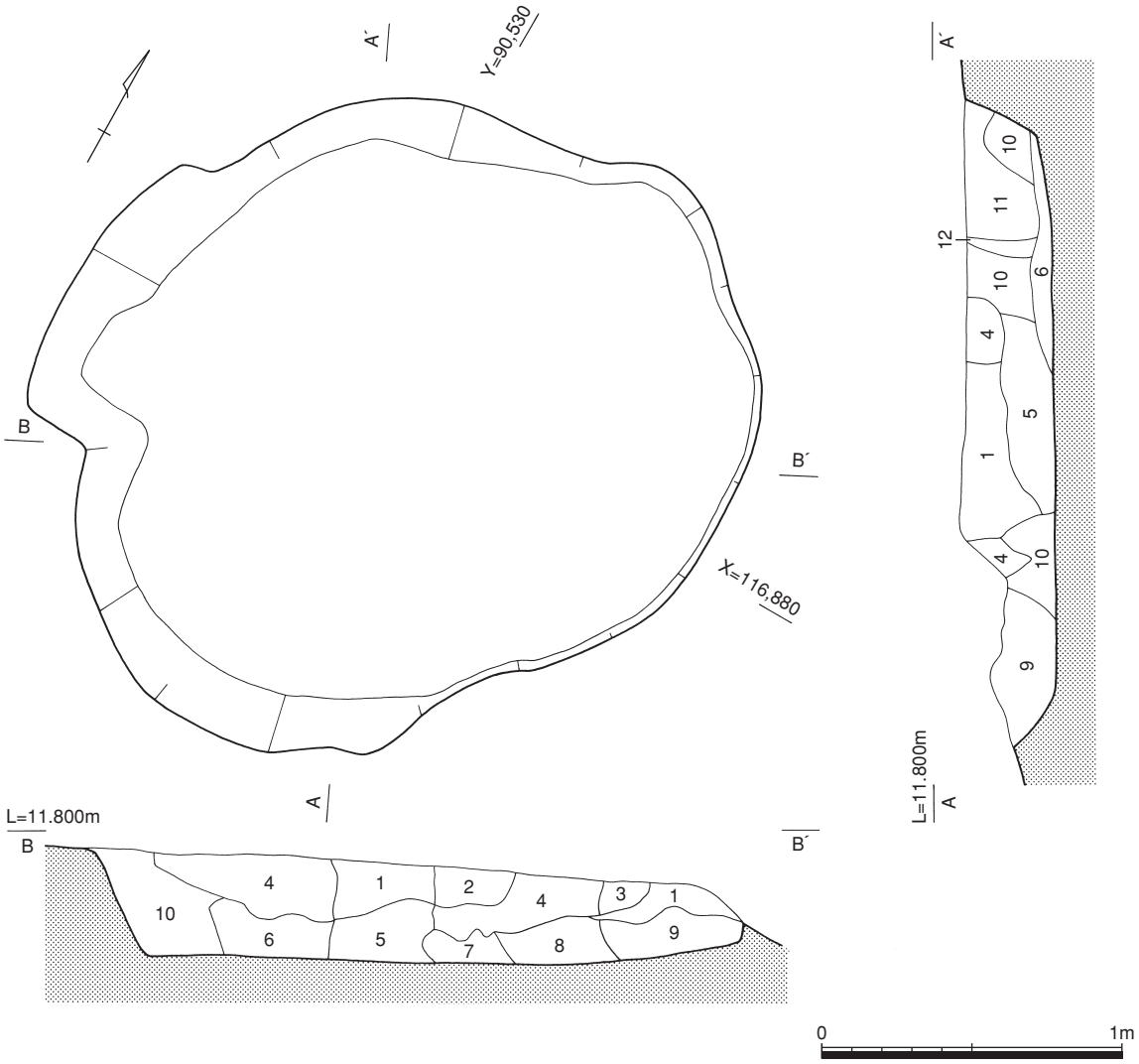
位置　96－1・2区。Loc.B３、δⅠ　O・P－7グリッド

規模と形状　長径1.19m、短径0.75m、深度0.08mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が逆Ｌ状の不定形で、断面は逆台形を呈する。

土層　遺構覆土は、黄褐色砂質土である。

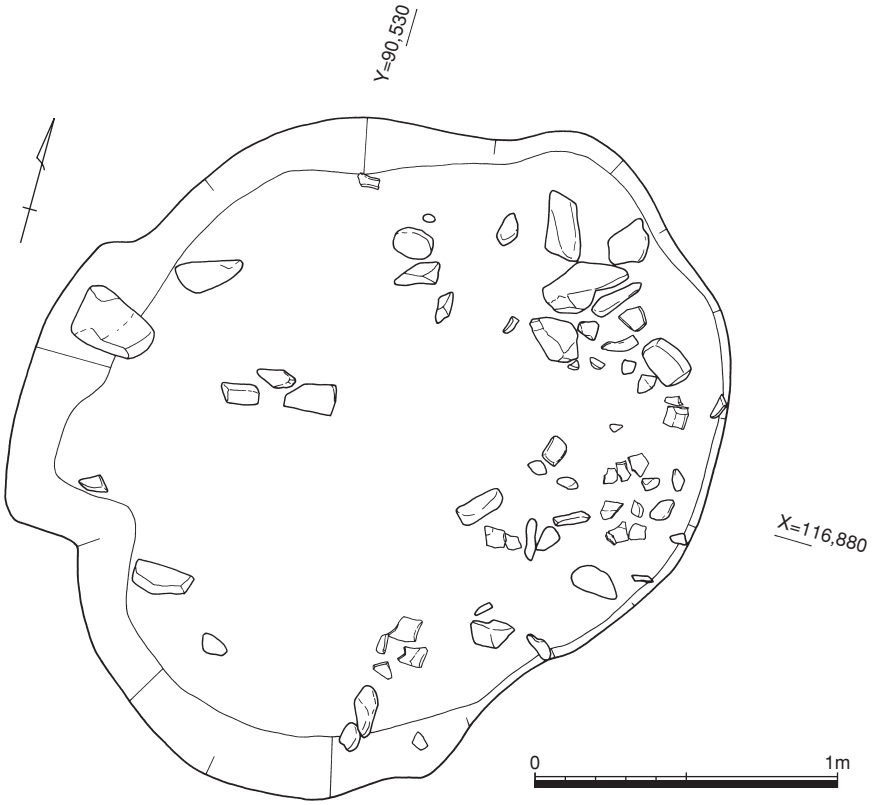
出土遺物　１は弥生土器壺である。

時期　弥生時代後期である。

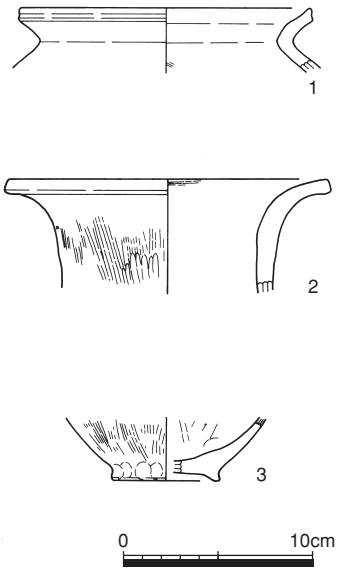


1	10YR4/6	褐色	砂質土	7	10YR4/4	褐色	砂質土
2	10YR4/4	褐色	砂質土(炭化物を少量含む)	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	9	10YR4/4	褐色	砂質土
4	10YR4/4	褐色	砂質土	10	10YR4/4	褐色	砂質土(炭化物を少量含む)
5	10YR4/6	褐色	砂質土	11	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	12	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土(炭化物を少量含む)

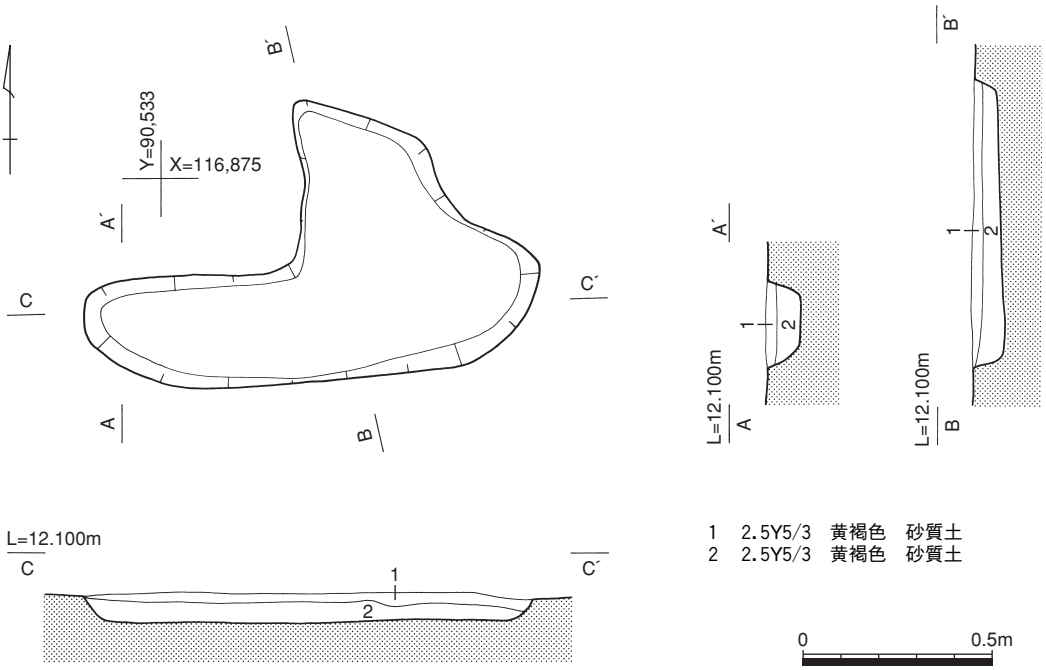
第395図　SK5094遺構平・断面図



第396図　SK5094遺物出土状況図



第397図　SK5094出土遺物図



第398図　SK5099遺構平・断面図

第399図　SK5099出土遺物図

100号土坑（SK5100）（第400～403図）

位置　96－1・2区。Loc.B３　δⅠ　O－6グリッド

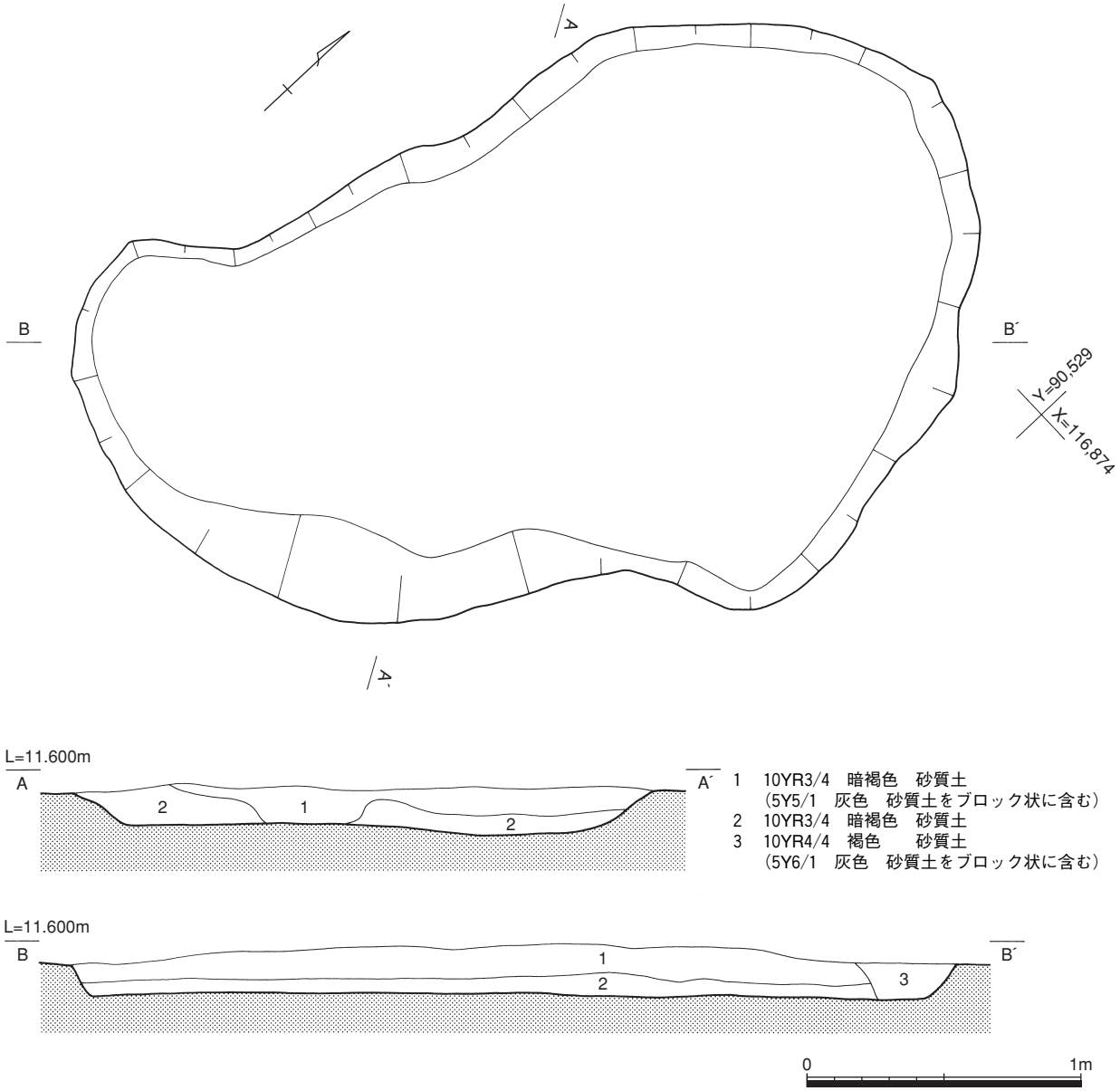
規模と形状　長径3.32m、短径2.14m、深度0.18mを測る大形の土坑である。遺構の形状は、南北方向に長い不整楕円形であり、断面は逆台形である。

土層　遺構覆土は３層に分層でき、１・２層は暗褐色砂質土、３層は褐色砂質土である。

遺物出土状況　多量の結晶片岩川原石と共に土器が出土した。北側の礫群と共に壺１が検出された。

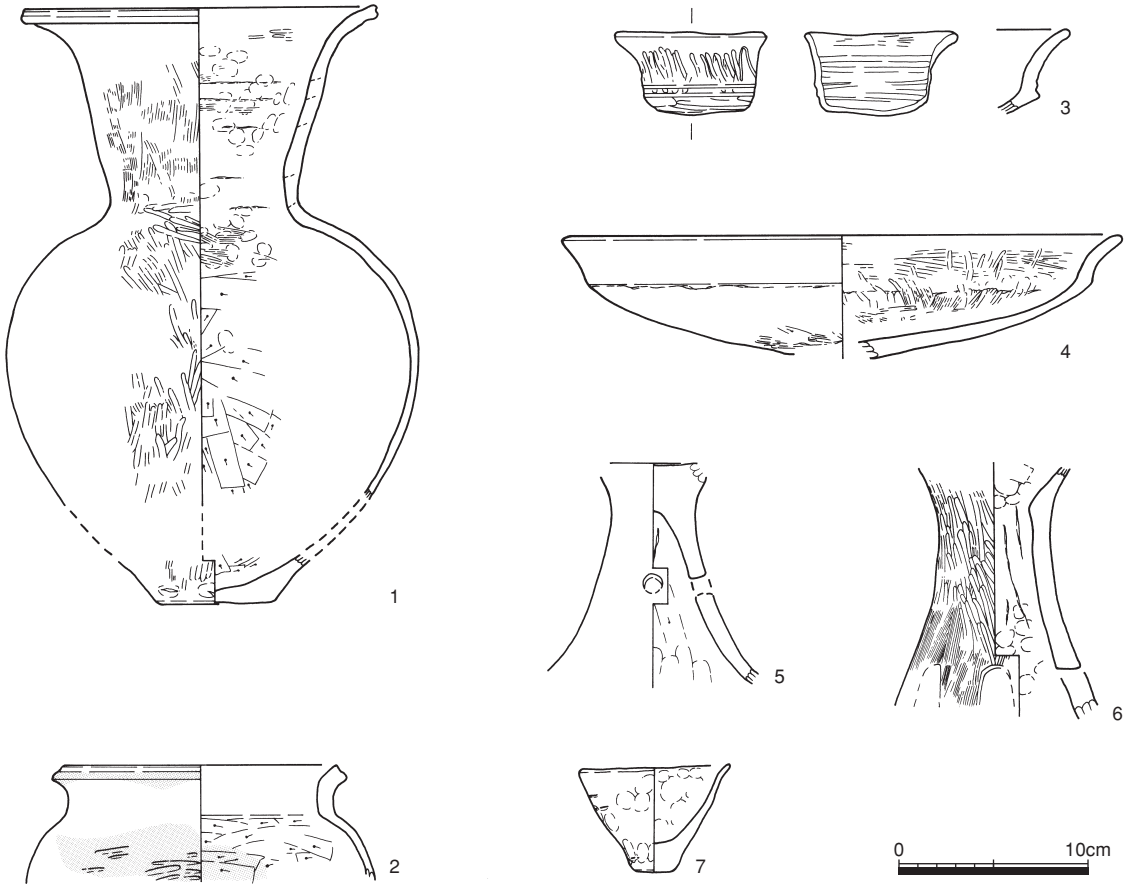
出土遺物　１～７は弥生土器で、１は広口壺、２は甕、３～６は高杯、７は手捏ね土器の鉢である。S１は砂岩製磨石である。S２はサヌカイト製剥片である。

時期　弥生時代後期である。

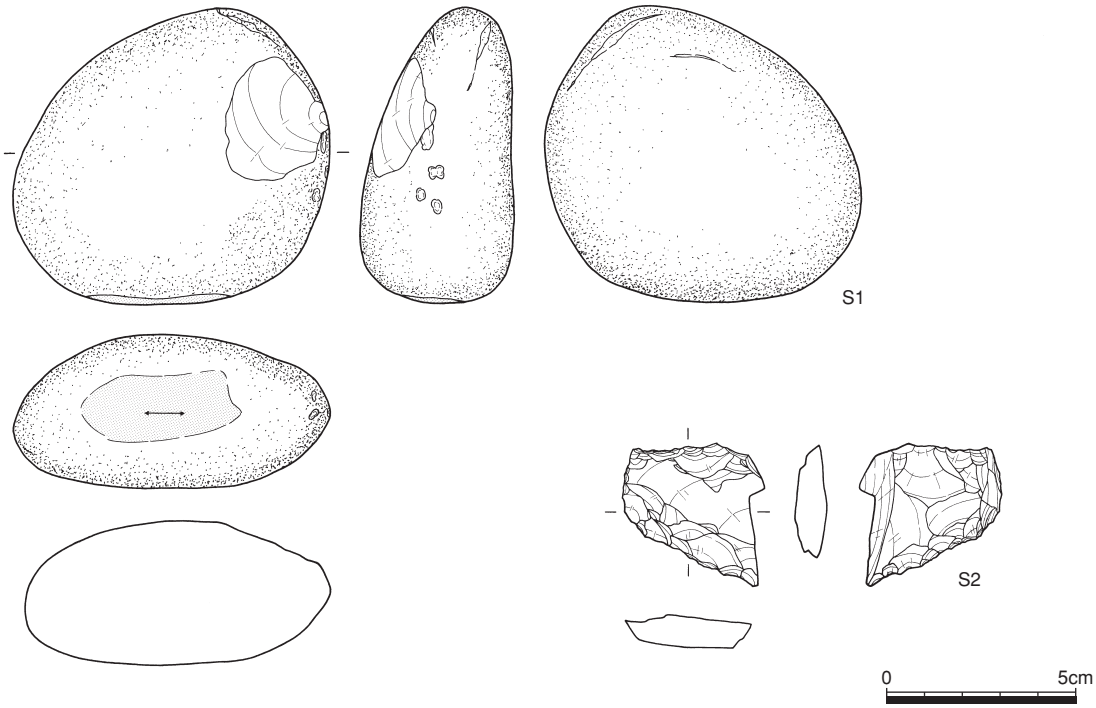


第400図　SK5100遺構平・断面図

第401図　SK5100遺物出土状況図



第402図　SK5100出土遺物図(1)



第403図　SK5100出土遺物図(2)

101号土坑（SK5101）（第404～407図）

位置　96－1・2区。Loc.B3　δⅠ　M－5、K・L－6グリッド

規模と形状　残存長軸3.25m、残存短軸1.67m、深度0.18mを測る大形の土坑である。平面形態は、南西側が調査区外へと展開するために不明であるが、隅丸方形と推定される。小型の竪穴住居の可能性も想定される。

土層　遺構覆土は暗褐色砂質土である。

遺物出土状況　遺構中央部より鉢４が比較的集中して検出された。小型破片は飛び散った状態である。台石Ｓ２上面から甕１が出土した。

出土遺物　１～４は弥生土器で、１～３は甕、４は大形の鉢である。Ｓ１は閃緑岩製敲石、Ｓ２は結晶片岩製台石である。

時期　弥生時代後期である。

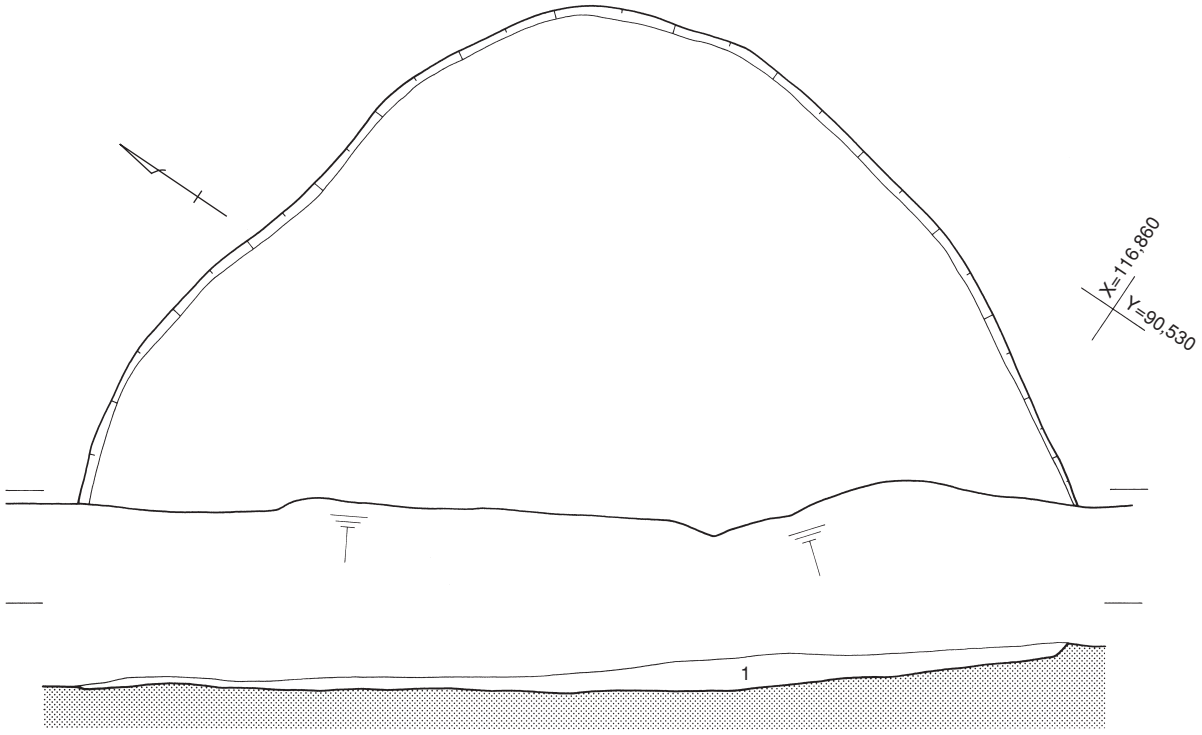
102号土坑（SK5102）

位置　97－1区。Loc.B3　δⅠ　P－15グリッド

規模と形状　長径1.61m、短径1.00m、深度0.28mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が隅丸長方形であろうか。断面は逆台形である。遺構中央部東側は、EPによってきられている。

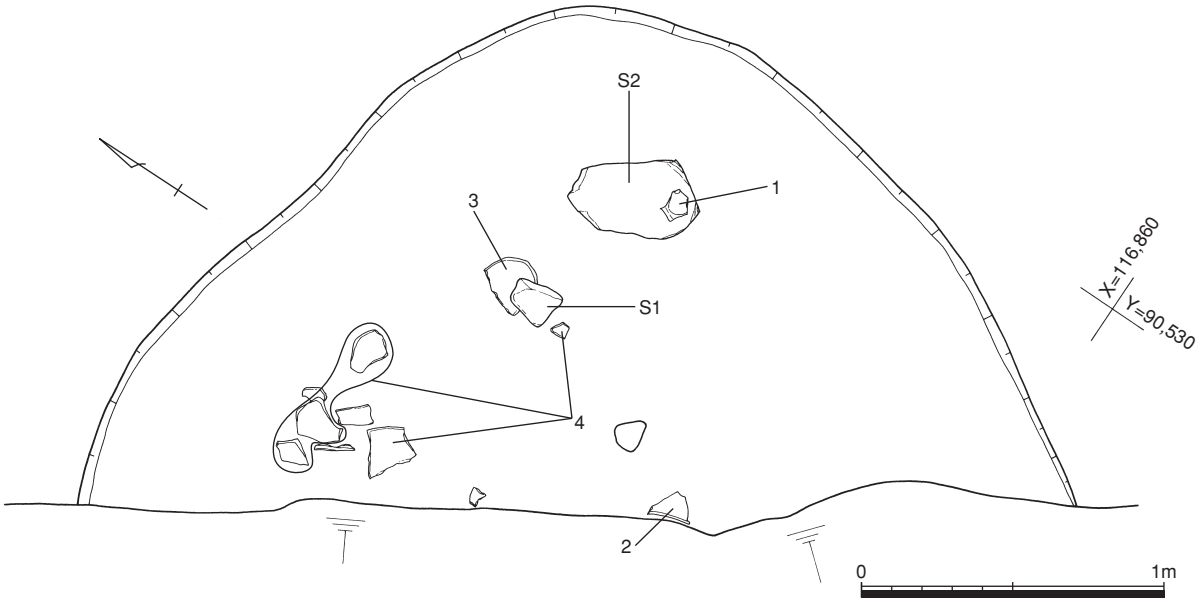
土層　遺構覆土は11層に分層でき、１・２・10・11層は灰色砂質土、３・６層は暗褐色砂質土、４・５層は灰オリーブ色砂質土、７層はにぶい黄褐色砂質土、８・９層は褐色砂質土である。

遺物出土状況　遺構中央部より、甕１が口縁部を北西方向に向けて横転した状態で検出された。完形の状態で土坑内に納められたと推定される。甕１底部に接して高杯２が出土した。周辺からは結晶片岩川原石が出土している。



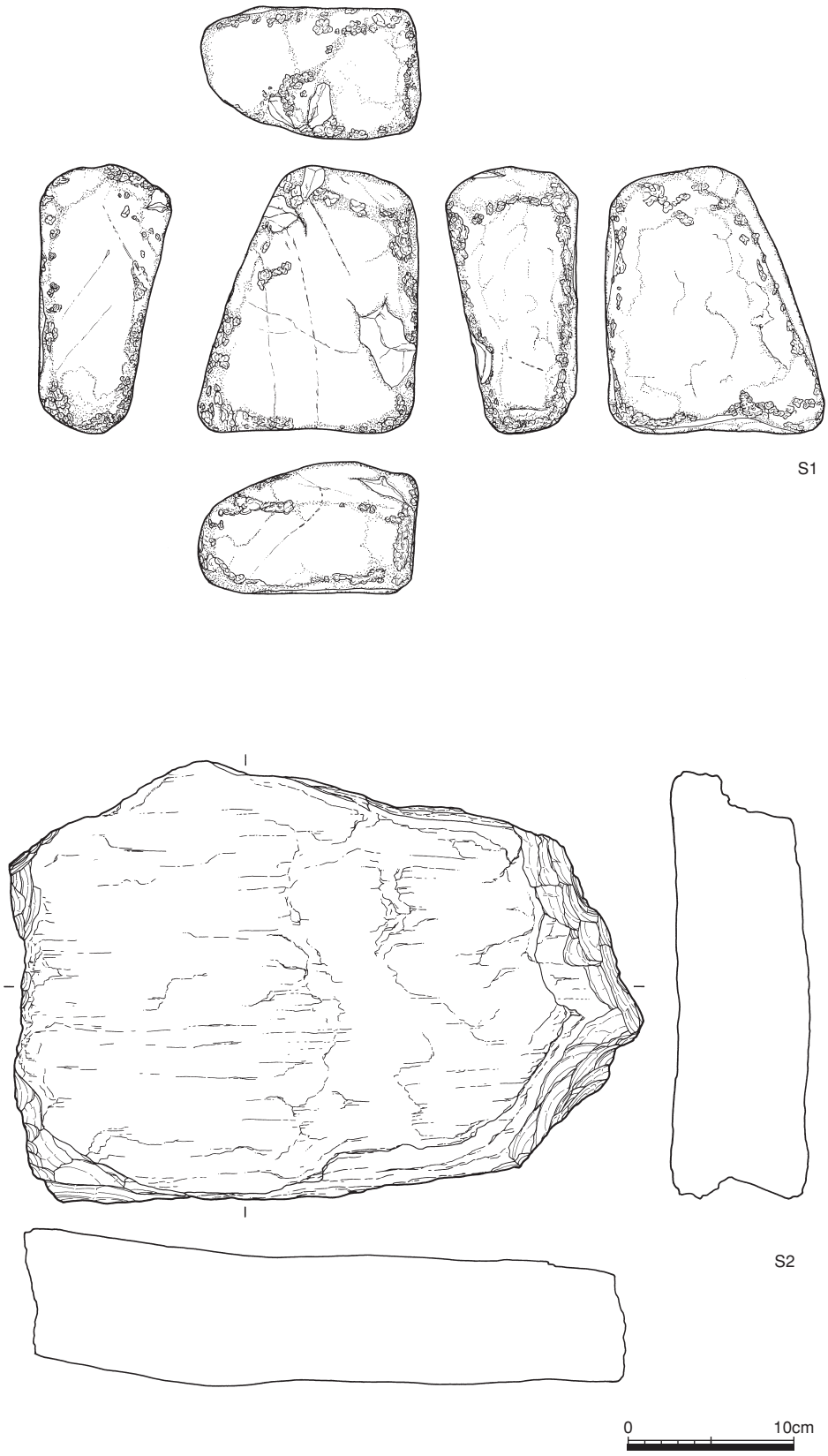
1　10YR3/4　暗褐色　砂質土

第404図　SK5101遺構平・断面図

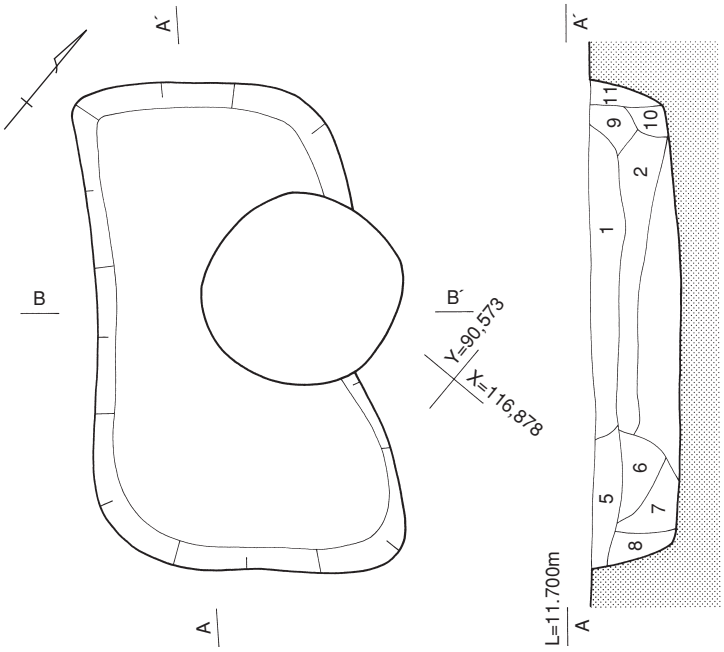


第405図　SK5101遺物出土状況図

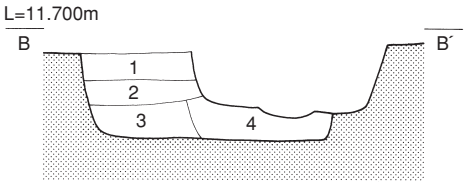
第406図　SK5101出土遺物図(1)



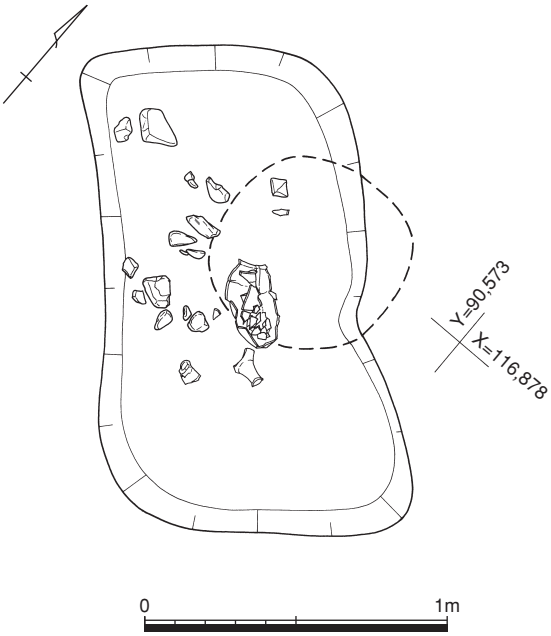
第407図　SK5101出土遺物図(2)



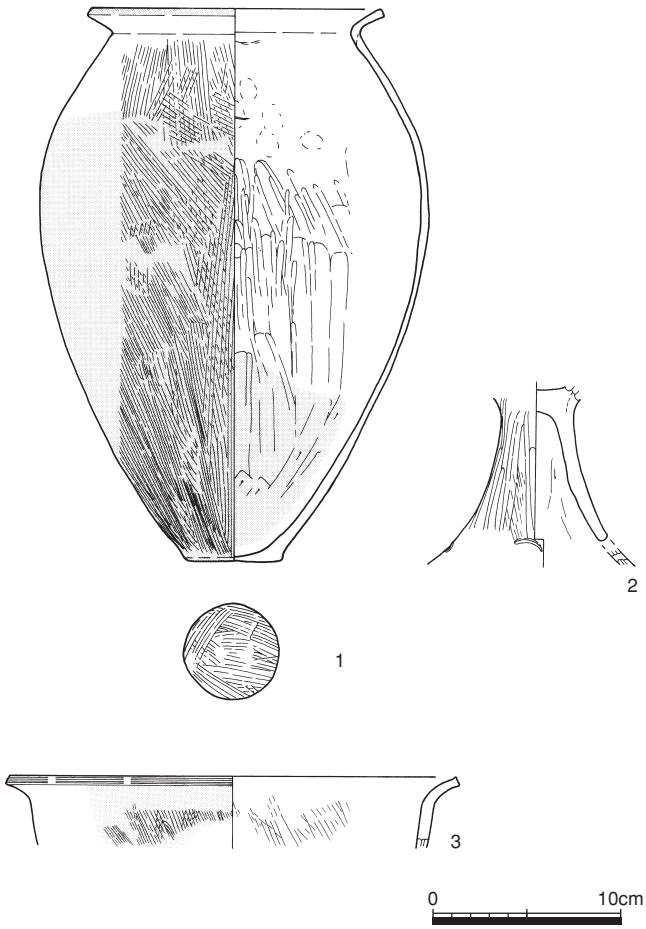
1　5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
2　5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR3/4　暗褐色　砂質土をブロック状に含む）
3　10YR3/4　暗褐色　砂質土
（5Y5/1　灰色　砂質土を少量含む）
4　5Y5/2　灰オリーブ色　砂質土
5　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
6　10YR3/4　暗褐色　砂質土
（5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）
7　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む）
8　10YR4/4　褐色　砂質土
（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む）
9　10YR4/4　褐色　砂質土
（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む）
10　5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
11　7.5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）



第408図　SK5102遺構平・断面図



第409図　SK5102遺物出土状況図



第410図　SK5102出土遺物図

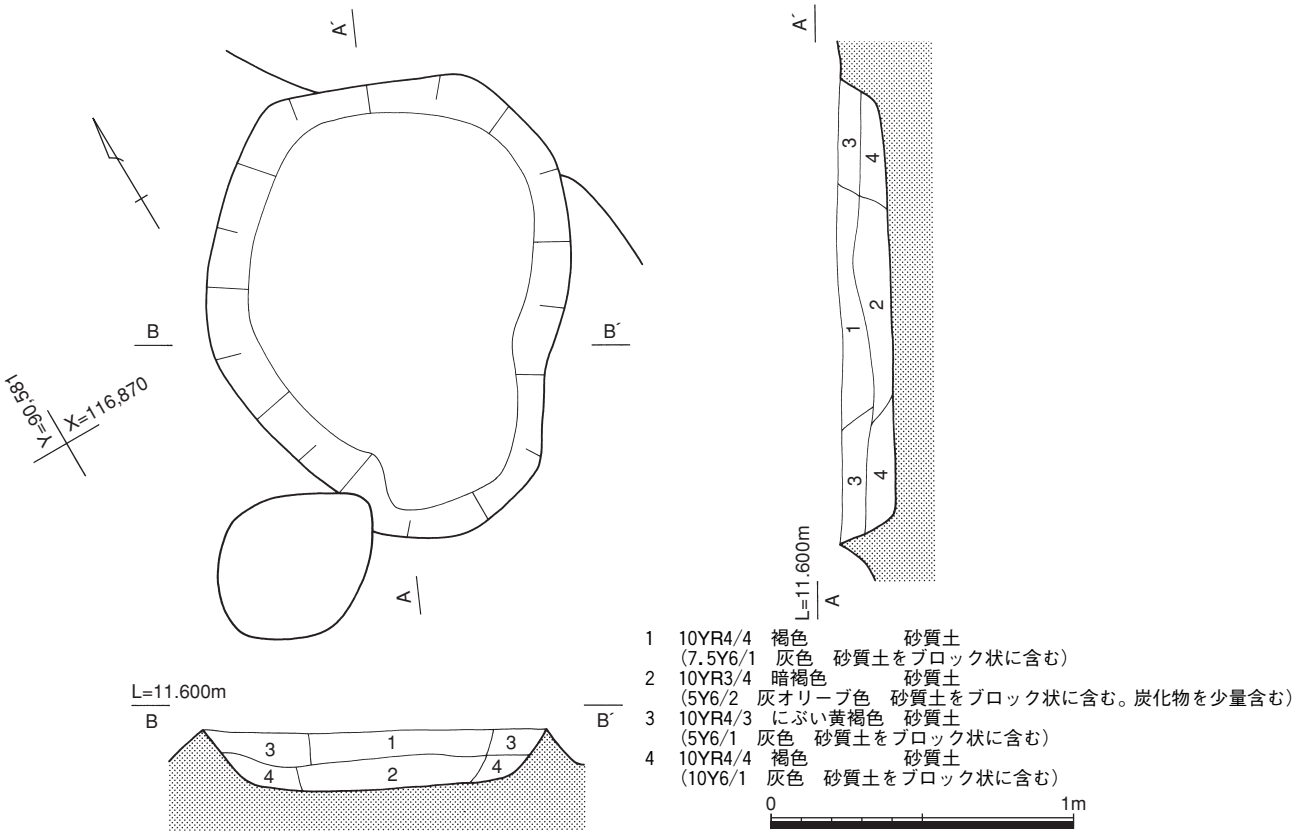
出土遺物　１～３は弥生土器で、１は甕、２は高杯、３は鉢である。
時期　弥生時代後期である。

104号土坑（SK5104）（第411～413図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｎ・Ｏ－17グリッド
規模と形状　長径1.50m、短径1.13m、深度0.19mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であり、断面は逆台形である。
土層　遺構覆土は４層に分層でき、１層は褐色砂質土、２層は暗褐色砂質土、３層はにぶい黄褐色砂質土、４層は褐色砂質土である。
出土遺物　１は弥生土器の壺である。
時期　弥生時代後期である。

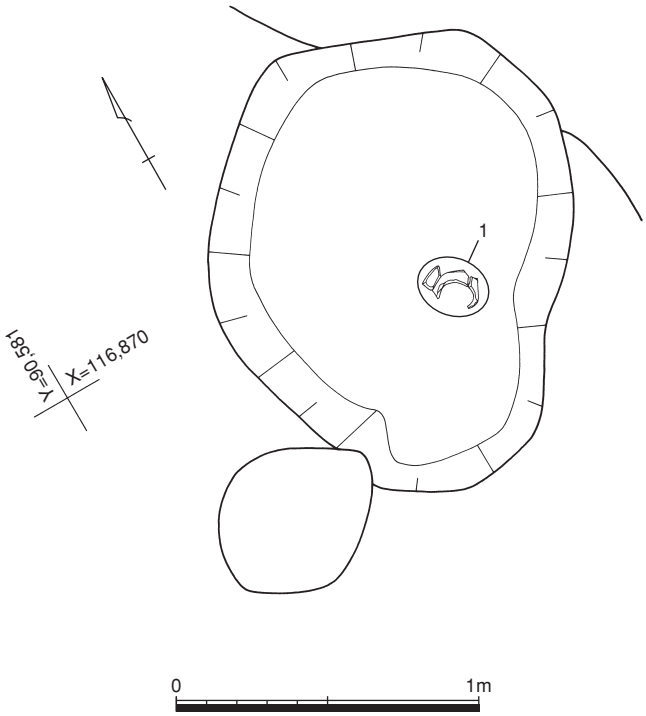
105号土坑（SK5105）（第414～416図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ－３、δⅠ　Ｎ－17グリッド
規模と形状　長径2.42m、短径1.67m、深度0.18mを測る土坑である。遺構面の形状は、平面が不整隅丸方形で、断面は逆台形である。
土層　遺構覆土は３層に分層でき、１層は灰色砂質土、２層は黄灰色砂質土、３層は灰黄色砂質土である。
遺物出土状況　遺構ほぼ中央から壺１が出土している。口縁部を北に向けて横倒しの状態で検出された。完形の状態で土坑内に納められたと推定される。
出土遺物　１は弥生土器の広口壺である。
時期　弥生時代後期である。

107号土坑（SK5107）（第417～419図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｍ－15・16グリッド
規模と形状　長径1.25m、短径0.84m、深度0.14mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が楕円形であり、断面は逆台形である。
土層　遺構覆土は３層に分層でき、１層はオリーブ褐色砂質土、２層は褐色砂質土、３層はにぶい黄褐色砂質土である。
遺物出土状況　遺構南側の３層中より壺１が横転した状態で出土した。頸部より上位の部位は出土していない。
出土遺物　１は弥生土器の壺である。
時期　弥生時代後期である。

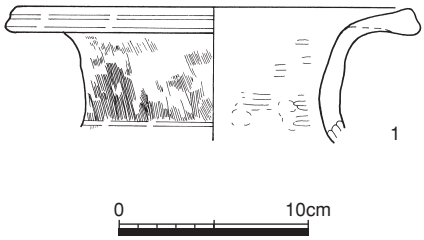
110号土坑（SK5110）（第420～422図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｍ－17グリッド
規模と形状　長径2.58m、短径2.20m、深度0.18mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が全体的に不定形であり、断面は逆台形である。



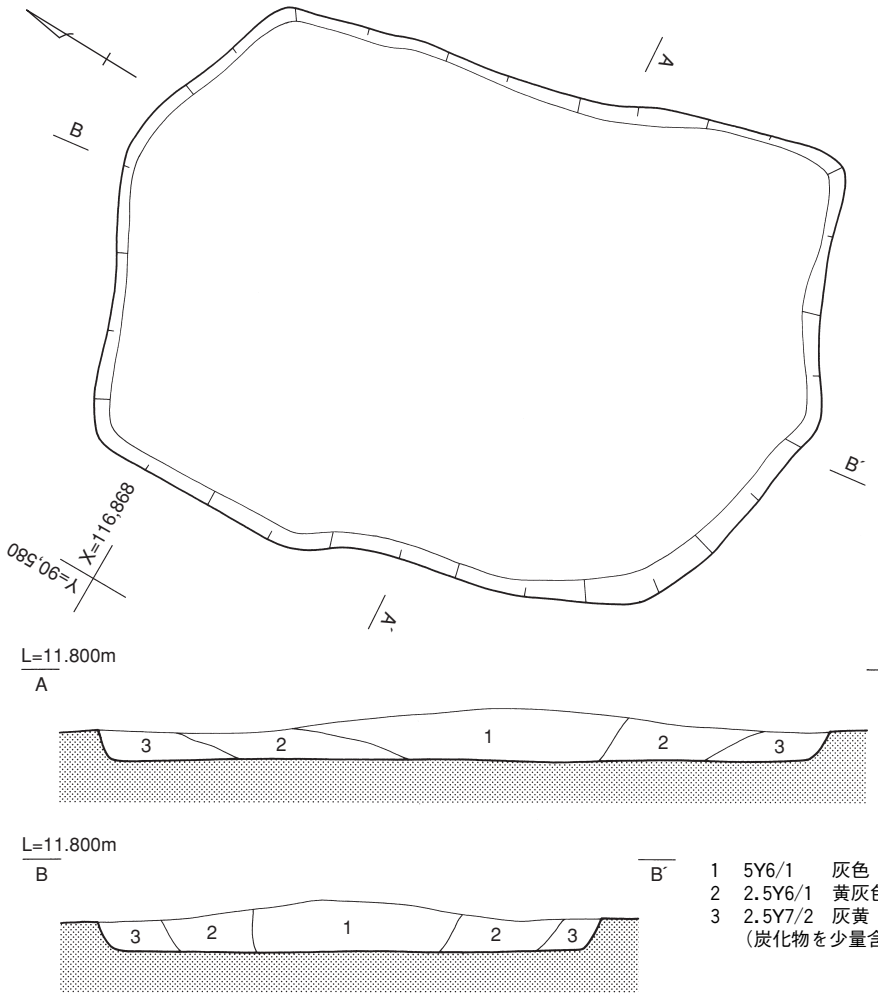
第411図　SK5104遺構平・断面図



第412図　SK5104遺物出土状況図

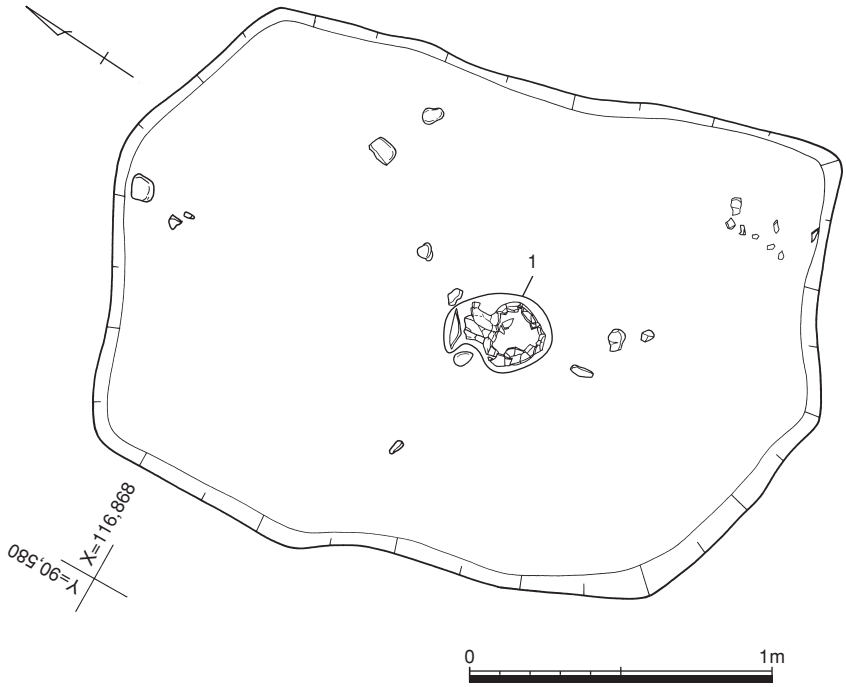


第413図　SK5104出土遺物図

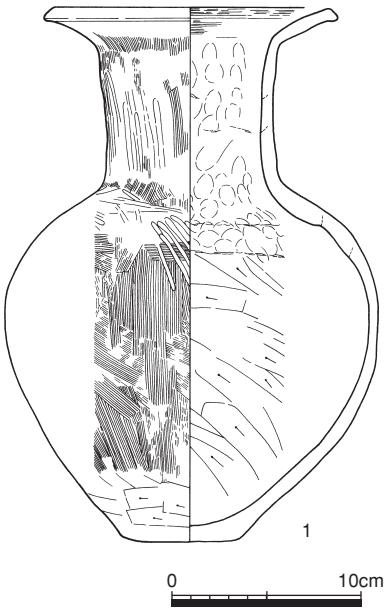


1　5Y6/1　灰色　砂質土
2　2.5Y6/1　黄灰色　砂質土
3　2.5Y7/2　灰黄　砂質土
（炭化物を少量含む）

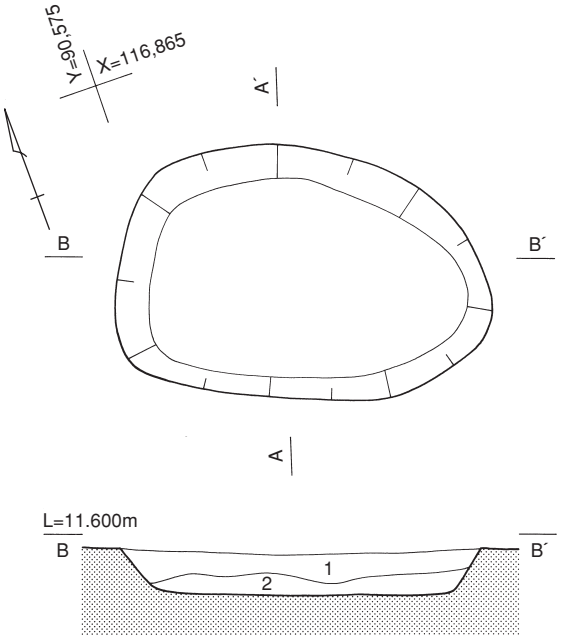
第414図　SK5105遺構平・断面図



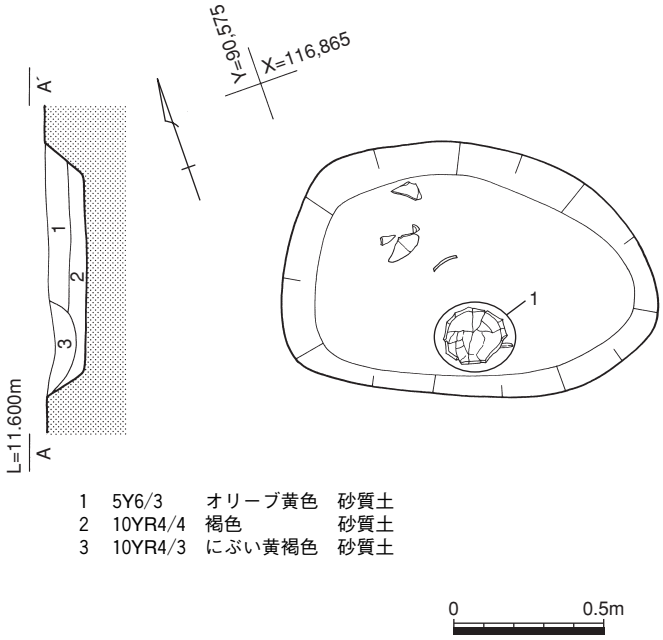
第415図　SK5105遺物出土状況図



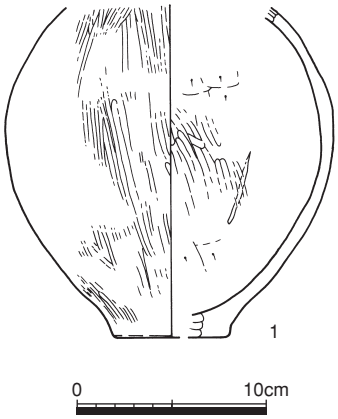
第416図　SK5105出土遺物図



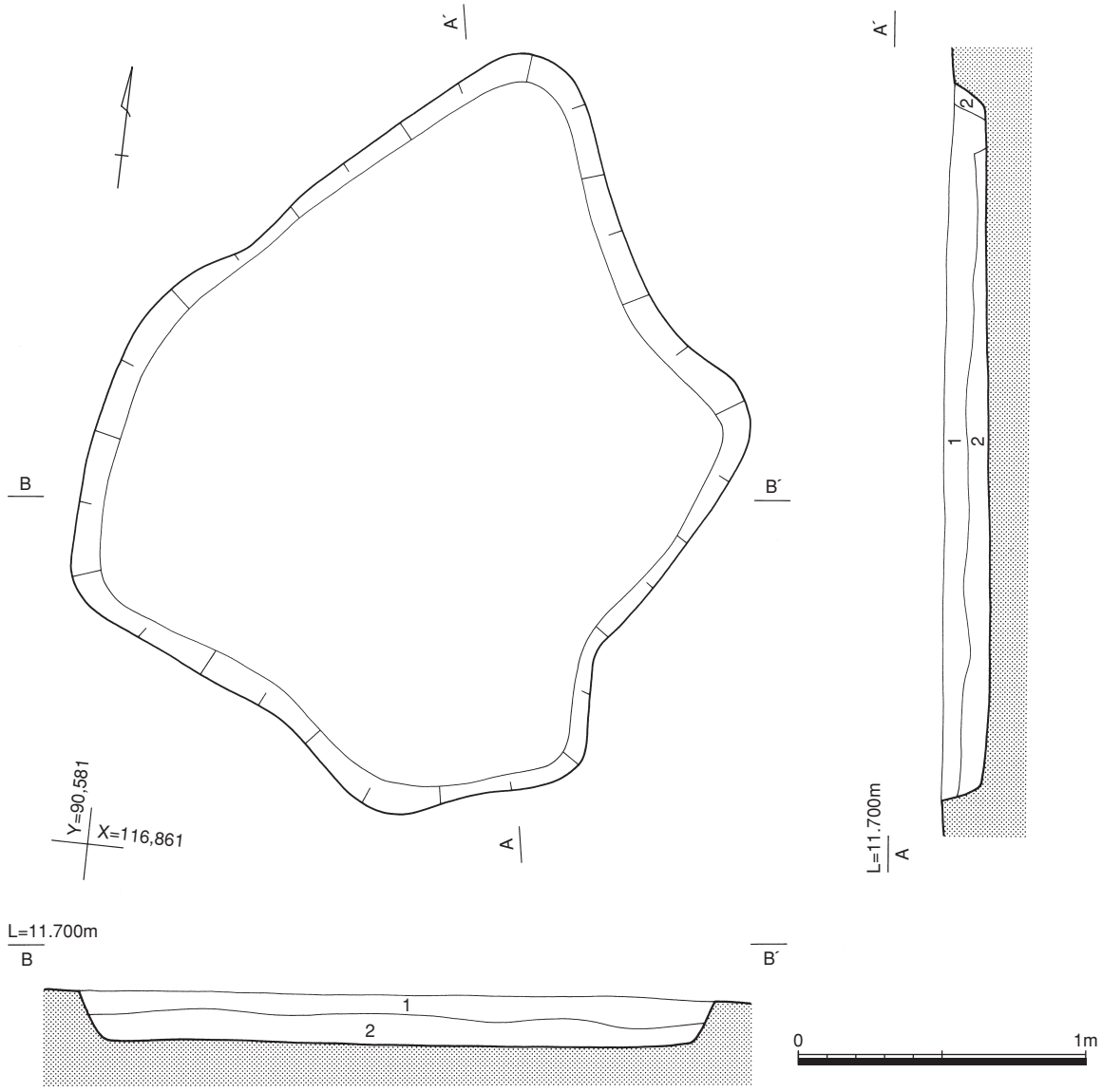
第417図　SK5107遺構平・断面図



第418図　SK5107遺物出土状況図

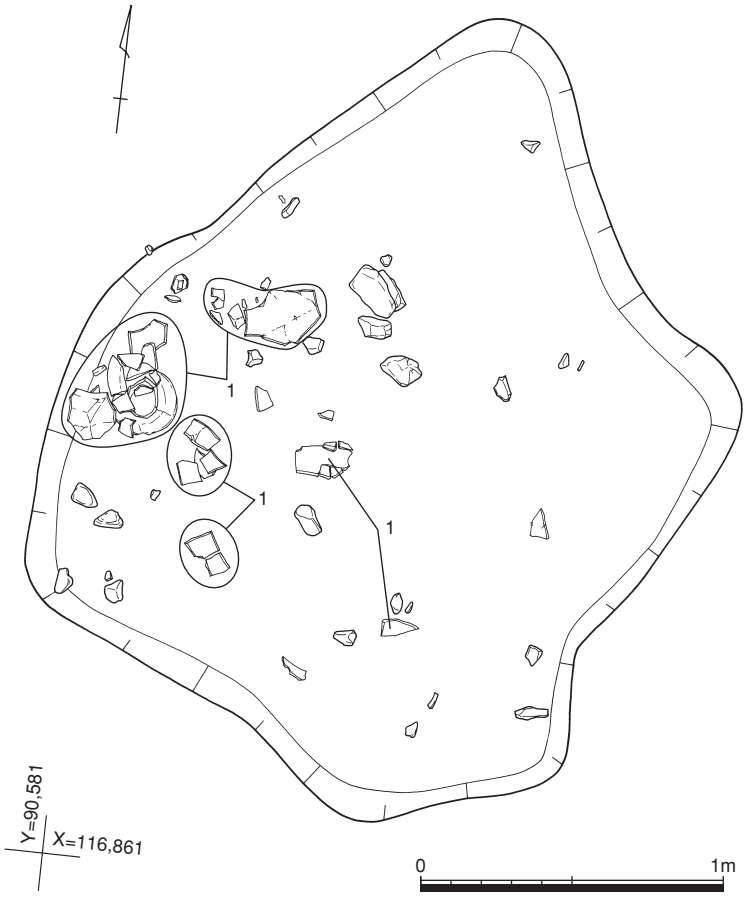


第419図　SK5107出土遺物図

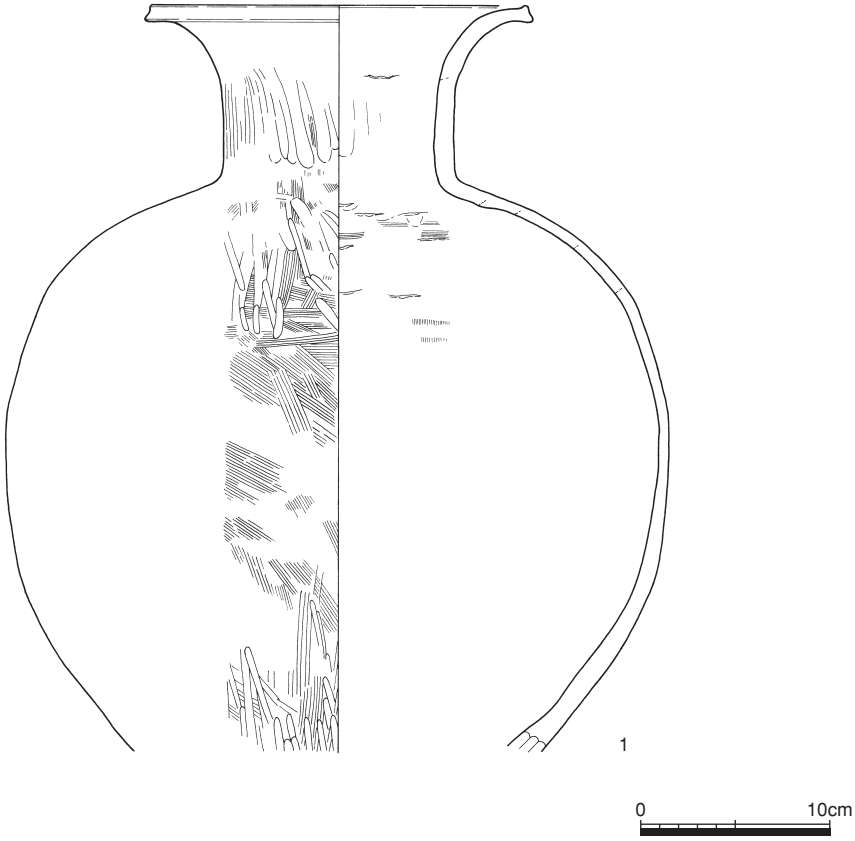


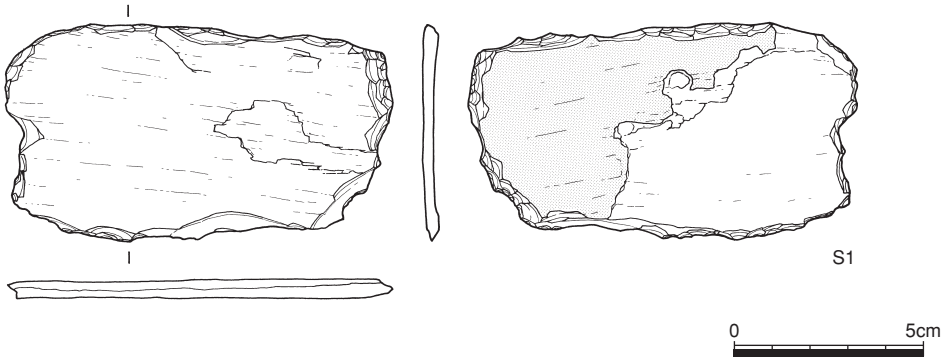
1　10YR5/2　灰黄色　砂質土（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
2　10YR4/4　褐色　　砂質土（10YR5/2　灰黄色　砂質土をブロック状に含む）

第420図　SK5110遺構平・断面図



第421図　SK5110遺物出土状況図





第422図　SK5110出土遺物図

土層　遺構覆土は２層に分層でき、１層は灰黄色砂質土、２層は褐色砂質土である。

遺物出土状況　遺構中央部から西側部分にかけて土器が集中して出土した。壺１は口縁端部を床面に接して、胴部が周辺に散らばっていることから、倒立した状態で土坑内に納められたと推定される。

出土遺物　１は弥生土器広口壺である。S１は結晶片岩製石庖丁である。

時期　弥生時代後期である。

柱穴

92号柱穴（SP5092）（第423・424図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－4グリッド

規模と形状　長径0.39m、短径0.35m、深度0.08mを測る柱穴である。遺構の形状は、平面が円形で、断面は逆台形である。

土層　遺構覆土は２層に分層でき、１層は褐色砂質土、２層は黄褐色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器高杯である。

時期　弥生時代後期である。

104号柱穴（SP5104）（第425～427図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｏ－6グリッド

規模と形状　長径0.44m、短径0.40m、深度0.21mを測る柱穴である。遺構の形状は、西側が検出されなかったため不明であるが、平面は不整円形であろうか。断面は、船底形である。遺構底面から壺１が正位で出土した。

土層　遺構覆土はにぶい黄色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器壺である。体部下部～底部にかけて焼成後の穿孔がある。

時期　弥生時代後期である。

106号柱穴（SP5106）（第428～430図）

位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｒ－15グリッド

規模と形状　長径0.54m、短径0.35m、深度0.38mを測る柱穴である。遺構の形状は、平面の西側が一部他の遺構できられているが、隅丸方形であろうか。断面は、逆台形を呈する。柱抜き取り跡部は、約0.28m、深度0.49mを測る。

土層　遺構覆土は８層に分層される。柱抜き取り跡部は灰色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、暗褐色砂質土である。埋土は、灰オリーブ色砂質土、褐色砂質土、灰黄色砂質土である。

遺物出土状況　埋土上面から鉢１が出土した。

出土遺物　１は弥生土器鉢である。

時期　弥生時代後期である。

107号柱穴（SP5107）（第431～433図）

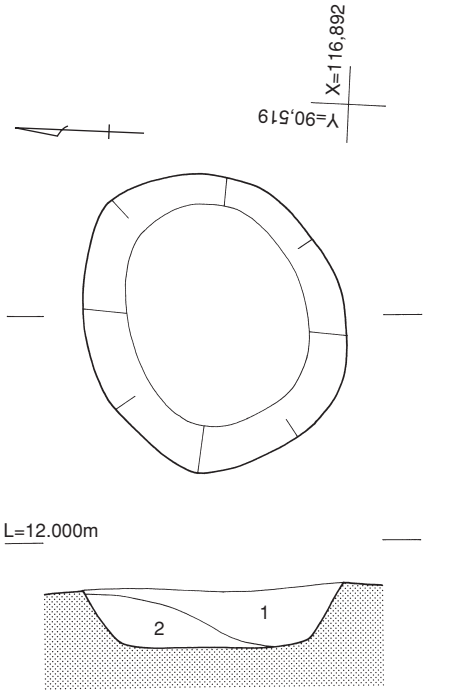
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｍ－17グリッド

規模と形状　長径0.58m、短径0.54m、深度0.18mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整円形で、断面が逆台形を呈する。

土層　遺構覆土は３層に分層され、１層は灰オリーブ色砂質土、２層は褐色砂質土、３層は黄灰色砂質土である。

遺物出土状況　遺構内中央部の１層中より壺１が出土した。壺１は底部を上に向けて口縁部を南西方向側の床面に向けて倒立された検出された。

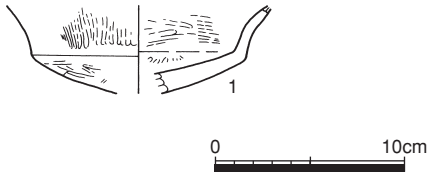
出土遺物　１は弥生土器壺である。



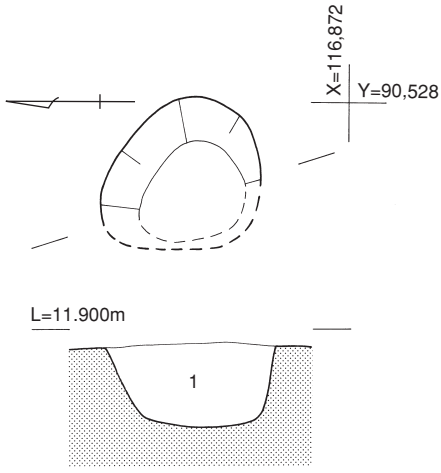
1　10YR4/4　褐色　　砂質土
2　10YR5/6　黄褐色　砂質土

0　0.2m

第423図　SP5092遺構平・断面図



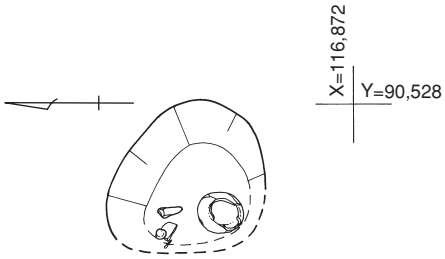
第424図　SP5092出土遺物図



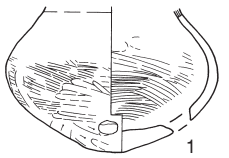
1　2.5Y6/3　にぶい黄色　砂質土

0　0.5m

第425図　SP5104遺構平・断面図

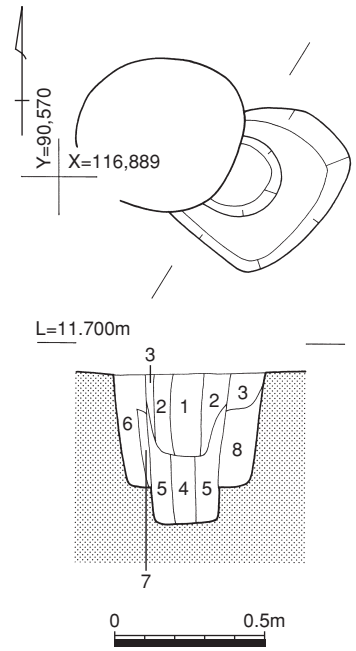


第426図　SP5104遺物出土状況図



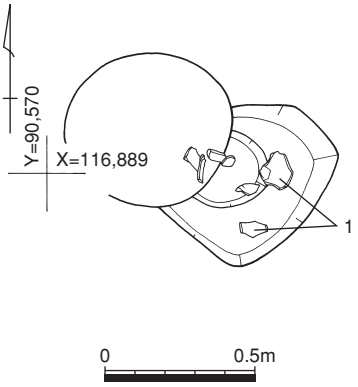
0　10cm

第427図　SP5104出土遺物図

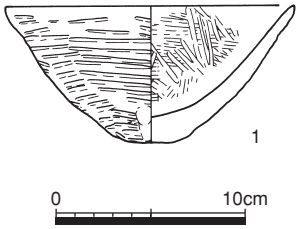


1　7.5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR3/4　暗褐色　砂質土をブロック状に含む）
2　5Y6/1　灰色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
3　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
（10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土をブロック状に含む）
4　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
5　10YR3/4　暗褐色　砂質土
（2.5Y6/2　灰黄色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
6　2.5Y6/2　灰黄色　砂質土
（10YR4/4　褐色　砂質土をブロック状に含む）
7　10YR3/3　暗褐色　砂質土
8　10YR4/4　褐色　砂質土
（7.5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む）

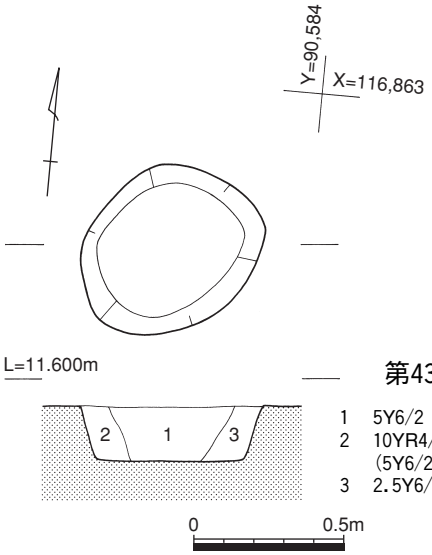
第428図　SP5106遺構平・断面図



第429図　SP5106遺物出土状況図

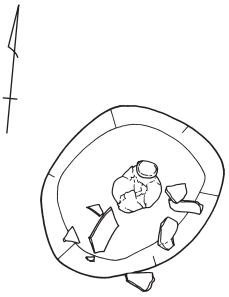


第430図　SP5106出土遺物図

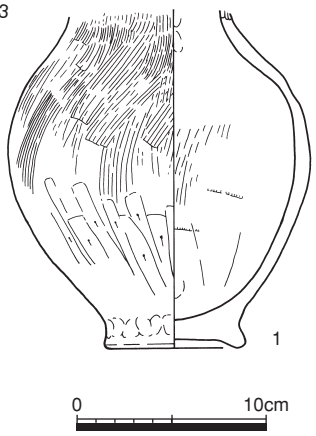


1　5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土
2　10YR4/4　褐色　砂質土
（5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む）
3　2.5Y6/1　黄灰色　砂質土

第431図　SP5107遺構平・断面図



第432図　SP5107遺物出土状況図



第433図　SP5107出土遺物図

時期　弥生時代後期である。

墳丘墓

１号墳丘墓（SM5001）（第434～455図）

位置　96－１区。Loc.B－３　δ１　S－３・４グリッド

規模と形状　推定直径18m、残存墳丘高0.5mを測る墳丘墓である。墳丘は、後世の水田開発によりほとんど削平された状態で、墳丘盛土は遺存していない。突出部列石の検出と竪穴式石槨ET1の検出により墳丘墓として確認された。写真では墳丘内に川原石が大量に検出されているが、これらの川原石は墳丘を構成する石ではなく、地山を形成する鮎喰川の自然堤防内に含まれるものである。よって墳丘は、

石積墳丘ではなく盛土墳丘となる。墳丘盛土は、にぶい黄褐色砂礫層や黄灰色砂層等であることから、遺構構築面形成土が墳丘盛土として利用されている。

墳丘平面形態も同様に遺存状態が不良であり、墳丘裾は北～東側部分しか遺存していない。推定直径18mを測る不整円形を呈する。墳丘裾部からは20～30㎝大の川原石が検出されたが、面を揃えたり積み上げた状態ではない。

矩形を呈する突出部が北側と東側の２箇所に伴う。北側突出部は台形を呈し、裾（外）側幅４ｍ、基部（内）側5.2m、奥行き2.5mを測る。突出部裾には川原石の列石が伴う。列石は20～30㎝大の川原石を小口積みにして２～３段積み上げている。突出部西墳丘側隅には１辺1.5mのＬ字形を呈する石列が伴う。角部は緩い弧を描く。石列は小口を揃えて並べられており、一部は２段に積まれている箇所があるが、基本は一段積みである。東側突出部は長方形を呈し、裾（外）側幅5.2m、奥行き2.3mを測る。北側突出部同様に、裾部には20～30㎝大の川原石を小口積みにした列石が伴う。北側隅の突出部対角線上には、川原石長軸を揃えて階段状に積み上げられている。外側列石と合わせて階段状を呈する。突出部南墳丘側隅には１辺1.5mのＬ字形を呈する石列が伴う。角部は緩い弧を描く。石列は小口を揃えて並べられており、基本は一段積みである。

遺物出土状況　遺物は主に墳丘南～西側より比較的集中して出土している。しかし、何れも破片であり、墳丘上に置かれた状態を示すような遺物出土状況ではない。墳丘築造時に盛土として搬入された客土内に含まれる遺物群に加えて、墳丘墓に関連する遺物群や、墳丘埋没後に撹乱された遺物群が混在する。高杯19・壺23・甕27・鉢31は約１ｍの範囲より集中しており、墳丘墓に関連する遺物群と想定される。鹿線刻画が刻まれた壺22は、3.5m離れた個体片が接合されたものである。

出土遺物　弥生土器１～６は甕である。甕３・５の底部には焼成後の穿孔が施されている。弥生土器７は器台口縁部である。口唇部及び垂下口唇部には棒状工具による刻目が施されている。垂下部にはヘラガキによる円形文の後に３条のヘラガキ沈線が施されている。弥生土器８～12は壺である。弥生土器13・14・31・32は大型鉢である。弥生土器16～19、30は高杯である。弥生土器20・21は不明土製品であるが、20は土製支脚の可能性がある。21は裾広がりの器形で、隅丸方形のスカシ孔が伴う。弥生土器22～24は壺である。壺23にの肩部には線刻による２頭の鹿が描かれている。なお、掲載実測図では外面からの敲打による穿孔が表現されているが、調査時の欠損である。弥生土器25～29は甕である。甕28には敲打による穿孔が施されており、土器棺として転用されていた可能性がある。

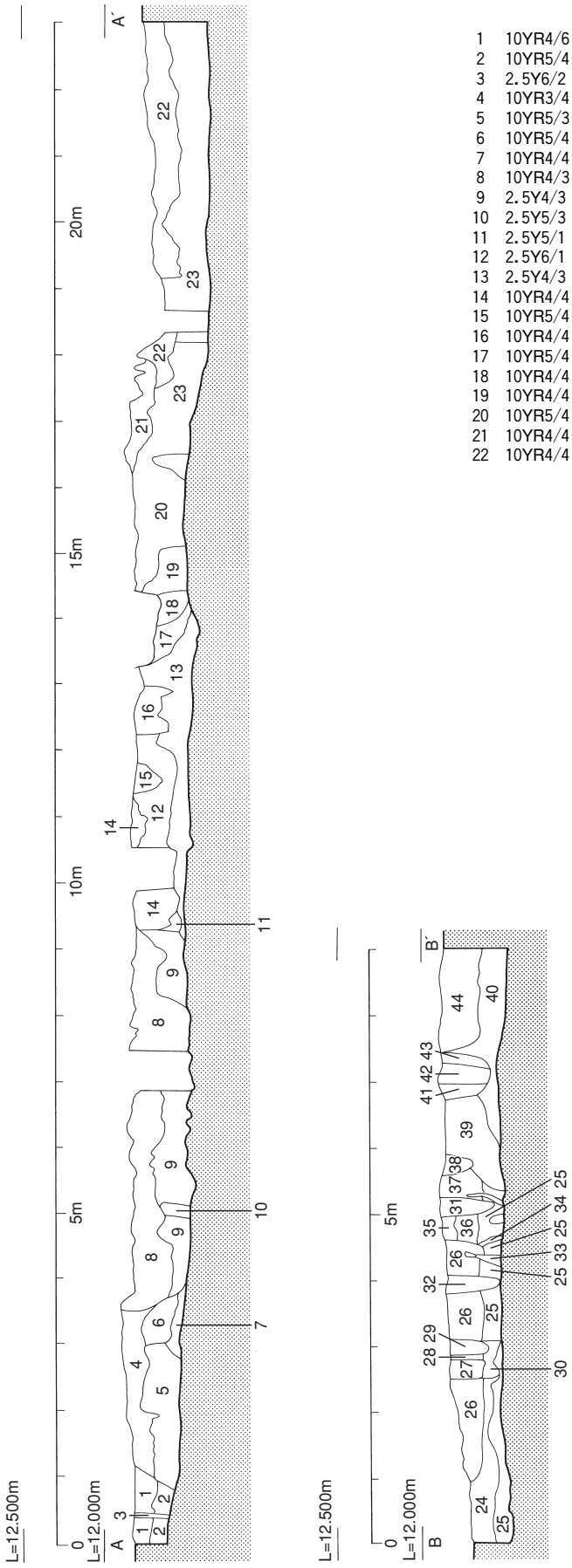
１号竪穴式石槨（SM5001ET１）（第439～442図）

規模と形状　１号竪穴式石槨の墓壙は、不整長方形を呈する。検出規模は、長軸3.8m、短軸１．４ｍ、深度0.46mを測る。遺構の形状は、平面が東西方向に長い不整長方形であり、断面は逆台形を呈する。

石槨の在残状況は半分のみで、北側長側壁のみの検出である。蓋石や南側長側壁、東西小口側壁に該当する石材は検出されていない。北側長側壁の検出規模は、残存長３ｍ、残存高0.4mを測る。使用石材には結晶片岩川原石や結晶片岩割石が混在する。川原石は小口積で、割石は平積みと小口積みを併用して側壁を形成している。側壁最下段と木棺との間には小型の川原石や割石を充填している。粘土は伴わない。墓壙基底部は、南北・東西方向共に緩い弧を描いており、木棺が伴うと仮定するならば舟底状を呈すると推定される。

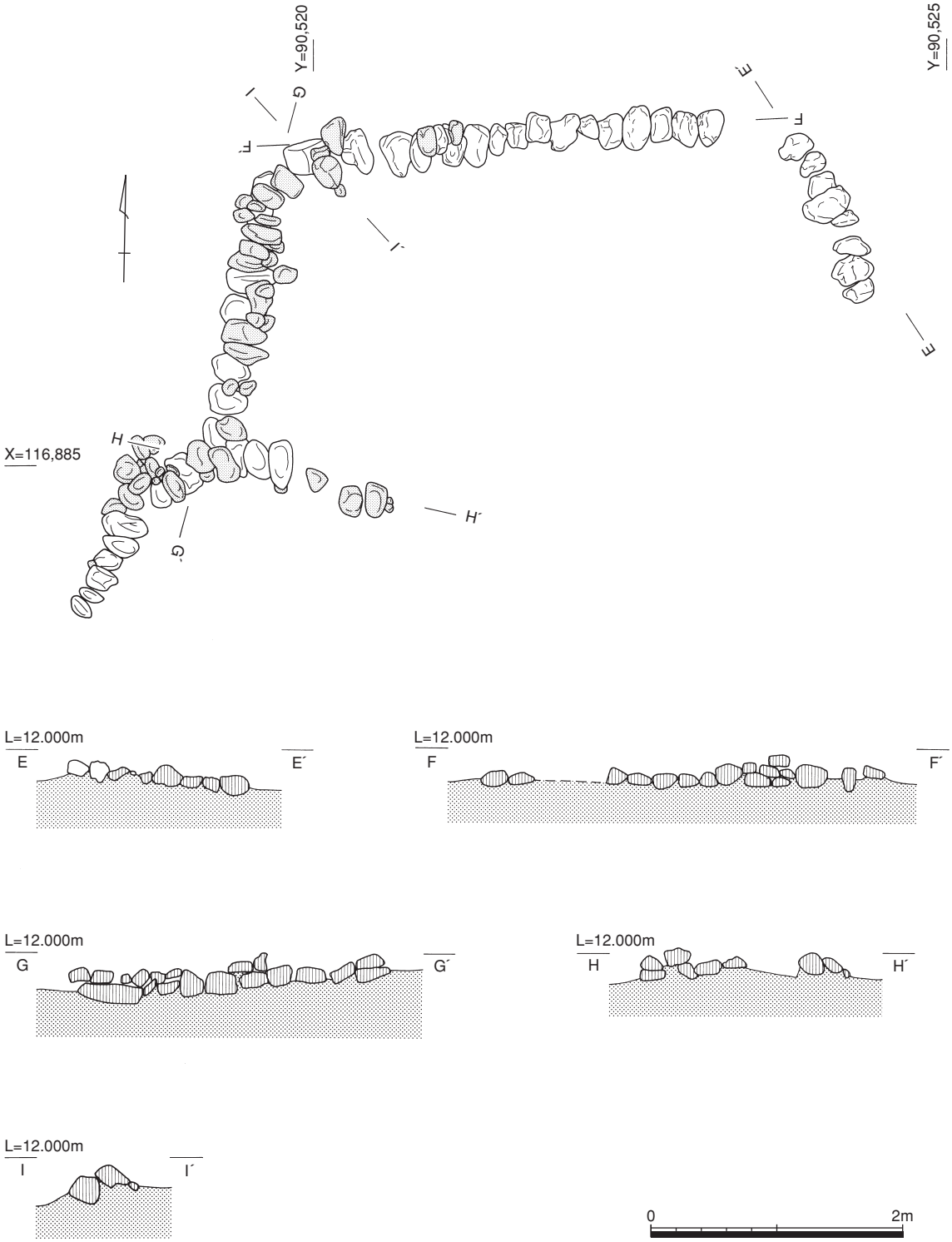
木棺推定規模は、全長２ｍ、幅0.5mを測る。西側には直径30㎝の範囲で朱が検出された。

第434図　SM5001遺構平面図

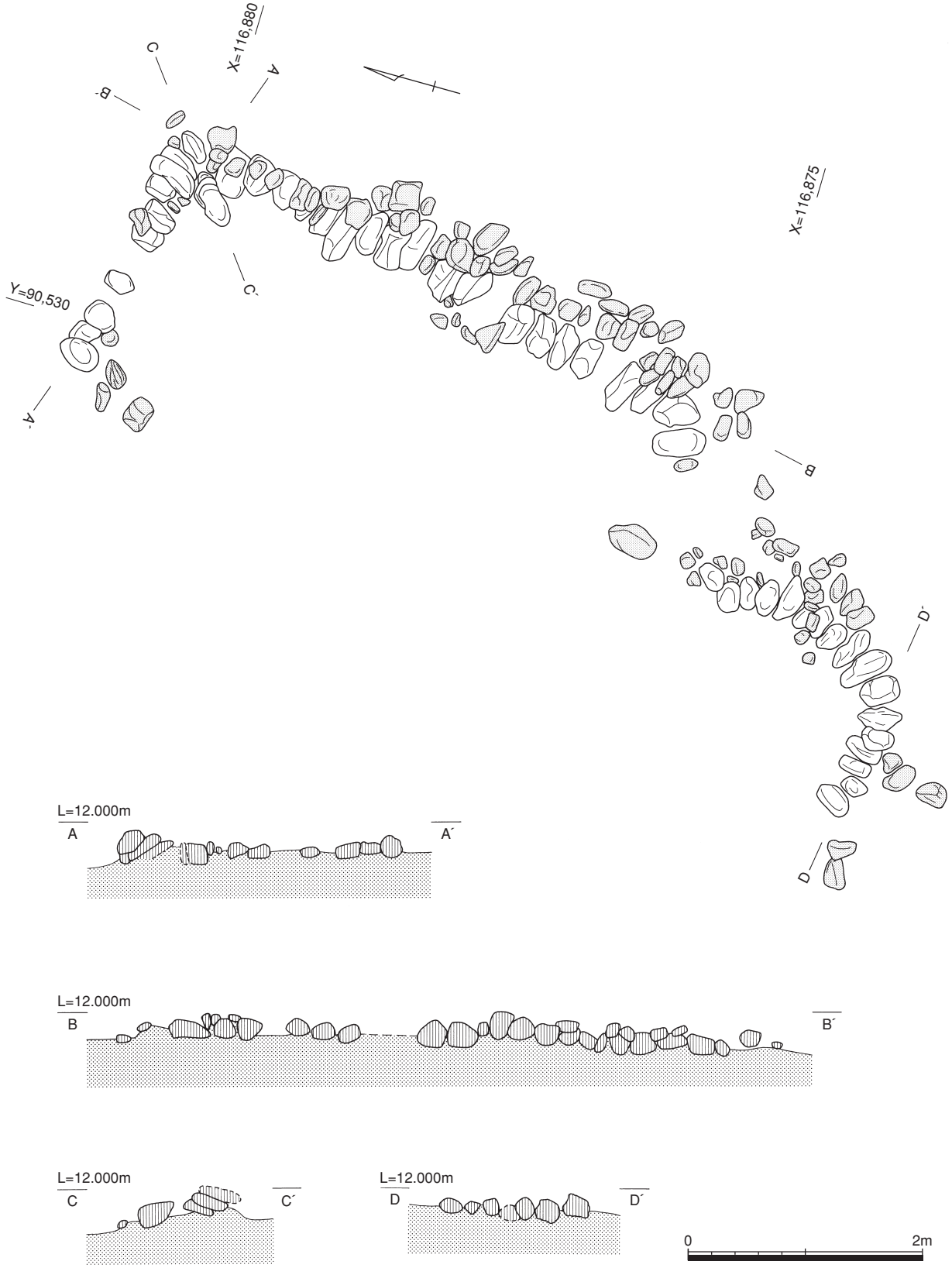


1	10YR4/6	褐色	砂質土	23	10YR3/4	暗褐色	砂質土
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	24	10YR4/4	褐色	砂質土
3	2.5Y6/2	灰黄色	砂質土	25	10YR3/4	暗褐色	砂質土
4	10YR3/4	暗褐色	砂質土	26	10YR4/4	褐色	砂質土
5	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	27	10YR4/4	褐色	砂質土
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	28	10YR3/4	暗褐色	砂質土
7	10YR4/4	褐色	砂	29	10YR4/4	褐色	砂質土
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂礫	30	10YR3/4	暗褐色	砂質土
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂	31	10YR4/4	褐色	砂質土
10	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	32	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
11	2.5Y5/1	黄灰色	砂礫	33	10YR3/3	暗褐色	砂質土
12	2.5Y6/1	黄灰色	砂	34	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂	35	10YR3/4	暗褐色	砂質土
14	10YR4/4	褐色	砂質土	36	10YR4/4	褐色	砂質土
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	37	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
16	10YR4/4	褐色	砂質土	38	10YR4/4	褐色	砂質土
17	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	39	10YR4/4	褐色	砂質土
18	10YR4/4	褐色	砂質土	40	10YR3/4	暗褐色	砂
19	10YR4/4	褐色	砂礫	41	10YR4/4	褐色	砂質土
20	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	42	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
21	10YR4/4	褐色	砂質土	43	10YR4/4	褐色	砂質土
22	10YR4/4	褐色	砂質土	44	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂礫

第435図　SM5001遺構断面図

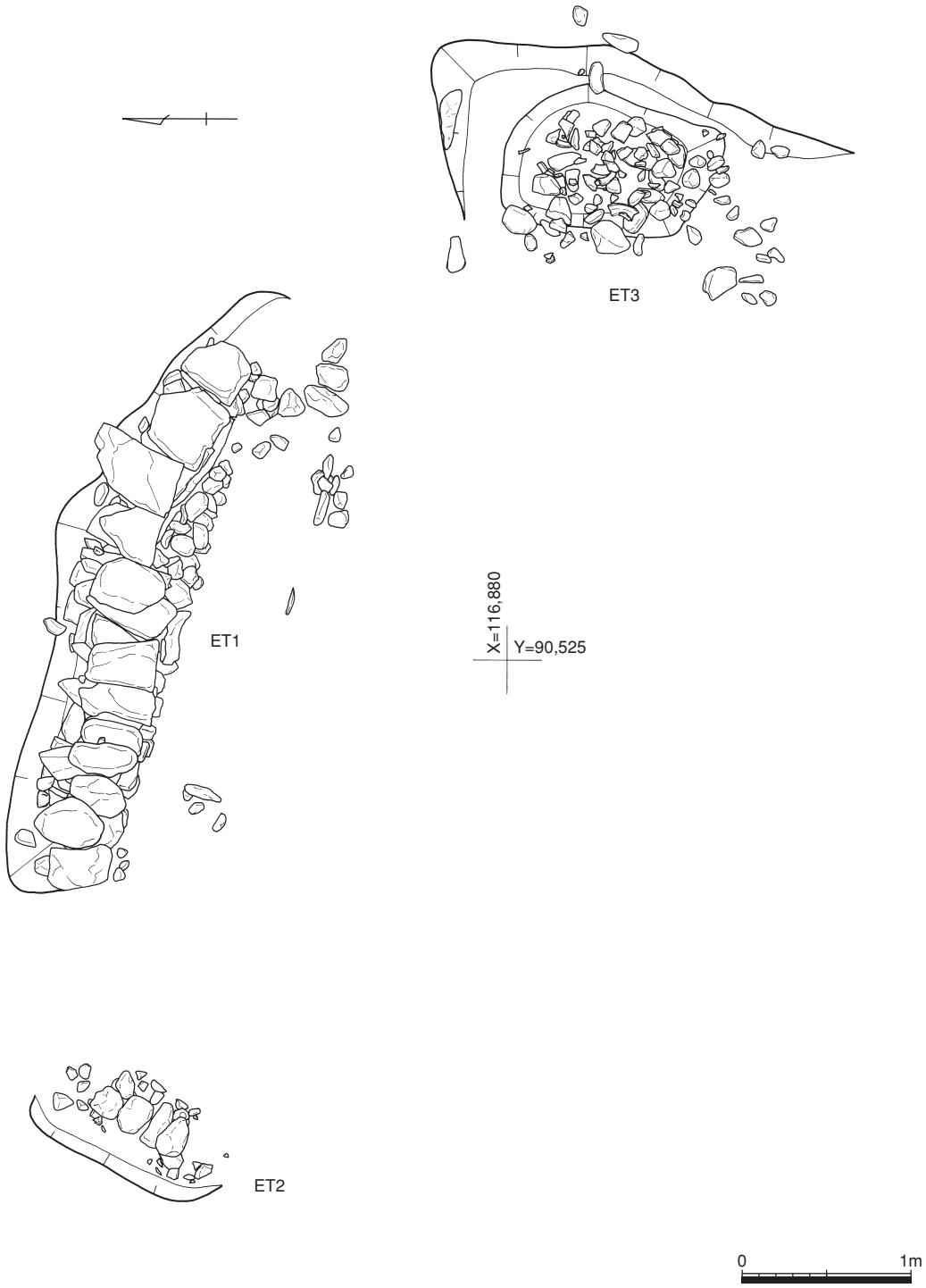


第436図　SM5001列石平・断面図(1)

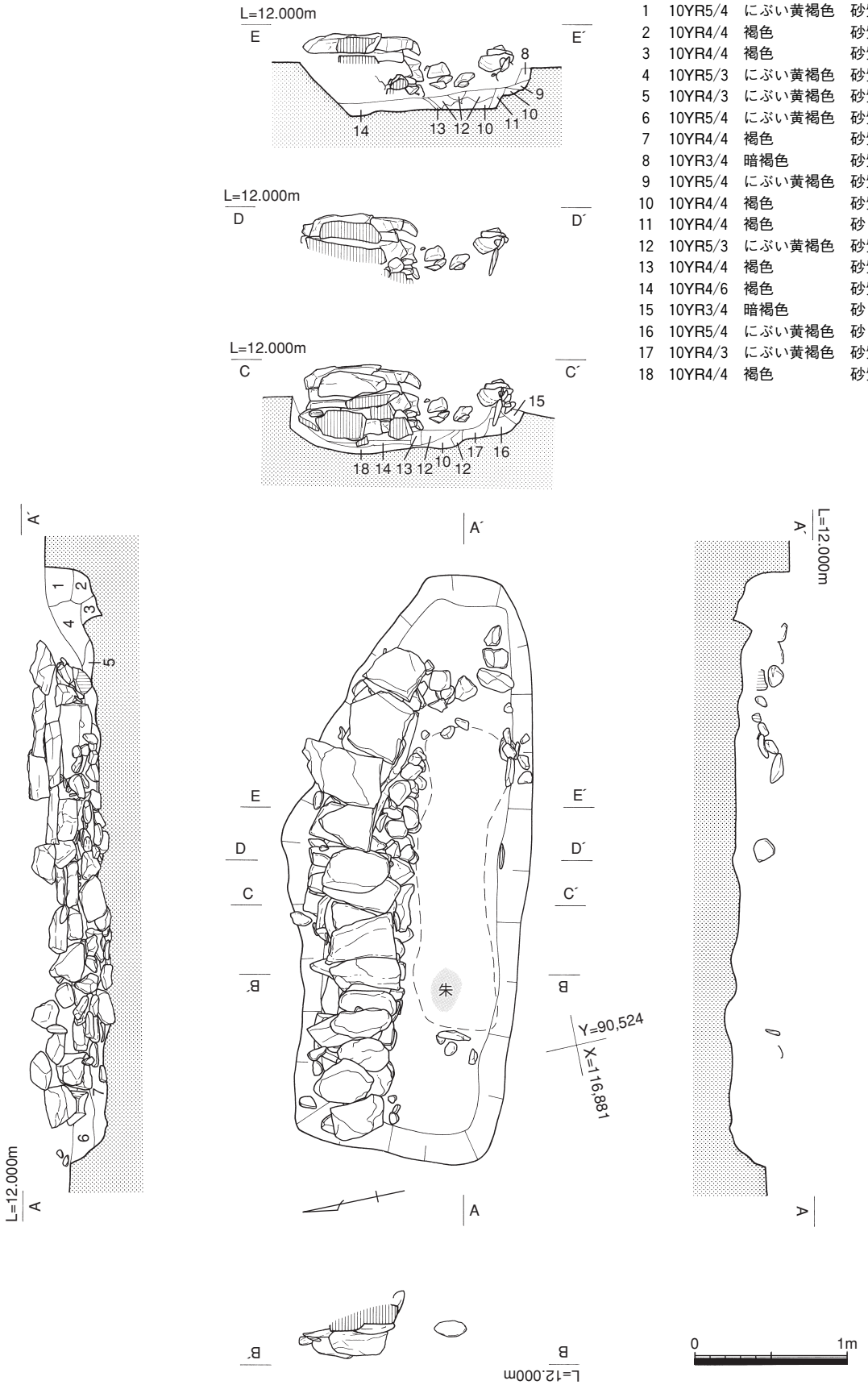


第437図　SM5001列石平・断面図(2)

第438図　SM5001遺物出土地点図

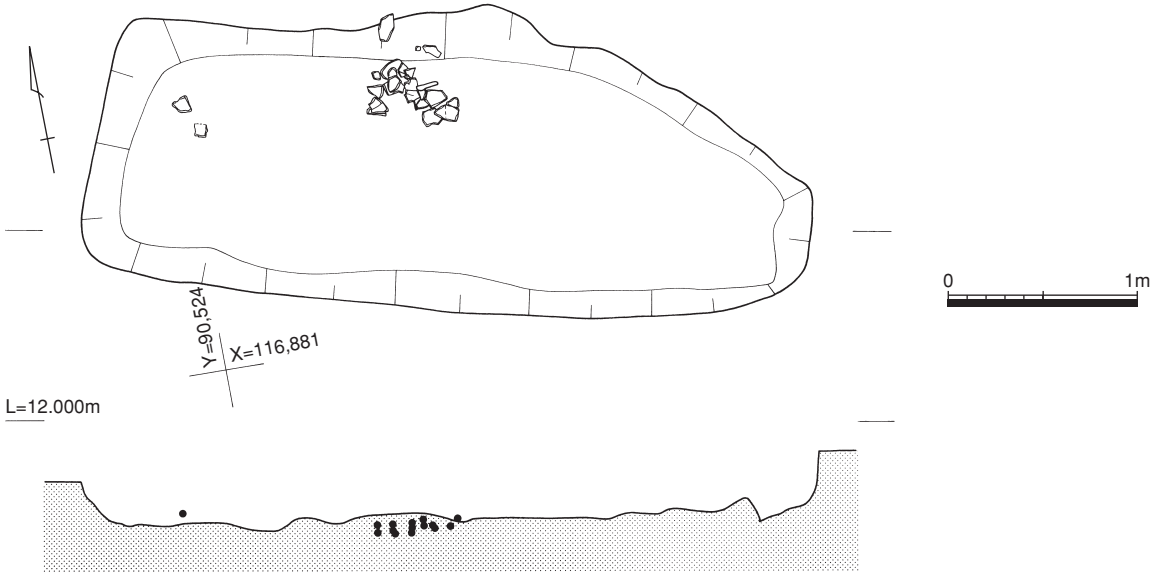


第439図　SM5001ET1、2、3遺構平面図

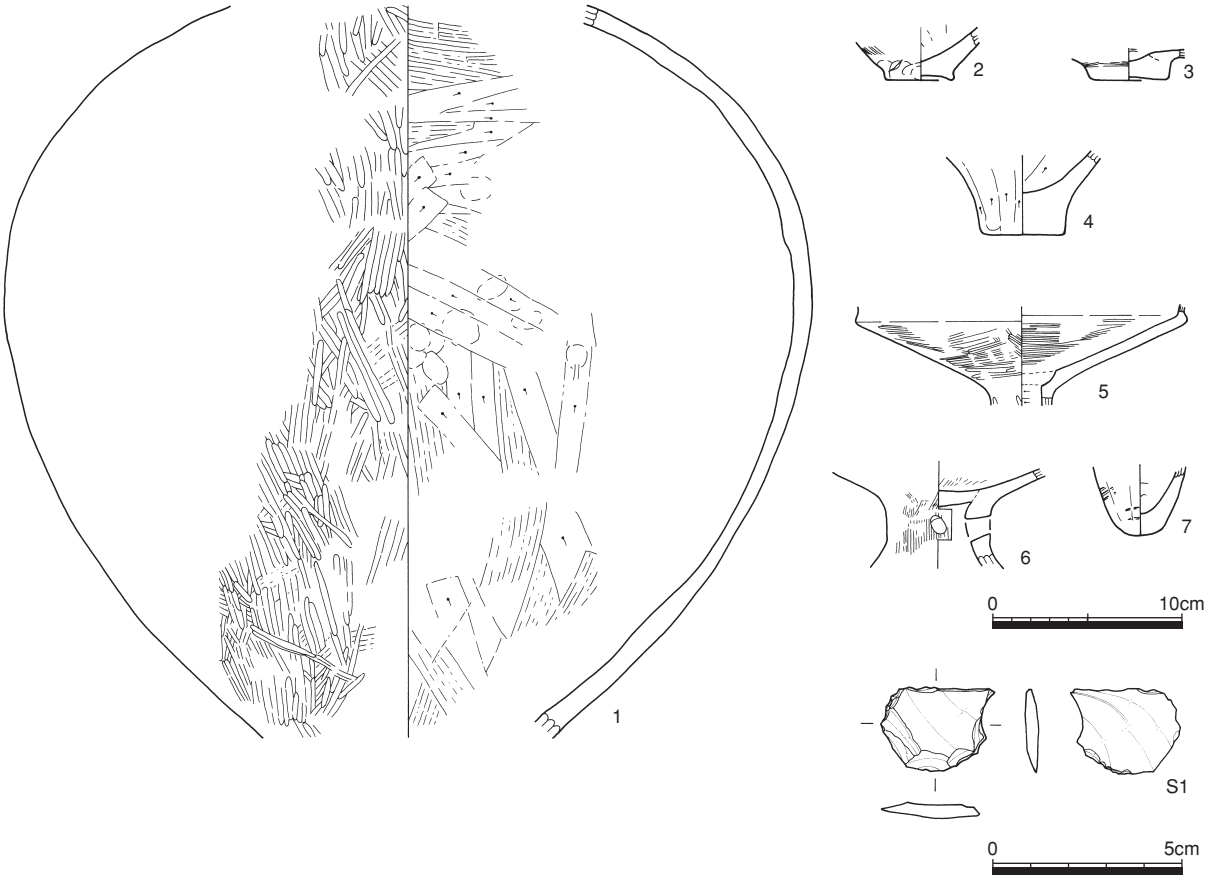


1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
2	10YR4/4	褐色	砂質土
3	10YR4/4	褐色	砂質土
4	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
7	10YR4/4	褐色	砂質土
8	10YR3/4	暗褐色	砂質土
9	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
10	10YR4/4	褐色	砂質土
11	10YR4/4	褐色	砂
12	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土
13	10YR4/4	褐色	砂質土
14	10YR4/6	褐色	砂質土
15	10YR3/4	暗褐色	砂
16	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂
17	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
18	10YR4/4	褐色	砂質土

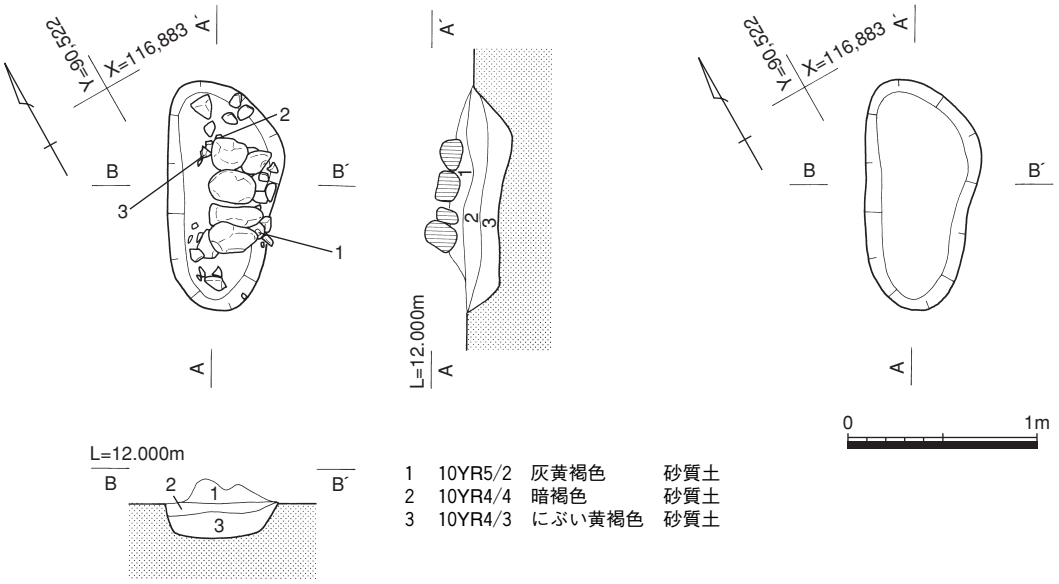
第440図　SM5001ET1遺構平・断面図



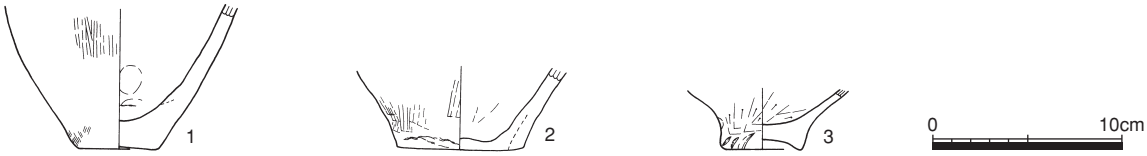
第441図　SM5001ET1遺物出土状況図



第442図　SM5001ET1出土遺物図



第443図　SM5001ET2遺構平・断面図



第444図　SM5001ET2出土遺物図

土層　石槨内堆積土層は、18層に分層できる。何れも石槨構築に伴う埋土である。東側小口外側にはにぶい黄褐色砂質土層や褐色砂質土層が充填されている。南側長側壁基底部には暗褐色砂層、にぶい黄褐色砂質土層が充填されている。北側長側壁基底部には褐色砂質土層が充填されている。木棺基底部にはにぶい黄褐色砂質土層、褐色砂質土層等が充填されている。粘土層は伴わない。

出土遺物　出土遺物は、７点の弥生土器図化することができた。壺１は北側長側壁石材除去後の墓壙床面直上から検出された。石槨構築直前に据え置かれたものと推定される。２・３は壺底部である。４は甕底部である。５・６は高杯、７はミニチュア土器（甕）である。石器Ｓ１はサヌカイト剥片である。

２号土壙墓（SM5001ET2）（第443・444図）

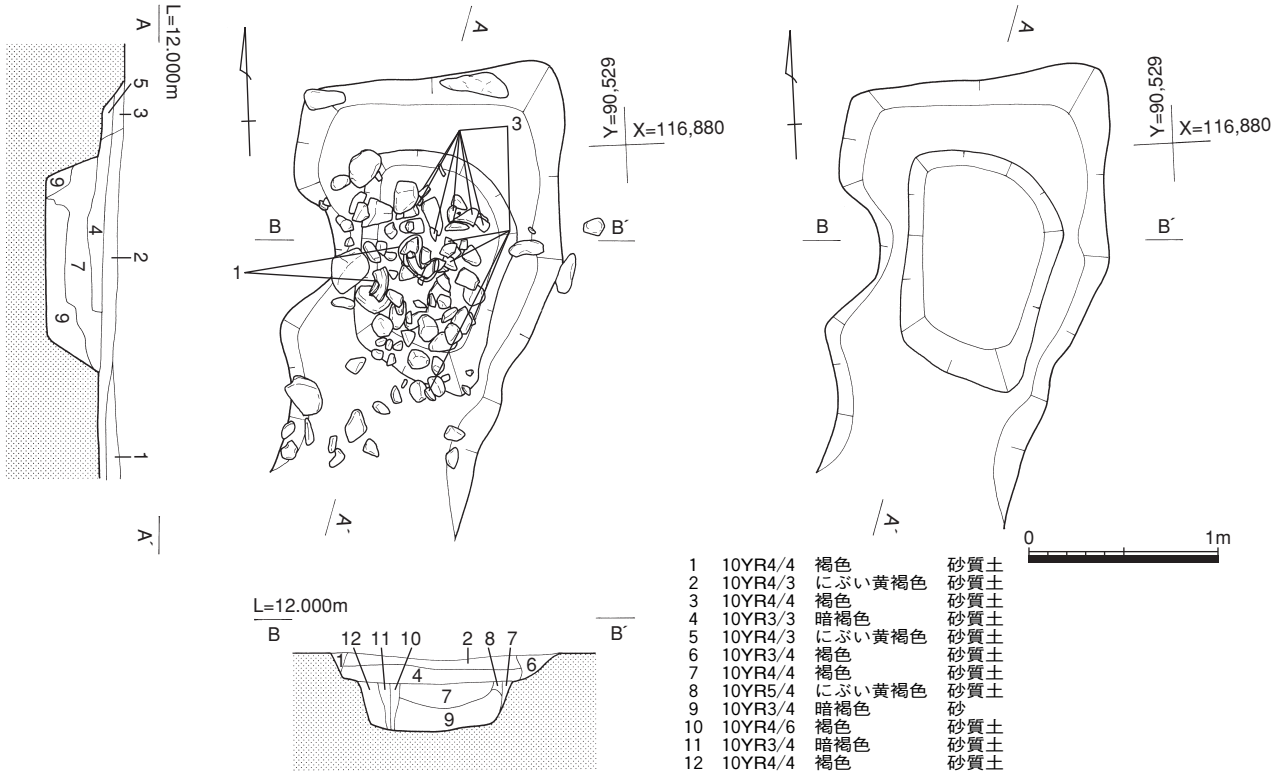
規模と形状　２号土壙墓は、長径1.22m、短径0.60m、深度0.22mを測る土壙である。平面形状は不整楕円形を、断面形は逆台形を呈する。墓壙上面には結晶片岩川原石が４個並んだ状態で置かれている。標石としての機能があると推定される。

土層　墓壙埋土は３層に分層できる。１層は灰黄褐色砂質土層、２層は暗褐色砂質土層、３層はにぶい黄褐色砂質土層である。

出土遺物　出土遺物は、３点の弥生土器が図化することができた。１・２は甕、３は鉢である。

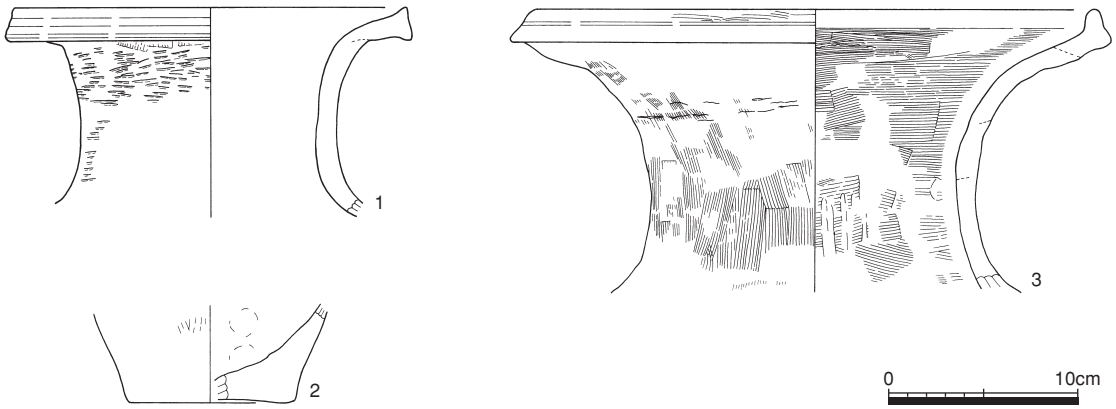
３号集石墓（SM5001ET3）（第445・446図）

規模と形状　３号集石墓は、長軸2.5m、短軸11.2m、深度0.48mを測る土壙である。平面形状は不整

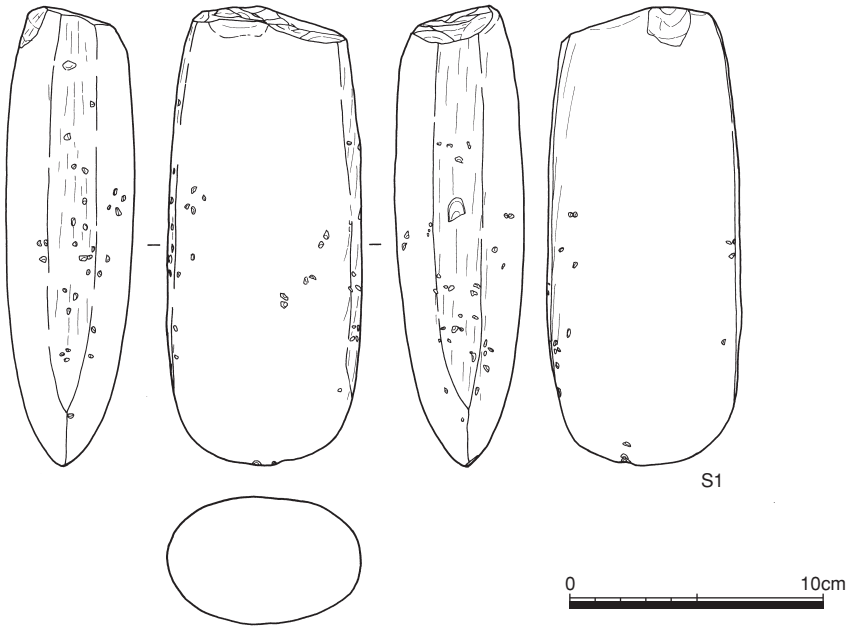


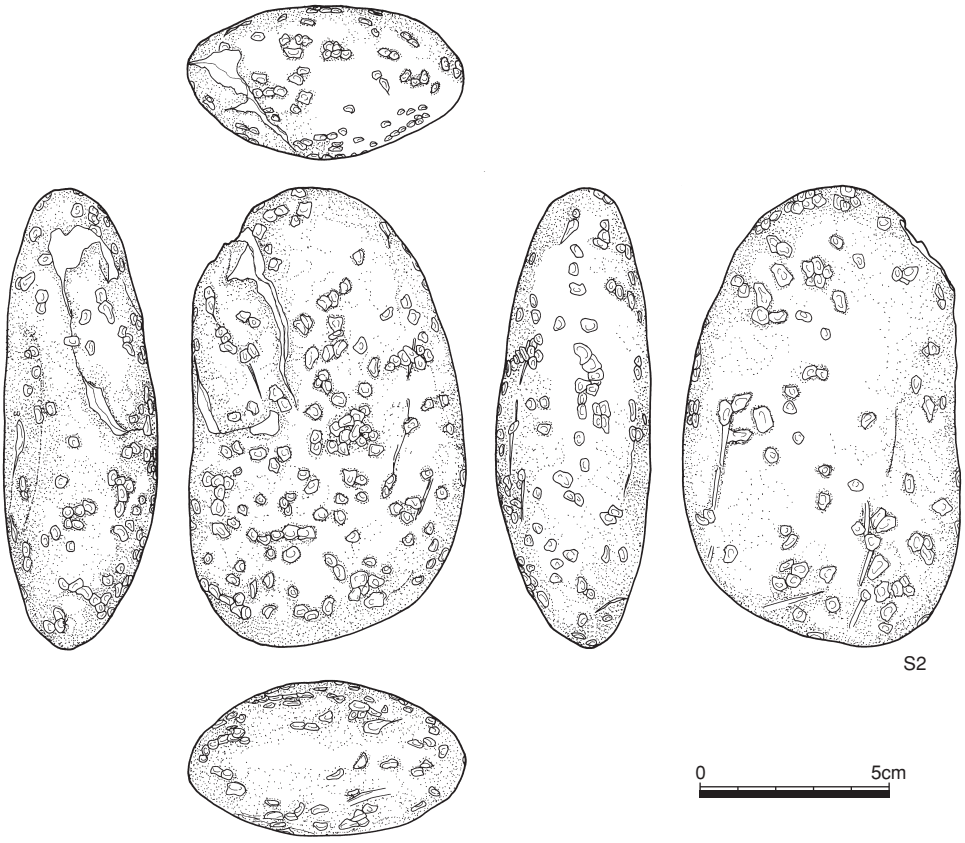
1	10YR4/4	褐色	砂質土
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
3	10YR4/4	褐色	砂質土
4	10YR3/3	暗褐色	砂質土
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土
6	10YR3/4	褐色	砂質土
7	10YR4/4	褐色	砂質土
8	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
9	10YR3/4	暗褐色	砂
10	10YR4/6	褐色	砂質土
11	10YR3/4	暗褐色	砂質土
12	10YR4/4	褐色	砂質土

第445図　SM5001ET3遺構平・断面図

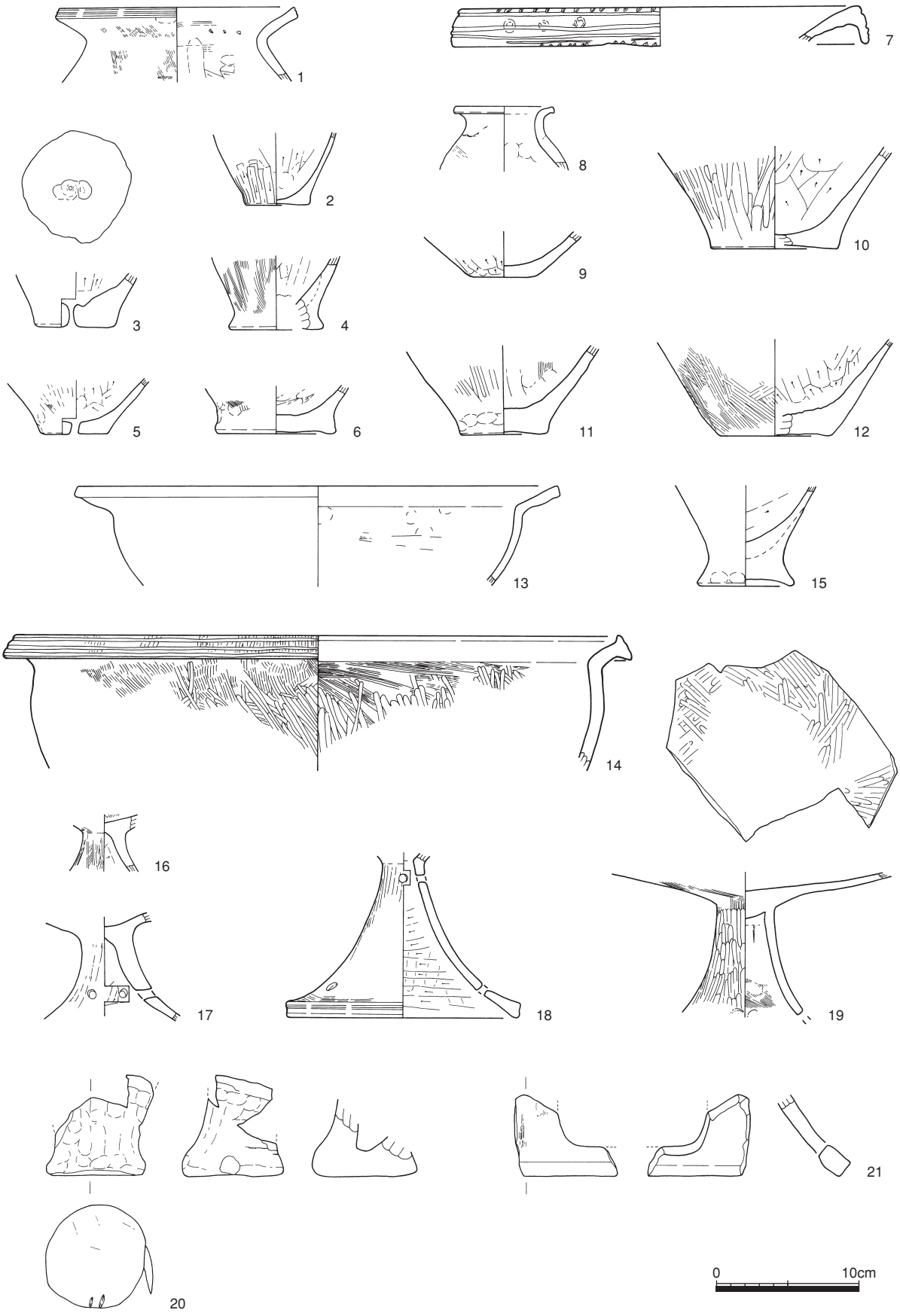


第446図　SM5001ET3出土遺物図(1)

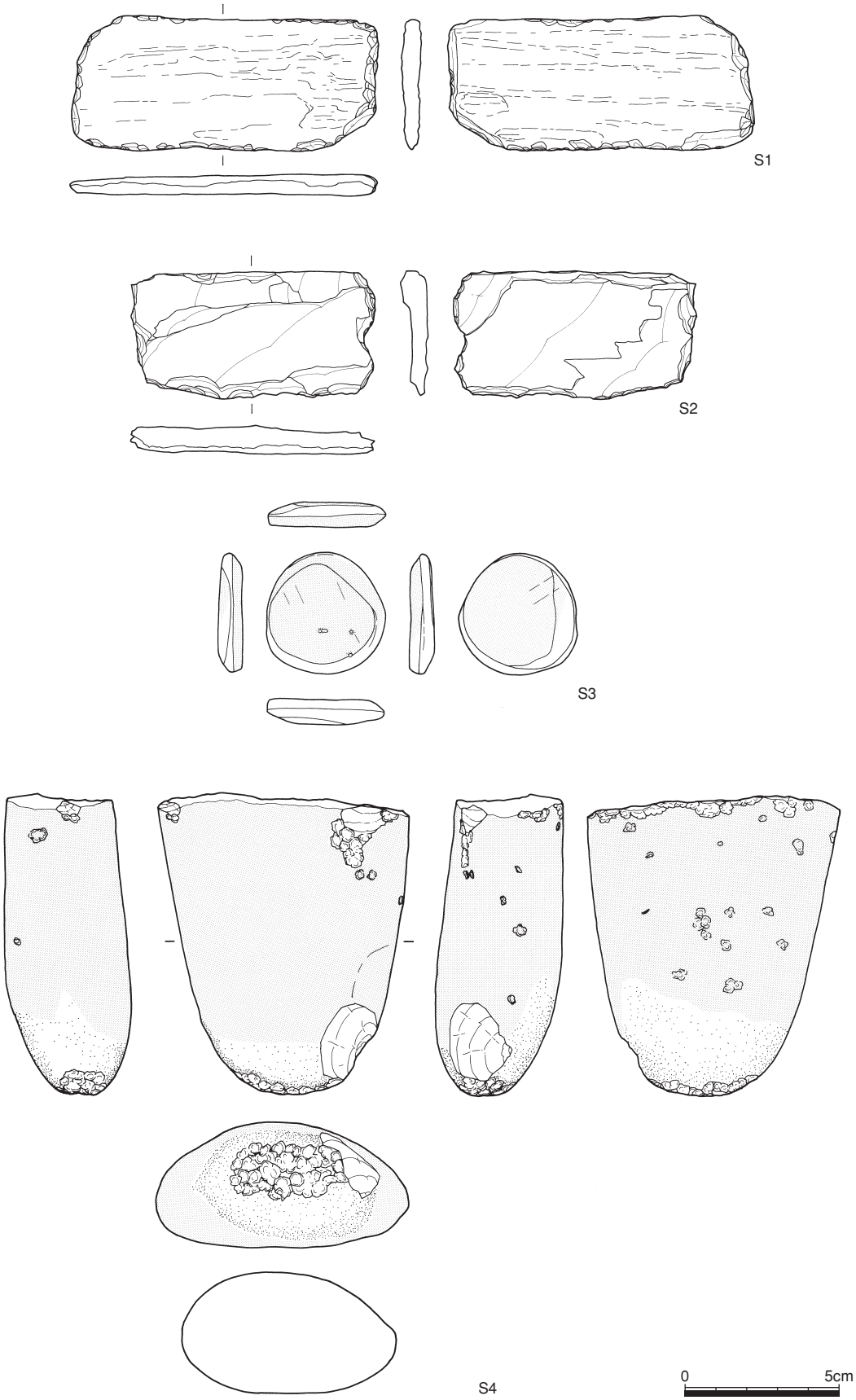




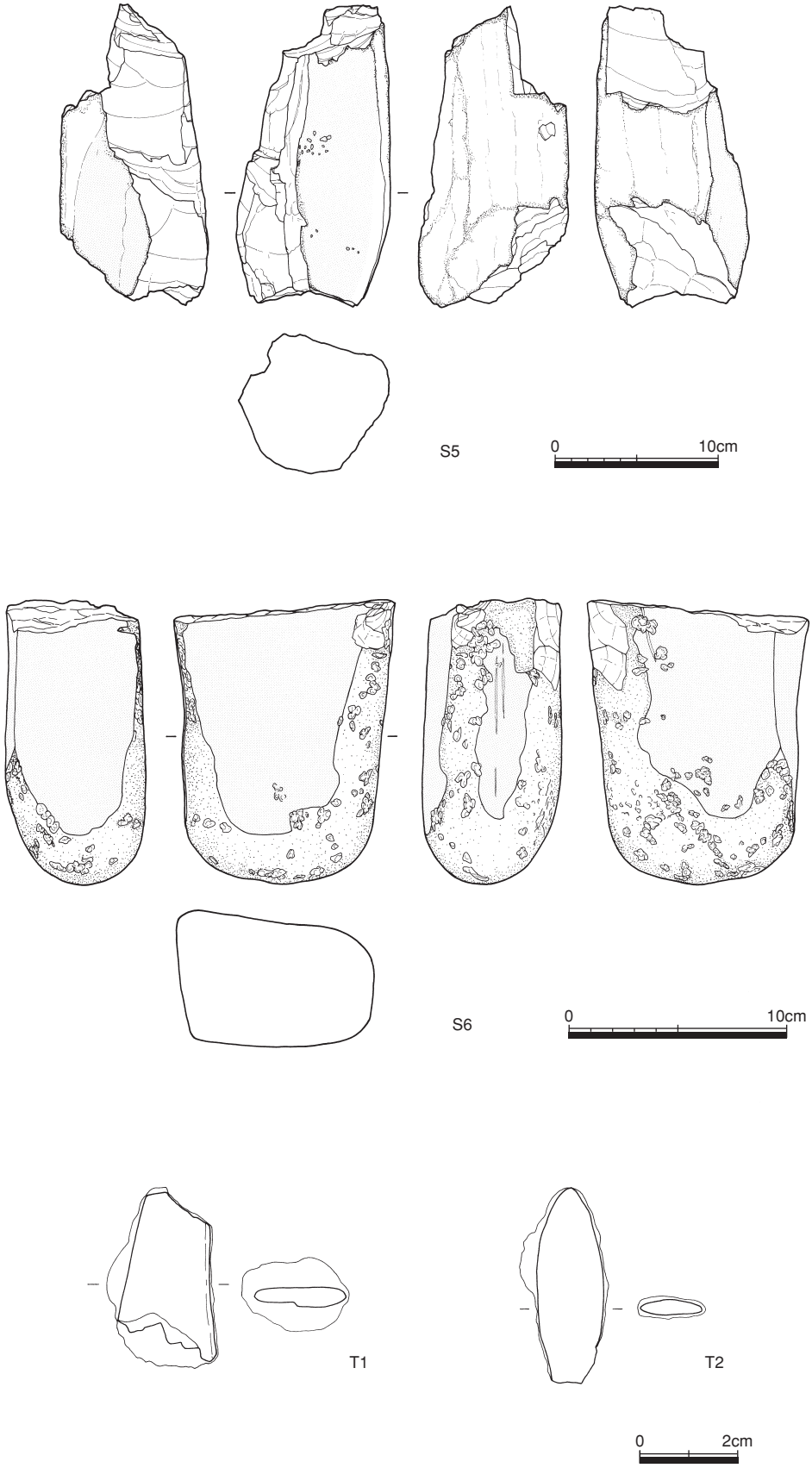
第447図　SM5001ET3出土遺物図(2)



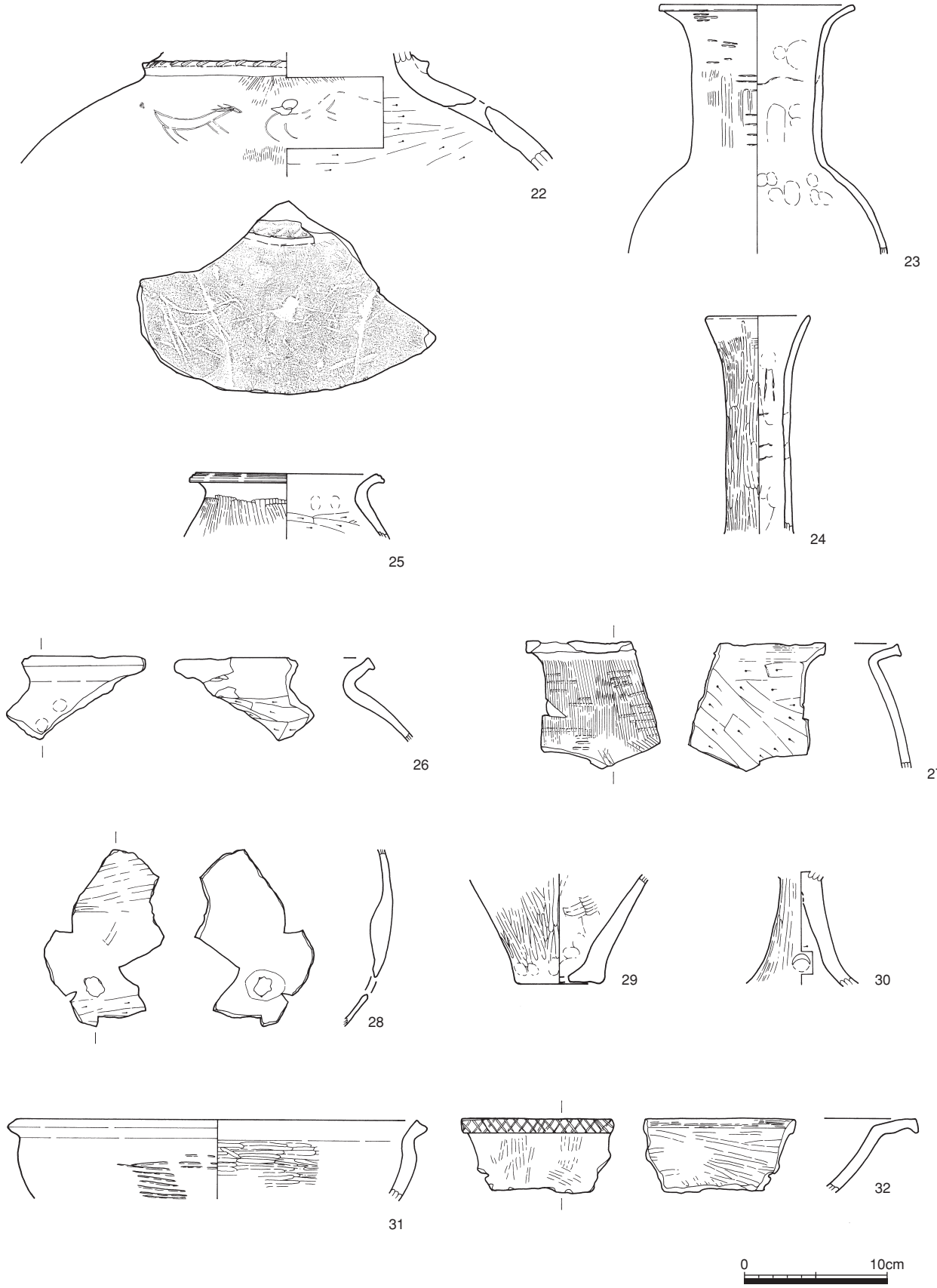
第448図　SM5001出土遺物図(1)



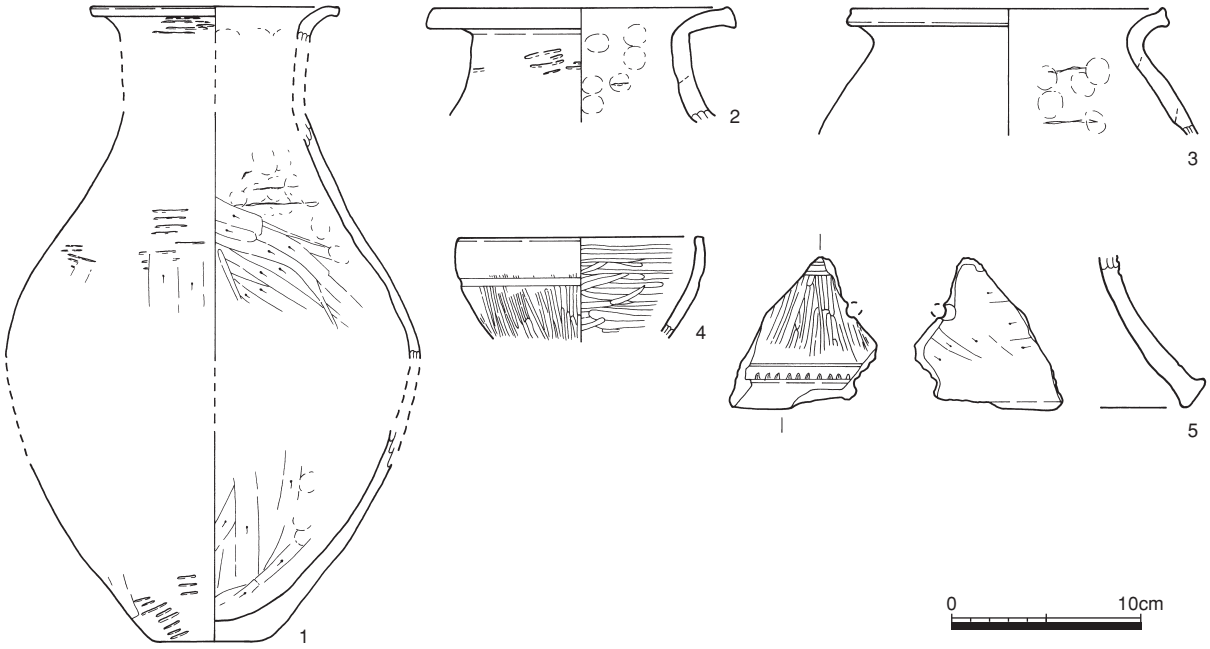
第449図　SM5001出土遺物図(2)



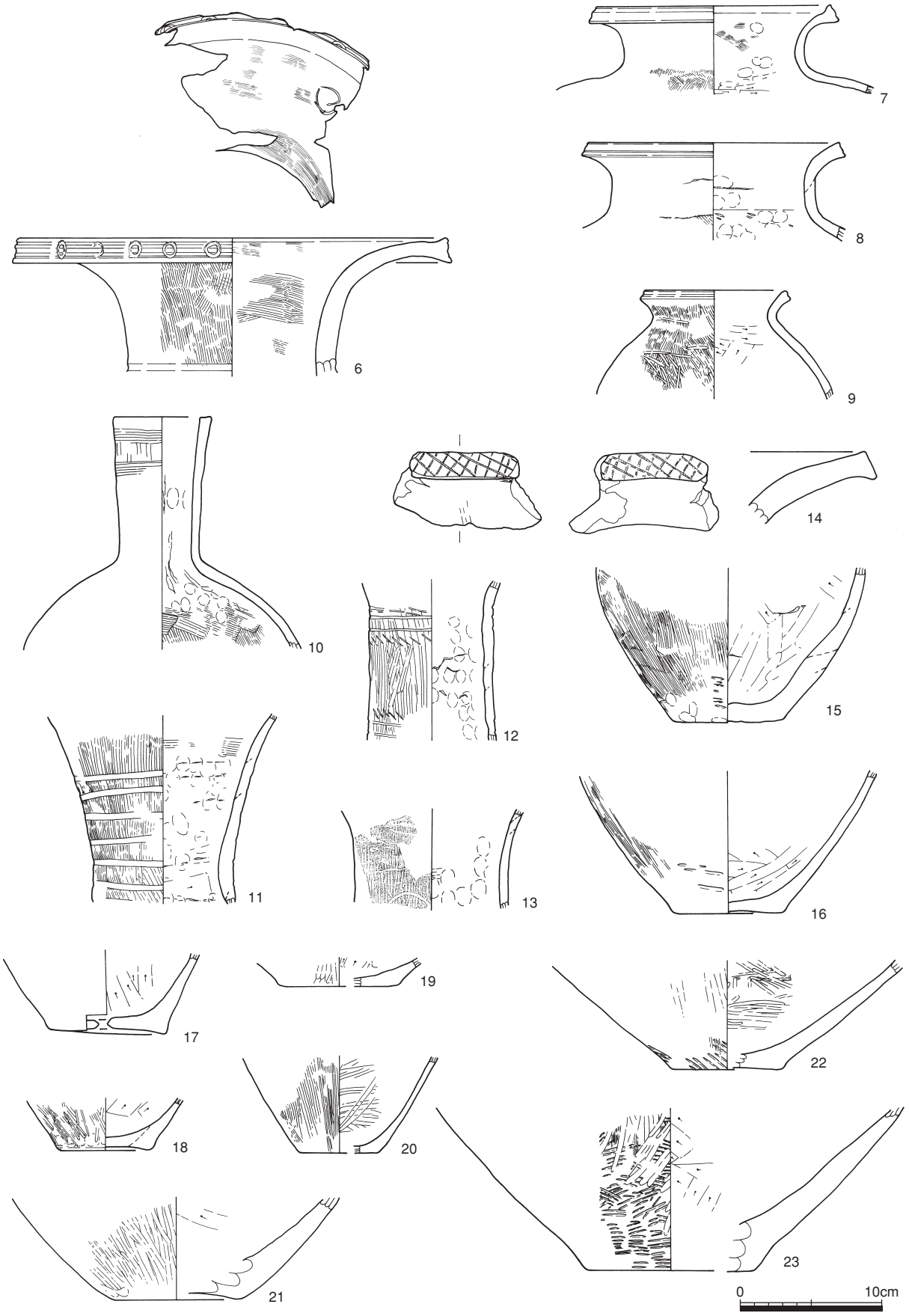
第450図　SM5001出土遺物図(3)



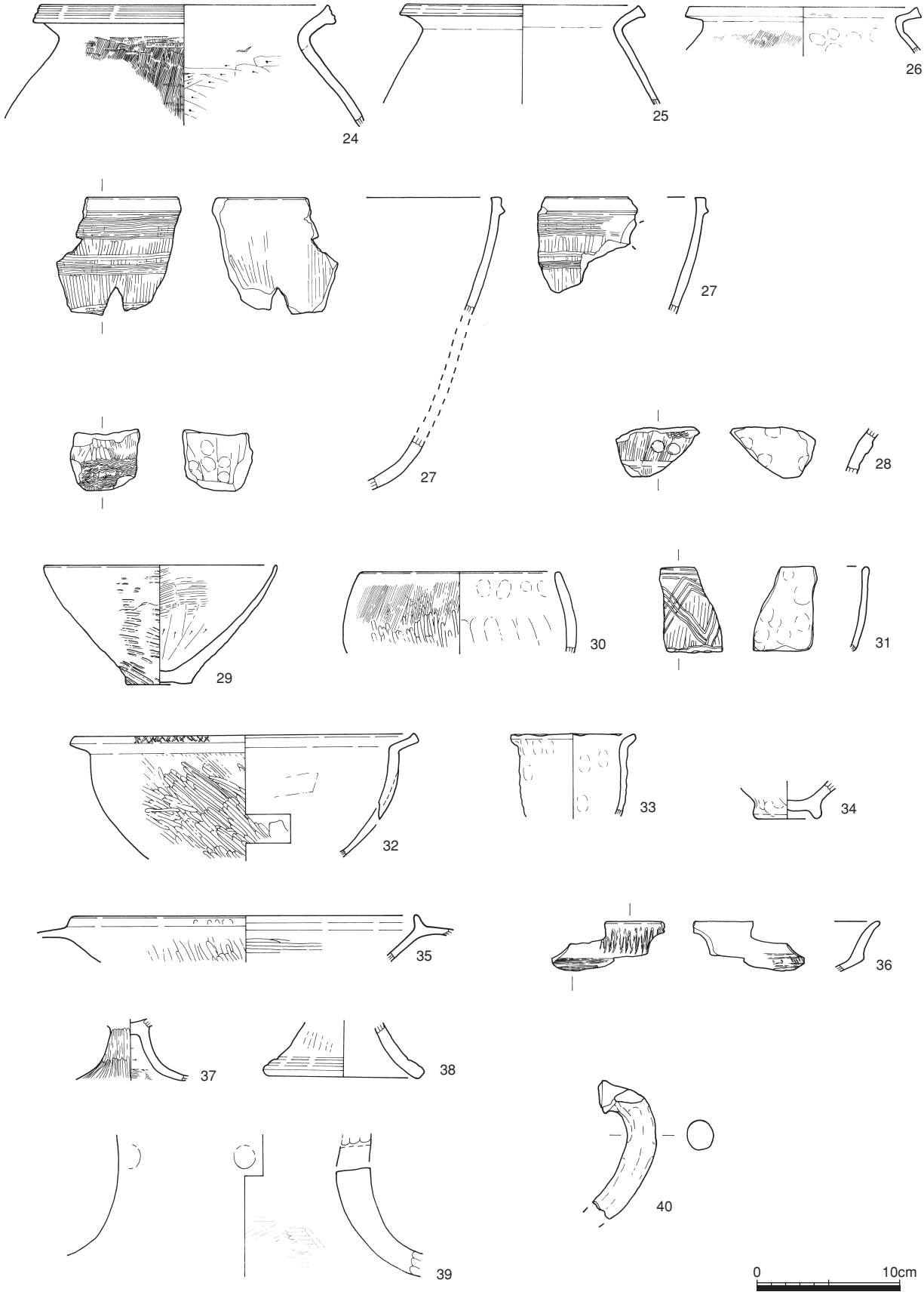
第451図　SM5001出土遺物図(4)



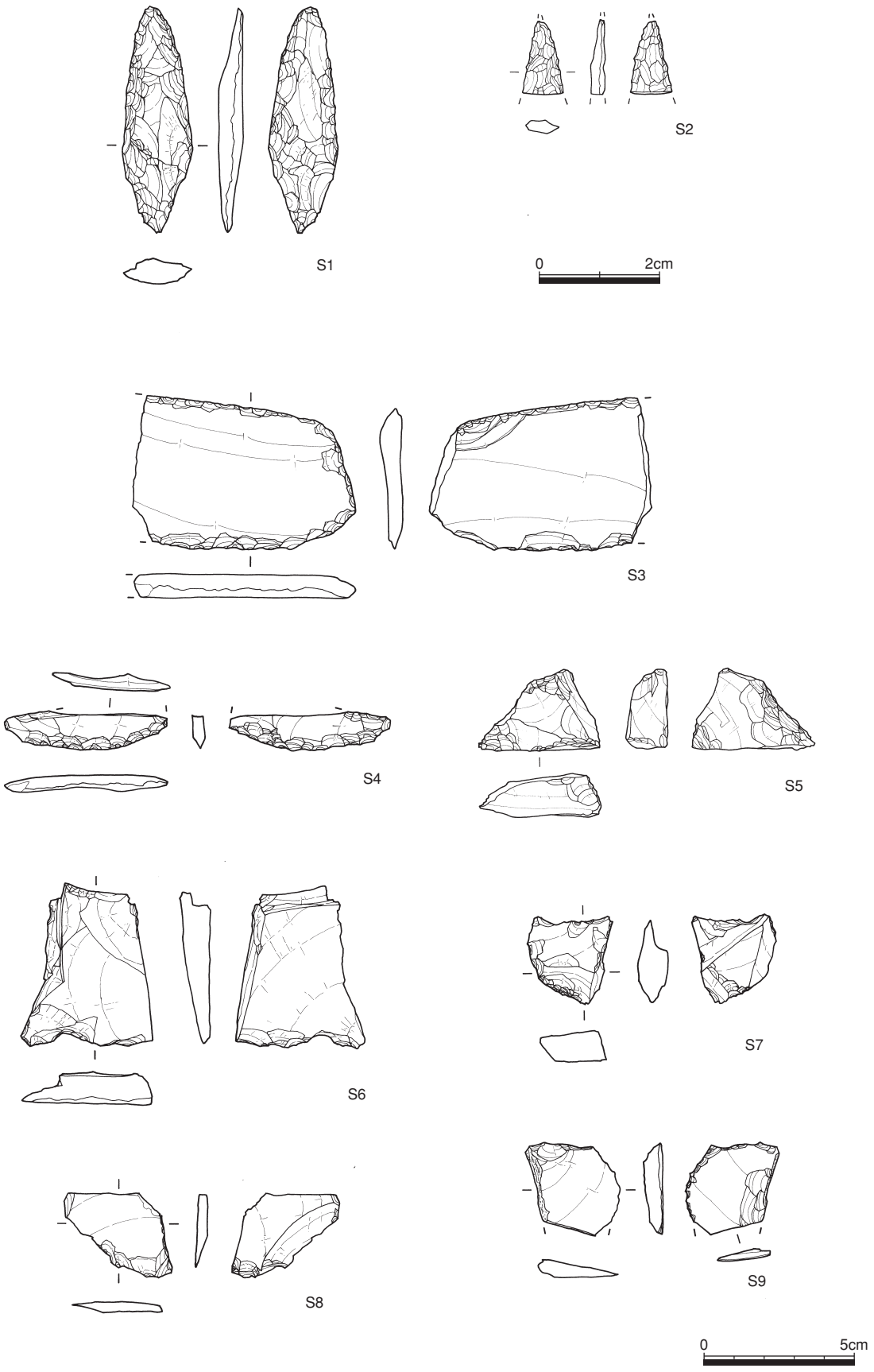
第452図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(1)



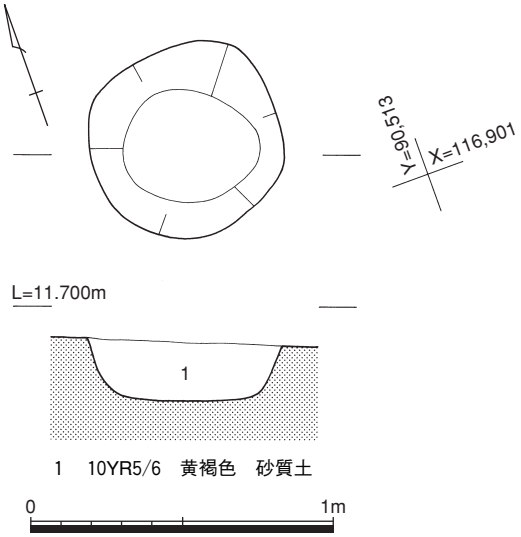
第453図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(2)



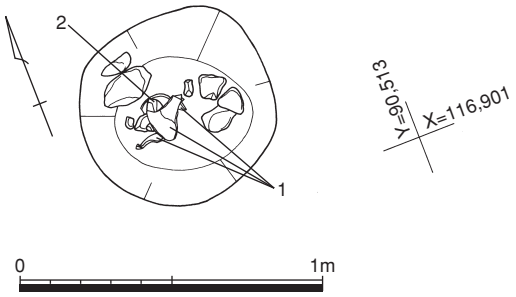
第454図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(3)



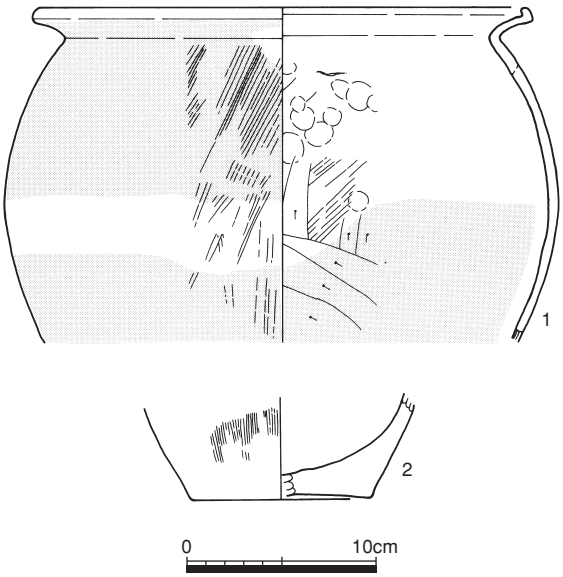
第455図　SM5001周辺グリッド出土遺物図(4)



第456図　ST5001遺構平・断面図



第457図　ST5001遺物出土状況図



第458図　ST5001出土遺物図

長方形を、断面形は階段状を呈する。下段墓壙は長軸1.15m、短軸0.8mを測る。下段墓壙形状に合わせて、墓壙上層からは直径20㎝大の川原石が集積されている。集石は裾が明瞭ではなく列石や標石は伴わない。土層の観察状況から木棺が伴ったと推定される。

土層　墓壙埋土は、上段墓壙埋土と下段墓壙埋土の２層に大きく分層することができる。下段墓壙埋土の内、７・８・９層は棺内流れ込み土層である。10～12層は棺裏込埋土と位置付けることが出来る。上段墓壙埋土は集石下層の２・４層である。

出土遺物　出土遺物は３点図化することが出来た。１～３は弥生土器壺である。

土器棺墓・土壙墓・集石墓

１号土器棺墓（ST5001）（第456～458図）

位置　96－1区。Loc.Ｂ3　εⅠ　Ａ－3グリッド

規模と形状　長径0.65m、短径0.64m、深度0.19mを測る墓壙である。遺構の形状は、平面が円形であり、断面は逆台形である。

土器棺には甕を使用している。甕の下部には10㎝大の川原石が５個充填されている。また、遺構上端部や甕の上部にも川原石が置かれた状態で検出された。

土層　埋土は黄褐色砂質土である。

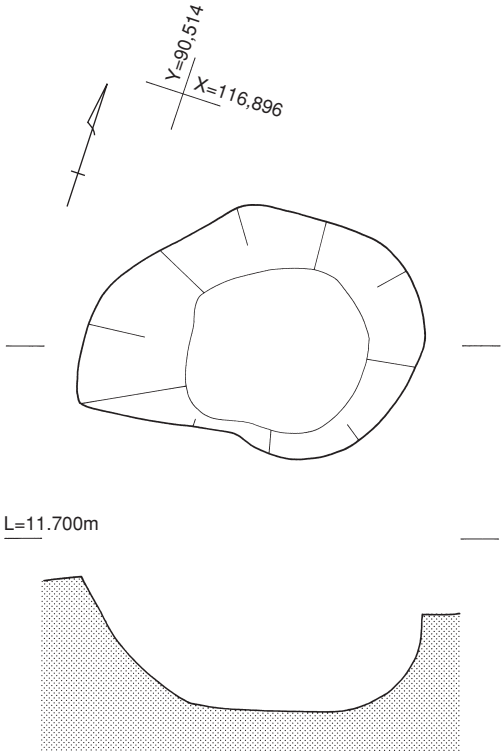
出土遺物　１・２は弥生土器甕である。

時期　弥生時代後期である。

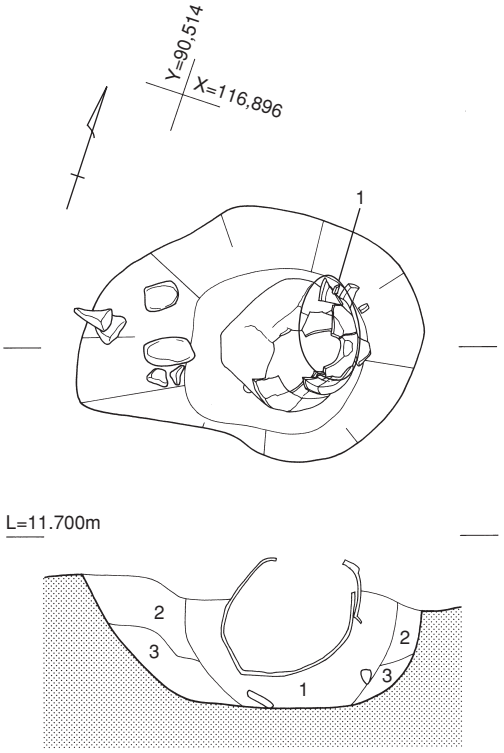
２号土器棺（ST5002）（第459～461図）

位置　96－1区。Loc.Ｂ3　δⅠ　Ｔ－3グリッド

規模と形状　長径0.90m、短径0.64m、深度0.30mを測る土器棺墓である。主軸は、N－19°－Eを測り、東西方向を指向する。墓壙の平面形態は、不整楕円形であり、断面が船底形を呈する。



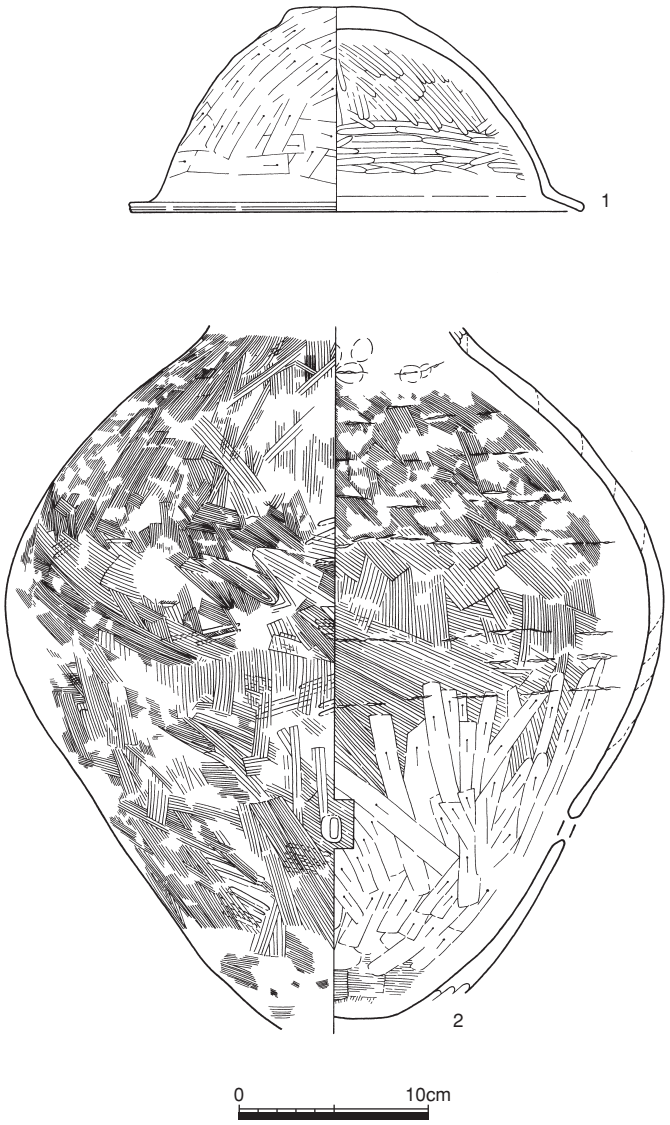
第459図　ST5002墓壙平・断面図



1　10YR3/4　暗褐色　砂質土
　（2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む）
2　10YR3/4　暗褐色　砂質土
3　10YR4/4　褐色　　砂質土

0　1m

第460図　ST5002土器棺検出状況図



第461図　ST5002出土遺物図

土器棺の棺身には壺を、棺蓋には鉢を転用している。土器棺がは東側に口縁部を向けて約°傾いた状態で埋葬されて散る。棺身（２)は、口縁部から頸部が欠損し、胴下半部に穿孔が施されている。それを覆うように棺蓋(１)の鉢底部を上に向け蓋として被せている。

土層　遺構覆土は３層に分層出来る。土器棺を直接支える埋土（１層）は暗褐色砂質土である。墓壙埋土は、暗褐色砂質土と褐色砂質土である。墓壙埋土を充填した後に、再度土器棺を埋納するために掘削し、１層を充填しながら土器棺を安置したと考えられる堆積である。

出土遺物　棺蓋１は鉢である。棺身２は壺である。頸部より上部を打ち欠き、胴下半部に内側からの敲打による穿孔が伴う。外面底部の欠損は焼成破裂痕である。

時期　弥生時代後期である。

３号土壙墓（ST5003）（第462図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｒ－4グリッド

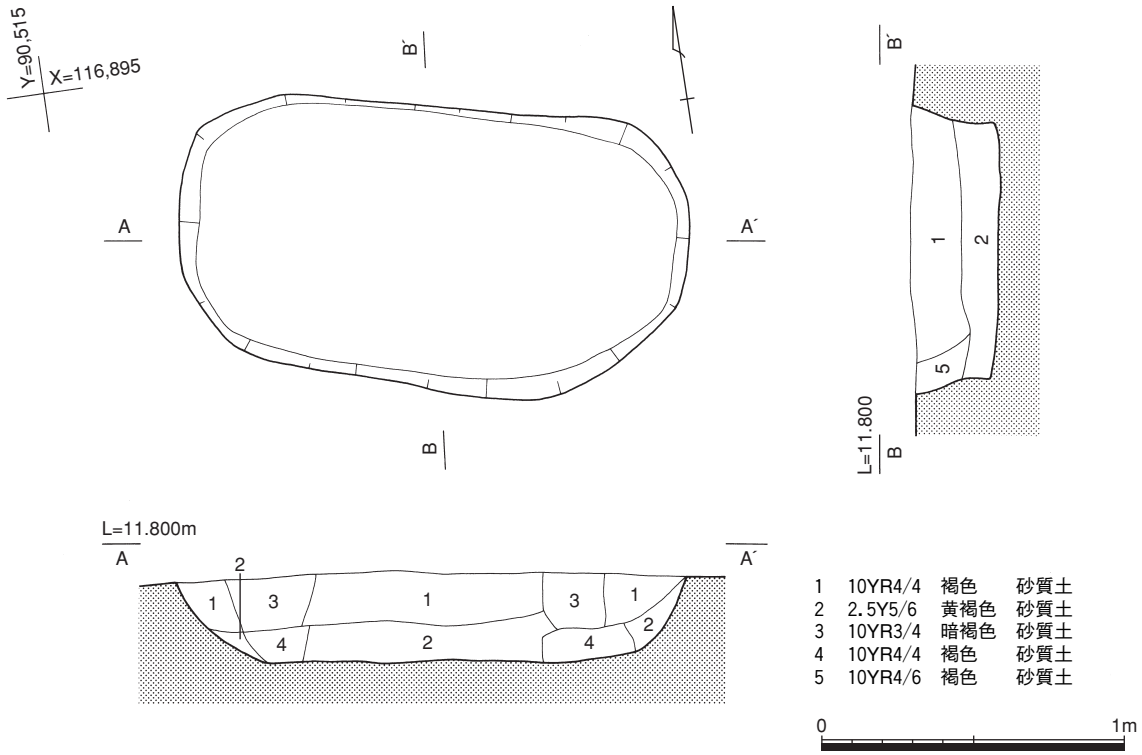
規模と形状　長軸1.68m、短軸0.94m、深度0.3mを測る土坑である。主軸方位はＮ－81°－Ｗを測り、東西方向を指向する。墓壙平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸断面形態は船底形、短軸断面形態は垂直に近い逆台形を呈する。

土器棺は伴わず、木棺痕跡等も未確認である。平面形態や規模から墓壙として報告する。

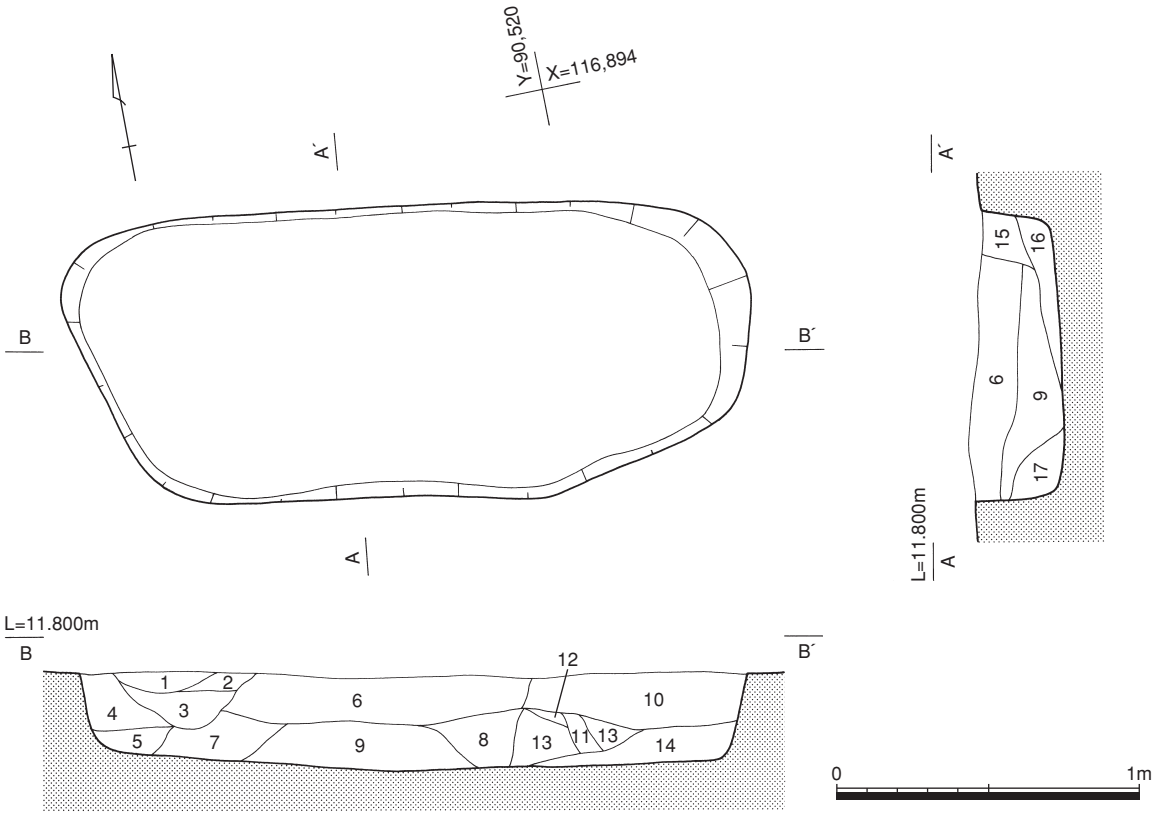
土層　墓壙と仮定した場合、床埋土は２層（黄褐色砂質土）である。小口側埋土は１・２・３・４層となる。覆土は１層（褐色砂質土）である。

出土遺物　遺物は出土していない。

時期　遺構面の対応関係からみて弥生時代後期とみられる。

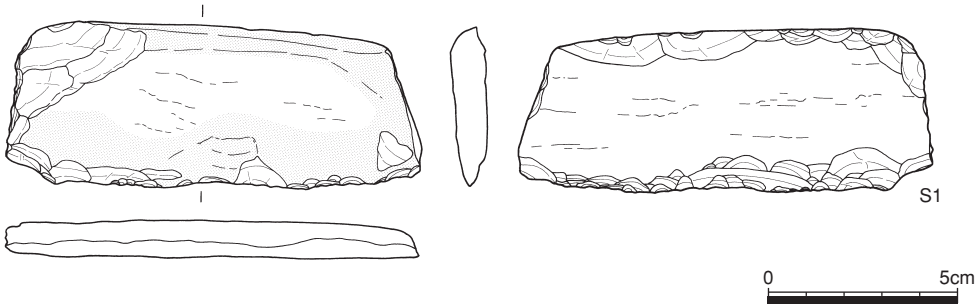


第462図　ST5003墓壙平・断面図



1　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
2　10YR6/4　にぶい黄橙色　砂質土
3　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
4　10YR4/4　褐色　砂質土
5　10YR5/6　黄褐色　砂質土
6　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
7　10YR4/4　褐色　砂質土
8　10YR4/6　褐色　砂質土
9　10YR4/4　褐色　砂質土
10　10YR6/6　明黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
11　10YR6/4　にぶい黄橙色　砂質土
12　10YR7/4　にぶい黄橙色　砂質土
13　10YR4/6　褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
14　10YR4/6　褐色　砂質土
15　10YR4/6　褐色　砂質土
16　10YR4/4　褐色　砂質土
17　10YR4/4　褐色　砂質土

第463図　ST5004墓壙平・断面図



第464図　ST5004出土遺物図

4号土壙墓（ST5004）（第463・464図）

位置　96－1・2区。Loc.B－3、δⅠ　S－4・5グリッド

規模と形状　長径2.24m、短径0.96m、深度0.30mを測る墓壙である。主軸は、N－79°－Eを測り、

東西方向を指向する。遺構平面形態は不整形な隅丸長方形を呈し、長軸断面形態は隅丸逆台形を、短軸断面形態は垂直に近い隅丸逆台形を呈する。

土器棺は伴わず、木棺痕跡等も未確認である。平面形態や規模から墓壙として報告する。

土層　墓壙と仮定した場合、床埋土は16・17層（褐色砂質土）となる。小口側埋土は14・７・５層（褐色砂質土、黄褐色砂質土）となる。覆土は６・９・10層（にぶい黄褐色砂質土、褐色砂質土、明黄褐色砂質土）等である。

出土遺物　Ｓ１は結晶片岩製石包丁である。使用痕が観察される。

時期　弥生時代後期である。

５号土壙墓（ST5005）（第465～467図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－4グリッド

規模と形状　検出長軸3.22m、短軸1.34m、深度0.21mを測る土坑である。主軸は、N－10°－W を測り、南北方向を指向する。平面形態は不整形な方形を、短軸断面形態は方形を呈する。

土器棺は伴わず、木棺痕跡等も未確認である。平面形態や規模から墓壙として報告する。

土層　遺構覆土は19層に分層される。墓壙と仮定した場合、床埋土は23層（にぶい黄褐色砂質土）や17層（褐色砂質土）である。小口側埋土は18～22層（にぶい黄褐色砂質土、褐色砂質土、暗褐色砂質土）である。長側側埋土は５～８層（黄灰色砂質土、褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土）である。覆土もしくは木棺上部の埋土は１～４層（暗灰黄色砂質土、黄褐色砂質土、褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土）である。

遺物出土状況　１層上面より土器類と川原石が検出された。南側推定小口部直上には、結晶片岩川原石が面を揃えて１列に置かれた状態で検出された。その北側（木棺側）より壺３が検出された。石列から北約75㎝付近に該当する。土器は同地点で潰れたような状態である。壺２のそばには約30㎝大の結晶片岩川原石が置かれている。

出土遺物　１～４は弥生土器で、１～３は壺、４は短頸壺である。４の胴部に敲打による穿孔が施されている。石器Ｓ１は御荷部石製太形蛤刃石斧である。

時期　弥生時代後期である。

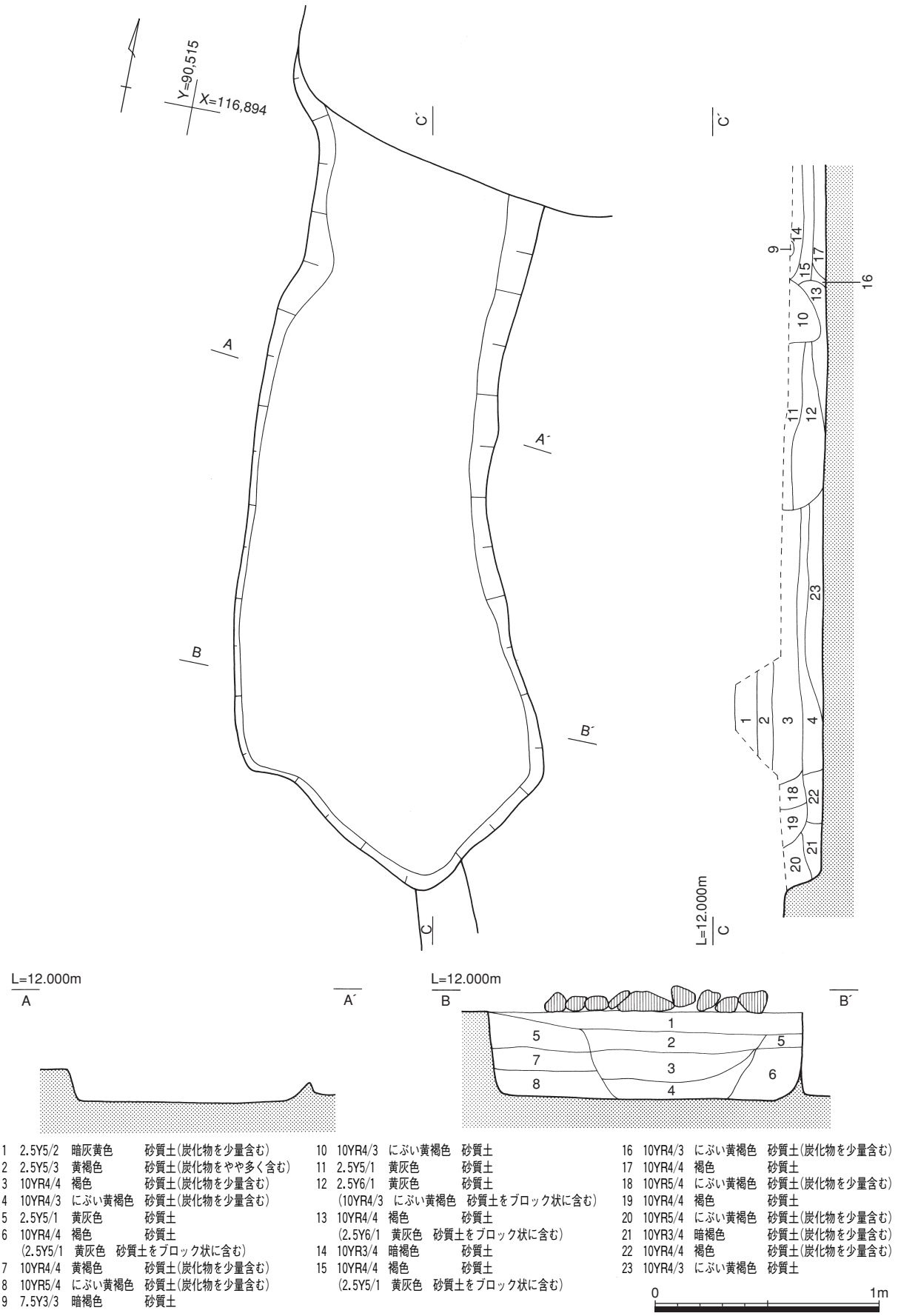
６号土器棺墓（ST5006）（第468～471図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ－3グリッド

規模と形状　長径1.62m、短径1.60m、深度0.53mを測る土器棺墓である。平面形態は不整形、断面形態は階段状を呈する２段墓壙である。中央部に土器棺を埋設するための小穴 EP１を掘削している。

EP１の規模は、直径0.68m、深度約0.42mである。遺構平面形態は不整円形を、断面形態は逆台形を呈する。

土器棺は口縁部を東側に向けて、ほぼ水平に近い転倒位の状態で埋設されている。土器棺の下部には10㎝大の川原石が充填されている。土器棺を安定刺すための棺台としての機能が想定される。棺身は壺１である。頸部付近から上部は打ち欠いている。棺蓋は鉢２である。棺蓋を支えるために EP１壁との間に川原石を１個置いている。土器棺を EP１内に埋設し埋土を充填した後に、棺蓋直上に壺３を正位置で置かれた状態で検出された。



1　2.5Y5/2　暗灰黄色　砂質土(炭化物を少量含む)
2　2.5Y5/3　黄褐色　砂質土(炭化物をやや多く含む)
3　10YR4/4　褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
4　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
5　2.5Y5/1　黄灰色　砂質土
6　10YR4/4　褐色　砂質土
(2.5Y5/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む)
7　10YR4/4　黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
8　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
9　7.5Y3/3　暗褐色　砂質土
10　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
11　2.5Y5/1　黄灰色　砂質土
12　2.5Y6/1　黄灰色　砂質土
(10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土をブロック状に含む)
13　10YR4/4　褐色　砂質土
(2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む)
14　10YR3/4　暗褐色　砂質土
15　10YR4/4　褐色　砂質土
(2.5Y5/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む)
16　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
17　10YR4/4　褐色　砂質土
18　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
19　10YR4/4　褐色　砂質土
20　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
21　10YR3/4　暗褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
22　10YR4/4　褐色　砂質土(炭化物を少量含む)
23　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土

0　1m

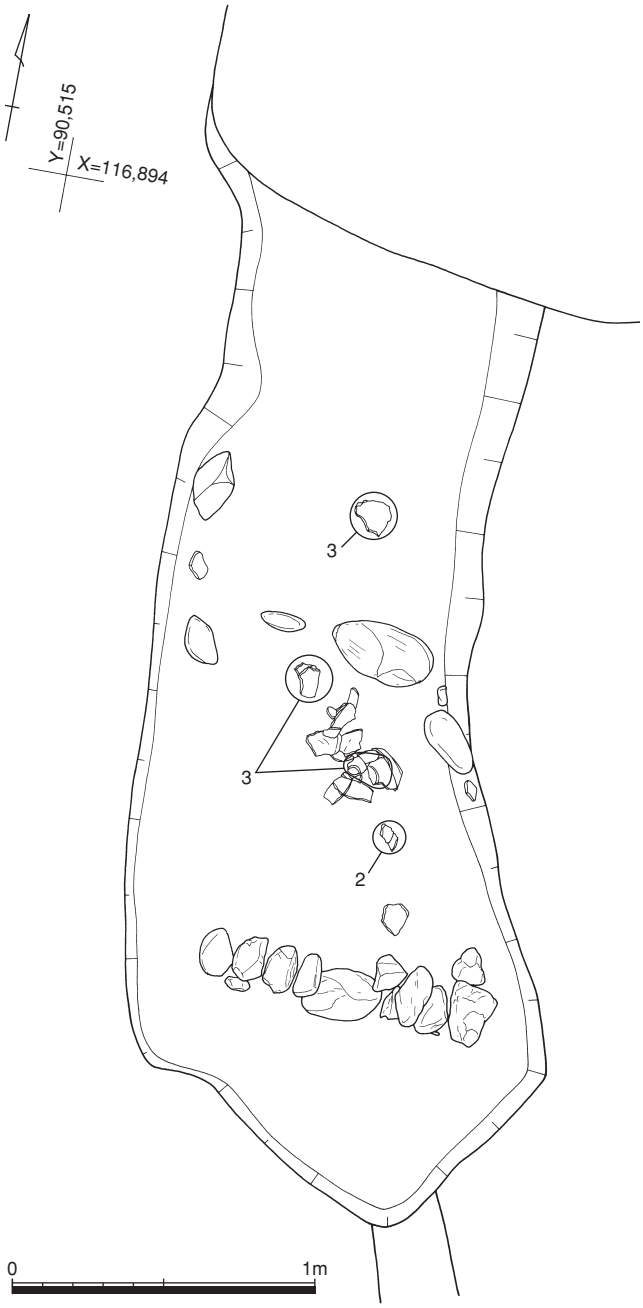
第465図　ST5005墓壙平・断面図

墓壙上段部の掘削深度は浅く約20㎝を測る。EP１の東側と南側には川原石が直線状に置かれている。東側にはEP１から約25㎝離れた地点に25㎝大の川原石が置かれている。一方、EP１南側には約15㎝離れた地点に10㎝弱に石が置かれている。

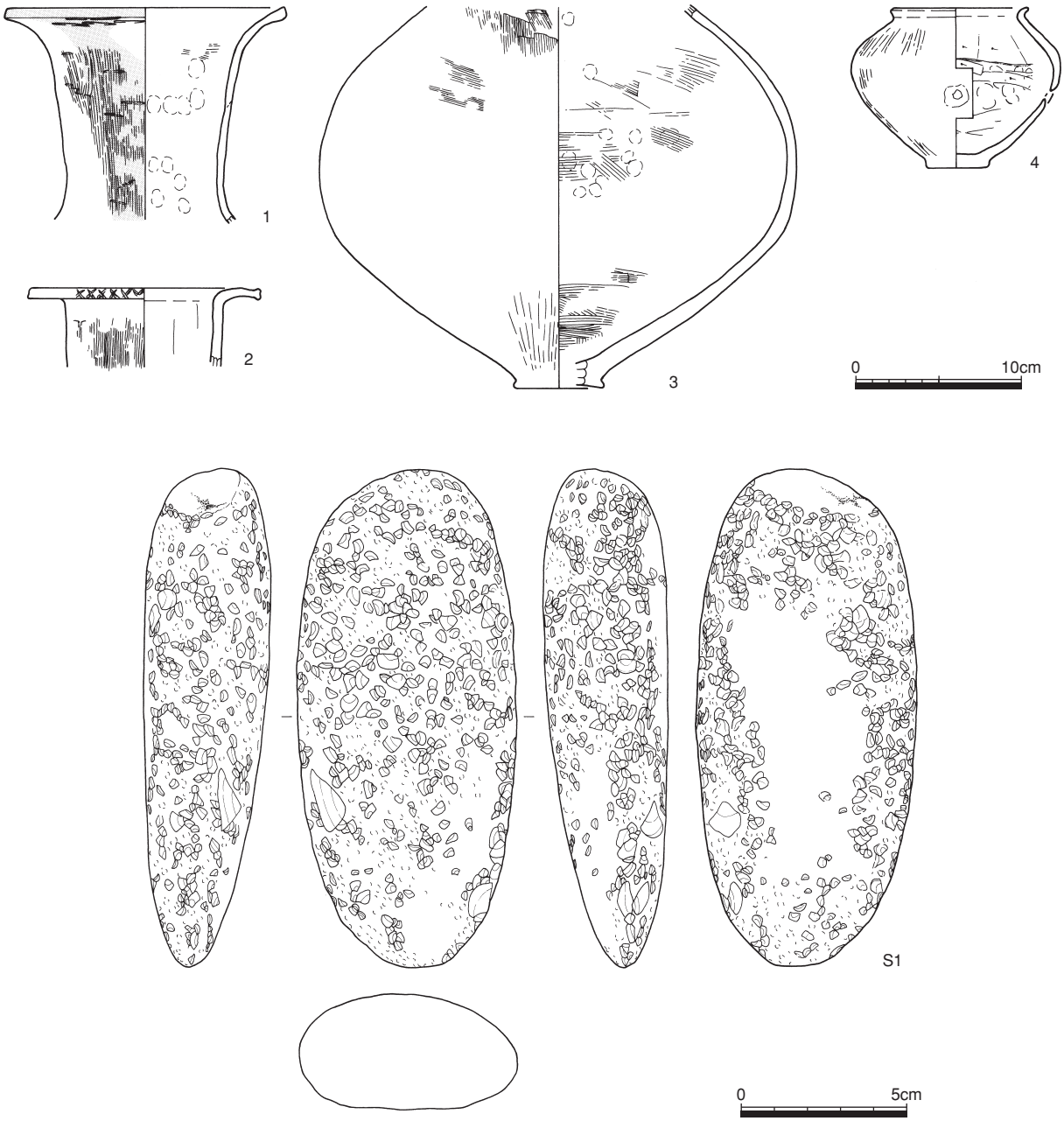
土層　EP１内の土器棺埋土は７層（褐色砂質土）である。墓壙上段部の埋土は１～６層（灰黄褐色砂質土、褐色砂質土、暗褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土）である。

出土遺物　棺蓋に該当する１は弥生土器鉢、棺身に該当する２は弥生土器壺である。弥生土器３は壺である。同上半部から上方は打ち欠きにより欠損している。弥生土器４は甕である。S１は結晶片岩製敲石である。

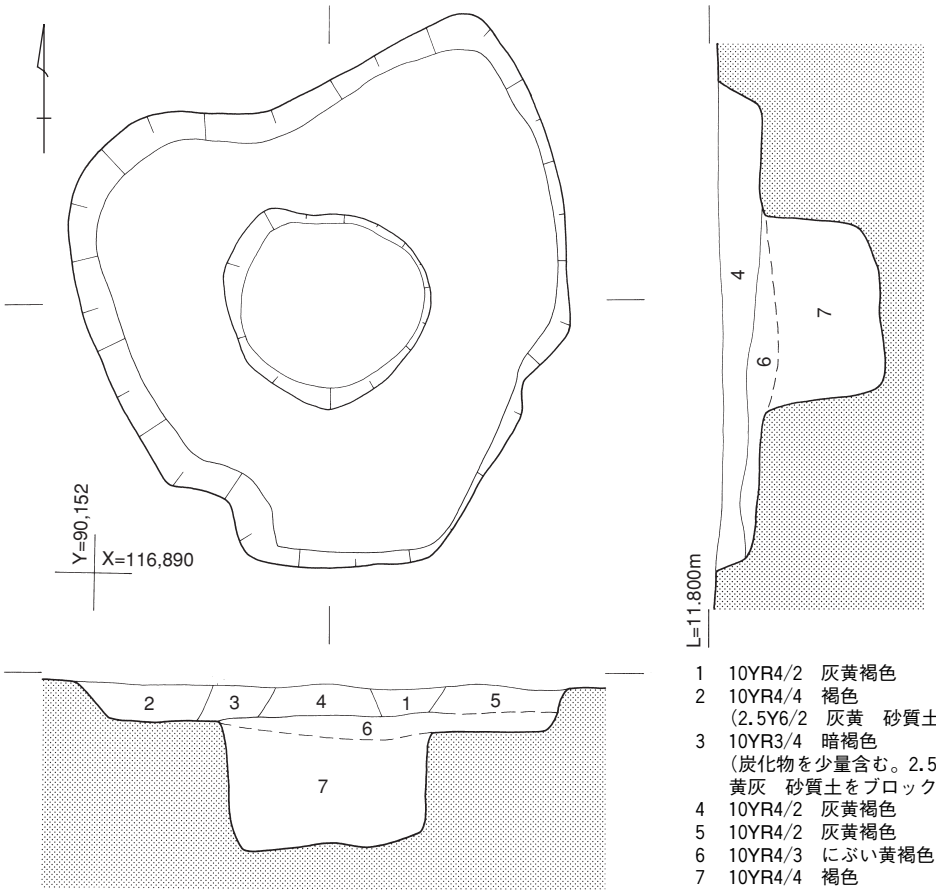
時期　弥生時代後期である。



第466図　ST5005遺物出土状況図

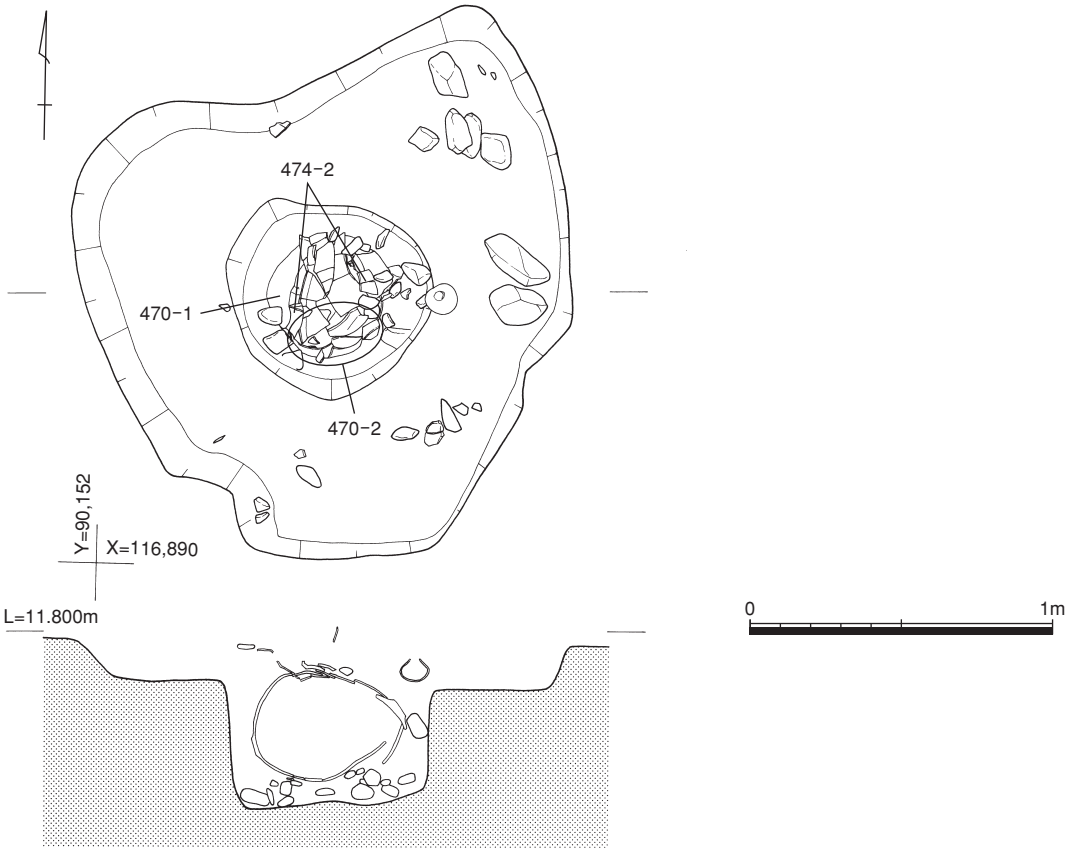


第467図　ST5005出土遺物図

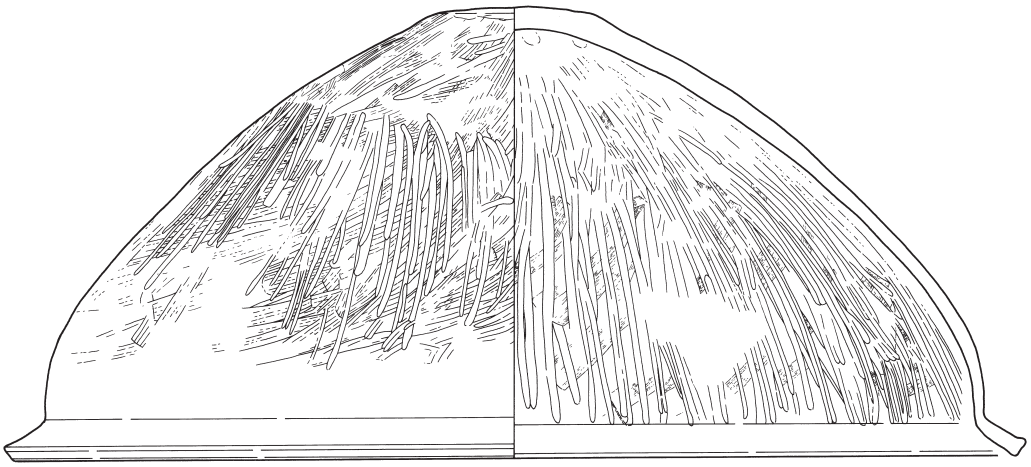


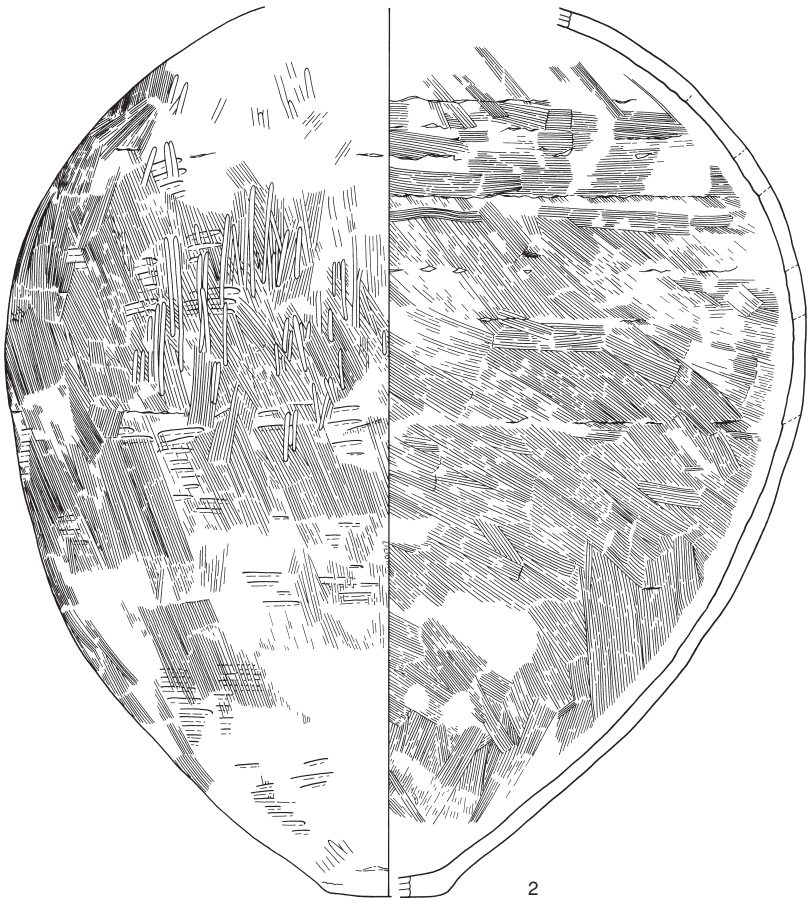
1　10YR4/2　灰黄褐色　　砂質土
2　10YR4/4　褐色　　砂質土
（2.5Y6/2　灰黄　砂質土をブロック状に含む）
3　10YR3/4　暗褐色　　砂質土
（炭化物を少量含む。2.5Y6/1
黄灰　砂質土をブロック状に含む）
4　10YR4/2　灰黄褐色　　砂質土
5　10YR4/2　灰黄褐色　　砂質土
6　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
7　10YR4/4　褐色　　砂質土（炭化物を少量含む）

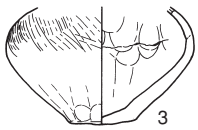
第468図　ST5006墓壙平・断面図

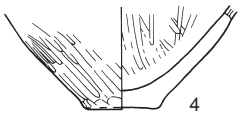


第469図　ST5006土器棺検出状況図

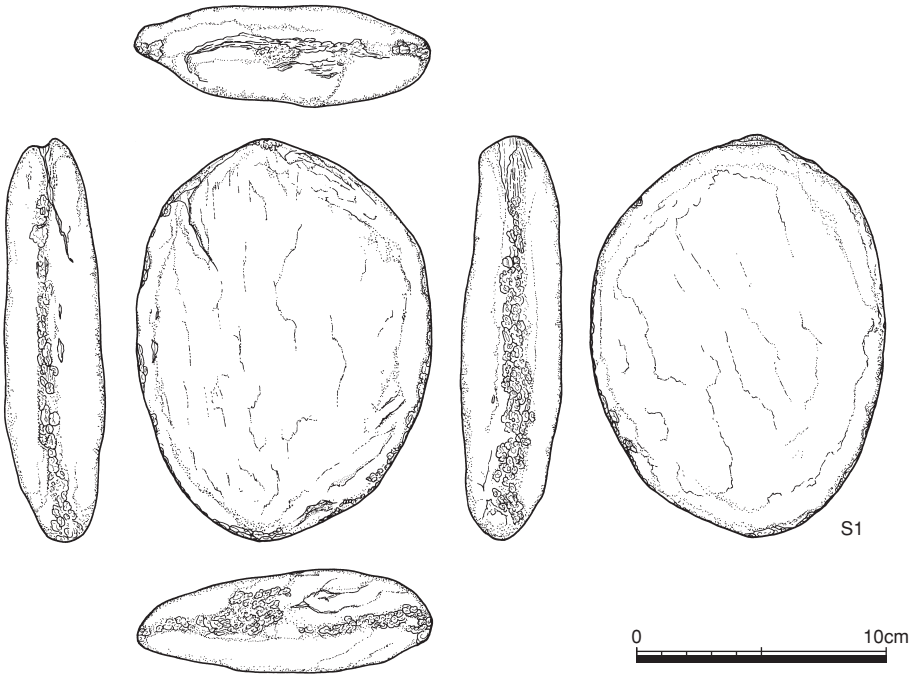








第470図　ST5006出土遺物図(1)



第471図　ST5006出土遺物図(2)

７号土器棺墓（ST5007）（第472～474図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－3グリッド

規模と形状　長軸0.70m、短軸0.57m、深度0.21mの土器棺墓である。平面形態はやや楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。

土器棺は棺身である壺と棺蓋である壺で構成されている。棺身は口縁部を東に向けて、棺身下半部が水平になるように埋設されている。棺身である壺２は、肩部～反対側最大径までを打ち欠いている。棺身口が大きいことから、棺蓋には壺１が使用されている。壺１は胴上半部を使用している。

墓壙壁面と土器棺の間には川原石が数個充填されている。土器棺の向きや傾きを固定するための棺台としての機能が想定される。

土層　遺構埋土は２層の分層される。土器棺床埋土は２層（褐色砂質土）である。更に１層（にぶい黄褐色砂質土）を墓壙内に充填している。土器棺内には１・２層が流れ込んで堆積して３・４層を形成している。

出土遺物　棺蓋に該当する１は弥生土器壺である。全体を打ち欠き、胴上半部のみを蓋として転用している。棺身に該当する弥生土器２は壺である。図面では完形の状態で復元して報告しているが、肩部～頸部～口縁部～頸部～肩部～胴上半部の殆どを打ち欠くことにより棺身として転用している。胴下半部に敲打による穿孔が施されている。

時期　弥生時代後期である。

８号土器棺墓（ST5008）（第475～477図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　R－3グリッド

規模と形状　長軸0.60m、短軸0.54m、深度0.17mを測る土器棺墓である。平面形態は不整円形を、断

面形態は逆台形を呈する。

土器棺は壺で構成される。棺身には壺２を使用している。棺身は口縁部を北東方向にむ向けて、胴下半部がほぼ水平になる状態で埋設されている。棺蓋には壺１を使用している。底部のみを転用している。

土器棺下側には、約10㎝大の川原石が置かれている。棺身が立ち上がる地点に沿って置かれていることから、棺台としての機能が想定される。

土層　遺構埋土は基本的には１層である。土器棺床埋土は４層（暗褐色砂質土）である。この４層を充填しながら棺台としての川原石も配置したと推定される。土器棺内流れ込み土は１～３層（にぶい黄褐色砂質土、褐色砂質土、暗褐色砂質土）である。

出土遺物　棺蓋に該当する１は弥生土器壺である。底部を打ち欠きにより取り外している。棺身に該当する２は弥生土器壺である。頸部から上方を打ち欠きいている。胴下半部に内側からの敲打による穿孔が施されている。

時期　弥生時代後期である。

９号土器棺墓（ST5009）（第478～480図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－2グリッド

規模と形状　長径0.68m、短径0.65m、深度0.54mを測る土器棺墓である。墓壙の平面形態は円形を、断面形態は逆台形を呈する。墓壙形状は、遺構の北東側上端が側溝によって一部削られているが、平面はほぼ円形であり、断面は逆台形を呈する。

土器棺は壺と鉢から構成されている。棺身は口縁部を東に向けて、約°傾けた状態で埋設されている。棺身は頸部から上方を打ち欠いている。棺蓋は鉢を転用している。

土器棺の周辺から川原石が検出されているが、墓壙壁面に突き刺さっており、地山（自然堤防形成土）の礫である。

墓壙南側の肩部より製塩土器３が出土している。墓壙埋土に伴う土器と推定される。

土層　土器棺埋土は３層で、暗褐色砂質土である。土器棺内に１・２層（暗褐色砂質土）が流れ込んでいる。

出土遺物　棺蓋に該当する１は弥生土器鉢である。棺身に該当する２は弥生土器壺である。頸部から上方を打ち欠いている。胴下半部に外側からの敲打による穿孔が施されている。３は製塩土器である。讃岐からの搬入品である。

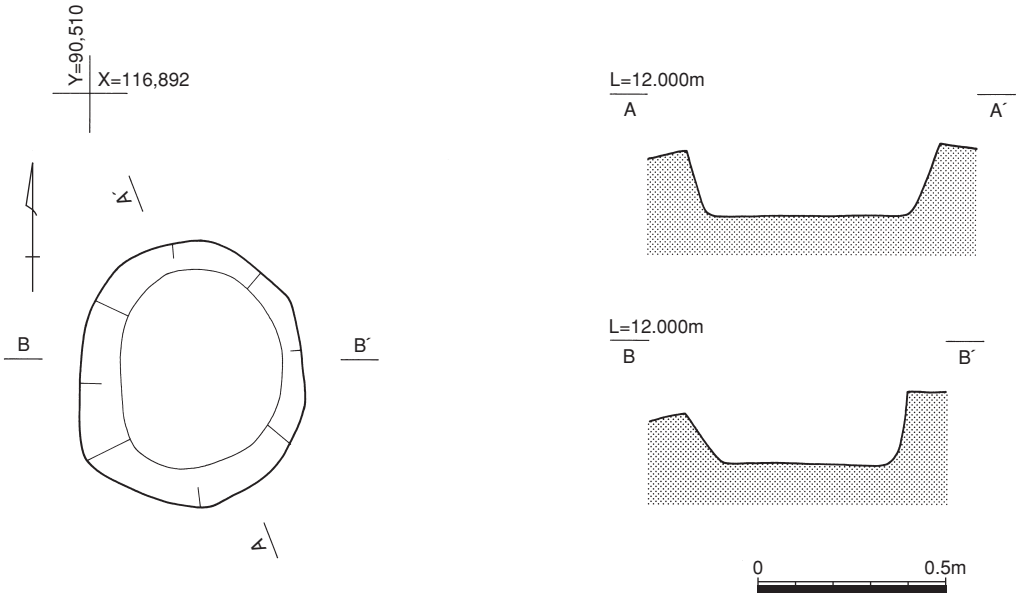
時期　弥生時代後期である。

10号土器棺（ST5010）（第481～483図）

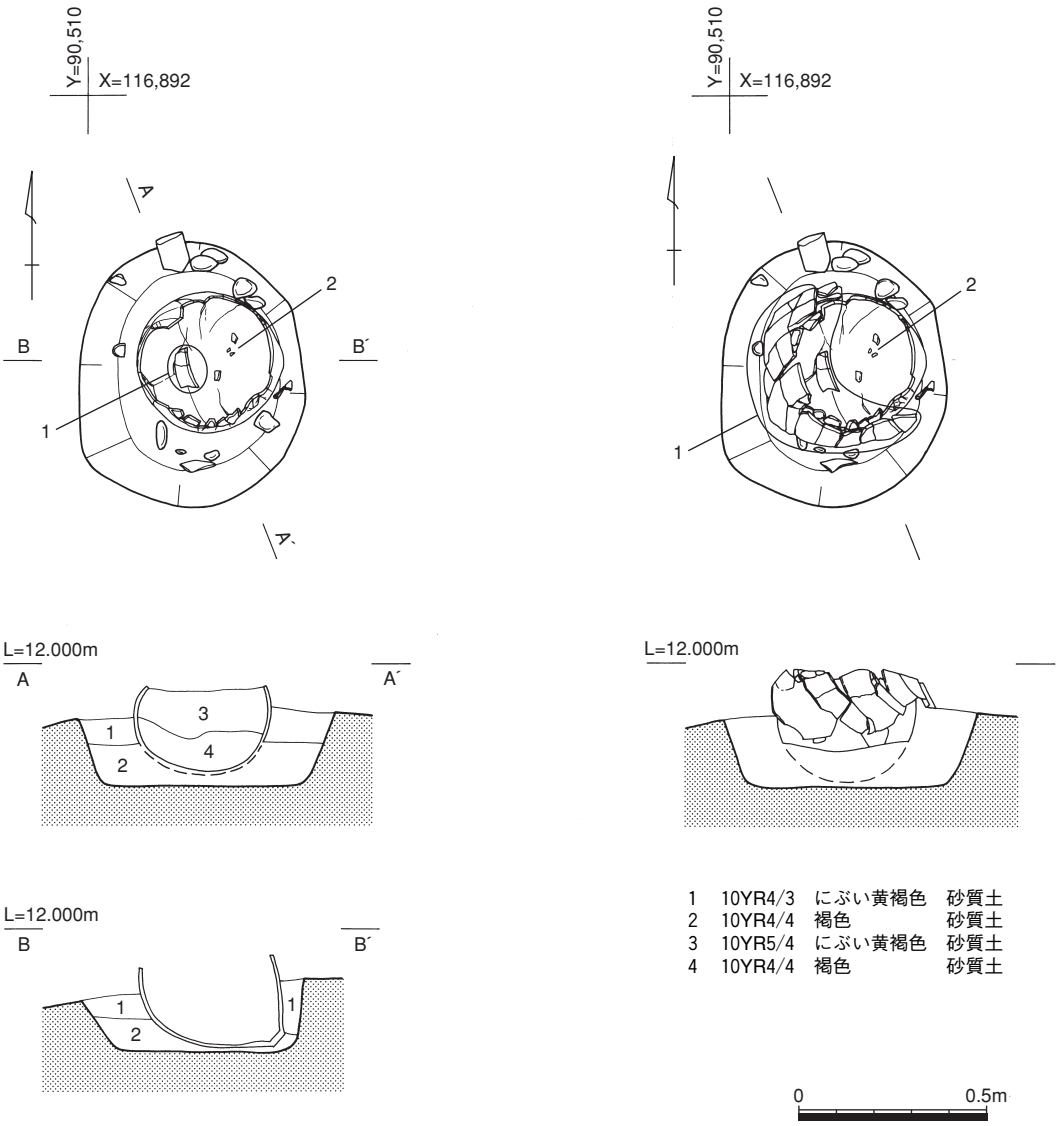
位置　97年立会調査。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－3グリッド

規模と形状　長径0.77m、短径0.73m、深度0.46mを測る土器棺墓である。墓壙平面形態は円形を、断面形態は逆台形を呈する。

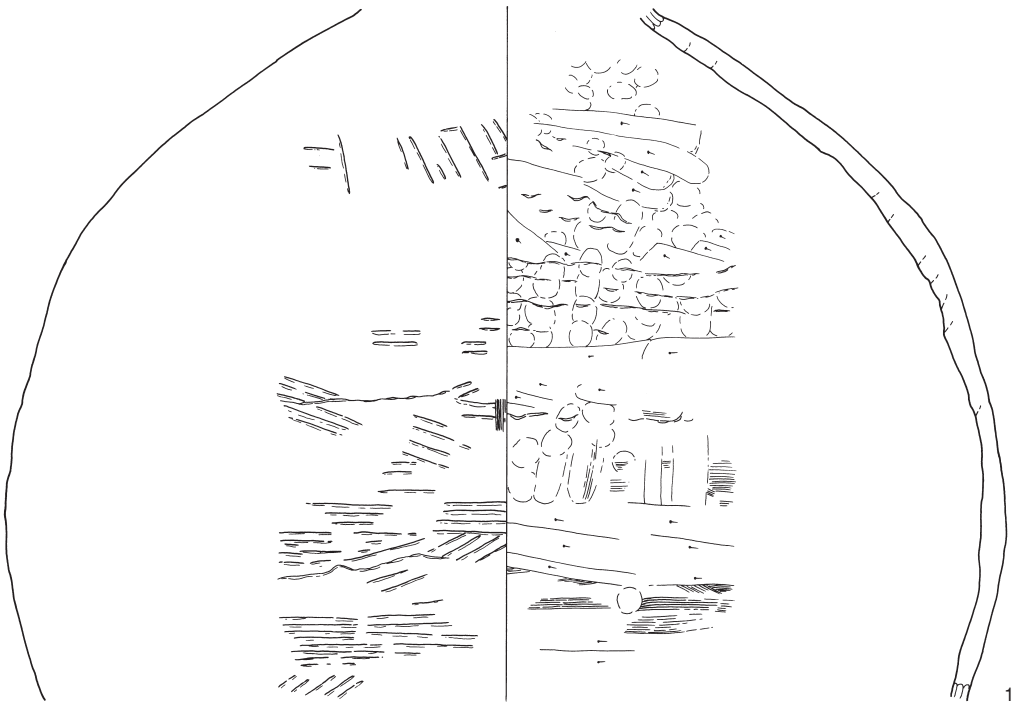
土器棺は壺で構成されている。棺身は口縁部を西に向けて約°傾けて棺身下半部が水平になる状態で埋設されている。棺蓋は、壺の体部から底部を転用し、底部を上方に向けた状態で被せている。また、棺身肩部まで蓋がかかっており、棺身埋設後に蓋を被せたのではなく、棺蓋を施した状態で埋設したと推定される。

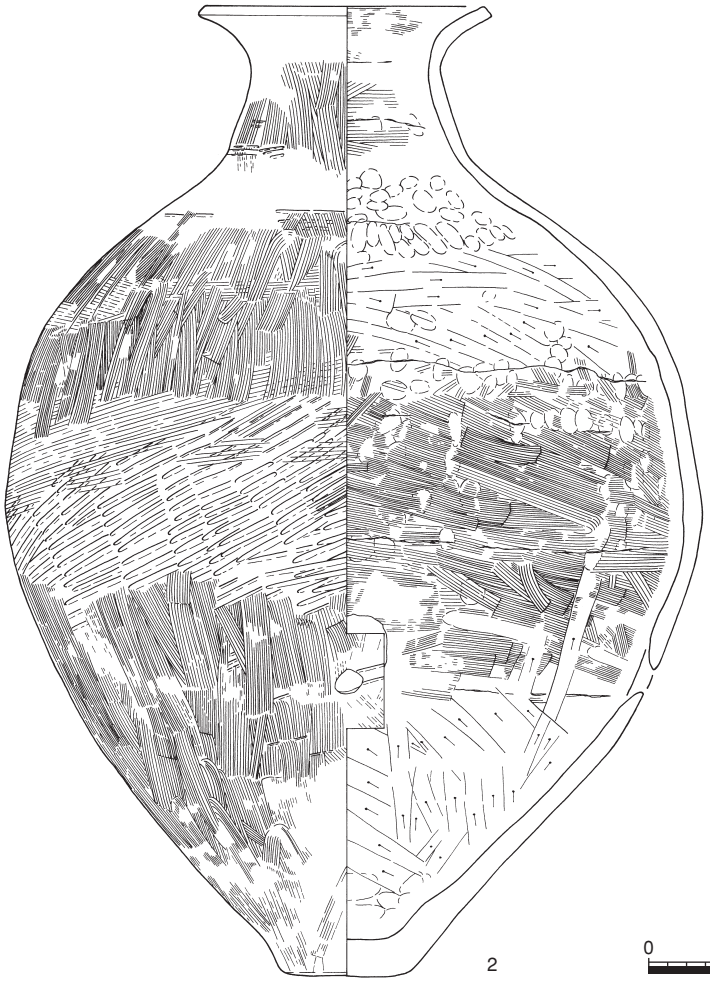


第472図　ST5007墓壙平・断面図



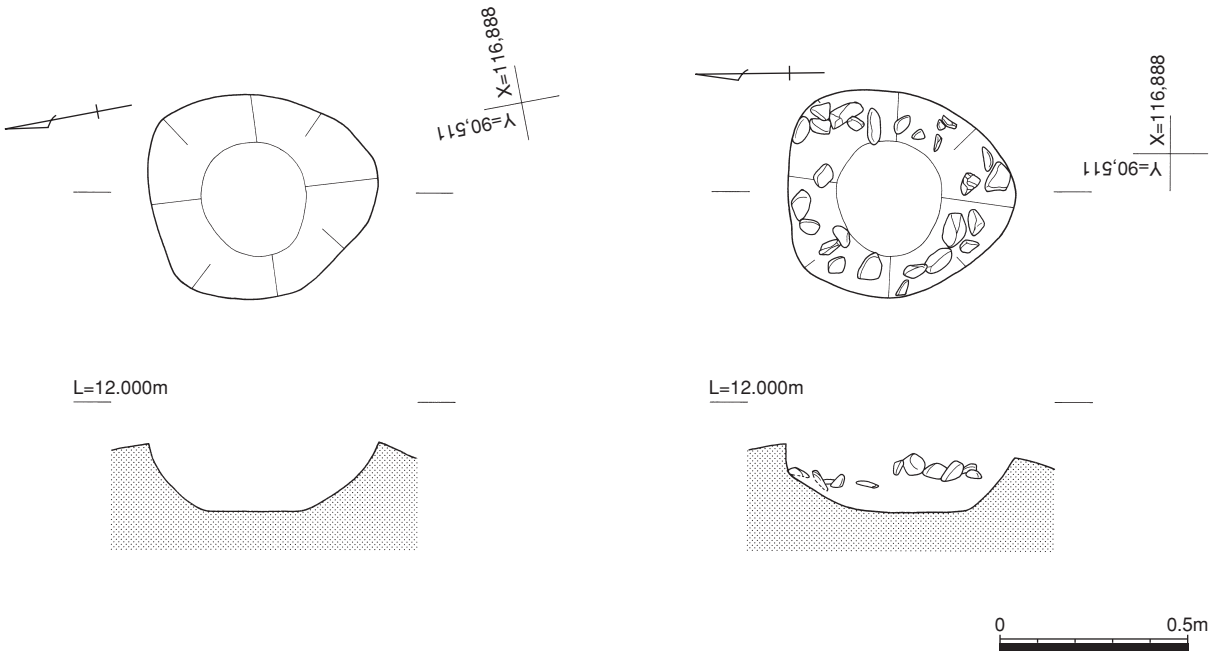
第473図　ST5007土器棺検出状況図



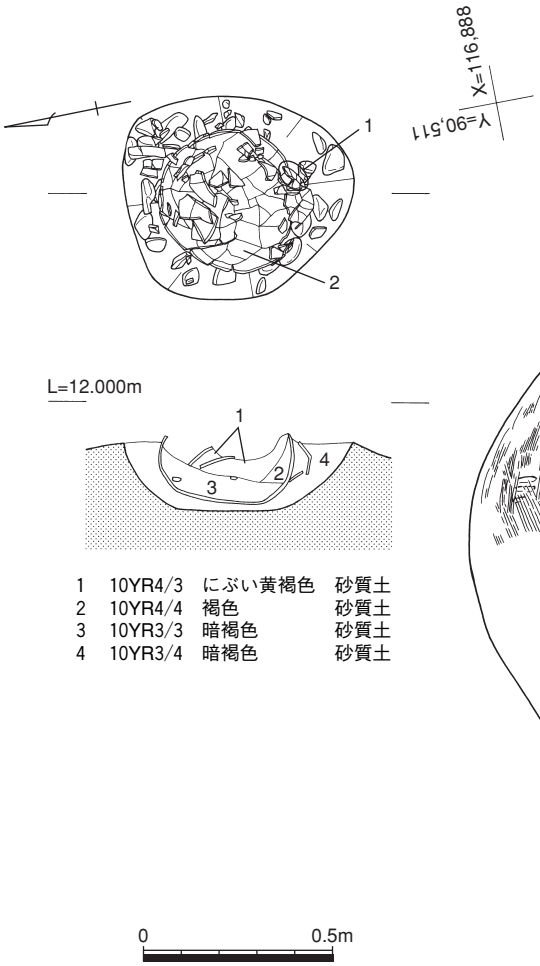


0 10cm

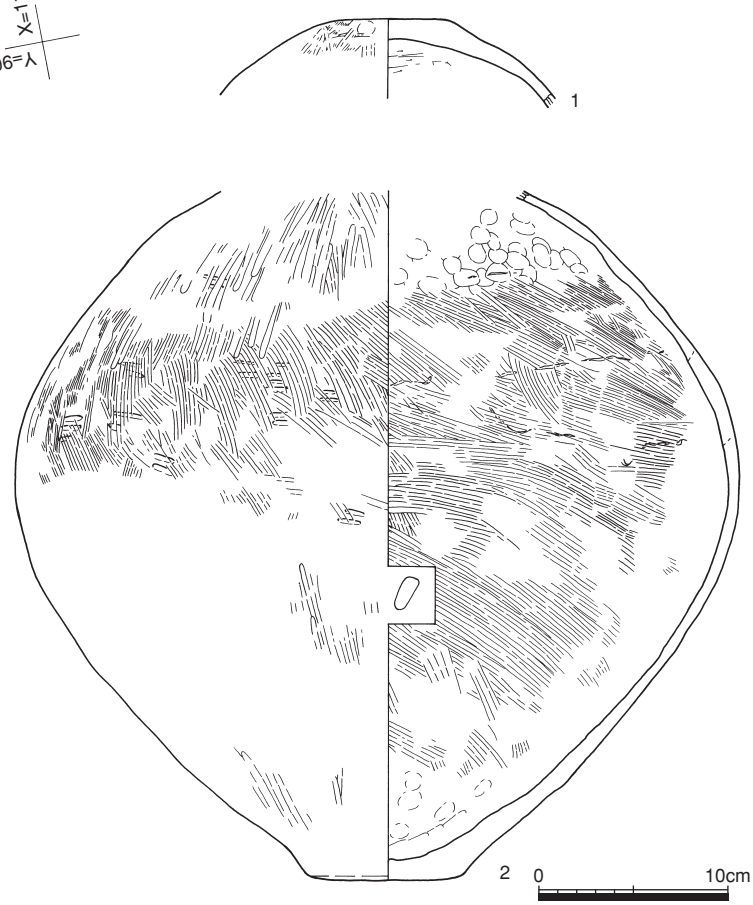
第474図　ST5007出土遺物図



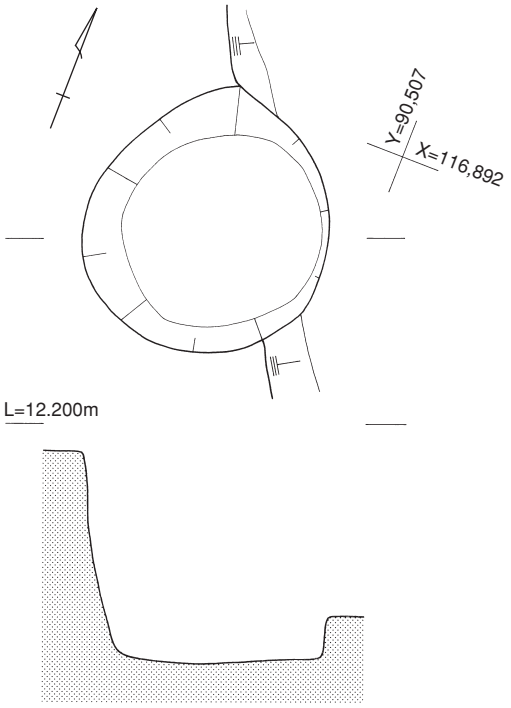
第475図　ST5008墓壙平・断面図



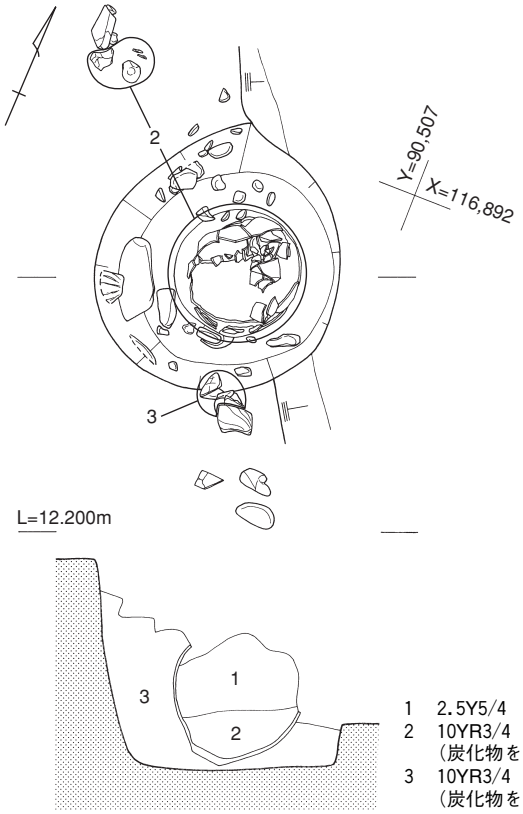
第476図　ST5008土器棺検出状況図



第477図　ST5008出土遺物図

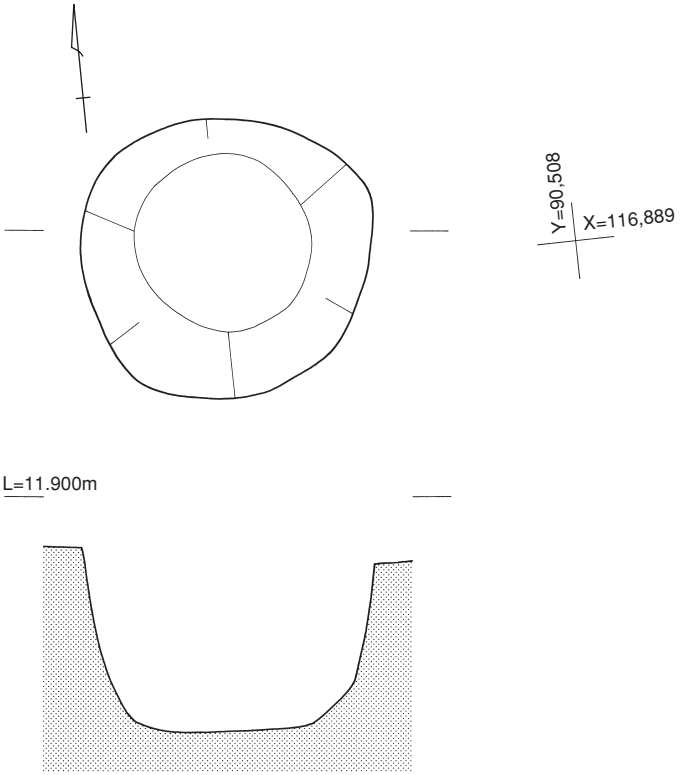


第478図　ST5009墓壙平・断面図

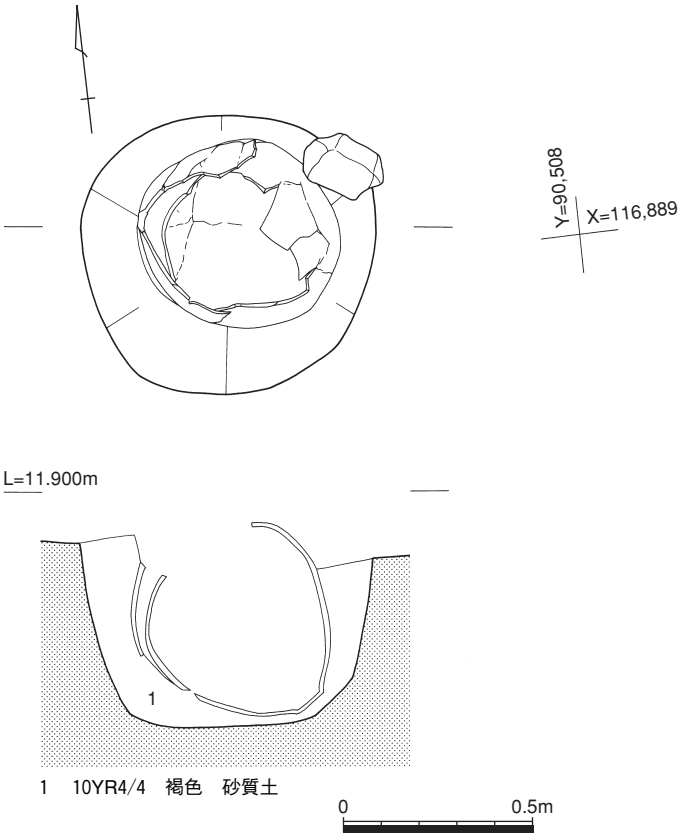


第479図　ST5009土器棺検出状況図

第480図　ST5009出土遺物図



第481図　ST5010墓壙平・断面図



第482図　ST5010土器棺検出状況図

墓壙東側肩部に結晶片岩割石が１個置かれている。

土層　埋土は１層で褐色砂質土である。

出土遺物　棺蓋に該当する１は弥生土器壺である。体部下半のみを転用している。棺身に該当する２は弥生土器壺である。頸部から上方を打ち欠いている。胴上半部には外からの敲打による穿孔が、胴部最大径部には外側からの敲打による穿孔が、胴下半部には内側からの敲打に穿孔が施されている。３は弥生土器鉢である。

時期　弥生時代後期である。

11号土器棺墓（ST5011）（第484～486図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Q－6グリッド

規模と形状　長径0.77m、短径0.70m、深度0.23mを測る土器棺墓である。墓壙平面形態は不整円形を、断面形態は緩い船底形を呈する。土器棺の上半部が欠損した状態で検出されており、本来の墓壙は削平を受けている。

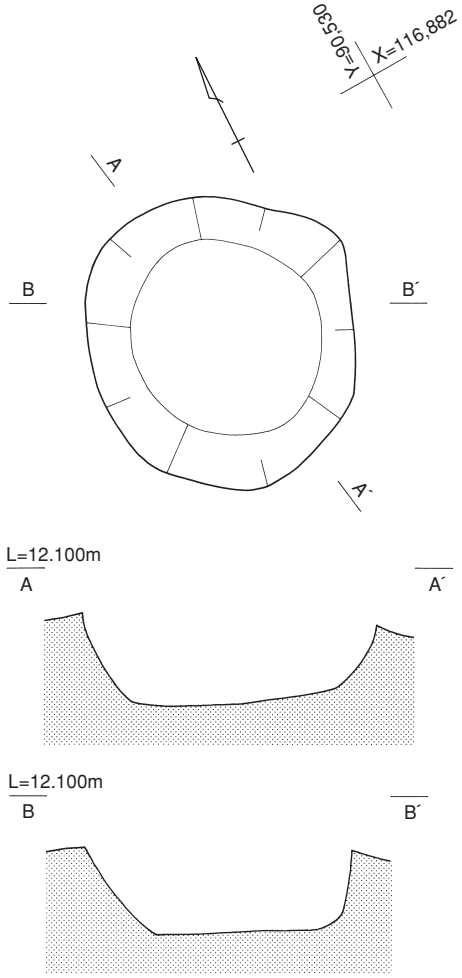
土器棺は壺から構成されている、棺蓋は削平により不明である。棺身は口縁部を北に向けて、胴部がほぼ水平になる状態で埋設されている。

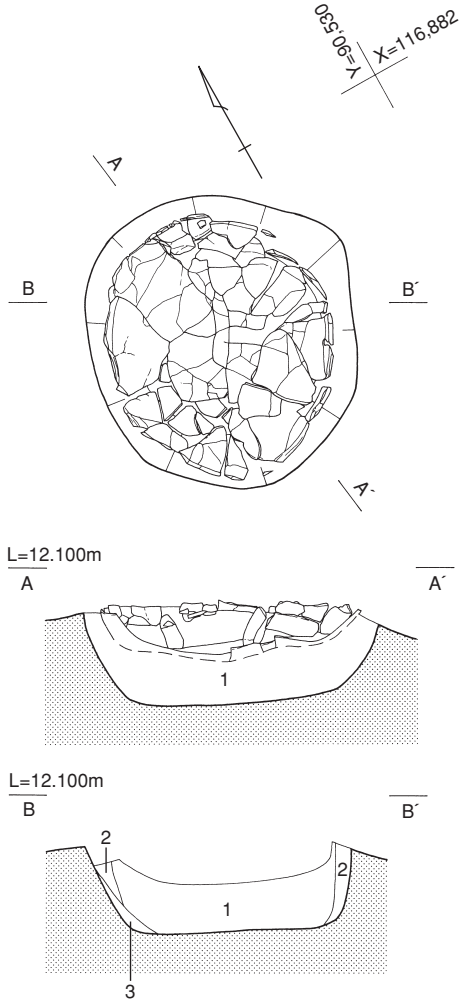
土層　土器棺埋土は１～３層で、褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、黄褐色砂質土である。

出土遺物　棺身に該当する弥生土器１は壺である。肩部から口縁部に欠けては打ち欠いている。

時期　弥生時代後期である。

第483図　ST5010出土遺物図



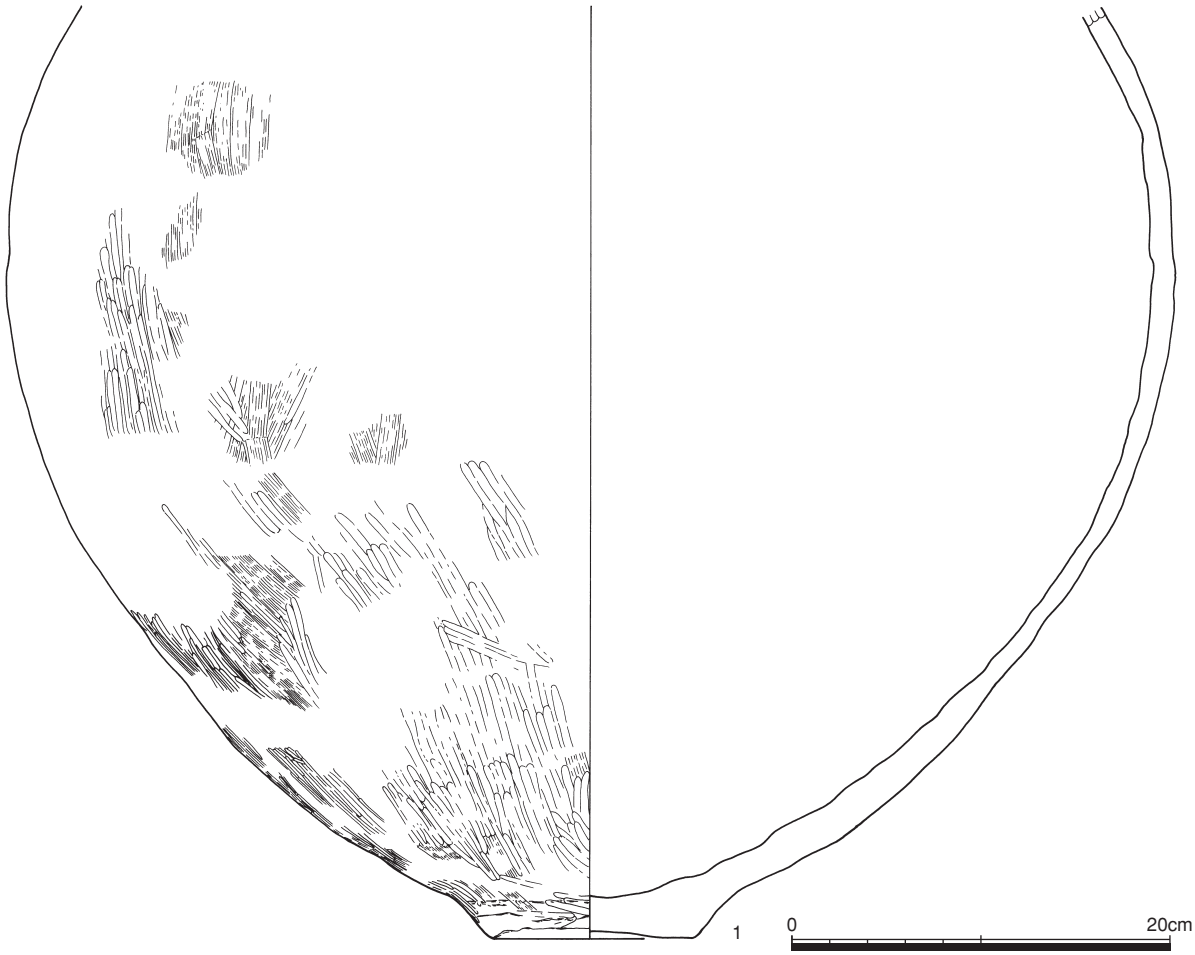


1　10YR4/4　褐色　　砂質土
2　10YR6/3　にぶい黄橙色　シルト
3　10YR5/6　黄褐色　　砂質土

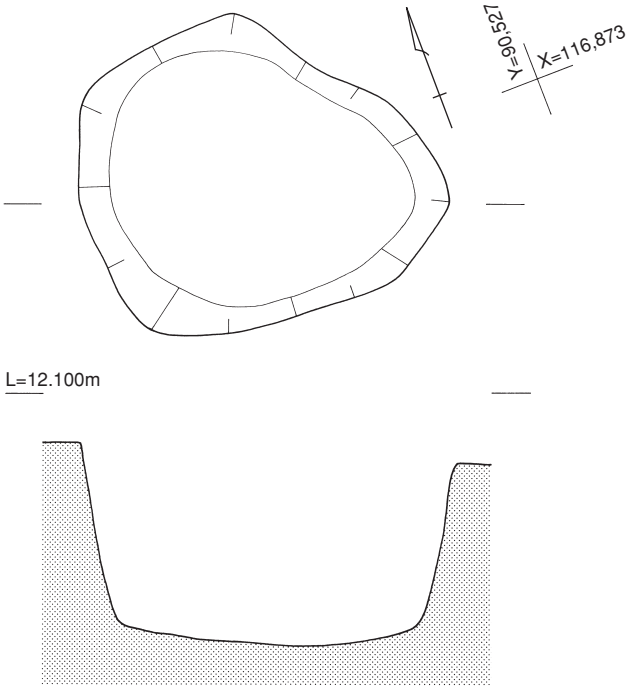
0　1m

第484図　ST5011墓壙平・断面図

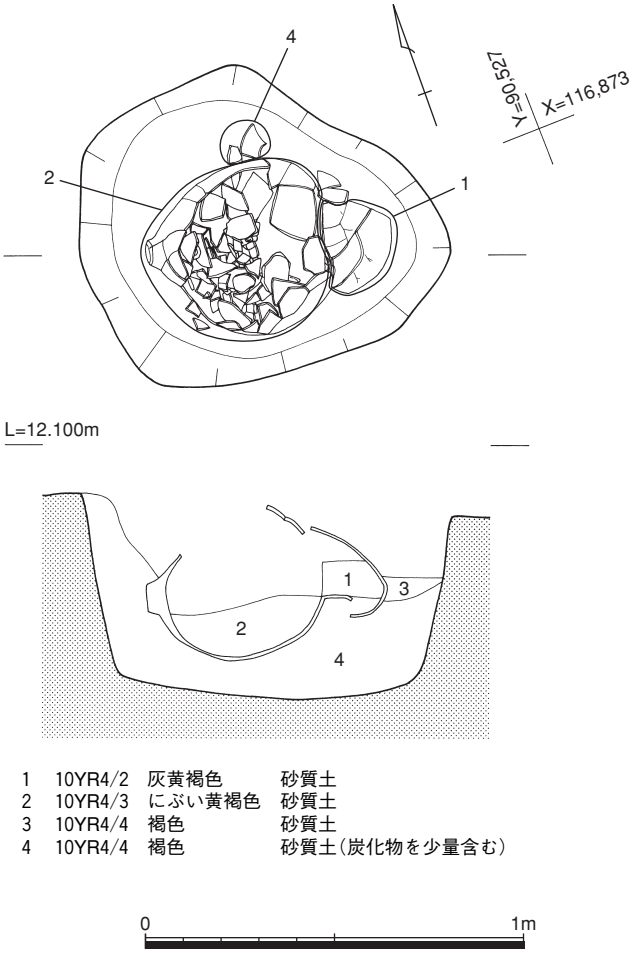
第485図　ST5011土器棺検出状況図



第486図　ST5011出土遺物図



第487図　ST5012墓壙平・断面図



第488図　ST5012土器棺検出状況図

12号土器棺墓（ST5012）（第487～489図）

位置　96－1・2区。Loc. B３　δⅠ　O－6グリッド

規模と形状　長径0.99m、短径0.84m、深度0.51mを測る土器棺墓である。墓壙平面形態は不整楕円形を、断面形態は垂直に近い逆台形を呈する。

土器棺は壺で構成されている。棺身は壺を転用しており、口縁部を南東に向けて、頸部と底部が水平になる具合まで傾けた状態で埋設されている。棺蓋は壺を転用しており、胴最大径から反対側頸部を打ち欠くことにより蓋としている。

土層　土器棺床埋土は４層（褐色砂質土）である。土器棺内には１・２層（灰黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土）が流れ込んでいる。

出土遺物　棺蓋に該当する１は弥生土器壺、棺身に該当する２は弥生土器壺である。広口壺の口辺部を打ち欠いている。弥生土器３は鉢で、棺蓋として転用している。４は弥生土器高杯である。

時期　弥生時代後期である。

13号土器棺墓（ST5013）（第490～492図）

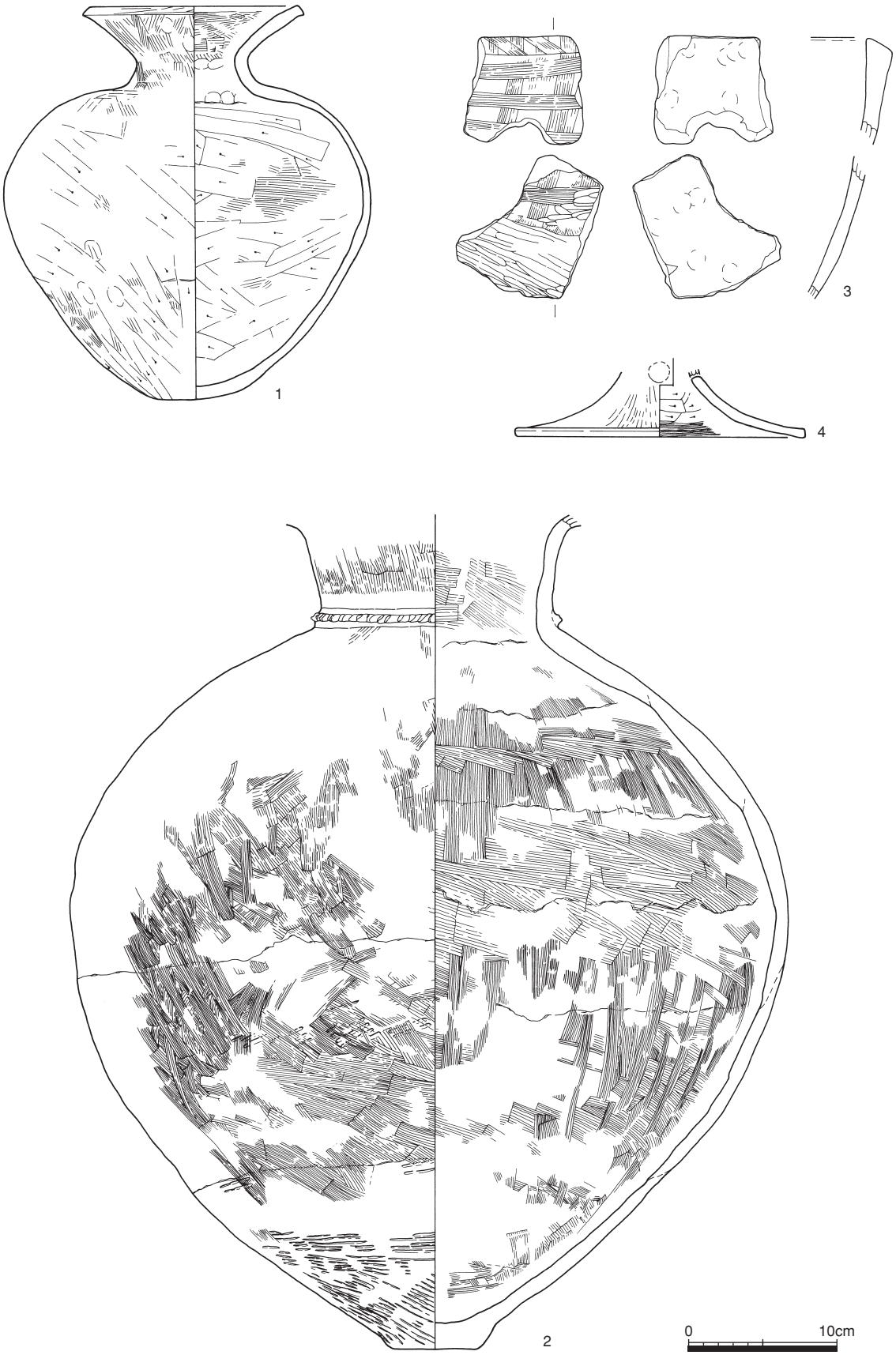
位置　96－1・2区。Loc. B３　δⅠ　O－6グリッド

規模と形状　長径0.52m、短径0.48m、最大深度0.23mを測る土器棺墓である。墓壙平面形態は楕円形を、断面形態は垂直に近い逆台形を呈する。

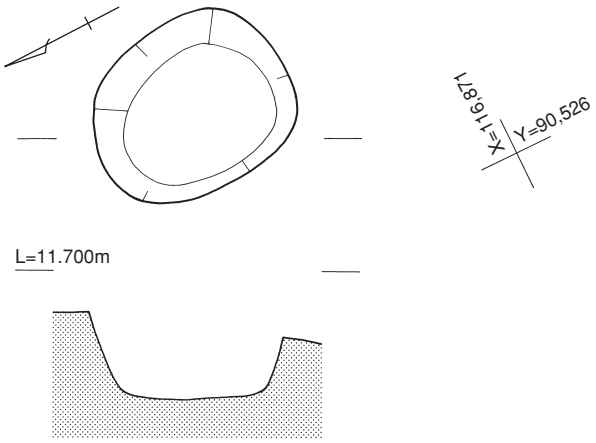
土器棺は壺で構成されている。棺身のみで棺蓋は伴わない。棺身は口縁部を北東に向けて、胴下半部がほぼ水平になるぐらい傾けて埋設されている。

土層　埋土は１層で褐色砂質土である。

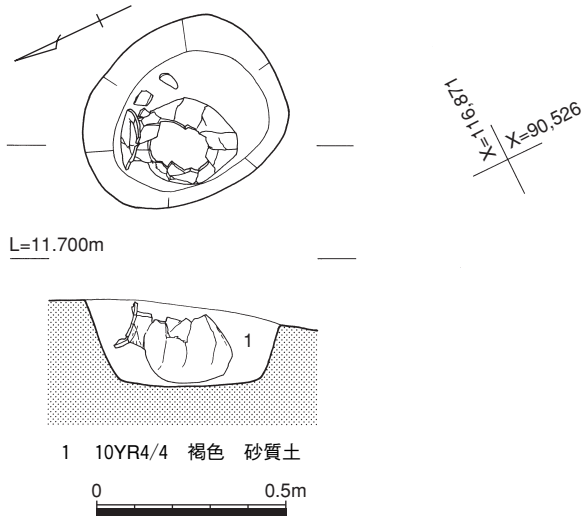
出土遺物　棺身に該当する弥生土器１は壺である。胴下半部に外側からの敲打による



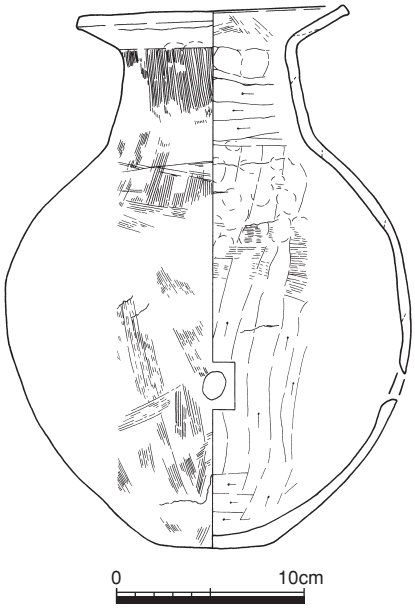
第489図　ST5012出土遺物図



第490図　ST5013墓壙平・断面図



第491図　ST5013土器棺検出状況図



第492図　ST5013出土遺物図

穿孔が施されている。下川津Ｂ類土器であり、高松平野からの搬入品である。

時期　弥生時代後期である。

14号土器棺墓（ST5014）（第493～495図）

位置　96－1・2区。Loc. Ｂ3　δⅠ　O－6グリッド

規模と形状　最大検出長0.91m、幅0.82m、最大深度0.14mを測る土器棺墓である。墓壙平面形態は不整円形を、断面形態は船底形を呈する。

土器棺は壺で構成されている。棺身のみで棺蓋は伴わない。棺身は壺を転用しており、口縁部を西方向に向けて、口縁部より底部をやや持ち上げた状態で埋設している。棺身の口縁部側には小型川原石が置かれている。

土層　埋土は１層で褐色砂質土である。

出土遺物　１は弥生土器壺である。壺２と同一個体の可能性が高い。棺身に該当する弥生土器２は壺である。胴部最大径に外側からの敲打による穿孔が施されている。また、肩部にも外側から穿孔を施そうとして未完の痕跡が確認される。

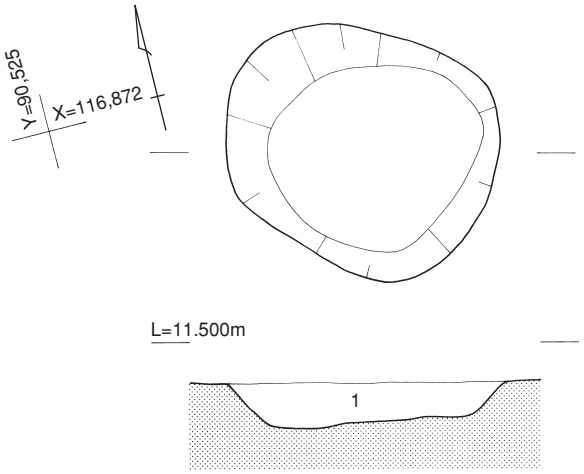
時期　弥生時代後期である。

15号土壙墓（ST5015）（第496・497図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ3　δⅠ　S－2・3グリッド

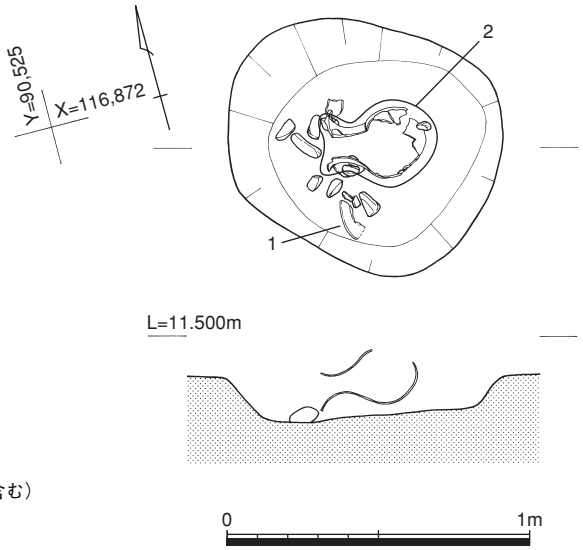
規模と形状　長軸1.95m、短軸1.14m、深度0.37mを測る土壙墓である。墓壙平面形態は隅丸長方形を、超軸方向断面形態は船底形を、短軸方向断面形態は船底形を呈する。主軸は、N－87°－W を測り、東西方向を指向する。土器棺は伴わず、木棺痕跡等も未確認である。平面形態や規模から墓壙として報告する。

墓壙上端から約20～30㎝程度内側に石組みが伴う。石組み直下が墓壙下端に位置する。

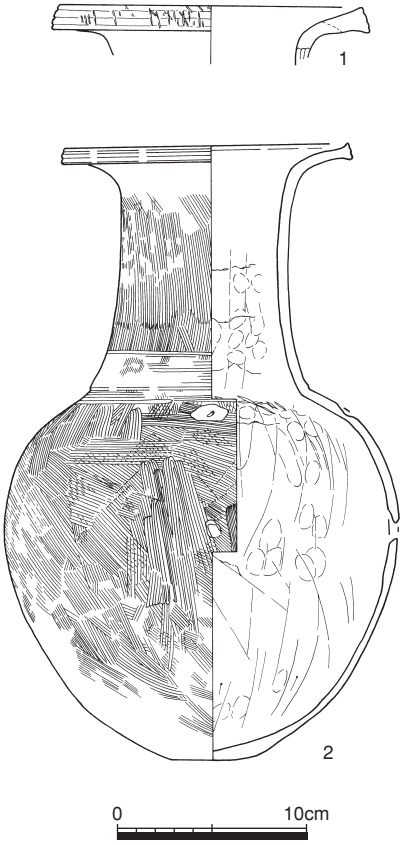


1　10YR4/4　褐色　砂質土（10YR6/1　褐灰色　砂質土をブロック状に含む）

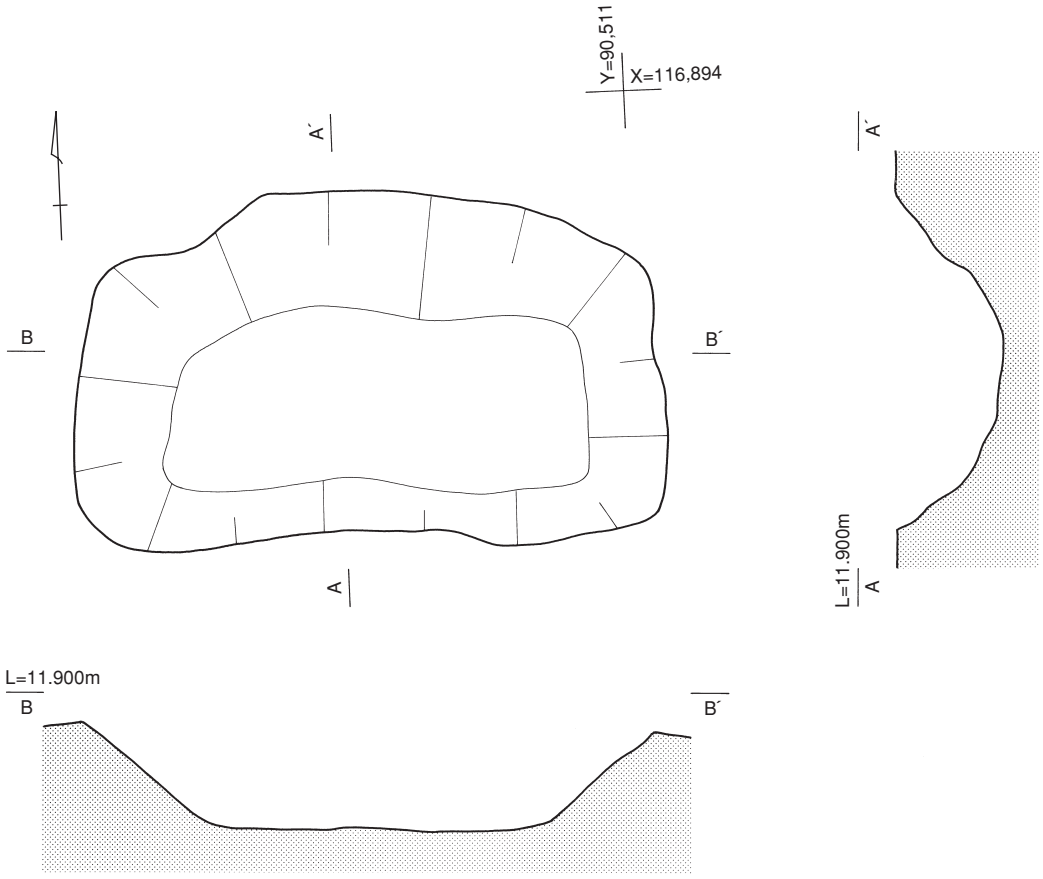
第493図　ST5014墓壙平・断面図



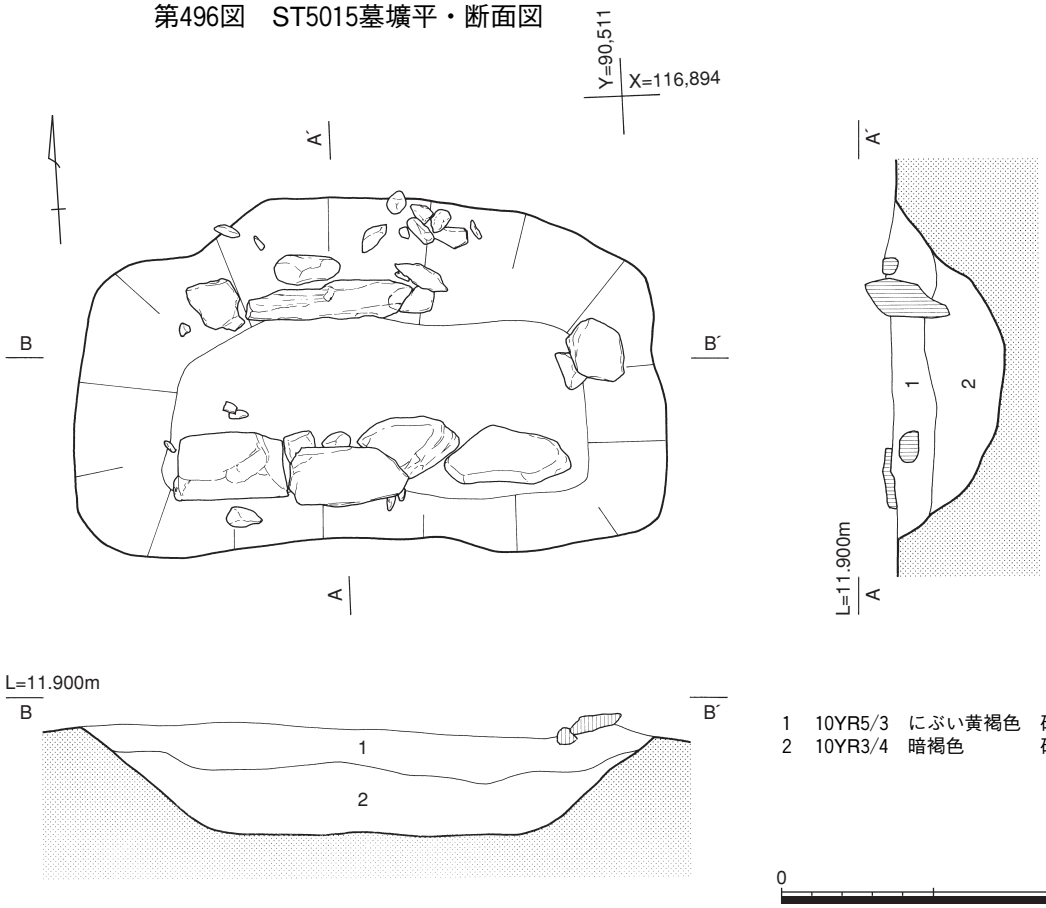
第494図　ST5014土器棺検出状況図



第495図　ST5014出土遺物図



第496図　ST5015墓壙平・断面図



1　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質土
2　10YR3/4　暗褐色　砂質土

第497図　ST5015石組み検出状況図

北側の石組みは、結晶片岩割石を２層の中程より立てている。一方、南側石組みは、30㎝程度の結晶片岩割石を４個並べている。一部積み重なるが、壁面状の石積みは伴わない。この石組みの内側に木棺が埋設されたと推定される。木棺規模は長さ1.25m、幅0.38mと推定され、小型の木棺となる。これらの石組みは石槨状の石積みではなく、木棺の支えとして置かれたものと推定される。

土層　床埋土は２層（暗褐色砂質土）である。石組み裏込埋土は、１層でにぶい黄褐色砂質土である。

出土遺物　墓壙内から図化可能遺物は出土していない。

時期　遺構面の対応関係からみて弥生時代後期と推定される。

集石遺構

１号集石（SU5001）（第498図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　R・S－3・4グリッド

規模と形状　長軸0.71m、短軸0.43mを測る集石遺構である。集石下部に土坑は伴わなず、集石単独遺構である。10～25㎝程度の川原石を利用している。最下部の集石範囲は0.6×0.3mの範囲であり、徐々に小型の石を追加することにより、最終的には0.7×0.4m規模の集石を形成している。集石内からは土器は出土していない。

機能は不明である。

時期　遺構面の対応関係からみて弥生時代と推定される。

２号集石墓（SU5002）（第499～502図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－3・4グリッド

規模と形状　長径1.57m、短径0.91m、深度0.27mを測る土坑の上面に集石が伴う遺構である。土器棺は伴わず、木棺痕跡等も未確認であるが、集石の状況や集石下の土坑から集石墓として報告する。主軸は、N－83°－Eを測り、東西方向を指向する。

土坑平面形態は不整形な隅丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。土坑中位～上面にかけて川原石が検出される。下層では約10～25㎝大の川原石を多く充填している。

土層　埋土は１層で、黄褐色砂質土である。

出土遺物　S１～４は敲石で、１は砂岩製、S２は御荷鉾石製、S３は斑糲岩製、S４は結晶片岩製である。

時期　弥生時代後期である。

３号集石（SU5003）（第503～505図）

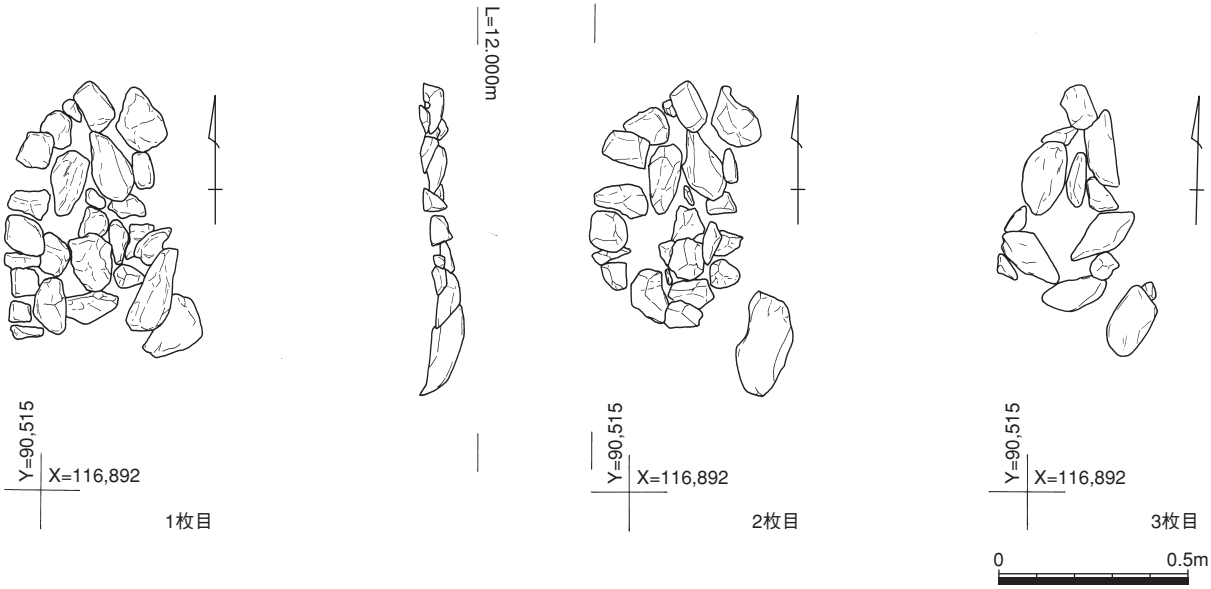
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　S－5グリッド

規模と形状　長径1.73m、短径1.49m、深度0.14mを測る土坑である。遺構の形状は、平面が不整円形であり、断面が浅い逆台形である。

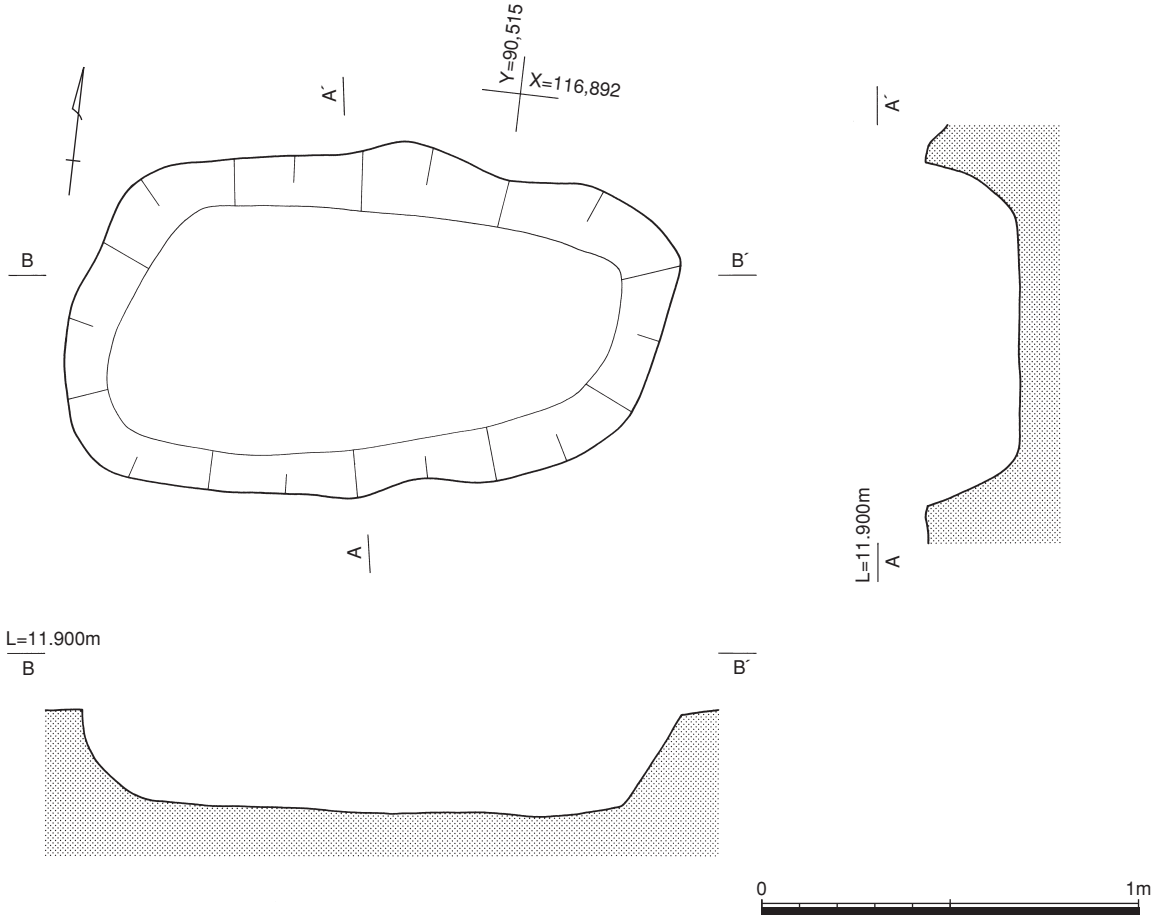
土坑内には10～20㎝大の結晶片岩川原石が、1.2×0.7mの範囲に渡って集められている。石積み等の構築物は認められない。集石の間から土器片が出土している。

土層　遺構覆土は５層に分層でき、１・５層は暗褐色砂質土、２・４層は褐色砂質土、３層はにぶい黄褐色砂質土である。

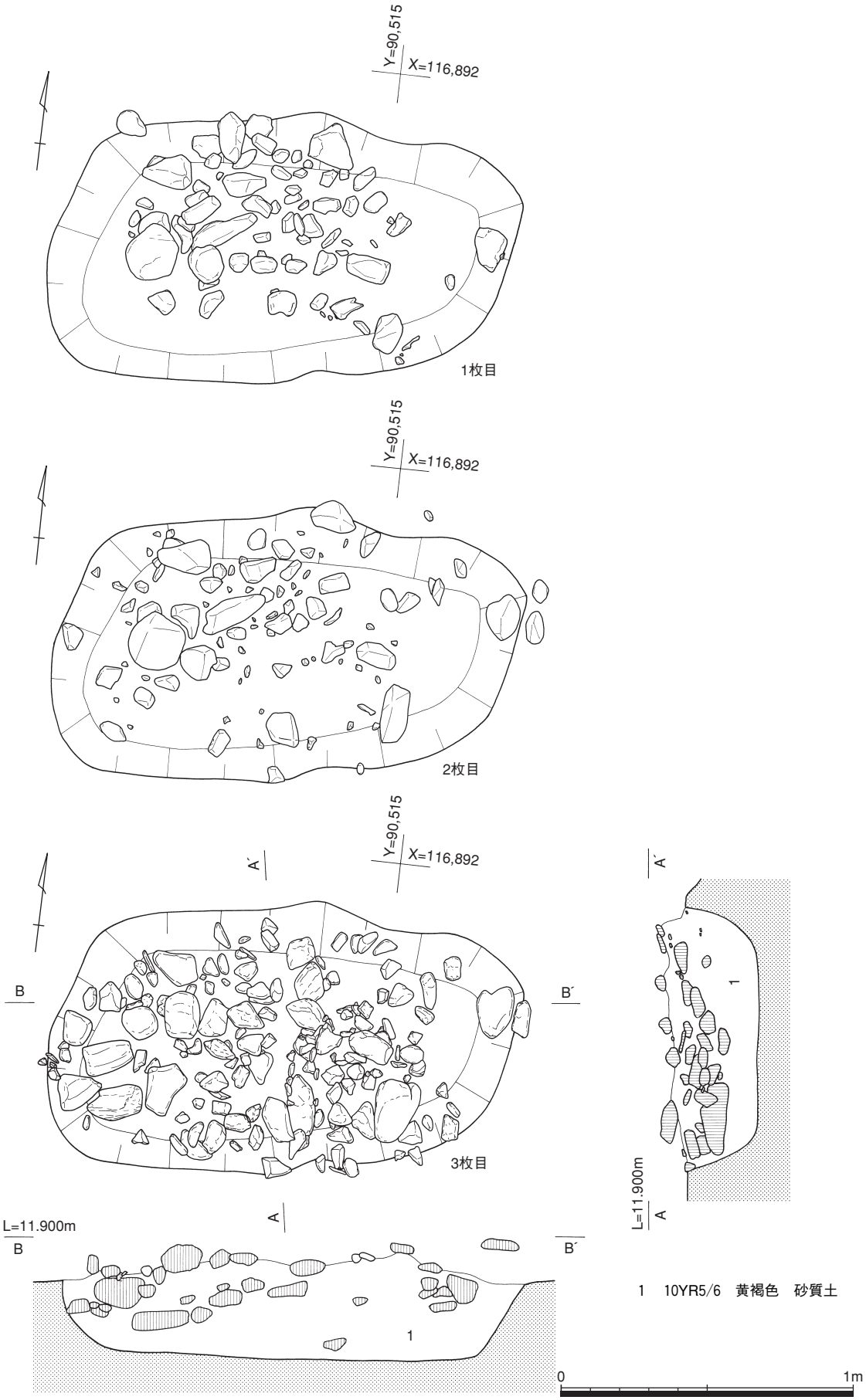
出土遺物　１～３は弥生土器で、１は壺、２は把手付水差し形土器、３は甕である。S１は砂質片岩製



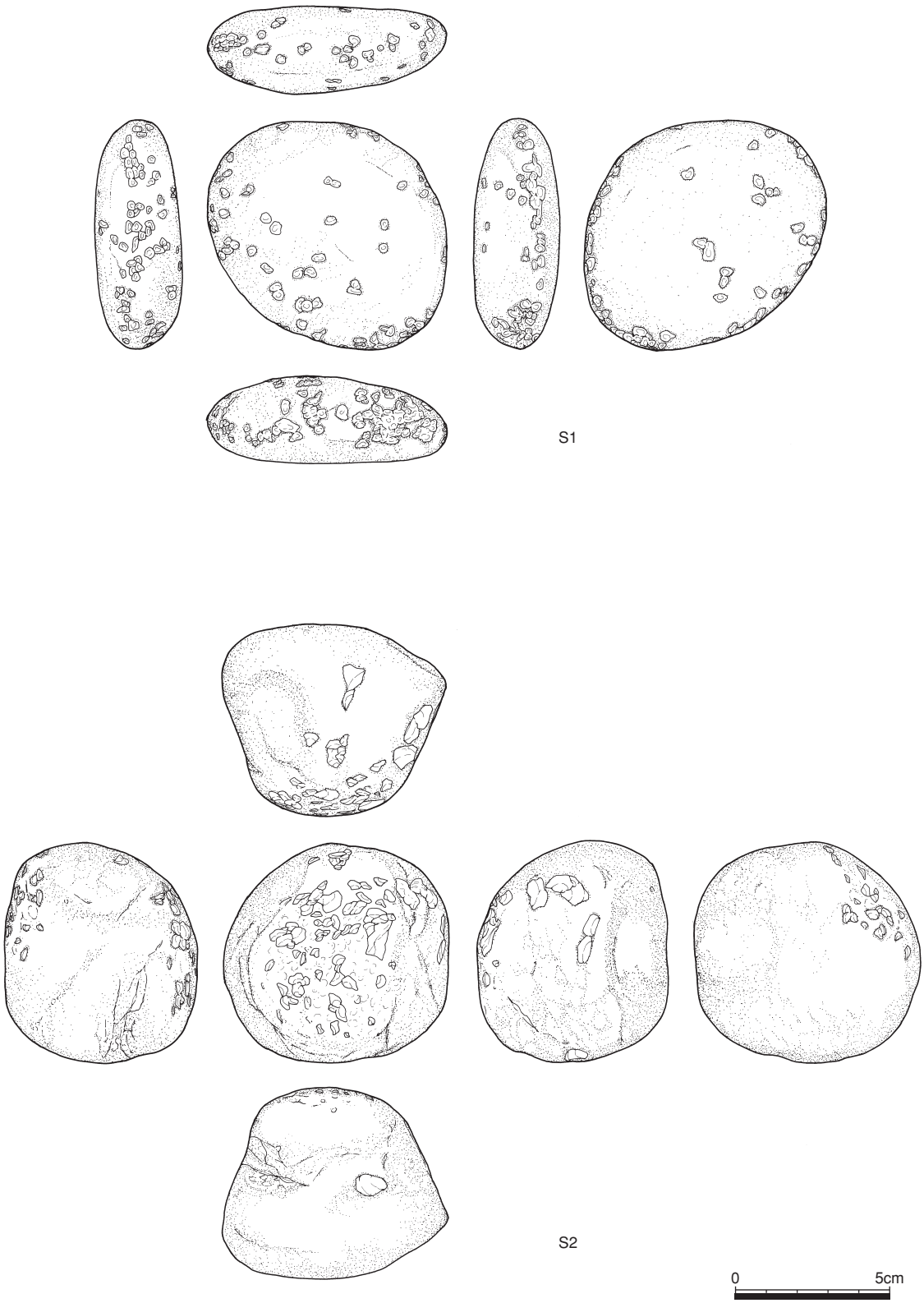
第498図　SU5001集石平・立面図



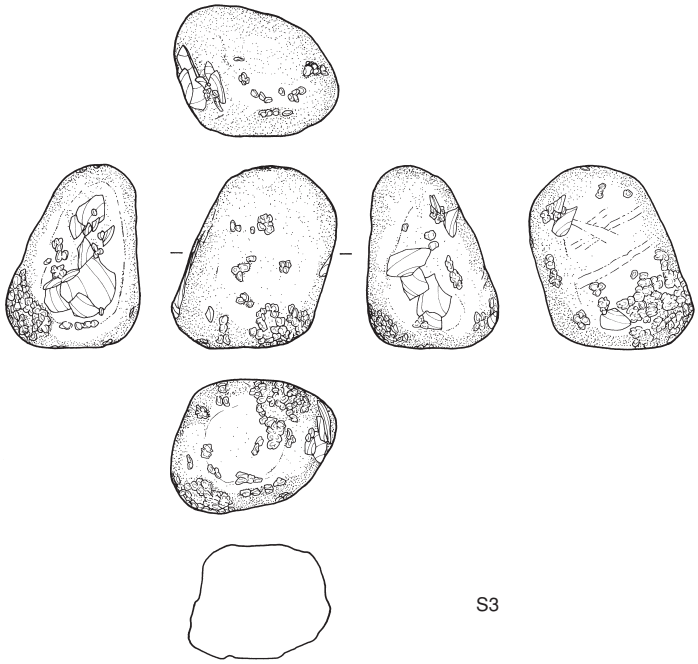
第499図　SU5002遺構平・断面図

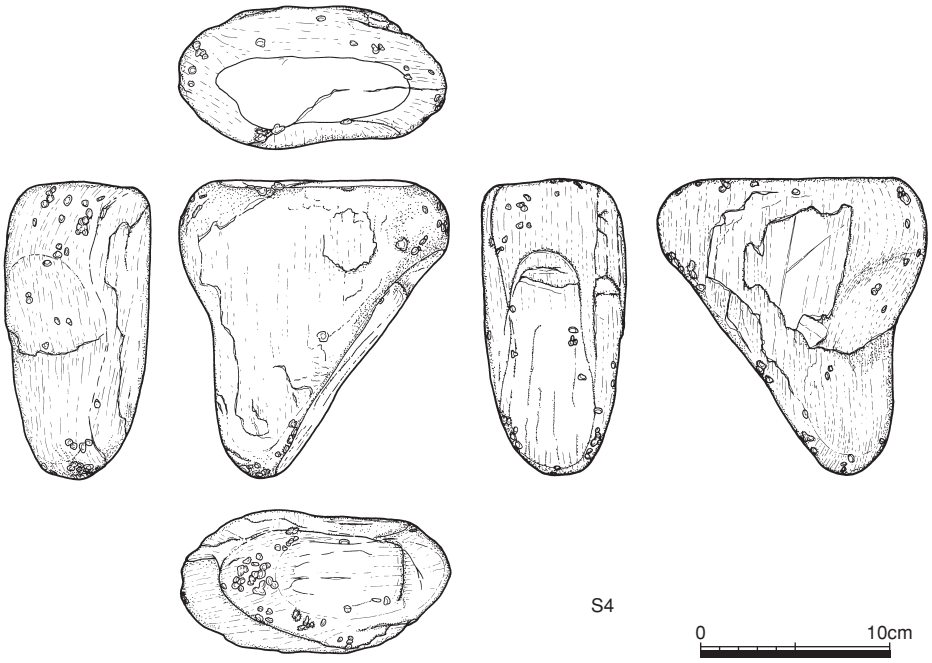


第500図　SU5002集石平・立面図

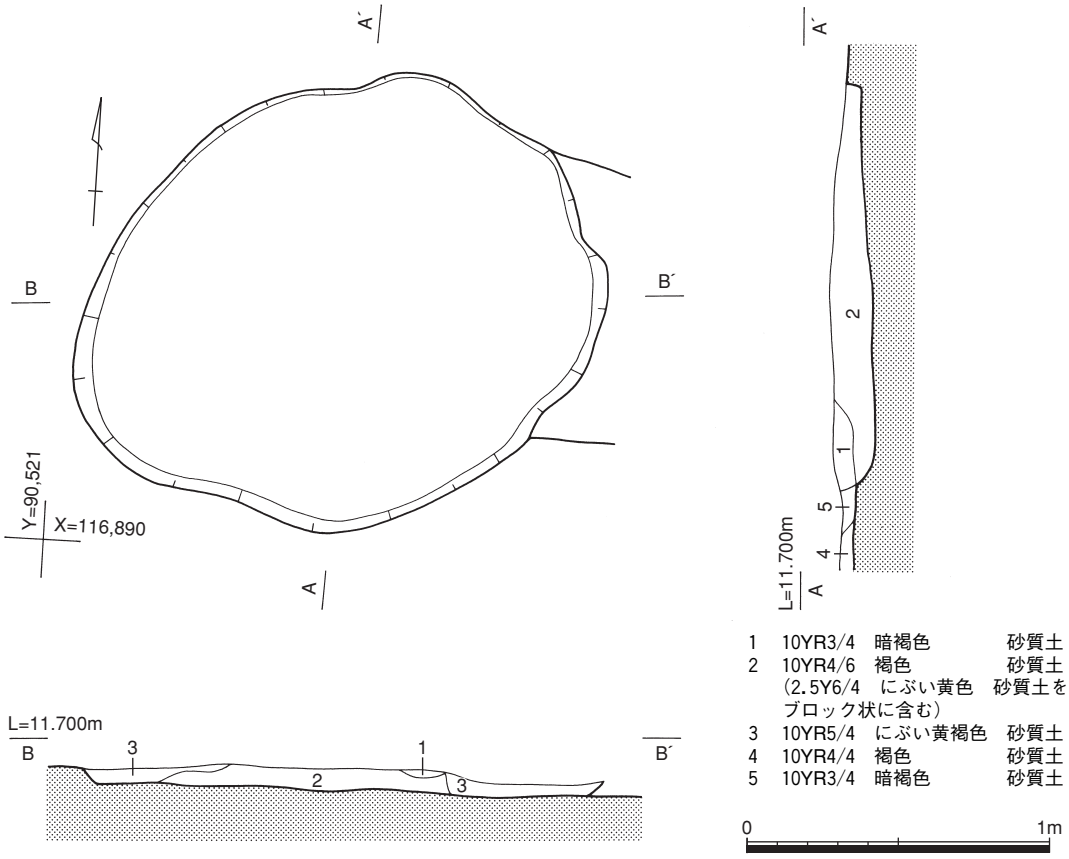


第501図　SU5002出土遺物図(1)

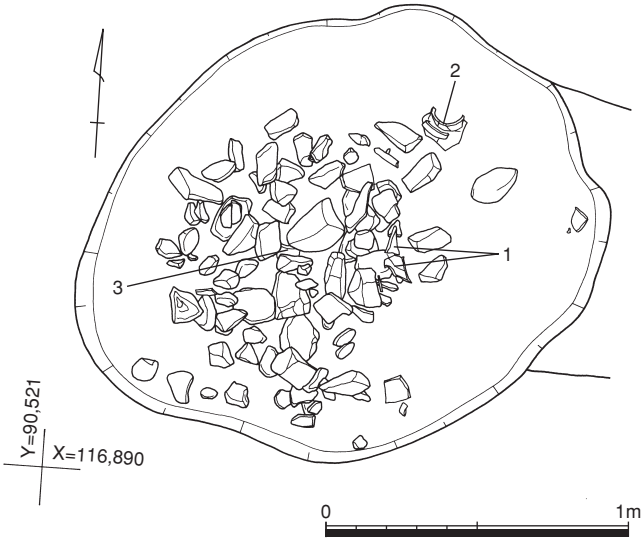


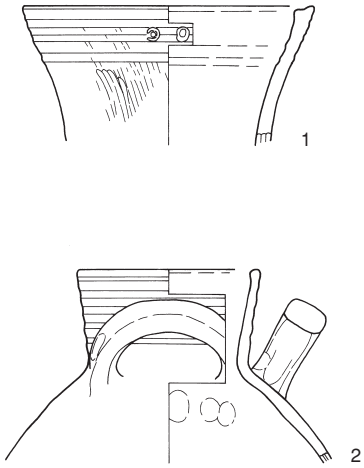


第502図　SU5002出土遺物図(2)

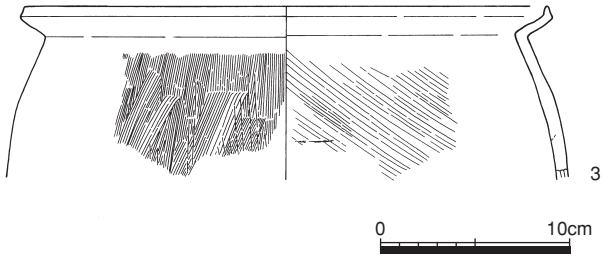


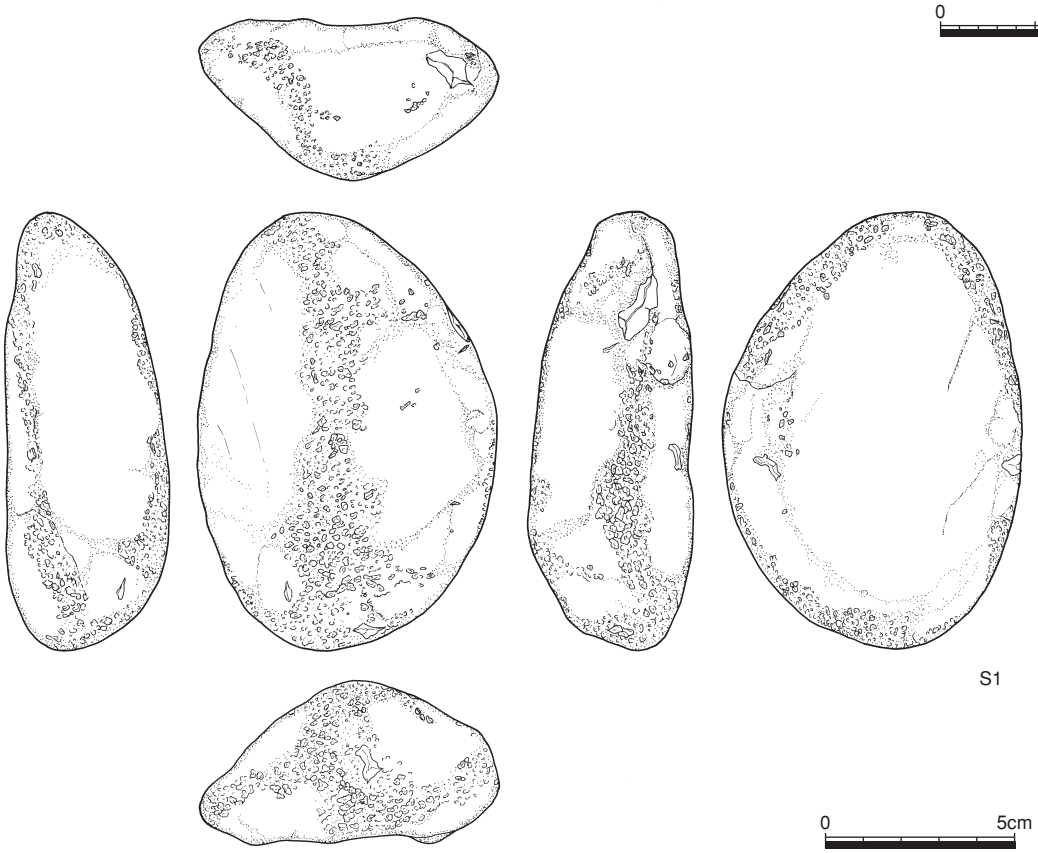
第503図　SU5003遺構平・断面図





第504図　SU5003集石平面図





第505図　SU5003出土遺物図

敲石である。

時期　弥生時代中期である。

４号集石（SU5004）（第506～507図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｒ－4・5・6グリッド

規模と形状　長軸3.09m、短軸2.02m、深度0.32mを測る集石遺構である。平面形態は不整楕円形を呈し、断面形態は逆台形を呈する土坑に集石が行われている。

集石は２層中より行われており、20㎝大の結晶片岩川原石や割石が土坑内に充填されている。集石に規則性は認められない。集石に交じって土器片が出土している。

土層　遺構覆土は６層に分層され、１・４・５層はにぶい黄褐色、２・３層は褐色砂質土、６層は暗褐色砂質土である。

出土遺物　１～９は弥生土器で、１は壺で、頸部に粘土帯を貼り付けており、土佐系のものか。２・５は直口壺、３・６は広口壺、４は壺である。７は甕、８は高杯、９は鉢である。

時期　弥生時代後期である。

５号集石（SU5005）（第509～511図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｑ・Ｒ－7グリッド

規模と形状　長径1.49m、短径1.22m、深度0.17mを測る土坑である。平面形態は不整形で、断面形態は逆台形を呈する。

北側付近に数個の集石と壺が伴った状態で検出された。壺１は正位の状態で、底部周辺に20㎝小の川原石が敷かれていた。一方、壺２は破砕された状態で30㎝大の川原石と共に検出された。

土層　遺構覆土は３層に分層でき、１・２層は褐色砂質土、３層は暗褐色砂質土である。

出土遺物　１・２は弥生土器広口壺である。

時期　弥生時代後期である。

性格不明遺構

１号性格不明遺構（SX5001）（第512・513図）

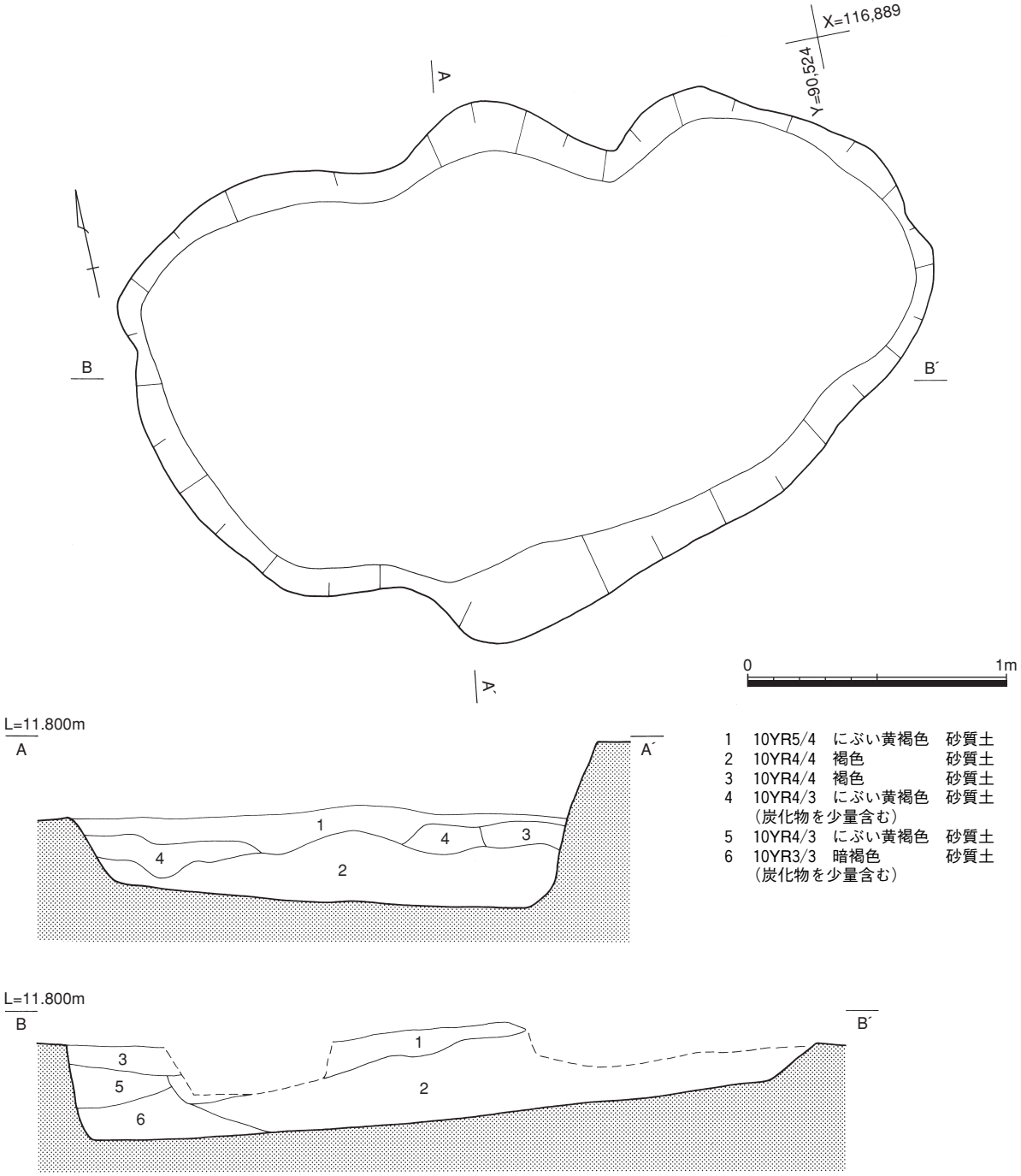
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　εⅠ　Ａ－1グリッド

規模と形状　長径2.86m、短径2.64m、深度0.24mを測る性格不明遺構である。土層の断面より複数の遺構が重なっている可能性があるが、明確に分けられないため、１つの遺構として報告する。平面形態は、Ｌ字状を呈するが、幅が一定ではなく不定形である。断面は逆台形である。

土層　遺構覆土は８層に分層でき、１・２・４・６層は褐色シルト質土、３層は黄褐色シルト質土、５層はにぶい黄褐色シルト質土、７層は黄褐色シルト質土、８層は黄褐色砂質土である。

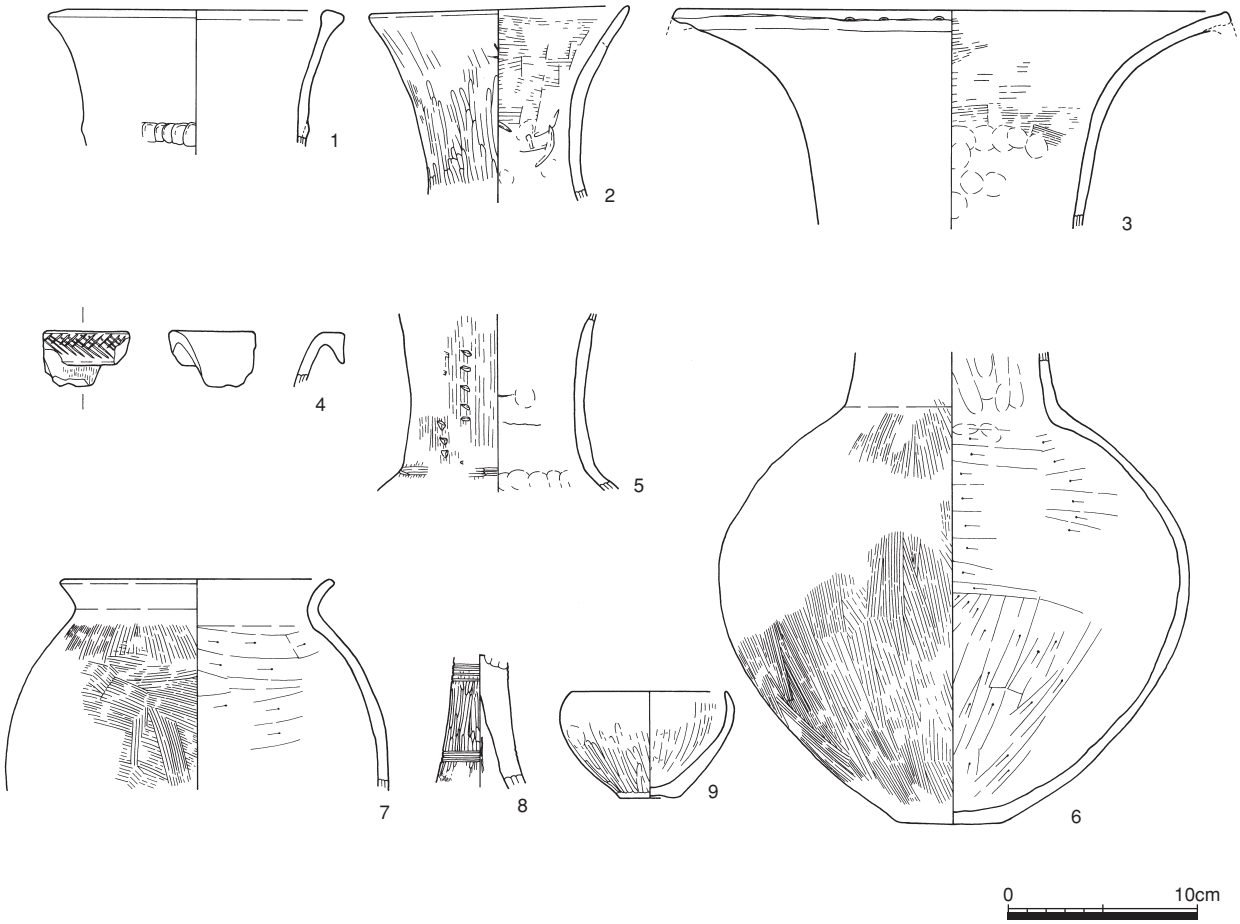
出土遺物　１・２は弥生土器、１が広口壺、２は壺である。Ｓ１はサヌカイト製楔形石器である。

時期　弥生時代中期である。

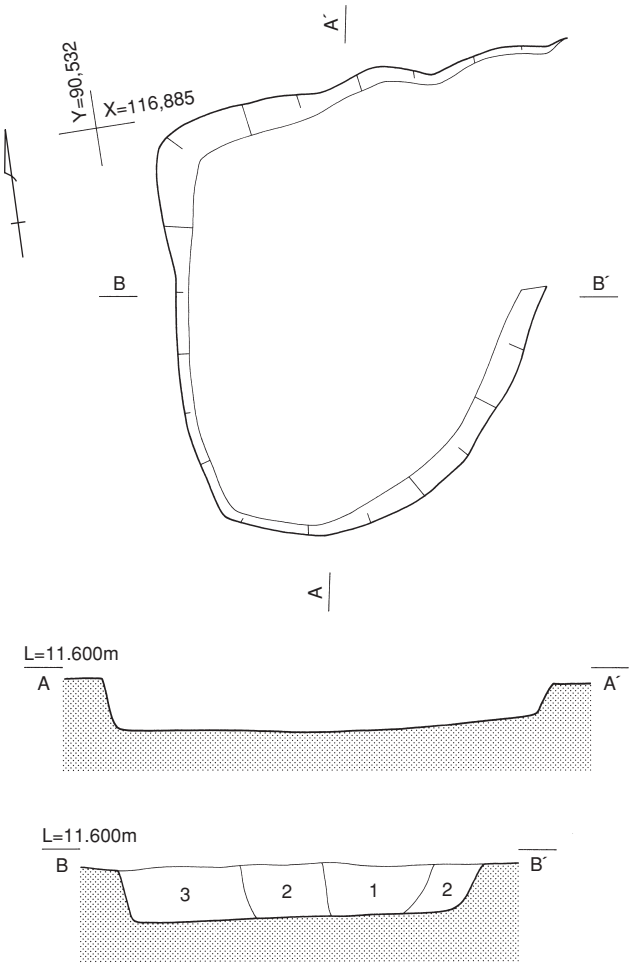


第506図　SU5004遺構平・断面図

第507図　SU5004集石平面図

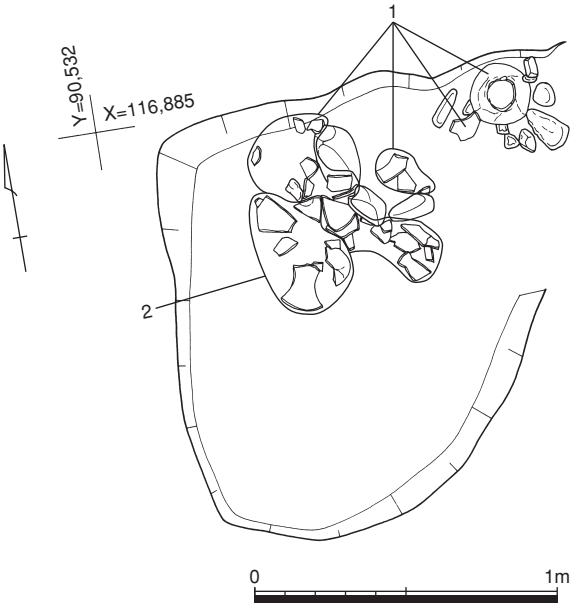


第508図　SU5004出土遺物図

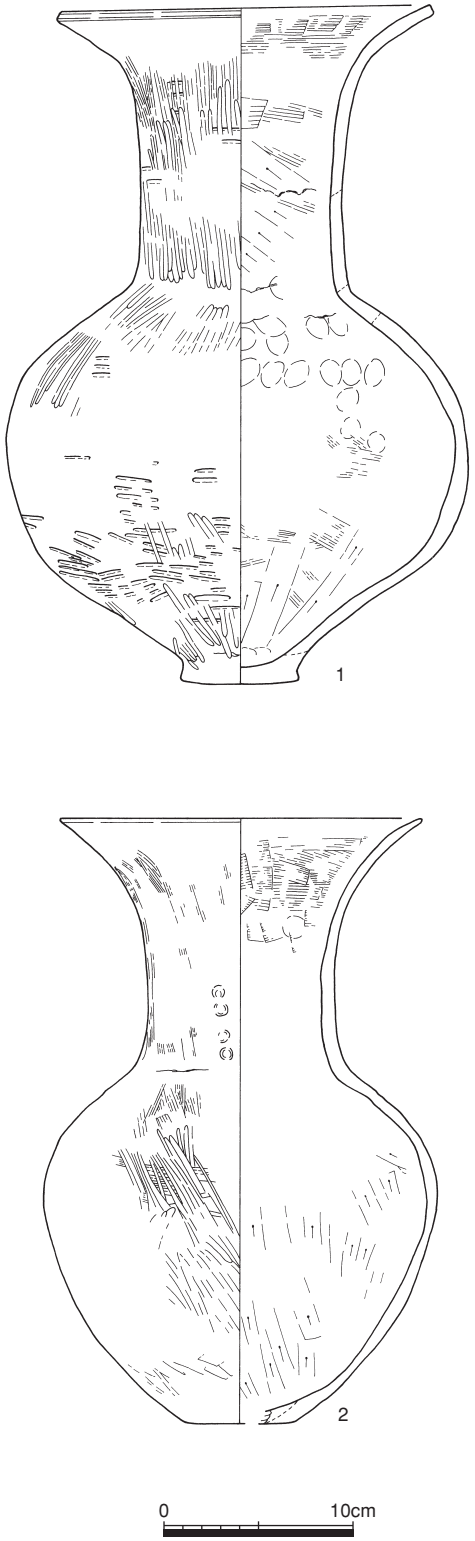


1　10YR4/4　褐色　　砂質土
2　10YR4/4　褐色　　砂質土
3　10YR3/4　暗褐色　砂質土
（5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）

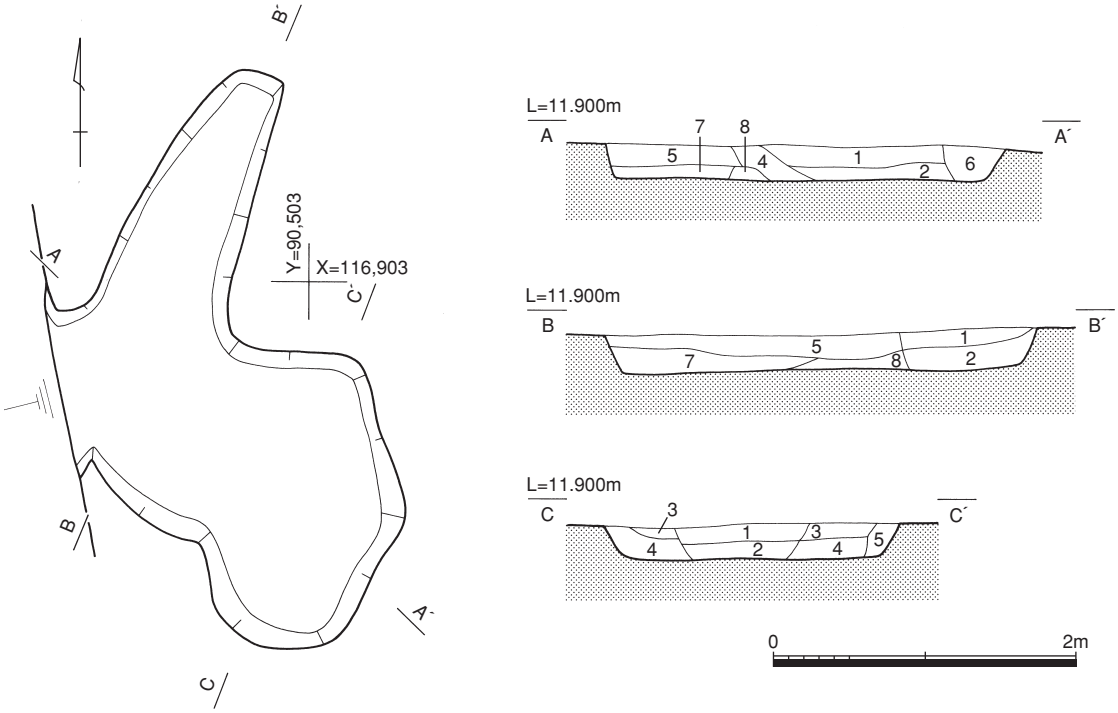
第509図　SU5005遺構平・断面図



第510図　SU5005集石平面図

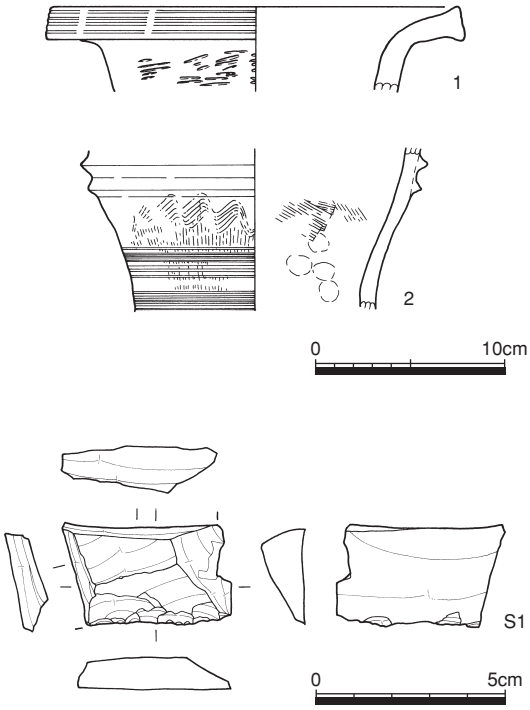


第511図　SU5005出土遺物図



1	10YR4/4	褐色	シルト(炭化物を少量含む)	5	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト
2	10YR4/6	褐色	シルト	6	10YR4/4	褐色	シルト(炭化物を少量含む)
3	10YR5/6	黄褐色	シルト	7	2.5Y5/6	黄褐色	シルト(炭化物を少量含む)
4	10YR4/4	褐色	シルト	8	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土

第512図　SX5001遺構平・断面図



第513図　SX5001出土遺物図

２号性格不明遺構（SX5002）（第514～517図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ・εⅠ　Ｔ・Ａ－5・6グリッド

規模と形状　長径4.3m、短径3.80m、深度0.08mを測る性格不明遺構である。遺構の北東部分が側溝によって切られているが、遺構の形状は、平面が不整形である。断面は浅い逆台形である。EP１～EP５の規模は直径0.25～0.5m、深度0.1～0.3mを測る。形状は、平面が不整円形、断面は浅い逆台形を呈する。EK１とEK２の規模は、直径0.5～0.65m、深度0.15mを測る。

土層　遺構覆土は12層に分層でき、１・２・６・９・10・11・12層は褐色砂質土、３層は暗オリーブ色砂質土、４層は灰オリーブ色砂質土、５層はにぶい黄橙色砂質土、７層は黄褐色砂質土、８層はにぶい黄褐色砂質土である。

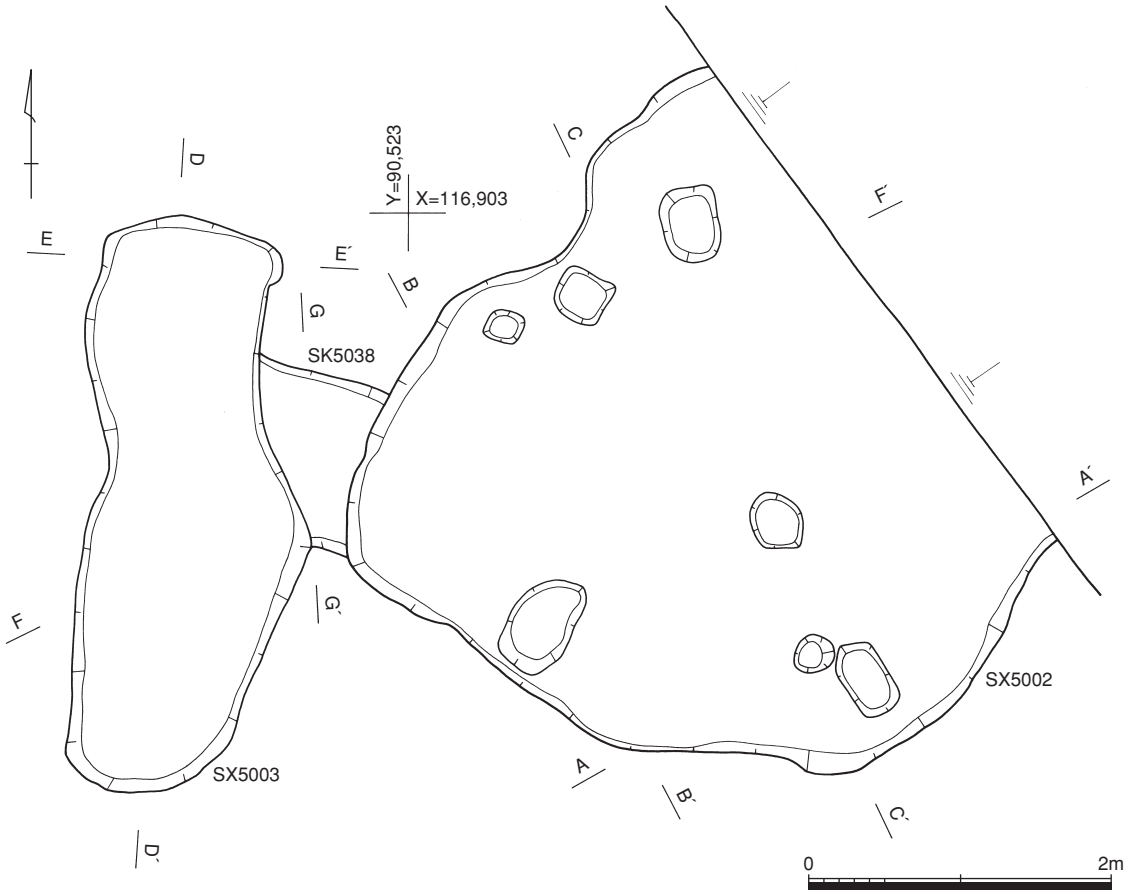
出土遺物　１～３は弥生土器で、１は高杯ないし鉢、２・３は甕ないし壺の底部である。４は甕または壺の体部を転用した紡錘車。S１～４はサヌカイト剥片である。

３号性格不明遺構（SX5003）（第514～516、518図）

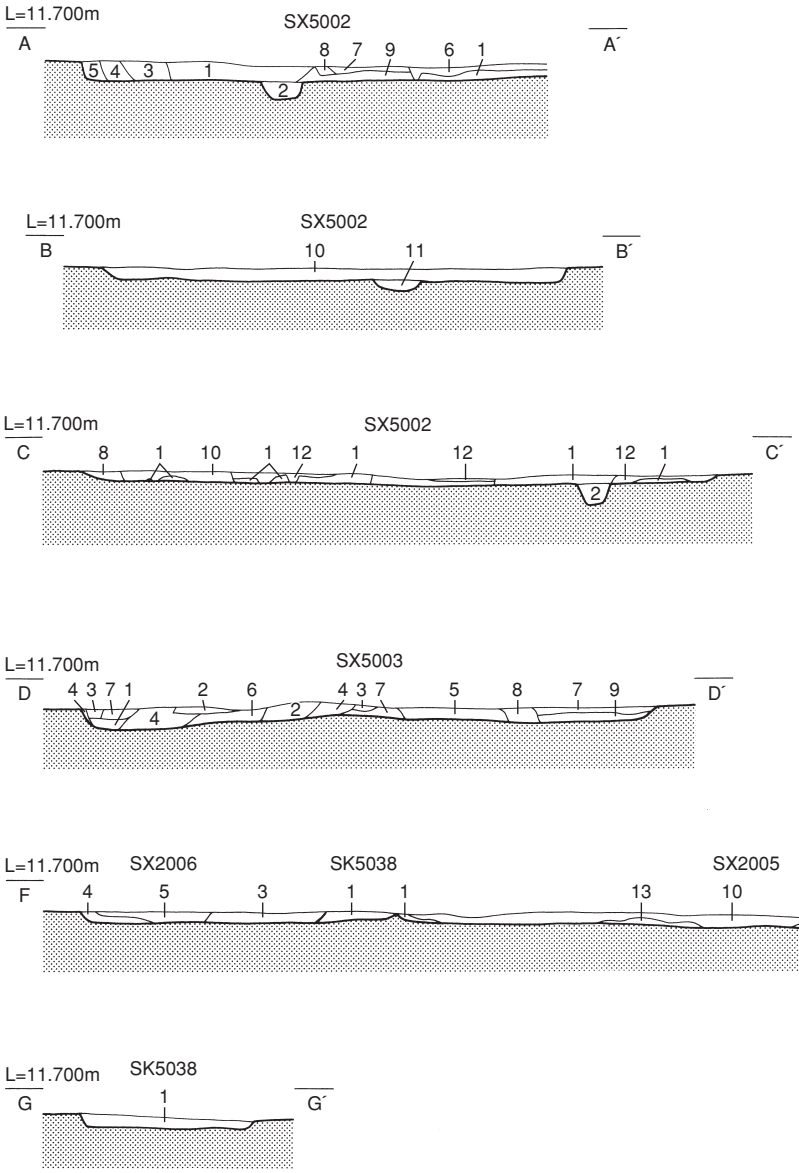
位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ・εⅠ　Ｔ・Ａ－5グリッド

規模と形状　長径3.82m、短径1.35m、深度0.08mを測る不明遺構である。遺構の形状は、南北に長い不整形を、断面は浅い逆台形を呈する。

土層　遺構覆土は９層に分層でき、１・２・４・６・９層は褐色砂質土、３・５・８層はにぶい黄褐色



第514図　SK5038、SX5002、SX5003遺構平面図



SX5002

1	10YR4/4	褐色	砂質土
2	10YR4/4	褐色	砂質土
3	5YR4/4	暗オリーブ色	砂質土
	（炭化物小片を少量含む）		
4	5YR5/3	灰オリーブ色	砂質土
5	10YR6/3	にぶい黄橙色	砂質土
	（炭化物小片を少量含む）		
6	10YR4/4	褐色	砂質土
	（炭化物小片を少量含む）		
7	2.5YR5/4	黄褐色	砂質土
	（炭化物を含む）		
8	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
	（炭化物を少量含む）		
9	10YR4/6	褐色	砂質土
10	10YR4/4	褐色	砂質土
	（炭化物小片を含む）		
11	10YR4/4	褐色	砂質土
	（炭化物小片を少量含む）		
12	10YR4/4	褐色	砂質土
	（炭化物小片を含む）		

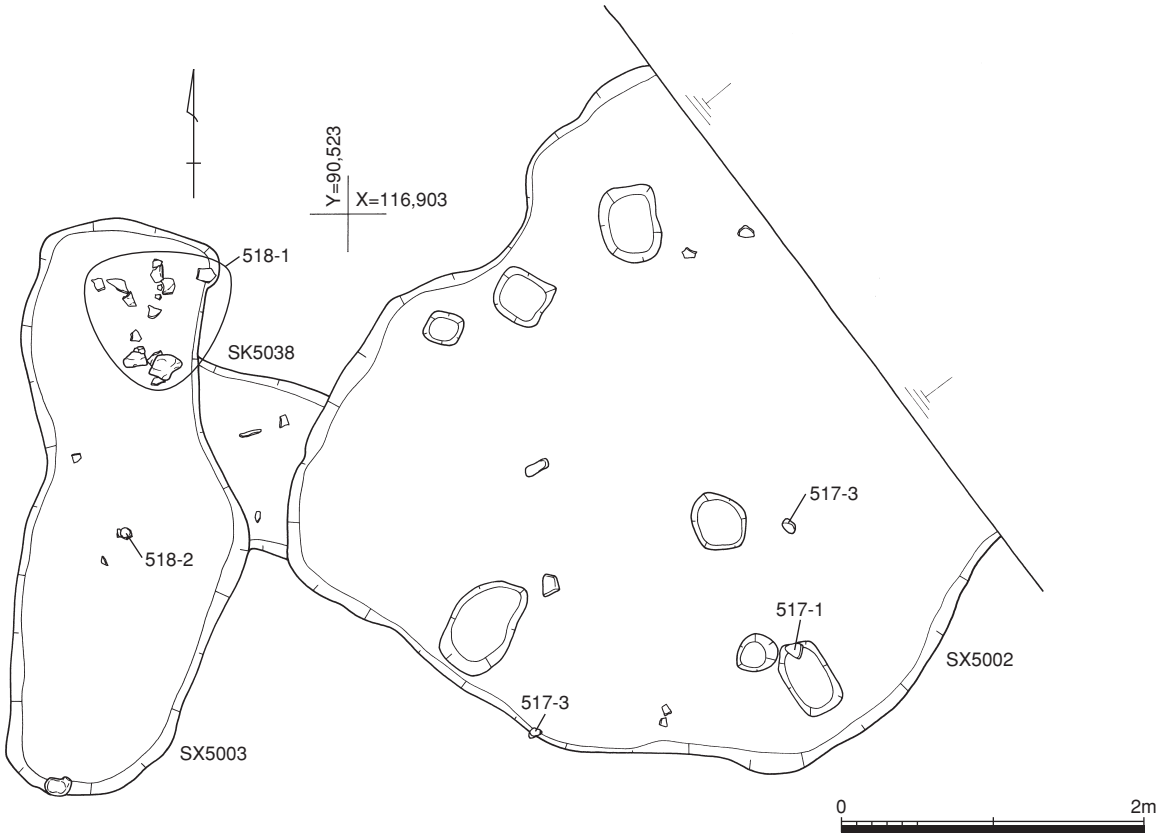
SX2006

1	10YR4/4	褐色	砂質土
2	10YR4/6	褐色	砂質土
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
4	10YR4/4	褐色	砂質土
5	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
6	10YR4/4	褐色	砂質土（5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）
7	10YR5/6	黄褐色	砂質土
8	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土
9	10YR4/4	褐色	砂質土

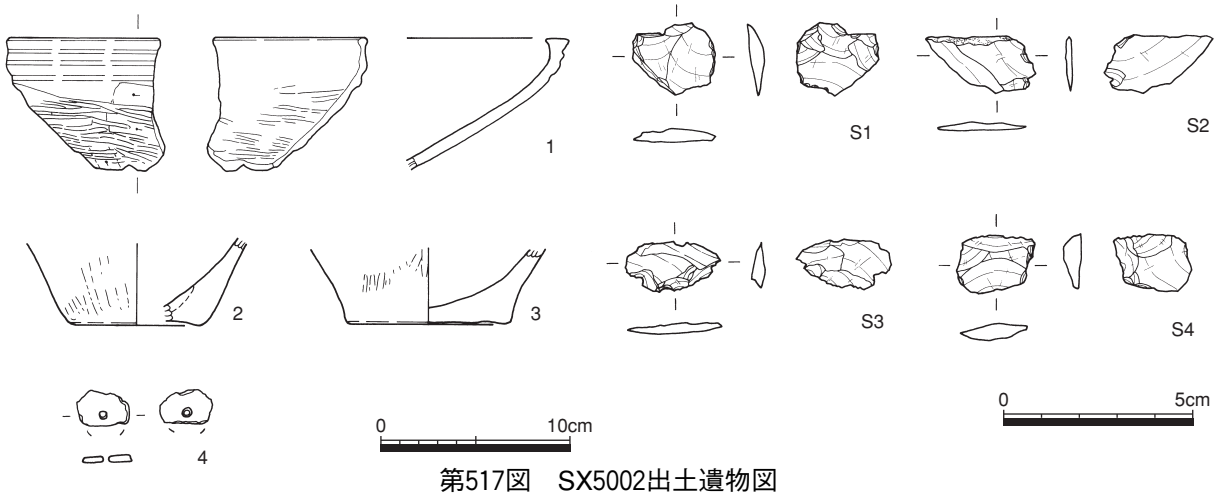
SX2007

1	10YR4/4	褐色	砂質土（5Y6/2　灰オリーブ色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む）

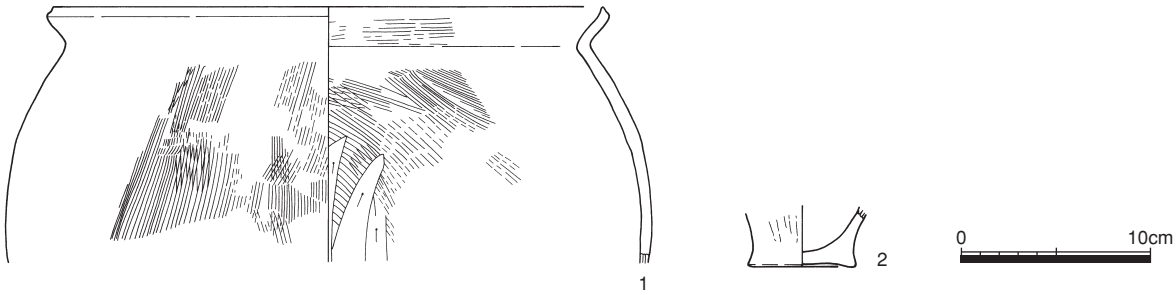
第515図　SK5038、SX5002、SX5003遺構断面図



第516図　SK5038、SX5002、SX5003遺物出土状況図



第517図　SX5002出土遺物図



第518図　SX5003出土遺物図

砂質土、７層は黄褐色砂質土である。

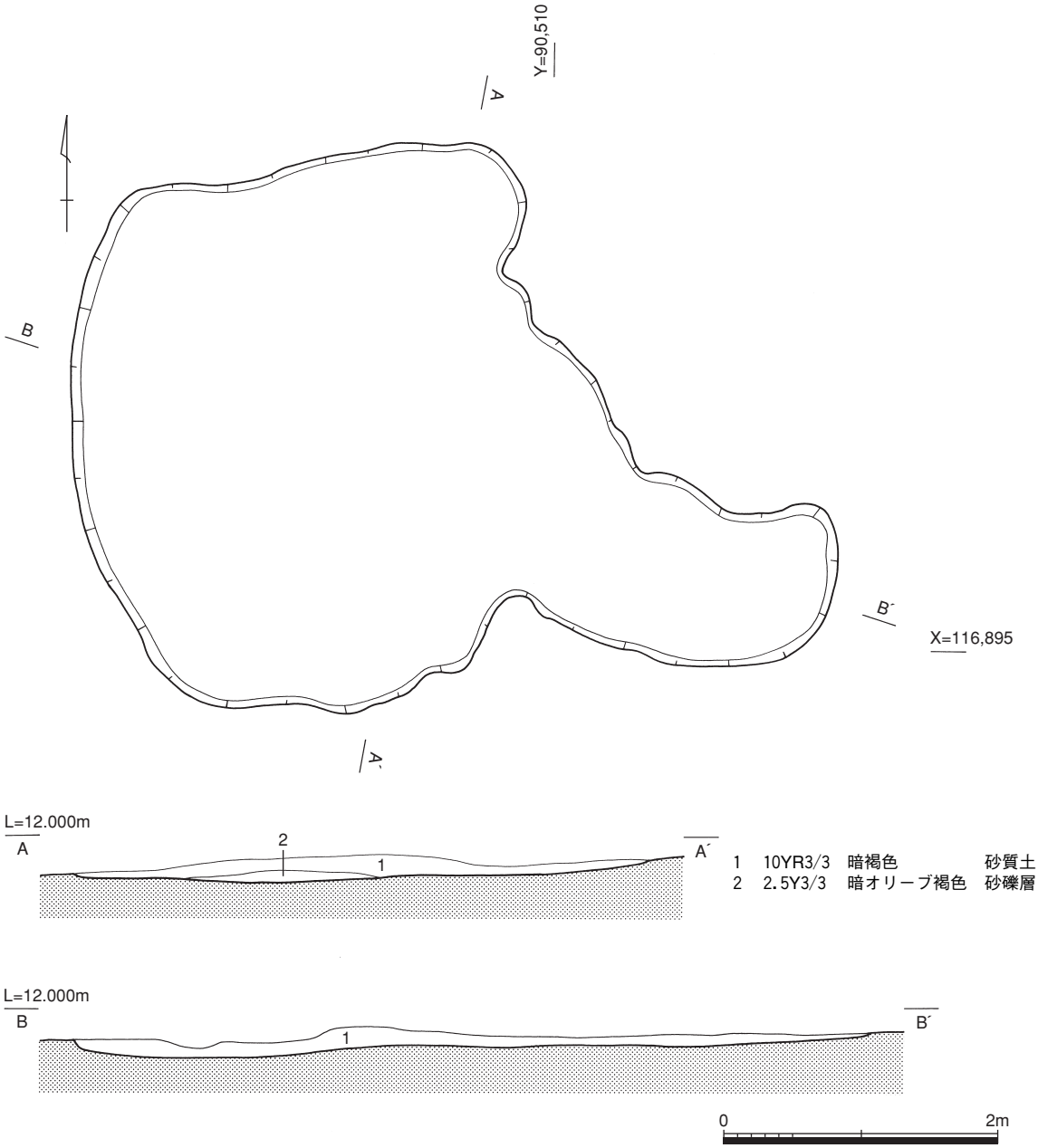
出土遺物　１・２は弥生土器で、１・２ともに甕である。１は大形の器形で、体部上半が球形に近いもの。

時期　弥生時代後期である。

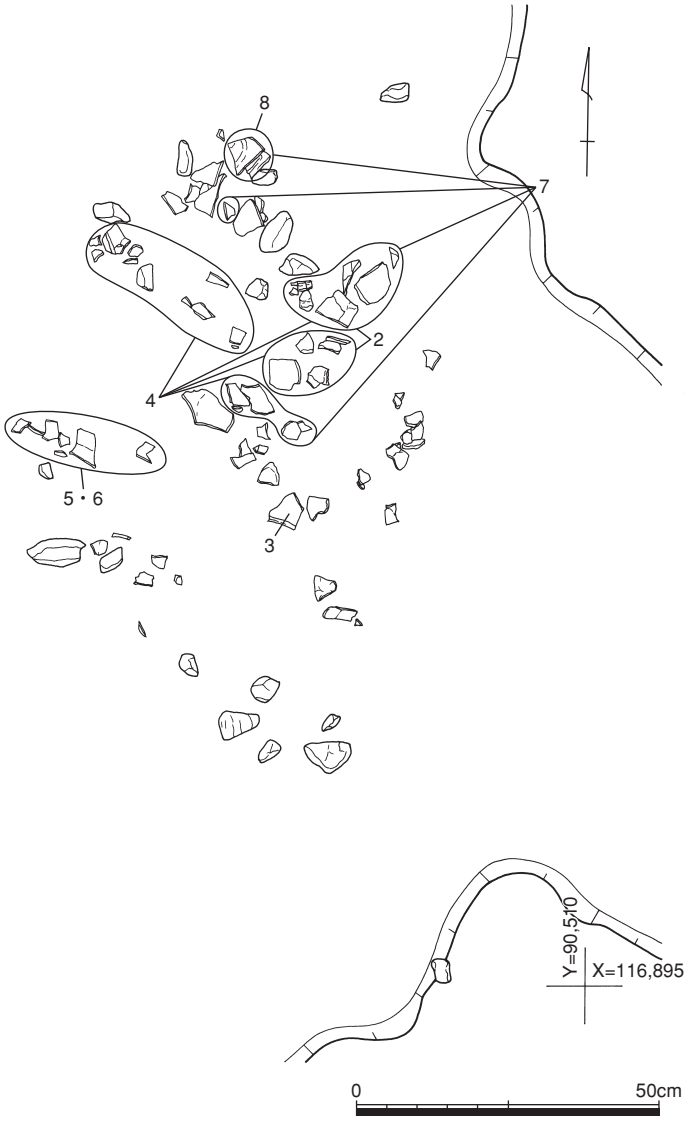
４号性格不明遺構（SX5004）（第519～521図）

位置　96－1・2区。Loc.Ｂ３　δⅠ　Ｓ・Ｔ－２・３グリッド

規模と形状　長径5.81m、短径4.20m、深度0.17mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、平面が全体的に不整形であり、断面は浅い逆台形を呈する。



第519図　SX5004遺構平・断面図



第520図　SX5004遺物出土状況図

土層　遺構覆土は２層に分層でき、１層は暗褐色砂質土、２層は暗オリーブ褐色砂礫層である。

出土遺物　１～８は弥生土器で、１は壺、２・３・４は甕である。弥生土器５～７は鉢である。弥生土器８は高杯脚端部である。壺１、甕４、鉢６・７の口縁部に凹線文がみられる。

時期　弥生時代中期末である。

５号性格不明遺構（SX5005）（第522～527図）

位置　96－1・2区。Loc. B３　δⅠS－4・5グリッド

規模と形状　長径4.10m、短径3.22m、深度0.21mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、多くの遺構に切られており、平面形は不整形で、断面は浅い逆台形を呈する。

遺構の中央西側の地点で、南北に約0.5m、東西約0.75m、深度0.2mの範囲で炭化物が検出されている。EK１は、長軸2.05m、短軸0.5～1.25m、深度0.15mを測り、平面が南北方向に長い不整形を呈する。EK２は、長軸2.75m、短軸1.2m、深度0.25mを測り、平面が東西方向に長い不整楕円形を呈する。EK３は、長軸1.1m、短軸0.55m、深度0.2mを測り、平面が東西方向に長い不整楕円形を呈する。

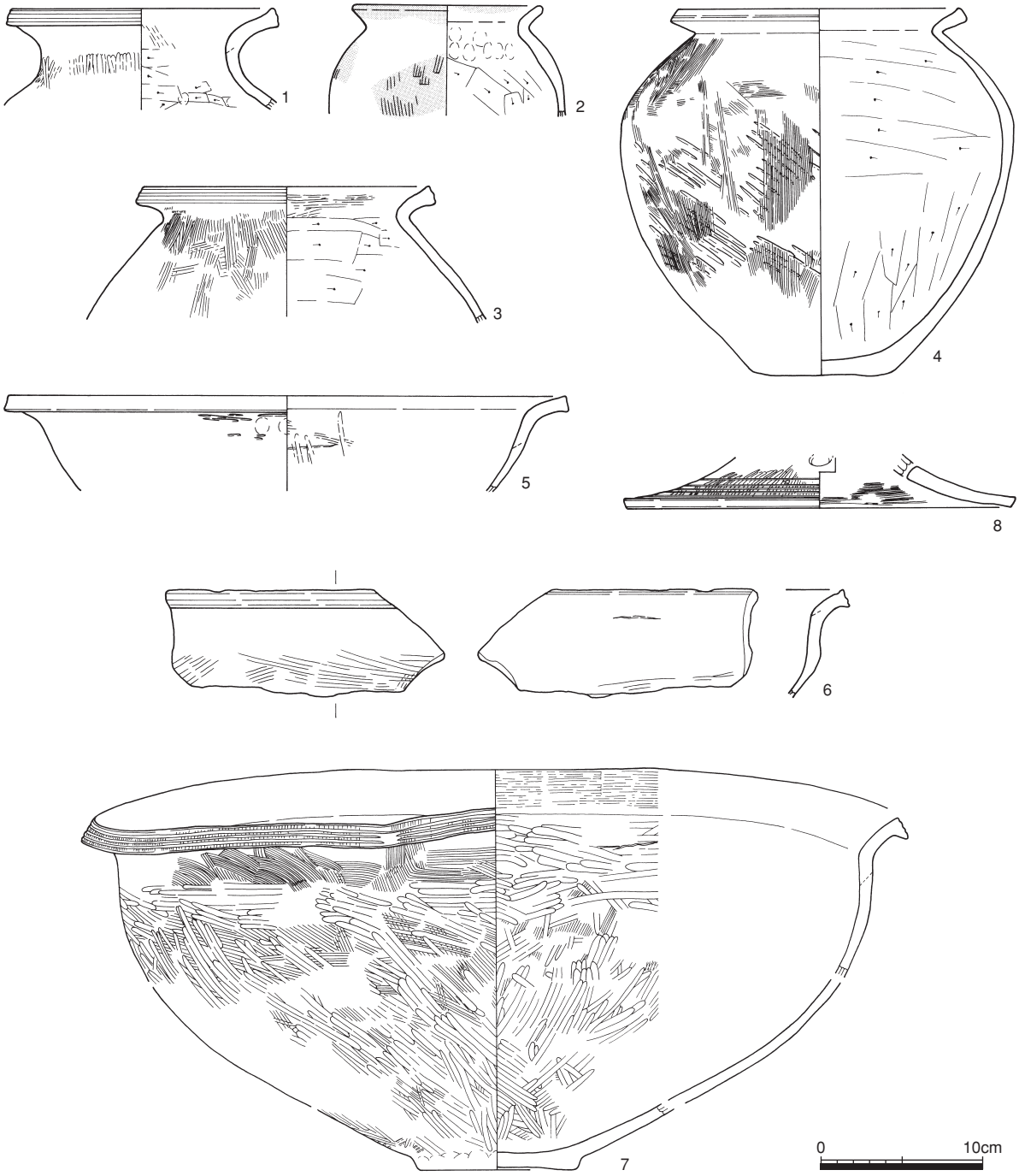
竪穴住居の可能性もある。

土層　遺構覆土は22層に分層でき、１・２、５～７、９～13、15、17～20、22層は褐色砂質土、３・８・14・16・21層はにぶい黄褐色砂質土、４層は黄褐色砂質土である。

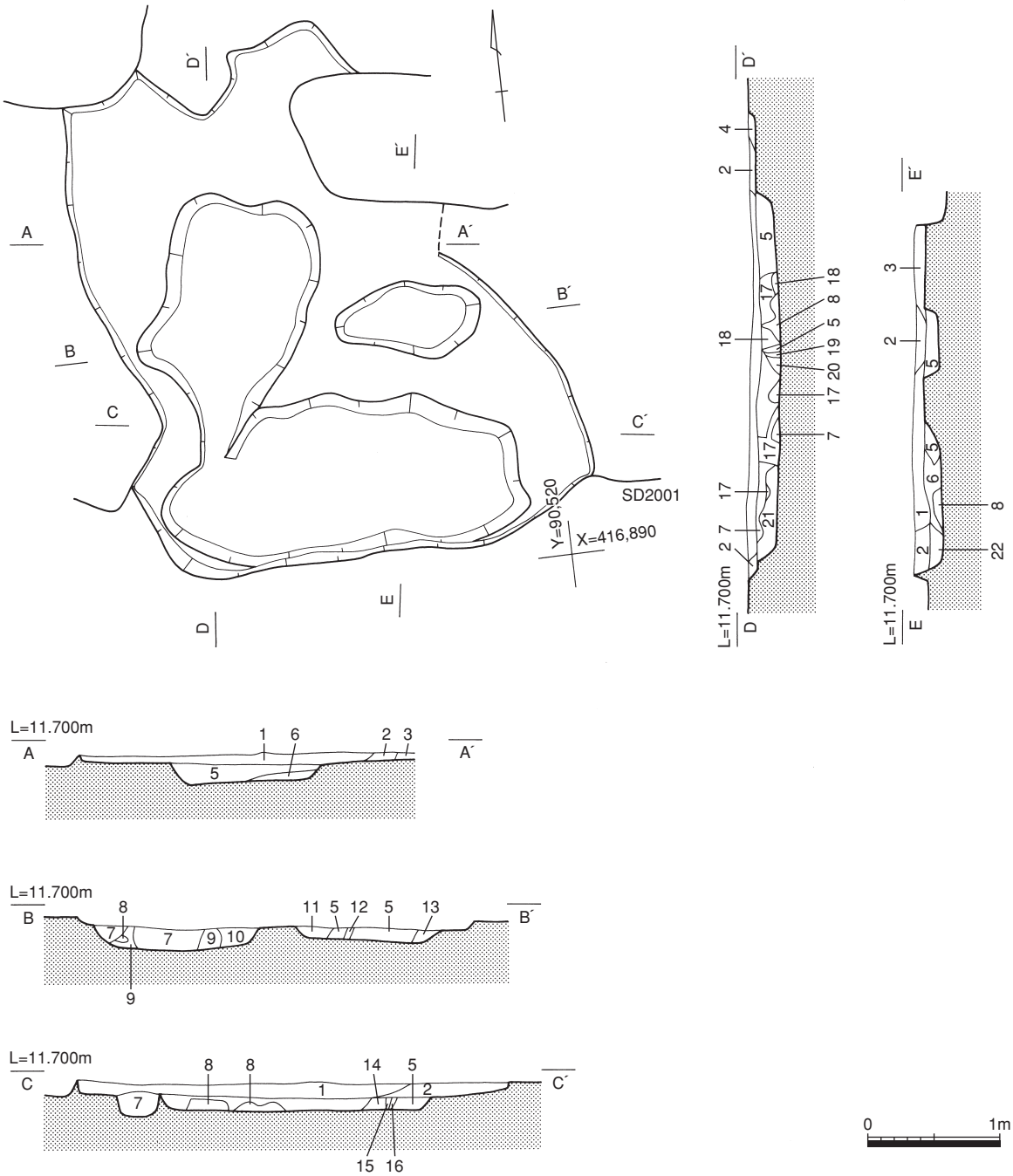
遺物出土状況　炭化物の南東側の地点に比較的遺物がまとまって検出された。土器類や石器・川原石が混ざった状態で検出されている。鉢14は石に押しつぶされた状態であるが、破片は散らばっていない。一方、甕５は小片となって約1.2mの範囲に散らばっている。

この遺構が竪穴住居であるならば、廃絶に伴い埋没過程において土器や川原石を投棄したものと推定される。

出土遺物　１～19は弥生土器で、１は広口壺、２は細頸壺、３は直口壺もしくは細頸壺、４は壺、５～13は甕である。14は脚台付鉢、15は高杯、16・17・18は鉢である。19は紡錘車である。S１は砂質片岩



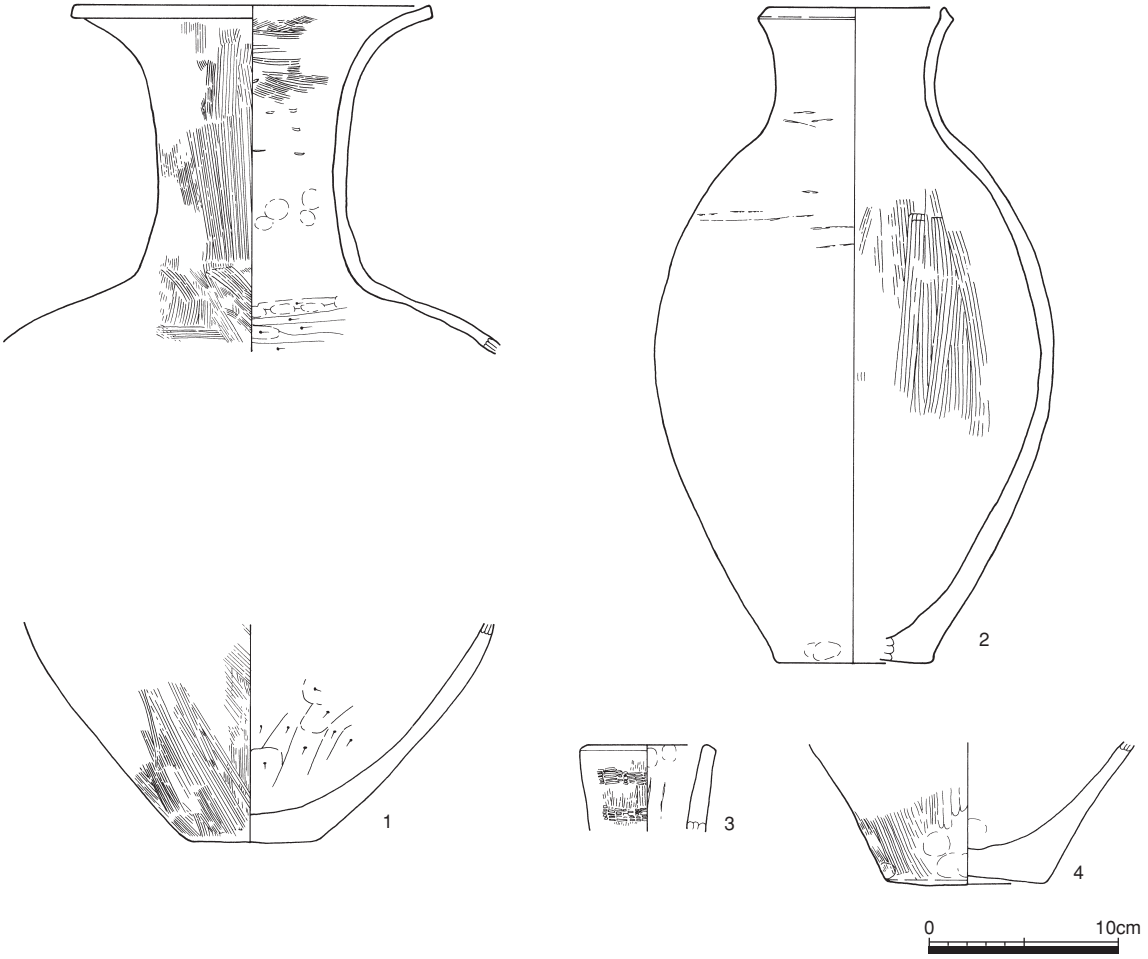
第521図　SX5004出土遺物図



1　10YR4/6　褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
2　10YR4/6　褐色　砂質土
（10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土をブロック状に含む）
3　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
4　10YR5/6　黄褐色　砂質土
5　10YR4/4　褐色　砂質土
6　10YR4/4　褐色　砂質土
7　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物のシミ多量に含む）
8　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
9　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物のシミ多量に含む）
10　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）
11　10YR4/4　褐色　砂質土
12　10YR4/4　褐色　砂質土
13　10YR4/4　褐色　砂質土
14　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
15　10YR4/4　褐色　砂質土
16　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
17　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物を含む）
18　10YR4/4　褐色　砂質土
19　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物のシミ含む）
20　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物のシミ多量に含む）
21　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土
（炭化物のシミ少量含む）
22　10YR4/4　褐色　砂質土
（炭化物を少量含む）

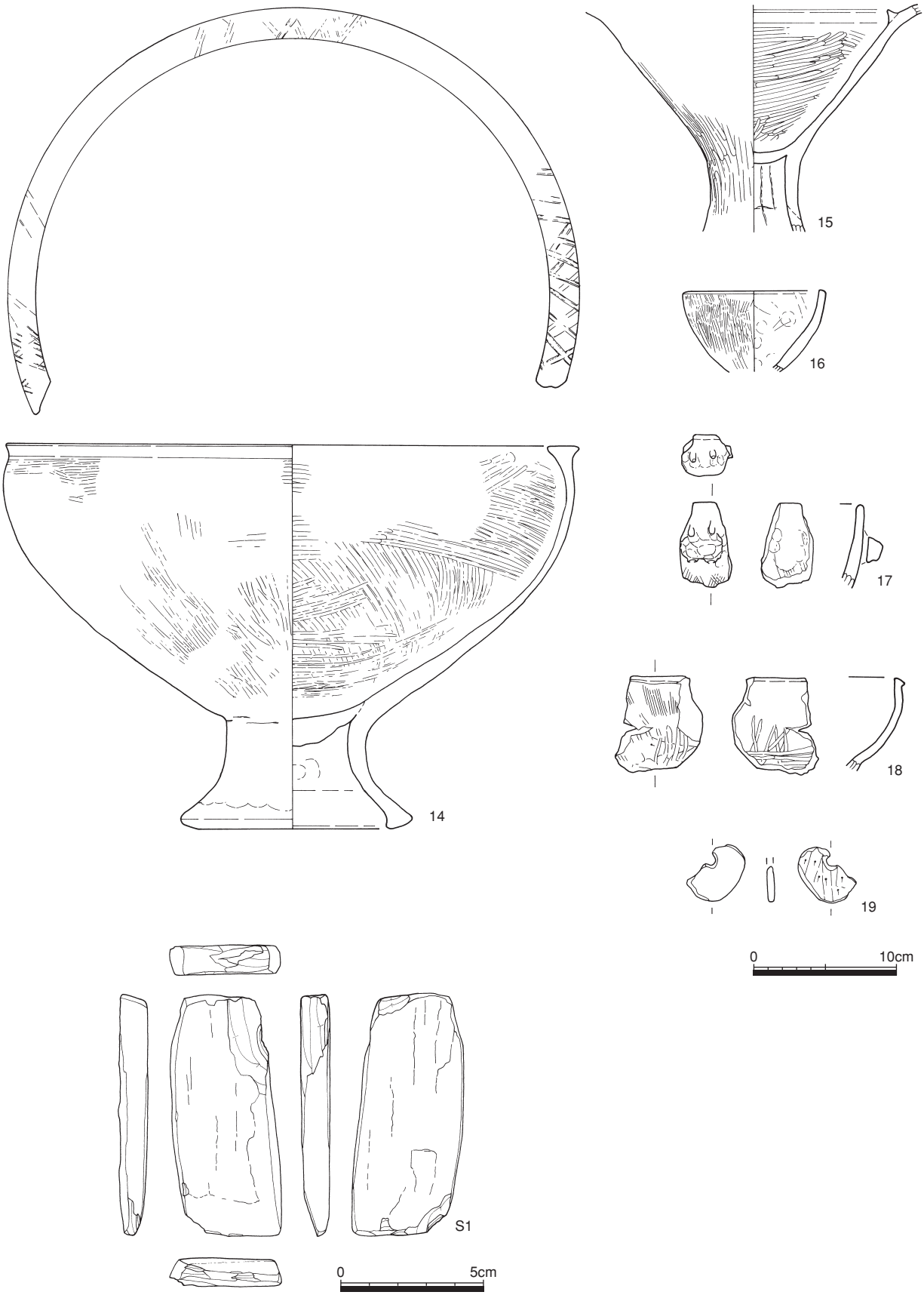
第522図　SX5005遺構平・断面図

第523図　SX5005遺物出土状況図

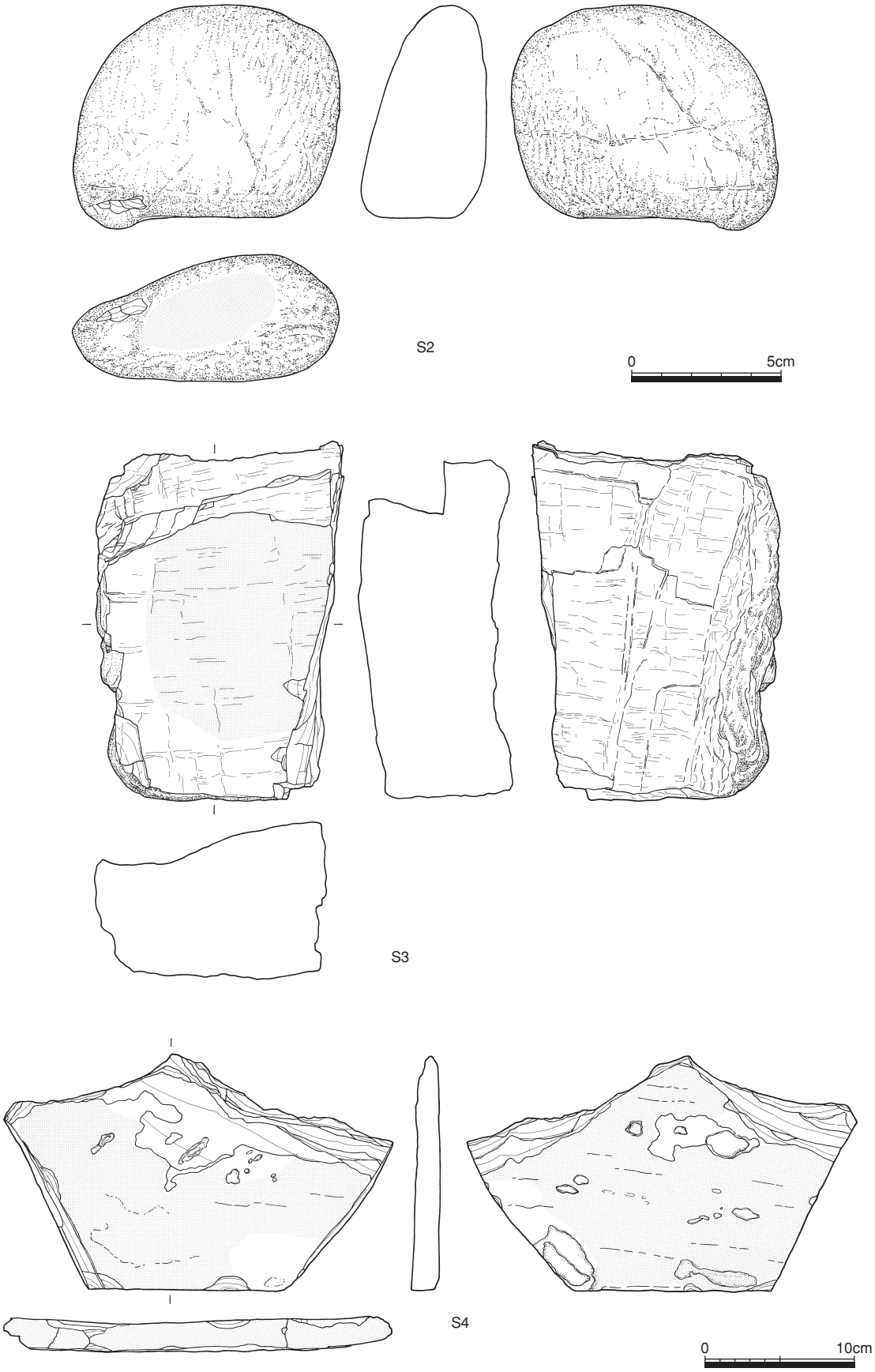


第524図　SX5005出土遺物図(1)

第525図　SX5005出土遺物図(2)



第526図　SX5005出土遺物図(3)



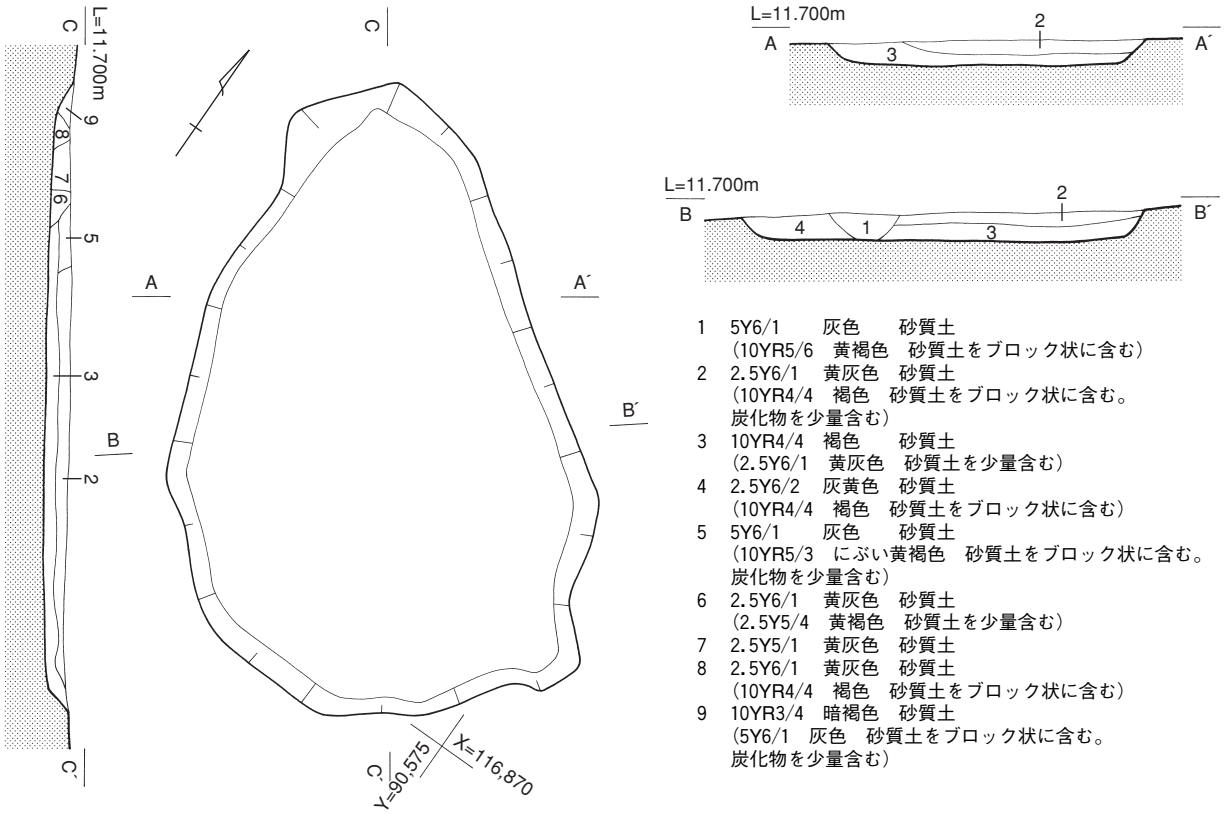
第527図　SX5005出土遺物図(4)

製磨製扁平片刃石斧、S２は結晶片岩製磨石、S３は結晶片岩製台石、S４は紅簾片岩製剥片である。
時期　弥生時代中期である。

７号性格不明遺構（SX5007）（第528～530図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　O－15グリッド
規模と形状　長径4.20m、短径2.65m、深度0.18mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、平面が不整楕円形であり、断面は逆台形である。
　10～20㎝大の川原石と共に土器片が出土している。
土層　遺構覆土は９層に分層され、１・５層は灰色砂質土、２層は黄灰色砂質土、３層は褐色砂質土、４・６～８層は灰黄色砂質土、９層は暗褐色砂質土である。
出土遺物　１は弥生土器壺である。
時期　弥生時代後期である。

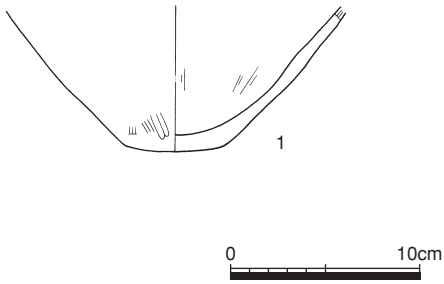
８号性格不明遺構（SX5008）（第531～532図）
位置　97－1区。Loc.Ｂ３　δⅠ　N・O－16・17グリッド
規模と形状　長径6.48m、短径3.45m、深度0.12mを測る性格不明遺構である。遺構の形状は、平面が南北方向に長くが不定形であり、断面は逆台形である。
土層　遺構覆土は５層に分層され、１・５層は褐色砂質土、２層は灰黄褐色砂質土、３層は暗褐色砂質土、４層はにぶい黄褐色砂質土である。
出土遺物　S１は石鏃である。
時期　弥生時代後期である。

第５包含層出土遺物（第533図）
　１～24は弥生土器である。１～８、16・17、48～69は甕で口縁端部に凹線文をもつものともたないものがある。17の甕体部片にはヘラガキによる絵画が施されている。細片であり全体の文様構成は不明であるが、円弧が連続する様子から弧帯文の一部の可能性がある。
　９・10・18・19～21・25～47は壺で、９は広口壺、10・26は細頸壺、19～21・26は筒状の頸部から口縁部が大きく開く広口長頸壺である。31はいったん大きく開いた口縁の上にさらに口縁部が付加される二重口縁の形態をもつもの。11・12・72・73は鉢である。13・76～90である。78は口縁部外面に鍔がめぐる、いわゆる水平口縁の高杯。14はミニチュアの手捏ね土器、15・95は蓋である。90は器台、91～94は紡錘車である。94は穿孔が貫通しない未製品。96は甕の体部とみられるもので、竹管による刺突文が施される。
　S１～31は石器である。S１・S８・S９・S10は石庖丁およびその未製品で、S１・S８は結晶片岩製、S９は砂質片岩製である。S10は結晶片岩製の未製品で、S９も未製品の可能性がある。S２は蛇紋岩製勾玉の未製品である。S３～７、S11～15はサヌカイト製の石器で、S３～７は打製石鏃である。S11は削器、S12は楔形石器、S13は石錐、S14・S15スクレイパー、S16は泥質片岩製敲石、S17は砂岩製砥石、S18～31はサヌカイト製剥片である。

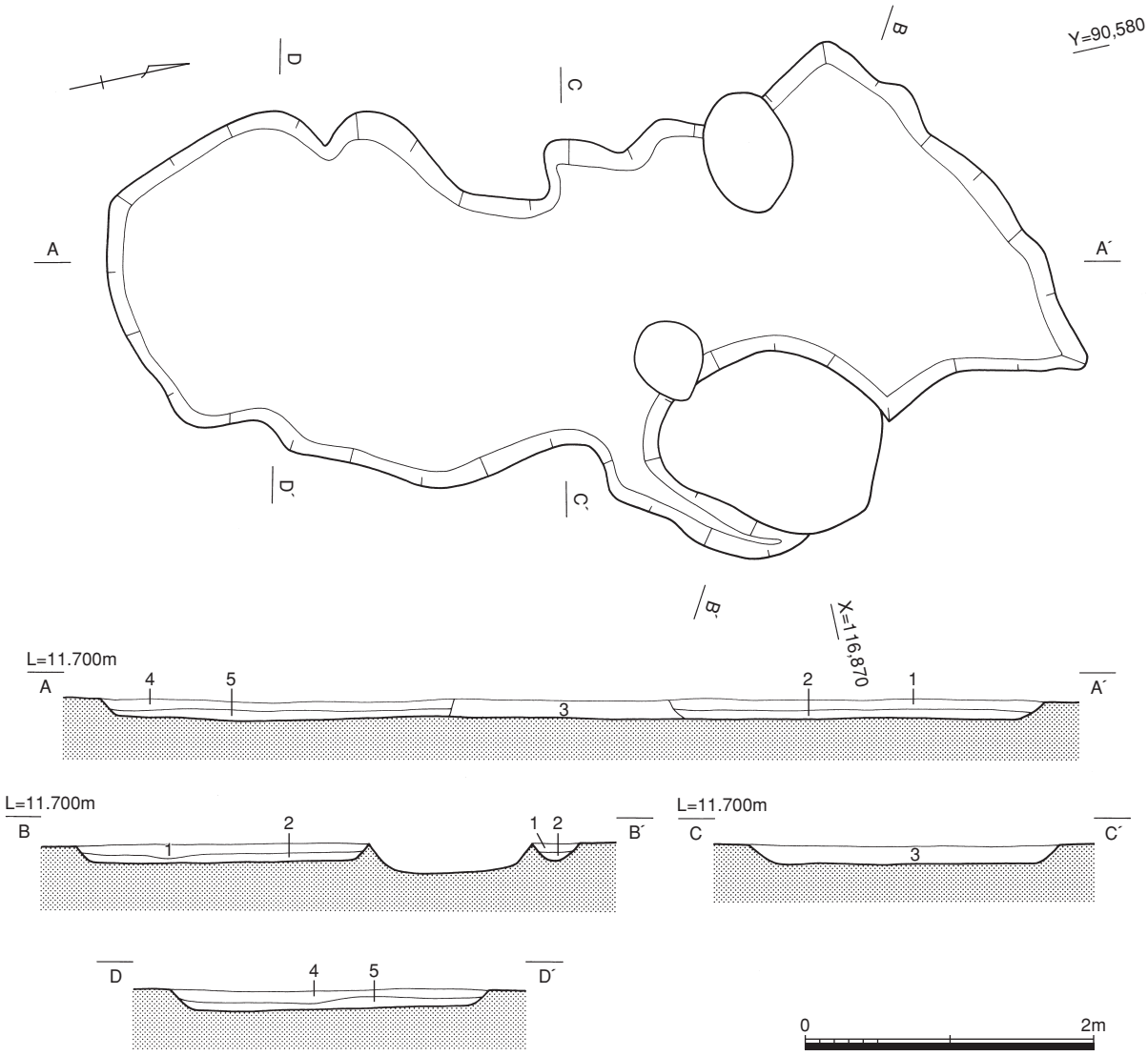


第528図　SX5007遺構平・断面図

第529図　SX5007遺物出土状況図

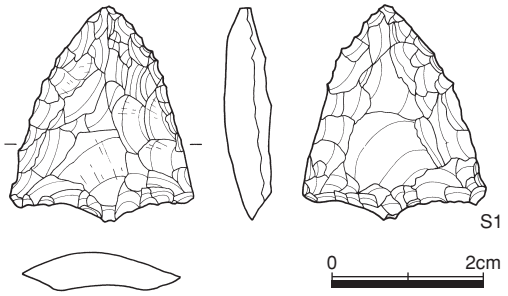


第530図　SX5007出土遺物図

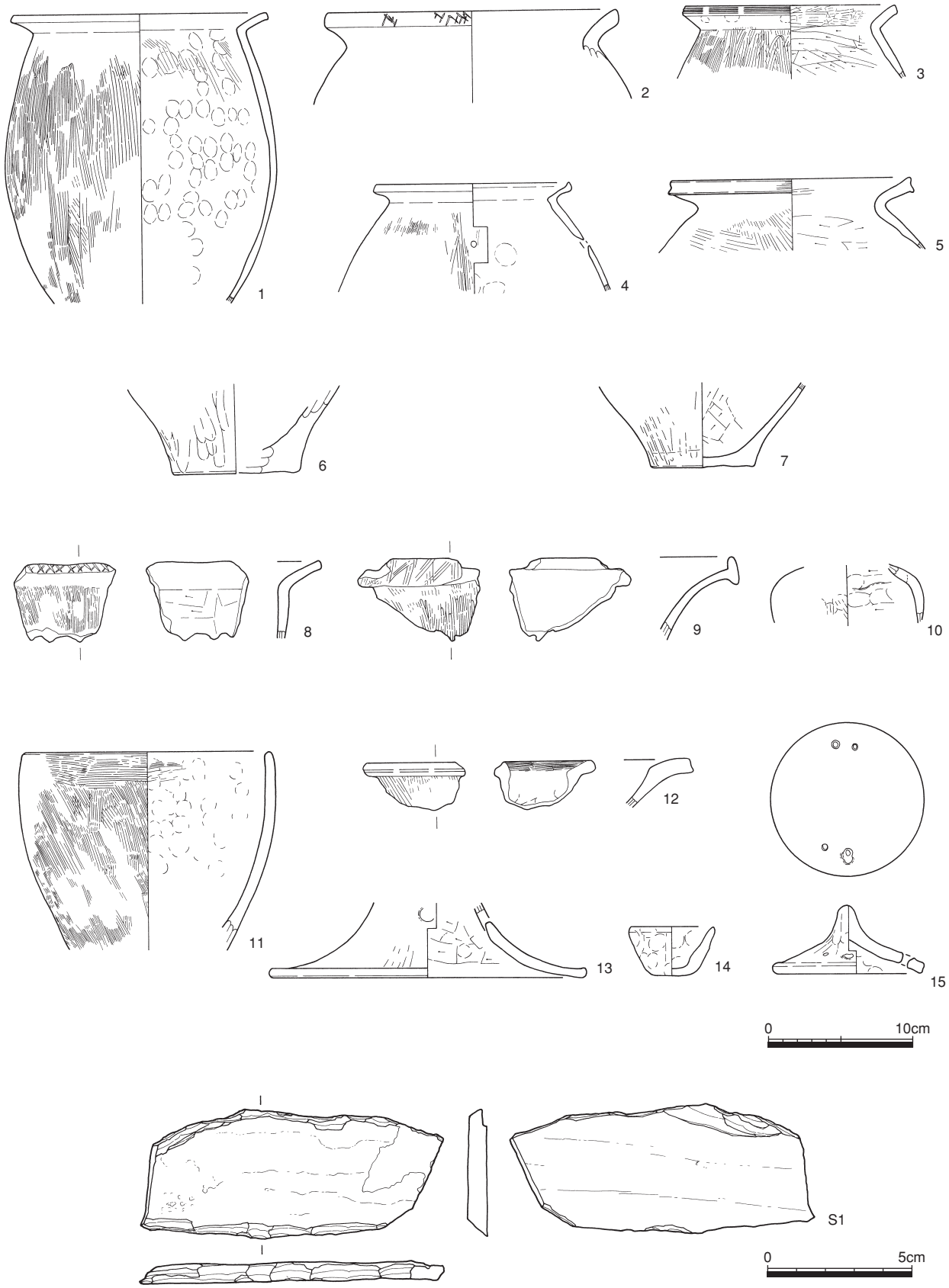


1　10YR4/4　褐色　　砂質土(2.5Y6/1　黄灰色　砂質土をブロック状に含む)
2　10YR4/2　灰黄褐色　砂質土(7.5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む)
3　10YR3/3　暗褐色　　砂質土(5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む)
4　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土(2.5Y6/2　灰黄色　砂質土をブロック状に含む。炭化物を少量含む)
5　10YR4/4　褐色　　砂質土(5Y6/1　灰色　砂質土をブロック状に含む)

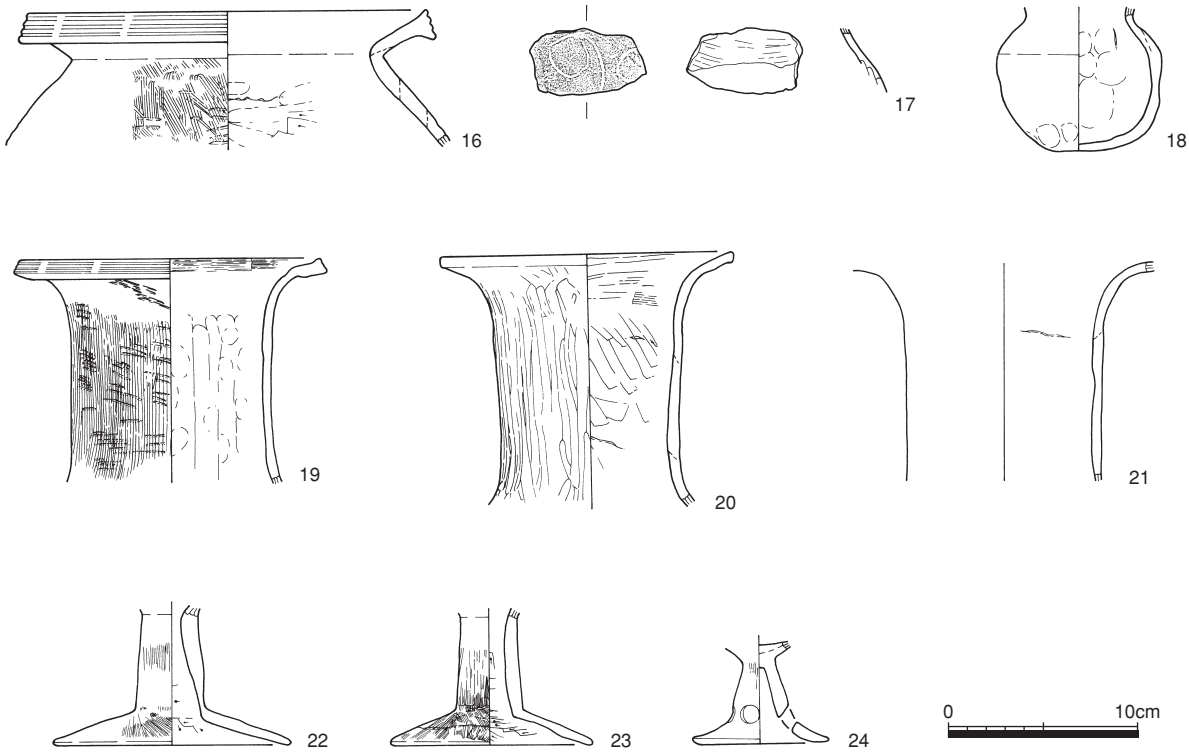
第531図　SX5008遺構平・断面図



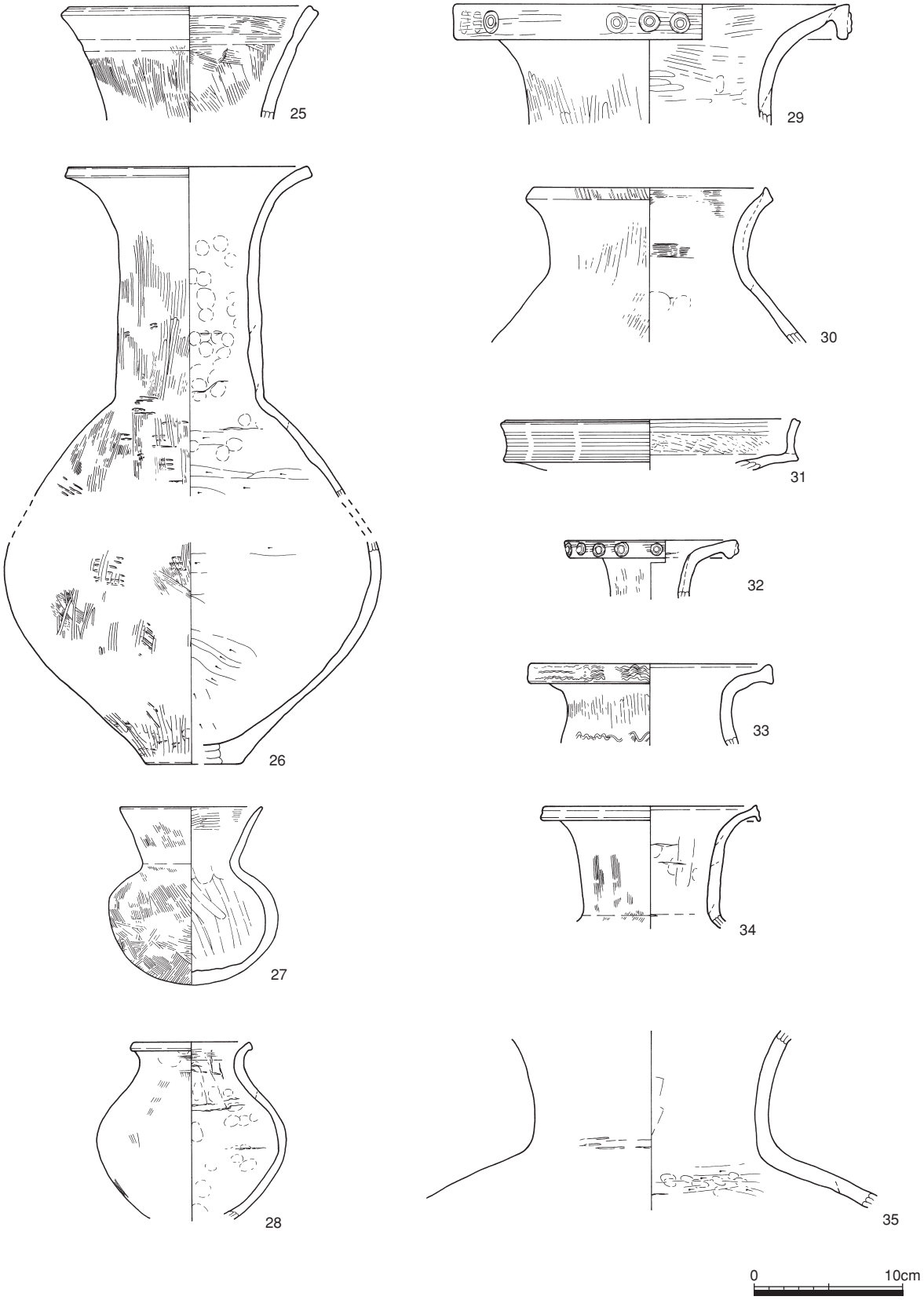
第532図　SX5008出土遺物図



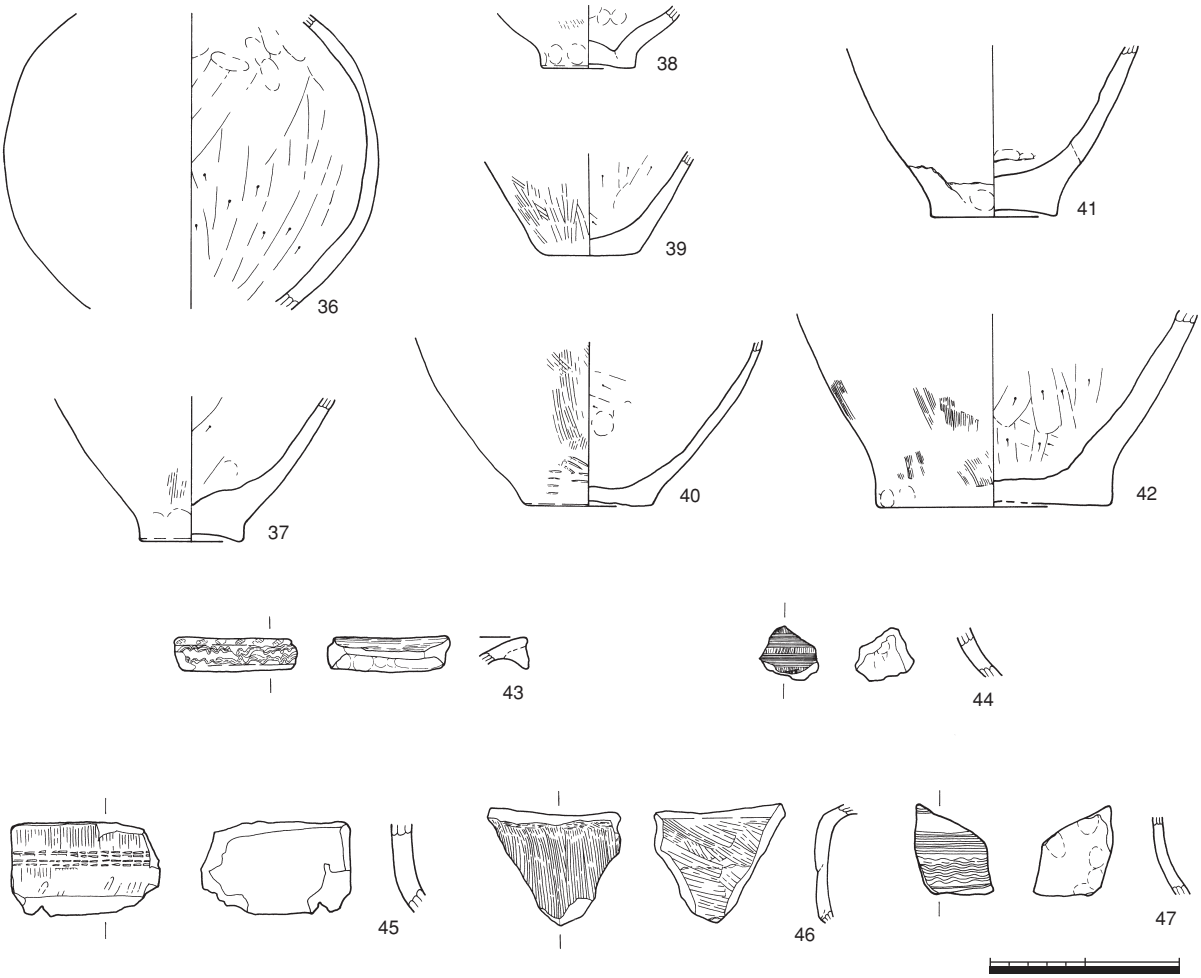
第533図　第５包含層出土遺物図(1)



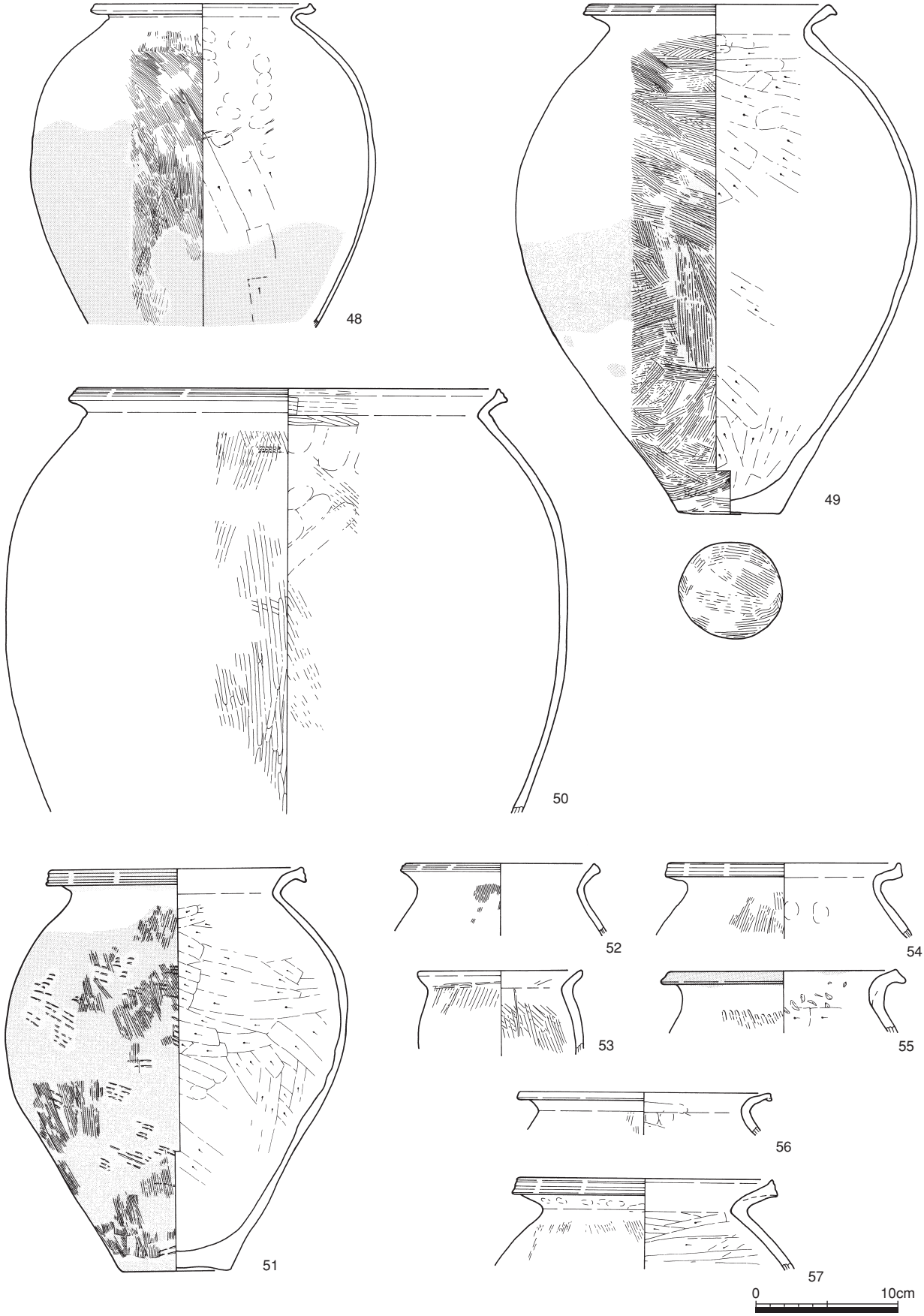
第534図　第５包含層出土遺物図(2)



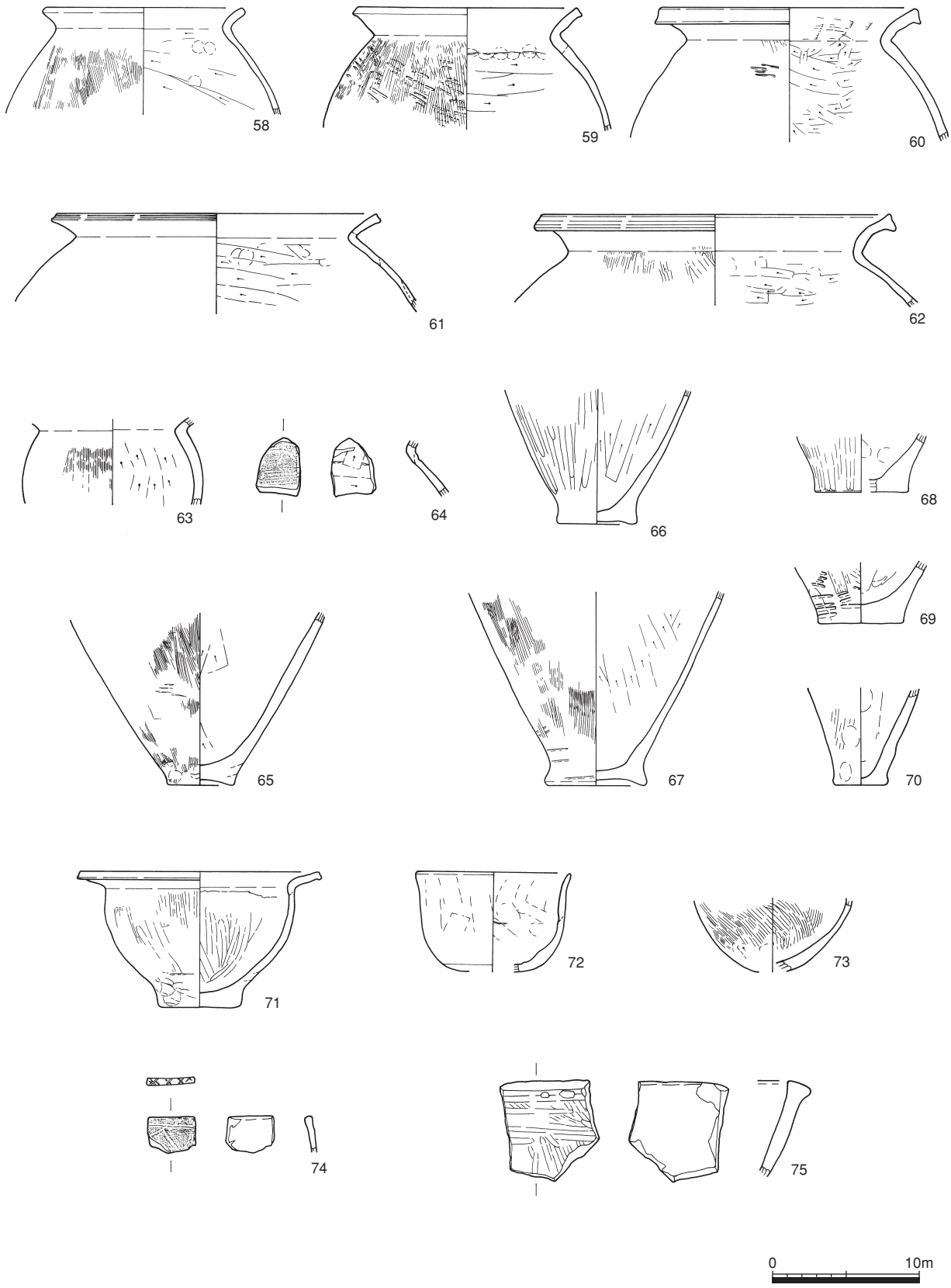
第535図　第５包含層出土遺物図(3)



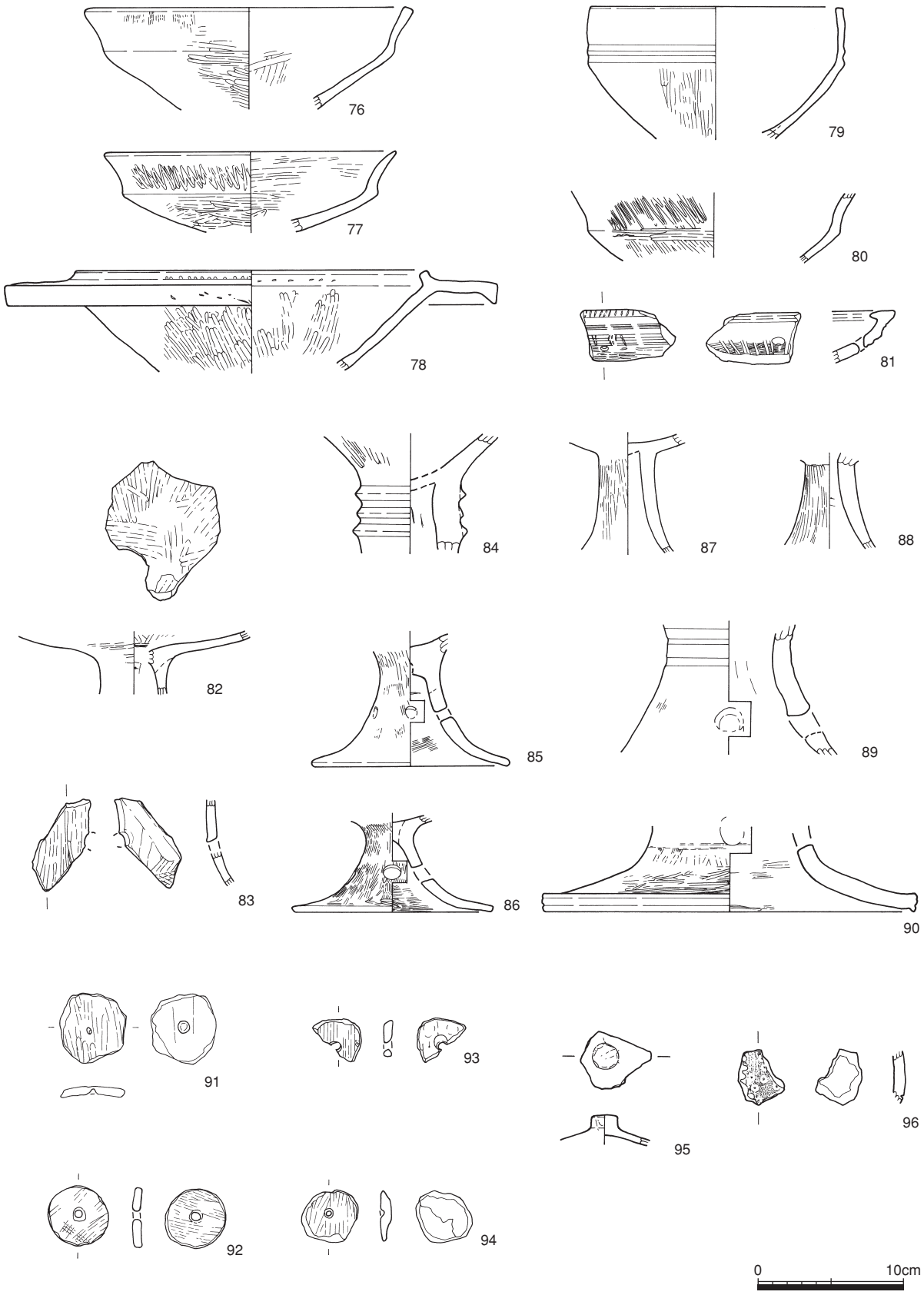
第536図　第５包含層出土遺物図(4)



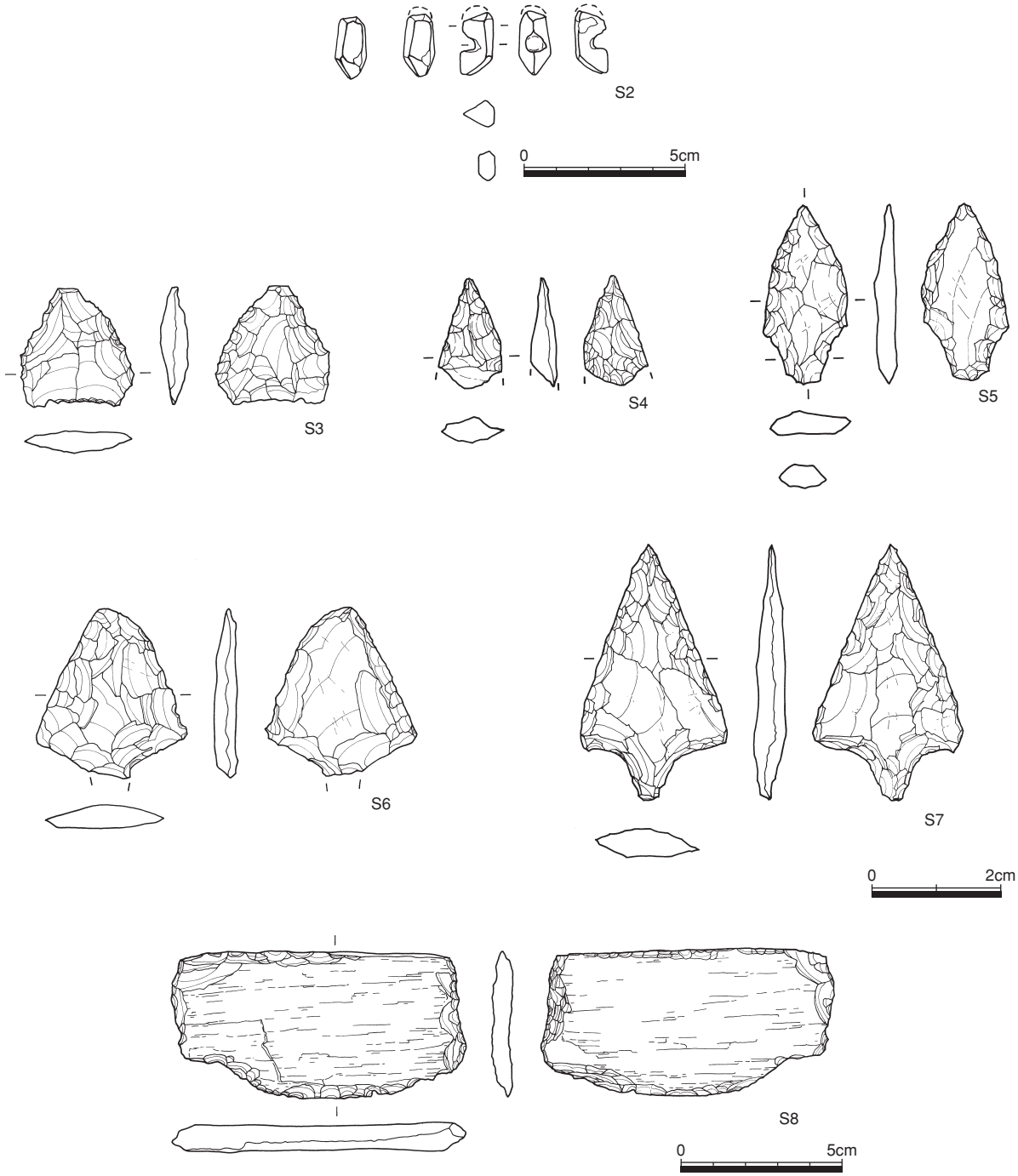
第537図　第５包含層出土遺物図(5)



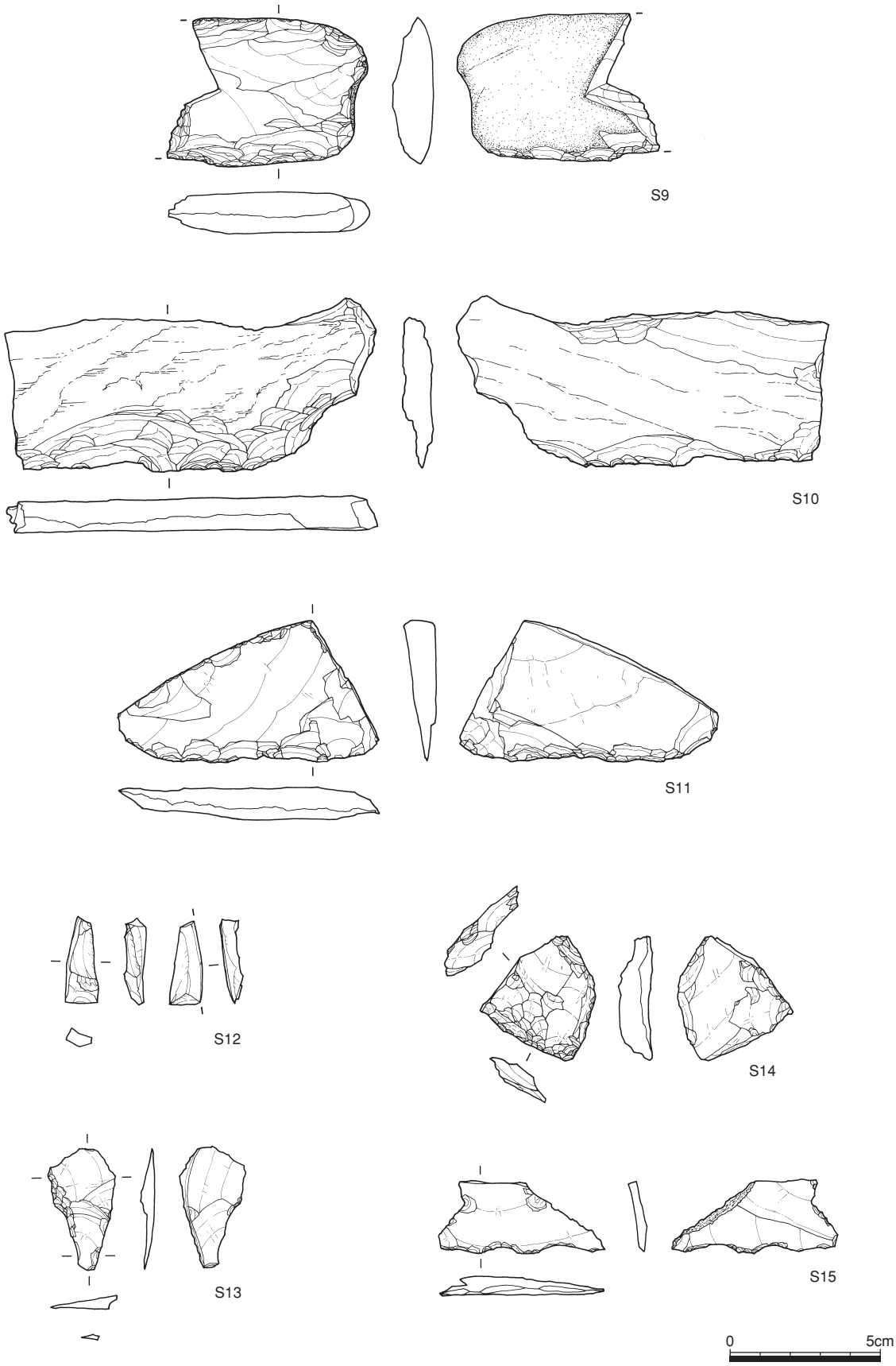
第538図　第５包含層出土遺物図(6)



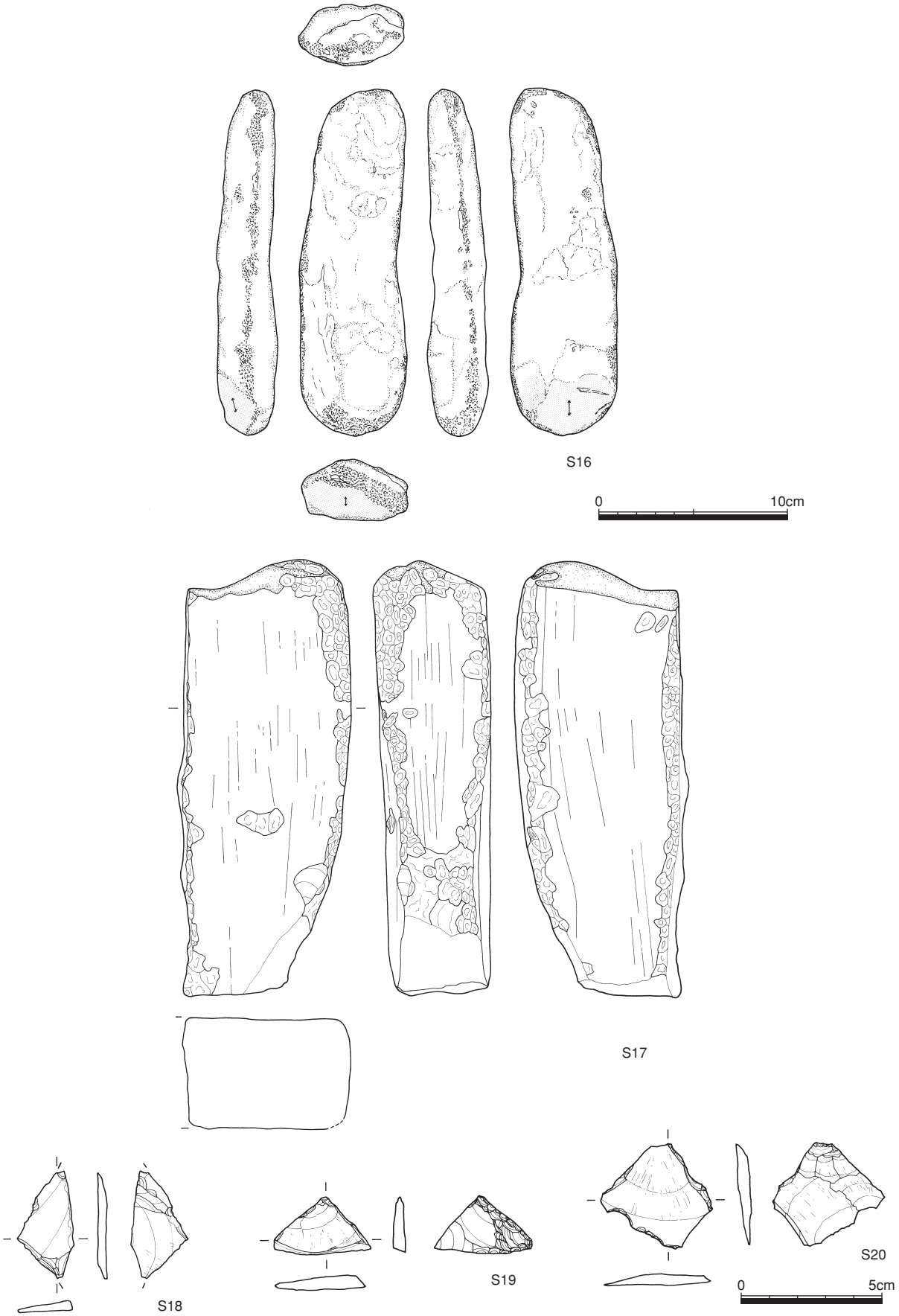
第539図　第５包含層出土遺物図(7)



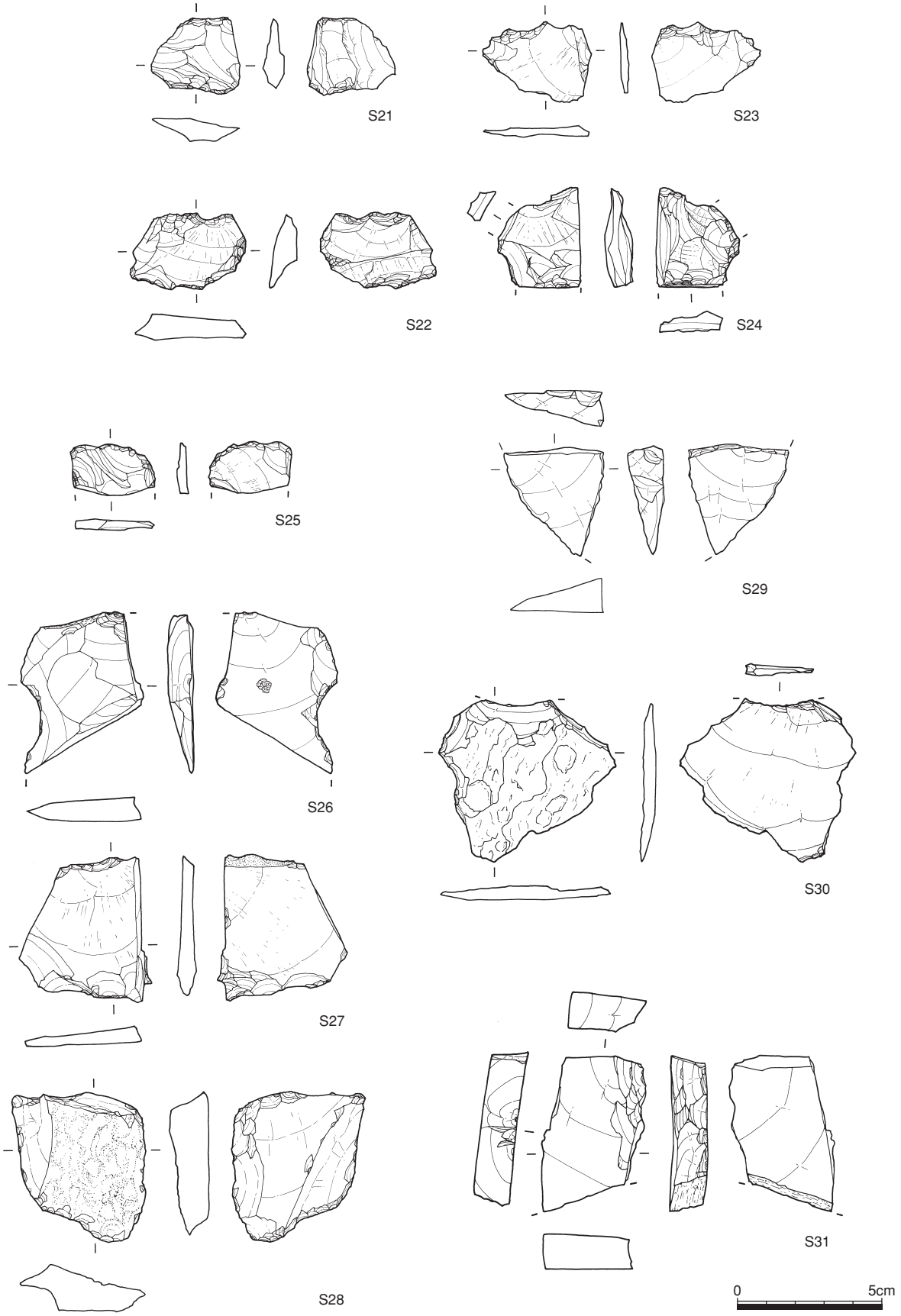
第540図　第５包含層出土遺物図(8)



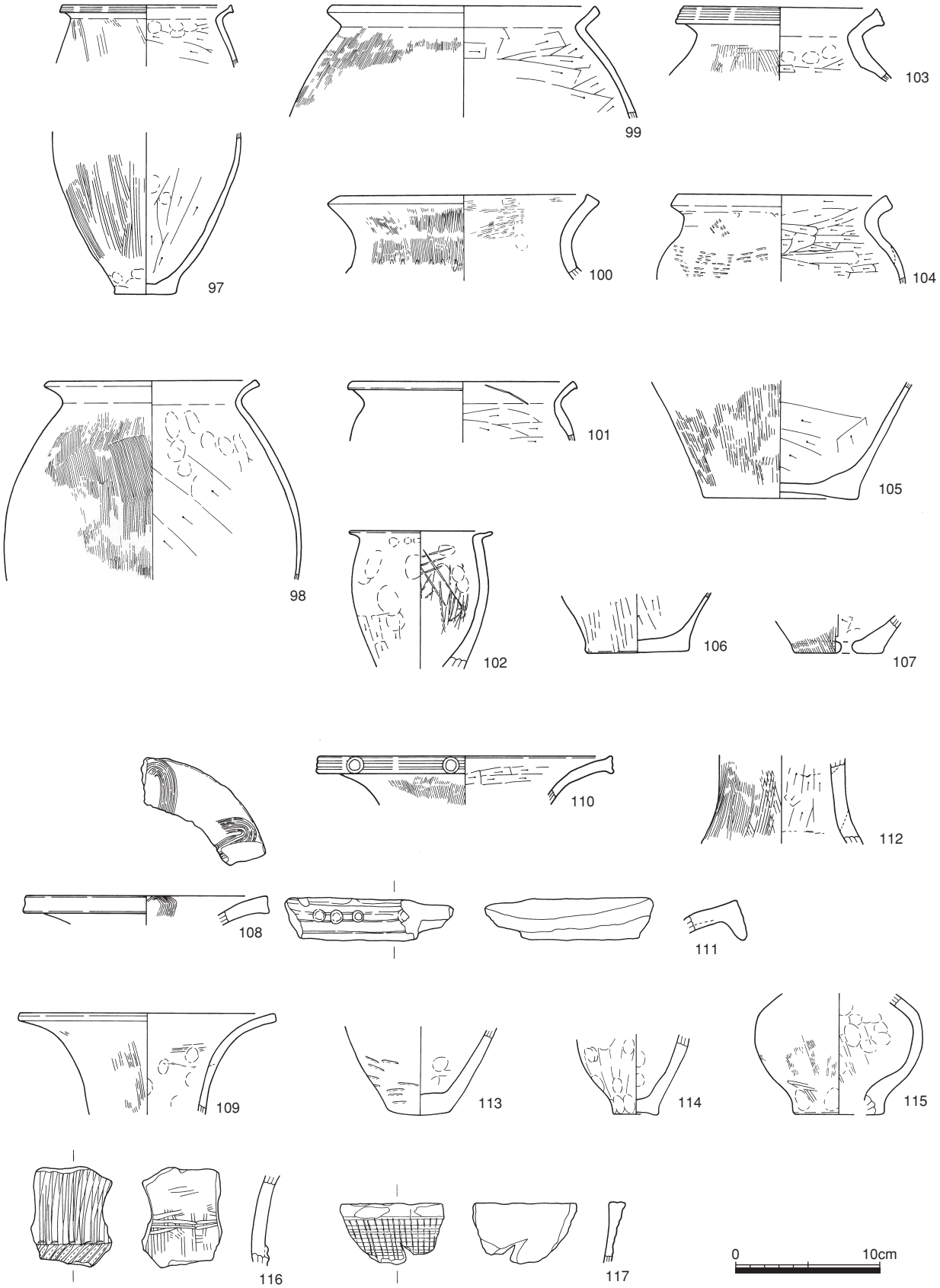
第541図　第５包含層出土遺物図(9)



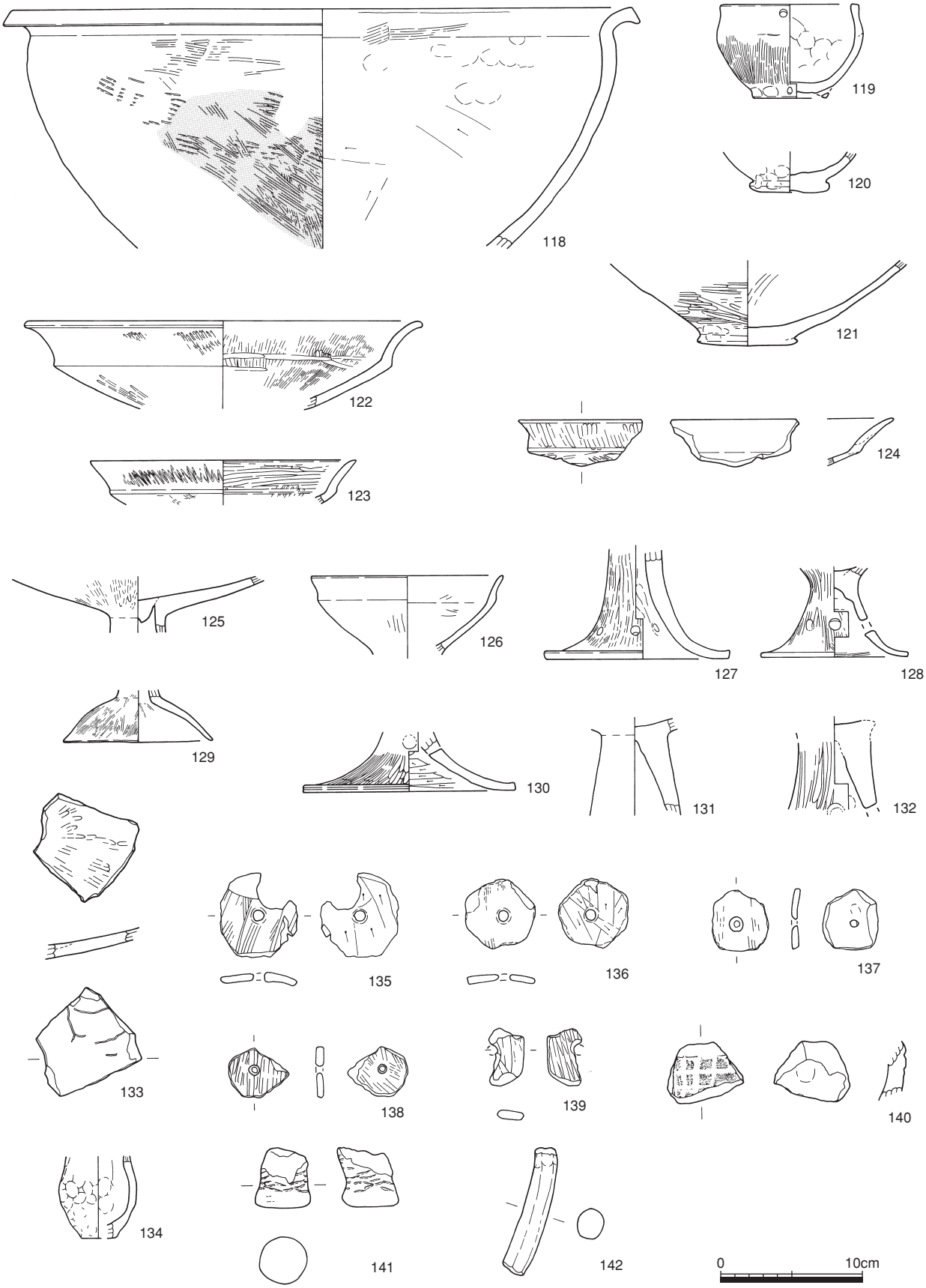
第542図　第５包含層出土遺物図⑽



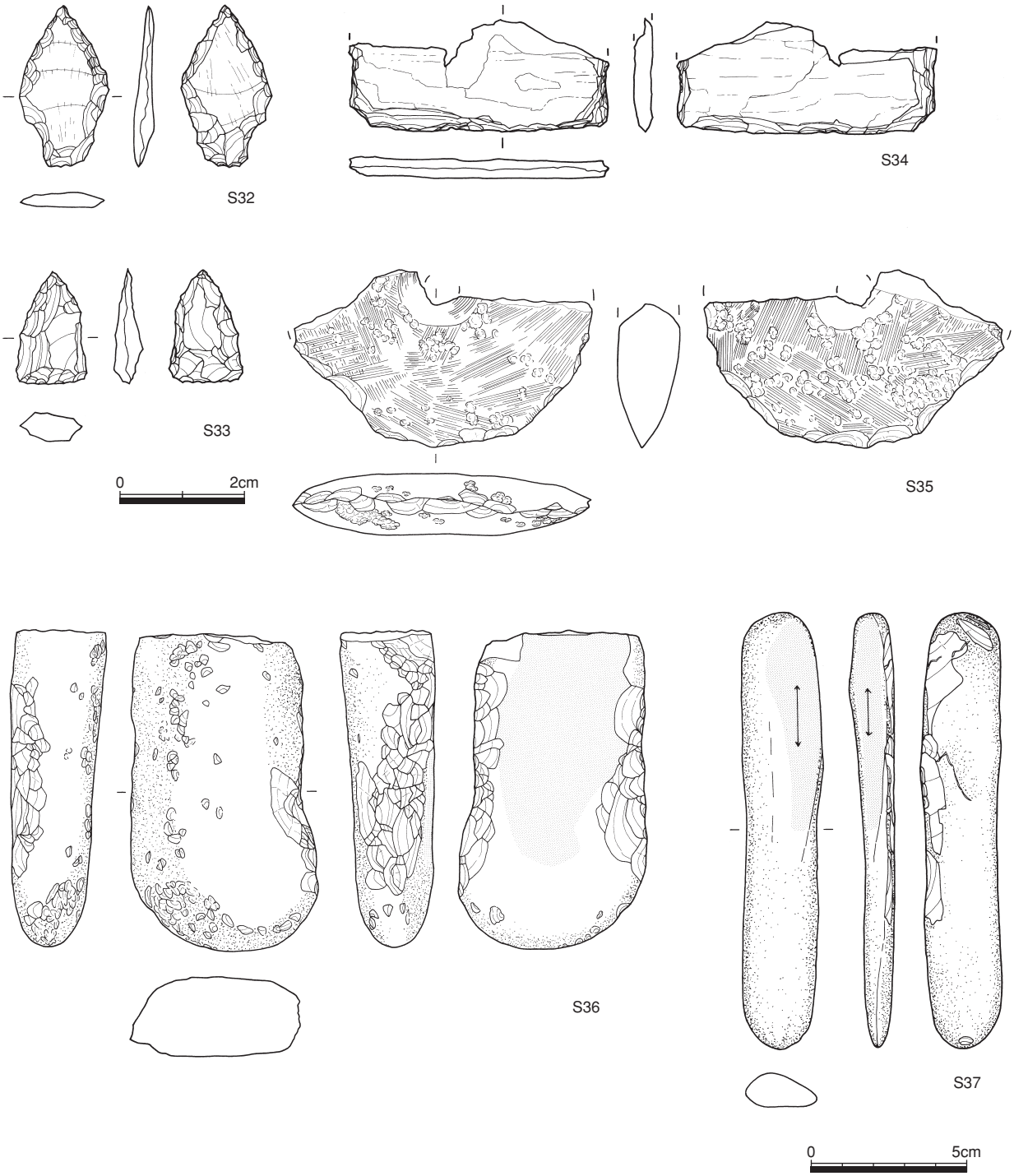
第543図　第５包含層出土遺物図(11)



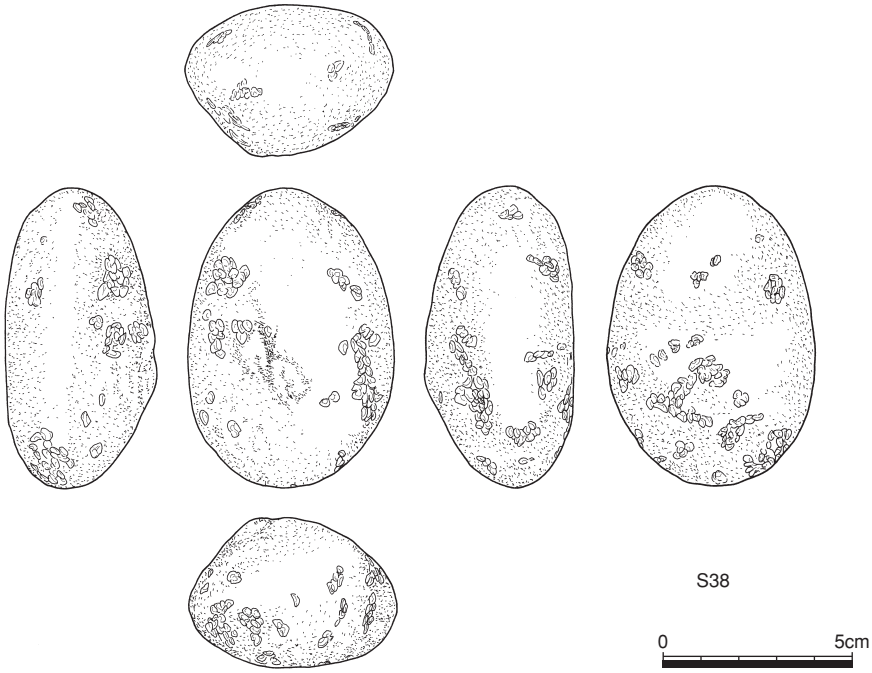
第544図　機械掘削層出土遺物図(12)

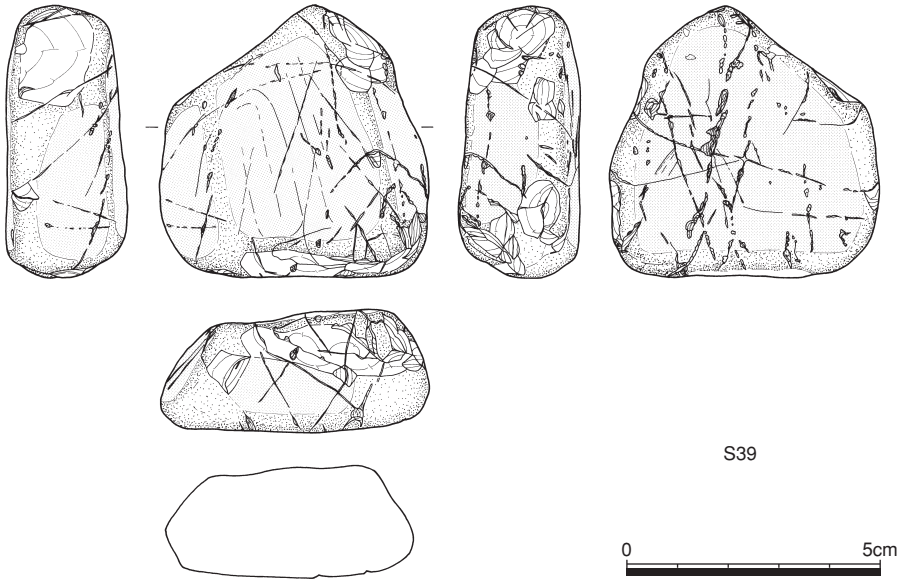


第545図　機械掘削層出土遺物図(13)

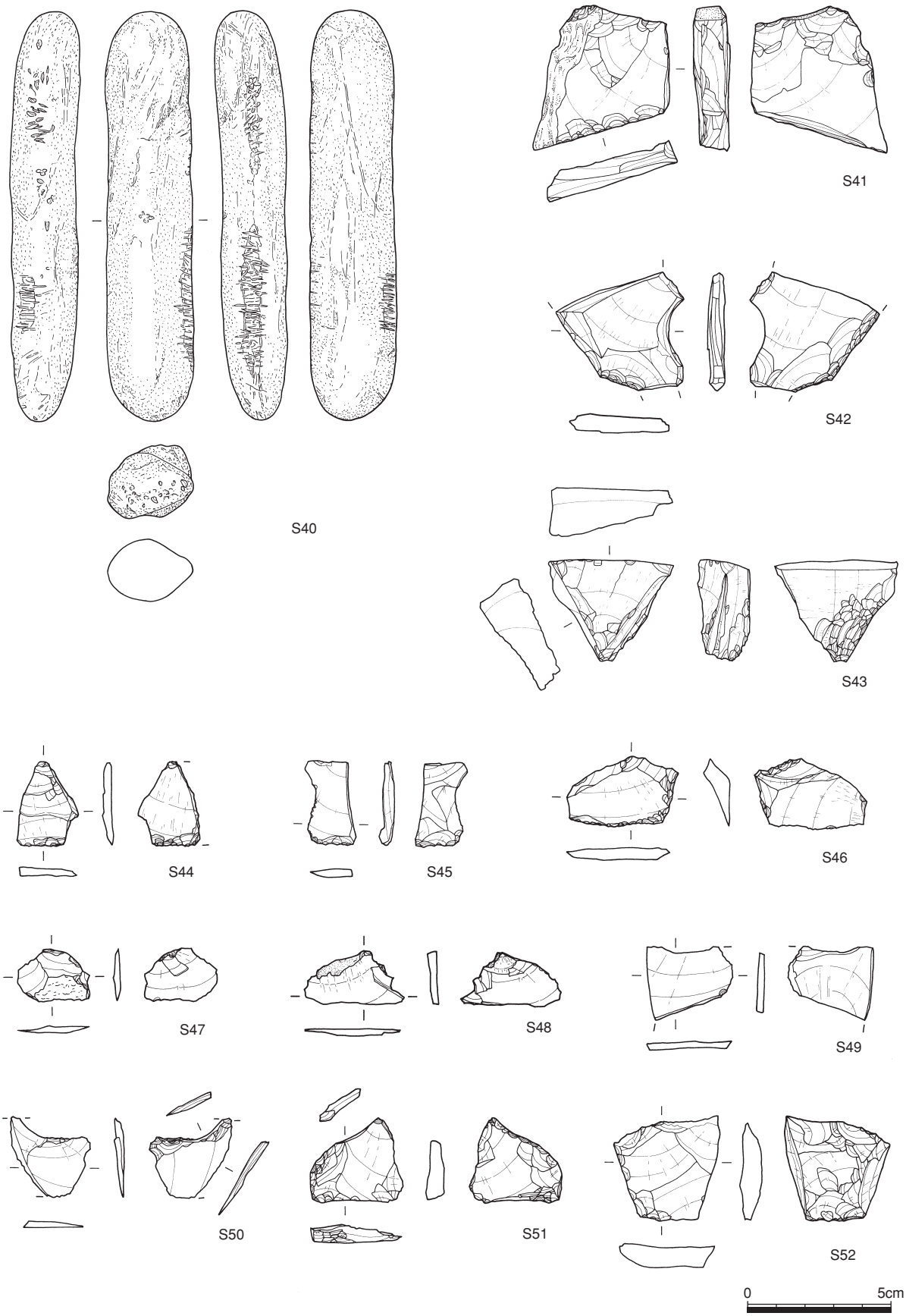


第546図　機械掘削層出土遺物図(14)

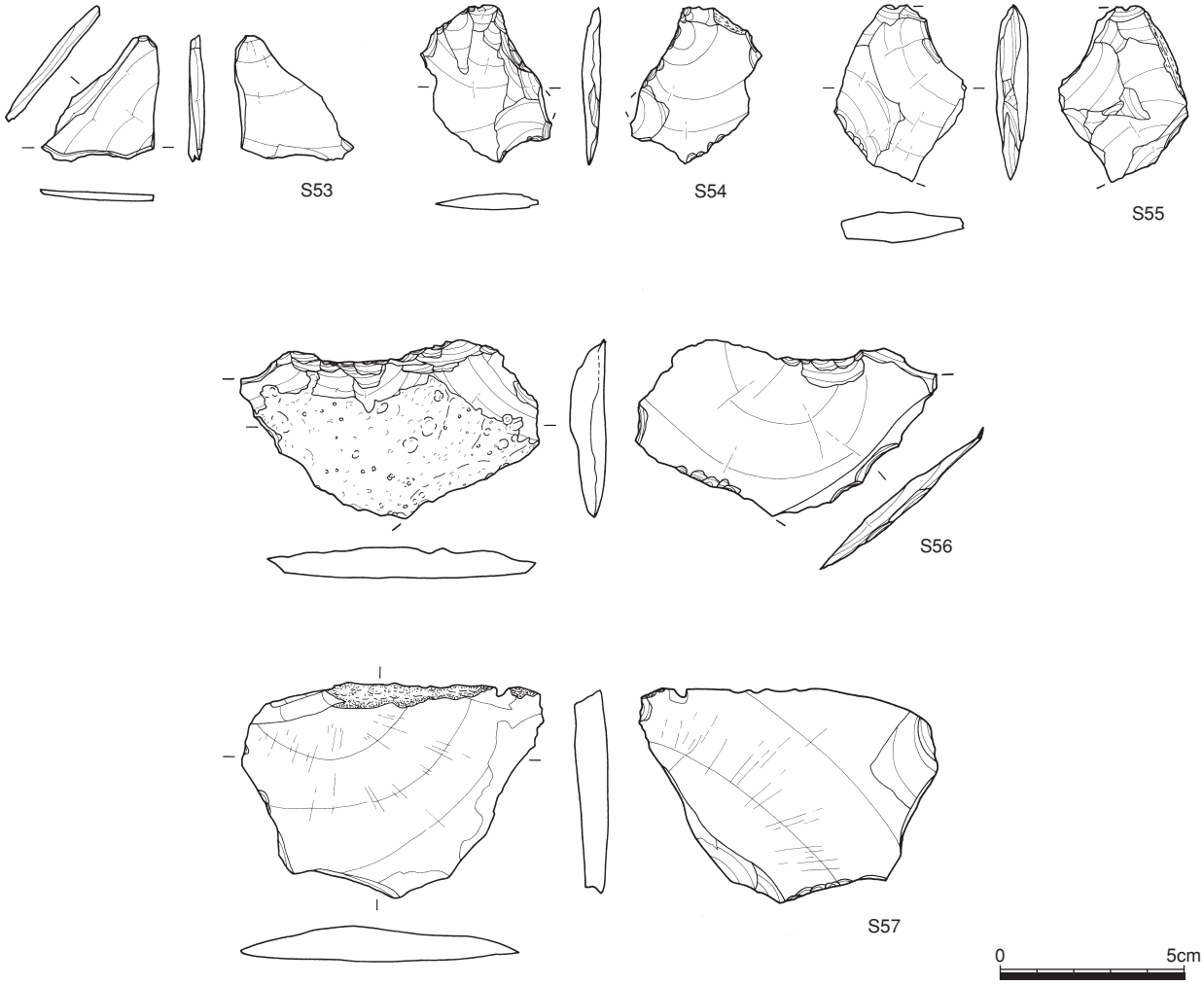




第547図　機械掘削層出土遺物図⑮



第548図　機械掘削層出土遺物図(16)



第549図　機械掘削層出土遺物図(17)

Ⅳ　ま　　と　　め

1　国府と延命遺跡

延命遺跡は徳島市国府町延命に所在するが、延命の名は西側に隣接する四国霊場八十八箇所14番札所常楽寺の正式名称「延命院常楽寺」に由来する。また、町名「国府」が示すとおり、阿波国府関係の地であることも想定される。ここでは、国府との関係を中心に古代の延命遺跡について整理する。

１－１　国府と条里水田

まず、阿波国府の所在地については、100年以上にわたる研究の末に現在の到達点がある。それは、歴史地理的な観点が主導した段階と発掘調査の成果をもとにした段階とに大きく分かれる。研究史の詳しくは藤川の整理に拠る（注１）が、1980年代およびそれ以前は地名や条里地割に着目しており、倉庫の鍵を司る「印鑰」の別称を持つ大御和神社周辺を取り囲む６町ないし８町の国府域を復元していたのに対して、発掘調査が本格化した1990年代以降は四国霊場八十八カ所観音寺周辺の微高地にその位置を求める見解が強い。観音寺遺跡における発掘調査では、政庁などの中心官衙施設の遺構は未発見であるが、微高地縁辺を流れる旧河道の調査により、国府の政務に関わる多数の木簡・墨書土器などの文字資料をはじめとして、出土遺物に関しては地方官衙第一級の成果を得ることになったのである。これにより国府の位置比定に関する問題については解決をみた。

また、観音寺遺跡をはじめとする環状道路（国道192号線以北：西環状線、以南：南環状道路）関係の調査は国府町を南北に大きく縦断するもので、北から池尻桜間・敷地・観音寺・矢野・延命の各遺跡がその対象となった。これにより、ほぼ全域より奈良時代あるいは平安時代の成果が検出され、国府の多様な姿が明らかになりつつある。

観音寺遺跡以北の敷地遺跡および池尻桜間遺跡において、微高地では掘立柱建物などが築かれ､｢コ｣の字形の整然とした建物配置をもつ国司館とみられる区域が２カ所で確認されている。一方、低地は当初墓域として利用され、水田域へと土地利用が転換する。これらの水田遺構は、大規模なものでは幅10ｍ以上の大畦畔を伴い、現在にもこの地域で広く現存する正方位より若干西に傾いた方位（N－10°－W）に基づいて配置された水田区画が行われているのが特徴である｡問題はこれらがいつ施工されたか、ということになろう。天平宝宇２年（758年）の正倉院宝物「阿波国新島庄絵図」では、現在の吉野川に相当する「大川」が南北に流れ、その両岸にマス目の形の畠などが描かれている。これにより８世紀中頃には条里制は一定の完成度にあった事を示すとの意見もあるが、これまでの調査ではそのことを裏付けは十分とは言えない。この絵図の評価としては、作図された年代における地割の完成形態を表現しているのではなく計画図的な側面も持っているとした方が実態には合っており、条里地割は８世紀から９世紀中頃にかけて段階的に施工されたとみる意見が優勢だ。敷地遺跡の低地部分での水田化以前の土壙墓は多くが副葬品を伴わず年代を決定しづらいが、一部に７世紀後半代のものが含まれ、条里に基づく水田化の上限年代の一つを示している。

2　延命遺跡の水田遺構の評価

２－１　調査地周辺の水田耕作地の展開

延命遺跡調査地の南半のほとんどの範囲で水田遺構（畦畔・水路など）が検出されている。水田耕作

の開発時期は、大まかにみると、北へ行くほど古く、南へ進むほど新しい。ちなみに最も南端の調査地点では、中世後期（15世紀代）に水田化が開始している。南側の地点では、水田遺構の下層に鮎喰川の自然堤防の痕跡が確認されており、こうした自然環境の克服が開発の過程にあった、という流れになる。

水田遺構のうち開始年代を水田土壌の最下層には、一部６世紀後半代の遺物を含むものの、８世紀にその中心がある（注２）。８世紀における急速に水田域が増大については、観音寺遺跡の旧河道内の花粉分析によりイネ科の花粉の増減により想定されている（注３）。南側の鮎喰川に近い一帯を除くと、この段階が水田開発の一つの大きな画期であり、当時の行政区画で殖栗郷に比定される一帯であり、この郷の成り立ちとしても重要である。ただし、延命遺跡でみられる水田区画は直上の現地表面に残る条里とは方位が一致しない。下層の水田遺構ほどその区画の規模は数十㎡と小さい。古い段階では地形の傾斜を解消できなかったものが、上層の新しい段階でより広い区画を得ることができた。

水田土壌の合間に割り込むように洪水砂が堆積している地点がある。98－３・４・５・６・10・11・12区である。砂は鮎喰川により供給されたもので、砂の堆積範囲は南北約130mで、多いところで70㎝以上の堆積がみられた（第８図⑨４層・５層・６層　第10図⑱３層・４層・５層など）。砂層は水田面を良好にパックしていた。根の風化によりできた空間に砂が流れ込んだことにより畦畔や水口の位置や同時存在の稲株の位置を明らかにし（図版３）、あるいは牛の蹄の痕跡（図版７　左上）の認識を可能にした。これらの砂の供給源である鮎喰川の地形図をみると、一宮方面から東北東に向かい眉山の西端をかすめることにより、流れを北北東に転じていることが分かる。鮎喰川と眉山との接点部分は「馬の鼻」とも呼ばれ、この部分で鮎喰川の水勢を引き受ける位置である。水量が増大すると、川幅で収まらない分量が「馬の鼻」で折れ曲がり、北北西方向にある延命遺跡方面へと流れる。洪水砂の堆積が確認された調査区は、その段階での低地ということになる。現在の堤防が構築される以前（第550図旧堤防位置の段階）にも、そうした水害に遭っていたことは、調査地近隣でも多く聞かれた。砂層は鮎喰川によりもたらされたものであるが、地点により多くの遺物を包含していた。出土量の濃淡からみれば、前出の調査区でも東側（98－３・４・５・６区）にまとまりがあった。鮎喰川の流れに従って南東方向から流されてきたものと考えると、その方向に集落の位置を考えることもできるが、遺物の密度はそうした一元的な流れでは理解できないようだ。水分を大量に含んだ土砂の一定期間の滞留が遺物混入の原因の一つとみられる。遺物の年代からみれば９世紀が主体であるが、いくつもの年代が混在している。断面観察によれば、洪水砂は一度だけのものではなく、複数のきっかけにより到来したことが分かる。

さて、洪水による土砂の堆積は、前項の調査区では、標高11.5～12.0m前後の水田面を被覆しているが、これらの調査区に接しながら洪水砂の被覆を受けていない地点がある。98－７区と99－２区である（第８図⑩・第10図⑲）。この２地点では、下層では標高10m台の奈良時代頃の水田遺構が検出されており、普通なら砂に覆われているはずのところ、水田土壌の連続堆積がみられるのみである。この地点ではなぜ洪水砂の被覆がなかったのか。次項では、水田遺構の形成過程も含めて、隣接する現存の用水からヒントを得たい。

２－２　調査地周辺の水田耕作地の展開

この項では鮎喰川扇状地の水田への灌漑水路を研究した平井・藤田の成果（注４）を参考にする。鮎喰川扇状地の南端の取水口（月の輪集水池）から分岐した用水（四ヶ村用水・大溝俣・名西俣など）により水田耕作を行ってきた。絵図や現況の聞き取りにより、近世段階には現在みられるような水路運用

が行われている状況がわかる（注５）。これらの研究は絵図あるいは文書にみる水に関わる争議に基づいている。そのため、近世（中世末を含む）以降の状況については詳しい。

発掘区域と用水との位置関係で言えば、長田俣は98－５・12区と98－６区・99－１区との間に、四ヶ村用水は98－６区・99－３区と98－７区・99－２区との間にあたる。長田俣は調査地の近隣の水田を灌漑しているが、四ヶ村用水は非常に広範囲を灌漑対象とする。

発掘において、洪水砂の被覆のない水田は、四ヶ村用水の東側に接する位置に当たる。現有の道路や水路の部分は調査対象外のため、それらの直下の様子については推測するほかないが、古代の段階にはすでに四ヶ村用水の原形（「原・四ヶ村用水」）が成立していたと考えてみてはどうか。この用水は洪水砂に被覆されても、その都度、水路の内部は浚渫により機能が維持されたことになる。多くの労力をかけてまで水路機能に努めたのは、原・四ヶ村用水が現存の四ヶ村用水と変わらぬ程の広い範囲を灌漑する基幹的な役割を持っていたからであろう。

厚い洪水砂に被覆された地点も、その後、水田として復旧しているが、それは砂を除去しないでその上面に耕作土を持ち込んでのことである。これにより水田耕作面のレベルは上がる事になり、機械力に頼らない往事のことを想像すると、水掛かりを根本的に改める大規模な土木工事を伴うことを意味する。逆に相応の労働力の確保ができて始めて復旧工事を行うことができた、という想定も成り立つ。これらは、出土遺物が少ないため論証は困難であるが、層位関係の整合から中世前半期の事象とみている。

中世後半期は、水田可耕地の拡充と水田の区画あたり面積の増大という特徴がみられる。調査区内でも南西寄りの鮎喰川方向に水田範囲が拡がり、細かい地形の起伏を解消している。この段階になれば、ほぼ近世あるいは現況と変わらない水掛かりが完成していたと考えている。やや北に位置する舌洗用水での争論を記した近世初頭の文書（注６）は、用水の上流区域と下流区域での立場の違いが争乱という形に後世に伝えられたのだが、運用について争点にしていた経緯からみてインフラの整備が一定のレベルに達していたことを想起させる。当然、より上流側に位置する延命遺跡周辺での水掛かりの安定が基盤にあったことは疑いない。

3　水田遺跡調査の課題

類似した層の連続堆積が特徴となる水田遺跡は、主に水平な水田土壌の堆積を単調な作業の繰り返しを伴うのみで、面的な調査の意義さえ疑問視される場合がある。しかし、効果的なのは断面図の抽出である柱状図ではなく断面図そのもので観察を蓄積させることである。延命遺跡においては、関連する絵図や文献が残され、それらの先行研究が合ったからこそ、それらとの相互参照を経ることで成果を導き出せたと考えている。

より細かい水掛かりのための水路、畦畔の構造といった付帯遺構の問題について十分検討できなかった。残る課題として提示しておく。

（注１）藤川智之　2002　「考古学からみた阿波国府研究の現状」『観音寺遺跡Ⅰ（観音寺遺跡木簡篇）』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第40集　（財）徳島県埋蔵文化財センターほか

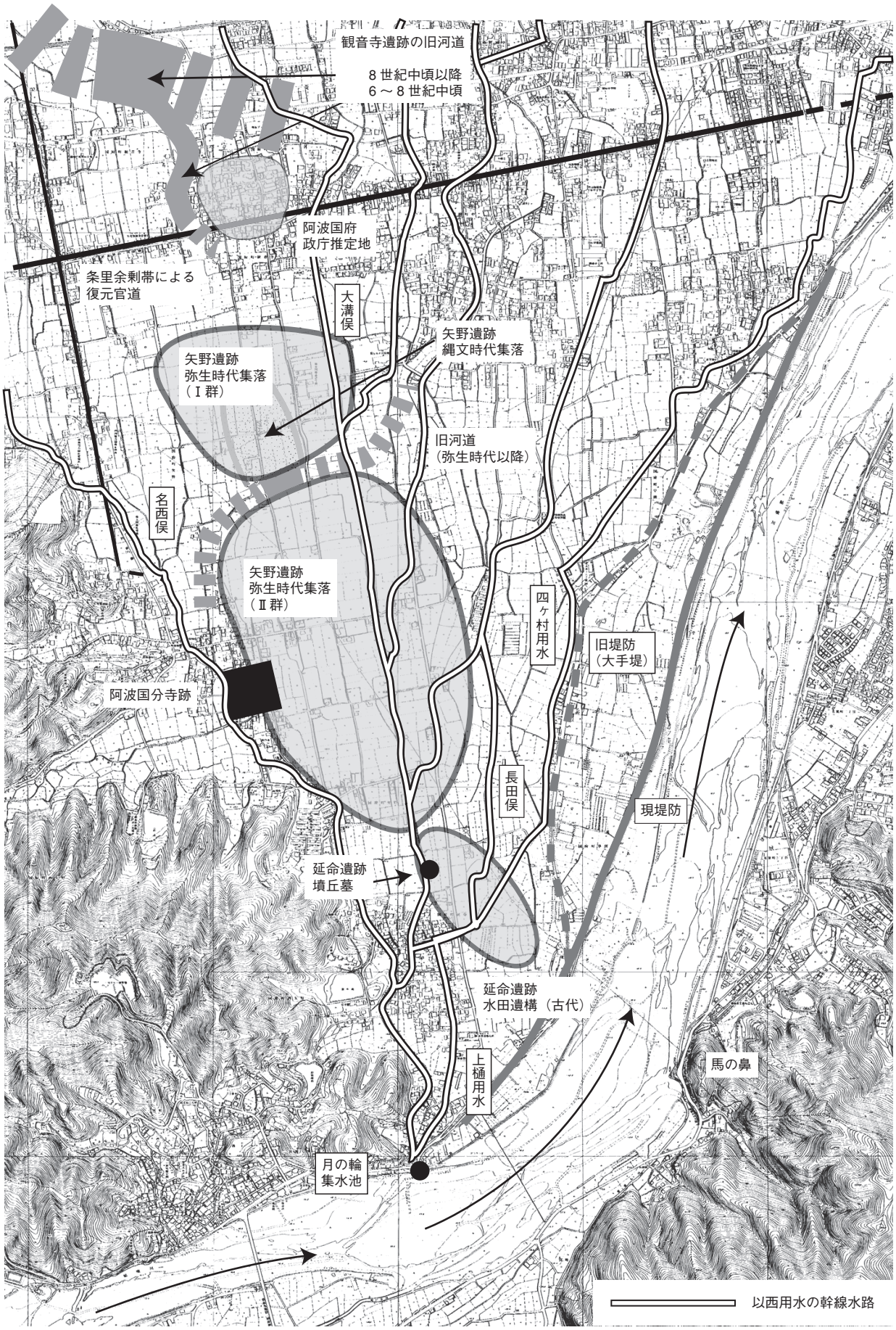
（注２）これまでの報告では、延命遺跡検出の水田遺構を弥生時代の小区画水田としていたが、今回の出土品の整理を通じて、８世紀を中心とする年代のものとして訂正する。
（財）徳島県埋蔵文化財センター　1998　『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.9　1997年度』

（注３）古環境研究所　2010　「徳島県、観音寺遺跡における花粉分析」『観音寺遺跡Ⅲ（遺構・遺物篇）』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第77集　（財）徳島県埋蔵文化財センターほか

（注４）平井松午・藤田裕嗣　1994「吉野川支流の鮎喰川扇状地における土地開発と灌漑システムの成立」『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』第２巻

（注５）現在では、水の安定供給のためにそれぞれがポンプによる汲み上げを行うようになっている。しかしながら、「観音寺村給池配置絵図」（坂東家文書）などに描かれた水路と現況とはほぼ同様のものとみてよい。
徳島県教育委員会　1995　『鮎喰川水系の用水　「阿波の用水」調査報告書』

（注６）『国府町史資料』（国府尋常高等小学校編　1917）所収の坂東家文書「下羅井定書」「御意之覚」による。



第550図　鮎喰川デルタ全体と延命遺跡

報　告　書　抄　録

ふりがな	えんめいいせき（Ⅰ）
書名	延命遺跡（Ⅰ）
副書名	一般国道192号線徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	Ⅰ
シリーズ名	徳島県埋蔵文化財センター報告書
シリーズ番号	第78集
編著者名	園木裕美・木村哲也
編集機関	財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
所在地	〒779－0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山86－２　Tel 088－672－4545
発行年月日	平成22年３月23日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
延命遺跡	徳島市国府町延命	36201		34°04′29″	134°34′21″	平成12年10月１日～平成13年３月31日 平成18年10月１日～平成19年３月31日 平成19年７月２日～平成19年８月31日	平成12年度：1,992㎡ 平成18年度：2,100㎡ 平成19年度：668㎡	一般国道192号線徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
延命遺跡	生産集落 墓域	弥生時代 古代	水田 竪穴住居 墳丘墓	弥生土器 土師器 須恵器	弥生時代後期に属する墳丘墓や土器棺墓が検出された。隣接する矢野遺跡に関連する墓域と考えられる。 古代の水田が検出され、国府推定地に隣接する生産について所見を得ることができた。

要約	鮎喰川が形成した三角州性扇状地に立地する遺跡。検出された墓域や生産域の意義付けは隣接する矢野遺跡や観音寺遺跡との関連が注目される。

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第78集

延 命 遺 跡（Ⅰ）
－一般国道192号線徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査－
《本文・挿図篇》

発行日　平成22(2010)年３月23日

編　集　財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番２
ＴＥＬ（088）672-4545　　ＦＡＸ（088）672-4550

発　行　徳　島　県　教　育　委　員　会
財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
国土交通省　四国地方整備局

印　刷　株式会社教育出版センター